

言語使用の変遷 1 福島県北部地域の面接調査

著者	国立国語研究所
発行年月日	1974-03
シリーズ	国立国語研究所報告 ; 53
URL	http://doi.org/10.15084/00001252

国立国語研究所報告 53

言語使用の変遷(1)

—— 福島県北部地域の面接調査 ——

飯 豊 毅 一

国 立 国 語 研 究 所

1974

刊 行 の こ と ば

当研究所の第二資料研究室が、昭和40年度から行ってきた「社会構造と言語の関係についての基礎的研究」のうち、言語使用の変遷についての面接調査の結果が一部まとまったので、ここに報告書として刊行する。

音声・音韻、文法、語彙にわたって、地域社会内における言語使用の変遷の様相を明らかにしようとしたもので、調査地域は、福島県北部の、伊達郡保原町および福島市飯坂町茂庭である。これらの地域社会内で、土地の人同士の話す言葉が、主として年代によってどのような違いがあるかを調査したもので、調査した時期は昭和45年2月から3月にかけてである。

この調査は、同研究室の飯豊毅一が担当したが、実際の調査においては、同研究室の渡辺友左のほか、福島大学教授菅野宏氏、同助教授渡辺義夫氏、新潟大学講師大橋勝男氏(当時助手)、琉球大学助教授中松竹雄氏(当時東京教育大学大学院生)、福島県田村郡船引町小学校教諭竹野克雄氏(当時福島大学生)の協力を得た。

また、現地の福島県教育委員会、福島市教育委員会、保原町教育委員会、保原町役場、福島市役所茂庭支所、保原町立保原中学校、福島市立茂庭中学校、福島市立茂庭小学校、保原町公民館、茂庭公民館等をはじめ、関係機関および被調査者各位の協力を得た。記して心からの感謝の意を表する。

昭和49年3月

国立国語研究所長

岩渕悦太郎

目 次

刊行のことば	i
目 次	ii
I 研究の概要	1
1 目的	1
2 調査地点	2
3 計画・作業経過	5
4 面接調査	7
4.1 課題	7
4.2 調査項目	7
4.3 調査票	9
4.4 実施要領	23
5 アンケート調査	23
6 担当者、協力者	24
II 伊達郡方言の特徴	30
1 音韻	30
1.1 音素	30
1.2 モーラ	30
1.3 特徴の若干について	30
2 文法	35
2.1 動詞の活用	35
2.2 形容詞・形容動詞の活用	41
2.3 用言の用法(1)	43
2.4 用言の用法(2)	51
2.5 体言の用法	53
III 結果——各個別的特徴にみられる変遷	57
1 音韻	58
(1) i と e	58
(2) ε と e	60
(3) si と su	60

(4)	ci, cu, cju	64
(5)	zi, zu, zju	65
(6)	-k-, -t-, -d-	68
(7)	/ki/ と [cī]	74
(8)	「拗音の直音化」	75
(9)	その他	77
(10)	まとめ	79
2	文法	80
(1)	「買う」の活用形	80
(2)	「来る」の活用	80
(3)	推量表現, beR	81
(4)	否定の意志	83
(5)	可能の表現	83
(6)	使役の表現	84
(7)	過去の表現, eqtaQta	84
(8)	回想, ke	85
(9)	丁寧表現, 文末助詞	86
(10)	条件の表現	87
(11)	逆接の表現	88
(12)	格助詞, sa	89
(13)	を格	89
(14)	所有格, no とga	90
(15)	用言の体言化	90
(16)	係助詞, suka	90
(17)	「おれ」の複数	91
(18)	敬語	91
(19)	その他	95
(20)	まとめ	96
3	語彙	97
(1)	遊び言葉	97
(2)	虫の名称	98
(3)	親族名称	99
(4)	農関係語(1)	101
(5)	農関係語(2)	104
(6)	用具の廃亡と名称	106

(7) 動作・性状語	111
(8) その他	113
(9) まとめ	114
IV 言語変遷にみられる要素差と地域差	117
1 言語要素間における差	117
1.1 音声・音韻の諸特徴間における差	117
1.2 文法的諸特徴間における差	122
1.3 語彙——物事の廃亡とその名称の消失	125
1.4 言語的特徴間にみられる差	127
2 地域間における差	132
V 集計表および図	136
あとかき——反省にかえて	384
図表（対照）索引	386

I 研究の概要

1. 目 的

国立国語研究所第二資料研究室は昭和40年度より昭和46年度にかけて、福島県北部地域において種々の言語調査を行なった。この報告書は、そのうちの「面接調査」の結果の報告である。

言語・言語生活は、社会生活およびそれを規定している社会構造と密接な関係を持っているが、その関係を明らかにするための調査研究は、従来、ないわけではないが、数も少なく、方法的にも結果的にも多くの問題が未解決のまま残されている。われわれが「福島北部調査」と名づけたこの調査は、われわれにとって、言語と社会との関係を明らかにするための基礎的準備的研究という性格を持つものである。

われわれの計画した調査とその課題は次のとおり。

(1) 使用言語の実態の調査 性・年齢等の話し手の条件の異なりに応じてその使用言語にどのような差があるであろうか。日常会話において、共通語と方言をどのように使い分けているであろうか。発話のどの部分が共通語化しており、どの部分が方言を保ちつづけているのであろうか（言語のどの要素が共通語化しており、どの要素が方言を保ちつづけているのであろうか）。あるいは同じく方言といわれても、青年層の使用する方言と高年層の使用する方言とは果たして等質のものであろうか。そこにどれほどの差が認められるであろうか。男性・女性の間では、その差はどのようであろうか、等々の事が問題になる。

(2) 言語使用の意識の調査 言語の使用についての意識はどのようであろうか。使用意識と使用の実態とはどれほど異なるものであろうか。

(3) 場面による言語変容の調査 各種場面の違いに応じて使用される言語はどのように違っているであろうか。親しい友人と話す場面、役場や学校における公的な用向きの場面、未知の旅人と話す場面、会議で討議する場面等の違いに応じて、使用される言語は違ってくる。発話のどの部分がどのように異なるのであろうか。あるいは、言語要素のどの部分にその違いが表われるのであろうか。

(4) 言語活動・言語生活の調査 どのような言語生活を営んでいるであろうか。また、話し・聞き・読み・書く言語活動はどのように行なわれ、どのような機能を発揮しているであろうか。

(5) 社会生活・社会構造の調査 どのような社会生活を営んでいるであろうか。また、それを規定している社会構造はどのようなものであるか。

(6) 以上の総合 言語使用（の変遷）と言語生活（の変遷）の間にはどのような関係がみられるであろうか。あるいは言語使用・言語生活（の変遷）と社会生活・社会構造（の変遷）の間には、どのような関係がみられるであろうか。

2. 調査地点

調査地点としては次の2地点を選んだ。

- (1) 福島県伊達郡保原町 (2) 福島市飯坂町茂庭

このうち、(1)は都市郊外平地農村としての性格を持ち、(2)は山村としての性格を持つ。この地点を選んだ理由は次のとおり。

- (1) 比較的単純な構造を持つ農村社会の方が調査しやすい。
- (2) 都市郊外平地農村と山村との比較ができる。
- (3) 対象地域の方言がかなり共通語と異なっている。したがって、共通語との接触において、どのような影響を受けたかを言語面で測定しやすい。
- (4) 調査の便がある（保原町は第二資料研究室の室員渡辺友左の出身地であり、両地区ともに調査に対して、きわめて協力的であった）。

保原町は福島市東北に位置し、人口約2万2千人。阿武隈川はその西側と北側を流れている。西南は福島市に隣接し、西は桑折町・伊達町に連なり、東南は霊山町に連なり、東北は梁川町に接する。遠く西南30kmに吾妻山があり、東10kmに史蹟霊山がある。その間の阿武隈川流域平野のやや東北寄りに位置し、都市郊外平地農村としての性格を持つ。

交通は、かつては阿武隈川を利用しての舟運もあったが、これは今はすっかり衰えた。福島市より保原町に通ずる街道は、北は梁川町より宮城県丸森町・角田市を経て、岩沼市付近で奥州街道と合する。また保原町より東には霊山町を経て相馬市にいたる中村街道がある。ともにバスの便がよく、往来も多い。西の伊達町や桑折町、また北の国見町との間にも道路があり、かなりの交通量をみる。また、伊達町を経て福島市にいたる路面電車が、これは北の梁川町と東の霊山町まで延びている（最近廃止された）。第1図、参照。

産業は農業が中心である。古くから養蚕が盛んに行なわれたが、戦後、果樹栽培が急激に普及し、出荷は1万トンを越える。また、毛メリヤス工業も盛んである。それらは第1表～第3表によって知ることができる。

保原町の属する伊達郡は、鎌倉時代より、長く伊達氏の所領であったが、秀吉の頃、一時蒲生氏郷の所領（会津領）となり、その後慶長3年より上杉氏の所領となった。寛文4年吉良義央の子三郎を養子として家督相続をした際、この伊達郡・信夫郡が削られ、上杉氏所領が、30万石より15万石になった。この後、伊達郡は、あるいは幕領となり、あるいは諸藩飛地として、交錯した状態で幕末まで続いた。保原町もかなり交錯しているが、おおむね、白河藩飛地、幕領、刈谷藩飛地に属していたと言える。

伊達郡はこのような歴史的事情もあり、伊達氏と深い関係があり、伊達氏移封の際には、伊達氏についてこの地から、新領地に移住した者も多かったと伝えられている。

明治以降、一時（明治4年～9年）分立していた福島・若松・磐前の3県は合併して、福島県となったが、その県庁所在地が福島市に定まったため、福島市の発展とともに、保原町も発展し、他所からの移住者も多く、しだいに都市近郊農村としての性格を強めてきていると言える。昭和30年、旧保原町、大田村、上保原村、柱沢村、富成村の合併により現在の保原町が成立し、今日

第1図 調査地域図



に及んでいる。

一方、茂庭集落は旧伊達郡茂庭村である。同郡の湯野町、東湯野村とともに、昭和30年、信夫郡飯坂町に合併され、さらに、昭和39年、飯坂町が福島市に編入されて、福島市の一部となった。人口約2千。

阿武隈川の支流摺上川の左岸に沿った集落であり、宮城県・山形県との県境に位置し、周囲は山つづきで、わずかに摺上川に沿って耕土がある。熊やかもしか（土地の方言でアオズス・アオジシ）や猿を見ることができるといふ。山村である。

交通は飯坂町をへて福島市中央にいたる道路が摺上川に沿って走っていて、茂庭―福島間は一日数回のバスの便がある。この道は、さらに西に延びて山形県米沢市に通じているが、従来は車の通ら

第1表 保原町の人口の推移

年 次	人 口	人 口 密 度 (km ² あたり)
大正9年	14,502人	363
大正14年	15,423	386
昭和5年	16,460	412
昭和10年	16,143	404
昭和15年	16,176	405
昭和22年	19,468	488
昭和25年	21,151	530
昭和30年	21,528	513
昭和35年	21,339	507
昭和40年	21,554	512
昭和45年	22,133	526

(『町勢要覧』による)

第3表 経営耕地面積

(45年2月1日現在)

区 分	田	普通畑	果樹園	桑 園	計
面 積 (ha)	806	323	562	149	1,840

(『町勢要覧』による)

第2表 産業別事業所数・従業者数

区 分	44 年		45年
	事業所数	従業者数	従業者数
農 業	2,163	4,382	4,242
林 業 狩 猟 業	—	—	4
漁業水産養殖業	—	—	1
鉱 業	1	2	10
建 設 業	114	538	659
製 造 業	311	2,881	3,434
卸 小 売 業	420	1,597	1,684
金 融 保 険 業	16	216	148
不 動 産 業	18	24	11
運 輸 通 信 業	18	184	456
電気ガス水道業	3	43	43
サ ー ビ ス 業	211	1,096	1,255
公 務	10	192	220
計	3,285	11,155	12,167

(『町勢要覧』による)

ぬ山道に過ぎなかった。最近、拡張整備され、トラックが通るようになった。また、ここから北に宮城県七が宿町にいたる道もあるが、これはまだ、車の通るまでにはなっていないし、往来もきわめて少ない。

産業は農業と林業（炭焼き）が中心であったが、最近では果樹の栽培もある程度普及している。しかし、やはり山林が生活の頼りになっていることは変わらない。それは第4表～第6表によって示される。

第4表 茂庭の農家数

	昭35	昭40
農 家 人 口	2,254人	1,840人
農 家 数	351戸	314戸
専 業 農 家	3	10
第1種兼業農家	122	135
第2種兼業農家	226	169

(『国勢調査』による)

第5表 耕地規模

	昭35	昭40
農 家 数	351戸	314戸
0.5ha以下	120	107
～ 1.0ha	107	118
～ 2.0ha	114	83
2.0ha～	10	6

(『農林業センサス』による)

第6表 兼業の内訳(昭40)

	第1種	第2種
農 家 数	135戸	169戸
恒常的職員	2	5
恒常的賃労働	2	4
出 稼 ぎ	22	17
〔人夫・日雇 (林 業)	31 22	29 24
〔自営兼業 (林 業)	78 56	114 104

(『農林業センサス』による)

住民の大部分は兼業農家である。それも、農業が生計の中心である第1種兼業農家よりは、兼業を生計の中心としている第2種兼業の方が多い。自営兼業がかなりの数に上るが、その内訳を

みると、実は林業が大部分を占めている。人夫・日雇の内訳も林業が多い。広大な国有林の保全のために、営林署が農閑期に雇用する労賃は、この地の人にとって大事な収入源の一つである。

茂庭集落の属していた伊達郡の歴史については既述した。茂庭集落は、幕末は幕領であった。

3. 計画・作業経過

既述の課題に基づき、次のように調査を計画し、実施した。

i 方言体系についての調査

言語・言語使用の変遷や変容を考察するためには、まず、その本来の方言体系を的確に把握し、その特徴や問題点を明らかにしておくことが必要である。そこで、昭和40年度から同42年度にかけて、主として面接調査と採集録音資料とによって分析を行なった。これによって、音韻体系・文法体系および一部語彙の特徴について、その概略を知ることができた。

ii 録音資料の調査

話し手の性・年齢等の違いによって使用言語がどのように異なるかを実際の日常会話の資料に基づき調査しようとした。すなわち、親しい人と、くだけた話し合いを行なう場面に限定し、男子高年層、男子青年層、女子高年層、女子青年層の四つの層をさらに学歴（教養）によって二つに分け、計八つの層について、各ほぼ3名の話し合いを録音した。録音採集は昭和40年度に行なったが、文字化して、実際にカード採集を行ない、分析を始めたのは昭和41年度からである。使用した録音資料は、計8時間分である。採集したおもな録音資料は第7表のとおり。表中の「福島県北部方言資料」1～同8までが分析に使用したものである。㊦は文字化した資料である。

第7表 採 集 録 音 資 料

リール番号	資 料 番 号	略 称	採録年月	時間	話 者
No. 福 1	福島県北部方言資料 8	㊦保原高年男会話	S. 40.8	90分	木戸福次郎(67), 渡辺吉五郎(72), 笠原喜一(60)
" 2		"	"	45分	"
" 3		㊦保原教高年女	"	90分	古宮千代, 小森谷登喜, 八巻キヌイ
" 4		"	"	30分	"
" 5		㊦保原教高年男会話	"	90分	平林有尚, 佐藤吉次(62), 尾形喜一(63)
" 6		"	"	30分	"
" 7	福島県北部方言資料 7	㊦保原青年学級 女	"	90分	一条キイ子(20), 齊藤タカヨ(20), 土田楨子(21)
" 8	福島県北部方言資料 5	㊦保原青年学級 男	"	90分	小林栄重(21), 高橋雄二(21), 井間弘章(23)
" 9		㊦保原男子学生	"	90分	浅野嘉尚(19), 舟山喜一(18), 畠山孝夫(20)
" 10		"	"	30分	"
" 11		㊦保原女子学生	"	90分	半沢光子(21), 宮口茂子(21), 赤井ミヨ(21)
" 12	福島県北部方言資料 6	㊦保原高年女	"	90分	大友タネ(59), 一条ユウ(61), 高松ヤス(59)
" 13		㊦富成高年男会話	"	60分	菅野勇治(74), 西戸徳左衛門(67)
" 14	side I	"	"	30分	"

リール番号	資 料 番 号	略 称	採録年月	時間	話 者
No. 福 14	side II	富成高年男混合	S. 40.8	30分	二階堂宥夫(61), 佐藤武二(66), 菅野勇治(74), 西戸徳左衛門(67)
" 15		富成教高年男会話	"	60分	二階堂宥夫(61), 佐藤武二(66)
" 16		㊦富成青年学級 男	"	60分	野崎正雄, 菅野欣一, 菅野助之, 寺内勝美
" 17		"	"	30分	"
" 18	福島県北部方言資料 4	㊦茂庭青年男	"	60分	鈴木忠司(24), 山田広美(21), 山田次男(22)
" 19		"	"	40分	"
" 20	福島県北部方言資料 2	㊦茂庭高年男	"	60分	小関芳之助(65), 鈴木栄徳(70), 斎藤松太郎(67)
" 21		"	"	60分	"
" 22	福島県北部方言資料 1	㊦茂庭高年女	"	60分	鈴木トキ(84), 鈴木正(78), 小関ウン(73)
" 23		"	"	30分	"
" 24	福島県北部方言資料 3	㊦茂庭青年女	"	60分	鈴木靖子(23), 小関絹子(23)
" 25		"	"	30分	"
" 26		㊦茂庭中高年男	"	60分	今野義男(68), 小関正一(34), 本多佐七(63), 鈴木吉司(52), 鈴木唯男(40)
" 27		"	"	30分	"

iii 面接調査（項を改めて記述する）

iv アンケート調査（同上）

v 場面による変容の調査

保原町，茂庭集落の両地区において，共通語を理解できない人は，まず，いない。高年層の一部の人の中には，共通語をほとんど話せない人もいるが，大部分の人は，場面に応じて，使用言語が方言であったり，共通語に近い言語であったり，その中間であったりする。そこで，どのような場合に，どのような言語を使用しているかを明らかにする必要がある。場面によって，言語使用はどのように変容するのか。発話のどの部分が，どのように違っているのか。

これについて，二つの面から調査を行なった。

(1) 意識調査

親しい人とくだけた話をする場面，福島市で買物をする場面，役場や学校で用向きのことを話す場面，会議をする場面，未知の旅行者と話をする場面，等の各場面において，どのような言語を使用しているか，被調査者の意識を問う調査である。共通語を話しているか，方言を話しているか，それとも両者のまざりであるか。

これは前記の「面接調査」の中に含めて調査した。

(2) 録音分析調査

実際に，各種の場面に出向いて，できるだけ自然な状態で人々の話している発話を録音し，これを分析することによって，具体的に言語使用の変容を探ろうとする調査である。これについては次のように計画した。

第一は個人の追跡調査である。両地区における高年層男性1名について，次の各場面における

自然な話し合いの状態を約1時間ずつ録音し、これを文字化して分析することにした。

- ・友人との談話 ・未知外来者との応対 ・会議 ・未知高校長との対話
- ・既知年少者（友人の子息）との対話

ただし、実際に文字化し、分析したのは保原町の1名だけであった。

第二に、両地区における高年層、青年層の男女各1名について、「友人との談話」「未知外来者との応対」の2場面を録音し、これを文字化して、比較資料とした。また、役場・農協等の窓口の応対、各種会議、商店における応対、個人的用談、家庭における談話等も録音して参考資料とした。

録音採集を行なったのは、昭和45年度であったが、実際にカード化して、分析に取りかかったのは昭和47年度からである。

vi 社会生活・社会構造の調査

記録や各種統計表による概観の調査を行なった。

この報告書は、主として、このうちのiii（面接調査）の結果の報告である。したがって次項に「面接調査」について、やや詳しく記述する。

4. 面接調査

4.1 課 題

地域社会において、言語使用がどのように変遷しつつあるかを明らかにしようとして面接調査を行なった。主たる課題は次のとおり。

- (1) 高年層（60才以上）・壮年層（40才代）・青年層（20才代）の間に、言語使用の面にどのような違いがみられるか。
- (2) 性・学歴・居住経歴等によって、どのような違いがみられるか。
- (3) 言語の変遷に際して、音声・音韻や文法や語彙のどの分野にどのような違いがみられるか。
それぞれの分野において、項目によってどのような違いがみられるか。
- (4) 共通語化しやすい項目と、共通語化しにくい項目（方言形を保持する項目）との間にはどのような特徴がみられるか。
- (5) 地域社会の違いに応じて、言語使用にどのような違いがみられるか。

すなわち、この調査は、地域社会の人たちが土地の人たち同士で話す言葉がどのように変遷しつつあるかをみようとしたものである。特に改まって共通語を話そうと努力している場合の言葉ではない。

4.2 調査項目

地域社会における言語使用の変遷の実状を明らかにしようとする、この調査において、どのような調査項目を選定するかは極めて重要である。この地の方言は南奥方言に属し、共通語と比較してかなり違いがあるが、それはかなりな速さで変わりつつあると思われる。take_εkanber<高いだろう>が廃れて、take_εrbe が代って盛んに用いられるように、方言内部で変革が行なわれていることもあるが、多くの東部方言社会でみられるように、この地の方言社会においても共通語化が盛んである。本来の方言に代って共通語がしだいに用いられる傾向が認められる。したが

って、言語使用の変遷の実相を明らかにするためには、まず、この地の高年者の用いている本来の方言体系やその特徴を把握し、ついで高年者はもちろん、壮年層や青年層の言語使用の状態を観察し、音韻・文法・語彙の全般にわたって適切な調査項目を選定する必要がある。こうして、はじめて変遷の実状を浮き彫りになし得る調査が可能であろう。

昭和40年度から同42年度にかけて行なった方言体系の調査によって、この地の方言の特徴をどのように把握したかは別項に記述するとおり。

こうして、そのうちから調査項目を選定した。音韻・文法・語彙を合して約140項目。それは次のようなものである。

音声・音韻関係としては

- (1) /i/ と /e/ 息, 駅, 百円, インキ, 言われない
- (2) /ε/ 蠅, 塀, 聞かない, 深い, 短い
- (3) /je/ 襟, 縁側
- (4) /ju/ 雪, 言われない
- (5) /ki/ 金庫, 狐, 聞かない, きかない(わんぱくだ)
- (6) /-ki/ インキ, 息, 駅, 雪, 桑の木
- (7) /kju/ 急行
- (8) /-kjo/ 農協
- (9) /-k-/ 聞かない, きかない, 深い, 短い, すじこ, 急行, 重箱, 百円
- (10) /si/, /su/, /sju/ 梨, 下, 鹿, すし, 茄子, 手術, すじこ
- (11) /ci/, /cu/, /cju/ 地図, 注射
- (12) /-ci/, /-cu/, /-cju/ 焼酎, 狐, 手術
- (13) /zi/, /zu/, /zju/ 字, 重箱
- (14) /-zi/, /-zu/, /-zju/ 手術, 地図, 短い, すじこ
- (15) /-t-/ 的
- (16) /-d-/ 窓
- (17) /kwa/ 桑の木
- (18) /sja/ 注射, 写真機
- (19) /sjo/ 焼酎
- (20) /hja/ 百円
- (21) /-r-/ 白粉, 柱, 叱られた, 言われない
- (22) 無声化 聞かない, きかない, 深い, 短い, すじこ

語彙関係としては

- (1) バッタラ(解) (2) ふりうち棒(解) (3) 乗合馬車(解) (4) 牡牛(解) (5) 嬰兒籠(解) (6) 摺臼(解)
- (7) 自在鍵 (8) 足半ぞうり(解) (9) 鼻どり(解) (10) 横座(解) (11) 耕す(深く) (12) 耕す(浅く) (13) 降りる (14) 走る (15) 汽車が走る (16) 午後間食 (17) 奥山 (18) 入口の山 (19) たいくつして手持ぶさた(解)
- (20) 疲れているさま (21) 水の入口 (22) 水の出口 (23) あらくれ (24) 畦道 (25) 写真機 (26) ねじまわし
- (27) 日射病 (28) 予定する (29) 恥ずかしい (30) おばあさん (31) お父さん (32) お母さん (33) 赤ん坊 (34) 額

(解) (35)かまきり (36)とんぼ (37)赤とんぼ (38)竹馬 (39)おはじき (40)片足飛 (41)「デッケー」と「ズねー」の意味,〔注, (解)とあるものについては理解語としても調査した。〕

文法関係としては

- (1)推量, あの人**は**さそったら行くだろうか, どこに行くんだろう, その山とあの山とどっちが高いだろうか, きみは去年行ったろう, うちの子どもは百姓になろうと商人になろうと自由にさせるつもりだ
- (2)打消推量, あんなどころにはもう行くまいと思った
- (3)仮定条件, だれも書かないなら おれが書くしかないなあ, 書きたくなければ書かなくてもいいよ
- (4)確定条件, 近いうち東京へ行かなければならない, あの人**が**来ないので仕事が出来なかった
- (5)逆接条件, 高いのは高いけれども 木が生えていないからだめだ
- (6)使役, うちのこどもにも高校の試験を受けさせましたよ
- (7)可能, そんな小さな筆では大きな字は書くことができない, きれいな字なんて おれには書くことができないよ, 福島へなら今からでも行って来られるだろう
- (8)「買う」+「べー」の形, 京都に行ったら何を買おうかなあ
- (9)「来る」の命令形, 何をぐずぐずしているんだ はやくこっちへ来い
- (10)過去の経験, おれも行ったことがある
- (11)回想, 伝聞など, あの人**は**すもうが強かったつけなあ, きのう大きな荷物を持って歩いて行くふうだったなあ, あの人**も**行ったんだそうだ
- (12)敬語表現, そうですね お父さん, はい そうでございます(恩師), お父さん これを書いて下さい, お早うございます, こんばんわ, いい天気ですね(目上), さあ どうぞお上り下さい, おもしろいものをごらんに入れますよ, あなたがお書きになったのですか, 先生は何時の汽車にお乗りになりますか(恩師)
- (13)二格へ格, 東京へ行く, 映画を見に行く, ここは福島へ行くのに〔は〕便利になりましたね
- (14)ヲ格, うちのこどもをばかにしていじめた, はさみを取ってくれ
- (15)並列格, 50円のと 100 円のとを買ってきた
- (16)所有格, それは先生の帽子だ, これはだれの帽子かね
- (17)その他, そのためにみんながひどい目にあった, これはおれの機械だ, おれたちが買ったものだ, おれさえできないのにお前にできるもんか, おれが書くしかないなあ

4.3 調 査 票

既述の調査項目を中心に調査票を作成するに当たっては、言語生活や社会生活についても若干の項目を補足的に加えた。言語使用の変遷をみる場合には、その地域社会の社会生活や言語生活を全体的に把握して、それとの関係をもみることも必要であろうし、また個人ごとにどのような社会生活・言語生活を営んでいるかを調査して、それとの関係をもみることも必要であると思われるからである。新聞・雑誌・ラジオ・テレビ等に対する接近度、地域社会内における人との交際度、地域社会外の人との交際度、出身地、学歴、職業、居住経歴、父母の出身地、役員の経験等につ

いて調べた。調査票の全体は次のとおり。

(調査票における ü は [ü], Si は [ʃi], E は [ɛ], tsĩ~dzü は [tsĩ~dzü])

調査項目は被調査者の答えやすいように、なるべく前後に関連を持たせて配列した。調査全体が一つの会話の流れになるようにと心掛けた。被調査者に無用の心理的負担をかけないためである。したがって、言語的特徴ごとにまとめている。調査票の全体は次のとおり。

福島県北部言語調査

1970.3

a. お名前は	b. 男 女		c. お生まれになった年は 明治・大正・昭和 年()才	
d. 住所は				
e. お仕事は	現 在	職 歴	f.	
g. お生まれの所は				
h. 小学校は				
i. 最後に卒業の学校は				
j. その土地に住んだことは	どこに	オ～	オ	
k. 役員をなさったことは				
l. お父さんの出身地は	1. 当部落 2.			
m. お母さんの出身地は	1. 当部落 2.			
n. 調査者				
o. 調査日時	3月 日	午前 午後	時 分	
p. 調査場所	自宅 その他()			

1. あなたがふだん友達とお話になつてゐることばについて、おたずねします。

1.0 1.	こつちのものを何と言いますか。 ① タガアシ ② タゲンマ ③	竹馬 (79 絵)	
1.0 2.	こつちのことは何と言いますか。 ① ヒッコンタン ② カタアシントビ ③	片足飛 (82 絵)	
1.0 3.	こつちのものは何と言いますか。 ① ハジッコ ② オハジキ ③	おはじき (80 絵)	
1.0 4.	これは何と言いますか。 ① エボムン ② カマキリ ③	かまきり (73 絵)	
1.0 5.	これは。大きいのも小さいのもありますが、全体をまとめていうと何と言いますか。 ① アダズ ② トンボ ③	とんぼ (77 絵)	
1.0 6.	これは。赤くて小さいものです。 ① アダズ ② アカトンボ ③	赤とんぼ (78 絵)	
1.0 7.	これは。・狐 (16' 絵) ① kitsune ② kitsune ③ kitsune ④		

1.08 これは。牡には角があります。・鹿(22' 絵)

- ① shika ② shika ③ shika
④ shika ⑤

1.09 (1)これは。おすの牛です。 牡牛(6 絵)

- ① コデウシ ②

(2) (コデウシと答えなかった人に対して) コデウシとい
うことを聞いたらわかりますか。

- ① わかる ② シラナイ

1.10 田んぼに水を入れる。その入り口を何と言いますか。

水口(入り口)(31 絵, 次と共通)

- ① ミナグズ ② ミナグジ ③ ミナクサ
④

1.11 水の出口は何と言いますか。 水口(出口)(32 絵)

- ① スリミナグズ ② シリミナグジ ③ シリミナクサ
④

1.12 田植えの前に耕した田に水を入れて最初に大まかになら
すこと。(33 絵, 次と共通)

- ① アラガギ ② アラカギ ③ アラカキ
④

1.13 (1)そのとき昔は牛を使いましたが、その牛をみちぐこ
とを何と言いますか。 鼻どり(14 絵)

- ① ハナドリ
②

(2) ハナドリということばをきけば何のことかわかりま
すか。

- ① わかる ② シラナイ

1.14 田んぼと田んぼの間の道を何と言いますか。 畝道

- (36 絵)
① クロミジ ② ノードー
③

1.15 かいこのたべる葉っぱの木です。・桑の木(46 絵)

- ① kanogi ② kwanogi ③ kuwanogi
④

1.16 何がふっていると何と言いますか。・雪(12 絵)

- ① shigi ② jushi ③ juki
④

1.17 奥の方の山を何と言いますか。 奥の山(26 絵, 次と
共通)

- ① イリノヤマ ② オクノヤマ
③

1.18 入口の方の山は。(27 絵)

- ① カッチーノヤマ ② デドノヤマ
③

1.19 お父さんに対して何と言ってよびかけますか。(いない
という人には、お父さんの生きていらっしゃるときは何と
いってよびかけたんですか) お父さん(51 絵)

- ① オトツツア, オドツツア, オドヤン, オトツツアン
② オトーチャン, トーチャン
③

1.20 お母さんには何と言ってよびかけますか。(いない人に
は、前問と同様に) お母さん(52 絵)

- ① オッカヤン, カッカヤン
② オカーチャン, カーチャン
③

1.2 1 (1) こういうものを何と言いますか。 赤児籠 (7 絵, 次と共通)

- ① エッコ
②

(2) エッコということばをきいたら何のことかわかりますか。

- ① わかる ② シラナイ

1.2 2 生れたばかりの人間の子どもを何と言いますか。 赤ん坊 (5 9 絵)

- ① オドッコ ② オボッコ ③ アカチャン
④ オットコ ⑤

1.2 3 わんぱくで、少しぐらいではめそめそしない子を何と言いますか。 ・きかない子 (5 2 絵)

- ① cikanE: ② kikanE:
③

1.2 4 いたずらをして叱られたというとき「叱られた」ということを何と言いますか。 ・叱られた (6 3)

- ① ontsaceja
②

1.2 5 ほんやりして何と言われたかよく聞かなかったというとき「聞かなかった」ということを何と言いますか。

- ・聞かなかった (5 1)

- ① cikanakatta ② kikanakatta
③

1.2 6 お父さんのお母さんのことを何と言いますか。 おばあさん (5 0 絵)

- ① パッパヤン, パッパ
② オバーチャン, バーチャン
③

1.2 7 (1) 一人で留守番などをし、たいくつして手持ぶさのこを何と言いますか。 たいくつして手持ぶさ (2 9)

- ① スケねー ② トゼンダ
③

(2) トゼンダと言いませんか。

- ① 言う ② きけばわかる ③ シラナイ

1.2 8 こういうところを何と言いますか。 指し示す。 ・襟 (8)

- ① žeri ② jeri ③ eri
④

1.2 9 (1) こを何と言いますか。 額 (6 3)

- ① ナズギ ② ナツキ
③ デナ
④

(2) ナツキと言いませんか。 デナとは。

- ① ナツキをいう、きけばわかる、シラナイ
② デナをいう、きけばわかる、シラナイ

1.3 0 女の人がお化粧で白い粉を使いますが何と言いますか。

- ・白粉 (6 0)

- ① oSSe: ② oósi: ③ oóiroe
④

- 1.3.1 大勢の人の前で話をしろと言われて恥しかったというとき、その「恥しかった」ということを何と言いますか。 恥しい (4 4)
① So:Si:katta ②
- 1.3.2 失敗したけれども何も言われなかったというとき、その「言われなかった」ということを何と言いますか。 ・いいわれない (6 6)
① züwənnje: ② ewənnje: ③
2. さまざまなことばの言いまわしについておたずねします。やはり親しい友達に言うときのことばです。
④
- 2.0.1 「東京へ行く」ということを何と言いますか。
① トーキューサ ② トーキューニ
③ トーキューエ ④
- 2.0.2 「映画を見に行く」ということを何と言いますか。
① ミサイク ② ミニイタ
③
- 2.0.3 何人かで福島に買い物に行こうとします。そのとき「あの人はさきから行くだろうか」というとき何と言いますか。
① イグベーガ ② インペーガ
③
- 2.0.4 知っている人が族に行く服装で家の前を通ります。それを見て「どこに行くんだろう」というとき何と言いますか。
① イグンダベー ②

- 2.0.5 「近いうち東京へ行かなければならない」ということを何と言いますか。
① エガネゲレ ② エガネツカ
③ エガナツカ ④ エカナ
⑤
- 2.0.6 「福島へなら今からでも行っても来られるだろう」
① コラレンペー ② コラレツペー
③ キラレンペー ④ キラレツペー
⑤
- 2.0.7 「ここは福島へ行くのに(は)便利になりましたね」
① イグニ ② イグノニ
③
- 2.0.8 こんどひまになったら京都に見物に行こうと話しています。そういう場合「きみは去年行ったろう」ということを何と言いますか。
① イツタペー ② イツタツペー
③
- 2.0.9 「おれも行ったことがある」
(1)① イツタツタ ②
(2) イツタツタということばを使いませんか。
① 言う ② きけばわかる ③ シラナイ
④
- 2.1.0 「あの人も行ったんだそうだ」
① イツタツク ② イツタスク
③
- 2.1.1 「京都に行ったら何を買いかなあ」
① カーベガナ ②

2.1.2 書類を作るときなどの話しになります。「だれも書かないならおれが書くしかないなあ」ということを何と言いますか。

- (1) ①カガねゴッタ ②カガねゴッタ

③

- (2) ①カグシカ ②

2.1.3 「そんな小さな筆では大きな字は書くことができない」

- ①カガンニヌー ②カダねー

③

2.1.4 「大きい」という意味の「デッケー」と「ズねー」とはまったく同じように用いていますか。

- ①いい ②わるい ③

2.1.5 「書きなくなければ書かなくてもいいよ」

- ①カキでクねーグレ ②カキでクねッカ
③カキタクナグレバ ④カキタクねーケレ
⑤カキタクねッカ ⑥

2.1.6 「きれいな字なんて おれには書くことができないよ」

- ①カダねー ②カガンニヌ

③

2.1.7 (こんどは山の話です)

「その山とあの山とどっちが高いだろうか」ということを何と言いますか。

- ①タガガンベガ ②タダーガンベガ
③タダーベガ ④

2.1.8 「高いのは高いけれども木が生えていないからだめだ」

- (1) ①タダーワ ②

- (2) ①タダーゲント ②タダーゲント
③タダーゲント ④タダーゲント
⑤

2.1.9 持ち物についての話です。

「これはだれの帽子かね」

- ①ダレガ シャッポ
②ダレノ シャッポ
③

2.2.0 「それは先生の帽子だ」

- ①sense: ノ シャッポ
②sense: ガ シャッポ
③

2.2.1 仲間が数人で共同で機械を買って「おれたちが買ったものだ」という場合。

- ①オラガ ②オララガ
③

2.2.2 それでは一人で買って「これは おれの機械だ」という場合は。

- (1) ①オレガ ②

2.2.3 「50円のと100円のとを買ってきた」

- ①〜ガナト ②〜ノト
③

2.2.4 次は友だちのうわさをするときのことばです。「きのう大きな荷物をもって歩いて行くふうだったなあ」

- (1) ①イグッケナー ②

(2) イグッケナーとは言いませんか。

- ①言う ②きけばわかる ③

2.25 「あの人が来ないので仕事ができなかった」

- ①コねーカンデ ②コねーガラ
③コねーンデ ④

2.26 「そのために みんながひどい目にあった」

- ①ソレタメニ ②ソノタメニ
③

2.27 「あんなところには もう行くまいと思った」

- ①エカねーペー ②イグめー
③

2.28 「あの人はすもうが強かったっけなあ」

- (1)①ツヨイッケナー ②ツヨカッケナー
③

(2)ツヨイッケナーと言いませんか。

- ①言う ②きけばわかる ③

次は子どもについて話をするときのことばです。

2.29 「うちの子どもにも高校の試験を受けさせましたよ」と
いうときのことばは。

- ①ウダラセタ ②ウダサセタ
③

2.30 「うちの子どもは百姓になろうと商人になろうと自由に
させるつもりだ」

- ①ナリヨート ②ナッペト
③

2.31 「うちの子どもをばかにしてはじめた」

- ①コドモ (ワラシ) ドゴ ②コドモ (ワラシ) ゴド
③コドモ (ワラシ) バ ④

おとうさんとかおかあさんとか親しい目上の人にはとうとき何と
言いますか。

2.32 「そうですね, おとうさん」

- ①ソーダナエ ②ソーダナン
③ソーダナシ ④

2.33 「お父さん」これを書いて下さい」

- ①クンツァー ②クンチァー
③

弟とか妹とか目下の人にはとうとき何といますか。

2.34 「何をぐずぐずしているんだ。はやくこっちへ来い」

- ①コー ②コイ ③

2.35 「はさみを取ってくれ」

- (1)①ハサミ ②ハサミバ
③

- (2)①クノ ②クロ ③

2.36 「おれさえ できないのにお前にできるもんか」

- ①オレセーガ ②オレセー
③

次にあいさつのことばについておたずねします。

2.3.7 朝「お早うございます」とあいさつするときのことは
どうでしょうか。

- (1) 親しい友人との場合は。
① ハイムナー ② オハヨー ③

(2) 尊敬する目上の人に対しては。

- ① ハイムナエ ② オハヨーゴザイマス
③

2.3.8 夕方に「こんばんわ」とあいさつするときは。

- (1) 親しい友人には
① オバン ② コンバンク ③

(2) 尊敬する目上の人には

- ① オバンデス ② コンバンク
③

3. 次は農業に関することばについておたずねします。

3.0.1 畠を最初に「深く耕す」ことを何と言いますか。 耕す
(深く) (17 絵)

- ① クナー ②

3.0.2 軽く表面を削りとるように耕すことは。 耕す(軽く)
(18)

- ① サグル ②

3.0.3 (1) こういうぞうりは。わらで編んだ小さなぞうりで、表面
で結んだものです。 足半ぞうり (13 絵)

- ① タンコンゾーリ ② エボゾーリ
③ タンコンゾーリ ④

(2) タンコンぞうりといったかわかりますか。

- ② エボぞうりといったかわかりますか。
③ ベコぞうりといったかわかりますか。
① がかる ② がわかる ③ がわかる
④ どれもシラナイ

3.0.4 やはり農家などで忙しいとき昼食と夕食の間に食べるこ
とは。 午後間食 (25)

- ① コピル ② タバゴ ③ コジューハン
④

3.0.5 (1) こういうものを何と言いますか。まわして豆などを落し
ます。 ふりうち棒 (2 絵)

- ① フリウチボー ②

(2) ふりうち棒ということばをきけばわかりますか。

- ① わかる ② シラナイ

3.0.6 (1) こういうものを何と言いますか。 摺臼 (10 絵)

- ① スルス ②

(2) スルスということばをきけばわかりますか。

- ① わかる ② シラナイ

3.0.7 (1) こういうものを何と言いますか。 バッタラ (1 絵)

- ① バッタラ ②

(2) バッタラということばをきけばわかりますか。

- ① わかる ② シラナイ

3.0.8 農家の世話をしてくれるところですか。肥料の貯蔵や貯金
等の世話もします。 ・農舎 (21 絵)

- ① no:jo ② no:kjo ③ no:kjo
④

3.09 お金です。何円かと言いますか。・百円(79絵
① Sakj en ② hjakj en ③ hjaku en
④

3.10 これは。・柱(61絵
① haSSa ② haSira ③

3.11 こういふところは。・窓(40絵
① ma-do ② mado ③

3.12 こういふところは。・縁側(9絵
① zennga: ② ennēa: ③ enngawa
④

3.13 こういふものは。・塀(6絵
① he: ②

3.14(1)これは。・蠅(4絵
① hE: ② he: ③
(2)前の「塀」と同じ発音ですか。
① 違う ② 同じ

3.15(1)いらいでその家の主人の坐るところを何と言いますか。
襟座(15絵
① ヨゴザ ②

(2)ヨゴザといったかわかりますか。
① わかる ② シラナイ

3.16 これを何と言いますか。自在鍵(11絵
①

3.17 こういふ食べものは。・寿司(22'絵
① sūshū ② eisi ③ sūsi
④ suSi ⑤

3.18 これは。料理をつめておきます。・重箱(35絵
① dzū:bago ② dzu:bago ③ dzu:bako
④ dzi:bago ⑤

3.19 これは。・茄子(23絵
① nasū ②

3.20 塀の卵を塩漬にしたものです。・すじこ(58絵
① sūdzuho ② sūdzuho
③ sūtsuho ④

3.21 いも等からでき強い酒の一種です。渋柿を甘くすると
き等にも使います。・焼酎(48絵
① so:dzū ② So:cju: ③

3.22 これは。・梨(22絵
① nasū ② nasi ③ naSi
④

3.23 お金等を入れます。・金庫(16'絵
① cinko ② kinko ③ kinko
④

3.24 これは。写真機(37絵
① Saesinki ② カメラ ③

3.25 これは。ねじまわし(38絵
① ne:dzū ma:ei ② ドラエバー
③

3.3 3	汽車がとまって人が降りたり乗ったりします。そういうところは。・駅 (2 絵)	<div>① i ci ② i gi ③ é ci ④ é gi ⑤</div>
3.3 4	普通の駅にとまらないで大きな駅にだけとまる汽車は。・急行 (1 9)	<div>① c ju : ko : ② k ju : ko : ③ k ju : ko ④</div>
3.3 5	何をしていますか。走る (2 0 絵)	<div>① ハネデル ② ハシッテル ③</div>
3.3 6	ハーツとはくとき出てくるものは。・息 (1)	<div>① i ci ② i gi ③ é ci ④ é gi ⑤</div>
3.3 7	疲れているときの状態を何と言いますか。疲れている (3 0)	<div>① コウエ ② コワエ ③</div>
3.3 8	何をしているところですか。降りる (1 9 絵)	<div>① オジデル ② オリデル ③</div>
3.3 9	(手をあげて) こっちが上ですね。こっちは何と言いますか。(下を指す) ・下 (2 2')	<div>① s i ta ② s i ta ③ S i ta ④</div>

3.2 6	これは。・的 (3 8 絵)	<div>① ma do ② ma to ③</div>
3.2 7	これは。ベンにつけていろんなものを書きます。・インキ (1 6 絵)	<div>① é n ci ② é n ki ③ i n ki ④</div>
3.2 8	何を書くと言いますか。・字 (を書く) (5 1 絵)	<div>① dz ü ② dz i ③ dz i ④</div>
3.2 9	こういうものは。・地図 (2 5 絵)	<div>① ts ü dz ü ② ts i dz ü ③ e i dz ü ④</div>
3.3 0	今年は桃の木を100本植えようと予定しているというとき、「予定している」ということは。予定 (4 1)	<div>① ヨサン ② カンジョー ③ ヨテー ④</div>
3.3 1(1)	こういうものを何と言いますか。乗合馬車 (3 絵)	<div>① トテバシヤ ②</div>
	(2) ドテ馬車ということばをきいたらわかりますか。	<div>① わかる ② シラナイ</div>
3.3 2	今、汽車がどうしている絵ですか。汽車が走っている (2 1 絵)	<div>① アルッテル ② ハシッテル ③</div>

3.4.0 お医者さんが何をしていますか。 ・手術
(24絵)
① eĩ'dzĩdzĩ ② si'dzũdzũ ③ Sidzĩtsu
④

3.4.1 こういうもので薬を身体に入れることは。 ・注射
(29絵)
① tsũ:Sa ② teĩ:Sa ③ o:ju:Sa
④

3.4.2 夏の太陽の強い日ざしにあたりすぎると何という病気になるりますか。 日射病(39)
① ナツキヤミ ②

3.4.3 こっちが長いと言いますね。それに対してこっちは、
・短い(56絵)
① minisũkũ: ② midzĩkũ:
④

3.4.4 川には浅いところもありますがその反対のところもあります。何と言いますか。 ・深い(53)
① xũkũ: ② fũkũ: ③

4. 尊敬している昔の先生等に対していうときのことばをおねえします。

4.01 尊敬している目上の人に対して「いい天気ですね」というときはどう言いますか。
① ~ダナン ② ~ダナエ ③

4.02 「さあ どうぞお上り下さい」と家の中に招き入れるときのことばは。
① アカラシム ② アカラシム
③ オアガナンナンシ ④

4.03 「おもしろいものをごらんに入れますよ」と言って珍しいものをみせる場合のことばは。
① ミセツツオイ ② ミテオクナンナンシ
③

4.04 尊敬する目上の人が持っている書類をみて、「あなたが書きになったのですか」とたずねるときのことばは。
① カエタノガン ② カエタノガエ
③ カガッタノガン ④ カガッタノガエ
⑤

4.05 「先生は何時の汽車に乗るか」と先生にたずねるときのことばは。
① ノラツカイ ② ノラツカシ
③

(2) (オノリイタシマスカといったらおかしいですか)
① おかしい ② おかしい
③

4.06 尊敬する目上の人から「これはきみのこども(弟)かね」とたずねられ「はい、そうでございます」と答える場合は。
① ソーデガス ② ソーデヤス
③ ソーデス ④ ソーダシ
⑤

4.07 あなたが家族の人と話をするときには土地のことばですか。標準語ですか。いろいろまざりますか。
① 標準語 ② まざり ③ 方言
④

それでは仕事の仲間と話をするときはどうですか。
① 標準語 ② まざり ③ 方言
④

近所の店で買物をするときはどうですか。
① 標準語 ② まざり ③ 方言
④

福島市で買物をするときはどうですか。

- | | | |
|------|-----|-----|
| ①標準語 | ②やち | ③方言 |
|------|-----|-----|

より合い等の会議で話をするときはどうですか。

- ①標準語 ②まち ③方言

学校に行って先生と話をするときはとうですか。

- ①標準語 ②はやり ③方言

役場に行って話をするときはどうですか。

- ①標準品 ②まざり ③方言

見知らぬ旅行者と話をするときはとうですか。

- ①標準語 ②まじり ③方言

5. ことばの生活に関係するところについておたずねします。

5.01 新聞は何新聞を読んでいますか。

福島民報	福島民友	朝日新聞	毎日新聞
読売新聞	日本経済	産業経済	その他（

5.02 新聞は一日平均何分ぐらいお読みになりますか。

- | 10分以内 | 20分以内 | 30分以内 | 31分以上 |
|-------|-------|-------|-------|
| 10 | 20 | 30 | 31 |

5.03 あなたが二十才代のときは何分ぐらいお読みでしたか。

- | 10分以内 | 20分以内 | 30分以内 | 31分以上 |
|-------|-------|-------|-------|
| 10 | 20 | 30 | 31 |

週刊紙や雑誌やその他のほか本などによってお読みですか。

- ①読む ②ときどき読む ③まれに読む
④読まない

5.05 テレビは一日平均何時間ぐらいごらんになりますか。

- ①みない ②1時間以内 ③2時間以内
④3時間以内 ⑤3時間をこえる

5.06 ラジオは一日平均何時間ぐらいお聞きになりますか。

- ①聞かない ②1時間以内 ③2時間以内
④3時間以内 ⑤3時間をこえる

5.07 P T Aや町内（部落内）の改まった寄り合い等にはどれくらいおいでになりますか。

- ①一週間に1回以上 ②一か月に1回以上
③三か月に1回以上 ④半年に1回以上
⑤一年に1回以上 ⑥一年に1回でもない

5.08 あなたが二十才代のときはいかがでしたか。

- ①一週間に1回以上
②一か月に1回以上
③三か月に1回以上
④半年に1回以上
⑤一年に1回以上
⑥一年に1回も行かない

5.09 福島市とかそれ以上遠い土地に出かけることはございませんか。

- ①一週間に1回以上
②一か月に1回以上
③三か月に1回以上
④半年に1回以上
⑤一年に1回以上
⑥一年に1回も行かない

5. 10 あなたは二十才代のときはいかがでしたか。

- ①一週間に1回以上
②一か月に1回以上
③三か月に1回以上
④半年に1回以上
⑤一年に1回以上
⑥一年に1回も行かない

11 この町内（部落内）の人とか親類の人以外のよその人と話すことはごまきですか。

- ①一週間に1回以上
②一か月に1回以上
③三か月に1回以上
④半年に1回以上
⑤一年に1回以上
⑥一年に1回もない

・12 それはどういう場合ですか。

- 5.13 あなたが二十才代のときはいかがでしたか。
- ①一週間に1回以上 ②一か月に1回以上
 - ③三か月に1回以上 ④半年に1回以上
 - ⑤一年に1回以上 ⑥一年に1回もない

どうもありがとうございました。

6. 調査者の印象

- ①共通語②準共通語③まざり④方言

4.4 実施要領

面接調査は昭和45年2月28日より、3月30日にかけて行なった。

地域は保原町と茂庭集落である。保原町では旧保原町と旧上保原村とに限って、その他の旧3村は除いた。それは、これら旧3村は旧保原町と比してかなり性格が異なるように思われたことと、調査地域を広げてそれらの地区の特徴をも明らかにするだけの規模をもった調査実施のゆとりがなかったからであった。

茂庭集落は、旧茂庭村のうち中茂庭を中心とする中央集落を対象とし、その他の焼松、梨平、名号等は除いた。理由は保原町の場合と同様である。

被調査者は原則として、それぞれ保原町あるいは茂庭出身者の農家にしぼることにした。それは話し手の性・年齢・学歴等による言語使用の差を探るために、より有効であると考えたからである。年代は20才前後、40才代、60才以上の3段階に限った。年代による違いを探る上で効率がよいと考えたからである。男性と女性の数はほぼ同数にして、各年代よりそれぞれ40名ぐらゐを抽出することにした。数の比較をするためには最少限の線は維持したいと考えたからである。

このような線で被調査者を選ぶことにし、茂庭支所において「住民台帳」を調べてみると、旅行中や病臥中のものを除くと、ほぼ該当者の全数に相当することが明らかになった。したがって、茂庭集落においては条件に合致するものの全数調査に近い調査となった。

一方、保原町では、既述したように全人口（2万2千人）の3分の1強は農家人口であるので、このような条件に合致する該当者もまたきわめて多い。そこで、中学校生徒の父兄の家庭より選ぶことにした。中学校の父兄名簿によって農家を抽出した上で、保原町役場の住民台帳によって家族構成を確かめ、これを抽出の基礎台帳とした。このような方法は厳密なサンプリング調査とはいえないが、保原町には中学校が一つしかないので、大きな片寄りはないであろう。大まかな傾向をみる上では大きな支障はないものと思う。

実際に面接調査をした被調査者は236名である（保原町117名、茂庭集落119名）。しかし、調査の途中で、われわれの条件に合致しない被調査者であることがわかった人もあつたりして、結局、分析に用いたのは227名であつた（保原町114名、茂庭集落113名）。

5. アンケート調査

前記の面接調査は農家を中心の対象としたものである。しかし、茂庭地区は人口が少なく、各年代にわたって、ほぼ全数調査といつていいほどの調査ができた。この地に居住するごく少数の商店経営者、工員、事務員、公務員等も対象になった。これに比して、保原町では既に示したように農家人口はかなりな数なので、被調査者を中学校生徒の父兄より抽出したのであるが、それにしても農家は町全体の3分の1強に過ぎない。農家を中心に調査した結果をもって直ちに保原町全体の状態を推測することはできない。したがって、保原町全体において、農家の人々の言語使用の状態がどのように位置づけられるかは別の調査によらねばならぬ。

そこで、旧保原町を中心に、全職業にわたって昭和45年度末にアンケート調査を実施した。

被調査者は中学校生徒（2年生、1年生）の父兄である。保原町には中学校は一つしかない。中学校の父兄は保原町に平均して散らばっている。したがって、中学校の父兄の言語使用の状態

は、おおむね保原町全体の状態を反映しているといつてよいであろう。約 600 名を被調査者としたが、回収できたのは 551 名であった。

調査項目は46項目である。面接調査の被調査者である農家の人々の言語使用が保原町全体においてどう位置づけられるかという目的であったから、その調査項目も面接調査の中から選んだ。「調査票」は次ページ以下に示すとおり。

6. 担当者、協力者

「福島北部調査」全体は第二資料研究室の飯豊毅一と渡辺友左との共同研究である。が、ここに報告される「面接調査」は飯豊毅一の担当で、企画・立案・調査項目の選定・結果のまとめ・執筆等はすべてもっぱら飯豊があたった。ただし、「面接調査」の実施については、渡辺のほか、次の人々の協力があつた。敬称略。肩書は当時のもの。

菅野 宏	(福島大学教授)	渡辺義夫	(福島大学講師)
大橋勝男	(新潟大学助手)	中松竹雄	(東京教育大大学院生)
竹野克雄	(福島大学生)		

また、「面接調査」「アンケート調査」について、現地の多くの方々に助力をいただいた。そのおもなものをあげると次のとおり。

福島県教育委員会、保原町役場（住民課）、保原町教育委員会（教育長、和字慶良春、滝沢由雄）、保原町中学校（長、佐藤善右衛門、酒井義正）、保原町保原公民館（高橋好主事）、保原町富成公民館（二階堂有夫主事）、保原町保原郵便局、電々公社保原電話局

福島市教育委員会、福島市役所茂庭支所、茂庭中学校（長、尾形藤治郎）、茂庭小学校（長、丑込幸男）、福島営林署茂庭林区

なお、「面接調査」「アンケート調査」と「方言体系の調査」を通じて、次の方々から、個人的に助力をいただいた。敬称略。

保原町——渡辺治作・渡辺サキ・渡辺昭治・笠原喜一・菅野惣兵衛・大橋太蔵・渡辺吉五郎・高松ヤス・小林栄重・津田カツエ他

茂庭集落——鈴木正記・小関芳之助・佐藤進・佐藤大四郎・山田広美・今野政雄・小関ウン・鈴木正・山田政行・鈴木ハナ他

なお、これらの調査を通じて、研究補助員、東郷はるみ（昭和40～43）、中島美智子（昭和43～46）、米田容子（昭和46～47）、角田令子（昭和47～）がすべての作業を助けた。

また、集計・整理・浄書等の作業については次の人々の助力があつた。

小野富士子、藪好子、柴田妙子（旧姓山口）、與那覇政喜、中松竹雄、谷藤保雄、道場優、木本輝子（旧姓平島）、石井千鶴子（旧姓川田）、松田緑（旧姓奥山）、山下美智子、矢崎永子、成田邦子、大沢千賀子、井上洋子、徳永洋子、石杜典子、赤池文子

おねがい 1971. 3

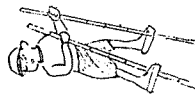
国立国語研究所

国立国語研究所のことは調査に御協力をおねがいます。

a. お名前は	b. 男	c. お生れになった年は
d. 住所は	女	明治・大正・昭和 年(オ)
e. お仕事は	現在	前職
f. お生まれの所は	在	実
g. 小学校は		
h. 高校は		
i. 最後に卒業の学校は		
j. 1. その土地に住んだことは	どこに	オ～オ
k. 役員をなさったことは		
1. お父さんの出身地は	1. 旧保原町	2.
m. お母さんの出身地は	1. 旧保原町	2.

1. あなたが小学校時代の親しい友だちと、土地のことばでお話しになるとき、どんな言葉をお使いになりますか。具体的に次の項目についてお答え下さい。

1.01 子どものとき、長い竹や木に短い板きねなどを結びつけて乗って歩いたものを何と言いますか。



お答えと一致するものを○でかこんで下さい。
一致するものがない場合は「その他」の()
の中に具体的に書きこんで下さい。

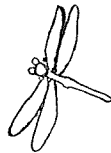
- ①タガハシ
- ②タガアジ
- ③タゲンマ
- ④タケウマ
- ⑤その他()

1.02 子どもの遊びのとき、片足をあげ、もう一方の片足だけでびよびよんとぶくことを何と言いますか。



- ①ヒッコンケン
- ②スッコンケン
- ③カダアジ
- ④カタアジトビ
- ⑤その他()

1.03 夏から秋にかけてたくさん出でくる虫で、子どもが好んでつかまえます。大きいのも小さいのもありますが、全体をまとめていうと何と言いますか。



- ①アゲス
- ②アゲスボンボ
- ③トンボ
- ④その他()

- 1.04 前足が草を刈るかまに似ている虫で、おこるとそれを振りあげて向かってきます。小さな虫をとらえて食べます。何と言いますか。

①エボムシ ②カマキリ
③その他 ()



- 1.05 一人で留守番などをし、なにくつつして手持ぶさなのことを何と言いますか。

①トゼンダ ②ヌグネー ③タイクツダ
④その他 ()

- 1.06 そういうとき「トゼンダ」ということばを使いませんか。

①言うことがある ②言わないが、きけばわかる
③ぜんぜんしらない ④その他 ()

- 1.07 大勢の人の前で話をしると言われて恥しかつたという場合に、「恥しかった」ということを何と言いますか。

①ジョーシカッタ ②カッコワリガッタ ③ハズカシカッタ
④その他 ()

- 1.08 二階から階段を降りて来ることを何と言いますか。

①オジデタル ②オツチタル ③オリデタル
④その他 ()

- 1.09 近いうちに東京に行く予定をしているとき、その「予定している」ということを何と言いますか。

①ヨサンシテイル ②カンジョーシテイル
③ヨテーシテイル ④その他 ()

- 1.10 山がつづいていいるとき、奥の方の山を何と言いますか。

①イリヤマ、イリノヤマ ②オクヤマ、オクノヤマ
③その他 ()

- 2.01 ハーッと吐くとき出てくる「息」と電車の停車場の「駅」とは発音が同じですか。

①同じである ②ふつりは同じだが区別して発音することもある
③ふつりは区別しているが時にはまぎれることもある
④いつでも区別している ⑤その他 ()

- 2.02 果物の「梨」と野菜の「茄子」とは発音が同じですか。

①同じである ②ふつりは同じだが区別して発音することもある
③ふつりは区別しているが時にはまぎれることもある
④いつでも区別している ⑤その他 ()

- 2.03 冬に空から白いものが降ってきます。その「雪」のことを何と言いますか。

①ズギ ②ユギ ③ユキ
④その他 ()

- 2.04 女の人がお化粧をするとき、顔につける白い粉のことを何と言いますか。

①オッシー ②オッシュュー ③オスロイ ④オシロイ
⑤その他 ()

- 2.05 日本の酒類の中で一番強いのは何と言いますか。蒸留してつくります。

①ソーズ ②ショーズ ③ソージュ
④ソーージュ ⑤ショージュ
⑥その他 ()

2.06 弓で矢を射てあて「的」を何と言いますか。

- ①マド ②マト

③その他 ()



2.07 その「的」と部屋の「窓」とは発音が同じですか。

- ①同じである ②ふつうは同じだが区別することもある
③ふつうは区別しているが時にはまぎれることもある
④いつでも区別している
⑤その他 ()

2.08 お正月などに料理をつめておく箱を何と言いますか。

- ①ズーバゴ ②ジューバゴ ③ジューバコ

④その他 ()

2.09 夏たくさん出てきて食べ物の上などにたかかりますが、その蛹のことを「へー」と言うことがありますか。

- ①「へー」ということがある。

「その発音は、家の周囲を囲んでいる蟻（へーガサ・へー）の場合の「へー」と発音が同じですか。

- ④同じである ⑤違う

⑥その他 ()

- ②「へー」とは言わない。

[では、何と言いますか]

- ④ヘー ⑤ヘエ

⑥その他 ()

2.10 「果知事」という場合の「知事」と「地図」とは発音が同じになることがありますか。

- ①同じである ②ふつうは同じだが区別して発音することもある
③ふつうは区別しているが時にはまぎれることもある
④いつでも区別している
⑤その他 ()

3.01 「近いうちに福島に行かなければならない」というとき「行かなければならない」という部分をどう言いますか。

- ①イガネグレナナンネー ②イガネッカナンネー
③イガナッカナンネー ④イガナナンネー
⑤イガンナンネー ⑥イガナッキャナンネー
⑦イガナクテナナンネー ⑧イガナクレバナナンネー
⑨その他 ()

3.02 「あの人が行くなら私も行きたいなあ」というとき、「行くなら」という部分をどう言いますか。

- ①イグゴッタラ ②イグゴッテ ③イグゴッチャ
④イグンダラ ⑤イクナラ
⑥その他 ()

3.03 「映画を見に行く」というとき、「見に行く」という部分をどう言いますか。

- ①ミサイダ ②ミニイク
③その他 ()

3.04 「福島へなら今からでも行って来られるだろう」というとき、「行って来られるだろう」の部分をどう言いますか。

- ①イチコロラレッピー ②イチコロラレンベー
③イチコロラレルゴロー
④その他 ()

3.05 「あんなところにはもう行くまい」というとき、「行くまい」の部分
をどう言いますか。

- ①イガネーペー ②イグメー ③イクマイ
④その他 ()

3.06 「これはおれの帽子だ」というとき、「おれの帽子だ」の部分
をどう言いますか。

- ①オレガチャップダ ②オレノチャップダ
③オレガボージダ ④オレノボージダ
⑤ワタシノボージダ
⑥その他 ()

3.07 「うちの子どもにも高校の試験を受けさせた」というとき、「受けさ
せた」の部分はどう言いますか。

- ①ウケラシダ ②ウケラセタ ③ウケサシタ
④ウケサセタ
⑤その他 ()

3.08 「おれさえできないのに、お前にできるもんか」というとき、「おれ
さえできない」の部分はどう言いますか。

- ①オレセーガデネー ②オレセーモデネー ③オレセーガデキネー
④オレセーモデキネー ⑤オレセーデキネー ⑥オレサエデキネー
⑦その他 ()

3.09 「あいつがおれをたいた」というとき、「おれを」の部分はどう言
いますか。

- ①オレバ ②オレドゴ ③オレントゴ
④オレゴド ⑤オレ ⑥オレオ
⑦その他 ()

3.10 「こっちの山とあっちの山とどちらが高いだらうか」というとき、
「高いだらう」の部分はどう言いますか。

- ①タカカンペー ②タケーカンペー ③タケーペー
④タカイペー ⑤タカイダロー
⑥その他 ()

3.11 道で小学校時代の先生に逢って、「いい天気ですね」とあいさつする
とき、どう言いますか。

- ①イーテンキダナエ ②イーテンキダナシ
③イーテンキダナン ④イーテンキデスネ
⑤その他 ()

3.12 小学校時代の先生があなたの家に来られたとき「さあ、お上がり下さ
い」という場合にどう言いますか。

- ①アガラシヨ ②オアガナンシヨ ③アガツクランシヨ
④アガツクナナンシヨ ⑤アガラシエー ⑥オアガリタダサイ
⑦その他 ()

3.13 小学校時代の先生の持っている鑑を見て「先生がいたのですか」と
いう場合に、その「かいたのですか」の部分はどう言いますか。

- ①カイタノカエ ②カイタノカシ ③カカッタノカイ
④カカッタノカシ ⑤カイタノデスカ
⑥オカキニナッタノデスカ
⑦その他 ()

3.14 先生に向かって「何時の汽車に乗るか」とたずねるとき、「ナンジノ
キシヤニオリイタシマスカ」と言ったら、おかしいと思いませんか。

- ①ことはの使い方としておかしくない
②おかしい (その理由を次の中からあげて下さい)
③ていねいすぎる ④東京ふうで、この地域では便わない
⑤ことはの使い方がまちがっている
⑥先生を尊敬していることにならない
⑦その他 ()

3.15 じぶんの父親に向かって「そりですね、お父さん」といとき、その「そりですね」の部分をもとていいますか。

- ①ソ-ダナエ ②ホ-ダナエ ③ソ-ダナン
④ホ-ダナン ⑤ソ-ダナシ ⑥ホ-ダナシ
⑦その他 ()

4.01 あなたの小学生のころ、あなたの「お父さん」をよぶとき、どう言いましたか。

- ①チャン ②ツ-ツツツ ③トオツツツ
④オトツツツ ⑤ト-チャン ⑥オト-サン
⑦その他 ()

4.02 あなたの「お母さん」をよぶときはどう言いましたか。

- ①オッカヤン ②カッカヤン ③オッカサン ④カーチャン
⑤その他 ()

4.03 生れたばかりの「赤ん坊」のことを何と言いますか。

- ①オンボコ ②オボッコ ③オットロ ④オドッコ
⑤アカッコ ⑥アカッペ
⑦その他 ()

4.04 昔、赤ん坊を入れておく、わらでんだかこのよりなものがありました。何と言いましたか。

- ①エツコ ②エチコ ③知らない
④その他 ()

4.05 昔、いろいろがあつたとき、その家の主人の坐る場所を何と言いましたか。

- ①ヨコザ ②知らない
③その他 ()

4.06 昔、ラッパをふいて、乗台馬車を通りました。何と言いましたか。

- ①トチバシヤ ②知らない
③その他 ()

4.07 忙しいときなど、昼飯と夕飯との間に簡単な食事をすることがありますが、何と言いますか。

- ①コビル ②コビリ ③コジュ-ーハン ④オヤツ
⑤その他 ()

4.08 煙などを動かすことを何と言いますか。

- ①ウナウ ②シンコー ③タガヤス
④その他 ()

4.09 田植えをする前に耕した田に水をかけ、一番最初にならすことを何と言いますか。

- ①アラクレ ②アラカキ ③アラシロ ④知らない
⑤その他 ()

4.10 昔、麦や豆の芽を板や穂からおとすときふりまわしててたく体がありました。が、何と言いますか。

- ①フリウジバエ ②フリウジボー ③知らない
④その他 ()

4.11 「フライバシー」ということはをふいにになることがありますか。

- ①使うことがある ②使われないが聞けばわかる
③聞いたことがない
④その他 ()

II 伊達郡方言の特徴

1. 音 韻

1.1 音 素

音素の種類と数は次のとおり。

母音音素(V) i, e, ε, a, o, u

半母音音素(S) j, w

子音音素(C) p, b, m, t, d, c, s, z, r, n, k, g, h, '

モーラ音素(M) N, Q, R

1.2 モーラ

モーラを表示すれば、次のとおり。

'u	'o	'a	'ε	'e		ju	jo	ja	jε	(je)	wa	wε
pu	po	pa	pε	pe	pi	pju	pjo	pja				
bu	bo	ba	bε	be	bi	bju	bjo	bja				
mu	mo	ma	mε	me	mi	mju	mjo	mja				
	to	ta	tε	te								
	do	da	dε	de								
cu	co	ca	cε	ce			cjo	cja	cjε	cje		
su	so	sa	sε	se			sjo	sja	sje	sje		
zu	zo	za	zε	ze			zjo	zja		zje		
ru	ro	ra	rε	re	ri	rju	rjo	rja				
nu	no	na	nε	ne	ni	nju	njo	nja	nje			
ku	ko	ka	kε	ke	ki	kju	(kjo)	kja)			kwa	
gu	go	ga	gε	ge	gi	gju	gjo	gja				
hu	ho	ha	hε	he	hi	hju	hjo	hja				
N	Q	R										

1.3 特徴の若干について

この方言の音声・音韻について注目すべきことのいくつかを述べる。

(1) この地区の高年者の音韻体系においては、共通語のような /'i/, /'e/ の区別がない。「犬」は多くの場合、[ĩnú] のように発音されるが、時には [ɛnú] のようにも発音される。「煙突」は [ɛntodzú] と [ĩntodzú] と発音される。概して、前後に広母音のあるときには [e] に近く、狭母音のあるときは [ĩ] に近い発音であることが多いが、それも比較的多いというだけで、絶対的ではない。例、[uĩ] <上>, [ũnúĩstũ] <鶯>, [ĩbĩ] <蝦>, [ĩgĩ] <駅、息>, [ɛma] <今>, [ɛga] <いか>, [so:danaɛ] <そうですね>

したがって、モーラ表に /'e/ をたてたのは便宜的な処置である。(e ⇄ i) と表示した方が実状に沿うかもしれない。あるいは、e, i の中間の位置にモーラ /'I/ をたてた方がよいかもしれない。

ただし、ごく一部の高年者は、「襟」「蝦」「枝」「家」等を/je/[je]と発音して、/e/との区別を持っている。

(2) また、/ci/、/cju/のモーラを欠く。共通語のような/cu/、/ci/、/cju/の区別がない。音声的事実に徴しても/cu/に統合されていると言える（ただし、これは高年者の場合であって、最近では、特に青年では、これらの区別を持っている者が多い。高年者でも一部の教養ある人々は、これらの区別を持っている）。例、[tsütsü]〈土〉、[tsü~dzü]〈地図、知事〉、[tsü:sa]〈注射〉、[tsü:ŋagü]〈中学、通学〉

(3) 同様に/si/、/sju/のモーラを欠く。すなわち、/su/、/si/、/sju/の区別がない。音声的事実に徴すれば、/su/に統合されていると言える（ただし、これも高年者の場合である）。例、[nasü]〈茄子、梨〉、[süka]〈鹿〉、[süta]〈下〉、[süsü]〈鮭、煤〉、[süko:]〈手工〉、[stü~dz~üdzü]〈手術〉

(4) 同様に/zi/、/zju/のモーラを欠く。すなわち/zu/、/zi/、/zju/の区別がない。音声的事実に徴すれば、/zu/に統合されていると言える（ただし、これも高年層の場合である）。例、[dzü]〈字〉、[dzügaN]〈時間〉、[dzüŋa]〈図画〉、[dzüsüN]〈地震〉、[dzü:bago]〈重箱〉、[dzü:südzü]〈十七〉

(5) /-k-/、/-t-/は、一般に濁音化していて[-g-]、[-d-]であることが多い。例、[kagi]〈柿〉、[kagü]〈書く〉、[kage]〈書け〉、[saga]〈坂〉、[hago]〈箱〉、[kada]〈肩〉、[made]〈待て〉、[mado]〈的〉、[kodo]〈事〉

(6) /-cu/、/-cjo/、/-cja/も一般に濁音化していて[-dzü]、[-djo]、[-dja]であることが多い。例、[sadzü]〈札〉、[madzü]〈松、町〉、[tedzü]〈鉄〉、[küdzü]〈口、靴〉、[jo:dzü]〈焼酎〉、[todzü:]〈途中〉、[odja]〈お茶〉、[odjo:sümoN]〈お調子もの〉

ただし、/-co/、/-ca/、/-ce/、/-ce/、/-cje/、/-cje/等が濁音化している例は見出せない。

(7) /-g-/、/-d-/、/-z-/、/-b-/は鼻音化して[-ŋ-]、[-d-]、[-z-]、[-b-]であることが多い。例、[kaŋi]〈鍵〉、[haŋe]〈禿〉、[süŋü]〈すぐ〉、[küŋi]〈釘〉、[miŋi]〈右〉、[tsüŋa:]〈違う〉、[ha~da]〈肌〉、[ma~do]〈窓〉、[ka~do]〈角〉、[go~dzü:]〈五十〉、[ka~dzi]〈火事〉、[ka~ze]〈風〉、[wa~dzawa~dza]〈わざわざ〉、[dzü:~dzü]〈十時〉、[sü~baragü]〈しばらく〉、[djo:~bü]〈丈夫〉、[no~berü]〈延べる〉、[ta~bago]〈たばこ〉

この(1)~(7)の特徴は東北方言一般と地盤を共通にするものであると思う。（ただし、北奥方言では、(2)~(4)の場合に、それぞれ/ci/、/si/、/zi/に統合されていると認めるべきであるし、(6)の場合も/-cu/のかわりに/-ci/をたてるべきである。）

また、(5)~(7)の特徴は必ずしも語を単位とした、語中・語尾にある場合だけではない。いわゆる文節が、その単位にほぼ該当する。例、[so:ga]〈そうか〉、[ka:gara]〈買うから〉、[naedemo]〈泣いても〉、[kagütogōi]〈書く時〉、[jomütugodo]〈読む事〉

さて、(5)~(7)については、やや問題がある。(5)~(6)（語中・語尾のカ行音・タ行音の濁音化）は高年者一般に通じる特徴であるが、次のような場合には、濁音化していないのが普通である。

i 促音の次にある場合。例、[sakkī]〈さっき〉、[mikka]〈三日〉、[tokka]〈取るか〉、[jükkkü-ri]〈ゆっくり〉、[sükke:]〈酸っぱい〉、[mattsü]〈マッチ〉、[katte]〈台所〉、[jatto]〈やっと〉、

[ĩtsũ:]<越中>, [hattʃo:]<八丁>

ii 撥音の次にある場合。例, [aŋko]<あんこ>, [kankara]<あきかん>, [honko]<ほんとの勝負>, [çikkonken]<片足飛>, [sũnke:]<狂人>, [honkĩ]<本気>, [ĩnkjo]<隠居>, [ɛntodzũ]<煙突>, [anta]<あなた>, [ũnten]<運転>, [bantsũ]<番地>, [nantonagũ]<なんとなく>

この地域では、これはかなりはっきりした特徴であり、促音・撥音の次にある /-k-/、/-t-/ が濁音化している例はみつからなかった。のみならず、次のような例さえある。例, [wantsũka]<わずか>, [mĩntsũke]<短い>, [hodonto]<ほとんど>。これらは、前2例は(7)の特徴により、[wa˜dzũga][mĩ˜dzũge] が予想されるところであり、事実、このような形もまれには聞かれるが、多くは、[wantsũka][mĩntsũke] が用いられている。これらはそれぞれ

[wa˜dzũga] → [wandzũga] → [wantsũka]

[mĩ˜dzũge] → [mĩndzũge] → [mĩntsũke]

のように変わったものと推測される。もちろん、この方言では、撥音の次に、/-d-/、/-z-/ 等が位置していることもある。例, [janda]<いやだ>, [kondo]<今度>, [nande]<何で>, [kandza sũ]<かんざし>, [andzen]<安全>, [kandzũ]<感じ>, [hondzon]<本尊>

したがって [wandzũga] 等がこの方言に存在しつづけてもいいと思われるのに [wantsũka] 等に変ったのは、やはり撥音の次の /-t-/、/-cu-/ 等が濁音化しないという特徴と関連があるとみるべきであろう。同様に [hodonto]<ほとんど> の場合もこの特徴に関連があらう。この地域の人、かなり共通語が話せるようになって、[hodonto] を使用する人が多く、また [hodonto] を共通語形と思っている人さえいるのである。このほか、[santsũkan]<三時間>, [d3onta]<上手だ>, [ĩtagonte]<行ったのなら>, なども同様な例と考えられる。最後の例の gonte の出自は「事で」あらう。

これは撥音の場合だけではない。促音の次にある場合にも同様な例がある。例, [tottso]<取るぞ>, [kũttso]<来るぞ>, [sũttso]<するぞ>, [attso]<あるぞ>, [ka:gotta]<買う事だ>

iii 擬声語・擬態語の場合。[kĩn kĩn]<きんきん>, [kĩra kĩa]<きらきら>, [kũri kũri]<くりくり>, [koso koso]<こそこそ>, [katsũ katsũ]<かちかち>, [kata kata]<かたかた>, [(ga tʃa gatʃa)<がちゃがちゃ>, [gasa gasa]<がさがさ>, [gũra gũra]<ぐらぐら>), [dota dota]<どたどた>, [dere dere]<でれでれ>

iv 無声化した母音の前または後にある場合。例, [kĩkanɛ]<聞かない>, [kũkĩ]<茎>, [kĩkũ]<菊、聞く>, [sũkatakɛ]<しかたがない>, [sũkerũ]<しける>, [tsũkara]<力>, [sũta]<下>, [xũta]<蓋>, [kĩte]<来て>, [çĩto]<人>, [kĩtsũne]<狐>, [sũwakũtʃa]<しわくちゃ>, [tsũkĩʃo:]<畜生>, [bũtsũkarũ]<ぶつかる>, [tsũtsũkoro]<土くれ>

この無声化は、多く、「無声子音+狭母音+無声子音+広母音」の場合に見られる現象であるが、時には「無声子音+狭母音+無声子音+狭母音」の場合にも見られることは前掲の例によっても知ることができる。ただし、特に、後者の場合には必ずしも無声化しているとは限らない。[kĩtsũne]<狐> は同じ人でも時には [kĩdzũne] と言うこともある。「茎」「菊」等も同じ。

この場合にも、本来有声音であるものが無声化していると認められるものがある。例, [ĩtsũ-

tsũkan)〈一時間〉, [nĩtsũkan)〈二時間〉

v 比較的新しく使用されるようになった外来語や漢語の場合。例, [tjo:kæ)〈町会〉, [se:kakũ)〈性格〉, [ke:ken)〈経験〉, [saeketsũ)〈裁決〉, [so ko:)〈素行〉, [saeten)〈祭典〉, [taete kĩ)〈大敵〉, [hataN)〈破綻〉, [bato:)〈罵倒〉, [xũ:tẽ:)〈風体〉, [mĩte:)〈未定〉, [mũtonDzakũ)〈無頓着〉, [haekara)〈ハイカラ〉

ただし、古くから使用され定着した漢語等はこの限りでない。例, [se:sagũ)〈政策〉, [ĩkagũ)〈四角〉, [kĩogũ)〈記憶〉, [tẽ:go)〈太鼓〉, [tedzũ)〈鉄〉, [ade:)〈舍弟〉, [tabago)〈煙草〉

ただし、濁音化する語と、濁音化しない語との間に明確な線は引きにくい。語によっては濁音化していたり、していなかったりするものもある。

このように(5)~(6)の特徴は例外規定があるばかりでなく、最近では、共通語の普及とともに、この特徴を失いつつある人もあり、また同一人でも、時により、場合により、同一語をも濁音化して使用したり、濁音化させずに使用したりする。柿は [kakĩ) とも [kagĩ) とも言われる。「月」は [tsũkĩ)(tsũgĩ) ともに用いられ、「旗」は [hata)(hada) ともに用いられる。しかし、「語中・語尾」の [-k-)[-t-)[-tsũ) 等と [-g-)[-d-)[-dzũ) 等との間に音韻論的に対立を示すようなことはない。したがって、これらは音韻としては /-k-/、/-t-/、/-cu/ と認めてよい。

また(7) (いわゆる「語中・語尾」の「ガ行音・ダ行音・ザ行音・バ行音」の鼻音化)は、次のような性質がある。「ガ行音」の場合は [-ŋ-) であって、これは [-k-)[-g-) と音韻論的な対立がある。例, [kaŋĩ)〈鍵〉: [kakĩ)(kagĩ)〈柿〉, [küŋĩ)〈釘〉: [küŋĩ)(küŋĩ)〈茎〉, [kaŋũ)〈家具〉: [kakũ)(kagũ)〈角あるいは書く〉

したがって、[-ŋ-) は音韻として /-g-/ と認めてよい。すなわち、[g-)[-ŋ-) は音素 /g/ に該当し、[k-)[-k-)[-g-) は音素 /k/ に該当する。

ところが「ダ行音」の場合はやや複雑になる。「窓」は [ma~do) とも [mado) とも言われる。「的」は [mato) とも [mado) とも言われる。「肌」は [ha~da) とも [hada) とも言われ、「旗」は [hata) とも [hada) とも言われる。すなわち [-d-) は [-t-) と交替し得るものと、[-~d-) と交替し得るものがある。しかし、この場合にも [-t-), [-d-), [-~d-) の三つが、それぞれ音韻論的対立を示しているということはない。したがって、/-t-/ と /-d-/ とにまとめることができる。

「ザ行音」「バ行音」の場合は、たとえば「風」は [ka~ze)(ka~dze)(kaze)(kadze) 等と言われる。「帯」は [o~bĩ) とも [obĩ) とも言われる。しかし、[-z-)[-~z-) 等の間に音韻論的対立を示すことはない。また、[-b-)[-~b-) の間も対立を示すことがない。これらは、それぞれ、/-z-/、/-b-/ と認めることができよう。

(8) /ɛ:/ は共通語のアイおよびアエ連母音に対応するものであり、多く、長音の姿で用いられる。これは /ɛ:/ を含むモーラ /'ɛ/, /pɛ/, /bɛ/……に通じて、そう言える。例, [ɛ:dzũ)〈会津〉, [ɛ:te)〈相手〉, [ke:kko)〈貝〉, [sũkke:)〈酸っぱい〉, [nɛ:)〈苗・無い〉, [mɛ:)〈前・舞い・繭〉, [tɛ:sedzũ)〈大切〉, [dɛ:gũ)〈大工〉, [küntse:)〈下さい〉, [sɛ:xũ)〈さいふ〉, [rɛ:nɛn)〈来年〉, [hɛ:)〈蠅〉 (参考 [he:)〈塀〉)

これは和語あるいは日常生活語として定着した漢語にみられるもので、それ以外の外来語や漢

語にはアエ連母音が用いられる。例, [kaesan]〈解散〉, [naekagütü]〈内閣〉, [dzaesan]〈財産〉, [baekütü]〈バイク〉, また和語でも次のようなものはアエ連母音が用いられる。例, [so: kae]〈そうですか〉, [so:da nae]〈そうですね〉

しかし、これは、しだいに失われつつある。高年層でも助動詞の neε〈ない〉等は、現実には、しばしば [kone:]〈来ない〉, [ogīne:]〈起きない〉のように [ne:] の姿で表われている。特に青年層では一般に /ε/ は失われている。

(9) /je/, /we/ 等も共通語のアイおよびアエ連母音を含む音節に対応していることは同様である。例, [haje:]〈早い〉, [baje:]〈場合〉, [küümije:]〈組合〉, [je:da]〈焼いた〉, [maje:]〈弁償せよ〉, [kowe:]〈疲れている〉, [sawε:da]〈騒いだ〉, [kawε:da]〈乾いた〉, [wε:da]〈沸いた〉

/cje/, /sje/, /nje/ は特殊に限られた表現の場合に表われる。/cje/ は, [küünt{ε:}]〈下さい〉のほか [tott{ε:}]〈取りたい〉, [hanatt{ε:}]〈はなれたい〉等のように、共通語の「～リタイ」「～レタイ」に対応する場合に表われる。

/sje/ は [kaga{ε:}]〈お書きなさい〉, [noma{ε:}]〈お飲みなさい〉, [mīra{ε:}]〈御覧なさい〉のような場合に表われる。いわゆる「シャル敬語」の命令形である。

/nje/ は, [tañnje]〈足りない〉, [tonnje:]〈取れない〉のように、共通語の「～リナイ」「～レナイ」に対応する場合に表われる。

しかし、この /cje/, /sje/, /nje/ はしだいに /cje/, /sje/, /nje/ に統合移行しつつある。特に /nje/ は現実には [üñnje:]〈売れない〉のような形がかなり行なわれるし、青年層の場合には [so:gamōjñni]〈そうかもしれない〉, [küñni]〈くれない〉等と言う人もある。

(10) /cje/, /sje/, /zje/ も限られた場合に表われる。

/cje/ の例, [nañatt{e}]〈流れて〉, [tott{e}]〈取れて〉, [abatt{e}]〈暴れて〉, [mīratt{e}]〈見られて〉, [koratt{e}]〈来られて〉, [katt{e}]〈借りて〉,

すなわち、共通語の「～レテ」「～リテ」に対応する場合である。

/sje/ の例, [omoje:]〈面白い〉, [o{je:}]〈白粉〉

いずれも通時論的には [-jroi] → [-jioi] → [-joi] → [-je:] のように変化をしたものと考えられる。ただし「白い」に対応する形は [stüroe] 等であり, [je:] 等ではない。「しろかき」は [sürokagī][jokagī][jokkagī] 等。

/zje/ の例, [kondze]〈これで〉, [sondze]〈それで〉, [andze]〈あれで〉

(11) /ki/, /kju/, /kjo/, /kja/ はかなり口蓋化していることが多い。しばしば [cī][cjü][cjo][cja], [tjī][tjü][tjo][tja] である人さえある。しかし、, 共通語のチ・チュに対応する音はこの方言では, [tsü] であるから, 「菊」と「地区」はそれぞれ [tjīkū] と [tsjūkū] のようであって、紛れることはない。ただし、/kjo/, /kja/ の場合はこれと異なる。すなわち、共通語のチョ・チャはこの方言でも [tjo][tja] であるから, 「協会」と「町会」とはともに [tjo:kae] と発音され, 「客席」と「着席」とはともに [tjaküsekī] と発音されて紛れることがある。すなわち、一部の人は /kjo/, /kja/ のモーラを欠いている。しかし、多くの人は口蓋化した [-kj-] を用いて /kjo/ と /cjo/ とを区別し, /kja/ と /cja/ とを区別する。

/ki/ の例, [kīmono]〈着物〉, [kīke:]〈機械〉, [kīgütü]〈聞く〉, [kīkanja]〈機関車〉。一部の人は

[tʃimono][tʃi:ke:] 等のように発音する。が、音韻としては/ki/である。

/kju/の例, [kʲü:ko:]<急行>, [kʲü:kae]<九回>, [kʲü:dʒo:]<皇居>。一部の人は [tʃü:ko:] [tʃü:kae] のように発音するが、音韻としては/kju/である。→参照(15)

/kjo/の例, [kjo:]<今日>, [kjo:kae]<協会>, [kjo:igü] <教育>。一部の人は [tʃo:] [tʃo:kae] のようになっていて、このモーラを欠く。

/kja/の例, [kʲagü]<客>, [kʲahan]<脚絆>。一部の人は [tʃagü] [tʃahan] のようになっていて、このモーラを欠く。

/ki/, /kju/, /kjo/, /kja/が「語中・語尾」にある時は濁音化していることはいうまでもないが、その際にも以上に述べた性質は失われない。

すなわち, [kagi][kaği][kadʒi]<柿>, [kogiü:] [kodʒü:]<呼吸> 等の [-dʒi] [-dʒü] は、それぞれ/-ki/および/-kju/のアロフォーンであると認められる。

また, /-kjo/, /-kja/ も濁音化していると同時に口蓋化もしている。一部の人は、たとえば, [dodʒo:]<度胸>, [odʒagu:]<お客> のように発音していて、これらのモーラを欠く。

(12) /se/はしばしば口蓋化している。例, [ʃe:to]<生徒>, [ʃe:ŋse:]<先生>, [ʃenaga]<背中>

(13) /ze/もしばしば口蓋化している。例, [dʒe:ni]<銭>, [ka~dʒe]<風>, [dʒe:nbü:]<全部>

(14) 共通語の/awa/に対応して、しばしば [-a:] が表われる。例, [ta:ra]<俵>, [ka:]<川>, [ka:ra]<川原>, [sa:rü:]<さわる>, [a:]<粟>, [ka:nε:]<買わない>

(15) その他、いわゆる拗音の直音化と言われるものがある。[gi:nī:]<牛乳>, [ki:ko:]<急行>, [sastün]<写真>, [dzündzo]<順序> 等といういい方は、現在では高年層の人でもあまり口にしなくなっているようである。

(16) 共通語の/-r-/に対応する音は、しばしば脱落、融合していると見なせる。例, [oʃje:]<白粉>, [haʃʃa]<柱>, [korannje:]<来られない>, [naɣattje]<流れて>

(17) /kwa/は [kwanügi]<桑の木>, [kwanne:]<食われない> が聞かれただけである。「火事」「菓子」「会議」「運動会」等には [ka] が表われる。

(18) 共通語の/ju/に対応して、[zü] の表われていることがある。例, [zügi]<雪>, [zü:nbe]<昨夜>, [zübi]<指>

2. 文 法

2.1 動詞の活用

kaku <書く> kaku <書く> が用法や接続する語に応じて、どのように語形を変えるかをみると、次のようになる。

kaka — kakareru (受身・可能ほか), kakaseru (使役), kakanεR (打消), kaka(Q)sjeR (お書きなさい, 尊敬), kakansjo (お書きなさい, 尊敬),

kaki — kaki (中止法), kakiteR (希望), kakijasui <書きやすい>, kakizurae <書きにくい>, kakahadazu <書きはじめる>, kakikakeru <書きかける>, okakinansjo (お書きなさい, 尊敬), kakiwa sunεR <書きはしない>,

kae — kaete <書いて>, (kaeteru 書いている, kaetekara jasumu 書いてから休む), kaeta

(完了), kaetaqke <書いたっけ>, kaetari (kaetari jon dari suru 書いたり, 読んだりする),
kaku — kaku (言い切り), kaku nar (感歎, nma ku kakuna r 上手に書くなあ), kakumiterda
<書くようだ>, kakuqke <書いた(っけ)>, kakudake (kakudake da 書くだけだ), kakubakari
(kakubakari da 書くばかりだ), kakusuka (kakusuka ne r 書くしかない), kaku hito <書
く人>, kakuto (引用, kakuto omor 書くと思う), kakukentomo <書くけれども>, kaku-
kara <書くから>, kaku ka <書くか>, kaku zo <書くぞ>, kaku toki <書く時>, kakuber (意
志・推量), kakugoqtara (書くなら, 仮定), kakuganni <書くのに>, kakuna (書くな, 禁
止), kakudara (書くなら, 仮定),

kake — kake (言い切り, 命令), kakeba <書けば>

同様に, okiru <起きる>, kuru <来る> についてみると次のようになる。

okiru <起きる> の例

oki — okirareru (受身・可能ほか), okiraseru (使役), okine r (打消), okira(Q) sje r・okira(Q) se r
(起きなさい, 尊敬), okiransjo (起きなさい, 尊敬), oki (中止法), okite r (起きたい, 希
望), okijasue <起きやすい>, okinikue <起きにくい>, okihadacu <起きはじめる>, okikakeru
<起きかける>, okinansjo (お起きなさい, 尊敬), okiwa suner <起きはしない>, okite <起
きて>, okitari <起きたり>, okita <起きた>, okitaqke <起きたっけ>,

okiru — 言い切り, okiru jo <起きるよ>, okiru nar (感歎), okirumiterda <起きるようだ>,
okiruqke <起きた(っけ)>, okirudake <起きるだけ>, okirubakari <起きるばかり>, okirusuka
<起きるしか>, okiru hito <起きる人>,

oki — okiqto (起きると, okiqto omor 起きると思う), okiqkentomo <起きるけれども>,
okiqkara <起きるから>, okiq ka <起きるか>, okiq co <起きるぞ>, okiq toki <起きる時>,
okiqper (起きよう, 起きるだろう, 意志・推量), okiqkoqtara (起きるなら, 仮定),

okin — okinna (起きるな, 禁止), okinganni <起きるのに>, okindara (起きるなら, 仮定),

okire — okireba (起きれば, okireba erganni 起きればいいのに),

okiro — okiro (命令, 言い切り),

kuru <来る> の例

ko — korareru (受身・可能ほか), koraseru (使役), kone r (打消), kora(Q) se r・kora(Q) sje r
(おいでなさい, 尊敬), koransjo (おいでなさい, 尊敬),

ki — ki (中止法), kite r (希望), kijasue <来やすい>, kinikue <来にくい>, kihadacu <来
はじめる>, kikakeru <来かける>, kinansjo (来なさい, 尊敬), kiwa suner <来はしない>,
kite <来て>, kitari <来たり>, kita <来た>,

kuru — kuru (言い切り), kuru jo <来るよ>, kuru nar (感歎), kurumiterda <来るようだ>,
kuruqke <来た(っけ)>, kurudake <来るだけ>, kurubakari <来るばかり>, kurusuka <来るし
か>, kuru hito <来る人>,

kuq — kuqto <来ると>, kuqto omor 来ると思う>, kuqkentomo <来るけれども>, kuq ka
<来るか>, kuqkara <来るから>, kuq co <来るぞ>, kuq toki <来る時>, kuqper (来よう・来
るだろう, 意志・推量), kuqkoqtara (来るなら, 仮定),

kun —— kunna (来るな, 禁止), kungaanni <来るのに>, kundara (来るなら, 仮定),
kure —— kureba (来れば, kureba jokaqta 来ればよかった),
kor —— kor (命令, 言い切り),

これによってみると, kaku <書く>には kaka, kaki, kae, kaku, kake の5形があり, okiru <起きる>には oki, okiru, okiQ, okiN, okire, okiro の6形があり, kuru <来る>には ko, ki, kuru, kuQ, kun, kure, kor の7形がある。okiru と kuru とを比較してみると, okiru の「oki」1形で分掌している用法は kuru では「ko」「ki」の2形が分掌している。したがって okiru と kuru だけでいえば, kuru によって7活用形をたてれば, どの形がどの用法を分掌しているかがわかるわけである。ところが, kaku <書く>と比較してみると, kuru の「ki」の分掌している用法を, kaku の場合は kaki と kae との2形で分掌している。そこで, この部分を二つに分けることにすると, 8活用形をたてればよいことになる。他の動詞についてみてもこれで十分である。この方言の動詞の活用表は第8表のようになる。

学校文法における活用形(の名称)とは, ほぼ次のように対応する。

第1活用形	第2活用形	第3活用形	第4・5・6活用形	第7活用形	第8活用形
未然形	連用形	連用形(音便形)	終止形・連体形	仮定形	命令形

このうち, 第4・5・6活用形における用法の分掌のしかたが共通語と比較してかなり違いがある。学校文法にしたがって活用表を作れば, 終止形と連体形のそれぞれに, 第4・5・6活用形の異形をすべて記入しなければならない。

活用の種類も学校文法における名称を強いて用いれば, ほぼ次のようになろう。

A (五段活用), B・C (ワア行五段活用), D (上一段活用・サ変活用), E (下一段活用),
F (カ変活用)

さて, aru <ある>を除いてAに属する語の活用をみると, 第3活用形と第5・第6活用形以外はほぼ整然とした姿を示して -a (1), -i (2), -u (4), -e (7), -e (8) のようになっている。(ただし, sasu <刺す>, tacu <立つ> は音韻の特徴を反映して, 第2活用形は -u であるが, si, su および ci, cu の区別を獲得した人は -i の形を用いる)。第3活用形は kae <書く>, sasu <刺す>, taQ <立つ>, suN <死ぬ> 等とそれぞれに違いがあるが, これは次の4種にまとめることができる。

i —— u, ii —— e, iii —— Q, iv —— N

また, 第5・第6活用形は, toru <取る> 類の —Q, —N の形のほかは, すべて言い切りの形(第4活用形)と同じ —u の形である。

第3活用形で —u の形を示すものは sasu <刺す> に代表されるが, その他に ucusu <写す・移す>, ugokasu <動かす>, kakusu <隠す>, kersu <返す>, dasu <出す>, torsu <通す>, nagasu <流す> 等がある。すべて言い切りの時は —su の形をしている。また, si, su の区別を獲得した人はこの第3活用形に —i の形を用いる。

次に —e の形を示すものには kaku <書く> に代表されるものと, ojogu <泳ぐ> に代表されるものがある。kaku の類には ugoku <動く>, oku <置く>, kiku <聞く>, saku <咲く>, naku <泣く>, hiraku <開く>, huku <吹く> 等があり, すべて言い切りの形は —ku の形をしている。

第8表 動詞活用表

活用形		1	2	3	4	5	6	7	8
活 用 の 種 類	接 続 す る 語	reru seru neR sjeR Nsjo	rareru raseru neR rasjeR raNsjo	中 止 法 teR tari ta taQke	言 い 切 り jo naR bakari dake suka hito hodo miteRda-Qke	to keNtomo kara ka toki koQtara beR 注1 zo	na(禁止) dara noni	ba	命 令 (言 い 切 り)
	語								
A	書 く	kaka	kaki	kae(kaR)	kaku	kaku 注2	kaku	kake	kake
	刺 す	sasa	sasu	sasu	sasu	sasu	sasu	sase	sase
	立 つ	tata	tacu	taQ	tacu	tacu	tacu	tate	tate
	死 ぬ	sunu	sunu	suN	sunu	sunu	sunu	sune	sune
	飲 む	noma	nomi	noN	nomu	nomu	nomu	nome	nome
	取 る	tora-toN 注3	tori-toQ 注4	toQ	toru	toQ	toN	tore	tore
	ある注5	—	ari	aQ	aru	aQ	aN	are	—
	泳 ぐ	ojoga	ojogi	ojoe	ojogu	ojogu	ojogu	ojoge	ojoge
並 ぶ	naraba	narabi	naraN	narabu	narabu	narabu	narabe	narabe	
B	買 う	kaa	kae	kaQ	kaa	kaa	kaa	kae	kae
C	食 う	ka 注6	kue	kuQ	kuu	kuu	kuu	kue	kue
	思 う	omowa	omoe	omoQ	omou	omou	omou	omoe	omoe
D	起きる	oki	oki	oki	okiru	okiQ	okiN	okire	okiro
	為 る	su	su	su	suru	suQ	suN	sure	suro
	借りる	注7 kari-kan	kari-kaQ 注8	kaQ 注9	kariRu	kariQ	kariN	karire	kariro
E	逃げる	nige	nige	nige	nigeru	nigeQ	nigeN	nigere	nigero
	分れる	注10 wakare wakaN	wakare 注11 wakaQ	wakaQ 注12	wakareru	wakareQ	wakareN	wakarere	wakarero
F	来 る	ko	ki	ki	kuru	kuQ	kuN	kure	koo

注1 ber, zoは促音の後ろにあるときはpeR, coの形である。例, toQpeR, toQco,

注2 kakuがkentomo・ka・kara・koQtaraに連なる時には、しばしばkaQの形をとり、kaQkentomoのような形が表われる。もちろん、kakukeNdomoもある。

注3 toru〈取る〉がreru・seru・sjeR・Nsjoに連なる形はtoraであるが、neR〈ない〉に連なる形はtoNである。この類に属する語はすべて同じ。例、uru〈売る〉、okuru〈送る〉、komaru〈困る〉等。ただしsuru〈知る〉は例外。sjaRneのように用いられる。この語は普通はsjaRne〈知らない〉、sjaRreru〈知られる〉、sjaRseru〈知らせる〉、suQteru〈知ってる〉等の形が用いられるだけでその他の形はあまり用いられない。wakaru〈判る〉が多く用いられる。

注4 toru〈取る〉がteR〈たい〉に連なる形はtoQcjeRである。注8をみよ。その他の中止法以下の形はtoriである。naNsjo〈なさい〉に連なる場合にはtoriの他にtoNの形も用いられる。

注5 aru〈ある〉はreru・seru・neR等に連なる第1活用形を欠く。その他、命令の形もないし、第2活用形のteR・jasue・zurae・kakeru・naNsjoや第6活用形のnaに連なることもない。

注6 kuu〈食う〉の第1活用形にはkuwa・kaの両形がある。が、kuwaは共通語化した形である。

注7 neR〈ない〉に連なる時だけkaNnjeRのようである。

注8 teR〈たい〉に連なる時だけkaQcjeRのようである。注意 kaQcje〈借りて〉。

注9 te, tari, taに連なる形はそれぞれkaQcje, kaQcjari, kaQcjaのようである。

注10 wakareru〈分れる〉の第1活用形はrareru・raseru・rasjeR・raNsjoに連なる形はwakareであり、neRに連なる形はwakanである(wakannjeR)。

注11 wakareru〈分れる〉がteR〈たい〉に連なる形はwakaQcjeRである。その他の中止法以下の形はwakareである。

注12 te, tari, taに連なる形はそれぞれwakaQcje, wakaQcjari, wakaQcjaである。

また、ojoguの類にはesogu〈急ぐ〉、kacugu〈かつぐ〉、sawagu〈騒ぐ〉、husagu〈ふさぐ〉等

があり、すべて言い切りの形は—guの形をしている。前者が—eの形をとる時にはたとえば kaeteru〈書いている〉のように～te, ～taであるが、後者の場合には、たとえば ojoederu〈泳いでいる〉のように～de, ～daであることは共通語と同様である。また、i, eの区別を獲得した人は、この活用形に—iの形を用いる。

第3活用形で—Qの形を示すものは tacu〈立つ〉に代表されるものと toru〈取る〉に代表されるものがある。tacuの類には kacu〈勝つ〉, mocu〈持つ〉, macu〈待つ〉等があり、すべて言い切りの形は—cuの形をしている。toruの類には, agaru〈上る〉, amaru〈余る〉, uru〈売る〉, oru〈織る〉, okuru〈送る〉, kERRu〈帰る〉, komaru〈困る〉, curu〈散る〉, hikaru〈光る〉, wataru〈渡る〉等があり、すべて言い切りの形は—ruの形をしている。

第3活用形で—Nの形を示すものは sunu〈死ぬ〉に代表されるものと nomu〈飲む〉に代表されるものと narabu〈並ぶ〉に代表されるものがある。sunuの類はこの語だけである。nomuの類には susumu〈進む〉, tanomu〈頼む〉, nikumu〈憎む〉, jasumu〈休む〉, jomu〈読む〉等があり、すべて言い切りの形は—muの形をしている。narabuの類には, asubu〈遊ぶ〉, sakebu〈叫ぶ〉, hakobu〈運ぶ〉, jorokobu〈喜ぶ〉等があり、その言い切りの形はすべて—buの形をしている。これらはいずれも～nde, ～ndaのような形をとる。

そこで、第3活用形の深層構造はすべて—iであり、表層の形がそれぞれ、—u, —e, —Q, —Nであるのだと説明できる。すなわち、

i ~si + te → ~sute 例, sasute〈刺して〉, kasute〈貸して〉, dasute〈出して〉, kakusute〈隠して〉,

ii ~ki + te → ~ete 例, kaete〈書いて〉, kiete〈聞いて〉, huete〈吹いて〉, naete〈泣いて〉,

 ~gi + te → ~ede 例, ojoede〈泳いで〉, esoede〈急いで〉, sawaede〈騒いで〉,

iii ~ci + te → ~qte 例, taqte〈立って〉, kaqte〈勝って〉, maqte〈待って〉,

 ~ri + te → ~qte 例, agaqte〈上って〉, amaqte〈余って〉, uqte〈売って〉,

iv ~ni + te → ~nde 例, sunde〈死んで〉,

 ~mi + te → ~nde 例, nonde〈飲んで〉, susunde〈進んで〉, tanonde〈頼んで〉,

 ~bi + te → ~nde 例, asunde〈遊んで〉, hakonde〈運んで〉, jorokonde〈喜んで〉,

(ただし, egu〈行く〉, aruku〈歩く〉は例外である。これらはそれぞれ, eqte, aruqteのような形をしている)。

次に第5・第6活用形の toru〈取る〉の toQ・toNも深層の構造は toruであり、それがこれらの活用形の場合、それぞれ ka 類, na 類に接続する表層の形が toQ, toNであると解釈できる。

toru + ka → toQka, toru + na → toNna,

そこで, aru(ある)を除いてAについての活用表は第9表のように記すこともできよう。

次にB・Cについてみると、それぞれに特徴ある活用形式をしているが、しかし、これもこの地の方言の音韻的特徴を考え合わせると、深層の構造はAと同じ活用形式であると認めることができる。すなわち、第10表に示すとおり。

第9表

	語 幹	1	2	3 注3	4	5	6	7	8
書 く	kak	a	i	i	u	u 注4	u	e	e
刺 す	sas	a	i	i	u	u	u	e	e
立 つ	tat	a	i	i	u	u	u	e	e
死 ぬ	sun	a	i	i	u	u	u	e	e
飲 む	nom	a	i	i	u	u	u	e	e
取 る	tor	a 注1	i 注2	i	u	u 注5	u 注6	e	e
泳 ぐ	ojog	a	i	i	u	u	u	e	e
並 ぶ	narab	a	i	i	u	u	u	e	e

注1 tora + nER → toNnER

注2 tori + tE → toQcjER

注3 ~si + te 類 → ~sute 類, ~ki + te 類 → ~ete 類, ~gi + te 類 → ~ede 類, ~ti(～ci) + te 類 → ~Qte 類, ~ri + te 類 → ~Qte 類, ~ni + te 類 → ~Nde 類, ~mi + te 類 → ~Nde 類, ~bi + te 類 → ~Nde 類

注4 ka, kara, keNdomo, koQtara 等に連なるとき, kaQ のような形になることもある。

注5 ~ru + ka 類 → toQka 類

注6 ~ru + na 類 → toNna 類

第10表

語	語 幹	1	2	3	4	5	6	7	8
買 う	kaw	a 注7	i 注9	i 注10	u 注12	u	u	e 注13	e
食 う	kuw	a 注8	i 注9	i 注10	u 注11	u	u	e 注13	e
思 う	omow	a	i 注9	i 注10	u 注11	u	u	e 注13	e

注7 現実の姿は kaRreru <買われる>, kaRnER <買わない> である。深層の構造 awa は表層では aR となって実現するのがこの地の方言の特徴であると認められる。kaw + a → kawa → kaR。参考、この方言では共通語の awa に対応して aR が用いられる。例, kaR <川>, taRra <俵>, kaRra <瓦>, maRda <真綿>

注8 現実の姿は kareru <食われる>, kanER <食わない> のようであるが、深層の構造は kuwa であると解釈し得る。kuw + a → kuwa → ka。参考, kanuki <桑の木>, madoga <窓のように穴のある楕>

注9 この地の方言では深層の構造 wi は現実には e となって実現すると認められる。kaw + i → kawi → kae。参考, eru <いる>, esaN <遺産>, edo <井戸>, torie <鳥居>

注10 この方言では、深層の構造で動詞連用形(第3活用形) ~wi + te 類の場合は ~Q + te 類のように実現するものと認め得る。~wi + te 類 → ~Qte 類, 例, kaQte <買って>, kuQte <食って>, omoQte <思って>, utaQte <歌って>, waraQte <笑って>

注11 この方言で深層の構造で ~w + u → ~wu は現実には ~u となって実現すると解釈し得る。kuw + u → kuwu → kuR, omow + u → omowu → omor

注12 この方言で、動詞の深層の構造が ~au, ~awu は現実には ~aR となって実現すると解釈し得る。例, kaR <買う>, moraR <貰う>, utaR <歌う>

注13 この方言で、深層の構造の ~we は現実には ~e となって実現すると解釈し得る。例, kae <買え>, kue <食え>, morae <貰え>, warae <笑え>

同様に、D・E・Fの活用の類も、深層の構造を探れば次の第11表のように記述することができるであろう。

第11表

	語	語 幹	1	2	3	4	5	6	7	8
D	起 き る	ok	i	i	i	iru	iru ^{注19}	iru ^{注20}	ire	iro
	為 る	s	i ^{注14}	i ^{注14}	i ^{注14}	iru ^{注14}	iru ^{注19}	iru ^{注20}	ire	iro
	借 り る	kar	i ^{注15}	i	i ^{注17}	iru	iru ^{注19}	iru ^{注20}	ire	iro
E	逃 げる	nig	e	e	e	eru	eru ^{注19}	eru ^{注20}	ere	ero
	分 れ る	wakar	e ^{注16}	e	e ^{注18}	eru	eru ^{注19}	eru ^{注20}	ere	ero
F	来 る	k	o	i	i	uru	uru ^{注19}	uru ^{注20}	ure	oR

注14 この方言では現実には si, su の区別がない。深層の si, siru は現実には, su, suru となって実現すると解釈し得る。

注15 この方言の深層の構造で動詞の活用形 $\sim ri + n\epsilon R \rightarrow \sim rin\epsilon R$ は $\sim Nn\epsilon R$ ($\sim Nn\epsilon R$) となって実現する。例, taNn ϵR <足りない>, kaNn ϵR <借りない>。参考, kaNn ϵR <刈らない>。

注16 この方言の深層の構造 $\sim re + n\epsilon R \rightarrow \sim rene R$ は $\sim Nn\epsilon R$ ($\sim Nn\epsilon R$) となって実現する。例, uNn ϵR <売れない>, taoNn ϵR <倒れない>, toNn ϵR <取れない>。注意, uNn ϵR <売らない>, toNn ϵR <取らない>。

注17 ただし、この方言の深層の構造で、D類の動詞の第3活用形が $\sim r + i$ の形でte類に連なるとき、実現の姿は次のようになっている。

$\sim ri + te \rightarrow \sim Qcje$, $\sim ri + ta \rightarrow \sim Qcja$, $\sim ri + tari \rightarrow \sim Qcjari$, 例, kaQcje <借りて>, kaQcja <借りた>, kaQcjari <借りたり>。参考, kaQte <刈って>, kaQta <刈った>, kaQtari <刈ったり>, okite <起きて>。

注18 この方言の深層の構造で、E類の動詞の第3活用形が $\sim r + e$ の形をして、te類に連なるとき、実現の姿は次のようになる。

$\sim re + te \rightarrow \sim Qcje$, $\sim re + ta \rightarrow \sim Qcja$, $\sim re + tari \rightarrow \sim Qcjari$, 例, nagaQcje <流れて>, nagaQcja <流れた>, nagaQcjari <流れたり>。

注19 D・E・Fの動詞の第6活用形がka類に連なるとき、深層の形式 $\sim ru$ はすべて $\sim Q$ として実現する。例, okiQto omoQta <起きると思った>, okiQka <起きるか>, okiQtoki <起きるとき>, okiQper <起きるだろう>。

注20 D・E・Fの動詞の第7活用形がna類に連なるとき、深層の形式 $\sim ru$ はすべて $\sim N$ として実現する。okiNna <起きるな>, suNna <するな>, kuNna <来るな>。

こうして、この方言の動詞の活用はA・B・Cを一括して一類とすることができるから、結局A・D・E・Fの四種とすることができる。名づければ四段活用・上一段活用・下一段活用・カ変活用である。共通語より一種類少ない。共通語のサ変活用がこの方言では上一段活用であるからである。また aru <ある> が特殊化しているのはほぼ共通語と同様である。

2.2 形容詞・形容動詞の活用

動詞の活用表に準じて、形容詞・形容動詞の活用表を作ってみる。もちろん動詞とは用法も異なるし、接続する語にも違いがあるので、動詞と全く同じような枠組みを用いることはできない。たとえば、動詞では $-te$, $-ta$, $-tari$ に連なる形は、すべて同一形であったが、形容詞の場合は $-te$ に連なる形と $-ta$ ・ $-tari$ に連なる形とは異なる。したがって、形容詞・形容動詞の活用を明らかにするためには、動詞の場合の枠組みをそのまま使用するわけにはいかない。独自の枠組みを必要とする。第12表のようになろう。

第12表

	活用形	1	2	3	4	5	6	7	8
活用の種類	接続する語	nER wa(係助詞) mo(係助詞)	naru omor suru	te	ta tari taQke	言い切り jo nar qke (mitERda) 注1 to kara keNtomo koQtara zo (ka) 注1 noni 注2 dara 注3	ber	toki koto hito hodo dake bakari	ba
A	深い	hukaku hukERku	hukaku hukERku	hukaku hukERku	hukakaQ hukERkaQ	hukER hukER	hukER hukakan hukERkan	hukER hukER	hukakere hukERkere
B	くやしい	kujasuku	kujasuku	kujasuku	kujasukaQ	kujasue	kujasue kujasukan	kujasue	kujasukere
C	急だ	kjurde	kjurni	—	kjurdaq	kjurda	kjurda	kjurna	kjurda
対応する動詞活用形		2		3			4, 5, 6		7

注1 miterda, ka はCに属する語には, kjurda miterda, kjurda ka のほかに kjurnmitERda, kjurka のように語幹につくこともある。

注2 noni はCに属する語には kjurda noni のほかに, kjurnnoni のような第7活用形につくこともある。

注3 dara はCに属する語にはつかない。

形容詞・形容動詞の場合は、助動詞がつくことは少ない。動詞の第1活用形（未然形）と第8活用形（命令形）の用法は形容詞・形容動詞にはない。動詞の第2活用形に該当する活用形は形容詞・形容動詞では二つに分れる（1と2がそれである）。動詞の第3活用形に該当する活用形も二つに分れる（3と4とがそれである）。動詞の第4・5・6活用形は形容詞・形容動詞では第5・6・7活用形に該当するが、その用法の分掌のしかたはそれぞれに違いがみられる。動詞の第7活用形は形容詞・形容動詞の第8活用形に該当する。学校文法における活用形（の名称）とは、ほぼ次のように対応する。

第1・第2活用形	第3・第4活用形	第5・第6活用形	第7活用形	第8活用形
連用形1	連用形2	終止形	連体形	假定形

活用種類のAはいわゆる「ク活用」であり、Bは「シク活用」であり、Cは形容動詞である。形容詞・形容動詞の活用では次のことが注目される。

(1)A（ク活用）には第5・7活用形を除いて、各活用形に hukaku・hukakaQ・hukakan・hukakere の系列と hukɛrku・hukɛrkaQ・hukɛrkan・hukɛrkere の系列とがある。後者は終止形の hukɛr に—ku, —kaQ, —kan, —kere のついている形であり、形容詞活用が終止形に吸収されつつある姿を示しているともいえよう。

(2)A・Bともに、berに連なる形に—kanとともに、言い切りの形（hukɛr・kujasue）が用いられている。このhukɛrberのような形は北奥の各地にも認められるほか、宮城県・山形県にも広く一般に認められるものであり、福島県でも、南会津を除いて大部分の地域に用いられている。これはさらに栃木県中部以北、茨城県中部以北にも用いられ、しだいに広がりつつある。berが文末助詞化している姿とも解釈できるし、また形容詞の言い切りの形が、他の活用形の用法を吸収して行く姿であるとも解釈できる。

(3)形容動詞がberに連なる形は言い切りの形 kjurda である。これも宮城県・山形県よりさらに北奥にも及ぶものである。また、南会津を除く福島県の大部分から栃木県や茨城県にも広がりつつある。—danber・—daqper は福島県の中部以南に用いられる。—daqpe は浜通り南部を中心に東部・中部に用いられ茨城県に連なるのに対して—danberは西部・中部に多く用いられ、群馬県・栃木県に連なる。いずれも福島県北部には及んでいない。この地の方言では、もっぱら—daberが用いられている。

(4)形容動詞の第8活用形は—dara である。指定の助動詞—da の場合も假定条件の場合には、—dara を用いる。これらは ba をつけずに用いられることも多い。

2.3 用言の用法(1)

・用言は多く文中において、述語として機能する。体言も助動詞 da・miterda 等がついた形（—da・—miterda 等）で用言的話部として機能する。ここでは助動詞を中心に、用言的話部の特徴ある表現法の若干について記述する。

(1)受身・可能・自発、助動詞 reru・rareru が用いられるが、eru・raeru もある。ただし、青年層では eru・raeru はほとんど用いられない。可能の場合には、このほかに可能動詞がある。kakareru・kakaeru〈書かれる〉とともに kakeru〈書ける〉がある。

両者の区別はかなりあいまいである。普通は kakareru が多く使われ、kakeru は少ない。しかし、可能動詞を用いるか助動詞 reru を用いるかについて多少の使い分けが認められる場合もある。すなわち torareru <取られる>、toreru <取れる> を例にすれば、ある田地に地力がなくて、どうしても10俵の米は収穫できないという場合には tonnjɛR <取れない> を用い、天候が悪く、家族も病気をしたために十分に田地の世話ができなかったために収穫がないような場合には8俵しか torannjɛR <取られない> という傾向がある。つまり、tonnjɛR は自然に具わっている能力、自然に許されている場合であり、torannjɛR は、その時その時の臨時的条件によって可能であるかどうかが問題にされる場合である。

korewa unnjɛR naR <これは売れない(品物だ)なあ>

korewa urannjɛR naR <これは売られない(品物だ)なあ>

を比較すると、前者は品物自身の持つ性質によって売行きのわるいような場合に使われ、後者は粗悪品で、到底人に売ることのできるようなものではないとか、禁制品であるから売ることが許されないというような場合に用いられるようである。

しかし、このような違いはある種の動詞について、極めて大まかな傾向が認められるだけで、一般的とはいえないようである。

宮城県や山形県等では kakuni eR, kaku eR <書くことができる> のような形で可能を示すが、この方言では用いない。ただし、「書くのに都合がよい」「書くのに条件がよい」のような意味では kakuni eR という表現を用いる。この形式が可能表現に用いられる一歩前の姿を示しているともいえる。

(2)使役 助動詞 seru・raseru を用いる。A・B・C 動詞(四段活用)には seru がつき、それ以外の D・E・F 動詞(上一・下一・カ変)には raseru がつく。raseru はたとえば

○ korkorno suken ukerasetɛ(R) to omoqteru <高校の試験を受けさせたいと思っている>。

○ benkjɔR surasetɛ(R) monda nae <勉強させたいもんですね>。

のように用いられる。この raseru の形は東北から関東にかけて広くみられるもので、見方を変えれば、一段活用動詞や力変動詞が四段化している姿とも解し得るものである。すなわち、いわゆるラ行四段動詞(たとえば「取る」)の torareru <取られる>、toraseru <取らせる>、tora(Q)sjɛR <取りなさい> に類推して ukerareru <受けられる>、ukeraseru <受けらせる>、ukera(Q)sjɛR <受けなさい> が生じたものとも解し得るものである。

(3)否定(打消) 動詞では第1活用形に助動詞 neR <ない> がついた形で表わす。

○ daremo kakanɛR <誰も書かない>。

○ mada okineR <まだ起きない>。

そのほか、sasanɛR <刺さない>、tatanɛR <立たない>、sunanɛR <死なない>、nomanɛR <飲まない>、sunɛR <しらない>、ukenɛR <受けない> 等の形である。ただし、ワア行四段動詞・ラ行四段動詞・ラ行上一段動詞・ラ行下一段動詞の場合は次のようであることはすでに述べた。

karneR <買わない>、kanɛR <食わない>、omowanɛR <思わない>、

tonneR <取らない>、unneR <売らない>、kanneR <刈らない>、

tonnjɛR <取れない>、unnjɛR <売れない>、kannjɛR <刈れない>、

tannjER <足りない>, kannjER <借りない>

torannjER <取られない>, okirannjER <起きられない>, ukerannjER <受けられない>,

二重否定の場合は kakanER koto nER <書かないことない>, tannjER koto nER <足りないことない> のように用いる。

助動詞 nER の活用はほぼ形容詞と同じであるが、二重否定の場合に koto を介して nER <ない> に連なることが多いので、共通語の「カカナク（ワ）ナイ」のようにさらに nER（ない——形式用言）がつくこともあまりなく、副詞的に用言を修飾することもほとんどない。

また、否定推量、否定の意志の表現に、beR を用いる点も注目される。この場合、高年者の間では、

kakanakanbeR・kakanERkanbeR（書かないだろう、推量）、kakumeR（書くまい、意志）のように、推量と意志とを使い分ける傾向もみられるが、しだいに meR <まい> は用いられなくなってきた、kakanERbeR <書かないだろう、書くまい> 一形で推量と意志とを表わすことが多くなっている。

条件を表わす際は kakanakereba・kakanERkereba のような形が用いられるが、しばしば ba を省いた kakanakere・kakanERkere の形で用いられる。

○ omER kakanakere ore kaku <あなたが書かなければおれが書く>

さらに、短縮形 kakanEQka の形も用いられる（例は省略する）。

また、義務や当然を表わす場合には一層の短縮形も含めて、次のような諸形式がある。「書かなければならない」を例にすると、

kakanakere(ba) nanNEr・kakanERkere(ba) nanNEr

kakanaQka nanNEr・kakanEQka nanNEr

kakana nanNEr

形容詞には、たとえば hukaku nER・hukERku nER <深くない> のように～ku の形に形式用言の nER をつける。この場合には hukaku wa nER <深くはない> のように係助詞 wa や mo を挿入することもできるし、hukaku naku hore <深くなく掘れ> のように副詞的修飾語としても使用される。ただし、仮定条件の場合には hukaku nakere(ba)・hukaku nERkere(ba)・hukaku neQka の形はあるが（以上いずれも hukERku～の形もある）、助動詞の場合の kakana nanNEr <書かなければならない> のような短縮形は用いられない。

形容動詞や「名詞+da」等の場合には、suzugade nER <静かでない>, kide nER <木でない>, sorde nER <そうでない> のように形式用言 nER をつけて用いる。形容詞の場合と同様な用法を持つといえる。

(4)過去・完了 助動詞 ta を用いる。kertaQta <書いたことがあった>, kertaQke <書いたつけ>, kerta <書いた>, kerta toki <書いた時>, kertaber <書いたろう>, kertanda <書いたんだ>, kertara ernoni <書いたらよいのに> のような活用をする。動詞との接続のしかたは、

kaeta (kerta) <書いた>, sasuta <刺した>, taqta <立った>, toqta <取った>, kaqta <買った>, sunda <死んだ>, nonda <飲んだ>, naraanda <並んだ>, ojoeda <泳いだ>, okita <起きた>, suta <した>, nigeta <逃げた>, kita <来た>,

等は共通語と同様であるが、ラ行上一段、ラ行下一段の場合には

kaQcja <借りた・枯れた>, wakaQcja <分かれた>,

のようになっている。

注目すべきは taQta <たった> の形があることで、多くは過去の経験を示すが、過去の事実の強調とか習慣・くり返しの行為等を示すこともある。

○ ore mo kertaQta naR <おれも書いたことがあった>

○ warir koto sutaQta naR <悪いことをしたもんだったなあ>

○ ano hitomo itaQta <あの人も（たしかに）いた>

形容詞には hukakaQta・hukerkaQta <深かった>, kujasukaQta <くやしかった> のような形で接続している。

形容動詞や「名詞+da」等の場合には suzukadaQta <静かだった>, jamadaQta <山だった>, soradaQta <そうだった> のような形になっている。これらの場合にも動詞の場合と同様な用法があり、~taQta の形もある。たとえば asukowa hukakaQtaQta naR <あそこは深かったなあ> という表現は次のような場合に用いられる。沼とか川とかにおける、ある場所が、

i. 昔はずっと長い間深かった。

ii. 昔はとても深かった。

iii. 昔は深い所として誰からも認められるような性質の場所であった。

すなわち、~taQta は、過去の経験、過去の事実の強調、過去の習性（習慣）・くり返しの行為等を表現する場合に用いられる。

(5)回想 過去の事実を回想して表現する場合に ke・Qke を用いる。多くは見聞したことを回想しつつ報告するような場合に用いる。ke は次のような場合に表われる。

○ ano hitomo kinno aruQte enkenaR <あの人も昨日歩いて行ったなあ>

○ toqtemo komaqtacuke <とっても困ったということだった>

○ toqtemo komaqtasuke <同上>

多くは Qke の形が表われる。

○ hontoni zjorzuni kakuQke naR <ほんとに上手に書いたなあ>

○ saqkimade sokoni aQke naR <さっきまでそこにあったなあ>

○ ano hitowa sumor cujoeQke naR <あの人はすもうが強かったなあ>

○ ano korowa hudede kertaQke naR <あの頃は筆で書いたなあ>

○ mukasuwa zjorbudaQke naR <昔は丈夫だったなあ>

動詞や形容詞にもつくので、~taQke, ~daQke も, ta+Qke, da+Qke のように分解できる。

これらの ke・Qke は言い切りの形のほかは、文末助詞 na, wa, zo や接続助詞の kendo, kara 等がつくだけで、用法は限られている。

過去・完了の ta との違いは、ta はある時点で動作・行為が終了したと認める態度であるが、ke・Qke は見聞した経験を回想しながら述べるものであり、その述べる態度も、それが真実であるという責任ある自分の判断・断定を示しているのではない。見聞した客観的な事象を感覚的に表現しているのである。だから

ano hitowa sumoR cujoeQke naR <あの人はすもう強いっけなあ>

というのは、自分の見聞した限りにおいてそう思われるという感じをいうのであり、その人が本質的に「強かった」かどうかは問題にしていけないのである。また、

ano hitomo macusa enke naR <あの人も町に行くっけなあ>

は自分の見聞した限りにおいて「その人が町に行く」とそう思われたのであり、「確かに町に行った」と断定しているのではない。だから実際は「町の入口近くまで行ったが町に入らなかった」としても嘘を言ったことにはならない。したがって他人の行為に関しては「enke naR」と言えても、自分の行為に関しては「eqta」<行った>とはいいが、「enke」は用いない。もちろん, oremono eqtaQke naR <おれも行ったっけなあ> といふ。それは遠い過去の事実を不確かに想起する点で、もはや他人の行為を見聞した場合と同様だからである。

また「おもしろくなかったから、退場したんだろう」のような推測や判断の表現の場合にはtaは用いてもkeは用いられない。

(6)指定(断定) 動詞・形容詞・形容動詞は言い切りの形のままで、あるいは他の助動詞のついた形でも、話者の断定を表わすが、第4活用形にnda <のだ>をつけて(すなわちNを介して助動詞daをつけて)、明らかな断定を示す。この場合、okiru, toru等のように、—ruの形のものはokirunda, torunda等の形もあるがokinnda, tonda等の形もある。名詞は助動詞のdaをつけて表わす。daの活用は、ほぼ形容動詞の場合と同様であるが、体言に連なる形と副詞的修飾語として文中に機能する形はない。多くはhonda <本だ>, sorada <空だ>, ekeda <池だ>のように—daの形であるが、kore <これ>, dare <だれ> 等につく時はkonzja, danzjaのような形を示す。

仮定条件を表わす形は—daraである。kakuNdara <書くなら>, takeRNdara <高いなら>, ano hitodara <あの人のなら> のように用いられる。(2.4(1)仮定条件を参照)

(7)意志・推量 ber・perを用いる。短呼の形be・peもある。無意志動詞や形容詞・形容動詞等についている場合には推量を表わすが、意志動詞の場合には、意志・推量をともに表わす。

○ ano hitodara Nmaku kakuber <あの人のなら上手に書くだろう>

○ oremono kakuber ka <おれも書こうか>

また、推量の場合のkakuber <書くだろう> とkakuNdaber <書くんだろう> との違いは、ほぼ共通語の「カクダロー」「カクンダロー」に対応する。

このber・perは言い切りの用法のほか、文末助詞naR・jo・wa・ka・zoに連なり、また、接続助詞kara, keNdomo, 引用のto等に連なる。

動詞につく場合は、kakuber (書く), toQper (取る), okiQper (起きる), kuQper (来る), suQper (する)のような形が多いが、高年層の一部はokinber (起きる)のような形も用いる。

形容動詞や助動詞ta・daにつく場合は、言い切りの形についている。形容詞につく場合には～kanber (例, takakanber 高いだろう) とともに終止形(言い切りの形)につく形(例, takeRber 高いだろう)がある。しだいに後者が多くなっている。ber・perが文末助詞化しているとも言える。

(8)否定の意志・推量 否定の意志・推量を示すにはmeR <まい> を用いる。四段動詞には第

6 活用形につくが、一段動詞・カ変動詞には第1活用形（未然形）につく。形容詞・形容動詞等には、たとえばtake_{ER}ku aNme_R <高くあるまい>のようにaNme_R <あるまい>の形でついている。意志動詞についている場合には推量とともに意志をも表わすが、その他の場合には推量だけを表わす。しかし、このme_Rはしだいに用いられなくなってきていて、代りに助動詞ne_R <ない>にbe_Rのついた形～nakanbe_R・～ne_Rbe_Rが多く用いられるようになっている。

- ada tokosa egume_R to omoqta <あんな所には行くまいと思った>
- asutawa ame hunme_R <あしたは雨は降らないだろう>
- mo_R sun_{ER}be to omoqta <もうするまいと思った>

(9)丁寧 共通語の「デス・マス」に対応する丁寧表現（相手尊敬）は、文末助詞によって示される。nae, kae, zoe等の～e類とnasu (nasi), kasu (kasi), zosu (zosi)等の～su (si)類とnaN, kaN, zoN等の～N類とがある。たとえば「いい天気ですね」に対応する形式は、

er tenkida nae, er tenkida nasu, er tenkida naN

の三種類がある。nae類は一般的な表現であり、nasu (nasi)類は一段と改まった表現であり、商人によく用いられ、農家では一部の人にしか用いられない。naN類は親族あるいは近隣のごく親しい間柄で用いられる。

たとえば「来るでしょう」「来ませんか」「来ました」「来ます」に対応する～e類の形式は

kuqpe_R nae, kon_{ER} kae, kita zoe, kuq coe

のようになっている。したがって、この方言でdokosa ekundae <どこに行くんですか>という表現は共通語の「イクンダイ」と比較して、はるかに待遇価は高い。

(10)伝聞 普通, cuke・sukeによって示す。

- ano sene_R jameqsuke <あの先生はやめるそうだ>
- asukono baqpa bjorkidasuke <あそこの婆さんは病気だそうだ>
- ano hitomo tosi toqte bakan naqterucuke <あの人も年をとって馬鹿になってるそうだ>

cuke・sukeはほとんど同じように用いられているが、sukeがしだいに多くなっている。cukeはcu+keに分解できる。cuは

nan_{CU}r koqta <何ということだ>, nan_{CU}taka na_R <何といったかなあ>, ekuqcu(q)ta <行くといった>, ekuqcurkara <行くというから>, Ndakara bakadaqcunda <だから馬鹿だということだ>

等にみられるように「という」の縮約した形であり、keは既述したように回想を表わす、文末助詞化しつつある助動詞である。伝聞の意を表わすのに「という（ことだ）」のcuと、見聞した事象について感覚的に述べるkeとを合わせたcukeの形で示すというのが、この方言での主な方法である。sukeはこのcukeの転化形であろう。cuke・sukeは共通語の「そうだ」と同様に、用言的話部の言い切りの形（終止形）につく。が、be_R,mae(me_R)等にはつかない。また名詞に直接ついていることもある。たとえば

- arewa nan_{CU}cuke ka na <あれは何といったっけかな>
- hedorocuke zo <ヘドロというそうだよ>

伝聞を表わすには、このほかに sorda もあるが、これは共通語的である。用法も共通語とほぼ同じである。形容動詞につくときは suzukadasorda とともに suzukanasorda をも用いるが、前者の方が多い。

(11) 様態、比況 様態を表わすには sorda を用いる。動詞には第2活用形(連用形)につく。形容詞・形容動詞には語幹につく。例, sunisorda <死にそうだ>, hurisorda <降りそうだ>, kisorda <来そうだ>, hukasorda <深そうだ>, zjorbusorda <丈夫そうだ>

比況を表わすには miterda <みたいだ> を用いる。動詞・形容詞・形容動詞・助動詞等の言い切りの形(終止形)につくが, ber, mer 等にはつかない。また, 形容動詞につく場合には, zjor budamiterda, zjorbumiterda, zjorbunamiterda の三形がある。ほぼ共通語の「丈夫であるようだ」「丈夫らしい」「丈夫なようだ」に対応する。名詞につく場合も hunemiterda <舟のようだ>, hunedamiterda <舟であるようだ> の二形がある。

このほか, jorda, rasue も用いられるが、共通語的である。

(12) 継続、結果等 動詞の第3活用形に teru <ている>, te aru <てある>, cumar <てしまう>, te oku <ておく>, tegu <ていく>, te kuru <てくる>, te miru <てみる> 等が連なって、さまざまな動作の状態を示すことはほぼ共通語と同様である。そのうち、注目すべき点の若干について略記する。

teru <ている> は四段活用の動詞につくときは kaeteru <書いている>, kaetenar <書いていない>; kaeteta <書いていた>, kaetereba <書いていれば>, kaetero <書いていろ> のように用いられるが、一段活用動詞やカ変動詞につくときの過去・完了の形は, okiqta <起きていた>, miqta <みていた>, kiqta <来ていた, 着ていた> のようになっている。

cumar <てしまう> は四段活用の動詞につくときは kaecumar <書いてしまう>, taqcumar <立ってしまう> のようになっているが、一段活用動詞につくときは okiqcumar <起きてしまう>, neqcumar <寝てしまう> のように -qcumar の形になっていることが多い。

te aru, te oku は kaete aqta <書いてあった>, kaete oeta <書いておいた> のような形のままで用いられる。縮約形 taru, toku は用いられない。

(13) やりもらい te jaru, te morar, te kureru が用いられる。te ageru, te etadaku, te kudasaru は共通語的であり、この方言として本来的、一般的ではない。特に te kureru が広く用いられ、話し手が他人のためにしてやる場合にも、かなり用いられる。te jaru が多く用いられるようになったのは比較的新しいのである。ただし、神仏には sorzusute ageru <掃除してあげる> 等という。

○ kane narqte jurkara kasute kuqcja <かねがないというから貸してやった>

○ oremono toqte kureqka nar <おれも取ってやろうかなあ>

(14) 質問・疑問 質問や疑問を示す場合に、疑問詞を用いたり、文末イントネーションにたよったりすることとともに、文末助詞 ka を用いることがあるのは共通語と同じである。ただし、文末助詞 ka の用法は共通語とは違いがある。形容動詞や名詞についている場合に、共通語では「静かか」「丈夫か」「学校か」「鳥か」のように、形容動詞語幹または名詞に直接つくが、この方言ではこのような用法もあるが、このほかに suzukada ka, gaqkorda ka のような言い方もある。

suzuka ka <静かか> suzukada ka <静かであるか>

gaQkor ka <学校か> gaQkorda ka <学校であるか>

また、たとえば「どこかに行こう」は dokosaka egubeR <どこに行こう> のような形式が多く用いられる。

(15) 尊敬表現 人や事物について、daNpo <旦那>, okaQcama <奥さま>, otoQca(ma) <お父さん>, oQkasama <お母さん>, oqsama <和尚様>, tanakajan <田中さん>, otera <お寺>, oten-tosama <お日様> のような言い方はあるが、動作についての尊敬表現は十分に整っていない。

話題の主を尊敬して「先生がお書きになる」のような表現の場合、この方言では kakaru のように -ru を用いる。周辺地域の分布状況から推定すれば、通時論的には kakijaru → kakjaru → kakaru のように変じたものであり、出自は「オ……アル」敬語であろう。kakaQta <書かれた>, kakaru <書かれる>, kakaQ toki <書かれるとき>, kakandara <書かれるなら>, kakareba <書かれれば> のような形がある。一段活用動詞やカ変動詞には -raru を用いる。待遇価はあまり高くない。共通語の「レル・ラレル」よりもさらに低い（物売りのこどもや乞食についても用いることがある）。これ以外の尊敬表現の形式はない。ただし、具体的には婉曲表現等によって、多少の使い分けをする。たとえば「校長先生が書いたのか」を例にすると、

korcjorseNseR kakaQtano kae <書かれたのですか>

korcjorseNseR kakaQtandabe ka nae <書かれたのでしょうかね>

korcjorseNseR kakaQtagande neRbe ka nae <書かれたのでないでしょうかね>

等のような言い方があり、後者になるほどつつしみと敬意が感じられる。

また、他家を訪問して、「〇〇さん、いらっしゃいますか」の場合は eraQ kae <おられますか> よりは eraQta kae <おられましたか> または eraNneR kae <おられませんか> の方が敬意は高いのである。

また特殊の場合に、尊敬表現形式が残存していることがある。たとえば、茂庭では「二十三夜様」の月が上るときには noborasjaru, noborasjaNneR, noborasjaQta 等のように「シャル」敬語を用いる。命令や依頼の場合には次のような形式がある。「お書きなさい」「起きなさい」を例にすれば

$$1 \begin{bmatrix} \text{kaka(Q)sjeR} \cdot \text{kaka(Q)seR} \\ \text{okira(Q)sjeR} \cdot \text{okira(Q)seR} \end{bmatrix} \quad 2 \begin{bmatrix} \text{kakaNsjo} \\ \text{okiraNsjo} \end{bmatrix} \quad 3 \begin{bmatrix} \text{okakinaNsjo} \\ \text{okinaNsjo} \end{bmatrix}$$

この三つの形式のうち、1は「シャル」系敬語の残存形であり、敬意は最も低い。2は福島県北部に多く用いられる形式で、「ル・ラル」敬語系の特殊形式であると思われる。3は関東地方にも及ぶ形式で、「オ……ナサイ」系の特殊形式であろう。敬意は最も高い。

敬語動詞もほとんど用いられない。agaru <上る・食べる>, goranNi naru <見る> が行なわれるほか、「下さい」に対応する kuncER · kuncjeR がみられる程度である。

また、謙譲表現の形式も整っていない。共通語の「オ……イタス」「オ……申ス」「オ……申上ゲル」に対応する形式はない。謙譲の動詞も ageru <上げる>, etadaku <いただく> のほかはほとんど用いられない。ただし、ものについて、たとえば

○ nmakuner monodakentomo aqaQte okunnansjo <まずいものですが召し上って下さい>

のような表現はよく用いる。身内の人や事物については、boRrokuna <つまらない>とか kiga kikanER <気がきかない>とか eqCjormERde nER <人並みでない>とかいって謙遜するのが普通である。

総じて敬語形式は単純であり、発達していない。共通語と比較すると次のようにまとめることができる。

- i. 動作についての謙讓表現形式を欠く。
- ii. 「デス・マス」に対応する丁寧表現形式（相手尊敬表現形式）が文末助詞によって行なわれる。
- iii. 話題の主の動作に対する尊敬表現形式は「ル・ラル」敬語形式だけで、かつ、これはきわめて待遇価が低い。
- iv. 命令・依頼の場合には尊敬表現形式は整っている。

この地の人にとって、共通語の敬語表現に習熟することはかなり困難であると観察された。それは、このような敬語体系の違いも大きな条件となっているようである。

2.4 用言の用法(2)

用言（動詞・形容詞）が文中に用いられて、句と句との関係を持つ場合を中心に、特に目だつ若干の用法について略記する。

(1) 假定条件 共通語の「もしあの人を書くなら私も書きましょう」における「書くなら」に対応する言い方は kakukoqtara・kaQkoqtara のように koqtara を用いる。koqtaraba のように ba をつけることもあるが、これは少ない。動詞の第6活用形（連体形）につく。形容詞・形容動詞等には言い切りの形（終止形）につく。koqtara の出自は「事だら」あるいは「事だれば」であろう。既述のようにこの方言の断定の助動詞 da は ~de, ~daQ, ~da, ~dara のように活用し、共通語のように「ナラ」の形を持たない（形容動詞の場合には体言に接する形として ~na があるが、これも、山形県以北にみられるようにかつては ~da であったと思われる）。また「そういう事だ」に対応する言い方は soRiur koqta であり、「(他人にまかせられないなら自分で) 書く事だな」の場合には kaku koqta na であるように koqta を用いる。假定条件を表わす koqtara はこの koqta の一活用形が定着したものであろう。ただし、ba をつけることがあまりない点を考慮すれば、koqtareba → koqtarea → koqtara のように変化したものかもしれない。

- anta enkoqtara oremo eguber <あなたが行くなら私も行こう>
- zjorbudakoqtara cukarber <丈夫なら使おう>

のように用いられる。

ところが、この koqtara と似た用法を持つものとして koqte がある。上記の例はすべて、この koqte に置換えることができる。しかし、koqte には次のような用法もある。

- ano hitoga enkoqte ansunsuta <あの人が行くというので安心した>
- ziorbudakoqte bjorkisuta koto nER <丈夫なので病氣したことがない>
- sorjurkoqte wakanner <そういうことではだめだ>

したがって、koqte の出自は「事で」であろう。場合によって、koqtara と同様に假定条件を示すことが可能なのである。

仮定条件を示すものにはほかに *dara*〈なら〉がある。動詞・形容詞につく時は普通は、*kakundara*〈書くのなら〉、*egundara*〈行くのなら〉、*okindara*〈起きるのなら〉、*hukɛɾndara*〈深いのなら〉のような形になっている。しかし、*kakudara*、*egudara*、*hukɛɾdara* のような形を用いる人もある。

一般に形容動詞や体言の場合には *zjoɾbudara*〈丈夫なら〉、*erɛɾ hitodara*〈えらい人なら〉のような形が多く用いられるが、動詞・形容詞の場合には *koqtara* が多く用いられ、*~dara* は比較的少ないといっている。

動作が終了していることを前提として、仮定する場合には *~takoqtara*〈～したなら〉、*~tan-dara*〈～したのなら〉等が用いられる。

- *soda koto sutakoqtara kokosa eraɲɲjɛɾ*〈そんなことをしたならここにはいられない〉
- *kɛɾtakoqtara dasute misero*〈書いたなら出して見せろ〉
- *omɛɾ jaqtandara minakutemo ɛɾ*〈あなたがしたのなら見なくてもいい〉

(2)既定条件 共通語の「もっと大きく書けばよかった」における「書けば」に対応する言い方は、この方言でも *akeba* である。この *akeba* の用法は共通語とほぼ同じで、*anta akeba ore mo kakuber*〈あなたが書くならおれも書こう〉のように仮定条件を示すこともある。

形容動詞や「名詞+*da*」は仮定条件の場合と同じ形で、*zjoɾbudara tanondandakenzimo*〈丈夫であれば頼んだんだが〉のように *~dara* あるいは *~daraba* を用いる。

形容詞の場合には、*hajɛɾkereba mani aqtanoni*〈早ければ間にあったのに〉のように *ba* のついた形も用いるが、しばしば *hajɛɾkereba mani aqtanoni* のように *ba* をつけずに用いる。また、*kaneɲɛɾqka kasute jaqco*〈かねがなければ貸してやるぞ〉における *ɲɛɾqka* のような縮約形も用いられる。これは、*ɲɛɾkereba*→*ɲɛɾkerea*→*ɲɛɾkerjaɾ*→*ɲɛɾqkea*→*ɲɛɾqka* のような変化を行なったものと推測される。ただし、このような形は *ɲɛɾ*〈ない〉を除いた他の形容詞にはあまり表われない。助動詞 *ɲɛɾ*〈ない〉の場合には、この *ɲɛɾqka* の形がよく表われるが、「～なければならぬ」の場合にはさらに縮約した形 *na* も表われることは既に述べた。

daremo kaneɲɛɾqka ore kaku〈誰も書かなければおれが書く〉

ore kakana naɲɲɛɾ〈おれが書かなければならぬ〉

既定条件を示すものには、ほかに *kakuto jokaqta*〈書くときよかった〉のような *~to* の形式や、*kaetara jokaqta*〈書いたときよかった〉のような *~tara* の形式がある。*tara* の場合には動作が終了していることを認める立場である。

- *sugoto owaqtara kɛɾre*〈仕事ですんだら帰れ〉

過去に、ある条件によって事件が生じたような場合にはよく用いられる。

- *orega soɾ eqtara minna damaqta*〈おれがそう言ったらみんな黙った〉

しかし、未来のことにも用いないわけではない。

- *asuta eqtara moqte kuqcoe*〈明日行ったら持って来ます〉

~to と *~ba* はかなり似ている。この方言では *~to* の言い方はかなり盛んである。ただし、*akeba kakuhodo ɛɾ*〈書けば書くほどよい〉とか、*kujasukereba jaqte miro*〈くやしければやってみろ〉のような場合には *~ba* が用いられるし、*sono hanasu suqto minna jorokonda*〈その話をする

とみんな喜んだ」の場合には～toが用いられる。もっとも後者の場合には～taraの方がより一般的である。

(3)理由条件 共通語の「あの人が来ないので会議ができない」「書くから筆を貸せ」等における「ので」「から」に対応する言い方は、この方言では多く kara を用いる。kara は動詞・形容詞・形容動詞の第5活用形（連体形）につく。kaqkara hude kase <書くから筆をかせ>, takeR-kara kaRneR <高いから買わない>, zjorbudakara bjorkisuneR <丈夫だから病氣しない> のように用いられる。

理由を示す表現には、kara のほかに gande <ので> も用いられるが、これは少ない。たとえば

○ ano hito konegande kaegiga dekinakaqta <あの人が来ないので会議ができなかった> のような言い方がある。kara と gande との違いは、共通語の「から」と「ので」との違いにやや似ている。すなわち kara は話し手の主観的態度が強く表現され、意志や命令等を示すのに用いられるのに対して、gande は客観的に事象を述べるという態度が表わされる。しかし、たとえば、

○ jasuegande mani arsed a <安いので間に合わせた>

○ kaqCje kurugande gaman suru <借りて来るのがまんする>

のように、「かねがないので、安いもので間に合わせた」とか「借りて来るものでがまんして間に合わせる」とかにおける「もので」や「ということ」の意味合いがかなり強く感じられる場合に多く用いられている。つまり、gan と de とのそれぞれの原義が強く感じられ、gande の一語性はまだ十分に熟していない。一般には理由表示には kara が用いられるといってもいいであろう。

(4)逆接接続 共通語の「急いで行っただけども間に合わなかった」における「けれども」あるいは「が」に対応する言い方は、この方言では kendo(mo), kento(mo), kencjomo, kenzjomo, kencumo, kenzumo, kincumo 等の多くの形が用いられ、それぞれの人、場合に応じて何種類かの形を用いる。比較的 kento(mo), kencjomo の二形が多く用いられている。高年者には、kencjomo, が多く、青年には kento が多くみられる。

このほか、ga も用いられないことはないが、文章語的共通語的であり、一般的ではない。

2.5 体言の用法

体言が文中に用いられて、具体的な構成単位となる場合、この方言にどのような特徴があるか、めばしい若干の用法について述べる。

(1)～サ 方向や帰着点や対象や目的を示す場合に～saを用いることが多い。～saは共通語の「～へ」に近い用法を持つが、「～へ」よりはやや用法が広い。

○ toRkjorsa egu <東京に行く> (方向)

○ jusa heRQta <湯に入った> (帰着点)

○ ano hitosa kane watasuta <あの人にかねを渡した> (対象)

○ hucusumasa cukER <福島に近い> (基準)

○ kacudoR misa eqta <映画を見に行った> (目的)

のように用いられる。しかし、「あの人もらった」「大工になる」「お前には無理だ」「気に入った」「美人にみえる」等の場合にはsaを用いることはほとんどない。最近はしだいに用いられな

くなってきている。

(2)を格 この方言では主語や目的語は助詞なしに、ore jaru <おれがやる>, mizu nonda <水を飲んだ>, sono hana kuncjɛR <その花を下さい> のように体言だけで用いられていることが多い。特に明瞭に表示する必要のある場合には、共通語と同じく ga および o を用いる。たとえば, jorsaŋwa musu acukarkendomo, kazuwa musuo korosu hordakara nae <養蚕は虫を扱うけれども、果樹は虫を殺す方ですからね> のようになる。ただし、目的語の場合、人格的なものを示すときに toko あるいは koto を用いる。toko は福島県の中部以北に行なわれ、宮城県・山形県より北奥方言にも及ぶものであり、koto は福島県中部以南に行なわれ関東地方にもかなり広く用いられている。この方言では、toko・koto ともに用いられるが、高年者では toko が多い。

○ oretoko hateɾta <おれを叩いた>

普通は体言に直接つけるが、no や N を介して orenotoko, orenokoto のような形で用いられることもある。出目は「所」および「事」であろうと思われるが、現在では格助詞とみなしてよい。犬や猫にも toko・koto を用いることがあるが、家族の一員とみなすような場合に限られている。

また、特に「を格」を強調し取り立てていう場合には ~ba <をば> を用いることがある。

○ horedenɛR, soqcuno hanaba kuncjɛR <それではない。そっちの花を下さい>

ただし、この言い方は、あまり使用されなくなってきている。

(3)所有格 共通語の「おれの本だ」「先生の帽子」等における「の」に対応する言い方は、この方言では ga と no とを用いる。ga は話し手が自分自身とか身内とか目下の者についていう場合に用いる。

○ sorewa orega honda <それはおれの本だ>

○ kore nisjaga getaka <これはお前のげたか>

○ sorewa sɛŋsɛrno cjaɔpuda <それは先生の帽子だ>

しかし、このような言い方はしだいに用いられなくなっており、青年層では no に統一されつつある。

(4)準体助詞 共通語の「貰ったのはこれだ」における「の」に対応する言い方は、この方言では gana を用いることがある。

○ nisja moraɔtaganawa koreka <お前の貰ったのはこれか>

○ korewa darenoganda <これは誰のものだ>

○ gozuɾɛnnogana kuncjɛR <五十円のものを下さい>

○ gozuɾɛngana kuncjɛR <五十円分、下さい>

この場合、oreganda と orenoganda はともに「おれのものだ」を意味する。gozuɾɛngana <五十円分> と gozuɾɛnnogana <五十円のもの> とは意味に違いがある。用言には gana がつく。

(5)sɛR・made 極端な例をあげて強調する場合には、普通は made を多く用いて、sɛR を用いることは少ない。

○ kaze huete omakeni amemade huɔte kita <風が吹いて、おまけに雨まで降ってきた>

○ orenimade merwaku kaketa <おれにまで迷惑をかけた>

○ koda kotomade wakaŋŋɛR <こんな事さえわからない>

- ano hitomade eganɛRndakara sukata nɛR naR <あの人さえ行かないんだからしかたないなあ>

条件を示すbaやtaraやtoで作られる句の中にあって、それだけで十分だという意味を示す場合にはsɛR <さえ>を用いる。

- oreni sɛR tanomeba sorede eR <おれにさえ頼めばそれでいい>
- gaqkorɛɛR dereba nantoka naru <学校さえ卒業すれば何とかなる>
- ano hitotosɛR hanaseba dɛRzjorbuda <あの人とさえ話せば大丈夫だ>

また、極端な例をあげて、他を推測させる場合にもsɛRを用いる。多くは条件の句の中で用いられる。

- sɛNsɛRdesɛR jomenɛRnoni nisjani jomeQka <先生でさえ読めないのにお前に読めるか>
- oresɛR egaNnɛRnoni aezuni egareQka <おれさえ行かないのにあいつに行かれるものか>
- oredesɛR deNdakara nisjamo deQpɛR <おれでさえできるんだからお前もできるだろう>

ところで、このsɛRは主格についている場合や、条件句の述語の部分につく場合に特徴ある形式を示す。

- oresɛRga denɛRnoni nisjani deQka <おれさえできないのにお前にできるか>
- warasude sɛRga sutaNdakara oremono jaQpɛ <子どもでさえしたんだからおれもやろう>
- anta egebaseɛR daezjorbuda <あなたが行きさえすれば大丈夫だ>

しかし、このような言い方も、行なわれなくなってきた。

(6)suka 他を否定して、あることを取り上げる場合に「しか」を用いることは共通語と同じであるが、この方言では体言だけでなく動詞にもついている。orega egusuka nɛR <おれが行くよりほかない>、sor surusuka nɛR <そうするよりほかない>のように用いる。このsuka とほぼ同じ意味でhokaを用いることもある。

(7)bakari 共通語の「雨ばかり降っている」の「ばかり」に対応する言い方は baqkari, baqkasu, baQka, bari, basu等の多くの形式がある。それぞれの人が場合に応じて、いくつかの形を用いている。

(8)代名詞 一人称代名詞には一般にore, oraが男性ばかりでなく女性にも用いられる。「おれは」に対応する形式は一般にora, oraRである(orewaはあまり用いられない)。

複数にはora, orara, oreraが用いられる。ora(ra)ga hon <おれ達の本>、oreraganda <おれ達のものだ>

関東地方から東北地方にかけての分布と用法とをみれば、通時論的には次のように考えられる。すなわち、もともと単数はore, 複数はおれらであったが、「おれは」の場合にはorewa→orara→oraのようにorara, oraの形が用いられるようになった。一方、複数の場合もおれら→orra→oraのようにoraの形を生じた。したがってoraは単数の「おれは」にも、複数にも用いられるところから、混同が生じ、広く「～は」以外の単数表示の場合にも用いられるようになり(したがってoraga monoは<おれのもの>の意味でもあり、また、<おれたちのもの>の意味にも用いられる)、複数表示には、さらにraをつけた形oraraが用いられるようになった。かくしてこ

の地方では、多く

単数 ore, ora (ただし「～は」の形は orewa ではなく oraR, ora)

複数 ora, orara

が用いられている。しかし、青年層では、この複雑な組織をきらうせいか、再び単数 ore(「～は」の形は ora)、複数 orera を用いる傾向がみられる。

青年層女性は watasi, watasira, waQsi, waQsira, waQci, waQcira 等も用いる。

二人称代名詞には nisja (目下), omER (同輩および同輩以上), anta (同輩以上) が用いられる。omER は本来、同輩以上に対して用いられたが、現在では待遇価は下落している。

(9)用言の体言化 この地の方言は動詞・形容詞の言い切りの形が直接格助詞等に連なることがある。

takeRwa takeRNdagencjomo <高いことは高いんだが>

korewa kakuni benrida <これは書くのに便利だ>

III 結 果—各個別的特徴にみられる変遷—

「面接調査」の結果を以下に述べる。音韻・文法・語彙の各項目ごとにどのような結果がみられたかを示す。保原町地区と茂庭地区とを比較した場合にどのような差が表われるかに留意しつつ、60代、40代、20代の年代により、どのような差が表われるかに重点をおいて記述する。性・職業・学歴・居住経歴・父母の出身地その他の社会的な条件にも、必要な限りふれようと思うが、實際上、それらによる大きな差は認められなかった。それは一つには、この調査が地域社会内におけるその土地の人たち同士の言語使用の変遷をみようとしたものなので、被調査者もその地域出身者に限ったために、社会的環境にあまり大きな違いがなかったためかもしれない。また主として農家出身者に限ったために、茂庭集落の少数の被調査者（これも、ほとんどが農家と密接に結びついている人たちばかりである）を除いては家庭における生活環境は似ているといえる。したがって、年代と性・学歴等の違いが注目されることになった。とりわけ、年代による違いが著しかったので、記述も年代による違いと言語的特徴との関係に重点がおかれることになった。言語的特徴による各項目ごとに集計表を掲げ、簡略な説明を加える。

表の見方 ・表における「その他」は答が2つ以上あり、判定困難なものであり、「N.R」は無答あるいは質問の回答として期待しないものである。たとえば音韻の項目として「駅」を質問したのに、どうしても〔te:aba〕「停車場」としか答えなかったものはこれに含めた。

*は危険率5%以下で有意差のあることを示す。**は危険率が1%以下で有意差のあることを示す。「4 * 4」は選択肢4の度数が4以外の度数に比べて危険率5%以下で、有意に大きいことを示し、「4 * 3」は4の度数が3の度数と比べて危険率5%以下で有意に大きいことを示す。

「傾向」の欄は、その問の答として、他の答に比べて有意に度数の多い答が記入してある。もっとも支持の多い答である。④は全員が選択肢4を回答していることを示し（例、第210表）、4は選択肢4が4以外に比べて有意に度数の多いことを示し（例、第14表）、また(4)は選択肢4が二番目に多い選択肢よりも有意に度数の多いことを示す（例、第13表）。

「連合関係」欄の*は危険率5%以下で連合関係が認められることを示す。**は同じく危険率1%以下で連合関係の認められることを示す。

検定には χ^2 検定法を用いた。

各欄の上段の数字は実数を示し、下段の数字は%を示す。

被調査者の生育地はほとんどが調査地域であり、隣村等に生育したものが若干名（保原9名、茂庭なし）あったが、特に差異は認められなかったので、表には載せない。

居住経歴も調べたが、現住地域外の伊達郡、信夫郡に居住したことのあるものが保原に30名、茂庭に43名あった。ただし、これも差異が認められなかったので、表には載せない。

両親の出身地も調べた。福島北部以外の出身者の父（保原5名、茂庭8名）、母（保原5名、茂庭14名）を持つものの間にも、特に差異は認められなかったので、表には載せない。

マス・コミへの接近度、他地方の人との接觸度についても調べたが、表には載せない。

年齢の欄の②は20代、④は40代、⑥は60代（70代を含む）を示す。

学歴の欄の「小」は小学校卒、「中」は高小・新制中学卒、「高」は旧制中学・新制高校卒以上の学歴を有するものを示す。学歴なしが茂庭集落60代に2名あったが、これは小学校卒に含めた。また専門・大学卒が保原町60代、40代に各1名あったが、これは高校卒以上に含めた。

1. 音 韻

(1) i と e

既述したように、この方言では一般に i と e との区別がない。いくつかの語は高年者（の一部の人）は、[je], [jɛ] と発音する。すなわち、「襟」「えび」「枝」「江戸」「縁」「家」「よい」等を [jeri], [jɛbi], [jɛda], [jɛdo], [jɛN], [jɛ], [jɛ:] 等と発音する人が若干いる。この人たちは je と e との区別を持っているといえる。また一部の人には [je] 等の代りに [3e] あるいは [ze] 等と発音する。しかし、大部分の人は je と e との区別を持たず、i と e との区別を持たない。また、je と e との区別を持つ人もその他の語については i と e とを識別しない。前後の音声環境や場の条件等に応じて、[i], [i̥], [ɛ], [e] 等を発音する。特に高年層・中年層においては i と e とを区別する人はまれである。しかし、青年層では区別する人もしだいに増してきている。

調査語7のうち、「息」「駅」「インキ」「襟」についての調査結果を表示すれば、第13表～第20表のようになる（第2図～第9図）。

「息」についてみると、[ĩgi]*, [ĩki], [ĩgi] 等と [iki] とを合したものは、保原町・茂庭集落ともに大多数を占める（保原75.5%, 茂庭86.8%）。[eki], [ɛki] 等は保原町19.3%, 茂庭集落11.5%である（なお「その他」の中に「息」を [ɛgi] 等とも言うと答えたものが保原の40代に1名、20代に2名いる）。

これは、一見この地方において、i と e とを区別する人が大多数で、混同する人はごく少数であるかの如くみえる。しかし、実際は、次に来るモーラが /ki/ という狭母音によって形成されているという環境に影響されて、[i-] あるいは [i-] が発音されたのであって、i と e とを区別する人が大多数を占めるということではない。これは次の「駅」と比較してみることによって知られる。

「駅」においては、[ĩgi], [iki] 等と答えたものは両地域ともに約半数ある（保原47.3%, 茂庭50.4%）。[ɛgi], [eki] 等と答えたものは保原町45.6%, 茂庭集落42.6%である。すなわち、約半数のものは「息」も「駅」も [ĩgi], [iki] 等と答えているのである。さらに、また「駅」を [ɛgi], [eki] 等と答え、「息」を [ĩgi], [iki] 等と答えているものは保原町約31%, 茂庭集落約33%である（保原60代5.3%, 40代21.1%, 20代65.8%, 茂庭60代21.1%, 40代13.2%, 20代64.9%）。「アンケート調査」によれば、保原町において i と e とを明瞭に区別していると答えた人は全体の約30%である（60代14%, 40代28%, 20代59%）。i と e との識別については改めて後述するが、数語を通じて使い分けのできる人はきわめて少ないのである。

それにしても年齢別・学歴別の結果をみると、年代の若いものほど、また学歴の高いものほど

* ĩ, k 等はすべて口蓋化していることを示す。

共通語形〔iki〕〈息〉,〔eki〕〈駅〉が多くなっていることは当然予想される傾向を示すものと言える。もっとも、年代と学歴とはかなり密接な関係がある。それは第21表によって示される。

すなわち保原町では年代の低くなるにつれて学歴は高くなり、20代では大多数が高校を卒業している。茂庭集落の場合は、それほど明らかではないが、それでもやはり年代の低くなるにつれて学歴の高くなる傾向は容易にみられる。ともあれ、20代において急激に共通語化の形が多くな

第21表 年代と学歴

	保 原				茂 庭			
	20代	40代	60代	計	20代	40代	60代	計
1. な し	0	0	0	0	0	0	2	2
2. 小 学 校 卒	0	13	27	40	1	13	31	45
3. 高小・新中卒	9	17	8	34	21	20	5	46
4. 旧中・高校卒	29	7	2	38	15	5	0	30
5. 専門・大学卒	0	1	1	2	0	0	0	0
計	38	38	38	114	37	38	38	113

っていることは注目に値する。60代と40代との間よりも40代と20代の間に大きな違いがみられるのである。そして、全体として男性よりも女性に共通語化の形がやや多くみられるが、それは、20代の女性が多く共通語化の形を使用していることにもよるのである。農家の20代の女性で、生家の農業・林業だけに従事しているものはきわめて少ない（保原2名、茂庭1名だけであった）。大部分は会社・商店等に勤務している。男性の20代で、家業をつぐべく農業・林業に従事している人はかなりいる。これも、やはり一つの要因であろう。

「駅」において茂庭集落の60代にN.R.がやや多いが、これはteRsjabaおよびsuteNsjabaと答えたからである。また、保原町の20代の「その他」はすべて〔eḡi〕〔iḡi〕どちらでもよい等と答えている。

「インキ」についても保原町と茂庭集落とはほぼ同様な傾向を示している。〔iŋki〕,〔inki〕類等を合すると（〔i—〕類と〔i—〕類とを合すると）、それぞれ、53.5%、42.5%に達する。さらに共通語形の〔inki〕類等だけでも（〔i—〕類だけで）、それぞれ42.1%、33.6%とかなり高率である。学歴の高いものほど、また年代の若いものほど、とりわけ20代において共通語形がよく使われることは「駅」「息」と同様であるが、それが高率であることは、この語が外来語であるせいであろうか。（「その他」のうち、保原60代1名は〔i—〕の形を挙げ、40代3名は〔e—〕の形をも用いるといい、4名は〔i—〕,〔i—〕の形を挙げた。20代6名はすべて、〔i—〕,〔i—〕の形であった。また、茂庭60代1名は〔e—〕であり、40代は2名が〔e—〕,3名が〔i—〕,〔i—〕である。20代は1名の〔e—〕を除き、他は〔i—〕,〔i—〕である）。

「襟」については、保原町、茂庭集落ともに〔jeri〕等が約20%近くあることに注目したい。特に60代においては、それぞれ34.2%、36.8%もある。これは、かつてはこの語が多くの人に〔jeri〕等と発音されていたことを思わせるものである。年代が若くなるにつれて、減少し、20代では、それぞれ5.3%、2.7%という数字で、まもなく〔jeri〕等は姿を消すであろうことを思わせる。一方、〔eri〕類は全体としてそれぞれ50.9%、48.7%と高率である。それが、学歴の高いものや年代の低いもの（特に20代のもの）に多いことは他の項目の場合と同様である。「襟」における〔iri〕類

と「駅」における〔iki〕類とを比較すると、前者がはるかに少ない。そして「襟」において〔iri〕類を答えるのは40代に多い。すなわち、「襟」「蝦」等はず前は音韻/je/であって、他と区別されていたが、しだいにその区別が失われて40代に及ぶが、20代においては改めて/’i/と/’e/との区別を獲得するものが多くなって来ていることを示すものである。（「その他」は保原20代1名が〔jeri〕,〔eri〕を並用すると答えたほかは、すべて〔eri〕,〔eri〕等と〔iri〕等とをともに用いるという）。

いずれにしても、共通語化の度合いや過程は、音韻の場合でも語ごとに違いがあることを示しているともいえる（これについてはさらに後述する）。

(2) ε と e

この方言では、共通語の/ai/, /ae/に対応して、かつては/εR/があったと推測される。高年者には「蠅」「前」等を〔he:]〔mε:]等と発音し、「堀」「姪」等を〔he:]〔me:]等と発音して区別する人がいる。しかし、年代の若い人は、この/εR/を失ってきている。それが、どのような状態であるかを調査してみた。「堀」「蠅」についての調査結果を示せば次の第22表～第25表のようになる（第10図～第13図）。

「堀」についてみると（表は略す）、保原町、茂庭集落ともに〔he:]類が圧倒的である。学歴の高いものと、20代の青年層に〔hei〕がややみられた（それぞれ25%, 26.3%）のが注目された程度である。その他〔he:]が3名あったのを除けば他はすべて〔he:]類である（全体の平均は89%）。

「蠅」についてみると、両地区ともに〔hae〕類,〔hai〕類が多い。特に〔hae〕類が比較的多い。〔hai〕類より〔hae〕類が多いのは、直前が広母音aであるという音声環境によるものであろう。〔he:]と答えたものは意外に少ない。保原町10.5%, 茂庭集落6.2%にすぎない。そして、それは、ほとんどが60代のものである。ただし、「その他」のうち、〔he:]類と〔hae〕類とを挙げた人は保原60代17名、40代6名、茂庭60代10名、40代5名であり、〔he:]類と〔hae〕類とを挙げた人は保原40代5名、茂庭40代2名、20代1名であり、残りは〔hae〕,〔hai〕等を答えた。

次にさらに「〔he:]または〔he:]と言うことはないか」と尋ねた。「言うことがある」と答えた人と第1回目に〔he:]および〔he:]等と答えた人と合し、計保原町47名茂庭集落27名について、「蠅」と「堀」との発音に違いがあるかどうかを内省してもらった。この方言には、アクセントの型の区別がないから、これによって/εR/か/eR/かを判定できると考えたのである。数が少ないので、確定的な断言はできないが、第24表・第25表を見れば、60代では/εR/と/eR/との違いを持つ人がかなりいるが、40代では少なく、20代では全く区別できなくなっていることが知られる。これは急速に失われつつあるとみてよいようである。

(3) si と su

/si/, /su/, /sju/の区別がないことは東北方言の代表的な音韻の特徴の一つである。この地の方言もこれらの区別がなく、「茄子」と「梨」が全く同じに発音されるために、「茄子」をku-sanasu<草ナス>, hatakenasu<畠ナス>, kuronasu<黒ナス>等と言い、「梨」をkinasu<木ナス>, suronasu<白ナス>等と言って区別している。また、「死んだ」も「済んだ」もともに〔sũnda〕と発音される。「修身」は〔sũ:sũn〕であった。

しかし、これは現在では高年層に行なわれるだけであり、青年層の大部分は/si/、/su/、/sju/の区別を持っているようである。また高年層でも一部はその区別を持たないが、多くの人はある程度その区別をするようである。すなわち、ある種の語は混同するが、ある種の語は区別するようである。そして、その区別する程度は人によって違いがあるようである。そこで、その実態を調査しようとした。「茄子」「梨」「寿司」「鹿」「下」「手術」について調査した結果は第26表～第35表に示すとおり（第14図～第23図）。

「茄子」についてみると（表は省略）、全体として〔nasütü〕,〔nasu〕類が圧倒的多数（保原・茂庭ともに95.6%）で、〔nasī〕類はとるに足りない（保原3.5%, 茂庭2.7%）。

一体、この地の方言を含めて、南奥方言では本来/si/、/su/、/sju/の区別がないのであるが、それらは、すべて〔sütü〕と発音されるのが普通であり、既述したように〔nasütü〕/nasu/〈茄子・梨〉,〔sütü:sütüN〕〈修身〉のように表われる。あるモーラAの変容音として〔ji〕〔su〕〔ju〕〔si〕〔sütü〕等が自由に用いられているというのではない。したがって、〔nasī〕類が少ないのは当然予想されることであるし、さらに〔nasī〕類には誤った回帰も含まれている可能性さえある。〔nasī〕類が20代に全くみられないことも、きわめて自然であるとみてよい。

「梨」についてみると、全体では〔nasütü〕は保原町11.4%, 茂庭集落15.0%である。年齢別では60代に30%弱（保原26.3%, 茂庭28.9%）、40代に約10%（保原7.9%, 茂庭15.8%）みられるが、20代には全くみられない。反対に〔naʃi〕は20代で過半数に及ぶが、40代では10%強（保原10.5%, 茂庭15.8%）であり、60代ではほとんどみられない（保原に2.6%あるだけである）。学歴別をみると、低いものほど〔nasütü〕が多く、高いものほど〔naʃi〕が多い。すなわち、学歴の低い60代の人に〔nasütü〕が多いのである。ともあれ、現在では/nasi/と/nasu/とを混同する人は少なくなっており、20代では皆無に近いことは注目してよいであろう。（ただし、「その他」のうち、保原60代1名が〔nasī〕〔naʃi〕両形を挙げたほかは、すべて〔nasütü〕〔nasī〕をとともに用いるという）。

とはいっても、「茄子」「梨」でみられるこの傾向はすべての語に通じて言えるわけではない。語によっては、もっと多くの人が識別困難であるし、あるいは識別が容易である。たとえば「煤」と「寿司」の場合には混同する人がかなり多い。「寿司」を〔sütüsütü〕〔süsüsütü〕等という人は全体で20%～30%ある（保原18.4%, 茂庭29.2%、これも年代別をみると、60代に多く、保原町でも47.4%, 茂庭集落では63.2%に達するが、40代ではずっと少なくなり、20代では皆無になるという点や、学歴の低いものに多いという点では、「茄子」「梨」の場合と同様である）。また、茂庭集落では学歴の高い人にも〔sütüsütü〕類がみられる。これは当地の人びとにとって「梨」の第2モーラよりも、「寿司」の第2モーラの方が〔sütü〕と発音されやすいということであろう。それについては先行するモーラが/su/であるという環境に影響を受けていることも認めねばならないであろう。

ついでに、この「寿司」の第1モーラについていえば、これを〔si〕のように発音する人は全体として約5%ある（保原6.1%, 茂庭4.4%）。これも60代の人に多く（保原13.2%, 茂庭7.9%）、40代の人に少なく（保原5.3%, 茂庭5.3%）、20代の人には皆無である。ただし、学歴の高い人にもみられる（旧中等学校卒以上の学歴を持つものにも保原5.0%, 茂庭10.0%みられる）

ことは注目されるべきであろう。たぶん、誤った回帰によるものも含まれているのであろう。(ただし、「その他」13名のうち、第2モーラを〔süü〕とも言っていると答えた人は保原60代1名、40代2名、茂庭60代1名、40代3名であり、他は〔sī〕または〔ji〕)。

次に「鹿」の第1モーラについてみると、これを〔süü〕と発音する人は全体として、保原町21.1%、茂庭集落15.9%ある。これもまた、60代に多く(保原44.7%、茂庭36.8%)、40代に少しみられ(保原18.4%、茂庭7.9%)、20代にはほとんどみられない(保原0%、茂庭2.7%)。また共通語風の〔jika〕の発音が20代に急激に増している(保原50.0%、茂庭64.9%)ことや、学歴の高いものに〔süka〕がほとんど表れず、〔jika〕が多いことなどは、既述の各項と同じ傾向である。

「下」についてみると、〔süita〕はずっと少なくなって、全体としては保原町、茂庭集落ともに0.9%に過ぎない。反対に〔jita〕は全体としてもそれぞれ38.6%、34.5%と高率であり、特に20代では65.8%、73.0%となっている。

「手術」の第1モーラについてみると、全体としては保原町、茂庭集落のそれぞれ30.7%、28.3%が〔süü〕であり、60代では、それぞれ50.0%、60.5%であり、20代でもそれぞれ18.4%、2.7%を占める。一方〔ju〕類は全体として12.3%、15.0%であり、20代でもそれぞれ29.0%、37.8%にすぎない。

以上にみられるように、語によって、区別の容易なものもあるし、困難なものもあるようである。「梨」、「寿司」(第2モーラ)、「鹿」、「下」、「手術」について、〔süü〕と答えたものを比較すると次のようになる。

	全	保 60代	原 40代	20代	全	茂 60代	庭 40代	20代
手術	30.7%	50.0	23.7	18.4	28.3	60.5	21.0	2.7
寿司	18.4	47.4	7.9	0	29.2	63.2	23.7	0
鹿	21.1	44.7	18.4	0	15.9	36.8	16.1	2.7
梨	11.4	26.0	7.9	0	15.0	28.9	15.8	0
下	0.9	0	0.9	0	0.9	2.6	0	0

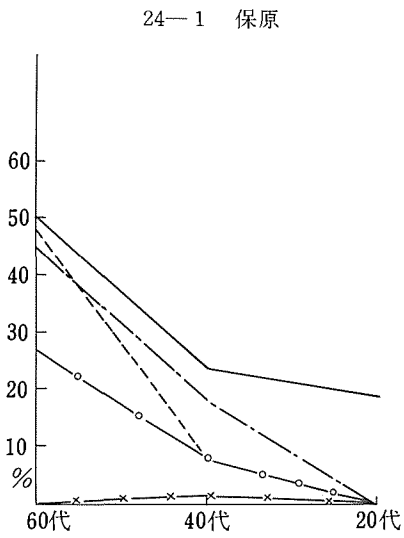
また、同様にji(ju)と答えたものを比較すると次のようになる。

	全	保 60代	原 40代	20代	全	茂 60代	庭 40代	20代
手術	12.3%	5.2	2.6	29.0	15.0	5.3	2.6	37.8
寿司	9.6	0	0	28.9	8.0	0	0	24.3
鹿	21.1	5.3	7.9	50.0	26.5	5.3	10.5	64.9
梨	22.8	2.6	10.5	55.3	27.4	0	15.8	67.6
下	38.6	21.1	28.9	65.8	34.5	7.9	23.7	73.0

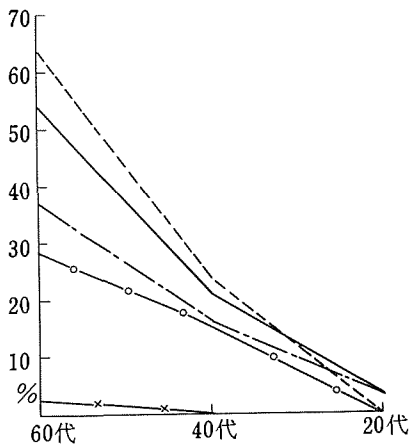
これをグラフに示すと第24・25図のようになる。

すなわち、保原町では、「手術」がもっとも方言音の〔süü〕音を保存し、共通語的な〔ju〕音は20代の人にもあまり行なわれていない。ついで「寿司」が共通語化していない。もっとも共通語的な語は「下」であり、「鹿」「梨」はその中間に位する。

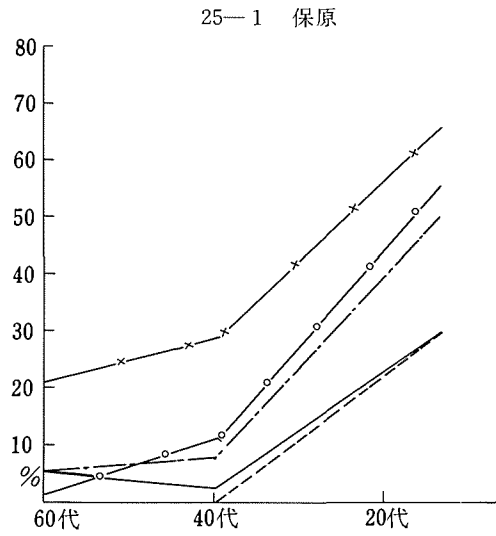
第24図 sū の使用度



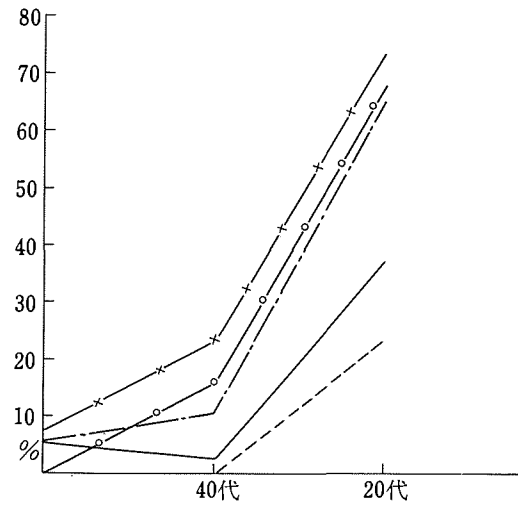
24-2 茂庭



第25図 ſi,ſu の使用度



25-2 茂庭



手術 —————
 寿司 - - - - -
 鹿 - · - - -
 梨 —○—○—
 下 —×—×—

茂庭集落では「寿司」「手術」がもっとも方言音の〔stü〕を保存し、共通語的な〔ʃi〕〔ʃu〕音は20代の人にも比較的少ない。最も共通語的な語は「下」であり、「鹿」「梨」はその中間に位する。

両地区に共通して「手術」「寿司」はなかなか共通語化せず、「下」はよく共通語化しているといえる。そして、それは「手術」「寿司」が、いずれもその直前あるいは直後のモーラが/zju/あるいは/su/であり、「下」はその直後のモーラが/ta/であるという環境も無視できないであろう。また40代で急激に〔stü〕音が減少しているが、といって共通語的な〔ʃi〕あるいは〔ʃu〕がそれほど急激な増加をみせていないことも注目される。この年代では中間音の〔si〕が多いのであり、まさに共通語化への過渡期の状態を示しているといえる。

(4) ci, cu, cju

この地の方言も他の東北方言と同様に/ci/, /cu/, /cju/の区別がない。高年層は一般に「地理」も「釣り」も〔tsürī〕のように発音し、「中学校」は〔tsü:ɲakko:]のように発音する。すなわち、共通語の/ci/, /cu/, /cju/に対応して、多くは〔tsü〕と発音するのが普通である。したがってこの地の本来の方言としては、共通語の/ci/, /cu/, /cju/に対してモーラ/cu/をたてればよい。また、いわゆる語中・語尾に位置している場合は現実には多く濁音となっている(と解釈し得る)が、その場合も同様である。すなわち、「松」も「町」も同じく〔mazü〕〔madzü〕のようであり、「途中」は〔tozü:]〔todzü:]のように発音される。ただし、現在では/ci/, /cu/, /cju/の区別を持つ人が増しており、特に20代以下では区別のできない人はほとんどないといってもよい。60代の人でも、この区別を持つ人はかなり多い。その実態を知ろうとして「地図」「注射」「焼酎」「赤児籠(嬰兒籠)」「狐」「手術」等について調査した。

「狐」の第2モーラ、「手術」の第3モーラについてみると、圧倒的に〔tsü〕あるいは〔zü〕〔dzü〕等であって、〔tsi〕あるいは〔zi〕〔dzi〕等と答えた人は両地区ともにほとんどみられなかった(「手術」の第3モーラを〔dzi〕〔tsi〕等と答えたものは保原2名、茂庭2名だけである。「狐」の第2モーラについては、それぞれ1名、0名)。それ以外の各項の結果は第36表～第43表に示すとおりである(第26図～第33図)。

「地図」についてみると、「tsü—」のように発音する人は全体として、保原町16.7%、茂庭集落24.8%である。60代の人では、かなり多いが(保原39.5%、茂庭50.0%)、40代で急激に減少し(保原10.5%、茂庭21.1%)、20代ではほとんどみられなくなる(保原0%、茂庭2.7%)。また、20代で共通語的な〔tʃi〕を発音する人が急激に増している(保原63.2%、茂庭81.1%)ことや、学歴の高い層に〔tʃi〕が多いことなどは既に述べた他の特徴の場合と同様である。(ただし、「その他」のうち、保原40代3名と茂庭40代2名はともに〔tsü—〕の形も用いるという)。

「注射」についてみると、〔tsü:sa〕のように〔tsü〕と発音する人は全体として保原町27.2%、茂庭集落で19.4%である。この場合も60代の人では約半数に達する(保原55.2%、茂庭47.3%、なお、「その他」の保原60代2名は〔tsü—〕も用いるという)が、40代で急激に減少し、20代ではほとんどみられなくなる(保原2.6%、茂庭5.4%)ことや、学歴の高い層にはほとんどみられなくなることは「地図」の場合と同様である。ただし、共通語的な〔tʃu:sa〕が20代からではなく、40代で急激に増すことは「地図」の場合とやや異なっている。

「焼酎」は、その傾向が「注射」の場合と酷似している。ただし、全般的に方言音の〔tsü:]等の表われる度数がやや高い。

「赤児籠（嬰兒籠）」は、東北地方に広く用いられるもので、わらで編んだ籠で、嬰兒を入れておくものである。東北方言では一般に〔ɛ̃ziko〕〔ɛ̃züko〕〔ɛntsiko〕〔ɛntsüko〕〔ɛtsiko〕〔ɛtsüko〕〔ĩziko〕〔ĩzüko〕〔itsiko〕〔itsüko〕等といわれる。出自は「嬰兒籠」であろう。既述したように撥音や無声化母音の次の t 音、k 音は濁音化しないという性質の下で、この地の方言では「一時間」が〔itsütsükan〕と発音されるように、多く〔itsüko〕あるいは〔itsiko〕と発音される（もし、/ci/, /cu/の区別があるなら〔itsiko〕あるいは〔itjiko〕等が期待されるところであろう）。

さて、この「赤児籠」についてみると、「知らない」あるいは誤答の類が多く、特に20代に目立つ。これは物自体が戦後しだいに見られなくなったことと関係があらう。

〔itsüko〕類と〔itsiko〕類についてみると、〔itsüko〕類が全体としてかなり度数の多いこと（保原34.2%，茂庭29.2%）、保原町では60代より40代の方が〔itsüko〕類の度数が多いこと、茂庭集落で40代と20代とがほとんど同じように〔itsüko〕類の度数があること等は、他の項目の場合と異なっている。（「その他」はすべて〔itsüko〕類と〔itsiko〕類とをともに用いると答えている）。

これは、もはやこの地方で、出自が「赤児籠」であることが忘れられて、回帰が不可能になっていることを示すものであらう。

この4語について、グラフを作ると第34・35図のようになる。

すなわち、/ci/, /cu/, /cju/において、/ci/の識別よりも、/cju/の識別の方が40代で急激に増してきていることを知る。

(5) zi, zu, zju

この地の方言では/zɪ/と/zu/と/zju/の区別がない。「字」も「図」も同じく〔dzü〕〔zü〕のように発音される。〔dziügan〕は「時間」「図巻」「図鑑」等を指す。また「重箱」は〔dzürbago〕のように発音される。すなわち、共通語の/zi/, /zu/, /zju/に対応して、多くは高年層には〔dzü〕あるいは〔zü〕が表われる。したがって、この地の本来の方言は共通語の/zi/, /zu/, /zju/に対応するモーラとして、/zu/だけを設ければよい。

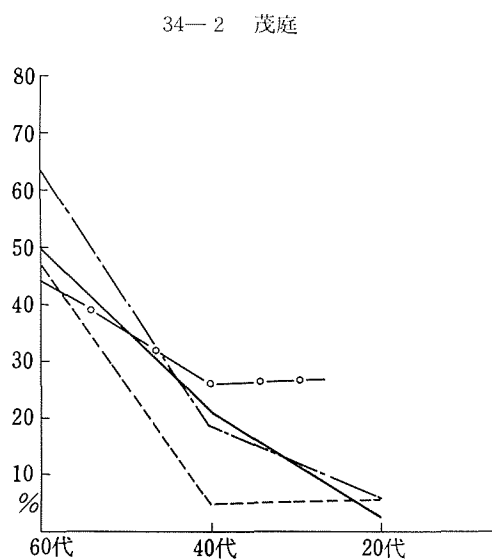
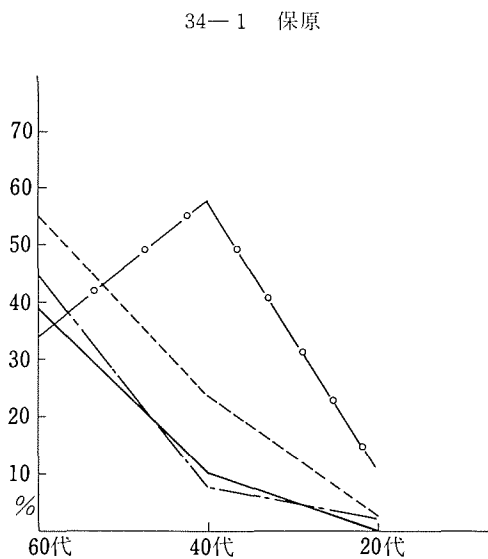
いわゆる語中・語尾においては、〔kandzüja〕〔kãdzüja〕〈鍛冶屋〉のように鼻音を伴うことが多いが、この場合にも、高年層には/-zi/, /-zu/, /-zju/の区別のない人が多い。〔kü̃dzü〕は「屑」でもあるし「籤」でもある。「知事」も「地図」も〔tsü̃dzü〕と発音される。「二十」も〔nĩ̃dzü:]である。

また、既述のように、この地の方言では「僅か」「短い」「三時間」「一時間」等を〔wantsüka〕〔mĩntsüka:]〕〔santsükan〕〔itsütsükan〕のように発音する。これは/-k-/、/-t-/等が撥音や無声化母音の次では濁音化しないという性質と関係があるであらう。

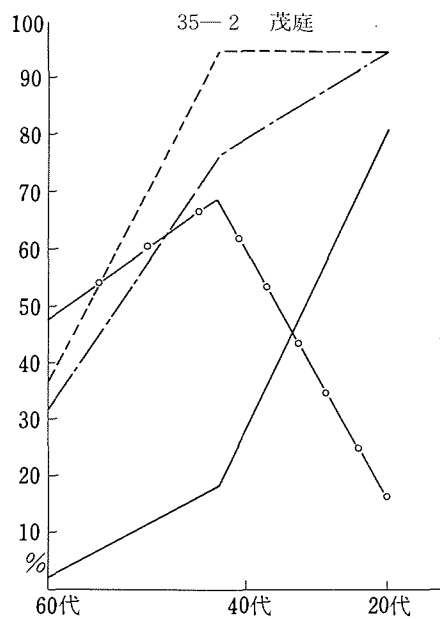
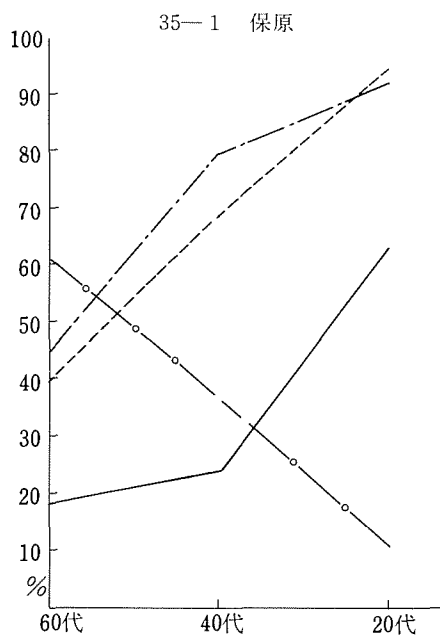
しかし、実際には、現代ではかなり多くの人々が/zɪ/, /zu/, /zju/の区別を持つようになって来ている。特に若い20代の人々は、ほとんど大部分がこの区別を持っている。

これらの特徴の実態を調査するための項目として、「字」「重箱」「地図」「手術」「すじこ」「短

第34図 tsüü の使用度



第35図 tji,tju の使用度



地図 —————
 注射 - - - - -
 焼酎 — · — · —
 赤児箸 — ○ — ○ —

い」を設けた。その結果は既に他の特徴において揭示したものを除き第44表～第51表に示される(第36図～第45図)。

共通語の/zu/に対応して表われるのは〔dzü〕あるいは〔zü〕である。〔dzi〕〔zi〕等が表われていることは極めて少ない。「地図」においては〔tsü~dzü〕〔tsi~dzü〕〔tsüdzü〕〔tsidzü〕等が多く表われている。高年層には〔tsü~dzü〕〔tsüdzü〕が多く、青年には〔tsidzü〕が多い。60代においても〔tsi~dzi〕等の表われることは約8%にすぎず、これは40代の場合にも若干みられ、学歴にも関係なく表われているが、それらの中には誤った回帰の結果も含まれているであろう。

「字」についてみると、〔dzü〕〔zü〕等と答えたものは全体として、保原町17.5%、茂庭集落13.3%であるが、60代には多く(保原39.5%、茂庭28.9%)、40代では急激に減少し、20代では全くみられない。また、学歴の低いものに多く、高いものに少ない。一方、共通語的な〔dzi〕類は20代で急激に増している(保原63.2%、茂庭81.1%)。

これは「重箱」の場合もほぼ同様な傾向であるが、共通語的な発音が「字」の場合よりも各年代を通じて多く、特に40代において、すでに圧倒的多数に達していることが注目される。(ただし、「その他」のうち、〔dzü—〕〔dzi—〕等をともに用いると答えたものは保原60代2名、40代1名、茂庭60代1名、40代1名であった)。この場合の/zju/は比較的に共通語化が容易であると観察された。

なお、60代に「N.R」類が多かったのは、〔kasanebadzü〕〈重ね鉢〉等の反応をした人(茂庭60代1名)と〔dzi:bago〕等と答えた人(保原60代4名、茂庭60代2名)とを含めたためである。

ところで、「重箱」における以上のような反応はすべての/zju/においても適用できるわけではない。「手術」の第2モーラについてみると(第34・35表、第40・41図)、〔~dzü〕〔dzü〕等の表われ方は極めて多い。全体としても、保原町61.3%、茂庭集落64.6%であり、60代では大多数の人がそうであるといってよい。40代でもかなり多く(保原65.7%、茂庭84.2%)、20代でもある程度みられる(保原44.8%茂庭18.9%)ことは他の場合と異なっている。共通語的な発音は20代でも、それほど多くはないのである(保原18.5%、茂庭32.4%)。これは、この語の構成が/zju/の前後に/sju/、/cu/を持っている事情によるものであると考えられる。「その他」のうち、茂庭20代2名を除き、他は〔—dzü—〕をも用いるという)。

次に「すじこ」の第2モーラについてみると、〔sü~dzügo〕類、〔südzüko〕類が多く、全体として保原町44.7%、茂庭集落68.1%であり、60代、40代ともに大多数はそうのように反応する。むしろ40代の方が60代よりもその度数は多い。20代でもかなりの数が見られる(保原21.1%、茂庭35.1%)。〔sü~dzügo〕〔südzüko〕類も保原町では60代からかなりみられるが、やはり20代で急激に増している。保原町と茂庭集落を比較すると、60代、40代で茂庭集落に〔sü~dzügo〕類、〔südzüko〕類等の多いことに気づく。「N.R」類が多いのは〔harakko〕〔akenoko〕等が多かったためである。一体、この語は東京でも「すじこ」「すずこ」の両形が使用されているように、共通語形として明確に「すじこ」が示されていたわけではなく、魚屋の店頭でも、店店によってどちらかの形を掲示している(しだいに「すじこ」が多くなってきているようである)。この地方では、かつて「すじこ」そのものが一般的な食品として口にされることはなかった。物も、語も戦後に広まったのであり、現在でも一般

的な食品ではない。「N.R」が多いのもそのためであろう。

魚類が宮城県より多く入ったせいもあって、南奥方言（宮城県方言）で一般的な/suzuko/（すずこ）が正式名であると思っている人も多い。40代に〔sũ~dzũgo〕類の極めて多いこと、20代でもかなりみられるのは、/zi/, /zu/の区別のできる人でも/suzuko/を正式名と思っている人がかなりあることを物語っている。（「その他」のうち、保原60代、20代各1名を除き、他はすべて〔-dzũ-〕をも用いるという）。

「短い」は特殊である。高年層には〔mĩntsũkæ〕〔mĩtsũkæ〕類が表われる。すなわち、60代では保原町44.8%、茂庭集落28.9%あるが、40代で急激に減少し20代ではほとんどみられないのは他の多くの場合と同様である。一方〔mitsũkæ〕類も60代では保原町45%、茂庭集落53%あるが、40代では24%~29%と減少し、20代では8%~20%である。代って共通語形の〔midzũkai〕類が増す。〔mitsũkæ〕類と〔midzũkai〕類とを合するならば60代でも53%~63%、40代では74%、20代では92%~97%に達する。これはほぼ「字」において〔dzi〕と〔dʒi〕とを合した場合に相当する。

以上の考察によって、次のようなことが言い得るであろう。

/zi/, /zu/, /zju/の区別がないというこの地の方言の特徴においても、たとえば「字」についてみると、60代の30%~40%のものが〔dzũ〕であるが、40代では10%ぐらいに急減し、20代ではほとんど全くみられず、逆に共通語的な発音は20代で急激に増し60%~80%に達する。もはや現代では、地域全体として、高年層の一部を除いて全く /zi/, /zu/, /zju/の区別のない人は少ないといっている。「重箱」の/zju/のごときは40代でも80%~90%の人が共通語的な発音をする。とはいっても「手術」の第2モーラの場合は60代はもちろん、40代でも70%~80%が〔dzũ〕類の発音で、20代でも20%~45%の人がそうである。共通語的な発音は20代でも20%~30%にすぎない。すなわち、共通語化の速度は語によりまちまちである。語の形態にも関係があるようである。

また、「すじこ」「短い」のような特殊な事情のある語は、事情に応じて共通語化の道をたどっている。

(6) -k-, -t-, -d-

既述したように、この地の方言では、共通語におけるいわゆる語中・語尾の/-k-/、/-t-/、(/-cu/)等に対応して、多く〔-g-〕、〔-d-〕、〔(-zũ)〕等が表われるが、音韻としては、やはり/-k-/、/-t-/、(/-cu/)等であると解釈し得る。同様に共通語の/-g-/、/-d-/、(/-zu/)等に対応して〔-ŋ-〕、〔-d-〕、〔(-dzũ)〕等が表われるが、これも音韻としては/-g-/、/-d-/、(/-zu/)等であると解釈し得る。ただし/-g-/は、共通語の場合と同様に特殊の場合を除いてほとんど〔-ŋ-〕のみが表われるが、/-d-/、(/-zu/)等は〔-d-〕〔(-dzũ)〕等が多く表われるとはいっても、〔-ŋ-〕ほどではない。

また/-k-/、/-t-/においては、音声環境によっては〔-k-〕〔-t-〕が表われることも既述したとおりである。

そして、これらの特徴も現在では一般的に言って共通語化しつつあると言える。「鍵」を〔kaji〕ということは60代も20代も同じで、ほとんど全員がそうである。「柿」を〔kagi〕等といい、「旗」を

[hada] 等といい、「肌」を [ha~da] 等ということは高年層には極めて多いが、青年層には少ないと言える。

また、この地の方言では北奥方言にみられるように、

kikanε:	きかない (わんぱくだ)	Φũta	蓋
kigane:	聞かない	Φũda	吹いた
kijanε:	気がない	Φũ~da	札

のような対立はみられない。

これらの特徴の実態を調査するために、次の項目を用意した。

- k- —— 息, 駅, 雪, 百円, 重箱, すじこ, 金庫, インキ, 急行, 農協, 鹿, 深い, きかない
(わんぱくである), 聞かない
- t- —— 的, 下, (-cu-, 狐, 焼酎, 手術)
- d- —— 窓, (-zu-, 地図, 短い, すじこ, 手術)

これらについて、既述の他の特徴において掲示した項目を除き、その主なものについて結果の表を示す。まず、-k- について示せば第52表～第61表のようになる (第46図～第51図)。

いわゆる語中・語尾の-k- についてみると、「息」「駅」「雪」は全体として、保原町、茂庭集落ともに [-g-] が過半数 (60%～70%) を占めている。年代別にみると、60代では80%～90%に達するが、40代でも70%～85%の度数があり、20代では急激に減少するが、それでも20%～40%のものが [-g-] と答えている。それに反比例して、20代に [-k-] が急激に増している。また、学歴の低いものに [-g-] が多く、高いものに [-k-] が多くなる傾向もみられる。いずれにしても [-g-] が40代以上の大多数に使用されていることは、20代でもなお20%～40%のものに現在でも使用されていることとともに注目すべきであろう。この特徴がかなり根強いことを思わせるものである。

ところが、「百円」についてみると、[-g-] は一般的にかなり少なくなっている。全体としても、保原町24.6%, 茂庭集落40.7%であるが、60代でも40%である。ただし、40代でもあまり変わらず、茂庭集落では逆に多少増加さえしている。20代ではかなり減少する (保原2.6%, 茂庭27.0%)。[-k-] はそれだけに多く、60代、40代でも45%～65%あることは、「息」等とかなり趣を異にしているといえる。これは「百円」の場合は [çakũen] のように、母音が無声化していることもあり、この語の形態にも関係があるであろう。

「すじこ」の第3モーラについてみると、これも [-g-] は全体として度数が少ない。保原町23.6%, 茂庭集落は31.8%である。年代別をみると、保原町では、ほぼ「百円」の場合と同様に60代42.1%, 40代29.0%, 20代では皆無となっている。ただし、「N.R」等が多い。これは既述したように [jakenoko] <鮭の子>, [haŋaŋko] 等の回答がかなりあったからである。茂庭集落では [-g-] は60代31.5%, 40代55.3%, 20代8.1%で、40代の方が60代よりも度数の多い点やや特異である。「N.R」が多いのは保原町と同様である。既述したように、この「すじこ」はこれらの地域で普通に食用に供せられるようになったのは戦後であり、かつては、一般的な食料品ではなかった。「-g-」が比較的になく、「-k-」が比較的に多いのは、物そのものとともに語もまた多くの人にとって比較的新しく入ってきたことによるものであろう。すなわちこれは、この地の多く

の人にとって一種の新語ともいえる。それにしても、60代に〔-k-〕が多いのは何故であろうか。あるいは「卵」「子」を意味する/ko/と認めたせいであろうか、それとも指小辞の/ko/と認めたせいであろうか、魚屋のいう[sũdzũko]をそのまま受け入れたためであろうか。それとも、また、日雇いや出稼ぎに出る40代の人の方が、南奥方言で一般的な[sũːdzũgo]類を耳にする機会も多かったせいであろうか。40代で〔-go〕類が多いのは、必ずしも〔-go〕と〔-ko〕との識別ができないせいではないであろう。

次に「鹿」「深い」についてみると、ともに〔-g-〕は1名もない。「鹿」は誤答した人が両地区に1名ずつあったが、それを除けば、全員が[sũka] [sĩka] [jika]等と答えた。ほとんどが無声化母音を伴っていたことも注目された。「深い」についても同様である。ただし、繰り返し発音させた場合に保原町の高年者女性の1名が[xuŋaɾ]のようにやや濁音化したのが1例観察された。

次に「きかない子（わんぱくな子）」と「聞かなかった」とをみよう。これは既述のように北奥方言では/kikanɛ/〈きかない（わんぱく）〉と/kiganɛ/〈聞かない〉との対立のあるものである。しかし、この地方では、一般にその対立はみられない。準備調査で数人の高年者について、かなり詳しく観察した場合もそうであったが、この面接調査の結果でも高年者にはこの対立は全く表われていない。ただし、準備調査のさい、保原町の40代の学歴の高い男性は繰り返し確かめた場合に、最初は「きかない子」も「この頃はラジオは聞かない」も同じように[kjkanɛ:]と発音したが、そのうちに、前者は[kjkanɛ:]だが、後者は[kiganɛ:]であって、対立があると反応した。面接調査の結果をみれば、保原町では60代、40代はすべて[kjkanɛ:] [tjkanɛ:]等であって〔-g-〕の例は全くないが、20代では前者は〔-k-〕であるが、後者は〔-g-〕であると答えたものが2名いる。いずれも高校卒で比較的学歴の高い人たちである。

また茂庭集落では、「きかない子」の場合に〔-g-〕と反応したものが20代に2名あった。「聞かない」の場合に〔-g-〕と反応したものは、20代に3名、40代に3名、計6名あった。ただし、20代の3名のうちの2名は、「きかない子」に〔-g-〕と反応したものと重複する。また40代の3名のうちの2名は「きかない子」の場合にも〔-g-〕と言ってよいと説明している。したがって、茂庭集落で「きかない子」を〔-k-〕と言い、「聞かない」を〔-g-〕と言って対立を持っているような人は40代1名、20代1名ということになる。

すなわち、保原町20代男女各1名と、茂庭集落40代女性1名、20代男性1名との4名については、確かめることができなかったので確言はできないが、「きかない子」は〔-k-〕であり、「聞かない」は〔-g-〕であるという対立を持っている可能性がある。今後この地方で/-k-/、/-g-/、/-ŋ-/の対立を持つようになる可能性は皆無とはいえない（「きかない子」についても〔-g-〕で反応したものがいるので、あまり期待はできないが）。しかし、現在は少なくとも高年層の間には/-k-/、/-g-/、/-ŋ-/の対立はない。40代、20代の人についても一般的には対立はないとしてよいであろう。

それにしても「深い」「鹿」の場合には〔-g-〕が1例も見られなかったのに、「聞かない」「きかない子」の場合には〔-g-〕が数例見られたのは、/-k-/の直前のモーラの子音が前者は摩擦音であるのに対して、後者は破裂音であるためであろうか。

次に「金庫」「インキ」についてみると、これらも両地区ともに〔-k-〕だけが表われ〔-g-〕は1例も表われなかった。これらの語はそれぞれ漢語と外来語であるという条件とともに、撥音の次にあるという条件を考慮する必要があるだろう。

また「急行」「農協」についてみると、これらも両地区ともに〔-k-〕だけが表われ、〔-g-〕は1例も表われなかった。これらの語は/-k-/の直前のモーラが長音であることとともに比較的新しい漢語であることに注目せねばならないであろう。

要するに/-k-/については、一般に〔-g-〕が多く表われるが、〔-g-〕と〔-k-〕とを識別する習慣はこの地の人たちは本来持っていない。/-k-/に〔-g-〕が表われるというこの特徴はかなり強力で、語によっては60代のみならず40代でも70～85%の人が〔-g-〕を使用するが、20代では減少する。そして、〔-g-〕の表われ方は語によってかなり違いがあり、語の条件によっては全く〔-g-〕が表われず〔-k-〕のみが表われることもあるといえる。

次に-t- (-cu) について結果の表を示せば第62表～第65表のようになる（第52図～第57図）。

「的」についてみると、〔-d-〕は全体として保原町63.2%、茂庭集落64.6%で、度数は〔-k-〕の場合と同様に多い。60代では92%～97%を占める。「N.R」類が多いのは〔çø:tegi〕〈標的〉等と答えた人が多かったためである。それらを除けば、ほぼ全員が〔-d-〕で反応したといえる。40代でも65%～82%が〔-d-〕であり、〔-t-〕は少ない(保原21%、茂庭2.6%)。20代になると急激に減少し、19%～26%であるが、「N.R」が比較的に多いので、語によってはさらに度数は多くなるものもあろう。20代の半数以上が共通語的な〔-t-〕で反応していることは、学歴の高いものほど〔-t-〕が多くなることとともに注目される。

「手術」の第3モーラにおいても同様な傾向がみられる。保原町ではわずかではあるが、高年層において〔-dzü〕が「的」の場合より少なく、〔-tsü〕が多いのが目立つ。茂庭集落では全般的に〔-dzü〕が「的」の場合より少なくなっていて〔-tsü〕がやや多い。この語が比較的新しく使用された漢語であることや、無声化しやすい母音の〔u〕を伴うモーラであることも考慮する必要があるだろう。しかし大まかには「的」「手術」は、ほとんど同様な様相を示している。それは/-t-/の場合に〔-d-〕が多く表われるという、この地の方言の特徴が/-k-/に〔-g-〕が表われる特徴と同様にかなり強いものであることを示している。

「狐」はかなり異なる。全体としてみても〔-dzü〕は保原町21%、茂庭集落44%である。60代では53%～71%あるが、40代では保原町10.5%、茂庭集落47.4%と減少する。20代では保原町は皆無となり、茂庭集落でも14%にすぎない。すなわち、全般的に「的」「手術」よりも〔-dzü〕の度数が少ないのは、この語の形態上、/ki/が無声母音のモーラとなりやすいせいでもあろう。保原町と茂庭集落との間にも差がみられ、茂庭集落に〔-dzü〕が多いがそれは現実に狐狸が出没し、よく狐にだまされたという茂庭集落の環境にもよるであろう。ここでは狐狸がしばしば話題となり、「狐」という語も近い存在である。

すなわち、無声子音に挟まれた狭母音は後続の母音が広母音である場合には、既述したように圧倒的に無声化しているが、後続の母音が狭母音である場合には無声化したりしなかったりしている。こういう場合には日常よく使用され、身近になっている語が、より母音無声化の度が低く、したがって逆に子音/-k-/、/-t-/等の濁音化が多いように思われる。

次に「下」をみると、[sũta] [sĩta] [jĩta] 等がほとんどで、[-d-] は両地区を通じて1例もない。この語は第2モーラが広母音で終わっていて、母音の無声化を生じやすい構造を持っている。事実において第1モーラは母音の無声化とともに有気音を伴っていることが多い。ともかく、調査した限りにおいては例外なく [-t-] であった。

以上によって、次のことが明らかである。すなわち、/-t-/ (-cu) は一般に [-d-] が多く表われるというこの地の方言の特徴はかなり強力で、40代以上は大半がこの特徴を保持しているが、20代ではかなりこの特徴を失い共通語化しつつある。また、語の持つ条件によっては、[-d-] の表われ方には違いがみられ、中には全く [-d-] の表われないものもある。

次に -d- (-zu) について、結果の表を示せば第66表、第67表のようになる(第58図～第61図)。

「窓」についてみると、[-~d-] は全体として、保原町36.8%、茂庭集落23.0%で/-k-/や/-t-/の場合よりかなり少ない。

60代でも44.7%～42.1%にすぎず、40代では52.6%～26.3%であり、20代では保原町は13.2%であるが、茂庭集落では皆無となる。保原町の40代は60代と比較してむしろ増加の傾向さえみせる点が注目されるが、一般的に/-d-/の場合に [-~d-] が表われるという特徴は、それほど強力ではないと言えそうで、60代でも半数以上は共通語的な [-d-] である。

この傾向は、この語に限ったことではない。「地図」の第2モーラの場合もほぼ同様である。保原町で40代の方が60代より [-~dz-] の表われ方がやや多いという点まで同じである。が、これは60代と40代との間には「あまり差がない」と解釈すべきであろう。茂庭集落では全般的に「地図」の場合が「窓」の場合よりも [-~dz-] の表われ方が多く、(保原町でもややその傾向がみられた)、60代では70%近くあるが、40代34%、20代8%と減少する。

たぶん、/-d-/、/-zu/等に [-~d-] [-~dzũ] 等が表われるという特徴はかつてはかなり盛んであったろうが、現在ではそれほど強力ではないと言える。

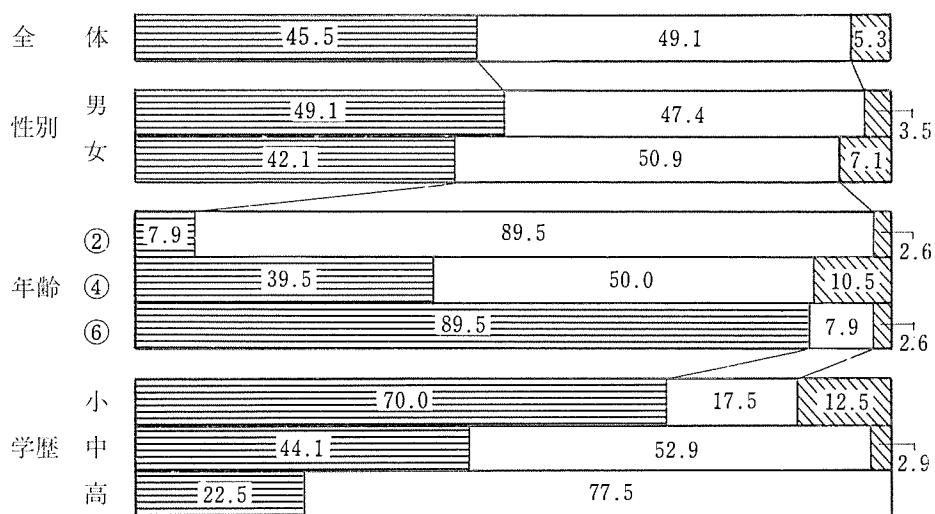
ところで、「短い」を、/-zu/に [-~dzũ] 等が表われるという観点からみると、この語は [mĩ~dzũgɛ:] ではなくて、[mĩntsũkɛ:] [mĩtsũkɛ:] のように発音されるのが普通である。調査の結果では60代では90%～84%が [mĩntsũkɛ:] [mĩntsũkɛ:] [mĩtsũkɛ:] などと反応した。年代が低くなるにつれてしだいに減少し、40代では40%～45%となり、20代では8%～24%となる。それに逆比例して共通語的な [midzɪkɛ:] が多くなっている。[mĩndzũgɛ:] とか [mĩ~dzũgɛ:] 等の形はほとんど表われない。かつて [mĩntsũkɛ:] が成立する際には、[mĩ~dzũgɛ:] → [mĩndzũgɛ:] → [mĩntsũkɛ:] のような過程が推測されるが、共通語化する場合には中間形をおかずに、一気に回帰するのである。

それにしても、「短い」の場合に [mĩntsũkɛ:] 類、[mĩtsũkɛ:] 類が多く、[mĩ~dzũgɛ:] 等がほとんど表われないということは注目すべきであろう。/-k-/、/-t-/等が撥音や無声化母音の次にある場合は [-g-]、[-d-] が表われないという性質と関係があると思われる。(ecuko <赤児籠> についてもほぼ同様のことがいえる)。

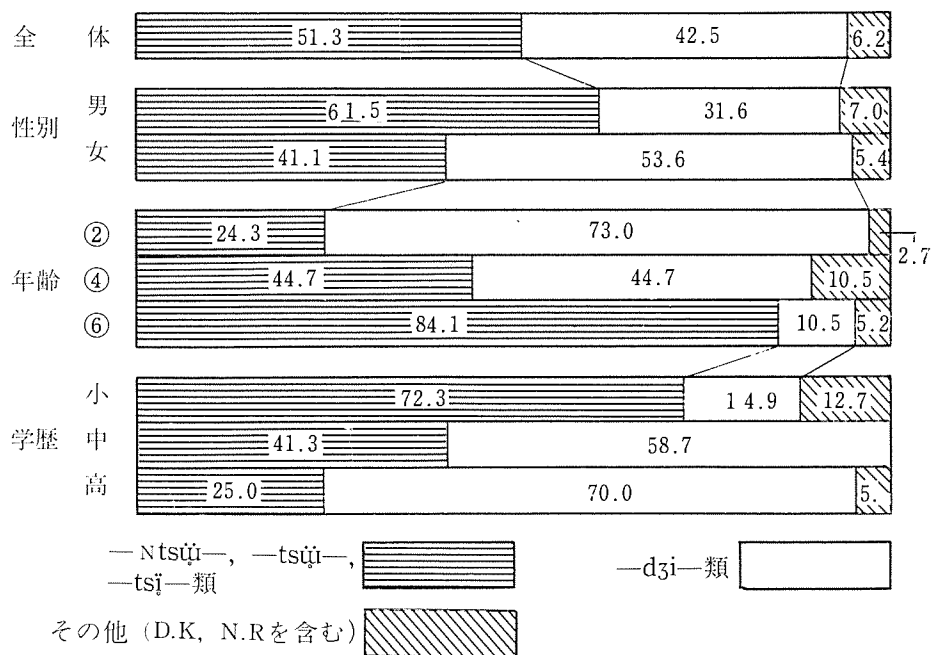
さて、以上によって次のようなことが明らかとなる。

/-d-/、/-zu/に [-~d-]、[-~dzũ] が表われるという特徴は、かつては盛んであったろうが、現在では/-k-/、/-t-/と比較すればあまり強力ではない。語によって差があるし、地域によって

第60図 3.43 短い（保）



第61図 3.43 短い（茂）



も差がある。「窓」は保原町では60代、40代ともに40%~50%であるが、20代では13%になる。茂庭では、60代で40%あるが、40代で30%程度になり、20代では10%以下に減少する。また「短い」のような特殊な語では、60代では両地区とも〔mĩntsũkẽ:] 等が極めて多いが(90%~84%)、年代の低くなるにつれて急激に減少し、20代では10%~20%にすぎない。そして、共通語形が(中間形を経ずに)一気に進出する。

(7) /ki/ と [cĩ]

既述したように、この地の方言では共通語の/ki/に対して、[kĩ] [cĩ] 等が表われるが、音韻としてはやはり/ki/であると解釈される。/-ki/の場合には音声環境に応じて、[-gĩ)[-zĩ)[-cĩ] 等が表われるが、これも音韻としては/-ki/であると解釈される。/kja/, /kjo/, /kju/および/-kja/, /-kjo/, /-kju/についても同様なことがいえる(ただし、/(-)kja/, /(-)kjo/については特に留意せねばならない場合がある。これも既述したとおりである)。さて、この特徴も現在ではしだいに失われて共通語化しつつあるようである。その実態を調査するために次の項目が用意された。すなわち「金庫」「急行」「狐」「きかない子(わんぱくな子)」「聞かない」「農協」「インキ」「雪」「息」「駅」等がそれである。

その調査の結果を、既述の他の特徴において掲示した項目を除いて表示すれば第68表~第73表のようになる(第62図~第67図)。

表に用いた [kĩ] は [kĩ] が中舌化(口蓋化)して [cĩ] に近づいた音を示す。

まず「金庫」についてみると、[cĩnko] 類は全体として、保原町18.4%、茂庭集落8.8%である。保原町の方が茂庭集落よりも各年代にわたって多いが、度数そのものは少ない。最も多い保原町の60代においても、34.2%にすぎず、年代の低くなるにつれて減少するが、60代と40代との差はそれほど大きくない(ただし、「その他」のうち保原町の4名はすべて [cĩ-] の形も用いるという)。40代と20代との差は大きくて、20代ではほとんど表われない(保原2.6%、茂庭では皆無)。

ところで、明瞭な [cĩ] は表われなくても、[kĩ] のような発音をする人はかなりあって、それを含めると両地区ともに全体として65%前後がそのような発音をする。60代では80%~90%がそれに該当し、40代でも80%~75%に達する。20代は急激に減少し、25%前後になる。

この傾向は「急行」においても同様である。明瞭な [cĩ] はおしなべて茂庭集落には少ない。両地区ともに20代ではみられない。

「狐」「きかない子(わんぱくな子)」「聞かない」においても、ほぼ同様な傾向がみられる。[cĩ] は保原町において、60代に25%前後あり 40代も20%以上あってあまり変わらないが、20代ではほとんどみられない。一方、茂庭集落では、60代でも、ほぼ保原町の40代の度数しか表われず、40代以下では [cĩ] はほとんど表われない。すなわち、これらの語に関する限り、茂庭集落の方が保原に先んじて [cĩ] を失いつつあるともいえる。既述の「金庫」「急行」の場合でも、茂庭集落の方が [cĩ] の表われ方は少なかったのであるが、その場合は少ないながらも60代と40代との差はあまりなくて、40代はまだ [cĩ] を持っていたが、「狐」以下には、もはや茂庭集落の40代に [cĩ] は表われない。そして、これらの語における/ki/は、いずれも無声化母音になりやすい環境にある点で「金庫」「急行」とは違いがある。

ところで、[kĩ] のような音を含めて考察すると、両地区ともにこれらの語においても「金庫」

「急行」の場合と同様に、60代、40代を通じて80%～90%の度数があるばかりでなく、20代でも50%以上の度数がみられる点では「金庫」「急行」（ともに20～30%）以上である。「狐」以下における /ki/ が有気音を伴って無声化母音になるという性質を持っているせいでもあろうか。

次に「農協」についてみると、/-kjo/ が [-cjo] として表われる度数はかなり多く、全体としても、保原町22%、茂庭24%となっているし、ともに60代で40%弱、40代で30%弱あるが、20代ではほとんど表われない。[k] の中舌化（口蓋化）した [kjo:] のような音を含めると「金庫」等の場合と同じく60代で85%弱、40代で80%弱、20代では30～20%になっている。「息」「駅」「雪」等の場合もほぼ「金庫」「急行」等の場合と同様であるが、「インキ」は外来語であると同時に /inku/ の反応もかなりあったので、[-ci] [-ki] の度数は少なく、40代、20代では他の語の半数にも達しなかった。

以上によって、次のようにまとめることができるであろう。

/ki/ 等が [ci] のように表われるというこの方言の特徴は、現在ではそれほど強力ではなく、60代でも40%以下の人にしか表われない。40代では30%以下であり、20代ではもはやまれにしかみることができない。語によってはその度数はさらに低くなり、茂庭集落では40代にも表われないものもある。しかし [ki] 等の音はよく表われ、40代以上の大多数の人が用いているが、これも20代では一部の語（無声母音を伴っているもの）を除いては急激に減少し、30%以下になっている。

(8) 「拗音の直音化」

この地の方言の特徴として、いわゆる「拗音の直音化」の現象がかつてかなり盛んであったようである。共通語の /sju/, /cju/, /zju/ に対応して /su/, /cu/, /zu/ の表われることについては既に述べたが、その他にも [gi:nĩ:] <牛乳>, [ki:ko:] [ci:ko:] <急行>, [sasũn] [写真], [so:dzũ:] <焼酎>, [dzũndzo:] <尋常> 等のような言い方を耳にすることができる。しかし、この特徴は急速に失われつつあるようである。その実態を調査しようとして、「焼酎」「写真機」「急行」等の項目を用意した。

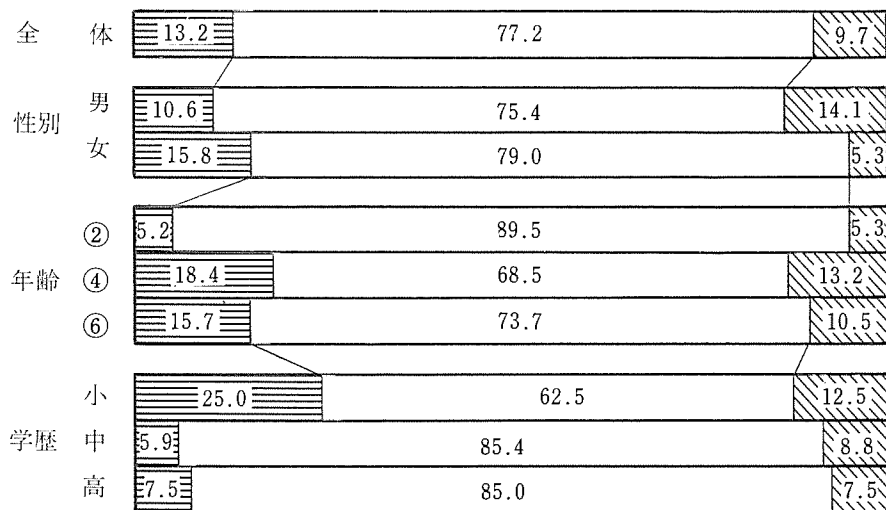
それらの結果の表は既述の他の特徴において掲示したので、改めて表示しないが、その結果を大まかに述べれば次のようになる。

「急行」を [ki:ko:] と反応したのは茂庭集落における60代女性1名だけである。小学校卒の農家の主婦で、改まった「寄り合い」等には年に一度も出たことがなく、福島市中心部等へも年に一度も出たことがない人である。また、「急行」を [ci:ko:] と反応したのは保原町における60代男性1名だけである。小学校卒の農家の人である。役員等はしたことがないが、新聞も読み、テレビもよく視聴し（1日平均2時間～3時間）、「寄り合い」にも3か月に1度以上は顔を出し、半年に1度以上は福島市等にも出かけるという。しかし、若い時には忙しくて新聞も読まず、外に出たことはなかったという。

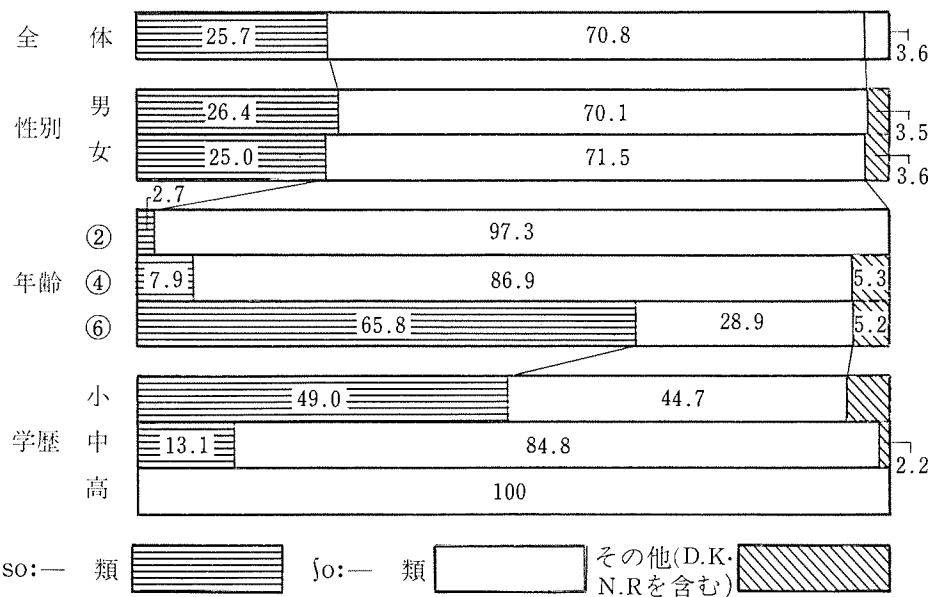
この2名だけで、他はこのように反応した人はなかった。もはや、現在ではこのような特徴を保持している人は、極めてまれになっていると言える。まもなく消え失せるであろう。

「写真機」を [sasũnkĩ] 等と答えたものは保原町に4名いる。いずれも60代の人たちである。共通しているのは、若い時には「寄り合い」等の会議・集会にも出ず、福島市等にも出なかった

第68図 3.21 焼酎（保）



第69図 3.21 焼酎（茂）



という点だけで、他はそれぞれに違いがある。茂庭集落には2名いる。いずれも小学校卒の60代の農家の主婦で、集会等には顔を出さないが、茂庭集落外の人とも交際し、旅行もするという。いずれにしても〔sasũnkĩ〕等という人は、この地でもしだいにめずらしくなっていることは事実のようである。

「焼酎」を〔so:tsũ:]〔so:dzũ〕などという人は、まだかなりみられるようである。グラフで示すと第68図、第69図のようになる。

保原町では全体として13%ほどであるが、60代、40代ばかりでなく、20代でもわずかではあるがみられることは注目してよいであろう。茂庭集落では全体として25%ほどであるが、60代では65%に達する。ただし、40代では急速に衰える。たぶん、保原町でもかつては盛んに用いられたものであろうが、現在ではごく一部のみに用いられるだけになっている。

要するに「拗音の直音化」といわれるこの特徴は、一部の語には現在でもかなりみられるが、一般的にはごくまれにみられる程度で、まもなく音韻上の特徴とは認められなくなるであろう。

(9) そ の 他

その他にも、この地の方言の音声・音韻上の特徴とみられるものはかなりある。そのうちの若干について調査結果を略記する。第1に高年者の間では〔jeri〕〔jerĩ〕〈襟〉,〔jebĩ〕〔jebĩ〕〈蝦〉等の〔je〕〔jẽ〕の音を保持していて,〔ege〕〔ĩge〕〈池〉,〔ẽntodzũ〕〔ĩntodzũ〕〈煙突〉,〔ĩgĩ〕〔ẽgĩ〕〈息,駅〉等の〔ẽ〕〔ĩ〕等と識別する人がいる。音韻としても/je/と/e/とを持っていると認められる。しかし、/je/はしだいに失われつつある。その実態を知ろうとして「襟」「縁側」を調査項目に加えた。その結果をみると「縁側」の場合に〔je-〕の表われた人はなかった。〔zenga:]等という人は、保原町に2名、茂庭集落に2名、計4名あった。ともに、60代女性と40代男性各1名ずつである。「襟」においては〔je〕〔jẽ〕がかなり表われ、全体としても約20%みられた。が、これについては既にふれたのでここでは省く。

次に、共通語の/ju/に対応して〔zũ〕の表われることがある。たとえば〔zũbĩ〕〈指〉,〔zũnbe〕〈昨夜〉,〔zũgĩ〕〈雪〉,〔zũ〕〈湯〉,〔zũ:]〈言う〉,〔zũwanɛ:]〈言わない〉等という。

調査項目の「雪」「言われなかった」はこの特徴を調査するためにも利用することができた。「雪」の調査結果をみると,〔zũgĩ〕等と答えた人は保原町に4名(男3,女1),茂庭集落に2名(男女各1)あった。いずれも60代である。40代以下では表われなかった。

「言われなかった」についてみると、第74表、第75表(第70・71図)のようになっている。〔zũ-〕を用いるのは全体として、保原町、茂庭集落ともに約10%であるが、60代では、保原町18.4%,茂庭集落26.3%で、二割前後いる。40代では保原町13.2%,茂庭集落2.6%と減少し、20代では表われない(「その他」のうち〔zũ-〕も用いると答えた人は保原60代4名、40代1名、茂庭60代1名である)。ただし,〔jũwarenakatta〕のような〔jũ-〕を用いる人は現在でもかなりあって、20代でも保原町に30%,茂庭集落では50%近くを占める。

いずれにしても、このような共通語の/ju/に対応して表われる〔zũ〕は多くはない。早晚、姿を消すであろう。

次に、この地の方言の特徴の一つは、/kwa/のモーラのあることである。これは,〔kwa〕〈桑〉,〔kwannje:]〈食われない〉のような場合に表われるだけで,「火事」「会社」「外国」

「果樹」「菓子」等の場合には表われない。この/kwa/が実際の程度行なわれているかを調査しようとして「桑の木」を調査項目に加えた。その結果の表を示せば、第76表、第77表（第72・73図）のようになる。

〔kwa〕は全体として、両地区ともに15%ほどである。60代では30%ほどであるが、40代では10%ほどになり、20代ではほとんど表われない。この方言では〔kwanogī〕〔kwa〕とともに〔kanogī〕〔ka〕等の形も行なわれるが、これもまた年代の低くなるにつれて少なくなり、共通語形の〔kuwanoki〕〔kuwa〕が増してきている。20代ではほとんどが〔kuwa〕類である。（なお「その他」が多いが、この中には〔kwa-〕も用いるという人が保原町60代6名、40代1名、茂庭集落60代5名、40代2名であり、〔ka-〕も用いるという人は保原町60代4名、40代9名、20代1名、茂庭集落60代7名、40代8名である。したがって、〔kwa〕や〔ka〕を用いる人は表の該当欄の数よりは多くなる）。

次に、共通語の/-r-/に対応する当地の方言は、さまざまな様相を示す。たとえば〔tokka〕〈取るか〉、〔jakka〕〈やるか〉、〔küttoḡī〕〈来る時〉、〔tonna〕〈取るな〉、〔janna〕〈やるな〉等は有名であるが、その他にも〔oſſe:]〔oſſi:]〈白粉〉、〔omoje:]〔omoſi:]〈面白〉、〔haſſa〕〈柱〉等のようなものがある。ラ行四段活用 of 動詞等に〔te〕、〔ta〕、〔tɛ〕〈たい〉、〔nɛ:]〈ない〉等がつく時は次のようになっている。

toqte 〈取って〉、toqta 〈取った〉、toqcjɛr 〈取りたい〉、tonnɛr 〈取らない〉

kaqcje 〈借りて〉、kaqcja 〈借りた〉、kaqcjɛr 〈借りたい〉、kannjɛr 〈借りない〉

hanaqcje 〈離れて〉、hanaqcja 〈離れた〉、hanaqcjɛr 〈離れたい〉、hanannjɛr 〈離れない〉

調査したのは「白粉」「柱」「言われない」「叱られた」の四語である。その結果の表を既述の他の特徴において掲示したものを除いて示せば、第80表～第83表のようになる（第74図～第77図）。

「白粉」において〔oſſi:]〔oſſe:]〔oſſoi〕等と答えた人は意外に少ない。これは通時論的には、〔oſiroi〕→〔oſioi〕→〔oſſoi〕→〔oſſe:]→〔oſſi:]のように変化したものと思われるが、両地区ともに60代の男性にある程度行なわれているが、その他にはあまりみられなかった。（「その他」のうち、〔oſſe:]〔oſſi:]類をも言うと言った人は保原60代9名、40代1名、茂庭60代3名、40代1名であるから、これを含めれば、ある程度の数になるが、やはり、40代以下ではあまり用いられないと言える）。

「柱」を〔haſſa〕のようにいう人はかなり多い。全体としても、両地区ともに30%の度数をみる。60代では保原町57.9%、茂庭集落47.4%あり、40代でも30%前後を占める。20代では減少して約8%になる。次第に〔haſſa〕は少なくなっていくという事実は否めない（「その他」はすべて〔haſſa〕ともいうと答えているから、これを加えれば、%はさらに増す）。

「言われなかった」「叱られた」をみると、前者を〔zūwannjɛ:katta〕〔jūwannjɛ:katta〕などと答えた人は両地区とも、各年代にわたって大多数を占める。この地方では「書かなかった」を〔kaganɛ:gatta〕のように〔kaganɛ:]〈書かない〉に〔katta〕をつけていうのが普通である。

したがって、〔jūwannjɛ〕等は共通語の「言われない」に対応する形であるとみなしてよい。「その他」が多いが、それもすべて〔-nnjɛ:]〔-nnjɛ:]〔-nni:]等であるから、それらを加えれば、圧倒的多数になる。共通語的な〔-renakatta〕類はほとんど表われず、20代でも15%強にす

ぎない。もちろん、これは「ふだん、土地の親しい人と話す場合の言葉」を尋ねたのであるから、これをもって、共通語化が進んでいないと断ずることはできないが、少なくとも「土地の言葉」として使用していることは事実とみてよいであろう。

「叱られた」においても、ほぼ同様なことが言えるが、この場合は〔okorareta〕類が年代の低くなるにつれて増していることが注目される。

(10) ま と め

以上、音声・音韻について述べたことをまとめると次のようになる。

一般に音声・音韻は変化しにくいものと言われているが、地域社会において年代とともにかなり変遷しつつあることがわかる。大まかには60代と40代との間よりは、40代と20代との間に大きな差があると言える。とはいっても、それはすべての音韻的あるいは音声の特徴が同じように歩調を合わせて変遷しているわけではない。ある特徴はいち早く姿を消すが、ある特徴は残る。そして大事なことは、同じ特徴に属していても、それぞれの語の条件によって違いがあるということである。

もちろん、地域社会におけるこのような変遷において、共通語の影響は無視することができない。特に音韻・音声面においては共通語化という大きな方向に向かって変遷しているとも言える。/ε/と/e/との区別が40代で、もはや失われたり、/je/が消えていくのは、まさにそのような方向であろう。

一般的には、/i/、/e/の区別のないこと、/si/、/su/、/sju/の区別のないこと、/ci/、/cu/、/cju/の区別のないこと、/zi/、/zu/、/zju/の区別のないこと、/-k-/、/-t/の濁音化、無声子音に挟まれた狭母音が広母音に後続される場合の無声化等はかなり強力な特徴であり、/ε/と/e/との区別、/-d-/の鼻音化、/ki/に〔ci〕が表われること、/kwa/の存在、/je/の存在、共通語の/ju/に対応して〔zû〕の表われること、共通語の/sjo/等に/so/等が対応していること、/-r-/の転化・融合・消失等は比較的弱い特徴で、共通語化しやすいと言えそうであるが、60代で盛んに用いられていても40代、20代になるにつれて急激に衰えるものもあるし、全体としてはあまり用いられなくとも一部の人には各年代にわたって用いられるものもある。/ε/は40代で、もはや失われているが、/je/はもっと保持されそうである。あるいはまた、同じ特徴の中でも語の持つ条件によっては大きな違いがある。同じ/si/と/su/との識別にしても、「下」の場合がはるかに「寿司」よりは共通語化しやすい。また、共通語の/sjo/に/so/が用いられる特徴にしても、「焼酎」を〔so:tsû〕と言う人も、現在では「小学校」を〔so:pakko:〕とはほとんど言わないのである。「重箱」を〔d͡ʒû:bago〕と言う20代の人でも、「手術」は〔s͡ɪdzûdzû〕と言う人がかなりいる。「雪」を〔zûgi〕と言う60代の人でも、「深い」は〔Φ̣i̯ḳe:〕とか〔x̣i̯ḳe:〕とか言うであろう。「地図」よりは「注射」の方が共通語化しやすいし、〔no:cjo:〕〈農協〉よりは〔cinko〕〈金庫〉が共通語化しやすいのである。

このように、語の持つ条件によって変遷には大きな違いがあるが、年代の低くなるにつれて共通語化していることは事実である。とりわけ20代は40代に比較して極めてよく共通語化していると言える。

2 文 法

文法の諸事実については、この地の人々は、必要な場合には、ある程度共通語的な表現をすることができるといってよい。もちろん、厳密には十分に共通語を話せるとは言い難いが、大まかには使用することができる。ここでは土地の親しい人と話す場合にどのような言い方をするかを尋ねたのである。したがって共通語を話す能力をこの結果より推測することはできない。それでも、やはり地域社会内の言語使用において、高年層と青年との間にかなり違いがあることがわかれると思う。

(1) 「買う」の活用形

「買う」「貰う」「洗う」「歌う」「笑う」等のワ行四段動詞の第4活用形(終止形)、第5活用形(連体形)、第6活用形(na くな、禁止)、dara くらゐ 等に連なる形)は、たとえば karto <買うと>、kar toki <買う時> のように kar のような形である。既述のようにその深層の構造は kawu と解釈できるが、現実の姿は kar である。これについて調査した結果は第84表、第85表(第80、81図)のようである。「買おう」に対応する言い方を質問したのである。karbe は全体として、保原町28.1%、茂庭集落13%ほどであるが、保原町の60代では50%に達する。年代の低くなるにつれて kaube が増すが、しかし20代になっても karbe は保原町に13%、茂庭集落に5%ほどみられる(「N.R」類が多いのは、kaqtara erbe ka nar <買ったらよかろうかなあ> 等の形が多かったせいである)。karbe は減少するが、-be の形は使用している。すなわち、karbe から kaube へと変遷していると言える。

(2) 「来る」の活用

関東地方では、茨城県や千葉県を中心に、カ変動詞の一段活用化が盛んであり、「キナイ」<来ない>、「キラレル」<来られる>、「キラセル」<来させる>、「キル」<来る>、「キレバ」<来れば> 等のような形が、それぞれその分布領域は異なるが行なわれている。そのうちのあるものは東北地方にも行なわれる。「キナイ」<来ない> は福島県の浜通り南部にも行なわれているし、「キラレル」<来られる> は福島県の中部まで続いているばかりでなく、宮城県の北部や岩手県の一部にも行なわれている。しかし、一般に福島県北部では「来る」の一段活用化はほとんどみられない。隣郡の安達郡までは、関東地方からつづいて「キラレル」<来られる> が用いられているにもかかわらず、調査地点には行なわれていないようである。果してこの地方では「来る」の一段活用化は全くないものであろうか。あるいは一部の人には、そのきざしがみられるものであろうか。調査項目の「来られるだろう」「来ないので」「来い」は、そのことを確かめるためにも利用することができる。

その結果は、「来られる」について言えば、両地区とも各年代にわたって、kirareru は1例もみられなかった。すべて korareru だけである。

また「来ない」も同様である。すべて koner, konai 等であって、kiner 類は1例もなかった。

「来い」(「来る」の命令形)は、この地の方言では普通 kor であるが、調査の結果は第86表、第87表のようになっている。

すなわち、各年代にわたって、kor が圧倒的多数である。koransjo <おいでなさい> はこの地

の方言では本来、目上の人に向かって使用する尊敬表現である。調査の際は「弟とか妹とか、目下の人に言う時」の言葉として「何をぐずぐずしているんだ。はやぐこっちへ来い」という場合の「来い」について尋ねたのであるが、それでも koransjo がある程度表われたことは注目すべきであろう。それは女性だけに表われており、しかも40代、20代に用いられている。この地では、本来、目下のものに向かって言う場合には男性も女性も尊敬表現は用いない。60代の女性には1例も koransjo が表われないことによっても知られることである。しかし、年代の低くなるにつれて、女性は目下の人にも尊敬表現の形式を用いる傾向のあることが示されているといつてよいであろう。

共通語形の koi はほとんど表われていない。土地の言葉としては kor が今後も使用されるであろう。

(3) 推量表現, ber

既述したように、この地の方言では意志や推量を表わすのに ber を用いる。動詞に直接に ber をつけて、意志（意志を表わす動詞の場合）と推量とをともに表わす。形容詞や形容動詞に ber をつけて推量を表わす。

推量表現の場合に、共通語の、漠然と推量する「書くだらう」に対応して kakuber を用い、根拠に基づいて推量する「書くんだらう」に対応して、kakundaber を用いる。

過去・完了の助動詞の ta や断定の助動詞 da や形容動詞には、kaetaber <書いたろう>、kakundaber <書くんだらう>、zjorbudaber <丈夫だらう> のように、言い切りの形に ber をつける。

一段活用 of 動詞や形容詞につく場合には、普通には okiqper <起きるだらう>、takeber <高いだらう> のような形が多いが、高年層の中には okinber や takakanbe のような形を用いる人がある。福島県等における分布の様相からは、この後者の形の方が古形であると思われる。

また、文中に用いられて「何を書こうと自由だ」「何になろうと世話にならない」などという場合には、共通語的な言い方をすることが多いようである。

以上のことについての実態は、次の調査項目によって知ることができる。「あの人にはさそったら行くだらうか」「どこに行くんだらう」「きみは去年行ったらう」「その山とあの山とどっちが高いだらうか」「福島へなら今からでも行って来られるだらう」「うちの子どもは百姓になろうと商人になろうと自由にさせるつもりだ」

これらの結果は、第88表～第99表のようになる（第82図～第91図）。

漠然と推量する場合の「行くだらうか」についてみると、両地区ともに各年代にわたって enpe ka, enbe ka, egube ka が多く、共通語形の ikudaror ka はほとんどない。土地の親しい友だちなどに話す場合は、方言形を用いていることがわかる。そして年代の違いはあまりみられず、両地区ともに egube ka が相対的に多数を占めるが、女性は比較的 egube ka を支持し、egube ka だけを使用する傾向があるのに対し、男性は egube ka とともに enpe ka・enbe ka などをもある程度用いる傾向がみられる。また全般的に、保原町は茂庭集落よりは enpe ka をやや多く使用する傾向があり、その分だけ egube ka が少ない。enpe ka と enbe ka とを比較すると、茂庭集落ではともに10%以下であるが、保原町では前者が18%を超え後者の8%に比較してかな

り多いと言えよう。

この地の方言の特徴として撥音の次の/-k-/、/-t/が濁音化しないこと、場合によっては撥音の次の有声子音が無声化する傾向のあることを考えれば、もともと、この形は通時論的には eguber→enber→enperのように変化したものと思われる。保原町で茂庭集落よりも enpe ka を多く使用するということは、方言としてのやや新しい形式を多く使用するといってもよいであろう（「その他」はすべて enpe あるいは enbe をも用いるという）。

なお、両地区ともに「N.R」が多いのは、egunde n̄rbe ga〈行くのでなからうか〉、egunde anbe ga〈行くのであろうか〉、egane ga nar〈行かないかなあ〉等が多かったためである。

次に「行くんだらう」に対応する言い方をみると、egundabe が圧倒的に多く、地域・性・年代にわたってあまり違いがないが、20代に共通語的な表現がやや多い。全般的には、こういう場合には本来の方言の形式を使用すると考えてよいであろう。

「行ったらう」についてみると、これも eqtaber が圧倒的多数で、地域や性・年代にわたって大差はない。これにも ette kitande n̄r gae〈行って来たのではないですか〉、ette kita nae〈行って来ましたね〉等の誤答が多かったので、「N.R」が比較的多い。20代に共通語的な言い方がややみられるが、大きな数ではない。

「高いだらうか」をみると、これも方言形が圧倒的多数で、共通語的な言い方は20代に10%～2.7%みられるだけである。その方言形をみると、takaerber 類が多数を占めているが、60代に takakanber がある程度（20%ほど）用いられていることに気づく（「その他」はすべて takakanber も用いるといっている）。この takakanber は40代にもまだみられるが、20代では完全に姿を消す。この「~kanber」の形は福島県南部や栃木県・群馬県以南には現在でも多く用いられている。が、北奥から南奥にかけて、takaerber・takeerber の形がしだいに広がりつつあり、「~kanber」の地域が侵されつつある。この地域でもかつては「~kanber」の形が優勢であったのであろうが、現在では姿を消そうとしていると言える。いずれにしても方言形が各年代にわたって多い。

それは「来られるだらう」についても同様に言えることである。全般的に方言形が用いられていて、共通語的な言い方は20代に若干（20%～26%）用いられるのが注目される程度である。そして korareqper と korarenber とを比較すると、前者が圧倒的に多いが、60代では後者が若干（10%～36%）用いられていることに気づく（ただし「その他」はすべて korarenber も用いると言っているからこれを含めれば数は増す）。茂庭集落の方にやや多いが、40代では完全に姿を消している。やがて、この地域からは聞かれなくなるであろう。

次に「なろうと」をみると、この場合は narorto, naqtaqte, naqtemo 等の共通語形が多い。「N.R」類の多いのは誤答の類が多いせいであるが、それを除けば各年代とも比較的には共通語形で反応していて、特に20代では、方言形は11%～27%ほどで、残りは共通語形である。推量表現には ber を用いることが多いとは言っても、やはり、表現の種類によっては、共通語化に違いがあることを示していると言えよう。「narorto」という共通語形は年代の低くなるにつれて増加し、20代では回答者のほぼ半数に達する。一方、narijorto〈なりようと〉という特殊な形式（回答者は共通語形式と思っているようだ）は60代ではかなり（34%～26%）みられるが、年代の低くなるにつれて減少する。しかし20代でも、わずかではあるがみられることは興味深い。（「その

他」は2形以上の並用であるが、narijorto, naqpega, naqpeto, naqtomo 等が多く挙げられている)。

これは、この地に「なろうと」に対応する方言の形式が十分に発達していなかったことを示すものであろう。narijorto, naqpeto, naqpega 等は共通語との接触により新たに使用されるようになったものであろう。かつては、naqtomo, naqtaqte, naqtemo 等の類似の用法が用いられていたものと思われる。

(4) 否定の意志

否定の意志を表わす表現は、たとえば「あんなところには、もう行くまいと思った」における「行くまい」のような表現は、共通語の話し言葉では、しだいに使用されなくなって、さまざまな他の表現形式に換えられる傾向があるようである。この地の方言でも「行くまい」に対応する表現としては、ekanER <行かない> に ber をつけた形の ekanERber が多く用いられるようになっている。ekanER に ber をつけて否定の意志を表わすというこの形式は、この地の方言の一つの特徴であるが、果して ekumER <行くまい> に代って定着し得るか興味ある問題である。その実態を調査した結果は、第100表、第101表に示すとおりである(第92・93図)。

やはり ekanERber が各年代にわたって多い。特に60代、40代では、「その他」の2形以上の並用を考慮すれば、半数を超えるといい。とはいっても、その他の形式もある程度用いられていて ekanERber がこの表現形式として確立しているとも言い難い。とりわけ保原町の20代ではこの形式のほかに ekumER, eqterannjER <行っていられない>, ekanER 等がそれぞれかなりの支持を得ている。これに対し、茂庭では20代でも ekanERber が48%を占めているので、比較的安定しているが、それでも ekumER や ekanER もそれぞれ約20%あって、この表現形式が必ずしも確立していないことを示している。

(5) 可能の表現

可能の表現として、四段活用動詞の場合には、助動詞 reru を用いる形式、たとえば kakareru <書かれる> と、可能動詞 kakeru <書ける> との二つの表現形式を持っていることについては既述したとおりである。(宮城県や山形県で用いられる kakuni ER, kaku ER はこの地では用いられない)。上述の二つの形式はどのように使い分けられているであろうか。また助動詞 reru のほかに eru を用いて kakaeru <書かれる>, kakaenER <書かれぬ> 等の形式もかつてはかなり用いられたようであるが、現在ではどのようなになっているであろうか。それらを調査しようとして調査項目に次の三つを加えた。

「福島へなら、今からでも行って来られるだろう」「そんな小さな筆では大きな字は書くことができない」「きれいな字なんて、おれには書くことができないよ」

後の2項目は条件による可能表現と、能力による可能表現との差が表われるかどうかをみようとしたものである。

その結果を、既述の特徴において掲示したものを除いて表示すれば第102表～第105表のようになる(第94図～第97図)。

「来られるだろう」については既述したが、すべて korareqper, korarenber のような形であって、かつて用いられた koraeru 類は1例もみられなかった。70才・80才以上の人からはかなり聞か

れるし、60代の人にもまだみられるのであるが、このような調査の場合にはもはや表われないのであろう。eru, raeruはまさに現在勢力を失ってきているといつてよいであろう。

「書くことができる」の2例についてみると、調査番号2.13は条件によって不可能な場合であるから kakannjER 類が多く表われ、調査番号2.16は能力による不可能であるから kakener 類が多く表われることを期待したものであるが、その違いは全く表われなかった。ともに kakannjER・kakanni の類が多く表われた。助動詞 reru を用いて条件による可能を表わし、可能動詞を用いて能力による可能を表わすという使い分けは、あるいはある種の表現に限られるもので、一般的には、この地の方言では助動詞 reru・rareru による可能表現が多いとすべきかもしれない。なおこの場合も eru・raeru は表われなかった。

(6) 使役の表現

既述したように、この地の方言では使役の表現に助動詞 seru・raseru を用いる。kakaseta〈書かせた〉, ukeraseta〈受けさせた〉のように用いられる。その実態を調査した結果が第106表、第107表である（第98・99図）。

やはり ukeraseta が多く、ukesaseta は少ない。とりわけ茂庭集落の場合はそうである。しかし、20代では共通語的な ukesaseta が急激に増して来ている。特に保原町では60%を超える。共通語形式と似ているだけに、あまり意識せずに raseru を使用することもできるとともに、また、改めることも容易なのであろうか。共通語の進出のめざましい例であるといえる。なお, ukerasita, ukesasita 類は表われなかった。

(7) 過去の表現 eqtaqta

既述したように、この地の方言では過去の経験その他を表わすとき、eqtaqta〈行ったことがある〉のように～taqta を用いる。

果たして、現在どの程度行なわれているかを知らうとして、次の調査項目を加えた。「おれも行ったことがある」

ただし、この調査項目の前には次のような調査項目を位置させて、導入の役割を果たすようにした。すなわち

「こんどひまになったら京都に見物に行こうと話しています。そういう場合 “きみは去年行ったろう” ということを何と言いますか」

したがって、この「行ったことがある」という共通語の表現に対して、どのように反応するかをみたのであるが、その結果は第108表、第109表に示すとおりである（第100・101図）。

eqtaqta と反応したものは保原町17%、茂庭集落32%であり、茂庭集落にかなり多く表われたが、期待したほどではなかった。20代に iqta kotoga aru という共通語的表現が多く表われたことは、それなりに注目されたが、各年代ともに多いとは言えない。そもそも、方言的特徴の強い表現は、共通語では厳密には表現できない。共通語を刺激文とする調査票形式で質問することは困難なことである。eqtaqta 類が意外に少ないのは、たぶん調査法そのものにも問題があるであろう（なお保原町の40代における「その他」の1名は「エッタッタも使うことがある」と答えている）。

次に eqtaqta を答えなかった人に対して「eqtaqta ということばを使いませんか」と尋ねてみ

た。その結果は第110表、第111表に示すとおりである（第102・103図）。

すなわち、60代、40代のほとんど（ほぼ90%）が「使う」と答えている。見当違いの答えをした人を除けば、「知らない」と答えた人は両地区を通じて60代、40代にそれぞれ1名いたにすぎない。ところが20代になると、使用する人の数はかなり低くなり70%弱になる。残りは「聞けばわかるが使わない」という人が大部分である。このような方言的特徴の色濃い表現も、緩慢ではあるが、しだいに用いられなくなるきざしがみえるといつてよい。

(8) 回想, ke

既述したように、この地の方言は動詞や形容詞に直接 ke をつけて回想を表わす。もちろん、共通語的な taqke <たっけ> や daqke <だっけ> も用いるし、さらには eqtaqtaqke <行ったことがあったっけ> のような表現もある。この種の表現がどのように使用されているかをみようととして次の項目を用意した。

「きのう大きな荷物をもって歩いて行くふうだったなあ」「行くっけなあとは言いませんか」「あの人はすもうが強かったっけなあ」「強いっけなあとは言いませんか」「あの人も行ったんだそうだ」

もちろん、それぞれに場面や条件を与えて、答え易いように適当な説明を加えた。その結果の表は第112表～第121表に示すとおりである（第104図～第113図）。

この表現も、共通語にはないもので、特徴的なものである。したがって、「行くふうだったなあ」という共通語文を刺激文として eguQke nar 等の答えを得ることは困難であるので、第2問目には直接「行くっけなあとか、いんけなあとは言いませんか」のように尋ねることにした。

「行くふうだったなあ」の場合には eguQke nar, enke nar 等はあまり表われない。しかし、保原町に比較して茂庭集落では、かなり多い。もちろん「行くっけなあ、いんけなあなどとは言いませんか」と尋ねれば、両地区ともに40代以上の人はほとんどが使うと答えるのであるが、第1段階でも茂庭集落ではかなり多いということは、それなりにこの表現がよく使用されていることを示しているとも言えよう。

「N.R」が多いのは、この種の表現が共通語と趣の異なるものであるだけに、共通語による刺激文では適切な反応を起し難いせいであろう。（なお、保原の60代の「その他」に、「エンケナーも使う」と答えた人が3名いる）。

20代はともに「聞けばわかる」のはほとんど全員であるが、自分は使わないものが保原町に45%、茂庭集落にも26%あって、この言い方も、しだいに使われなくなってゆく傾向がみられる。

それは「強かったっけなあ」の場合にも、ほぼ平行的に出ている、この数字が偶然的なものではないことを示しているようである。

しかし、「行ったんだそうだ」の場合には、eqtasuke は20代の人にも多く表われており、eqta-cuke は60代に多い。eqtasuke と eqtacuke とを合するならば、60代の58%～65%を頂点として40代、20代と年代の低くなるにつれてしだいに度数が減るが、それでも20代に34%～48%という度数をみることは注目すべきことであろう。これを enke nar や cujoeqke nar と比較すればその差は歴然とする。そして60代に eqtacu <行ったという> に ke のついた形 eqtacuke が多いのは、この表現の本来の形を示しているものと解せられるのに対し、20代にはその変化形 eqtasuke が

多いのは、この表現が一般的な～ke の言い方から慣用句的な表現に変わりつつあることを示しているとも言える。このような慣用句的な表現として、この表現が残ることを思わせるものである。

(9) 丁寧表現 文末助詞

既述のように、この地の方言の丁寧表現（聞き手への尊敬表現）には、多く文末助詞を用いる。共通語の「～ですね」に対応する表現には～da nae, ～da nasu, ～da nan 等を用いる。それが、どのように用いられているかを知ろうとして次の調査項目を設けた。

4.01「いい天気ですね」, 2.32「そうですね, おとうさん」, 4.06「はい, そうでございます」

もちろん、調査する際には、場面や説明を加えて、回答を求め易いように配慮した（調査票を参照されたい）。その結果を示せば、第122表～第127表のようになる（第114図～第119図）。

調査項目の4.01は尊敬する目上の人に対する天候のあいさつ、2.32は子どもが父親に向かっての言葉、4.06は尊敬する目上の人（たとえば恩師）に対する返事、として回答を求めたものである。

4.01についてみると、年代の高いものほど方言文末助詞を用いていることがわかる。表の数字だけでも、60代63%～76%, 40代63%～45%, 20代34%～46%となっている。「その他」を含めれば、この数値はかなり高まるであろう。すなわち、60代では大部分の人が文末助詞による丁寧表現を用いている。20代でもかなりの人が用いていることは注目されるべきであろう（「その他」は～da nae, ～da nan, ～desu 等をともに用いると答えている人が大部分である）。ただし、保原町ではもっぱら～da nae を用いているが、茂庭集落の60代では～da nae とともに～da naon もかなり用いている。そして～da nasu, ～da nasi 類は保原町に4名、茂庭集落に1名みられただけであった。いずれも男性で、外部との付き合いの多い人たちである。

茂庭集落に～da naon がみられることは興味深い。普通、伊達郡では既述のように、～nasu, ～nae, ～nan の3類があり、～nasu は商人等が特に改まった場合に用いるものであるが、～nae は一般的な聞き手尊敬（丁寧）であり、～nan は親族等の親しい人に用いるものである。～naon は東北地方の分布の上から～nan の古形であると解せられる。通時論的には namosi→naonsi→naon→nan であろう。茂庭集落に～naon がこの項目の場合にも多く用いられるというのは、茂庭集落では親しい人の間でなくとも、この表現を用いることを意味するのか、あるいは茂庭は古くから数十戸の限られた人たちが集落を構成していて、婚姻や分家等により、もはやほとんどが親族であるといってもいいほどの親密な関係にあるため、このような天候のあいさつを交わす場面では、自然に～naon が用いられるものか、いずれとも断定し難い。ただし、次以下の項目(4.06)における～dzoe 類と～dzon 類との差など)を参照すれば、後者の理由による可能性が強い。

「そうですね。お父さん」をみると、両地区ともに各年代を通じて80%以上は文末助詞を用いている。普通の目上の人に対してあいさつをする前項の場合には、40代・20代になるにつれて共通語形の～desune が多くなり、20代では58%～38%と増したが、「父親」に向かっての言葉の場合には、20代でも方言の文末助詞を使用するものが大部分なのである。ただし、60代では～nan・～naon 類がかなりみられるのに（保原34%, 茂庭61%）、40代ではかなり減少し（保原13%, 茂庭58%）、20代では急激に減少し、保原町ではほとんどみられなくなり（2.6%）、茂庭集落でも16%にすぎなくなる。一方、～nae はしだいに数を増し、20代では圧倒的大多数になる。これは、

前項の結果と比較すれば明らかなように、～nae は一般的な丁寧表現であり、～nan, ～naon は親族等の親しい人に用いるという使い分けが、しだいに失われて行くことを物語っているであろう。そして、保原町には～naon は全くみられないが、茂庭集落における～naon, ～nan を比較すると、～naon は60代に多いが(36%), 40代で少なくなり(18%), 20代ではほとんどみられないのに対し、～nan は60代(23%)より40代の方が増し(39%), 20代に少なくなる(13%)。すなわち、古形～naon はかつて盛んに用いられたが、しだいに～nan にとって代られるようになった。そして、さらに大きな流れとして～nae と～naon・～nan との使い分けそのものが失われるようになって、～nae に統一されつつあると言えそうである。茂庭集落の姿はたぶん、保原町よりも一段と古い状態を示しているであろう。

次に、恩師等に対する返事としての「そうでございます」をみると、文末助詞による丁寧表現は前2項に比較すると一段と度数が少なくなる。20代は、保原町では皆無であり、茂庭集落でも8%にすぎない。最も多い保原町の60代でも44%にすぎない。「恩師のような人に対してはもはや方言文末助詞を用いることをしない。共通語を用いて話すのだ」と答えた人もいた。共通語の敬語をもって話すのが最も高い尊敬表現であると意識しているのである。文末助詞による待遇価は低くなりつつある。こうして、この場合には共通語の sordesu <そうです>の類が60代でも31%～39%みられ、ついに20代では92%～83%という圧倒的多数を占めることになる(「その他」の大部分は～da zoe, ～dae 等の方言文末助詞も、共通語の形式 sordesu 等も用いると答えている)。

(10) 条件の表現

この地の方言は仮定の条件を表わす場合には、kakanerkoqtara <書かないなら>のように～koqtara を用いる。そのほかに kakanerdara のように、～dara を用いることもあるし、場合によっては kakanakereba <書かなければ>のように～kereba 類を用いることもある。～kereba 類は既定の条件を示すこともある。

これがどのように用いられているか、その実態を知ろうとして、「だれも書かないならおれが書くしかないなあ」「書きたくなければ書かなくてもいいよ」を調査項目に加えた。

また、義務や当然を表わす場合には、kakanakereba nanner <書かなければならない>のように～nakereba nanner を用いるが、これにはさまざまな形式があり、～neqka nanner, ～nakere nanner, ～na nanner, ～nakucja nanner 等をはじめとする諸形式がある。

その実態を知ろうとして、調査項目に「近いうち東京へ行かなければならない」を加えた。

また、理由を表わす場合には、既述のように takekara karner <高いから買わない>のように～kara を多く用いるが、場合によっては、ano hito konegande <あの人が来ないので>のように～gande を用いることもある。普通には～kara を用いることが多い。そこで、その実態を知ろうとして、なるべく～gande の用いられそうな文脈の「あの人が来ないので仕事ができなかった」を調査項目に加えた。

これらの結果は第128表～第135表に示すとおりである(第120図～第127図)。

まず「書かないなら」についてみると、～koqtara 類が多数を占め、両地区とも60代・40代では60%以上を占めている。20代は保原町では36%と減少しているが、茂庭集落では60代・40代同様に多数(56%)である。それに対し、～dara の言い方は取るに足らぬ数であり、むしろ、共通

語的な *kakanainara* が20代に増していること（保原39%，茂庭27%）が注目される。「N.R」が多いのは *kakanεR toki*, *kakanεRkaqtara* 等が多かったせいである。総じて *~koqtara* 類が優勢であるが、（保原町の）20代にみられるように、しだいに共通語的な *~nara* が用いられるきざしがあると言えよう。

「書きたくなければ」のように仮定的な意味あいがあるが、前項よりはやや弱い場合には *~koqtara* 類はやや少なくなるが、それでもある程度はみられる。保原町では、各年代にわたって45%~58%ある。しかし、茂庭集落では32%~47%で、特に60代が最も少ないのが目立つ。茂庭集落ではむしろ、*~nεqka* 類、*~nεrkereba* 類が年代の高いほど多い（60代47%，40代34%，20代24%）。この種の言い方の場合には種々の形式が行なわれて動向はつかみにくい。ただ、次のようなことは言い得るであろう。同じく *~koqtara* 類を用いるにしても、年代の低くなるにつれて *~koqcja* のような形が多くなり、同じく *~nakereba*, *~nεrkereba* 類を用いるにしても、年代の高い人は *~nεqka*, *~nεrkereba* を用いるのに、20代は共通語的な *~nakereba* を多く使用する傾向がある。

「行かなければならない」をみると、大きな傾向のあることがわかる。すなわち、年代の高いものには *~nakute nanne* 類が多く、年代の低いものには *~naqka*（または *nεqka*, *~nakereba*）*nanne* 類が多いことである。*~nakute* より *~naqka*（または *~nεqka*, *~nakereba*）へと変遷しつつあるといえる。そして同じく *~nakute* 類でも年代の低いほど *~nakucja* を多く用いる傾向もみられる（「その他」には *~nεqka*, *~nakute*, *~na* 等をともに用いるという人が多い）。

次に理由を示す条件表現の「来ないので」についてみると、*konεrkara* が多く、特に保原町では各年代を通じて多数を占める。*konεrgande* は極めて少ない。*~kara* が好んで用いられていることを示している。一方、茂庭集落では60代・40代に *konεrgande* がかなりあり（26%，18%），*konainode* も多い。60代では *~kara* は29%にすぎない。しかし、*~gande* は20代では姿を消す。かつて、この地には *~gande* が多かったのであろうか。

要するに保原町では各年代にわたって *~kara* が多数を占め、安定した勢力をもっているのに、茂庭集落では60代では29%にすぎず、40代から多くはなるが、それでも、*~gande*, *~node* を圧倒するまでには至っていない。保原町とは違いがあるといわねばならない（「その他」は *~kara*, *~node*, (*~gande*) 等をともに用いるという人が大部分である）。

以上、条件の表現については次のように言えるであろう。

假定表現には *~koqtara* が多く用いられるが、20代には共通語的な *~nara* を用いるきざしがみられる（また *~koqtara* 類についてみると、年代の低いものほど *~koqcja* などを多く用いる）。当然を表わす「~なければならぬ」の場合には、*nakute nanneR* より *naqka*（または *nεqka*, *nakereba*）*nanneR* への変遷をみることができる。理由表現の場合には一般的に *kara* が多く用いられるが、茂庭集落にはかつて *gande* が多く用いられていたかもしれない。

(II) 逆接の表現

この地の方言では「急いで行ったけれども間に合わなかった」の「~けれども」に対応する言い方として、*~kencjomo*, *~kenzjomo*, *~kento(mo)*, *~kincjomo*, *~keqto* 等の諸形式を用いる。それらがどのように用いられているか、その実態を調査しようとして、調査項目に「(あ

の山は) 高いのは高いけれども木が生えていない」という刺激文を用意した。その結果は第136表、第137表に示すとおり(第128・129図)。

それによれば次のように言える。総じて、かつて多くあった諸形式は統一される傾向にある。全体として～kencjomo, ～kincjomo 類が多く、また年代の高いほど多いが、年代が低くなるにつれて、～kincjomo は姿を消す。また、～kencjomo 類の度数も少なくなる。～kento 類は年代の低くなるにつれて増す。20代からは共通語的な～keredomo 類が増す傾向がみられる。

(12) 格助詞 sa

既述のようにこの地の方言でも、方向や帰着点や目的を示す場合に、格助詞 sa を用いる。しかし、もちろん sa のつきやすい場合もあるし、つきにくい場合もある。また、若い人はしだいに用いない傾向もあるようである。実際にはどのような状態にあるかを知ろうとして、調査票に次の項目を加えた。

「東京へ行く」「映画を見に行く」

その結果は、第138表～第141表に示すとおり(第130図～第133図)。

以上の2項目ともに、60代・40代では～saが現在でも圧倒的多数によって用いられている。しかし、20代ではしだいに用いられない傾向がある。特に保原町では急激に減少している。茂庭集落では20代でも大多数はまだsaを用いるが、やはり緩慢ながら減少する傾向がみられる。「東京へ」「見に」を比較すれば、後者の方がより共通語的な言い方になっている。

(13) を 格

既述のように、この地の方言では「を格」表示の場合、格助詞を用いなくて、mizu kero <水をくれ> のようにいうことが多い。人格的なものについては、oretoko haterta <おれを殴った> のように～tokoを用いる。～kotoを用いることもある。また、特にとりたてて強調する場合には sono hanaba kuncjeR <(この花ではなく)その花を下さい> のように～baを用いることもある。しかし、最近ではあまり聞かれなくなっている。

これらの実態を知ろうとして、次の調査項目を用意した。

「うちの子どもをいじめた」「はさみを取ってくれ」

その結果を表示すれば、第142表～第145表のようになる(第134図～第137図)。

「子どもを」をみると、全体として～toko, ～ntoko 類が多いが、保原町と茂庭集落との間に違いがみられる。保原町では～ntoko が比較的多く、20代でもある程度みられるが、～toko は20代ではすっかり勢力を失っている。茂庭集落では～toko が多いが、20代では減少しており、代って～ntokoの増す傾向がみられる。両地区ともに、共通語的な～oの言い方が急速に増してきている。大まかには、茂庭集落の20代の様相が保原町の40代の様相と似ている。

「はさみを」をみると、格助詞を用いなくて、体言と用言との関係だけで「を格」を表示する形式は、各年代にわたって圧倒的な勢力を持つが、保原町の20代には～oの言い方が増してきていることが注目される。

以上について次のようにまとめることができる。

人格的なものの「を」格表示については、～ba や～koto はもはや姿を消そうとしている。保原町では～toko は勢力を失ってきて、～ntoko がやや用いられるが、共通語的な言い方に圧倒され

つつある。茂庭集落では～toko がまだ勢力を持つが、やがて保原町と同じような状態になるであろう。

一方、「はさみを」のような場合の「を」格表示については、(格助詞なしで)体言だけで、「を」格を示す形式が、まだ勢力を持ちつつけている。

(14) 所有格 no と ga

既述のように、この地の方言では所有格に～ga と～no とを用いる。自分自身とか、身内の親しいものとか目下のものについては、～ga を用いる傾向があるが、現在では、しだいに、この区別は失われている。その状態を知ろうとして、調査項目に次のものを加えた。

「これはおれの時計だ」「これはだれの帽子だ」「それは先生の帽子だ」

その調査の結果を表示すると、第146表～第149表のとおり(第138・139図)。ただし「だれの帽子」と「先生の帽子」とは結果が相似しているので、「だれの帽子」の結果は省略する。

「先生の帽子」の場合は、各年代にわたって圧倒的に～no であるが、「おれの時計」の場合は、～ga がかなり用いられ、年代が低くなるにつれて少なくなるさまがわかる。かつては～ga はもっと多かったであろうと思われる。茂庭集落の方が～ga の数は多い。すなわち、茂庭集落の方が保原町に比べてやや古い様相を示しているといえる(「その他」のうち、保原60代2名を除き、他は～ga の形をも使用すると答えている)。

(15) 用言の体言化

この地の方言は、用言を体言化して用いることがある。共通語では、たとえば「高いのは高いけれども」とか「あそこへ行くのにはどう行ったらよいか」とかいう場合には、普通「高いのは」とか「行くのには」とかのように「の」をつけて用いるが、この地の方言では～no をつけずに、takeɾwa takeɾkencjomoとか、eguni(wa)とかのように、用言をそのまま用いる。しかし、これも現在では、しだいに共通語的な言い方が多くなってきている。その実態を明らかにしようとして、調査項目に次のものを加えた。

「(あの山は) 高いのは高いけれども木が生えていない」「ここは福島へ行くのには便利になりましたね」

その結果は第150表～第153表に示すとおり(第140図～第143図)。

「高いのは」をみると、保原町ではほとんど共通語的な言い方になっていて、takeɾwaは60代にわずかばかりみられるだけである。茂庭集落には、なお若干みられ、年代の高いものほど多い。かつてはかなり用いられたことを物語っている。

「行くのには」をみると、両地区ともに eguniwa が極めて多く、40代以上では大多数がそのような言い方をしている。しかし20代ではかなり減少していて、共通語的な言い方が反比例して多くなっている。とはいっても、まだ20代の半数弱の人には使用されているので、この言い方はなお当分生き残るであろう(「その他」は茂庭20代1名を除き、他はすべて eguni(wa) の形も使用すると答えている)。また、両地区を比較すると、茂庭集落の方が多く使用している。保原町よりは茂庭集落の方が、この形を遅くまで残すであろう。

(16) 係助詞 suka

この地の方言では、係助詞 suka を、orega kakusuka nɛɾ <おれが書くよりほかない> のよ

うに動詞に直接つけて用いるが、また、*orega kakuhoka nER* のように *~hoka* を用いる人もいる。その実態を知ろうとして、調査項目に次のものを加えた。

「誰も書かないならおれが書くしかないなあ」

その結果を示せば、第154表、第155表のようになる（第144・145図）。

高年層に *kakuhoka* が多いが、年代の低くなるにつれて、しだいに減少して、代りに *kakusuka kakusika* が急速に多くなっていることがわかる。そして、それが茂庭集落において一層甚だしいことは興味深い。「N.R」類が多いのは *ore kaku*〈おれが書く〉、*ore kakanaqka nanER*〈おれが書かねばならぬ〉等が多かったせいである。「その他」は大部分が *~suka*、*~hoka* をともに用いると答えている（*~jorihoka*・*~kiri*保原60代1名、*~hoka*・*~kiri*茂庭60代1名、*~suka*・*~kiri*保原40代1名、*~suka*・*~jorihoka* 保原60代1名を除いて残り全部）。

(17) 「おれ」の複数

この地の方言は一人称に *ore* を用いるが、その複数を示す場合には *ora*、*orara*、*orera*、*oretaci* 等を用いる。その実態を知ろうとして、次の項目を用意した。

「これはおれの時計だ」「おれたちが買ったものだ」

その結果を示せば、第156表、第157表のようになる（第146・147図）。ただし、「おれの」については、ここでは省くことにする。

「おれたち」についてみると、次のようにいえるであろう。既述のように *ora* は本来、通時論的には *orera* → *orra* → *ora* のように変化したものと思われるが、やがて、その事情が忘れられて、これが単数にも用いられるようになると*、*ora* にさらに *ra* をつけて、*orara* も複数を表わすのに用いられた。しかし、一方で *ore* は、引続き単数として用いられていたから、それとの関係で、*orera* が再び作り出され、*ore*、*orera* というすっきりした関係が20代の青年に支持されている。

表でみられるように *ora* が60代、40代と減少して消えようとし、*orara* はその後を追うように60代から40代へと盛んになるが、20代で減少し、*orera* が20代で急激に増加するという様相がそのことを物語っていると言えよう（「その他」は保原60代1名を除き、他は *ora* あるいは *orara* をも用いるという）。

(18) 敬語

既述のように、この地の方言の敬語形式は単純である。丁寧表現（聞き手尊敬、デス・マス等）に用いる文末助詞については既述した。そのほかには、相手に対する依頼・命令の敬語形式がある。たとえば「お書きなさい」に対応する形式として *kakaQsjER*・*kakaQsER*・*kakansjo*・*okakinansjo* 等がある。「書いて下さい」に対応する形式は、*kaete kuncER*、*kaete kuncjER*、*kaete kuransjo*、*kaete okunnansjo* 等がある。また話題の主に対する尊敬表現は *ru*、*raru* 敬語形式がある。たとえば「お書きになりました」に対応する敬語形式は *kakaqta* である。動作についての謙譲表現形式はない。たとえば「お書きいたします」に対応する形式はない。

これらの特徴はかなり強力で、この地の人々は共通語的な敬語形式を十分に使いこなすことは困難なようである。一体どのように敬語表現が使用されているのか、高年層と青年層との間にはどのよ

* それについては *ore* に係助詞 *wa* のついた形が、たとえば *ora eganER*〈おれは行かない〉のように *ora* であることも考慮せねばならないであろう。

うな違いが表われるものかを知ろうとして、次のような調査項目を用意した。

「さあ、どうぞお上り下さい」(目上の人を家の中に招き入れる場合)

「お父さん、これを書いて下さい」(参考「はさみを取ってくれ」弟・妹にいう場合)

「あなたがお書きになったのですか」(目上の人に)

「おもしろいものをごらんに入れますよ」(目上の人に)

「先生は何時の汽車に乗るか」と先生に尋ねるときのことばは？

このとき「オノリイタシマスカ」といったらおかしいですか

その結果は第158表～第171表に示すとおり(第148図～第159図)。

まず「お上り下さい」をみると、agaranSjo, oagarinansjo, agarasjeR 等の方言形式が、全体として両地区ともに半数近くを占めている。共通語的な oagarikudasai は30%に達しない。「その他」が多いが、その内訳をみると第160表のようになっている。

第160表

	保 原						茂 庭					
	60代		40代		20代		60代		40代		20代	
	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F
1, 2	4	3	2				1		1	1	1	
1, 3	1	1					3	2		1		
1, 4		1	2	2			1					
1, 5								1		1		
1, 2, 3							1	1	1	2	1	
1, 2, 4					1			1	1			
1, 3, 4			1									
2, 3	1								1			
2, 4	1	2		1	1			1				
3, 4									1			
3, 5	1						1					
計	8	7	5	3	2		5	4	5	6	4	1
						25						25

これを選択肢別に集計すれば第161表のようになる。したがって、「その他」を考慮に入れるならば、方言形を話す度数は各年代ともにさらに多くなるであろう。保原町では agarasjeR は全体としても少なく60代にみられるだけであり、40代以下では、もはや用いられなくなっている。一般には agaranSjo が多く用いられ、年代の低くなるにつれてしだいに少なくなるが、それでも、20代でも

第161表

	保 原			茂 庭		
	60	40	20	60	40	20
1	10	7	1	8	8	5
2	11	3	2	2	8	4
3	4	1		7	5	3
4	4	6	2	1	4	
5	1			1	1	1

まだ20%以上の人に用いられている。oagarinansjo は60代・40代にはかなり用いられるが（多くの人は agaransjoより丁寧だと答える）、20代ではもはやあまりみられない。共通語の形式 oagari kudasai は20代で急激に増している。

茂庭集落では、agarasjeR が多く、ついで oagarinaNsjo も、ある程度用いられるが、これらは20代では少なくなる。それに対し、agaraNsjo はむしろ、増加している。かつて、茂庭集落の一般的尊敬表現形式は agarasjeR のようなものであったが、oagarinaNsjo が、より敬意の高い形式として用いられ始め、ついで福島市周辺、飯坂町等に用いられる agaransjo が現在、影響を与えつつあると解することができる。そして、20代では共通語の形式が急激に用いられるようになっていく。

次に「書いて下さい」をみると、保原町では、60代に～kuncjeR が多いが、40代から急激に少なくなる。代って～kunansjo が40代で多く用いられるが、20代ではそれも減少する傾向をみせている。「その他」「N.R」をみると、60代では～kuncjeR・～kunansjo の両形を用いるという人が大部分であるが、20代では～kunansjo・kaite <書いて> の両形を使うというもののや、kore と言って差し出すのだという人や、kaete kunnjekae <書いてくれないか> と言うんだという人などである。すなわち、20代では父親に向って、～kunansjo とする人も多いが、kaite とか kore とか、kaete kunnjekae とか言う人も多いのである。共通語的な kaite kudasai は少ない。共通語も言わず、伝統的な敬語もあまり使わず、敬語形式なしの言い方が使用されてきているのである。

これに対し、茂庭集落では、kuncjeR が各年代とも多く、年代が低くなるにつれて減少するが、一方、kunansjo が増してきていて、全体として方言形式は各年代を通じて現代でも使用されているといえる。

なお「取ってくれ」をみると、両地区ともに各年代にわたって kero が多い。保原町の60代に kurero が若干みえる。「その他」にも kero と kurero とを答えた人が3人いる。20代に toqte <取って> という形が出てきているのは、前項と比較参照する上で興味深い。茂庭集落でも、この傾向は同様である。

次に「お書きになったのですか」をみると、全体として、両地区ともに、kaetano kae <書いたのですか>、kaetanodesu ka が多い。60代では kakaQtano kae という形もある程度みられるが、これも多いとはいえない（保原15%、茂庭2%）。この方言における ru, raru 敬語はもはや尊敬の意がうすらいでいて、誰に対しても用いる。場合によっては、汚い姿の行商人や、使用人に対してでも用いる。保原町の60代ではまだ敬意の感じられるこの形式は、しだいに尊敬表現の役に立たなくなってきている。40代では丁寧表現（相手尊敬）の kaetano kae がそれに代り、20代ではそれに対応する共通語の形式 kaetanodesu ka が用いられるのである。そして、この傾向は、保原町よりも茂庭集落の方が、やや先んじて示していると言えそうである。なお、「その他」で2形を示した人の内訳は次のとおり。

第172表

	保 原			茂 庭		
	60	40	20	60	40	20
1, 2	5	1		3	2	
1, 3		2		2	5	2
1, 4		1		1		
1, 5	1					
1, 2, 3	1		1	1		
2, 3	1		3			
2, 4	1					
3, 4	1	1			1	1
計	10	5	4	5	10	3

次に「ごらんに入れます」をみると、こういう表現の形式が、この地の方言にないために、さまざまな種類の表現様式が用いられることがわかる。大きく分けると、「みせますよ」（「みせますかね」）の形式、「みて下さい」の形式、「ごらんなさい」の形式の三つがある。その他、少数ながら「みて貰う(か)」の形式も用いられている。そして、これらのうち、「みせますよ」の形式が多い。miseQkara <みせるから> は kara があるだけに、その婉曲さが、相手への配慮を示しているのである。なお、「その他」で2形を答えた人の内訳は次のとおり。

第173表

	保 原		
	60	40	20
1, 4		1	
1, 6			1
1, 7			1
1, 8			1
2, 3	1		1
2, 5		2	
2, 6	1		1
2, 7	1		
2, 8			1
2, 3, 5	1		
3, 5	1		
3, 6	1	1	
4, 5		1	
4, 7	1		
5, 6	1		
6, 8		1	

第174表

	茂 庭		
	60	40	20
1, 2	1	1	1
1, 4			1
1, 5	1	1	
2, 5		1	
2, 6	1		1
2, 3, 5			1
3, 4	1		1
3, 8	1	1	
3, 5, 6	1		
5, 8		1	

次に「先生は、何時の汽車に乗るか」と尋ねるときの反応をみると、やはり、本来の敬語形式である noraQ kae <乗られますか>, norandae <乗られるんですか> の類は意外に少なく、保原町の60代に少数みえるだけであり、むしろ, nonno kae <乗りますか>, norundae <乗るのですか> がかなり用いられ、また、それに対応する共通語的な norundesu ka が年代の低くなるにつれて急速に用いられて来ていることがわかる。

「その他」において2形を回答した人の内訳は第175表のとおり。

第175表

	保 原			茂 庭		
	60代	40代	20代	60代	40代	20代
1, 2	1					
1, 3	1			1		
1, 4				1	1	
1, 6				1	1	
1, 2, 4				2		
2, 3	2	2				
2, 4				2	1	2
2, 6	1				1	1
2, 3, 4				1		
3, 4	2			1	1	
3, 5	2					
3, 6	1					
3, 4, 5	1					
4, 5	1					
4, 6	1					
5, 6	1					

(19) そ の 他

その他、この地の方言の特徴として、次のようなものがある。既述したように助詞 seR(さえ)は、共通語では「わたしでさえできなかったのですから～」「あの人にさえ申し上げれば～」等のように、格助詞の下につくのが普通であるが、この方言では oresErga dekinEronni～のように、助詞 ga の上につくことがある。

それがどの程度使用されているかを知ろうとして調査項目「おれさえできないのにお前にできるもんか」を加えた。

また、「そのために、迷惑をうけた」のような場合に、この地の方言では, soretameni という形式を用いる。これは、もはやあまり使われなくなっているようである。どの程度用いられているかを知ろうとして、調査項目に「そのためにみんながひどいめにあった」を加えた。

それらの結果は第176表～第179表に示すとおりである（第160図～第163図）。

oresErga は60代でも11%～26%である。「その他」の1名は oresErga も用いると答えたが、

これを含めても、多いとはいえない。ただし、40代、20代でも少数ながら使用する人がいる。また、共通語の形式 *oresae* が各年代を通じて、過半数を占めているが、特に増加の傾向を示しているともいえない。「N.R」が比較的多いのは *oreni*, *oremo*, *orega* 等の形式が多かったためである。*oreserga* が少数であるのは、あるいは共通語の刺激文が妥当でなかったためであるかもしれない。少なくとも表の上でみる限り、この *oreserga* は少数ながら、なおしばらく使用されるものとみられる。

次に、「そのために」についてみると、*soretameni* は意外に少ない。表でみる限り *soretameni* は60代に少数、表われているだけである（保原5.3%、茂庭31.6%）。多くは *sonotameni* と *sonzjakara* 類とが用いられている。「その他」をみても、ほとんどが *sonotameni* と *honzjakara* 等とを並用すると答えており、*soretameni* も用いると答えたのは保原町20代1名だけである。「N.R」が多いのは *okagede*, *soregatameni*, *sonoserde*, *honzjamonde* 等がかなり表われたためである。

soretameni における *sore* と *tame(ni)* との結合関係は「N.R」にみられる *soregatameni* と同様であろう。

「その他」で20代1名が *soretameni* も用いると答えてはいるが、やはりこれは高年層の一部に行なわれるもので、まもなく、姿を消すものと思われる。

(20) ま と め

以上文法的特徴について、個別の特徴ごとにその変遷の様相を概観した。子細に検討すれば、同じ特徴に属する項目の間にも多少の違いは認められる。たとえば、同じ～*beR* の場合でも「行って来られるだろう」は他の項目よりはやや共通語化の度数が高い。しかし、大まかには個別の特徴ごとにかなり相似た様相を示しているといえる。

文法的特徴は一般的に年代による違いは音声・音韻の場合より少ないようである。60代に多く用いられる方言の文法的特徴が年代の低くなるにつれて共通語化していく傾向のあることは音声・音韻の場合と同様であるが、方言形式が年代により急激に減少するという例は少ないし、また、したがって20代で皆無になる例も少ない。もちろん、60代で、ある程度使用されている古い方言形式が40代あるいは20代で姿を消していることはある。たとえば、*takakanber*, *takekanber* <高いだろう>, *okinber* <起きるだろう>, *korarenber* <来られるだろう> は60代ではかなり用いられているが、40代ではめったに表われなくなっている。茂庭集落に用いられる文末助詞～*naon* が60代ではかなり用いられるのに40代では少なくなり20代ではほとんど姿を消そうとしていることなどもその例である。また、「を格」表示における～*ba* のように、もはや60代の人にさえめったに表われない例もある。*soretameni* <そのために> も60代に僅かに用いられるだけである。保原町の *agarasjer* <お上りなさい> も同様であって、まもなく姿を消すであろう。

年代による差が比較的に表われたのは次の諸例である。方向を示す～*sa* は60代40代では大多数に支持されているが、20代では（特に保原では）かなり減少して、共通語形の～*e*, ～*ni* が多くなる。また「子どもをいじめる」等における「を格」表示の場合や「受けさせる」における～*raseru* の言い方も20代で共通語形式が比較的に増している。「東京へ行くのには便利だ」における *eguni* (*wa*) *benrida* の言い方も、20代では共通語形式 *egunoni(wa)～* が増している。来客を家に招き

入れる際の「お上り下さい」も、60代40代では、agaransjo や oagarinansjo が多いが、20代では oagarikudasai が比較的が多い。

しかし、多くは年代を通じて大きな差はない。年代を通じて大多数の者に支持されている言い方が多い。「来る」は力変活用で命令形は koR であるし、意志・推量を表わす場合には beR が用いられる。可能表現には可能動詞よりは、助動詞による言い方 kakareru<書かれる>, kakaNnjeR<書かれない>が多く使用される。その他、～taQta (過去の経験等)、～Qke (回想)、文末助詞～nae・～naN, ～koQtara (仮定表現)、～keNcjomo (逆接)等をはじめ多くの文法的特徴は年代を通じて支持者が多い。

また、少数ではあるが60代、40代、20代を通じて用いられているものもある。所有格表示において、話し手が自身や身内の者等に関して、orega mono<おれのもの>のように～ga を用いるのは、60代でも多くはないが、20代でもさらに少数になるが一部の者に用いられる。oresERga<おれさえ(できないのに)>, nanni narijorto<何になろうと>等も同様である。

保原町と茂庭集落とを比較すれば、一般的には茂庭集落が保原町より方言的特徴形式を保有していると言えそうである。逆にいえば、保原町の方がやや共通語化が進んでいるとも言える。oresERga<おれさえ>, soretameni<そのために>, agarasjeR<お上りなさい>, nanni narijorto<何になろうと>, eganERber<行くまい>, ukeraseru<受けさせる>, ～Qke<回想>, ～da nae・～da naN<ですね>, ～sa<～へ>, ～toko<～を>, ～gande<～ので>, ～nakute nanner<～なければならぬ>, ～koQtara<仮定の表現>等をみると、いずれも、方言形式は茂庭集落の方に比較的によくみられる。

方言的特徴が年代を通じて、多くの人に支持されているということは、この調査が、「地域社会内において、土地の人たち同士で話す言葉」を尋ねたためであろう。恩師に対する言葉「そでございます」を尋ねた際には、方言形式の sorda nae 等があまり表われず、sordesu が多く表われた。すなわち場面によって使い分けをしているのであり、この地の多くの人は一往の共通語は話せるとみてよい。

しかし、その共通語化において問題となるものもある。敬語表現はその例である。既述のようにこの地の方言では、尊敬表現形式、謙譲表現形式、丁寧表現形式が十分に整っていない。この地の敬語体系は単純であり、共通語の敬語体系とは違いがある。したがって以上の三種の敬語の表現形式を十分に識別し使用できる人は少ない。恩師に対して sordesu を用い、来客に対して oagarikudasai を使用する人でも、「お書きになったんですか」に対しては kaitandesuka を使用する人が多いし、先生に対する言葉として「(何時の汽車に) onori itasimasuka」を変だと思う人は少ないのである。

3. 語 彙

(1) 遊び言葉

幼児から幼児へと伝えられる子どもの遊び言葉は、一般に方言形が保存されやすいといわれる。しかし、それも「遊び」そのものが変わりつつある現在では一概には言えないであろう。また、教科書・テレビ・新聞・雑誌等にとり上げられて、その「遊び」の共通語の名称が地方に紹介さ

れ、方言社会の遊びとの耳目によくふれるものと、そういうものとは関わりなしに広まっている遊びとの間には違いもあるであろう。

地域社会の遊び言葉がどのように変遷するものであるかを知ろうとして、「竹馬」「おはじき」「片足飛」を調査項目に加えた。その結果は第180表～第185表に示すとおりである（第164図～第169図）。

「竹馬」「おはじき」をみると、両地区ともに60代では方言形が多く、それが40代になると急速に減少し、反対に共通語が増し、20代ではほとんど全く共通語化するさまがよく表われている。もちろん、子細に検討すれば、60代に方言形が多いといっても、たとえば「竹馬」では保原町55%に対し茂庭集落は76%であるという違いがある。また40代で方言形が少ないという場合にも、「竹馬」は両地区とも10%以下であるのに、「おはじき」は約20%であるという違いがある。また、職業別をみると農業関係者に方言形が多いという差もある。しかし、大まかには、年代の低くなるにつれて共通語形を用い、20代ではほとんど全く共通語化しているといえる。ところが、「片足飛」をみるとそのさまは大きく異なっている。60代はもちろん、40代でも84%～71%のものが方言形を用いているし、20代でも約24%のものが方言形を用いている。そして両地区ともに20代の37%～38%のものは usagitobi, isikeri などという誤答に近い回答をするか、あるいは pinkopinko, pinpintobi などという新語を作り出しているか、あるいは「知らない」と答えている。

いずれにしても、「片足飛」の場合は共通語形は20代でもそれほど多くは表われない（40%に達しない）。これはやはり「竹馬」「おはじき」類と「片足飛」との遊びそのものと関係があらう。すなわち、前者は現在でもある程度用いられる遊びで、用具も売っているし、雑誌等にも表われて共通語形が普及しやすいのに対し、後者の遊びはしだいにすたれているばかりでなく、共通語形はまれにしか耳目にふれないという事情と関係があるだろう。語の背後にある遊びそのもののあり方（態様）が影響していると思われる。

なお、「片足飛」において、60代の方言形は、保原町では hiqkonken が多いが、茂庭集落では suqkonken がむしろ優勢である（60代では保原町と茂庭集落との間に hiqkonken と suqkonken との対立があると言えそうである）。しかし、茂庭集落の suqkonken は40代ではすっかり減少して、hiqkonken が優勢になる。もっとも、保原町でも60代、40代に suqkonken が少数みえる。いずれも保原町で生育し、学歴も保原町の小学校卒で、よその土地に居住したことのない農家の人である。特に役員等もしていない。ただし、そのうち三人は母親が隣村等の出身者である。したがって、あるいは、この suqkonken はかつて伊達郡に広く分布していたものが、しだいに hiqkonken にとって代られつつあるものかもしれない。

（2）虫の名称

人間の身近に棲息し、幼児の遊びの対象になるような虫に対しては、それぞれの地域社会ごとに虫のちょっとした特徴にも目をつけて、独特の名称をつけることもあるし、色や形や動作の微細な違いを区別して細かく命名したりする。

強い親近感を持たれている、極めて一般的な虫の方言名はどのように変遷するものであろうか。共通語の浸透に対してどのような関わり合いを持つてあろうか。虫そのものの人間との関わり合いの違いによって、名称の変遷も違いがあるものであろうか。それを知ろうとして、調査項目に次の

ものを加えた。「かまきり」「とんぼ」「赤とんぼ」がそれである。その結果は第186表～第191表に示すとおりである（第170図～第175図）。

「かまきり」「とんぼ(総称)」はいずれも極めて親近感の深いものであり、幼児向けの雑誌にも登場する。これらの結果をみると、ともに20代ではほとんどが共通語化していることで一致する。しかし、その内容を検討すると、そこに若干の差がみられる。

「かまきり」は両地区ともに60代の大半が ebomusu であるが、40代では約半数に減少し、20代では皆無になる。共通語が逆比例して増している。保原町の60代に「N.R」があるのは、刺激に用いた絵を見違えたのか、あるいは感違いをしたためか、baQta などと答えた人がいたためである。

「とんぼ(総称)」の場合も大まかには同様な傾向がみられるが、地域間に差がみられる。両地区とも60代では共通語形は34%であるが、40代になると、保原町では約90%に増しているのに、茂庭集落では50%強であり、20代では保原町が共通語形100%であるのに、茂庭集落には、なお方言形を話す人がわずかながらいる。すなわち、保原町が急速に共通語化しているのに対し、茂庭集落はその速度がやや緩慢である。また、保原町では方言形として、akezu を用いるのに対し、茂庭集落では akezubonbo, akezutonbo 等を使用している。茂庭60代に「N.R」が若干あるのは、刺激に用いた絵を見違えたのか「鬼やんま」に該当する doro などと答えたためである。

「赤とんぼ」をみると、保原町では既に60代でも約半数は共通語形を用いていて、40代ではそれが圧倒的多数となり、20代ではほぼ完全に共通語化する。そして、方言形は60代に nanbantonbo (nanbanakezu), akezu 等がみえるが akezu と答えた人はすべて、総称としても akezu を答えている。その大部分の人は「とんぼ」はすべて akezu であり、細かく区別しないのだと説明している。一方、茂庭集落をみると、nanbanko が60代、40代の大半を占めていて、20代で急激に共通語形が増しているが、なお方言形も若干行なわれる。これは保原町の方が一足先に共通語化が行なわれていると言えそうである。方言形も、保原町の nanbantonbo (nanbanakezu) に対して、茂庭集落が nanbanko である。

以上の三語を通じて次のように言えよう。ある語(かまきり)は両地区ともに60代で大半が方言形を用い、40代で半数になり、20代では皆無となる。共通語形も反比例して多くなり、20代では共通語形だけになる。ある語(とんぼ)は、地域によって異なり、保原町では急激に40代で共通語化するが、茂庭集落ではなだらかに共通語化する。またある語(赤とんぼ)は保原町では60代でも共通語形が多いのに、茂庭集落では40代にいたっても方言形が多い。同じ共通語化の道を辿るにしても、語によって、地域によって違いがある。

(3) 親 族 名

親族の名称や呼称は親族制度や親族組織と密接な関係がある。さらに地域社会の制度・組織とも関係がある。この地の親族の名称や呼称にもそれが反映しているようである。親族語彙と社会構造との関係については既に同室の渡辺友左による報告があるので、ここでは補正・補足的な説明を加えるにとどめる(国立国語研究所論集3『ことばの研究』所載「福島北方方言の親族語と形容詞の語彙体系」および国立国語研究所報告32・35『社会構造と言語の関係についての基礎的研究(1)・(2)』)。父親や母親等に対する名称や呼称には、父親の場合にはotoQcama, otoQcan, otoQca,

otor, cjan, cajan, caQcajan, taQcajan, caQca 等が用いられ、母親の場合にも、oQkasama, oQkasan, oQkajan, oQka, gaQkajan, kaQkajan, gaQka 等の多くの種類がある。これらもかつての制度や組織と関係があったと考えられるが、現在ではしだいに共通語化している。それはどのように変わりつつあるのか、その変わり方には語によってどのような違いがみられるものか等を知ろうとして、調査項目に、「父親」「母親」「祖母」の呼称とともに「赤ん坊」に対する名称を加えた。その調査結果は、第192表～第199表に示すとおりである（第176図～第183図）。

「お父さん」をみると、保原町の60代では cjan 類と otoQcan 類とがやや多い。また、otoQcama 類がある程度みられる。「その他」は otoQcan と cjan との2形を答えたもの2名、otoQcama と torcjan とを答えたもの1名、otoQcjan と otor とを答えたもの1名である。otoQcama 類はかつてはかなり行なわれたものかもしれないが現在は40代にはもはやみられない。要するに保原町の60代では共通語的な torcjan 類を除けば cjan 類と otoQcan 類と otoQcama 類とがある。これについて、「単に家々の習慣や好みによって用いられるもので、別に家格の上下には関係がない」と説明する人もあるが、古くからの地主階級の人の中には、「小作人は cjan であり、自作・地主は otoQcan・otoQcama であり、区別があった。その家の人が呼ぶ場合も、また他から呼ぶ場合も、階層の違いによって区別していた」、「小作人は自分の家で呼ぶときも cjan と言ったし、他の人もその家の当主を cjan と言った」などと言う人もいる。近年までは家格の違いにより、区別のあったことが認められる。現在ではそれがうすらいでいる。明治以降の他所からの移住者もかなりあり、古くからの地主階級や富裕な自作農の一部の高年者を除いては、そのような意識を持っている人はほとんどない。40代からは、torcjan 類が増し、20代では cjan 類、otoQcan 類は姿を消そうとしている。

茂庭集落では cjan 類はほとんど使用されず、代って caQca 類、caQcajan 類が使用される。caQca 類は少なく（「その他」に caQcajan と caQca と両方とも答えた人1名がいるのを加えても）60代・40代の4名にすぎない。caQcajan (taQcajan) 類は「その他」に caQcajan と両方とも答えた人が7名いるのを加えると27名になる。茂庭集落では、この caQcajan 類と otoQcan 類とが60代の大半を占めるが、40代になると共通語的な torcjan 類が増し、20代ではほとんど全員が torcjan 類、otorcjan 類になる。

保原町と茂庭集落とを比較すると、保原町の方が60代・40代に torcjan 類が比較的に多く、共通語化がやや進んでいるさまがわかる。

「お母さん」は kaQkajan 類、oQkajan 類、oQkasan・oQkasama 類が方言形として表われる。ほかに okacjan, oQka, gaQka とが各1例ずつみられるが、大きくはこの3類である。この3類に家格による違いを認めない人も多いが、家格の違いによるという人もいる。現在はその意識がうすらいでいることは確かであるが、家格による違いではないと言う人の中にも「私の家はもともと oQkajan だが、隣の家はもとは kaQkajan であった」などと言ってその品位の差は認める人もいる。やはり、近年まで家格の違いにより区別があったとすべきである。

現在は kaQkajan 類は少ない。保原町では「その他」の中に oQkajan と kaQkajan と両方とも答えた人が8名いるだけであった。oQkasan 類、oQkasama 類も比較的少ないが保原町では60代・40代に12名いる（「その他」に他の形と並用するという人が5名いるので）。現在、保原町の60代の多くは oQkajan である。「その他」の12名のうちの11名は oQkajan を他の形と並用すると

答えている。40代では karcjan が増す。「その他」をみても 5 名中 2 名は oqkajan と karcjan とを並用すると答えている。残りの 3 名は oqkajan と kaqkajan との並用が 2 名、oqkajan と okarsan との並用が 1 名である。すなわち 40 代では方言形は oqkajan に統合されつつ、一方で karcjan が優勢になっている。20 代では karcjan が圧倒的多数となる。

茂庭集落も、ほぼ保原町と同様な変遷を示しているが、40 代でも oqkajan 類が優勢で、karcjan 類が比較的少数であるという点で、共通語化がやや遅れていると言えるが、20 代で karcjan 類が圧倒的多数となる点は同じである。

次に「おばあさん」をみると、baqpa, baqpajan, baqpasan, baqpasama, baqpacjan, babacjan, obancjan 等が表われるが、それらがしだいに barcjan, obarcjan に代られる傾向をみることができる。しかし、これは「お父さん」「お母さん」ほどに顕著ではない。保原町では 60 代に baqpajan 類が 68% みられるが、(この中には baqpa が 5 名ある)、「その他」の 4 名もすべて baqpajan を他の形と並用すると答えている。20 代においても、「その他」のうちの 3 名は baqpajan を言うことがあると答えている。baqpajan 類はある程度用いられているとみてよい。20 代では barcjan, obarcjan は約半数であるが、「その他」のうちの 4 名は barcjan とも言っていると答えている。すなわち共通語形が増しているが、圧倒的多数には達しない。

茂庭集落でも、ほぼ同じ傾向であるが、20 代で baqpajan 類と babacjan 類と barcjan・obarcjan 類とが鼎立している。

要するに「おばあさん」は 40 代でもなお、方言形が優勢であり、20 代でも方言形がある程度用いられている点で、「お父さん」「お母さん」の場合と異なるといえる。

「赤ん坊」をみると、保原町の 60 代には onboko 類、oqtoko 類、akaqko 類がかなり多いが、茂庭集落の 60 代には oboqko 類、otoqko 類、akaqpe 類が多い。40 代になると、保原町ではさまざまな言い方が統一されて onboko 類が増す一方で共通語形の akanbo, akacjan 類も多くなるが、茂庭集落では 60 代とはほぼ同じ状態である。20 代では、保原町は onboko 類は残るもののほぼ共通語化しているといえるが、茂庭集落では otoqko 類、oboqko 類の方言形もまだ若干用いられて共通語は約 65% である。

以上、親族語の変遷をみると、「お父さん」「お母さん」が 60 代から 40 代 20 代としだいに共通語化して、20 代ではほぼ完成しているのに対し、「赤ん坊」では、40 代の共通語化はあまり進まず、20 代でもなお方言形が残り、約 86%～65% の共通語化である。「おばあさん」ではさらに遅れ、40 代ではほとんど共通語化せず、20 代でも 58%～38% にすぎない。また地域によっても異なり、方言語形も異なるが、共通語化の速度も異なる。特に「おばあさん」の場合に、それが表われている。総じて茂庭集落に方言形がやや遅くまで残る傾向がある。

(4) 農関係語(1)

農業関係の語にもさまざまなものがある。農作業に用いる用具や、動物やあるいは作業そのもの、作業方式が変わると用いられなくなったり、行なわれなくなったりして、その名称もしだいに忘れられていく。一体、それらの言葉はどのように忘れられていくものであろうか。物事がなくなって後、どれくらい言葉は生きのびるものであろうか。物事の性質によってどのような違いがみられるものであろうか。それらを知ろうとして選んだのが次の調査語である。なお、相当

の語について、使用する言葉とともに、聞いて理解できるかということも尋ねた。

「ふりうち棒（穀竿）」「摺臼」「バツトラ（水流による米つき装置）」「あらくれ」「はなどり」「牡牛」がそれである。

このうち、前3項目は農作業に用いる用具の名称である。後3項は農作業そのもの、およびそれに使用する動物の名称である。

「ふりうち棒（穀竿）」は関東地方では「クルリ棒」と言われるものである。この地方では huriucubae, huriucubor などと言われる。豆類の脱穀や麦打ちに用いるものである。保原町地区では明治末期ごろに一時用いられたが、まもなく用いられなくなった。ただし、一部の農家で昭和10年頃まで使っていたという。茂庭集落では用いられなかったという。

「摺臼」は米の粃を除く脱穀装置であるが、刺激用の絵には旧式のいわゆる「土摺臼（どずるす）」を用いた。これは昭和初年まで用いられた。その後はより軽便な「唐臼」になり、これは戦後なお一部に使用され、昭和25年頃に姿を消した。

「バツトラ」は「バツトリ」「水唐臼^{みずからうす}」とも言われるもので、水流を利用した米つき装置である。水流を利用するので保原町には存在しなかった。茂庭集落では戦前まで用いられた。

「あらくれ」は田植えにおけるいわゆる「しろかき」の一種である。「しろかき」は普通2回～3回行なわれる。耕した田に水を入れ、最初に大まかにならす作業が「あらくれ」であり、arakaki <あらかき>, arasuro <あらしろ>, ecubansuro <一番しろ> とも言う。その後 nakazuro <なかじろ> をへて、uezuro <上しろ> を行なって、「しろかき」が終了する。「あらくれ」には多くは牛や馬を使用する。自動耕運機が普及し、「しろかき」も機械によって行なわれるようになると、「しろかき」は1回で完成するので、従来のように「あらくれ」以下の細かい区分はなくなった。昭和28年頃より機械化が始まり、昭和32年ごろには一般化した。昭和35年には牛馬にたよる「あらくれ」はすっかり姿を消した。

「はなどり（鼻どり）」は、その「あらくれ」において、牛や馬を導く作業、また、その作業をする人をいう。「はなどり」は多く少年の役であった。したがって、これもまた昭和28年～昭和32年頃には行なわれなくなり、昭和35年には姿を消した。

「牡牛」はやはり、耕作に使用されたので、自動耕運機が普及すると同時に耕作用としては姿を消したことは、前2例と同様である。ただし、この名称については、茂庭集落には kotebeko という古形が用いられるが、保原町には行なわれないようである。kotebeko は通時論的には kotohi～→kotoi～→kote～であろう。

以上の6語について調査した結果は次の第200表～第219表に示すとおり（第184図～第203図）。

「ふりうち棒（穀竿）」をみると、この物の存在と明瞭な関係のあることがわかる。保原町の60代では65%が huriucubae, huriucubor 類を答えている。「その他」の5名も全部が huriucu あるいは huriucubor, huriucuber とも言っていると答えているから、78%はこの物の方言形を知っている。もし ucubor までを加えるならば86%になる。残りの13%強が「知らない」ないし「誤答」とみなされる。それが40代になると方言形は急激に減少する。ただし「その他」の2名はいずれも huriucubor あるいは huriucuber 等とも言っていると答えているから、これを加えると28%になる。が、残りは「知らない」あるいは「誤答」である。20代ではもはや方言形も共通語形も表われない。

茂庭集落では60代でも既に81%が知らない。40代以下はもちろん知らない。これはこれらの地域におけるこの物の歴史と関係があろう。

次に huriucubor, huriucubae 類を答えられなかった人に、これらの方言形を聞いたら、わかるかどうかを確かめてみた（ただし、前の調査で「聞けばわかる」などと説明した人は省いた）。その結果茂庭集落でも60代ではある程度理解できることがわかるが、しかし、それほどではない。物が存在しなければ言葉もまた存在しないのだといっても、この場合はさほど不当ではないであろう（グラフは前の結果と合して総合的に理解できるものすべてを示す）。

次に「摺臼」についてみると、「その他」はすべて surusu あるいは dozurusu とも言うて答えているので、これを加えれば保原町の60代はすべてが名称を知っている。40代では大部分が知っているが、「知らない」と「N.R (ほとんどが誤答)」とを加えると、18%を越える。20代では全員が用いないといっている。

茂庭集落でも、60代ではほとんどが名称を知っているが、40代では用いない人が23%に増す。20代ではほとんどが用いない点は保原町と同様である。

次に「スルスという言葉を開けばわかるか」についてみると、「わかる」が40代では13%~15%増すが、20代では8%~3%増すだけである（グラフは総合して理解できる人の割合を示す）。

これもまた、物が姿を消すと同時に言葉も消えていくことを物語っている。

次に「バツタラ」〈バツタリ〉についてみると、地域による差が明らかである。保原町では、60代は66%が baqtara, baqtanko を用いるが、40代では（「その他」の1名が baqtara をも用いると言うから、それを加えると）26%が用いるだけであり、20代では全く用いない。

茂庭集落では、60代は79%、40代も68%の多数が用いているが、20代では2.7%だけになる。保原町と茂庭集落とを比較すると、40代はもちろん60代でも差がある。これは茂庭集落にはその物が存在していたことと関係があろう。もちろん、保原町の農家も周辺の山村に出かけて実物を見る機会はあったであろうが、何といっても身近に存在していたかどうかによる違いを認めねばならないであろう。そして物が姿を消すと言葉もまたその後を追って姿を消すのである。

baqtara, baqtanko 類を答えなかった人に、これらの方言形を聞けばわかるかどうかを尋ねると（ただし、前の調査で「用いないが聞けばわかる」などと説明した人は省く）、「わかる」がかなり数を増す。特に保原町の40代のかかなりの人がわかるという。これは先の「ふりうち棒（穀竿）」の場合とはやや趣が異なる。「ふりうち棒（穀竿）」の場合には、これを用いなかった茂庭集落の40代の人、言葉を聞いてもわからないが、この「バツタラ」の場合には、これを用いなかった保原町の40代の人でも、聞けばわかる人がかなりいる。それは「バツタラ」がやや遅くまで用いられていたこととともに、この物の性質とも関係があろう。すなわち、「ふりうち棒（穀竿）」は一年のうちのある一時期に用いられるだけであるのに対し、「バツタラ」は一年中用いられ、精米という貴重な機能を果たすものだけに、目につきやすかつ関心を持たれたためでもあろう。しかし、それでもやはり、総合して理解できるもののグラフを作れば、茂庭集落の方が保原町よりは多い。

次に「あらくれ」についてみると、arakure, arasuro 等の名称を答える人は両地区ともに60代に多く、40代もほぼ同様に用いるが、20代では急激に減少する様子がわかる。保原町の「その

他」はすべて arakure, arasuro 類をも用いると説明しているが、茂庭集落では60代の1名は同様であるが、40代の1名は sjoqkaki, naqsjoqkaki 等と答えているので、これらを考慮に入れると、保原町と茂庭集落との間にも差があるようである。それは次の「鼻どり」で一層明らかになる。

「鼻どり」は40代以上の人はほとんどが用いる。特に保原町の60代は100%である。20代では大多数が用いない。「聞けばわかるか」においても、もはや20代の大多数は知らないのである（グラフは総合して理解できるものの%を示す）。物事が姿を消せば、言葉もまた消えていくことを雄弁に物語っているといえる。また、保原町と茂庭集落との間に差がみられるのは、茂庭集落においては、農家以外の人も少数ではあるが、調査対象になっていることと、茂庭集落では畑と林業（炭焼き）とで生活している人がかなりいるせいであろう。

「牡牛」についてみると、茂庭集落に kotebeko がみられること（「その他」の茂庭の60代2名は kotebeko 等とも言っていると答えている）、20代に共通語形の増すことが注目される。「コテベコ」類を「聞けばわかるか」についても、茂庭集落では40代以上はかなり理解できるが、（60代57%、40代35%）、20代では全員が理解できなくなっている。保原町では60代でも理解できる人は皆無であった。「牛」の場合は kotebeko <牡牛>, menabeko <牝牛> の区別は早く失われ、otoko beko, onago beko 等と言われ、それも年代の低くなるにつれて共通語化して行くさまがわかる。

以上、現在は失われた農関係の用具や作業について調査した結果をまとめれば次のように言えよう。第一に物事が姿を消せば、後を追ってその名称も姿を消し、使用されないばかりでなく理解もされなくなる。第二に、その地域に行なわれない、あるいは存在しない物事については、その名称も使用されず、理解されない傾向がみられる。ただし、それらの物事の性質によってその数値には違いがある。第三に地域の性格の違いによって、同じ関係の語でも使用や理解の程度は異なる。

(5) 農関係語(2)

次に現在も行なわれている農業関係事象の語について検討する。もちろん、農関係の語彙にも共通語化は行なわれている。しかし、農関係の語彙の中には地域社会の生活に深く根をおろしている語が多い。それらは生活全体と関係を持って語彙体系を構成している。共通語の場合には、それを吸収するだけの用意のないことが多い。たとえば unau, unar は共通語の「深耕」にほぼ該当するが、前者は hatakeuner <畠の耕作>, tauner <田の耕作>, unerkata <耕作のしかた>, asauner <比較的浅く耕作する>, haruuner <春の耕作> 等のように関係語を多く持つばかりでなく、sakuru <中耕>, sakurikiru <除草を兼ねた耕作>, sokoqpori <非常に深く耕作する>, tencugersu <1 m以上深く掘って耕作する>, mukuri <春に除草を兼ねて表面を削る> 等とも関係を持つ。しかし、共通語の「中耕」や「深耕」はそのような関係を持たず、孤立する。果たして、農関係語はどのように変遷しつつあるのだろうか、共通語化が行なわれているのだろうか、それらを知らうとして調査項目に次のものを加えた。

「深く耕す」「軽く耕す」「水口（入口）」「水口（出口）」「午後間食」

その調査結果は、第220表～第227表に示すとおり（第204図～第211図）。

「深く耕す」はこの地の方言では unau, unar 類と sokoqpori 類とがあるが、もちろん、その耕作の方法はやや異なる。一般的な深耕が前者であり、後者はより深く耕す方法である。tagajasu

類に sinkor 〈深耕〉も含めて集計した。表にみるように40代以上では unau, unar 類が圧倒的多数であり, sokoqpori 類を含めると, 方言形は極めて多い。tagajasu 類は, 20代ではかなりの支持者がいるが, それは「職業」欄をみればわかるように農業に従事していない人が大部分である。農業従事者で tagajasu (sinkor) 類を支持しているのは1名にすぎない。保原町の20代に tagajasu 類と N.R とが多いのは, 農家の子弟でも現在は他の職業に従事している人が多いためである。もし農業従事者だけに限るならば方言形は90%を超える。すなわち次のように言えるであろう。

農業従事者においては年代に関係なく, unau, unar 類か, sokoqpori 類か方言形を用いている。しかし, 農家の子弟でも農業に従事していない人は農業関係の方言を用いずに共通語を用いたり, あるいは N.R (不適切な語) を用いたりする。これは保原町・茂庭集落を通じて言える。

次に「軽く耕す」についてみると, 「その他」が多いが, 保原町の60代男性1名, 20代男性1名を除いて全員が sakuru, sakurikiru とも言うと言っている。それを考慮すれば, 40代以上では圧倒的多数が方言形を用いていると言える。sakuru 以下4方言形の表われたのは, 適切な刺激文が用意できなかったためであろう。20代に cjurkor 〈中耕〉を含めた tagajasu 類, 「しらない」が多いが, 職業欄をみれば明らかなように, 農業に従事していない人が多いせいであり, 農業従事者に限れば, その数は少ない。やはり農業従事者は方言形を使用していることがわかる。

次に「水口(入口)」についてみる。田に水を引き入れる口を minakucu というのが本来の方言形である。調査の結果は, 保原町では40代以上は minakucu の多いことがわかるが, 前の2項ほどではない。また農業従事者に限っても「しらない」人が多く, この大部分は20代であることがわかるが, kjursuiguci, 「しらない」あるいは N.R が農業従事者にも増していることは注目すべきであろう。あるいは果樹栽培を専業とする農家が増していることと関係があるのであろうか。これは茂庭集落の場合にも言える。農業従事者の中にも kjursuiguci 類が多くなっている。

これは「水口(出口)」の場合にも同様であり, suriminakucu 〈尻水口〉という方言形はしだいに忘れられ, haisui 〈排水〉, deguci 〈出口〉あるいは「しらない」が農家にも増してきている(表は省略)。

次に「午後間食」についてみる。方言では kobiru 類が使われるが, kozurhan 類もある程度行なわれる。kobiru 類はさらに北部地域に連なり, kozurhan 類はさらに南部地域に連なるものである。「その他」の大部分はこの2形をともに用いると答えているので, それを考慮すれば, 保原町では kobiru 類が年代に関係なく広く用いられるが, kozurhan 類は20代ではかなり減少する。一方茂庭集落では kobiru 類が多いが, kozurhan 類は少ない。また20代では ojacu や「しらない」が多いが, それは農業従事者ではない。農業従事者は kobiru が多いといってよい。農家の「午後間食」はあくまでも重労働を支えるための主食を伴う間食であって, いわゆる「おやつ」とは形態と機能とを異にすることを考慮する必要があるだろう。

以上をまとめると次のようになろう。

農関係用語は, 必ずしも共通語化が行なわれていない。方言形が行なわれていることもある。それはたぶん, その物事の機能を十分に意味し得る共通語のないせいであろう。しかし, 語によっては, 方言形が忘れられたり共通語形が20代に用いられたりする傾向もみえる。

(6) 用具の廃亡と名称

用具は生活上の必要と便利さの故に使用される。それが身近に必要であればあるほど、また便利であればあるほど広く一般に使用され、その名称もまた一般化し、身近な用語となる。しかし、それが他の用具にとって代られたり、あるいはそれが必要でなくなれば、その用具はすたれ、人人に顧みられず、遂には、世の中から姿を消すことにもなる。したがって、その名称もしだいに人々の耳目より遠ざかる。場合によっては、小説や随筆や絵画等の中に記述されて、人々の記憶を呼び戻してくれるものもあろうし、博物館とか資料館に残ることもあろうが、そのような特殊な場合を除いては多くは人々から忘れられていくであろう。いったい、物事がすたれた場合に、言葉はどの程度生き残るものであろうか。それを知ろうとして、調査項目に次のものを加えた。

「トテ馬車（乗合馬車）」「赤児籠（嬰兒籠）」「足半ぞうり」^{あしなか}「自在鍵」「横座」

このうち、「乗合馬車」は昭和初年まで福島一飯坂間を走っていたという。しかし、これは、書籍・雑誌・映画・テレビ等にも表われるし、現在でも各地の観光地において用いられているという事情がある。

「赤児籠」は乳幼児を入れる藁で編んだ籠であるが、この地では戦前まで用いられ、一部では昭和24・5年頃まで用いていたという。

「足半ぞうり」は藁で編んだぞうりで、この地の方言では tankozorri, ebozorri, bekozorri, cunokozorri 等と言われる。昭和24・5年頃まで用いられた。

「自在鍵」「横座」は、この地の方言ではそれぞれ kagi, jokoza と言われる。保原町では昭和35年頃から「いろり」が姿を消し始め、昭和40年頃にはほとんどの農家で炊事にはプロパンガスを用い、暖房には「電器ゴタツ」「煉炭」「ストーブ」を用いるようになり、「自在鍵」「横座」は「いろり」とともに姿を消した。ただし、茂庭集落では現在でもかなり「いろり」を用いている。

以上についての調査の結果は第228表～第239表に示すとおり（ただし、「赤児籠」は第42表、第43表、図は第212図～第227図）。

「乗合馬車」についてみると、totebasja と答えたものは、60代で42%～62%であり、40代では24%になり、20代ではほとんど用いられない。これに反比例して、basja, horobasja, 「しらない」, 「N.R（誤答）」が多くなる。60代で茂庭にやや totebasja が多い。

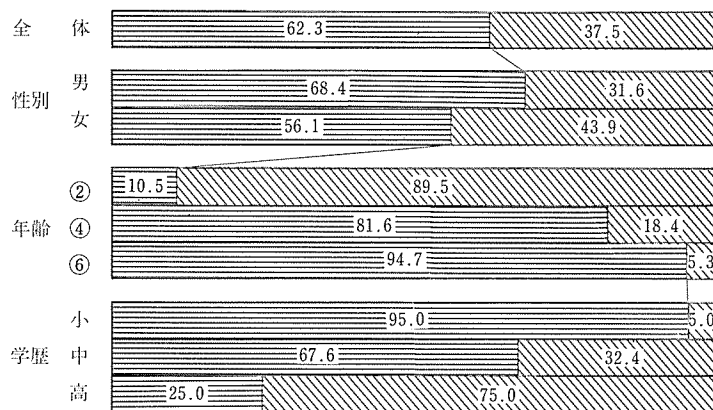
totebasja という言葉を聞けば理解できるかどうかを尋ねると、若干、数が増す。総合してグラフを作ると、理解する人はかなりいることがわかる。しかし、やはり茂庭の60代が極めて多い。これは、福島一飯坂間に「トテ馬車」が走っていて、現実に体験したことと関係があらう。それにしても、20代でも理解できる人がかなりいるのは、「トテ馬車」その物および名称が今でも耳目に入ることのせいでもあろうか。（horobasja が若干みられたのはテレビ・映画のせいかな）。

次に「赤児籠」についてみると、第42表・第43表にあるように両地区ともに40代以上ではほとんどが ecuko 類を用いている（「その他」はすべて ecuko 類をも言うかと答えている）。20代では半数に達しない（「N.R」はすべて「しらない」または誤答）。

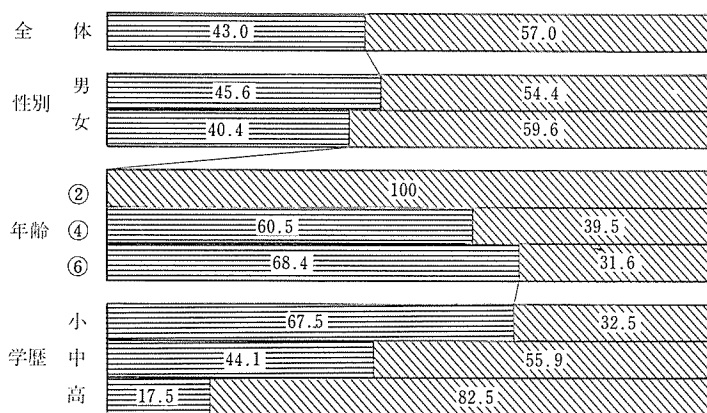
ecuko という言葉を聞けば理解できるかどうかを聞き、総合的にグラフを作製すると、20代でもかなりの数に達する（42%～62%）。これを先の「鼻どり」や次の「足半ぞうり」と比較すると、ほぼ同時代まで行なわれていた（むしろ「赤児籠」がやや早くすたれた）にもかかわらず、理解

第220図 3.03(2)

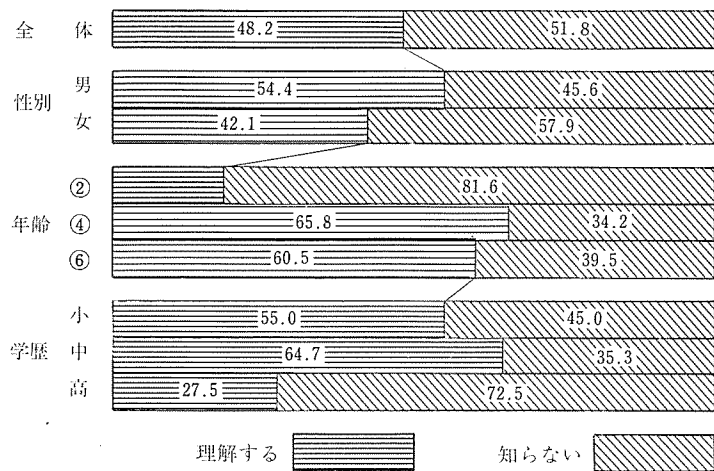
タンコゾーリ(保)



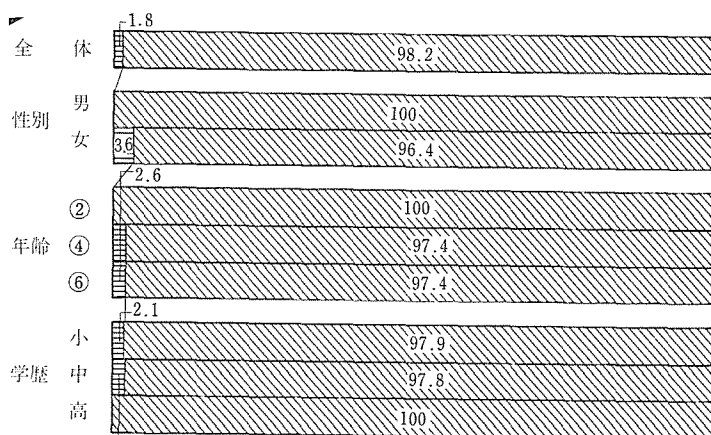
エボゾーリ(保)



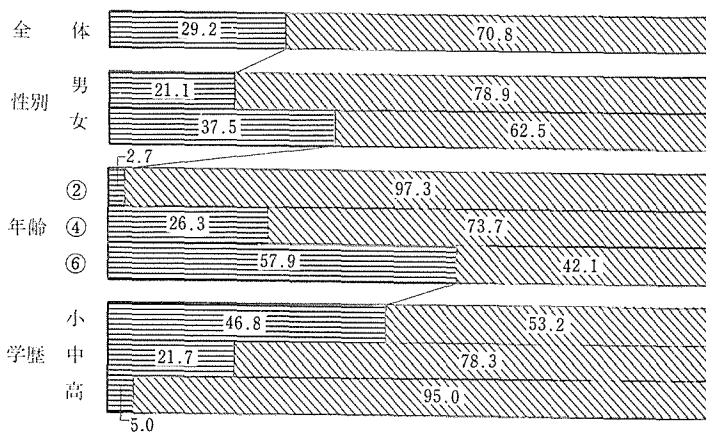
ペコゾーリ(保)



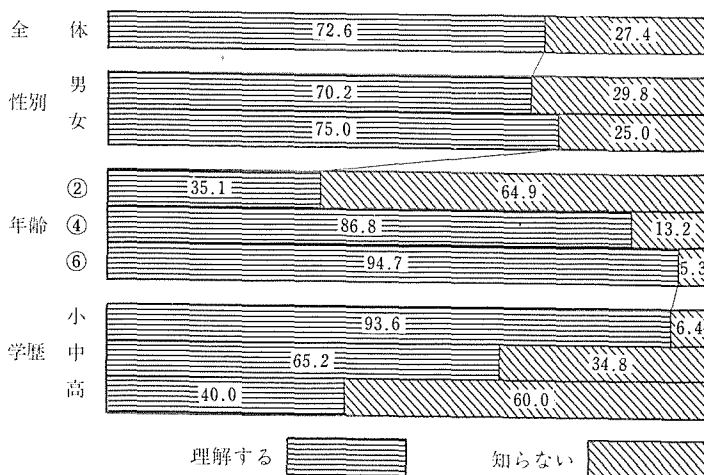
第221図 3.03(2)
タンコゾーリ(茂)



エボゾーリ(茂)

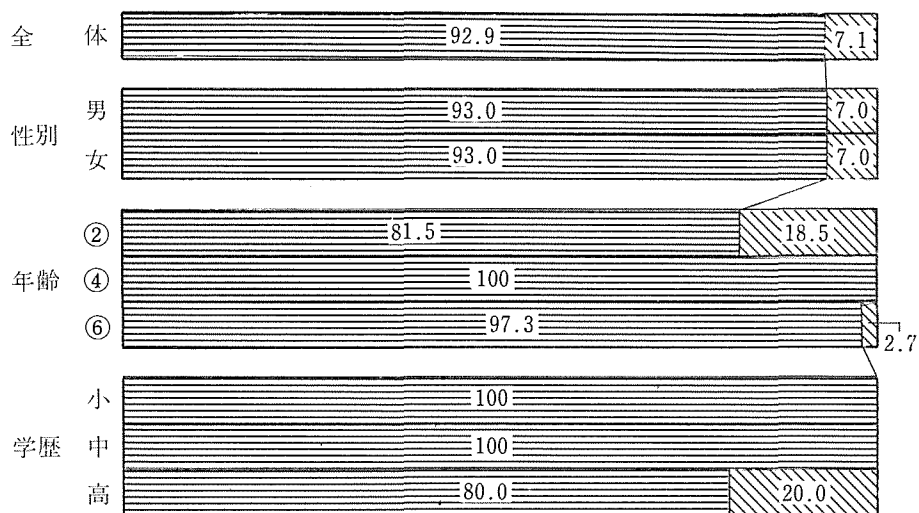


ペコゾーリ(茂)

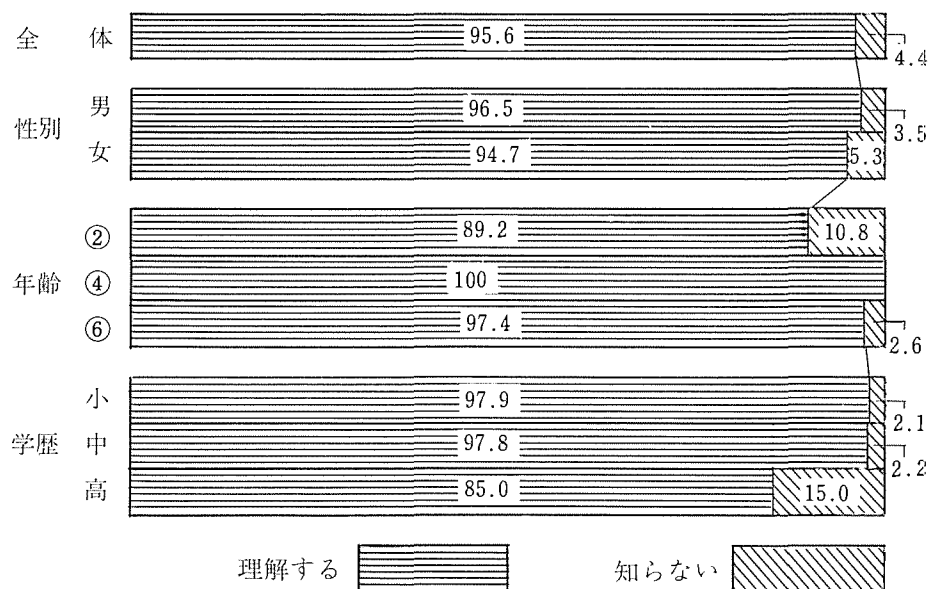


理解する (Horizontal lines pattern) 知らない (Diagonal lines pattern)

第226図 3.15(2) 横座（わかるか）（保）



第227図 3.15(2) 横座（わかるか）（茂）



する人は「赤児籠」の方が多い。この物が、より身近な存在であったせいでもあろうか。

次に「足半ぞうり」についてみる。保原町では、60代、40代に tankozorri, ebozorri, bekozorri が優勢である。「その他」もほとんどがこの3形をあげている（60代では tanko～8名, ebo～7名, beko～8名, 40代では tanko～9名, ebo～5名, beko～6名）。tanko～, ebo～, beko～はいずれもこの「ぞうり」の形より命名されたものであろう。すなわち、編みあげたあとの結び目がややとび出しているさまが、「タンコブ」とも「イボ」とも「牛の角」とも形容されるからであらう。しかし、20代では「N.R」（「しらない」あるいは誤答）が多くなっている。

茂庭集落では bekozorri が優勢である。「その他」も「beko～と ebo～とをとともに用いる」「beko～と cunoko～とをとともに用いる」が大部分である。ここでも20代は warazorri とか「しらない」が多い。茂庭集落では tanko～の形は用いない。代って cunoko～が若干用いられる。この～ko は東北方言に有名な nekoqko <猫こ>, nmaqko <馬こ> 等の場合と同様な接辞であらう。

tanko～, ebo～, beko～の3形について、聞けば理解できるかどうかを尋ねたが、その結果は第220, 221図によって示される。保原町に tanko～が優勢であるさまが明らかである。beko～は tanko～等に比して40代、20代に比較的多く、新しい勢力であることを示すが、もはや20代ではこの物の名称そのものが理解されなくなっている。「bekozorri というのは牛のはくような粗末なぞうりという意味だ」と言う人さえいる。茂庭では、比較的に20代でも理解できる人が多い。が、「赤児籠」には及ばない。名称もまた、物と同様に弊履の如く捨て去られるのであろう。

次に「自在鍵」「横座」をみると、「その他」はすべてそれぞれ kagi 類あるいは kani 類を言うかと答えているか、あるいは jokoza 類をも言うかと答えているから60代、40代ではほとんど全員が方言の名称を用いるが、20代では減少する。「自在鍵」は保原町の20代はほとんどが「しらない」し、茂庭集落でも半数に達しない。ところが「横座」は保原町の20代でも約半数が使用するし、茂庭集落では大半が使用する。すなわち、保原町よりは茂庭集落に多く、また「自在鍵」よりは「横座」が多い。これは「いろり」の姿の消し方に関係があらう。「いろり」は一挙に消えたのではない。炊事の使用には用いなくなっても、しばらくは、「いろり」を改造して、薪ストーブ、煉炭等によって暖をとったり、お湯をわかすのに使用された。「自在鍵」は使用されなくなって姿を消したが、なお「いろり」はしばらく存在したのである。「横座」の方が長生きしたわけである。そして、薪のふんだんにある茂庭集落では、現在でもかなりの家で「いろり」（「自在鍵」も）を使用しているのである。

次に「横座」の名称を聞けば理解できるかどうかを尋ねると（総合してグラフに示す）、保原町の20代でもほとんどは理解できるという。これは「いろり」が消えて、まだ年が浅いからであらう。積極的には使用しなくなっても、まだ聞けば思い出せる程度なのであろう。

既述した農業関係語の中にも物事の廃亡に伴って語の消失する例があった。それらとここで述べた事項とをまとめて表に作れば第240表のようになる。

この表によれば、物事の廃亡に伴ってその名称も姿を消すさまがわかるが、それぞれに事情があって、一般的にこれを法則化して述べることは困難である。極めて概括的なことしか言えない。が次のことは言えそうである。

物事が廃亡した10年後には、その名称は20代の人たちの半数以上に使用されなくなる。また特殊な場合を除いては理解もされない。しかし、20年前に廃亡した事物であっても、40代の人のお大半はその名称を使用するし、理解もする。人間の成長のどの段階で、その事物をどの程度体験し、名称を使用していたかということが重要なのであろう。

第240表

事 例	廃亡年	保 原			茂 庭		
		60代	40代	20代	60代	40代	20代
乗 合 馬 車	昭和 5	45 (66)	26 (61)	3 (21)	63 (92)	24 (55)	5 (22)
ふりうち(穀竿)	昭和10	86 (98)	28 (55)	0 (5)	・(18 (32)	5 (8)	3 (5)
バ ッ タ ラ	昭和20	・(66 (76)	24 (58)	0 (8)	79 (95)	68 (79)	3 (8)
摺 白	昭和20～25	100 (100)	82 (95)	0 (8)	97 (97)	76 (92)	3 (5)
足 半 ぞ う り	昭和25	89	84	8	90	76	11
赤 児 籠	昭和25	100 (100)	95 (100)	21 (42)	97 (100)	97 (100)	43 (62)
あ ら く れ	昭和35	・(82	63	3	・(55	50	5
鼻 ど り	昭和35	100 (100)	95 (100)	24 (42)	92 (100)	79 (97)	22 (27)
自 在 鍵	昭和40(－)	100	95	8	97	100	43
横 座	昭和40(+)	100 (100)	100 (100)	50 (82)	97 (97)	100 (100)	78 (89)

注 表中の数は％を示す。上段は使用率、下段は理解率である。

・は特殊条件のあるものを示す。

(7) 動作・性状語

この地の方言の動詞・形容詞の中には、共通語と比較して特色のある意味・用法を持つ語がかなりある。そのうちの若干についてどのように変遷しつつあるかを調査しようとした。

選定した調査語は次のとおり。

「降りる」「走る」「(汽車が)走っている」「叱られる」「疲れている状態を示す語——kow&R」「恥ずかしい」「たいくつしている状態——tozenda」

共通語の「降りる」に該当する語は ocuru である。「落ちる」に該当する語も ocuru である。ocuru は「降りる」「落ちる」両語の意味・用法を持つ。しかし、最近では共通語的に oriru と ociru とを使用する人も多くなっている。

「走る」に該当する語は haneru である。「跳ねる」に該当する語も haneru である。haneru は「走る」「跳ねる」両語の意味・用法を持っている。「走って行く」は hanedegu である。「かけっ

こ」は haneQkura と言われる。この方言では人間・動物等が前進・後退・移動を行なう動作は aruku か haneru かである。「走る」「かける」は用いない。したがって、自動車も電車も aruku と言われる。人間や動物は上下動を伴って走るから一種の haneru であるが、自動車や電車はそうに haneru ことはないから aruku だけである。しかし、現在ではしだいに hasuru・hasiru も用いられるようになってきた。もっとも、今でも「通っている」意味では「aruqteru」が用いられる。A地点からB地点までバスや電車が通じている場合や、雪が降っているがバスが運転されている場合等には、この「aruqteru」が用いられる。しかし、眼前に機関車が非常な速さで突進して来る場合等には hasuQtekita <走ってきた> が多く用いられるようになった。

「叱られる」は oncareru である。これは名詞の onca <二男以下を指す語> が動詞として用いられたものである。

「疲れている状態」を示す形容詞に kower がある。共通語にはこれに該当する語はないようである。

「恥ずかしい」に該当する語は sjorsue であるが、しだいに用いられなくなっている。kaqkorwarir <格好悪い> や hazukasir 等が多くなりつつある。

「たいくつしている状態」を示す語に tozenda がある。これはたいくつして手持ぶさたの状態を表わす。これも現在ではあまり用いられなくなっていて、sugener <孤独感を伴うような寂しさ> や共通語の sabisir が多くなってきている。

これらについての調査結果は第241表～第254表に示すとおり（ただし、「叱られる」は第82表、第83表、図は第228図～第241図）。

「降りる」についてみると、保原町では60代の大多数が ocuru 類であるが、40代では半数以下になり、20代では13%に減少する。茂庭集落では60代、40代の大多数が ocuru 類で、20代でも半数近くは ocuru 類である。共通語が増してはいるが、茂庭集落は方言形を保つ傾向がみられる。

「走る」も、ほぼ同様な傾向がみられるが、保原町の40代の過半数が haneru を支持している点と、茂庭の20代の共通語化がやや多い点とに違いがみられる。

「(汽車が) 走っている」場合に aruku を用いることはさすがに少なくなって、ともに60代に20%強みられるだけである。もし「汽車が通じている」の場合だったら aruqteru はまだまだ用いられるであろう。

「叱られる」に oncareru を用いることも少なくなっている。60代の約半数が用いるだけで、40代では13%～5%と減少する。興味深いのは、この減少の速度は茂庭集落の方がやや速い。

「疲れている状態」を示す kower についてみると、保原町、茂庭集落ともに大多数が kower を用いている。性・年齢・学歴等にかかわらず、kower が用いられている。これに代る適切な共通語がないことによるものであろう。

「恥ずかしかった」をみると、60代では sjorsukaqta が大多数である（保原82%茂庭66%）が、40代で減少して、代って kaqkorwarikaqta が多くなる。20代では sjorsukaqta はもはやほとんど用いられず、kaqkorwarikaqta が多数となり、共通語の hazukasikaqta もやや用いられる。sjorsue より kaqkorwarir への交代は茂庭集落の方が一足速いといえる。「その他」は保原町60代1名を除き、すべて sjorsukaqta と kaqkorwarikaqta とをともに用いると答えている。

「たいくつしている状態」を示す *tozenda* や *sugener* はあまり多くはない。保原町では *tozenda* を答えた人はなかった。*sugener* も60代29%、40代16%にすぎない。茂庭集落はやや多い。「その他」はすべて *tozenda*, *sugener* をともに用いるというから、60代の方は40%近くがこれらの形を用いていることになる。しかし40代で18%に減少し、20代ではほとんど用いられなくなる。

次に *tozenda* という言葉を使うことがないか、聞けば理解できるかどうかを尋ねると（グラフは総合して作成した）、保原町の60代では34%が使用し、68%が理解できるが、40代では理解し得る人さえ26%以下になる。これに反し茂庭集落では60代の大半が使用し、40代の27%が使用し、大半が理解する。20代でも16%は理解する。茂庭集落がやや古形を保つ傾向がみられる。

以上をまとめて次のように言えよう。

共通語にない意味・用法を表わす *kower* のようなものは方言形がつづいて使用される。共通語の方が、より適切であるような「(汽車が) 走っている」、「叱られる」等ははやく共通語化して、60代でも方言形は少ない。「走る」「降りる」のように、新しく意味の区別をして概念を持たねばならないような共通語化は段階を追って進んでいる。

「恥ずかしい」のように新しい「方言 (*kaqkorwarir*)」を作り出す語もある。

tozenda のような古形の残存は、地域によってかなり異なる。概して、茂庭集落の方が保原町よりは古形を保持しがちである。しかし、*oncareru* 〈叱られる〉や *sjorsue* 〈恥ずかしい〉のように茂庭集落の方が早く方言形や古形を捨てて新しい語を使用することもある。

(8) そ の 他

その他、この地の方言で特色ある語として次の語を調査語としてとりあげた。

「額」をこの方言では *nacuki* あるいは *dena* という。こういう身体の名称などは身近によく使用されるものであるから、急激に変わることはないと思われるが、どうであろうか。共通語化がどのように行なわれるであろうか。

「予定」をこの方言では *josan* という。たとえば *torkjorsa egu josan suteru* 〈東京へ行く予定にしている〉のように用いる。このような語はどのように変遷するものであろうか。

「入口の山」「奥の山」は山に関する語である。保原町は平地に位置していて、山とは縁がうすい。茂庭集落は前後、山に囲まれている。山に関する語は多い。この二つの地域において、*detonojama* 〈入口の山〉、*erinojama* 〈奥山〉という方言形が、どのように用いられているかをみようとした。

「写真機」「ねじまわし」は *kamera*, *doraibar* という新語がどのように浸透していくかをみようとしたものである。「写真機」の場合には刺激用の絵を二種用意した。すなわち専門の写真屋の用いるような蛇腹のある大きな写真機と、一般旅行者の携帯する小型のものを別々の絵にして尋ねてみた。新語の浸透に順序があるかもしれないと考えたからである。

その結果は第255表～第268表に示すとおり（第242図～第255図）。

「額」をみると、「その他」はほとんど *nacuki* と *dena* とをともに用いると答えているからそれを考慮すれば、*nacuki* は60代にかなり用いられ、40代でもある程度用いられるが、20代では姿を消す。*dena* は60代にも多いが、40代、20代の多数を占める。共通語は20代にも少ない。

「予定」をみると *josan* はそれほど多くはない（「その他」の大部分が *josan* ともいうと答えて

いる)が、60代では35%~50%が使用しているし、40代、20代ともにある程度用いていて、減少の速度はゆるやかである。

「入口の山」「奥の山」をみると、保原町に比較して茂庭集落の方が方言形を多く使用し、各年代にわたって保原町の場合より多いことがわかる。もっとも、保原町でも、奥まった所をさして *eri* と言い、手前を *deto* と言うことはある。*erino zasuki* は奥座敷の意味である。

「写真機」をみると、大小の2種によって *kamera* の浸透に違いがある。大型の方が、やや *sjasunki* と言われることが多く、小型の方は *kamera* と言われやすいようである。保原町と茂庭集落とを比較すると、保原町60代の方がもっとも *sjasunki* を用いている。20代では両地区とも「大」について20%、「小」について8%が *sjasunki* というだけで、*kamera* が多くなる。

「ねじまわし」も60代では *nezumarsu* が大多数であるが、40代ではほぼ同数か、あるいはむしろ *doraibar* が多くなり、20代では *doraibar* が多数を占めるようになっている。茂庭集落の方に *doraibar* が多い。

以上をまとめると次のようになろう。

「額」のように身近に親しまれている語は方言形の残ることがある。「予定」を *josan* という場合のように、形は共通語形で意味のずれているものは意識しにくいせいか、使用者は多いわけではないが、なかなか減少しにくい。地域の特性に基づく方言形は保存されやすい。すなわち、茂庭集落の人には山に関する語は多いし、またそれに関係する方言形を比較的多く残すようである。

新語は年代の低くなるほどよく使用する。そして、たとえば写真機のように、場合によっては大きい旧式のものを *sjasunki* といい、新型のものを *kamera* といって区別することもある。すなわち、既にある語と新しく入ってきた語との間に意味の分担の行なわれることもある。

(9) ま と め

語彙はそれぞれの語の事情によって変遷の様相を異にする。しかし、大きな変遷の流れの方向は共通語化である。すなわち、方言形から共通語形への交代のみられるものが多い。この場合、60代、40代では方言形が優勢であるが、20代で急激に共通語化するものがある。たとえば、茂庭集落において「赤とんぼ」は60代、40代では *nanbanko* が多いが、20代では *akatonbo* が多くなっているし、「走る」「跳ねる」をともに *haneru* といって区別しないのは両地区ともに60代、40代の大多数を占めるが、20代では「走る」に *hasiru* が用いられるようになっている。茂庭集落における *detonojama* 〈入口の山〉もこの類に含めることができよう。

また、60代の多数に支持される方言形が40代で半減し、それだけ共通語形が使用されて、20代ではすっかり共通語化しているものもある。すなわち、60代40代20代の年代ごとに段階を踏んで方言形から共通語形へと交代しているものもある。たとえば「かまきり」などはその例である。「写真機(小型)」「ねじまわし」「お父さん」「お母さん」、茂庭集落における「おはじき」「とんぼ」「奥の山」なども、この類に含められるであろう。

あるいは、40代で急激に共通語化しているものもある。「竹馬」はやや特殊であるが、*takenma* を共通語形とみなせばこの例となろう。「叱られる」、保原町における「おはじき」「とんぼ」等も同様である。

また、60代でもすでにかなり共通語化していて、方言形はその一部に用いられるだけで、まも

なく姿を消そうとしているものもある。「たいくつして手持ぶさたなさま」を表わす形容動詞 tozenda や「孤独感を感じさせるさびしさ」を表わす sugen_{ER} (保原) 等もその例である。「額」における nacuki, 保原町における「赤とんぼ」にみられる nanbanko, 茂庭集落における「牡牛」の kotebeko 等も同様である。

少数ではあるが、各年代を通じて表われるものもある。保原町における「赤ん坊」にみられる onboko, 茂庭集落における otoqko, oboqko 等はその例である。「予定」にみられる jos_{an} も同様である。

また、各年代を通じて使用度の高いものもある。各年代を通じて、ほぼ40%以上に支持されているものには次のような例がある。「疲れている状態」を表わす形容詞 kow_{ER}, 「牡牛」にみられる otokobeko, 「額」における dena, 農家における「耕す(深く)」にみられる unau, 「耕す(軽く)」における sakuru, 「午後間食」における kobiru 等はその例である。多くはその方言形に対応する共通語形のないものである。「耕す(深く)」「耕す(軽く)」「午後間食」等は一見、それに対応する共通語形が存在するかのごとくであるが、質的な意味内容や他の語との関係や機能において共通語の「深耕」「中耕」「おやつ」とは異なるといわねばならない。

また、dena <額>, beko <牛> のように極めて身近な語がこの類に含まれていることも注目してよいと思う。

さて、一般に語彙においては方言形から共通語形への交代が目立つが、中には、ある方言形から他の方言形への交代が行なわれるものもある。「恥ずかしい」における sjorsue から kaqkorwarir への交代はこの例である。これもやがては hazuka_{jii} に移行するきざしがみられるが、少なくとも現在では20代でも kaqkorwarir が多数を占めていることは事実である。これはめずらしい例であり、このような例は他には表われなかった。

要するに語彙においては特殊なものは年代にかかわらず方言形がよく使用されるし、あるいは少数でも各年代を通じて一部の人に用いられたりするが、多くは方言形から共通語形への交代が目立つ。その場合、60代から共通語化がかなり行なわれているものもあるし、40代から行なわれるものもあるし、20代から行なわれるものもあることは既に述べたとおりである。現在でも、まだ20代の10%以上が方言形を使用しているものは次のようなものである。

- (1) kow_{ER} <疲れている>, kaqkorwarir <恥ずかしい>, unau <耕す(深く)>, sakuru <耕す(軽く)>, kobiru <午後間食>, kozurhan <午後間食>, dena <額>, beko <牛>……40%以上,
- (2) hiqkonken <片足飛>, baqpajan <おばあさん>, otoqko <赤ん坊, ただし茂庭>, ocuru <降りる>, haneru <走る>, erinojama <奥山, ただし茂庭>, jos_{an} <予定, ただし茂庭>, minakucu <水口, ただし保原>,……10%以上,

これらは比較的方言形が残っているものである。このうち、(1)については既述した。(2)については次のように考えられる。

hiqkonken はこの遊びそのものがしだいにすたれているし、共通語形が耳目にふれにくいという事情がある。baqpajan, otoqko は親族関係の名称であり「お父さん」「お母さん」のように積極的に意識的に共通語化しようとされなかったものである。ocuru, haneru の共通語化はともにこの地の人にとっては新しい概念を持つことが要求される語であり、単にある概念に対する名

称を変えるだけのものではない。たとえば *ocuru* (*ociru*) は「落ちる」「降りる」を含めた意味を持っている。共通語化が行なわれるためには、同じ上から下への動作を「速度も比較的遅く、意志によってコントロールされる」降りる動作と、「速度も比較的速く、意志によってコントロールされない」落ちる動作とに区別しなければならない。新しい概念に分割しなければならない。同じ概念に対する名称を変えるだけのものではない。*ebomusu* から *kamakiri* への移行とは違いがある。*haneru* の場合も同様である。共通語化はやや困難が伴うのである。それにしても、緩慢ながら共通語化が進んでいる点では *kower* 〈疲れている状態〉や *unau* 〈耕す(深く)〉の場合とは異なる。既に持っている便利で精細な概念を捨てることは容易ではないが、有効な新しい概念は受け入れられることを示しているといえよう。

erinojama 〈奥山〉は茂庭集落によく行なわれる。厳密には共通語の奥山とは意味に違いがある。普通には、入り組んでいる山の彼方にかすんで見えるような奥の山をいうのである。*erinojama* に雲がかかっているか、曇っているか、かすんで見えないか、晴れていてよく見えるか、どんな色に見えるか等は天候を予知する上で大事である。山に囲まれた茂庭集落には大事な語であろう。

josan もしだいに「予定」に交代されている。これも *ocuru* 等と同様にかつては「予算」「予定」とともに意味していたようであるから、共通語化には新しい概念を持つ必要があったようである。

minakucu 〈水口〉は、いうまでもなく農業関係語であり、水田耕作には重要な語である。

以上のように、方言形が比較的保持される語はやはりそれなりの理由があると考えられる。特殊地域生活語とか、概念分割の異なる語、身体に関する語、親族語、共通語が耳目にふれない語等は方言形の保持される傾向があるといえよう。

次に比較的共通語化の行なわれているものには次のようなものがある。

takahasu 〈竹馬〉, *hazuqko* 〈おはじき〉, *ebomusu* 〈かまきり〉, *akezu* 〈とんぼ〉, *cjan*, *otoqcan* 〈お父さん〉, *kaqkajan*, *oqkajan* 〈お母さん〉, *oncareru* 〈叱られる〉, *tozenda* 〈たいくつだ〉, *erinojama* 〈奥の山, ただし, 保原〉, *detonojama* 〈手前の山, ただし, 保原〉

takahasu, *hazuqko*, *ebomusu*, *akezu* 等はそれに対応する共通語があり、かつ、それはよく耳目にふれるものである。*cjan*, *otoqcan*, *kaqkajan*, *oqkajan* 等は親族語であるが、古い階級性の匂いさえ持っていて、積極的に共通語への志向を抱かせる語である。*oncareru*, *tozenda* 等は、その語の語源も忘れられ語形の珍奇さを感じさせるものであり、*erinojama*, *detonojama* は保原町の人にとっては、特別な関心もなく、本来方言形の使用度数の少ない語である。

方言形の保存される語と共通語化される語との間には、やはり差があるとみてよいようである。

次に保原町と茂庭集落とを比較すれば、本来の方言形に違いのあるものもある。たとえば「片足飛」「とんぼ」「お父さん」「赤ん坊」「足半ぞうり」に対する語形等はその例である。また一方に多く行なわれ、他方にはあまり用いられないものもある。「ふりうち棒」「牡牛」「奥の山」等はその例である。

また、語の変遷のしかたに違いのあるものもある。総じて、茂庭集落の方が保原町に比較して古い方言形を残している。

IV 言語変遷にみられる要素差と地域差

1. 言語要素間における差

1.1 音声・音韻の諸特徴間における差

言語の変遷において音声・音韻の諸特徴間にどのような差がみられるであろうか。既述したようにこの地における言語使用の変遷においては、大きな流れの傾向として共通語化が認められる。もちろん、ある方言形よりある方言形へと変遷するものもあるし、単に消え失せてゆくものもないわけではないが、変遷の大きな傾向は共通語化である。そして、これは方言社会一般に共通する傾向でもあろう。

この場合、同じ特徴を持つ項目間にも、その変遷の様相に違いのあることは既述したところである。たとえば、同じく *si* と *su* との混同といわれている特徴に属している諸項目間にも変遷の様相には違いがある。したがって、音声・音韻の諸特徴間における差をみようとすることは実際はかなり困難である。それぞれの特徴の平均的な変遷の様相は、どれだけの項目を調査したら言い得るであろうか。少なくとも、この調査のように、それぞれの特徴ごとに数項目（語）しか調査していない場合に、その平均をもって比較することは穏当を欠くといわねばならないであろう。さらに、たとえば、*i* と *e* の混同と、*si* と *su* の混同等とは違った性質を持っている。*i* と *e* の混同に属する調査語「息」「駅」「襟」「インキ」「縁側」等にみられる個々の結果の平均と、*si* と *su* の混同に属する調査語「梨」「寿司」「手術」「鹿」「茄子」等にみられる個々の結果の平均とを比較して、どちらが共通語化しやすいかを論述することは適切ではない。*i* と *e* を混同し、*si* と *su* を混同するというのでは同様であるが、この二つの特徴の間には質的な違いがあるからである。*i* と *e* の混同と称されるこの地の方言音の特徴は、まさに混同と称されるにふさわしいものである。それは前後に狭母音のモーラがある場合には〔i〕〔i〕等が表われやすく、前後に広母音のモーラがある場合には〔e〕〔e〕等が表われやすいという傾向がみられる。たとえば、「息」「駅」はともに〔igĩ〕、「上」は〔üĩ〕等と発音され、「いか」は〔ega〕、「そうですね」に該当する言い方の場合は〔so:da nae〕のように発音される傾向がある。しかし、これは大まかな傾向で「息」を〔egĩ〕と言うこともあるし、「餌」を〔ĩba〕と言うこともあるし、「池」は〔ege〕〔ĩge〕等と言われる。すなわち、〔i〕〔ĩ〕〔e〕〔e〕等は区別されず、一つの音韻の変容音としてかなり自由に用いられる。

ところが、*si* と *su* の場合は〔si〕〔sĩ〕〔sü〕〔su〕等がそれほど自由に表われるわけではない。多くの場合〔sü〕に統一されている。「梨」「茄子」はともに〔na sü〕と言われることが多く、〔na sĩ〕と言われることは皆無ではないが極めて少ない。「寿司」「煤」はともに〔sü sü〕と言われ、「新聞」「手術」「鹿」はそれぞれ〔sün būn〕〔sü~dzü dzü〕〔sũka〕と言われることが多い。

したがって、極言すれば、*i* と *e* の場合は、「息」を〔igĩ〕、「餌」を〔eba〕と言う人がいても、それは単に

音声環境の影響によるものであって、iとeとを区別しているのではないかもしれないし、また「息」を〔iɡi〕, 「駅」を〔eɡi〕と言う人がいても、それはたまたまそういう音声表われただけで、iとeを区別しているのではないかもしれない。しかし、siとsuの場合は「茄子」を〔na stũ〕等と言っても、siとsuを区別し得るとは限らないが、「梨」を〔na si〕〔na ʃi〕と言う人がいれば、その場合はsiとsuとを区別し得るとみなされる可能性が強い。実際において、保原町の60代38名においてiとeについてみると次のようになる。

「駅」—〔e-〕〔e-〕……………10名(26.3%) 「襟」—〔e-〕〔e-〕……………27名(71.1%)
 「駅」,「襟」—〔e-〕〔e-〕……………10名(26.3%) (「駅・襟」を通じて〔e〕〔e〕と発音した人)
 「インキ」—〔i-〕〔i-〕……………16名(42.1%) 「息」—〔i-〕〔i-〕……………25名(65.8%)
 「インキ」,「息」—〔i-〕〔i-〕……………8名(21.1%)
 「駅」,「襟」—〔e-〕〔e-〕,「インキ」,「息」—〔i-〕〔i-〕……………1名(2.6%)

また、siとsuについてみると次のようになる。

「すし」—〔stũ-〕〔su-〕……………32名(84.2%) 「茄子」—〔-stũ〕〔-su〕……………36名(94.7%)
 「すし」,「茄子」—〔stũ〕〔su〕……………30名(78.9%)
 「すし」—〔-si〕〔-ʃi〕……………18名(47.4%) 「梨」—〔-si〕〔-ʃi〕……………22名(57.9%)
 「すし」,「梨」—〔-si〕〔-ʃi〕……………14名(39.5%)
 「すし」,「茄子」—〔stũ〕〔su〕,「すし」,「梨」—〔si〕〔ʃi〕……………8名(21.1%)

すなわち、iとeの場合は、共通語の/i/に対応して数語を通じて〔i〕〔i〕等と言う人は少ないし、/e/についても同様であり、さらに/i/、/e/を使い分ける人はまれである。siとsuの場合は/si/に対応して数語を通じて〔si〕〔si〕と言う人は少ないがある程度いるし、/su/については数語を通じて〔stũ〕〔su〕と言う人はかなりあるし、また/si/、/su/を使い分ける人もある程度いる。これは、この地の方言音の特徴を示しているといえる。

したがって、iとeの区別を持っているかどうかを調べるためには、数語を通じて/i/と/e/とに対応しているかどうかをみななければならない。個々の語について、たまたま表われている度数を平均するだけでは不十分である。しかし、siとsuとの場合はsiに対応する場合だけを検討しても、さほど不当ではないし、また、その場合、個々の語について表われている度数がsiとsuの区別を持っているかどうかの尺度に、ある程度はなり得る可能性がある。

もちろん、厳密には、iとeの区別を持っているかどうか、あるいはsiとsuの区別を持っているかどうかを明らかにするためには、多くの該当する語を通じて使い分けが行なわれているかどうかをみる必要があろう。多くの語に通じて使い分けのみられる場合にはじめてiとeの区別、あるいはsiとsuの区別があるとすべきなのである。

たとえば、siとsuにおいて、語の組み合わせによりどのように数が変わるかを保原町について示すと次のようになる。以下の表では「茄子」を〔nastũ〕, 「梨」を〔nasĩ〕のように回答したものを、一往この二語についてsi・suの区別があるとみなす。数語を通じてこのような区別があるかどうかを調べたものである。

	60代	40代	20代		60代	40代	20代
茄子 すし	30(78.9)	35(92.1)	37(97.4)	茄子 鹿	19(50.0)	29(76.3)	37(97.4)
茄子 梨	21(55.3)	32(84.2)	37(97.4)	すし すし	12(31.6)	30(78.9)	38(100)
茄子 すし	17(44.7)	32(84.2)	37(97.4)	梨 すし	14(36.8)	30(78.9)	37(97.4)

すなわち、「すし・すし」、「梨・すし」の場合に度数が低い。

この他、「茄子」、「梨」、「すし」、「すし」、「鹿」、「下」の中の2項目の組合わせにおいて、これ以上の低い数はない。「すし・すし」「梨・すし」が共通語化しにくいものであり、方言形の表われやすいものである。次に3項目の組合わせについてみると次のようになる。

	60代	40代	20代		60代	40代	20代
梨・すし・茄子	13(34.2)	28(73.7)	37(97.4)	すし・すし・梨	9(23.7)	27(71.1)	37(97.4)
梨・すし・下	14(36.8)	29(76.3)	37(97.4)	すし・すし・鹿	9(23.7)	24(63.2)	38(100)
梨・すし・鹿	11(28.9)	25(65.8)	37(97.4)	すし・すし・下	12(31.6)	29(76.3)	37(97.4)

「すし・すし・梨」「すし・すし・鹿」の場合に度数が低いことがわかる。これ以上の低い度数は他の組合せには表われない。

次に4項目の組合わせをみると次のようになる。

	60代	40代	20代		60代	40代	20代
すし・すし・梨・茄子	8(21.1)	26(68.4)	37(97.4)	すし・すし・鹿・茄子	8(21.1)	23(60.5)	37(97.4)
すし・すし・梨・鹿	8(21.1)	22(57.9)	37(97.4)	すし・すし・鹿・下	9(23.7)	23(60.5)	38(100)
すし・すし・梨・下	9(23.7)	26(68.4)	37(97.4)				

「すし・すし・梨・鹿」等の場合に度数が低い。すなわち、これらの4項目を通じて、si・suを区別していることは少ない。そして2項目より3項目、4項目と項目の増すにつれて度数の低くなるさまがわかるが、その低下のしかたはしだいに鈍くなる。これを5項目に増してもあまり大きな変化はない。「すし・すし・梨・鹿・茄子」を通じてみると、60代7、40代21、20代37である。さらに「下」を加えても、この数は変わらない。たぶん、「下」の代りに他の語を加えればその数は変るであろうが、大きな変化は生じないであろう。すなわち測定する語をよく選べば、4・5項目でsi・suの区別があるかどうかをみることができよう。また、3・4項目でもかなりのことはわかるようである。

いまこのようにして、iとeの区別、siとsuの区別、ci、cu(cju)の区別、zi、zu(zju)の区別のみられるものについて表を作れば次のようになる(ただし、iとeについては「駅」「襟」「息」「インキ」、siとsuについては「すし」「茄子」「すし」「梨」、ci、cu、cjuについては「地図」「注射」「焼酎」および「手術(第3モーラ)」, zi, zu, zjuについては「字」「重箱」「地図」および「手術(第2モーラ)」の4項目を採り上げる)。それぞれ区別をしていると思われるものの数を表わしたものである。()は%。

	保 原			茂 庭			
	60代	40代	20代	60代	40代	20代	
i と e	1(2.6)	3(7.9)	23(60.5)	1(2.6)	0(0)	20(54.1)	(駅, 襟, 息, インキ)
si と su	8(21.1)	26(68.4)	37(97.4)	8(21.1)	21(55.3)	37(100)	(すし, すし, 茄子, 梨)
ci, cu (cju)	4(10.5)	19(50.0)	35(92.1)	8(21.1)	23(60.5)	35(94.6)	(地図, 注射, 焼酎, 手術 (第3モーラ))
zi, zu (zju)	2(5.3)	10(26.3)	19(50.0)	1(2.6)	3(7.9)	27(73.0)	(字, 重箱, 地図, 手術(第 2モーラ))
〃	11(29.0)	27(71.1)	37(97.4)	1(2.6)	28(73.6)	34(91.9)	(字, 重箱, 地図)

ただし、zi, zu(zju)の区別において用いた「手術」の第2モーラは極めて発音しにくいものであり、これは特殊すぎるかもしれない。「手術」の1語だけで測定しても保原町60代8, 40代12, 20代20, 茂庭集落60代1, 40代4, 20代30である。これを除いた3語についてみると下段の数のようになる。

測定に用いた語が各特徴ごとに必ずしも等価であるとは言えないから、大まかなことしか言えないが、i と e の区別がもっとも困難であり、他はほぼ同じ程度であることがわかる。すなわち、i と e に関する方言音の特徴はもっとも変遷しにくく、この地に残ることを示しているとも言える。

しかし、この場合次の点は留意しなければならない。すなわち、音声・音韻においても、その変遷は語によって違いがあるということである。同じ特徴に属していても、ある語ははやく共通語化し、ある語は遅くまで方言音を残す。またこれは人によっても違いがあろう。ある人はある語から共通語化し、他の人はまた他の語から共通語化する。だから、多くの語に通じて使い分けがあるかどうかをみて、使い分けのある場合にだけ、ある特徴(たとえばi と e の区別)が共通語化したと認めることは、このような事実を目を蔽うことにもなりかねない。各項目(語)ごとの共通語化はこの表の数よりは多少多いとすべきかもしれない。

そこで、既述の各特徴に属する項目(語)ごとに検討した結果を参照して、各特徴ごとに、最も方言形を残すとみなされる項目と、普通以上にやや方言形を残すとみなされる項目とを採り上げて比較してみよう。それぞれ方言形を保存する度数は次のようになる。ただし、判定の基準をきびしく、次のようなものをも方言形と認めた。「駅」— [i-] [ĩ-] [ɛ-], 「インキ」— [e-] [ɛ-] [ĩ-], 「梨」— [-stũ] [-sĩ], 「寿司」— [-sũ] [-sĩ], 「地図」— [tsũ-] [tsĩ-], 「注射」— [tsũ-] [tsĩ-], 「字」— [dzũ] [dzĩ], 「手術(第2モーラ)」— [-dzũ-] [-dzĩ-], 「重箱」— [dzũ-] [dzĩ-]

なお、N.R 類を除いた百分比でもって、方言形と共通語形との比率を示す。

		保 原			茂 庭		
		60代	40代	20代	60代	40代	20代
		方／共	方／共	方／共	方／共	方／共	方／共
i, e	駅	100.0/0	97.3/2.8	73.6/26.3	100.0/0	100.0/0	59.4/40.5
	インキ	71.1/29.0	55.2/44.8	26.2/73.7	78.3/21.7	65.8/34.2	29.7/70.2
si, su	寿 司	100.0/0	100.0/0	68.5/31.5	100.0/0	100.0/0	75.7/24.3
	梨	97.3/2.6	89.5/10.5	44.7/55.3	100.0/0	84.2/15.8	32.4/67.6
ci, cu	地 図	81.6/18.4	76.2/23.7	36.9/63.2	97.3/2.8	81.7/18.4	18.9/81.1
	注 射	60.5/39.5	31.6/68.4	5.3/94.7	62.1/36.9	5.3/94.8	5.4/94.6
zi, zu	字	86.9/13.2	76.3/23.7	36.9/63.2	100.0/0	84.2/15.8	18.9/81.1
	重 箱	41.1/58.8	11.1/88.9	0/100.0	40.0/59.9	5.3/94.6	0/100.0
	手 術	100.0/0	94.6/5.3	81.5/18.5	100.0/0	100.0/0	67.5/32.4

これを前の表と比較してみよう。前の表は、たとえば si と su の区別において、「梨」を〔nasī〕、「茄子」を〔nasū〕と言え一往使い分けがあるとみなし、数語を通じて、このような使い分けがあるかどうかをみたものである。それに対し、この表では、この特徴に属する語の中からもっとも方言音を残し、共通語化しにくいと思われる「寿司」と、ごく一般的な「梨」とを採り上げ、共通語音かどうかの基準をかなりきびしくし、〔-sū〕〔-sī〕等は方言音とし、〔-ŷi〕〔-ŷi〕等の場合だけを共通語化しているとみなして集計したものである。

前の表と比較してみると、項目によっては前の表の場合より方言音の度数がおしなべて多く表われるものもあるし、また、少なく表われるもの（共通語音の度数の多く表われるもの）もある。しかし、実際の各項目（語）ごとの共通語化が、前の表の数より多少は多いと考えてよいとするなら、この表の数は総じてきびしい（少ない）とみてよいかもしれない。したがって、かなり大胆ではあるが、大まかには、次のように言ってもよいであろうか。すなわち、これらの特徴の語について、少なくとも明瞭に共通語音で発音する人は、ほぼこれらの特徴について共通語的な区別を持っているとみなしてよいかもしれない。何故なら、たとえば si・su において、「梨」、「寿司」をそれぞれ〔naŷi〕,〔suŷi〕等と発表をしたこの表の人たちは、すべて、前の表で si, su の区別があると見なされた人たちの中に含まれているからである。

しかし、i・e の場合には相変わらず、問題が残る。「駅」を〔e-〕という人と i, e を区別する人とは重ならないのである。また、「寿司（第2モーラ）」や「手術（第2モーラ）」等はこの地の人にとっては、方言音が残りやすく共通語化しにくい特殊なものとみなされる。

以上は、共通語と比較して、この地の方言の音韻体系の上で極めて特徴的なものを採り上げたのであるが、その他にも、かなり強力であると思われる音声・音韻上の特徴を示す項目がある。それらの中から特殊なものではなく、比較的に方言音を残すと思われるものを採り上げてみる。

/-k-/に [-g-] の表われる例として「雪」, /-t-/に [-d-] の表われる例として「的」, /-d-/に [-~d-] の表われる例として「窓」, /ki/等の口蓋化の例として「農協」, /-r-/の脱落や融合とみなし得る例として「柱」「叱られた」, 無声化に伴うやや個別的な現象 zu→cu の例として [mintsũkɛ:] <短い> を採り上げる。その方言音を残す比率（と共通語音を持つ比率）を示せば次のようになる。N.R類を除いた百分比で示す。

	保 原			茂 庭		
	60代	40代	20代	60代	40代	20代
	方/共	方/共	方/共	方/共	方/共	方/共
-k-, 雪	100.0/0	73.7/26.3	39.4/60.6	92.1/7.9	84.2/15.8	33.3/66.7
-t-, 的	100.0/0	76.4/23.6	32.3/67.7	100.0/0	96.9/3.1	25.0/75.0
-d-, 窓	48.6/51.4	52.6/47.4	13.2/86.8	44.5/55.5	27.0/73.0	0/100.0
ki, 農 協	89.5/10.5	88.6/11.4	33.4/66.6	94.1/5.9	81.1/18.9	18.9/81.1
-r-, 柱	76.3/23.7	40.5/59.5	7.9/92.1	65.0/35.0	50.0/50.0	13.9/86.1
#, 叱られた	92.1/7.9	68.6/31.4	50.0/50.0	88.8/11.2	73.7/26.3	73.6/26.4
無声, 短い	92.1/7.9	48.7/51.3	10.5/89.5	89.1/10.9	55.2/44.7	27.0/73.0

この表によれば、比較的に通語化しやすいのは/-d-/の「窓」, /-r-/の「柱」, 無声化による-zu→cuの「短い」であり、比較的に方言音を残す傾向のみられるのは/-k-/の「雪」, /-t-/の「的」, /ki/等の口蓋化の「農協」, /-r-/の「叱られた」である。最後の例は oncareta・okorareta <怒られた> に対応して oncaqcja・okoraqcja等の表われる特徴で、形態音韻論の中で取り扱うべき事があらうが、かなり強い特徴であることは注目してよいであらう。

1.2 文法的諸特徴間における差

文法的特徴の場合は、既述のようにそれぞれの特徴に属する項目の間に大きな差のみられることは少ない。とはいっても、同じ推量表現に属していても「何になろうとかまわない」の下線部のように、かつてこの地の方言では naqtomo <なるとも>, naqtemo <なっても>, naqtaqte <なったって> 等の類似の表現が多く用いられていた（と思われる）ような場合には naqpeto <なろうと>, naqpega <なろうが> のような表現形式はあまり表われず, narijorto <なろうと> のような特殊形式が一部に用いられる場合もある。また, takakanber <高かろう>, okinber <起きよう> 等の形は高年層の一部に用いられるだけで、多くは, takerber <高かろう>, okiqper <起きよう> のような形が用いられているというものもある。これらについては既に示した。

しかし、60代の多くの人が用いているようなものは普通には40代、20代にも通じて用いられることが多い。この地の目ばしい文法的特徴の中から15項目を選び、方言形式がどの程度用いられているか、あるいは共通語形式がどの程度用いられているかをみると次のようになる。N.Rを除いた百分比で示す。

	保 原			茂 庭		
	60代	40代	20代	60代	40代	20代
	方／共	方／共	方／共	方／共	方／共	方／共
推 量, 行 く だ ろ う	100.0/0	97.2/ 2.8	100.0/0	97.3/ 2.8	100.0/0	93.8/ 6.2
打 消, 行 く ま い	61.1/38.9	58.3/41.7	32.3/67.7	55.7/44.3	64.9/35.1	51.4/48.6
使 役, 受 け さ せ た	72.3/27.7	76.3/23.7	37.8/62.2	89.1/10.9	81.6/18.4	55.6/44.4
過 去, 行 っ た っ た	97.3/ 2.7	97.2/ 2.8	68.4/31.6	97.4/ 2.6	89.5/10.5	78.4/21.6
回 想, 行 く っ け	94.5/ 5.5	92.1/ 7.9	77.8/22.2	94.5/ 5.5	89.5/10.5	76.3/23.7
丁 寧, 天 気 だ す ね	94.5/ 5.5	72.9/27.1	42.1/57.9	88.5/11.5	71.0/29.0	60.8/39.2
条 件, 書 く な ら	86.1/13.9	74.3/25.7	54.5/45.5	73.5/26.5	86.6/13.4	69.7/30.3
力 変, 来 い	94.7/ 5.3	94.7/ 5.3	86.2/13.9	100.0/0	94.8/ 5.3	100.0/0
逆 接, 高 い け れ ど も	97.1/ 2.9	91.8/ 8.3	67.6/32.4	94.5/ 5.5	94.4/ 5.6	86.4/13.6
方 向, 東 京 へ	78.9/21.1	86.5/13.5	34.2/65.8	84.2/15.8	84.2/15.8	64.9/35.1
を 格, 子 ど も を	60.0/40.0	47.2/52.8	29.0/71.0	58.4/41.6	64.9/35.1	56.7/43.3
体言化, 行 く の に は	86.2/13.8	75.0/25.0	34.2/65.8	91.9/ 8.1	77.7/22.3	54.5/45.5
敬 語, お 上 り 下 さい	91.9/ 8.1	86.8/13.2	33.5/66.5	78.4/21.6	86.8/13.2	59.9/40.1
" お 書 き に な る	83.8/16.2	97.3/ 2.6	86.8/13.2	97.2/ 2.8	100.0/0	94.5/ 5.4
" お ～ い た し ま す	92.1/ 7.9	92.1/ 7.9	65.8/34.2	92.1/ 7.9	92.1/ 7.9	83.8/16.2

これをみると、比較的に方言形式がよく使われるものと、そうでないものがある。既述したところと重複するきらいがあるが、次のものは共通語形式への移行がかなり著しいものである。

使役——～raseru→～saseru, 人格的なものの「を格」表示——～toko・～ntoko→～o, 方向等を示す「へ格」表示——～sa→～e・～ni, 用言の体言化——kakuni(wa)〈書くには〉→kakumoni(wa), 打消意志——neRberの減少

これに対して、次のものは、共通語形式はあまり用いられず、方言形式がよく残っているものである。

意志・推量——～ber, 力変動詞の命令形kor〈来い〉, 過去の経験等を表わす～taqta, 回想を表わす～Qke, 逆接の表現～keNcjomo他, 敬語表現法の体系等,

これらを比較して、どのようなことが言い得るであろうか。方言形式の残るものと共通語化しやすいものとの間にはどのような差が認められるであろうか。一見、その差はあまり明らかではない。しかし仔細にみれば、やはり、そこに違いがあるようである。

第一に～raseruと～saseruは全く形の上の違いだけで、用法そのものは違いがない。また、形もそれほど大きな違いはない。共通語の言い方もかなり耳や目にふれる。このようなものは共通語化に支障がないものと思われる。

第二に格助詞を用いる言い方等も多く共通語化している。そもそも、～saはほぼ共通語の～eに対応しているが、共通語と同様に～saと～niとは重なり合う用法も多く、また、この地の方言は

格助詞なしで、体言と用言との関係だけで格関係を示すことが多い(特に「～が」「～を」「～に」の場合に多い)ので、～saを用いずに～ni等を用いても(あるいは格助詞なしの言い方で)特に耳ざわりにはならない。「を格」表示の～toko等についても、これを用いずに格助詞なしの言い方をしたり、また時に～oの言い方をしても抵抗は少ないのであろう(人格的なものを以外に於いての「を格」表示と同じになるだけである)。

これは kakuni(wa)→kakunoniwa <書くのには> の言い方についても同様である。要するに、これらは共通語的な言い方をしても、目だたないし、抵抗を感じさせない種類のものである。

第三に eganɛrber <行くまい> の言い方はしだいに減少する傾向がみられる。代って、単なる打消(否定)の eganɛr 等の言い方が増すのは共通語と同様である。これは共通語化というよりは日本語全体としての傾向とみるべきものかもしれない。

次に比較的に方言形式がよく残っているものについては次のような性質がみられる。

第一に意志・推量の～berは、使用頻度も高く、その用法も共通語の「う」「よう」とはかなり異なる。これに関する言い方を共通語化することは発想そのものを変えることでもあり、困難でもあるし、感情のこもった表現とはなりにくい。

第二に～taqtaや～keは共通語にはない表現法である。この便利な表現法を共通語的に表現することは困難でもあるし、また、これは地域社会人として共通の発想を示す上で重要な表現形式である。

第三に逆接の表現の～kencjomo等は～keredomo、～keredo等と対応しているが、この表現は代替のきかない種類のもので、かつ話し合いでは重要な位置を占める。これを共通語形で話す場合には、かなり耳立つであろう。

第四に敬語法は体系そのものが根本的に異なっている。地域社会内の話し合いに共通語の敬語体系を持ち込むこと自体が極めて重大な問題で、それはコミュニケーションの基盤を変えることを意味しよう。したがって敬語法があまり急激な変化を起すことは困難なのであろう。

注意したいのは多くの文法的特徴の場合には、共通語形式が使えないわけではなく、この面接調査でも調査番号4.06「そうでございます」の場合にはsordesu ne等が多く表われたし、その他の調査でも場面に応じては文法的特徴は共通語形になっていることが多い。しかし、敬語法の使い分けは共通語的場面においても、この地の人にとっては困難なようである。それは全く新しい人間関係の把握を必要とするからであろう。たぶん、これは今後に課せられた問題であろう。したがって、この地の方言の敬語表現にうまく対応している共通語の表現は比較的容易に共通語化していて、sorda nae→sordesu ne, agaransjo→oagarikudasai等と言われるが、この地の方言には存在しなかった、共通語の「お書きになった」「お～いたします」「ごらんに入れます」等の言い方の場合は敬語表現は十分に使用されてはいないのである。

第五に力変動詞の命令形にkorが使われるのは何故であろう。この地では共通語のkoiは目下の人に対しても、よほどの事がないと使用されない。この地の人にとって、共通語のkoiはよそよそしく、冷たい、つきはなした感じを抱かせるようである。したがって、親しみを感じさせる方言のkorよりは待遇価はかなり低いのである。これは注目すべきであろう。

以上要するに文法的特徴においては、この地の方言形式に対応して、共通語に形式のないもの

は保存されやすく、また、敬語法のように根本的に人間関係把握の転換を必要とする場合は容易に共通語化し得ないと思われる。その他の文法的特徴も多くは方言形式が保存される傾向がみられる。もちろん、これは地域社会内における土地の人同士のコミュニケーションを採り上げたのであるから、共通語を話さねばならない場面において共通語が話せるかどうかという問題ではない（ただし、敬語法の場合は、そのような観点からでも問題になろう）が、要するに文法的特徴は一般に年代による大きな違いはない。比較的に共通語化のみられるのは、あまり目立たず、抵抗を感じさせることの少ないようなものである。地域社会の言語使用の変遷においては、あまり急激な変化は歓迎されないであろう。

1.3 語彙——物事の廃亡とその名称の消失

地域社会における言語使用の変遷において、語の性質によって、その変遷にどのような差がみられるかについては既に述べたので、ここでは改めて採り上げることをしない。要するに次のようになる。

語はそれぞれの事情に応じて変遷する。方言形から方言形へと変遷するものもあるし、少数ながら、一部の人たちに使用されるものもある。急速に変遷するものもあるし、ゆっくり変遷するものもある。しかし、多くは共通語化という大きな変遷の傾向がみられる。その中で方言形の比較的に保存される語がある。その地域社会生活の特殊性と結びついた語（共通語に機能・用法等において対応する語がない）、概念分析の異なる語、身体に関する語、親族語、共通語が耳目にふれない語等は方言形が保存されやすいといえる。

ここでは、物事が廃亡した場合、その名称がどのように消失していくかを採り上げてみよう。この調査で、このような観点から採り上げたのは第 240 表に示した 10 語である。それをグラフに示すと第 256 図・第 257 図のようになる。

「自在鍵」が保原町 20 代で著しく低いのは一見、自然ではないように思われるかもしれない。しかし、「いろり」がなくなる前の数年は「自在鍵」はほとんど使用されなかった。したがって、話題にもならなかった。また、取りかたづける家も多かった。それに kagi という変哲もない名称は忘れ去られやすいせいでもあろう。

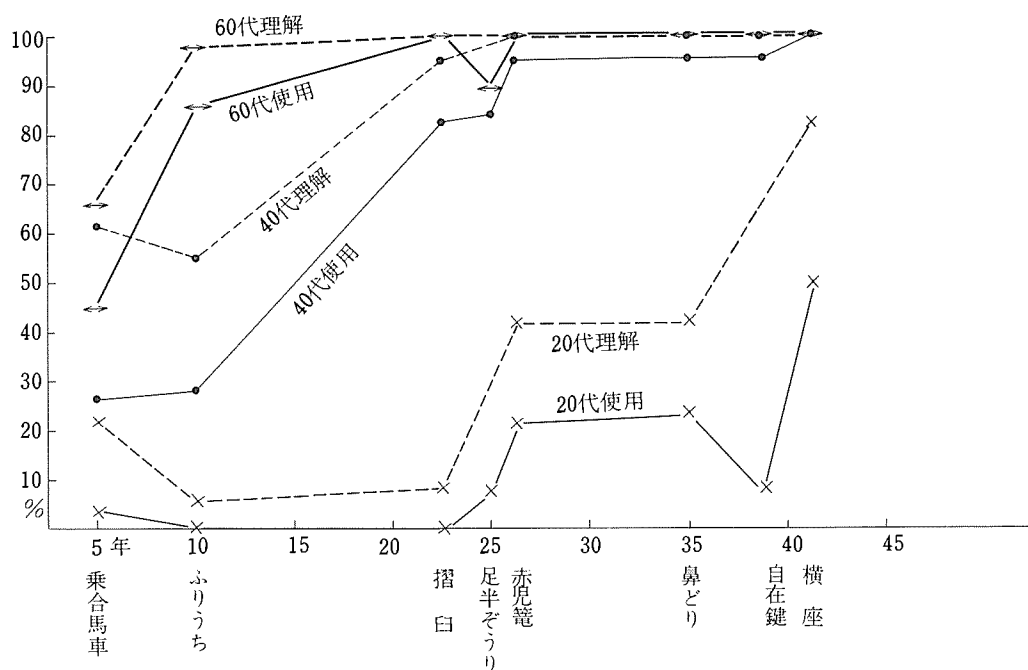
「鼻どり」が、保原町 20 代、茂庭集落 20 代、40 代に低いのも一見、自然ではないように思われるかもしれない。これは既述のように農家の子弟でも農業従事者は少ないことと関係があらう。農業従事者に限れば第 210 表にみるように多くの人は知っている。また茂庭集落の場合は林業中心の人も多いし、それに農家でない人も調査対象になっていることに留意しなければならない。

「足半ぞうり」が 60 代で使用度が低いのは zorri, warazorri 等という一般名称で答えたためである。中には使用した絵が不適當であると指摘した人もいるので、語を使用しないわけではない。

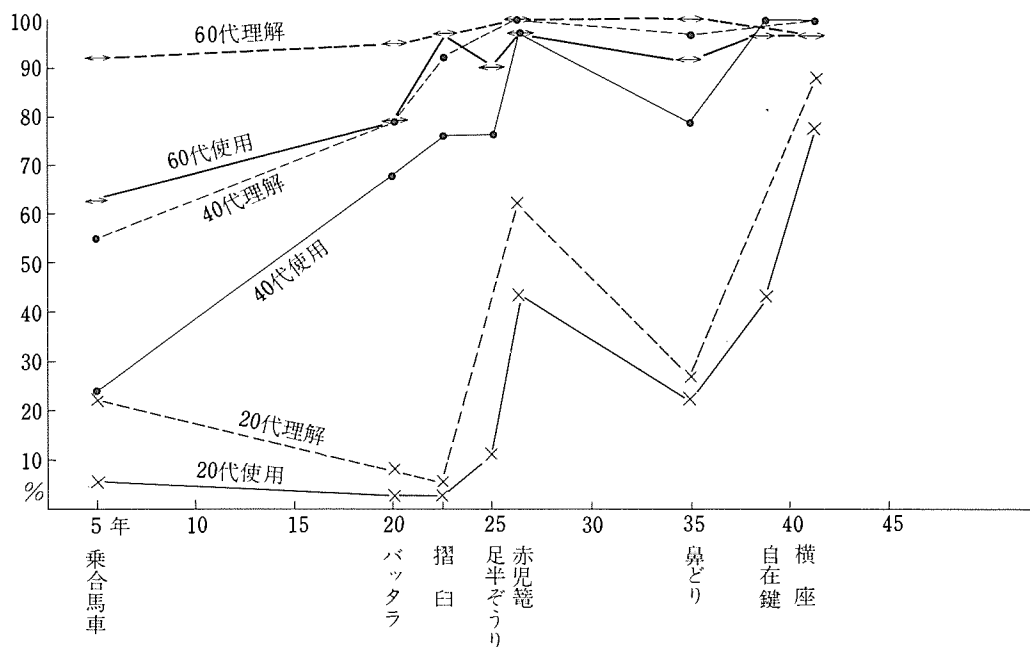
「乗合馬車」がやや度数の高くなる傾向がある。これは、この物が、映画・テレビ・雑誌等に採り上げられるばかりでなく観光地等では、現在でも使用していて、物も名称も耳目にふれやすいことを考慮する必要があるあろう。

「ふりうち棒」「バツタラ」はそれぞれ保原町と茂庭集落とに使用されたものである。当然のことであるが、使用されなかった地域においては使用度も理解度も著しく低い。第 240 表にみられるとおりである。グラフにはそれぞれ一方だけを掲げた。

第256図 語の消失（保）



第257図 語の消失（茂）



また「あらくれ」は総称名のsurokaki 類が多く表われたのでグラフには載せなかった。

以上のことを考慮しながらグラフをみると、物の廃亡に伴って名称の消失するさまがわかる。20代の人にとって身体で経験しない、10年前の「鼻どり」は、身体で経験した20年前の「赤児籠」と同じ程度にしか名称が保存されないし、まして見たこともない「摺臼」等はほとんどの人が知らないのである。40代の人が35年前の「ふりうち棒」の名称を保存するのは、20代の人が20年前の「赤児籠」の名称を保存するよりも率が高い。

1.4 言語的特徴間にみられる差

音声・音韻的特徴と文法的特徴と語彙とを比較してみればどのようなになるであろうか。この地の方言の特徴としてめばしいものを採り上げ相互を比較してみよう。いずれも60代では比較的多くの人に使用されるものに限ることにすれば、音声・音韻的特徴と文法的特徴とはそれぞれの項で既述した各特徴（とそれに所属する項目と）になろう。これに語彙の面から同様な観点で15語を選び方言形を残す度数についてグラフに示せば第258図～第263図のようになる。いずれも各15項目ずつである。語彙において選んだ語は次の15語である。％は方言形使用の比率。

	保 原			茂 庭		
	60代	40代	20代	60代	40代	20代
片 足 と び	84.2 %	84.2	23.7	89.5	73.7	24.3
か ま き り	78.9	47.4	0	84.2	47.4	0
おばあさん	92.1	79.0	39.6	89.4	94.7	54.0
赤 ん 坊	65.8	55.3	10.5	68.4	65.8	29.7
額	94.7	78.9	76.3	89.5	97.4	67.6
耕 す	100.0	97.4	36.8	97.4	97.4	64.9

	保 原			茂 庭		
	60代	40代	20代	60代	40代	20代
水 口	86.8%	89.5	15.8	84.2	47.4	0
午 後 間 食	100.0	100.0	96.8	94.7	94.7	54.1
牡 牛	78.9	55.3	42.1	89.5	84.2	46.0
降 り る	71.1	47.3	13.2	73.7	76.3	43.2
走 る	89.5	63.2	23.7	89.5	81.6	32.4
叱 ら れ る	73.7	13.2	2.6	52.6	5.3	0
疲 れ て い る	78.9	76.3	71.1	68.4	65.8	67.6
恥 ず か し い	89.4	79.0	79.0	86.8	97.4	70.3
ね じ ま わ し	84.2	55.3	23.7	68.4	42.1	13.2

音声・音韻、文法、語彙について各年代における方言形使用の平均を示せば次のようになる。

	保 原			茂 庭		
	60代	40代	20代	60代	40代	20代
音声・音韻	82.5%	65.8	31.9	83.4	66.3	28.8
文 法	86.0	82.7	56.7	88.2	85.2	72.5
語 彙	84.6	68.1	37.0	81.8	71.4	37.8

いずれも60代が高く、40代、20代としだいに低くなるが、おしなべて60代と40代との差よりも、40代と20代との差の著しいことが特徴である。とりわけ文法ではそれが甚だしい。

次に、音声・音韻、文法、語彙を比較すると、60代ではそれほどの差がないが、40代、20代では明らかな差がある。特に文法と他の特徴との間には差がある。すなわち、文法的特徴がもっとも方言形を残すことを示している。

一般に言語の変遷においては、語彙がもっとも変りやすく、次に文法が変りやすく、音韻的な特徴はもっとも変りにくいとされている。もちろん、文法的特徴にも変りにくいものがあり、語彙にも変りにくいものがあることは知られているが、一般的には音韻的な特徴が変りにくいとされる。しかし実際にはこのように文法的特徴の方がよく方言形を残している。これは注目すべきことであろう。

〔つけたり——一つの解釈〕

この調査は繰返し述べたように、地域社会における人たちが、その社会内で土地の人同士と話す言葉を調べたものである。共通語を話す必要がある場合に共通語が話せるかどうかを問題にしたものではない。

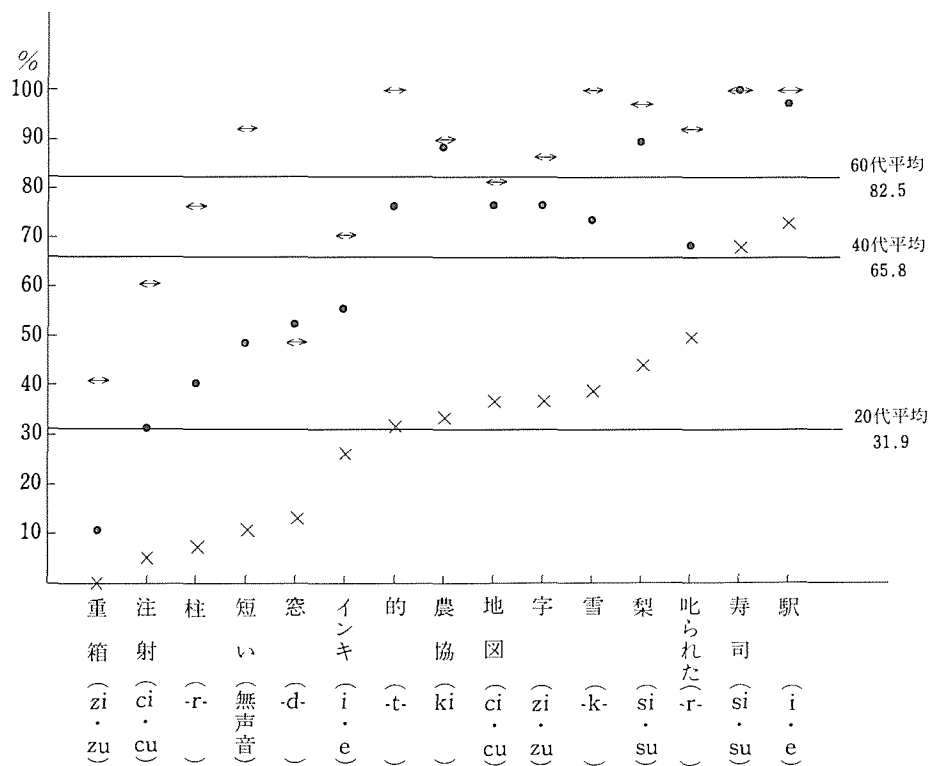
思うに地域社会が、統一的な社会を維持していくためには相互のコミュニケーションは極めて大事であろう。とりわけ農村社会のように何かにつけて協力し合わねばならないような場合には社会的な一体感が要求される。あいさつのしかた一つでさえ、社会的な秩序の中で行なわれるのが普通である。よそ者ではない、その社会内の人たちは強い社会統一体の中で生活している。こうした環境においては、相互に意思の疎通を欠くような言語使用は避けねばならないであろう。あからさまに言わなくとも社会全体の無言の圧力が働いていると思われる。

既述したように、この地の人々の大部分は場面に応じて、文法面においても一往の共通語的表現を行なうことができる。とりわけ40代、20代の人で一往の共通語的表現のできない人はいないといっている。それにもかかわらず、この調査で文法的特徴がよく方言形を保存するという結果が表われたことはそれなりの理由があることであろう。

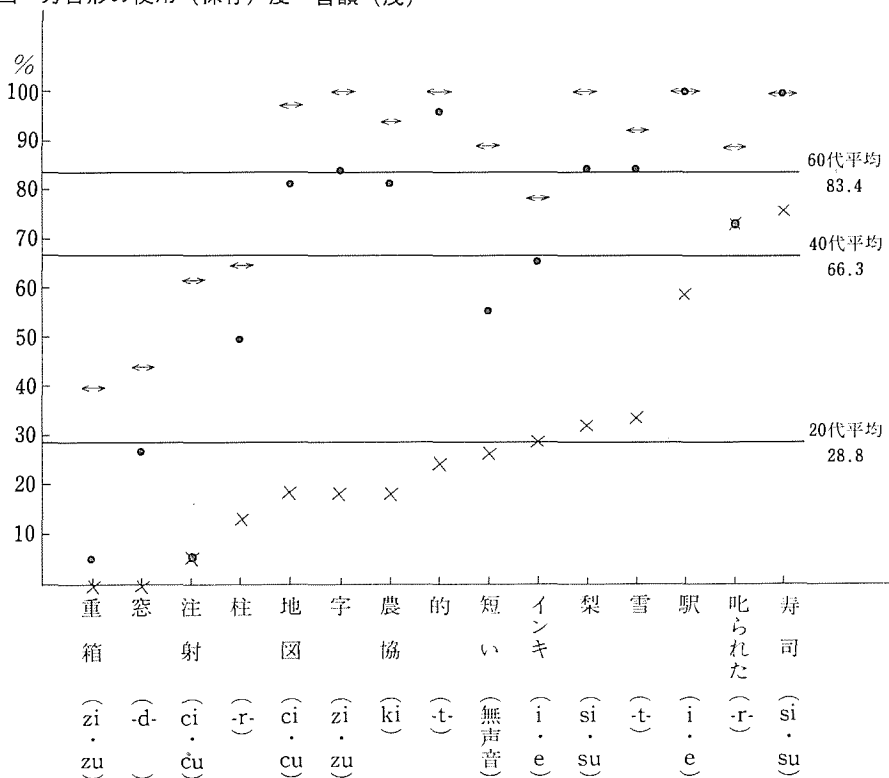
もちろん、調査法に違いがあることも考慮しなければならない。文法的特徴の大部分と、語彙の相当の項目は共通語の翻訳方式によったからである。しかし、共通語の翻訳方式の項目が、そうでない項目より、方言形が著しく表われやすいということも認められなかった（一般には共通語の翻訳方式の方が方言が出にくいとされている）。

一つには、音声・音韻の場合は文法とは違って場面に応じての使い分けのしにくい性質があるのかもしれない。いわば、非融通性があるためであるとも考えられる。被調査者自身の内省によ

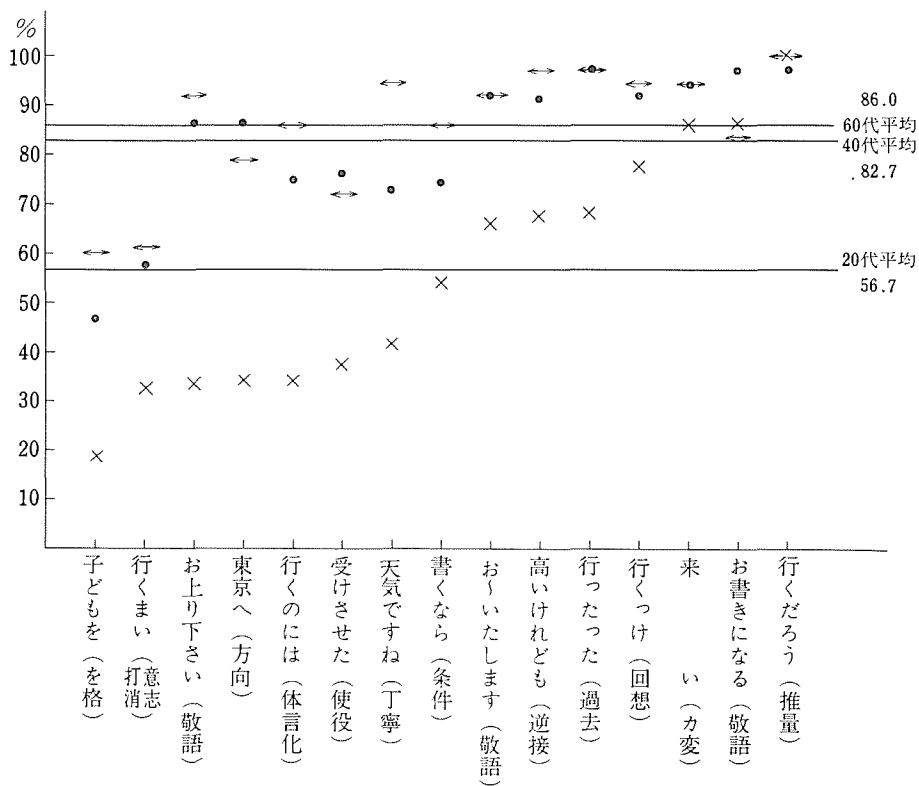
第258図 方言形の使用（保存）度—音韻（保）



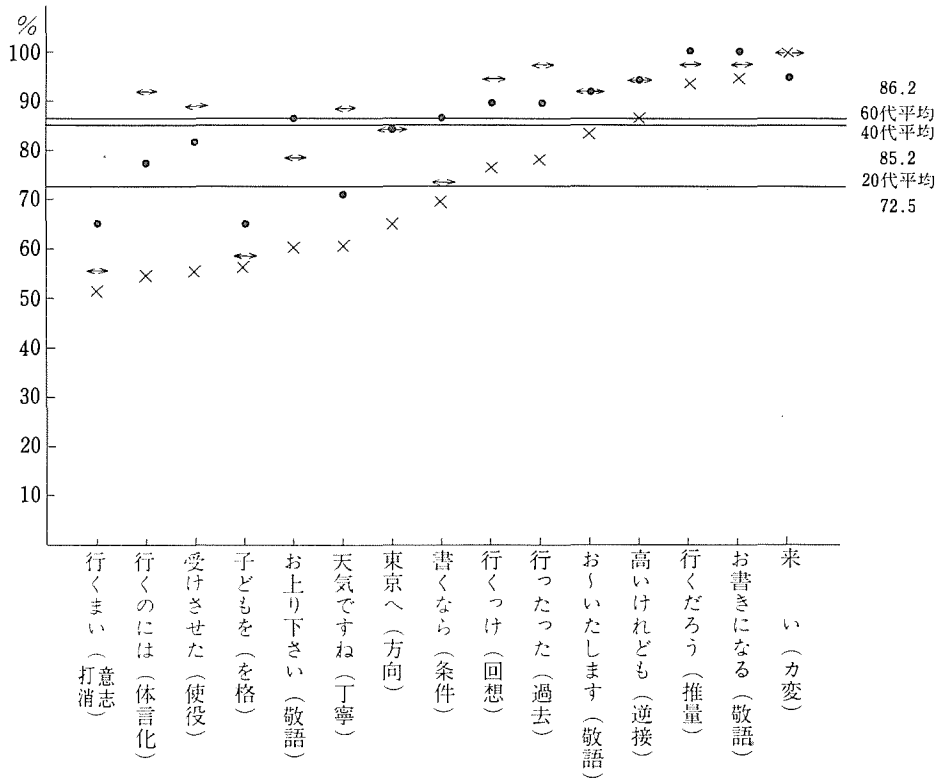
第259図 方言形の使用（保存）度—音韻（茂）



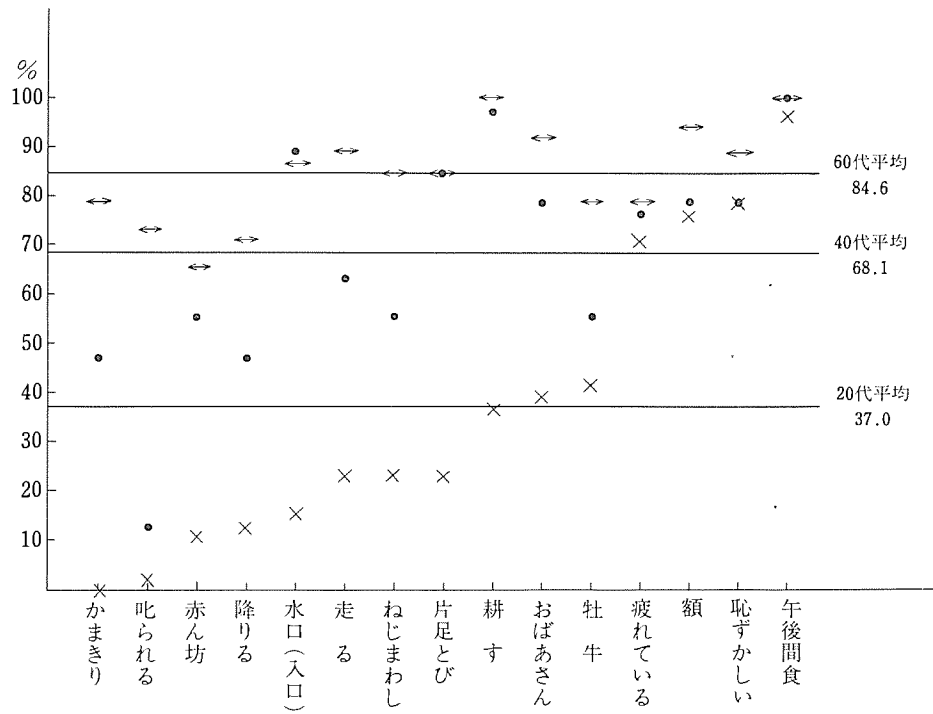
第260図 方言形の使用（保存）度一文法（保）



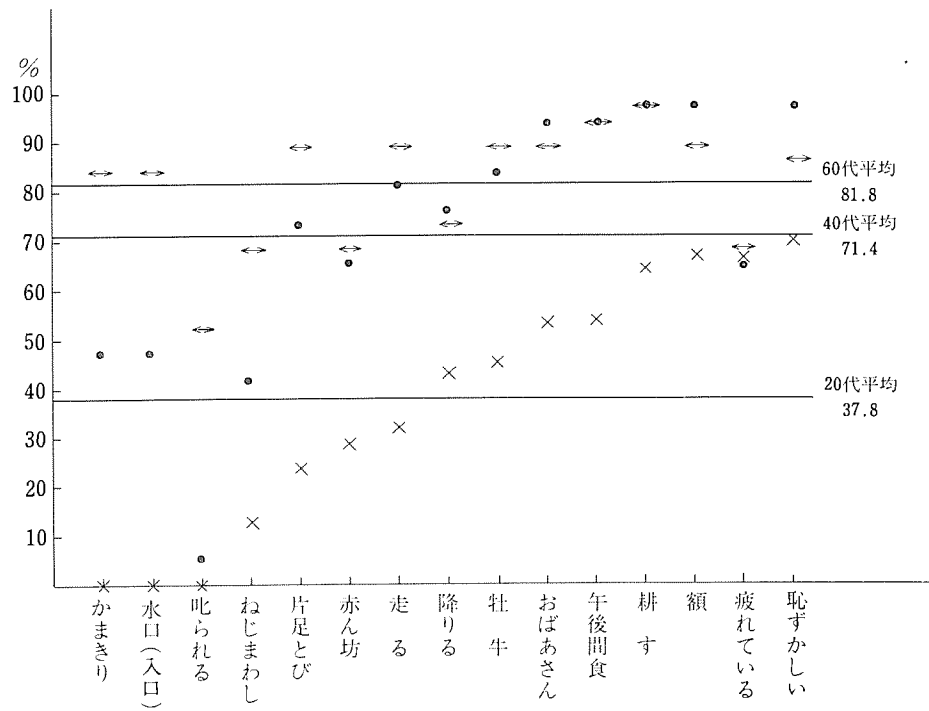
第261図 方言形の使用（保存）度一文法（茂）



第262図 方言形の使用（保存）度一語彙（保）



第263図 方言形の使用（保存）度一語彙（茂）



って記入して貰うアンケート調査の結果と、調査者のインタビューによる面接調査の結果とを比較すると、そこになに程かのずれのあることが普通であるが、その場合、文法や語彙の面よりは、音声・音韻の面に差が大きく表われる。それはかつて行なった調査でもそうであったが、今回、この「面接調査」と平行して行なった「アンケート調査」の結果をみてもそうである（参照、『国立国語研究所年報』1）。すなわち、音声・音韻の特徴のすべてがそうであるのではないが、なかには、話者が深くは意識しないで使用している特徴もあるようである。話者の意識には強く上らないままに用いられているものがかなりあると思われる。音声・音韻のこういう性質は、場面に応じて使い分けることを困難ならしめていると思う。あるいは、音声・音韻の非融通性といってもいいであろう。しかし、次のようなことも考えられる。

すなわち、音声・音韻の場合は、それがいかに共通語化しても、相互のコミュニケーションにおいて大きな違和感を生じさせない。しかし、語彙のあるものは、そのような意味では共通語化しない方が望ましいものもある。まして文法面においては、高年層、中年層、青年層を通じて、隔意のないコミュニケーションを行ない、社会的な一体感を維持していくためには、方言形式を保持する必要があるのではなかろうか。それはまた、それだけ文法面が言語表現において効果が大きいことをも示しているのではなかろうか。

自然に放置された、独立した言語社会ならいざ知らず、一つの強力な共通語が存在する国家内の地域社会においては共通語の影響は甚大である。このような地域社会において、ある言語的特徴が共通語化しない、あるいは共通語化できない（つまり変遷しない）という場合には二つの場合がある。一つは個人個人に共通語化の能力が不十分である場合であり、他の一つは個人には共通語を話す能力があっても、その地域社会が、その社会を維持するために共通語化を歓迎しない（許さない）場合である。この地の言語使用の変遷において、既にみたように地域社会内のコミュニケーションの場合に、文法的特徴がもっとも方言形を残すというのはまさにこの後者に適する例であろう。

言語の変遷において、音韻がもっとも変りにくく、文法面がその次に変りにくく、語彙がもっとも変りやすいということも、やはり条件つきであることを知るのである。

2. 地域間における差

平地農村としての性格を持つ保原町の農家と山村としての性格を持つ茂庭集落を比較した場合に、そこにどのような差がみられるであろうか。それについては既にそれぞれの箇所で述べたところであるが、それをまとめれば次のように言い得るであろう。

まず、音声・音韻の面についてみると、一般に60代、40代では保原町と茂庭集落とはほぼ同様に方言音を保存している。しかし、20代はともにかなり共通語化しているが、その共通語化の程度はおしなべてごくわずかではあるが、茂庭集落の方が進んでいる。前出の音声・音韻の一覧表においても、方言音を保存する度数の平均は保原町が31.9%であるのに茂庭集落は28.8%である。これは、むしろ、たいした差がないというべきであろう。しかし、次のようなことも考えられる。20代の職業をみると、次のようになっている。

	農業	林業・工員	店員・サービス業	事務	無	計
保原	9名	7	3	18	1	38名
茂庭	2	10	7	16	2	37名

すなわち、農家の子弟であっても家業に従事している人は少ない。特に女性の場合はそうであって、20代女性の農業従事者は保原2名、茂庭1名である（無職はともに女性のみ）。多くは他の職業に従事している。男性の場合でも同様な傾向がみられるが、特に茂庭集落の場合にはかつては炭焼きが盛んであったが現在では福島市等に勤めている人が多いのである。これはやはり注目すべきことであろう。

次に、文法についてみると、音声・音韻の場合とはかなり趣が違っている。前出の一覧表をみると、60代では方言形式を残す度合いがほぼ同様であるが、40代では茂庭集落がやや多く方言形式を残しているし、特に20代では保原町の56.7%に対して、茂庭集落では72.5%であって極めて多いと言える。一般に文法的特徴は方言形式を残す傾向のあることについては既に述べたが、茂庭集落の場合はそれが著しいというべきである。60代と40代との差はほとんどなく、20代もそれに接近しているのである。方言社会としての一体化に、さほど支障をきたさない音声・音韻の面では共通語化していても、相互のコミュニケーションにおける、意思の疎通の上で大きな影響を持つ文法形式の場合には（もちろん、場面に応じて、一往の共通語形式を話せるのにもかかわらず）、土地の人同士の話し合いでは方言形式を使用していると解される。すなわち、方言社会としての一体化は茂庭集落の方が強いのであろう。

個別的な文法的特徴についてみても、保原町と茂庭集落との間には違いがある。茂庭集落には古い方言文法形式を残していることが多い。文末助詞の～naon、「を格」表示の～toko、敬語の～sjaru、所有格を示す場合の orega cjaqpu〈おれの帽子〉の言い方、その他、oreserga〈おれさえ〉、soretameni〈それがために〉の言い方等は茂庭集落に多くみられる。

といって、茂庭集落が常に古い形式を用いているとも言い切れない面もある。恩師等に対して「そうです」と答える場合の、sordesuという共通語的表現は茂庭集落の方に多い。一人称代名詞の複数形は、ora, orara, oreraであり、20代でoreraが改めて使用される傾向のみられることについては既述したが、この場合も茂庭の20代にoreraが多く使用されている。また、kakuhoka ne〈書くよりほかない〉より kakusuka neRへの変遷も茂庭集落の20代に著しい。また、尊敬表現形式には、たとえば anta kakaqtano kae〈あなたが書かれたのですか〉のように用いられる～ru, ～raruがあり、60代では敬意が感じられ、かなり用いられるにもかかわらず、40代では kaetano kae〈書いたのですか〉が多くなり、20代では kaetanodesu kaが多くなる傾向のあることも既に述べたが、この傾向も茂庭集落の方に著しいのである。

大まかには、保原町と茂庭集落とは文法面においてもほぼ同じように共通語化しつつあるといえるが、その様相は必ずしも同一ではないし、また保原町が常に一歩先んじているわけでもないというべきであろう。そして、茂庭集落の20代が土地の人同士の話し合いで、保原町よりも多く方言形式を用いているという点は注目してよいと思う。

語彙使用の面についてみると、それぞれの地域社会の違いがかなり表われているようである。前出の一覧表において、語彙における方言形保存の度合いの平均はほぼ似たようなものである(や

や60代では保原が多く、40代では茂庭が多いと言えなくもないが)。しかし、その内容を検討すれば、そこに違いがみられる。水田の少ない茂庭集落では arakure 〈最初のしろかき〉, minakucu 〈水口〉等の語はあまり使用されず、また、huriucubae 〈ふりうち棒、穀竿〉も知らない人が多い。一方に茂庭集落ではかなり用いられるのに、保原町ではあまり使用されないものもある。baqtara 〈水流による精米装置〉, erinojama 〈奥の山〉, totebasja 〈乗合馬車〉等がそれである。これらはそれぞれにこの二つの地域社会の違いによるものであることも既述したとおりである。

また、茂庭集落に古形のみられることもある。kotebeko 〈牡牛〉, tozenda 〈たいくつしている状態〉等がその例になろう。

それぞれに異なる方言形を使用していることもある。たとえば hiqkonken; suqkonken 〈片足飛〉, akezu; akezubonbo 〈とんぼ〉, nanbantōnbo; nanbanko 〈赤とんぼ〉, cjan; caqcajan 〈お父さん〉, onboko・oqtoko; oboqko・otoqko・akaqpe 〈赤ん坊〉, tankozorri; bekozorri 〈足半ぞうり〉等がその例になろう。

語彙使用については、それぞれの地域社会の生活に応じて、方言語彙を使用していると言える。そしてこの場合にも大きな変遷の流れの傾向としては共通語化があげられよう。しかし、必ずしも一様には共通語化しないことについてはもはや改めていうまでもないであろう。

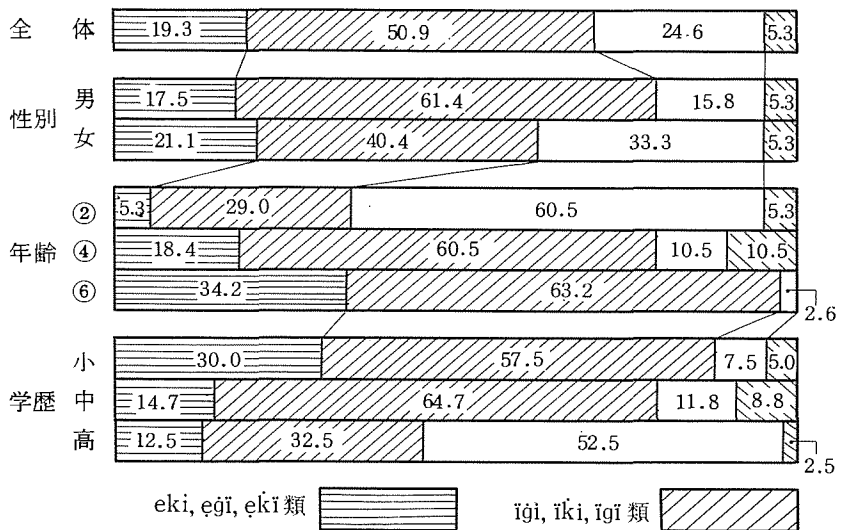
V 集計表および図

第13表 3.36 息(保)

1. eki 類 2. egi 類 3. eki 類 4. igi 類 5. iki 類 6. igi 類

		1	2	3	4	5	6	7	8	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	2 (1.8)	17 (14.9)	3 (2.6)	45 (39.5)	8 (7.0)	5 (4.4)	28 (24.6)	5 (4.4)	1 (0.9)	114 (100)	** (4*7)	(4)	
性 別	男	0 (0)	8 (14.0)	2 (3.5)	28 (49.1)	5 (8.8)	2 (3.5)	9 (15.8)	3 (5.3)	0 (0)	57 (100)	** (4**7)	(4)	
	女	2 (3.5)	9 (15.8)	1 (1.8)	17 (29.8)	3 (5.3)	3 (5.3)	19 (33.3)	2 (3.5)	1 (1.8)	57 (100)	*		
年 齢	②	1 (2.6)	0 (0)	1 (2.6)	7 (18.4)	2 (5.3)	2 (5.3)	23 (60.5)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)	** (7**4)	(7)	**
	④	1 (2.6)	6 (15.8)	0 (0)	17 (44.7)	3 (7.9)	3 (7.9)	4 (10.5)	3 (7.9)	1 (2.6)	38 (100)	** (4*2)	(4)	
	⑥	0 (0)	11 (28.9)	2 (5.3)	21 (55.3)	3 (7.9)	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	*		
学 歴	小	0 (0)	10 (25.0)	2 (5.0)	19 (47.5)	4 (10.0)	0 (0)	3 (7.5)	1 (2.5)	1 (2.5)	40 (100)			*
	中	1 (2.9)	4 (11.8)	0 (0)	18 (52.9)	2 (5.9)	2 (5.9)	4 (11.8)	3 (8.8)	0 (0)	34 (100)	** (4*2,7)	(4)	
	高	1 (2.5)	3 (7.5)	1 (2.5)	8 (20.0)	2 (5.0)	3 (7.5)	21 (52.5)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)	** (7*4)	(7)	
職 業	農	1 (1.2)	16 (19.5)	2 (2.4)	39 (47.6)	7 (8.5)	4 (4.9)	8 (9.8)	4 (4.9)	1 (1.2)	82 (100)	** (4**2)	(4)	**
	工	0 —	0 —	0 —	2 —	1 —	0 —	3 —	1 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	0 —	0 —	2 —	0 —	0 —	2 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	1 —	0 —	1 —	2 —	0 —	1 —	13 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	2 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	0 (0)	12 (19.7)	2 (3.3)	24 (39.3)	6 (9.8)	4 (6.6)	10 (16.4)	2 (3.3)	1 (1.6)	61 (100)	** (4*2)		
	無	2 (3.8)	5 (9.4)	1 (1.9)	21 (39.6)	2 (3.8)	1 (1.9)	18 (34.0)	3 (5.7)	0 (0)	53 (100)	*		

第2図 3.36 息(保)

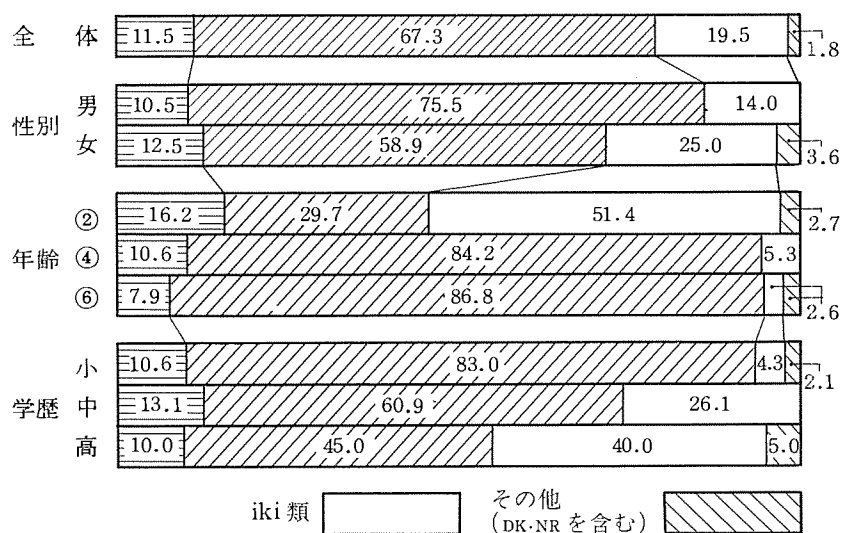


第14表 3.36 息 (茂)

7. iki 類 8. その他

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		² (1.8)	⁵ (4.4)	⁶ (5.3)	⁷⁴ (65.5)	² (1.8)	⁰ (0)	²² (19.5)	² (1.8)	¹¹³ (100)	** 4**4	4	
性 別	男	² (3.5)	² (3.5)	² (3.5)	⁴² (73.7)	¹ (1.8)	⁰ (0)	⁸ (14.0)	⁰ (0)	⁵⁷ (100)	** 4**4	4	
	女	⁰ (0)	³ (5.4)	⁴ (7.1)	³² (57.1)	¹ (1.8)	⁰ (0)	¹⁴ (25.0)	² (3.6)	⁵⁶ (100)	** (4**7)	(4)	
年 齢	②	² (5.4)	¹ (2.7)	³ (8.1)	¹⁰ (27.0)	¹ (2.7)	⁰ (0)	¹⁹ (51.4)	¹ (2.7)	³⁷ (100)			
	④	⁰ (0)	² (5.3)	² (5.3)	³¹ (81.6)	¹ (2.6)	⁰ (0)	² (5.3)	⁰ (0)	³⁸ (100)	** 4**4	4	**
	⑥	⁰ (0)	² (5.3)	¹ (2.6)	³³ (86.8)	⁰ (0)	⁰ (0)	¹ (2.6)	¹ (2.6)	³⁸ (100)	** 4**4	4	
学 歴	小	⁰ (0)	⁴ (8.5)	¹ (2.1)	³⁹ (83.0)	⁰ (0)	⁰ (0)	² (4.3)	¹ (2.1)	⁴⁷ (100)	** 4**4	4	
	中	¹ (2.2)	¹ (2.2)	⁴ (8.7)	²⁷ (58.7)	¹ (2.2)	⁰ (0)	¹² (26.1)	⁰ (0)	⁴⁶ (100)	** (4*7)	(4)	
	高	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
職 業	農	⁰ (0)	³ (6.1)	⁴ (8.2)	³⁹ (79.6)	¹ (2.0)	⁰ (0)	¹ (2.0)	¹ (2.0)	⁴⁹ (100)	** 4**4	4	
	工	¹ (4.2)	¹ (4.2)	⁰ (0)	¹⁶ (66.7)	⁰ (0)	⁰ (0)	⁶ (25.0)	⁰ (0)	²⁴ (100)	—	—	
	商	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	事	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	無	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
役 員	有	¹ (2.0)	² (4.0)	³ (6.0)	³⁶ (72.0)	¹ (2.0)	⁰ (0)	⁷ (14.0)	⁰ (0)	⁵⁰ (100)	** 4**4	4	
	無	¹ (1.6)	³ (4.8)	³ (4.8)	³⁸ (60.3)	¹ (1.6)	⁰ (0)	¹⁵ (23.8)	² (3.2)	⁶³ (100)	** (4**7)	(4)	

第3図 3.36 息 (茂)

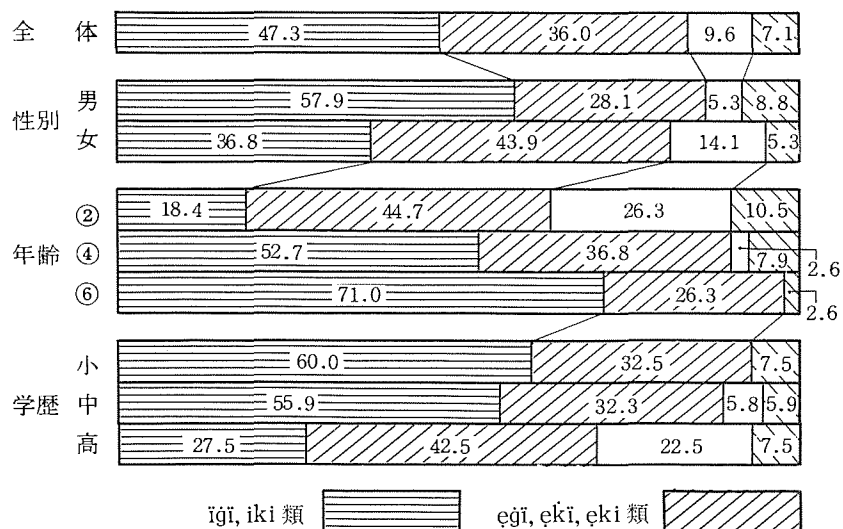


第15表 3.33 駅 (保)

1. ĩġi 類 2. iki 類 3. eġi 類 4. eċi 類 5. eċi 類 6. eċi 類

		1	2	3	4	5	6	7	8	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		42 (36.8)	12 (10.5)	24 (21.1)	3 (2.6)	14 (12.3)	4 (3.5)	7 (6.1)	6 (5.3)	2 (1.8)	114 (100)	** (1*3)	(1)	
性 別	男	27 (47.4)	6 (10.5)	10 (17.5)	1 (1.8)	5 (8.8)	1 (1.8)	2 (3.5)	5 (8.8)	0 (0)	57 (100)	** (1**3)	(1)	
	女	15 (26.3)	6 (10.5)	14 (24.6)	2 (3.5)	9 (15.8)	3 (5.3)	5 (8.8)	1 (1.8)	2 (3.5)	57 (100)			
年 齢	②	4 (10.5)	3 (7.9)	5 (13.2)	1 (2.6)	11 (28.9)	3 (7.9)	7 (18.4)	4 (10.5)	0 (0)	38 (100)			
	④	15 (39.5)	5 (13.2)	10 (26.3)	1 (2.6)	3 (7.9)	1 (2.6)	0 (0)	1 (2.6)	2 (5.3)	38 (100)			
	⑥	23 (60.5)	4 (10.5)	9 (23.7)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** (1*3)	(1)	
学 歴	小	21 (52.5)	3 (7.5)	10 (25.0)	1 (2.5)	2 (5.0)	0 (0)	0 (0)	1 (2.5)	2 (5.0)	40 (100)	** (1*3)	(1)	
	中	15 (44.1)	4 (11.8)	7 (20.6)	1 (2.9)	3 (8.8)	1 (2.9)	1 (2.9)	2 (5.9)	0 (0)	34 (100)			
	高	6 (15.0)	5 (12.5)	7 (17.5)	1 (2.5)	9 (22.5)	3 (7.5)	6 (15.0)	3 (7.5)	0 (0)	40 (100)			
職 業	農	38 (46.3)	9 (11.0)	19 (23.2)	2 (2.4)	7 (8.5)	2 (2.4)	0 (0)	3 (3.7)	2 (2.4)	82 (100)	** (1*3)	(1)	
	工	1 —	0 —	1 —	1 —	2 —	0 —	1 —	1 —	0 —	7 —	—	—	*
	商	1 —	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	1 —	1 —	0 —	4 —	—	—	
	事	2 —	3 —	3 —	0 —	3 —	1 —	5 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	1 —	0 —	1 —	1 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	26 (42.6)	7 (11.5)	13 (21.3)	2 (3.3)	6 (9.8)	0 (0)	3 (4.9)	2 (3.3)	2 (3.3)	61 (100)	** (1*3)	(1)	
	無	16 (30.2)	5 (9.4)	11 (20.8)	1 (1.9)	8 (15.1)	4 (7.5)	4 (7.5)	4 (7.5)	0 (0)	53 (100)			

第4図 3.33 駅 (保)

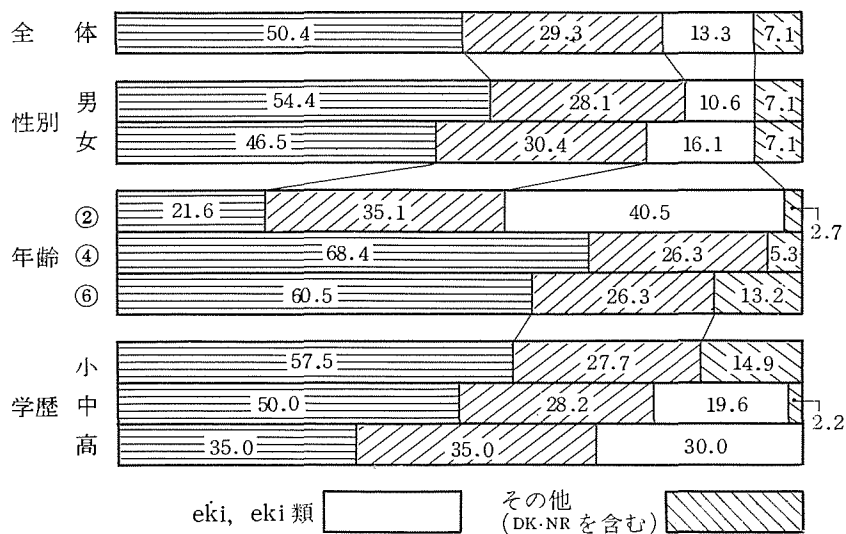


第16表 3.33 駅 (茂)

7. eki類 8. その他

		1	2	3	4	5	6	7	8	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	52 (46.0)	5 (4.4)	21 (18.6)	3 (2.7)	9 (8.0)	2 (1.8)	13 (11.5)	1 (0.9)	7 (6.2)	113 (100)	** (1*3)	(1)	
性 別	男	29 (50.9)	2 (3.5)	11 (19.3)	1 (1.8)	4 (7.0)	1 (1.8)	5 (8.8)	1 (1.8)	3 (5.3)	57 (100)	** (1*3)	(1)	
	女	23 (41.1)	3 (5.4)	10 (17.9)	2 (3.6)	5 (8.9)	1 (1.8)	8 (14.3)	0 (0)	4 (7.1)	56 (100)	** (1*3)	(1)	
年 齢	②	5 (13.5)	3 (8.1)	3 (8.1)	2 (5.4)	8 (21.6)	2 (5.4)	13 (35.1)	1 (2.7)	0 (0)	37 (100)			
	④	25 (65.8)	1 (2.6)	8 (21.1)	1 (2.6)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (5.3)	38 (100)	** (1*3)	(1)	**
	⑥	22 (57.9)	1 (2.6)	10 (26.3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (13.2)	38 (100)	** (1*3)	(1)	
学 歴	小	25 (53.2)	2 (4.3)	13 (27.7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (14.9)	47 (100)	*		
	中	22 (47.8)	1 (2.2)	6 (13.0)	3 (6.5)	4 (8.7)	1 (2.2)	8 (17.4)	1 (2.2)	0 (0)	46 (100)	** (1*7)	(1)	
	高	5 —	2 —	2 —	0 —	5 —	1 —	5 —	0 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	26 (53.1)	0 (0)	14 (28.6)	1 (2.0)	2 (4.1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (12.2)	49 (100)	**		
	工	13 (54.2)	2 (8.3)	3 (12.5)	1 (4.2)	0 (0)	0 (0)	4 (16.7)	1 (4.2)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	5 —	1 —	0 —	1 —	1 —	0 —	2 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	2 —	1 —	2 —	0 —	5 —	2 —	6 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	6 —	1 —	2 —	0 —	1 —	0 —	1 —	0 —	1 —	12 —	—	—	
役 員	有	24 (48.0)	3 (6.0)	11 (22.0)	2 (4.0)	5 (10.0)	0 (0)	2 (4.0)	0 (0)	3 (6.0)	50 (100)	** (1*3)	(1)	
	無	28 (44.4)	2 (3.2)	10 (15.9)	1 (1.6)	4 (6.3)	2 (3.2)	11 (17.5)	1 (1.6)	4 (6.3)	63 (100)	** (1*7)	(1)	

第5図 3.33 駅 (茂)

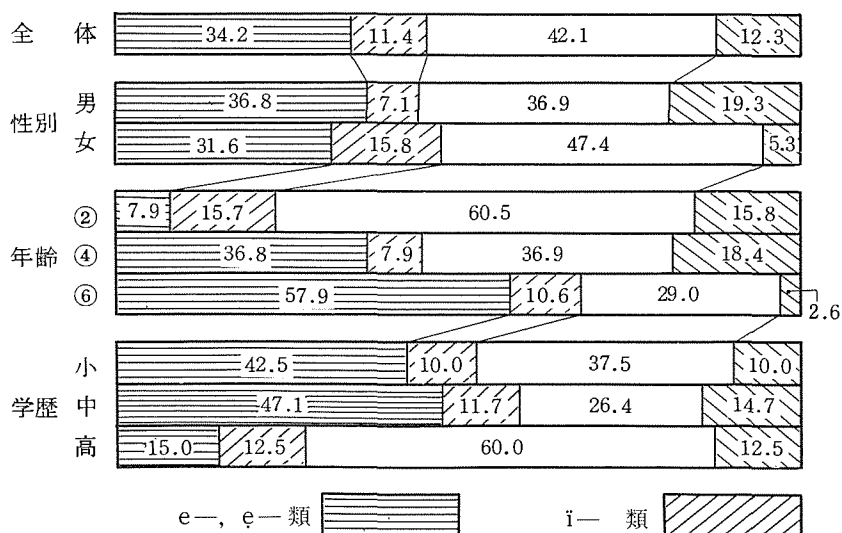


第17表 3.27 インキ (保)

1. ɛNkü 類 2. ɛNki 類 3. iNkü 類 4. iNki 類 5. iNki 類 6. iNkü 類

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		6 (5.3)	33 (28.9)	6 (5.3)	3 (2.6)	4 (3.5)	28 (24.6)	4 (3.5)	16 (14.0)	14 (12.3)	0 (0)	114 (100)	**		
性 別	男	0 (0)	21 (36.8)	2 (3.5)	1 (1.8)	1 (1.8)	14 (24.6)	0 (0)	7 (12.3)	11 (19.3)	0 (0)	57 (100)			
	女	6 (10.5)	12 (21.1)	4 (7.0)	2 (3.5)	3 (5.3)	14 (24.6)	4 (7.0)	9 (15.8)	3 (5.3)	0 (0)	57 (100)			
年 齢	②	2 (5.3)	1 (2.6)	4 (10.5)	1 (2.6)	1 (2.6)	20 (52.6)	0 (0)	3 (7.9)	6 (15.8)	0 (0)	38 (100)	** (6**9)	(6)	*
	④	3 (7.9)	11 (28.9)	0 (0)	2 (5.3)	1 (2.6)	8 (21.1)	1 (2.6)	5 (13.2)	7 (18.4)	0 (0)	38 (100)			
	⑥	1 (2.6)	21 (55.3)	2 (5.3)	0 (0)	2 (5.3)	0 (0)	3 (7.9)	8 (21.1)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** (2*8)	(2)	
学 歴	小	1 (2.5)	16 (40.0)	2 (5.0)	1 (2.5)	1 (2.5)	3 (7.5)	3 (7.5)	9 (22.5)	4 (10.0)	0 (0)	40 (100)			
	中	4 (11.8)	12 (35.3)	1 (2.9)	1 (2.9)	2 (5.9)	7 (20.6)	1 (2.9)	1 (2.9)	5 (14.7)	0 (0)	34 (100)			
	高	1 (2.5)	5 (12.5)	3 (7.5)	2 (5.0)	1 (2.5)	18 (45.0)	0 (0)	6 (15.0)	5 (12.5)	0 (0)	40 (100)	** (6*8)	(6)	
職 業	農	5 (6.1)	31 (37.8)	2 (2.4)	2 (2.4)	3 (3.7)	13 (15.9)	4 (4.9)	12 (14.6)	10 (12.2)	0 (0)	82 (100)	** (2**6)	(2)	
	工	1 —	1 —	1 —	1 —	0 —	2 —	0 —	0 —	1 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	2 —	0 —	1 —	1 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	0 —	3 —	0 —	1 —	10 —	0 —	2 —	2 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	2 (3.3)	24 (39.3)	2 (3.3)	1 (1.6)	2 (3.3)	12 (19.7)	3 (4.9)	8 (13.1)	7 (11.5)	0 (0)	61 (100)	** (2*6)	(2)	
	無	4 (7.5)	9 (17.0)	4 (7.5)	2 (3.8)	2 (3.8)	16 (30.2)	1 (1.9)	8 (15.1)	7 (13.2)	0 (0)	53 (100)			

第6図 3.27 インキ (保)

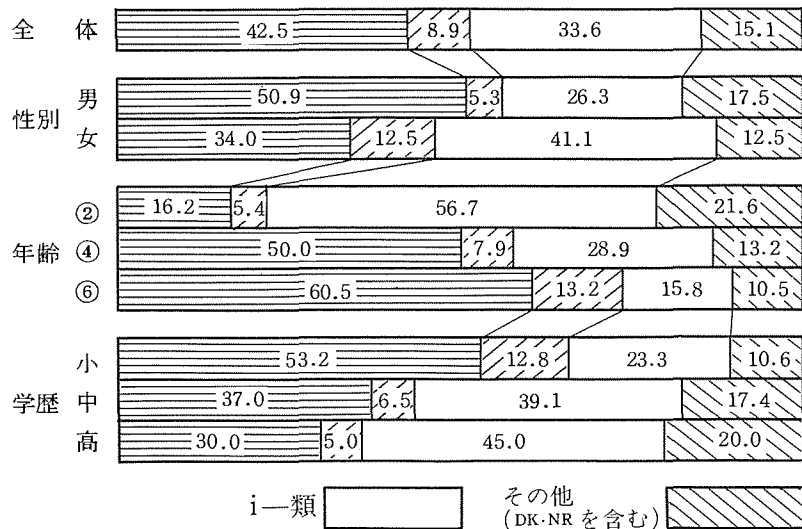


第18表 3.27 インキ (茂)

7. iNci 類 8. iNki 類 9. その他

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	3 (2.7)	45 (39.8)	6 (5.3)	2 (1.8)	2 (1.8)	24 (21.2)	1 (0.9)	13 (11.5)	16 (14.2)	1 (0.9)	113 (100)	** (2*6)	(2)	
性 別	男	1 (1.8)	28 (49.1)	2 (3.5)	0 (0)	1 (1.8)	9 (15.8)	0 (0)	6 (10.5)	10 (17.5)	0 (0)	57 (100)	** (2**9)	(2)	
	女	2 (3.6)	17 (30.4)	4 (7.1)	2 (3.6)	1 (1.8)	15 (26.8)	1 (1.8)	7 (12.5)	6 (10.7)	1 (1.8)	56 (100)			
年 齢	②	2 (5.4)	4 (10.8)	2 (5.4)	0 (0)	0 (0)	18 (48.6)	0 (0)	3 (8.1)	8 (21.6)	0 (0)	37 (100)	** (6*9)	(6)	
	④	1 (2.6)	18 (47.4)	2 (5.3)	1 (2.6)	0 (0)	4 (10.5)	0 (0)	7 (18.4)	5 (13.2)	0 (0)	38 (100)	** (2*8)	(2)	*
	⑥	0 (0)	23 (60.5)	2 (5.3)	1 (2.6)	2 (5.3)	2 (5.3)	1 (2.6)	3 (7.9)	3 (7.9)	1 (2.6)	38 (100)	** (2**8,9)	(2)	
学 歴	小	0 (0)	25 (53.2)	3 (6.4)	1 (2.1)	2 (4.3)	5 (10.6)	1 (2.1)	5 (10.6)	4 (8.5)	1 (2.1)	47 (100)	** (2**6,8)	(2)	
	中	1 (2.2)	16 (34.8)	2 (4.3)	1 (2.2)	0 (0)	12 (26.1)	0 (0)	6 (13.0)	8 (17.4)	0 (0)	46 (100)			
	高	2 —	4 —	1 —	0 —	0 —	7 —	0 —	2 —	4 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	1 (2.0)	29 (59.2)	2 (4.1)	2 (4.1)	2 (4.1)	2 (4.1)	1 (2.0)	5 (10.2)	4 (8.2)	1 (2.0)	49 (100)	** (2**8)	(2)	
	工	0 (0)	9 (37.5)	2 (8.3)	0 (0)	0 (0)	4 (16.7)	0 (0)	5 (20.8)	4 (16.7)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	2 —	1 —	1 —	0 —	0 —	1 —	0 —	2 —	3 —	0 —	10 —	—	—	**
	事	0 —	1 —	1 —	0 —	0 —	13 —	0 —	0 —	3 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	5 —	0 —	0 —	0 —	4 —	0 —	1 —	2 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	1 (2.0)	24 (48.0)	3 (6.0)	1 (2.0)	1 (2.0)	9 (18.0)	0 (0)	5 (10.0)	6 (12.0)	0 (0)	50 (100)	** (2**6)	(2)	
	無	2 (3.2)	21 (33.3)	3 (4.8)	1 (1.6)	1 (1.6)	15 (23.8)	1 (1.6)	8 (12.7)	10 (15.9)	1 (1.6)	63 (100)			

第7図 3.27 インキ (茂)

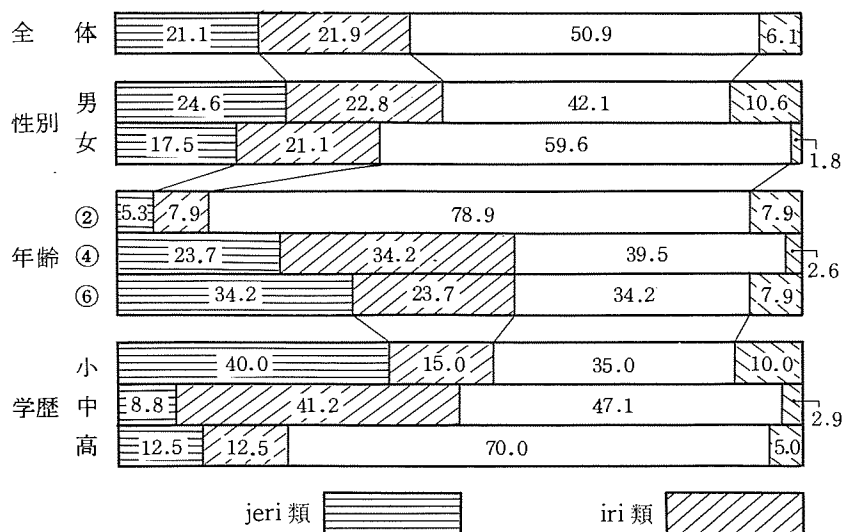


第19表 1.28 襟 (保)

1. jeri 類 2. iri 類 3. eri 類 4. eri 類 5. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		24 (21.1)	25 (21.9)	30 (26.3)	28 (24.6)	4 (3.5)	3 (2.6)	114 (100)	**		
性 別	男	14 (24.6)	13 (22.8)	13 (22.8)	11 (19.3)	3 (5.3)	3 (5.3)	57 (100)			
	女	10 (17.5)	12 (21.1)	17 (29.8)	17 (29.8)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)	——	—	
年 齢	②	2 (5.3)	3 (7.9)	11 (28.9)	19 (50.0)	1 (2.6)	2 (5.3)	38 (100)	**		
	④	9 (23.7)	13 (34.2)	8 (21.1)	7 (18.4)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)			*
	⑥	13 (34.2)	9 (23.7)	11 (28.9)	2 (5.3)	2 (5.3)	1 (2.6)	38 (100)			
学 歴	小	16 (40.0)	6 (15.0)	12 (30.0)	2 (5.0)	3 (7.5)	1 (2.5)	40 (100)			
	中	3 (8.8)	14 (41.2)	9 (26.5)	7 (20.6)	0 (0)	1 (2.9)	34 (100)			**
	高	5 (12.5)	5 (12.5)	9 (22.5)	19 (47.5)	1 (2.5)	1 (2.5)	40 (100)	*		
職 業	農	21 (25.6)	24 (29.3)	22 (26.8)	12 (14.6)	2 (2.4)	1 (1.2)	82 (100)			
	工	0 —	0 —	3 —	3 —	0 —	1 —	7 —	——	—	
	商	0 —	1 —	0 —	2 —	1 —	0 —	4 —	——	—	*
	事	1 —	0 —	5 —	10 —	1 —	1 —	18 —	——	—	
	無	2 —	0 —	0 —	1 —	0 —	0 —	3 —	——	—	
役 員	有	17 (27.9)	12 (19.7)	15 (24.6)	13 (21.3)	3 (4.9)	1 (1.6)	61 (100)			
	無	7 (13.2)	13 (24.5)	15 (28.3)	15 (28.3)	1 (1.9)	2 (3.8)	53 (100)	——	—	

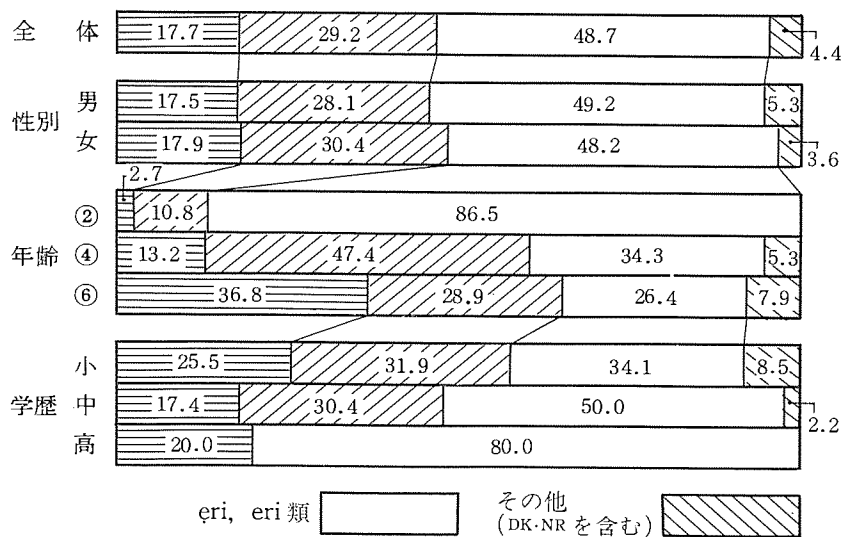
第 8 図 1.28 襟 (保)



第20表 1.28 襟 (茂)

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	20 (17.7)	33 (29.2)	19 (16.8)	36 (31.9)	4 (3.5)	1 (0.9)	113 (100)	**		
性 別	男	10 (17.5)	16 (28.1)	14 (24.6)	14 (24.6)	2 (3.5)	1 (1.8)	57 (100)			
	女	10 (17.9)	17 (30.4)	5 (8.9)	22 (39.3)	2 (3.6)	0 (0)	56 (100)	*		
年 齢	②	1 (2.7)	4 (10.8)	6 (16.2)	26 (70.3)	0 (0)	0 (0)	37 (100)	** 4*4	4	**
	④	5 (13.2)	18 (47.4)	8 (21.1)	5 (13.2)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)	** (2*3)	(2)	
	⑥	14 (36.8)	11 (28.9)	5 (13.2)	5 (13.2)	2 (5.3)	1 (2.6)	38 (100)			
学 歴	小	12 (25.5)	15 (31.9)	6 (12.8)	10 (21.3)	3 (6.4)	1 (2.1)	47 (100)			
	中	8 (17.4)	14 (30.4)	8 (17.4)	15 (32.6)	1 (2.2)	0 (0)	46 (100)			
	高	0 —	4 —	5 —	11 —	0 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	15 (30.6)	18 (36.7)	6 (12.2)	7 (14.3)	2 (4.1)	1 (2.0)	49 (100)			
	工	1 (4.2)	7 (29.2)	4 (16.7)	10 (41.7)	2 (8.3)	0 (0)	24 (100)			
	商	0 —	3 —	3 —	4 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	0 —	2 —	5 —	11 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	4 —	3 —	1 —	4 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	12 (24.0)	10 (20.0)	13 (26.0)	11 (22.0)	3 (6.0)	1 (2.0)	50 (100)			
	無	8 (12.7)	23 (36.5)	6 (9.5)	25 (39.7)	1 (1.6)	0 (0)	63 (100)	**		

第9図 1.28(1) 襟 (茂)

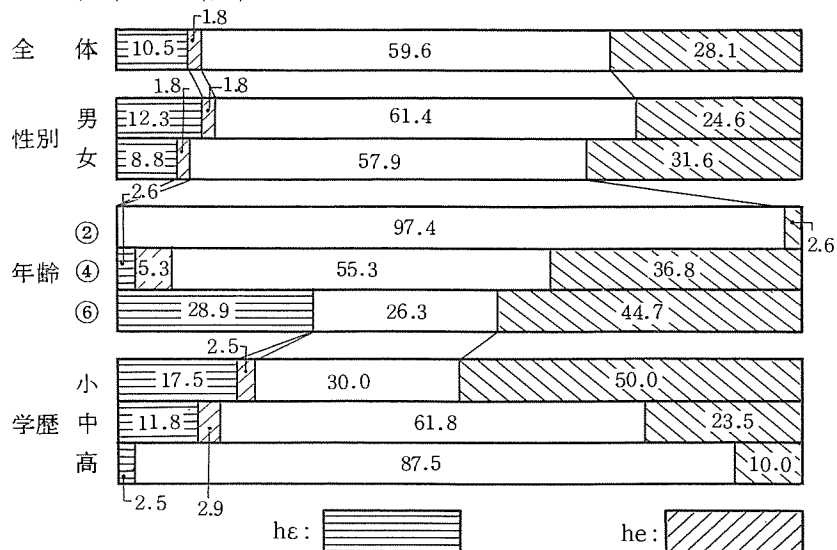


第22表 3.14(1) 蠅(保)

1. he: 類 2. he: 類 3. hae 類 4. hai 類 5. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全 体		12 (10.5)	2 (1.8)	56 (49.1)	12 (10.5)	32 (28.1)	0 (0)	114 (100)	** (3*5)	(3)	
性 別	男	7 (12.3)	1 (1.8)	29 (50.9)	6 (10.5)	14 (24.6)	0 (0)	57 (100)	** (3*5)	(3)	
	女	5 (8.8)	1 (1.8)	27 (47.4)	6 (10.5)	18 (31.6)	0 (0)	57 (100)	**		
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	34 (89.5)	3 (7.9)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** 3*3	3	
	④	1 (2.6)	2 (5.3)	12 (31.6)	9 (23.7)	14 (36.8)	0 (0)	38 (100)			**
	⑥	11 (28.9)	0 (0)	10 (26.3)	0 (0)	17 (44.7)	0 (0)	38 (100)			
学 歴	小	7 (17.5)	1 (2.5)	8 (20.0)	4 (10.0)	20 (50.0)	0 (0)	40 (100)	** (5*3)	(5)	
	中	4 (11.8)	1 (2.9)	16 (47.1)	5 (14.7)	8 (23.5)	0 (0)	34 (100)			**
	高	1 (2.5)	0 (0)	32 (80.0)	3 (7.5)	4 (10.0)	0 (0)	40 (100)	** 3*3	3	
職 業	農	11 (13.4)	2 (2.4)	29 (35.4)	9 (11.0)	31 (37.8)	0 (0)	82 (100)	**		
	工	0 —	0 —	6 —	1 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	1 —	0 —	3 —	0 —	0 —	0 —	4 —	—	—	**
	事	0 —	0 —	17 —	1 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	1 —	1 —	1 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	9 (14.8)	0 (0)	22 (36.1)	7 (11.5)	23 (37.7)	0 (0)	61 (100)	**		
	無	3 (5.7)	2 (3.8)	34 (64.2)	5 (9.4)	9 (17.0)	0 (0)	53 (100)	** 3*3	3	

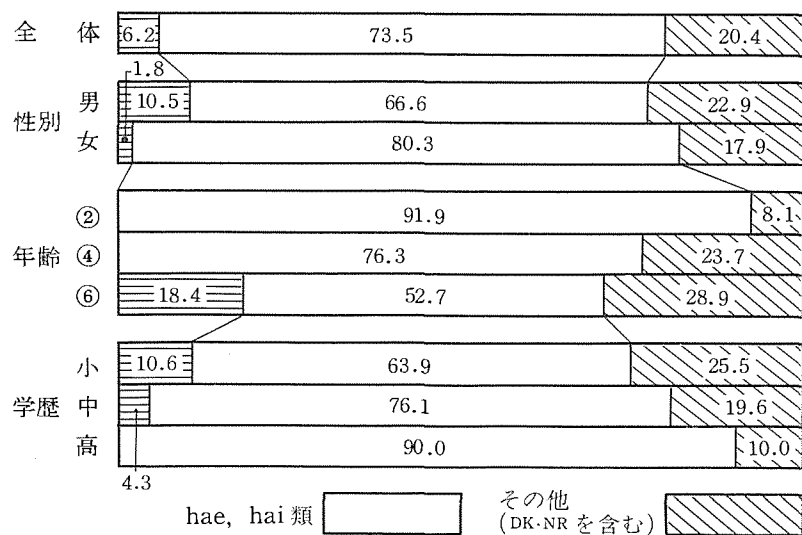
第10図 3.14(1) 蠅(保)



第23表 3.14(1) 蠅(茂)

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全 体		7 (6.2)	0 (0)	69 (61.1)	14 (12.4)	22 (19.5)	1 (0.9)	113 (100)	** 3*3	3	
性 別	男	6 (10.5)	0 (0)	30 (52.6)	8 (14.0)	13 (22.9)	0 (0)	57 (100)	** (3**5)	(3)	
	女	1 (1.8)	0 (0)	39 (69.6)	6 (10.7)	9 (16.1)	1 (1.8)	56 (100)	** 3**3	3	
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	28 (75.7)	6 (16.2)	3 (8.1)	0 (0)	37 (100)	** 3**3	3	
	④	0 (0)	0 (0)	23 (60.5)	6 (15.8)	9 (23.7)	0 (0)	38 (100)	** (3*5)	(3)	
	⑥	7 (18.4)	0 (0)	18 (47.4)	2 (5.3)	10 (26.3)	1 (2.6)	38 (100)			
学 歴	小	5 (10.6)	0 (0)	24 (51.1)	6 (12.8)	11 (23.4)	1 (2.1)	47 (100)	** (3*5)	(3)	
	中	2 (4.3)	0 (0)	30 (65.2)	5 (10.9)	9 (19.6)	0 (0)	46 (100)	** 3*3	3	
	高	— (—)	— (—)	15 (—)	3 (—)	2 (—)	0 (—)	20 (—)	— (—)	— (—)	
職 業	農	7 (14.3)	0 (0)	27 (55.1)	4 (8.2)	10 (20.4)	1 (2.0)	49 (100)	** (3**5)	(3)	
	工	0 (0)	0 (0)	16 (66.7)	4 (16.7)	4 (16.7)	0 (0)	24 (100)	— (—)	— (—)	
	商	0 (—)	0 (—)	7 (—)	1 (—)	2 (—)	0 (—)	10 (—)	— (—)	— (—)	
	事	0 (—)	0 (—)	14 (—)	2 (—)	2 (—)	0 (—)	18 (—)	— (—)	— (—)	
	無	0 (—)	0 (—)	5 (—)	3 (—)	4 (—)	0 (—)	12 (—)	— (—)	— (—)	
役 員	有	4 (8.0)	0 (0)	29 (58.0)	6 (12.0)	11 (22.0)	0 (0)	50 (100)	** (3**5)	(3)	
	無	3 (4.8)	0 (0)	40 (63.5)	8 (12.7)	11 (17.5)	1 (1.6)	63 (100)	** 3*3	3	

第11図 3.14(1) 蠅(茂)

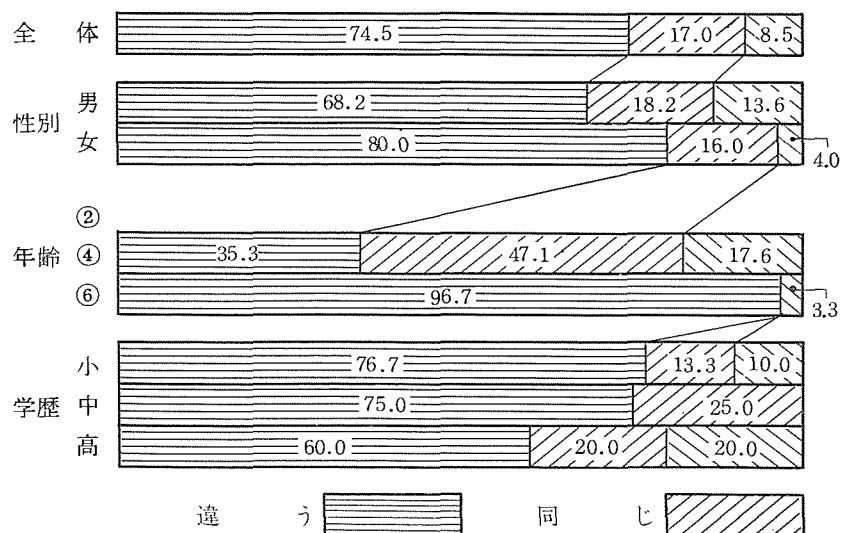


第24表 3.14(2) 「蠅」,「塀」と同じ発音ですか(保)

1. 違う 2. 同じ

		1	2	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	35 (74.5)	8 (17.0)	4 (8.5)	47 (100)	** 1**I	1	
性 別	男	15 (68.2)	4 (18.2)	3 (13.6)	22 (100)	—	—	
	女	20 (80.0)	4 (16.0)	1 (4.0)	25 (100)	—	—	
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	—	—	**
	④	6 —	8 —	3 —	17 —	—	—	
	⑥	29 (96.7)	0 (0)	1 (3.3)	30 (100)	** 1**I	1	
学 歴	小	23 (76.7)	4 (13.3)	3 (10.0)	30 (100)	** 1**I	1	
	中	9 —	3 —	0 —	12 —	—	—	
	高	3 —	1 —	1 —	5 —	—	—	
職 業	農	32 (72.7)	8 (18.2)	4 (9.1)	44 (100)	** 1**I	1	—
	工	0 —	0 —	0 —	0 —	—	—	
	商	1 —	0 —	0 —	1 —	—	—	
	事	0 —	0 —	0 —	0 —	—	—	
	無	2 —	0 —	0 —	2 —	—	—	
役 員	有	25 (78.1)	4 (12.5)	3 (9.4)	32 (100)	** 1**I	1	
	無	10 —	4 —	1 —	15 —	—	—	

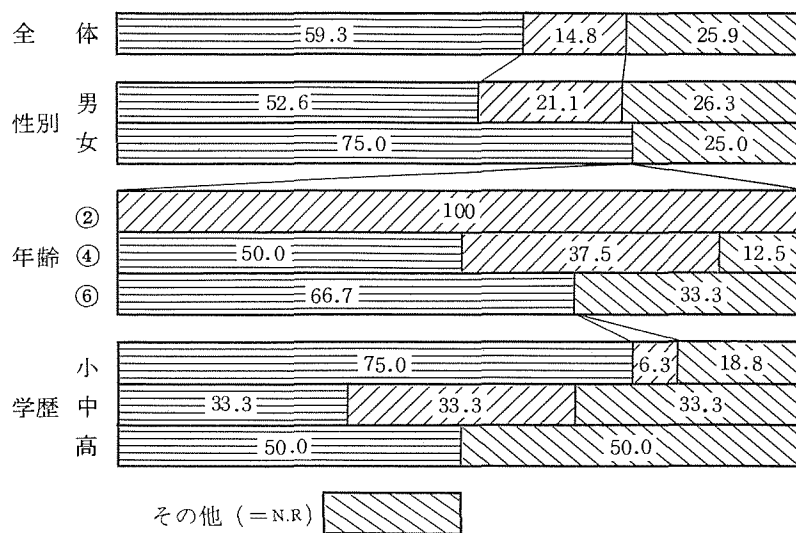
第12図 3.14(2) 蠅(塀と同じ発音か)(保)



第25表 3.14(2) 「蠅」,「塀」と同じ発音ですか (茂)

		1	2	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	16 (59.3)	4 (14.8)	7 (25.9)	27 (100)	—	—	
性別	男	10 —	4 —	5 —	19 —	—	—	—
	女	6 —	0 —	2 —	8 —	—	—	
年齢	②	0 —	1 —	0 —	1 —	—	—	—
	④	4 —	3 —	1 —	8 —	—	—	
	⑥	12 —	0 —	6 —	18 —	—	—	
学歴	小	12 —	1 —	3 —	16 —	—	—	—
	中	3 —	3 —	3 —	9 —	—	—	
	高	1 —	0 —	1 —	2 —	—	—	
職業	農	11 —	1 —	6 —	18 —	—	—	—
	工	0 —	2 —	1 —	3 —	—	—	
	商	0 —	1 —	0 —	1 —	—	—	
	事	1 —	0 —	0 —	1 —	—	—	
	無	4 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
役員	有	8 —	2 —	4 —	14 —	—	—	—
	無	8 —	2 —	3 —	13 —	—	—	

第13図 3.14(2) 蠅 (塀と同じ発音か) (茂)

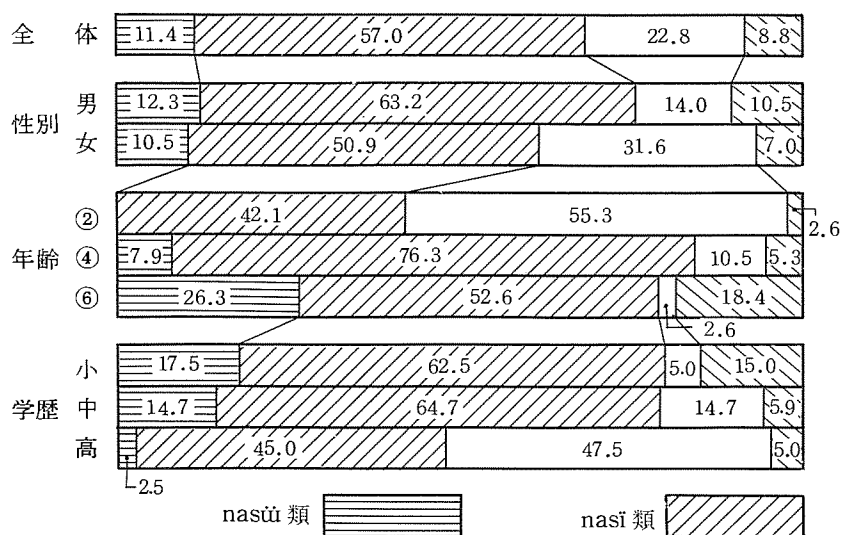


第26表 3.22 梨 (保)

1. nasû 類 2. nasi 類 3. naji 類 4. その他

		1	2	3	4	N. R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	13 (11.4)	65 (57.0)	26 (22.8)	10 (8.8)	0 (0)	114 (100)	** (2**3)	(2)	
性 別	男	7 (12.3)	36 (63.2)	8 (14.0)	6 (10.5)	0 (0)	57 (100)	** 2*2	2	
	女	6 (10.5)	29 (50.9)	18 (31.6)	4 (7.0)	0 (0)	57 (100)	**		
年 齢	②	0 (0)	16 (42.1)	21 (55.3)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)			
	④	3 (7.9)	29 (76.3)	4 (10.5)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)	** 2**2	2	
	⑥	10 (26.3)	20 (52.6)	1 (2.6)	7 (18.4)	0 (0)	38 (100)			
学 歴	小	7 (17.5)	25 (62.5)	2 (5.0)	6 (15.0)	0 (0)	40 (100)	** (2**1)	(2)	
	中	5 (14.7)	22 (64.7)	5 (14.7)	2 (5.9)	0 (0)	34 (100)	** (2**1,3)	(2)	
	高	1 (2.5)	18 (45.0)	19 (47.5)	2 (5.0)	0 (0)	40 (100)	**		
職 業	農	13 (15.9)	51 (62.2)	10 (12.2)	8 (9.8)	0 (0)	82 (100)	** 2*2	2	
	工	0 —	4 —	3 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	2 —	1 —	1 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	6 —	11 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	2 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	8 (13.1)	37 (60.7)	7 (11.5)	9 (14.8)	0 (0)	61 (100)	** (2**4)	(2)	
	無	5 (9.4)	28 (52.8)	19 (35.8)	1 (1.9)	0 (0)	53 (100)	**		

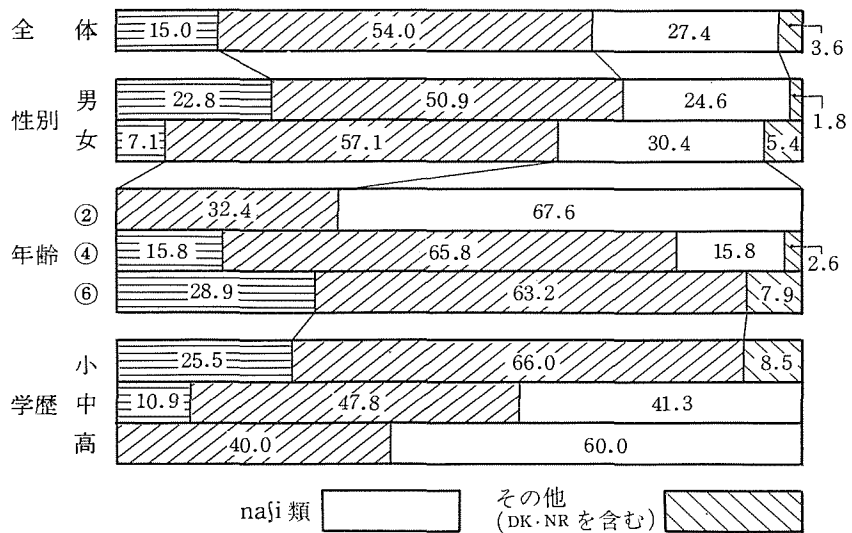
第14図 3.22 梨 (保)



第27表 3.22 梨 (茂)

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	17 (15.0)	61 (54.0)	31 (27.4)	3 (2.7)	1 (0.9)	113 (100)	** (2**3)	(2)	
性 別	男	13 (22.8)	29 (50.9)	14 (24.6)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)	** (2*3)	(2)	
	女	4 (7.1)	32 (57.1)	17 (30.4)	2 (3.6)	1 (1.8)	56 (100)	** (2*3)	(2)	
年 齢	②	0 (0)	12 (32.4)	25 (67.6)	0 (0)	0 (0)	37 (100)	** 3*3	3	
	④	6 (15.8)	25 (65.8)	6 (15.8)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** (2**1,3)	(2)	
	⑥	11 (28.9)	24 (63.2)	0 (0)	2 (5.3)	1 (2.6)	38 (100)	** (2*1)	(2)	
学 歴	小	12 (25.5)	31 (66.0)	0 (0)	3 (6.4)	1 (2.1)	47 (100)	** 2*2	2	
	中	5 (10.9)	22 (47.8)	19 (41.3)	0 (0)	0 (0)	46 (100)	**		
	高	0 —	8 —	12 —	0 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	12 (24.5)	33 (67.3)	2 (4.1)	1 (2.0)	1 (2.0)	49 (100)	** 2*2	2	
	工	3 (12.5)	10 (41.7)	10 (41.7)	1 (4.2)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	5 —	5 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	1 —	6 —	11 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	1 —	7 —	3 —	1 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	10 (20.0)	26 (52.0)	13 (26.0)	1 (2.0)	0 (0)	50 (100)	** (2*3)	(2)	
	無	7 (11.1)	35 (55.6)	18 (28.6)	2 (3.2)	1 (1.6)	63 (100)	** (2*3)	(2)	

第15図 3.22 梨 (茂)

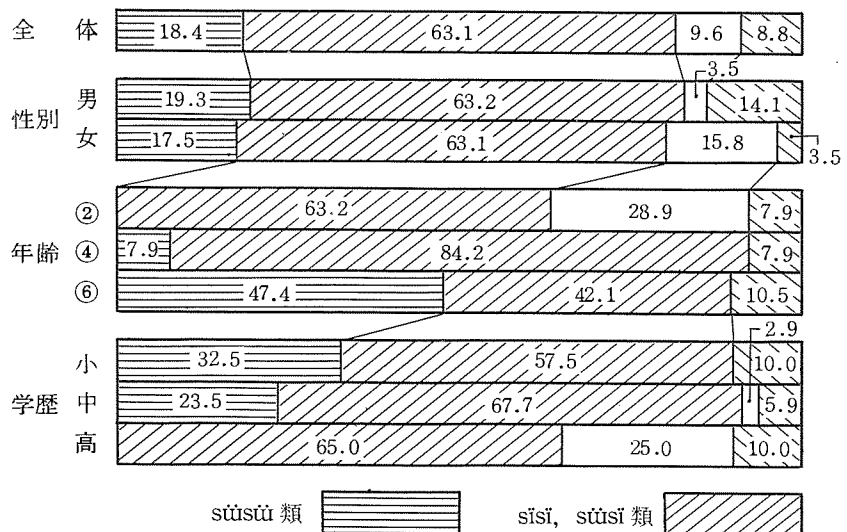


第28表 3.17 寿司 (保)

1. süstü 類 2. sīsī 類 3. süsī 類 4. suŋi 類 5. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		21 (18.4)	7 (6.1)	65 (57.0)	11 (9.6)	9 (7.9)	1 (0.9)	114 (100)	** (3**1)	(3)	
性 別	男	11 (19.3)	5 (8.8)	31 (54.4)	2 (3.5)	7 (12.3)	1 (1.8)	57 (100)	** (3**1)	(3)	
	女	10 (17.5)	2 (3.5)	34 (59.6)	9 (15.8)	2 (3.5)	0 (0)	57 (100)	** (3**1)	(3)	
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	24 (63.2)	11 (28.9)	3 (7.9)	0 (0)	38 (100)	** (3*4)	(3)	**
	④	3 (7.9)	2 (5.3)	30 (78.9)	0 (0)	3 (7.9)	0 (0)	38 (100)	** 3**3	3	
	⑥	18 (47.4)	5 (13.2)	11 (28.9)	0 (0)	3 (7.9)	1 (2.6)	38 (100)			
学 歴	小	13 (32.5)	3 (7.5)	20 (50.0)	0 (0)	4 (10.0)	0 (0)	40 (100)	*		
	中	8 (23.5)	2 (5.9)	21 (61.8)	1 (2.9)	2 (5.9)	0 (0)	34 (100)	** (3*1)	(3)	
	高	0 (0)	2 (5.0)	24 (60.0)	10 (25.0)	3 (7.5)	1 (2.5)	40 (100)	** (3*4)	(3)	
職 業	農	21 (25.6)	7 (8.5)	44 (53.7)	2 (2.4)	7 (8.5)	1 (1.2)	82 (100)	** (3**1)	(3)	
	工	0 —	0 —	5 —	2 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	0 —	3 —	0 —	1 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	0 —	11 —	6 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	2 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	15 (24.6)	5 (8.2)	31 (50.8)	3 (4.9)	6 (9.8)	1 (1.6)	61 (100)	** (3*1)	(3)	
	無	6 (11.3)	2 (3.8)	34 (64.2)	8 (15.1)	3 (5.7)	0 (0)	53 (100)	** 3*3	3	

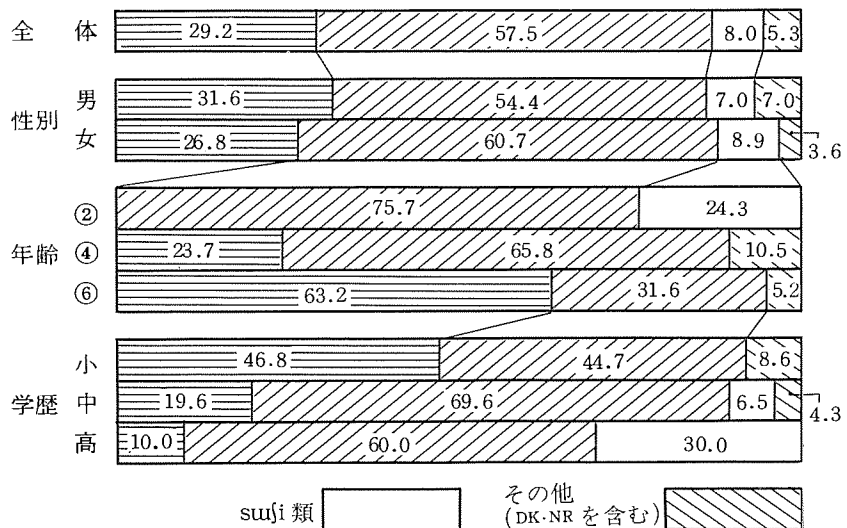
第16図 3.17 寿司 (保)



第29表 3.17 寿司 (茂)

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全	体	33 (29.2)	5 (4.4)	60 (53.1)	9 (8.0)	4 (3.5)	2 (1.8)	113 (100)	** (3**1)	(3)	
性 別	男	18 (31.6)	3 (5.3)	28 (49.1)	4 (7.0)	3 (5.3)	1 (1.8)	57 (100)	*		
	女	15 (26.8)	2 (3.6)	32 (57.1)	5 (8.9)	1 (1.8)	1 (1.8)	56 (100)	** (3*1)	(3)	
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	28 (75.7)	9 (24.3)	0 (0)	0 (0)	37 (100)	** 3**3	3	**
	④	9 (23.7)	2 (5.3)	23 (60.5)	0 (0)	3 (7.9)	1 (2.6)	38 (100)	** (3*1)	(3)	
	⑥	24 (63.2)	3 (7.9)	9 (23.7)	0 (0)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)	** (1**3)	(1)	
学 歴	小	22 (46.8)	3 (6.4)	18 (38.3)	0 (0)	2 (4.3)	2 (4.3)	47 (100)	*		
	中	9 (19.6)	0 (0)	32 (69.6)	3 (6.5)	2 (4.3)	0 (0)	46 (100)	** 3**3	3	
	高	2 —	2 —	10 —	6 —	0 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	24 (49.0)	2 (4.1)	19 (38.8)	0 (0)	2 (4.1)	2 (4.1)	49 (100)	**		
	工	5 (20.8)	0 (0)	18 (75.0)	0 (0)	1 (4.2)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	0 —	7 —	3 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	0 —	1 —	10 —	6 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	4 —	2 —	6 —	0 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	17 (34.0)	4 (8.0)	22 (44.0)	4 (8.0)	3 (6.0)	0 (0)	50 (100)			
	無	16 (25.4)	1 (1.6)	38 (60.3)	5 (7.9)	1 (1.6)	2 (3.2)	63 (100)	** (3**1)	(3)	

第17図 3.17 寿司 (茂)

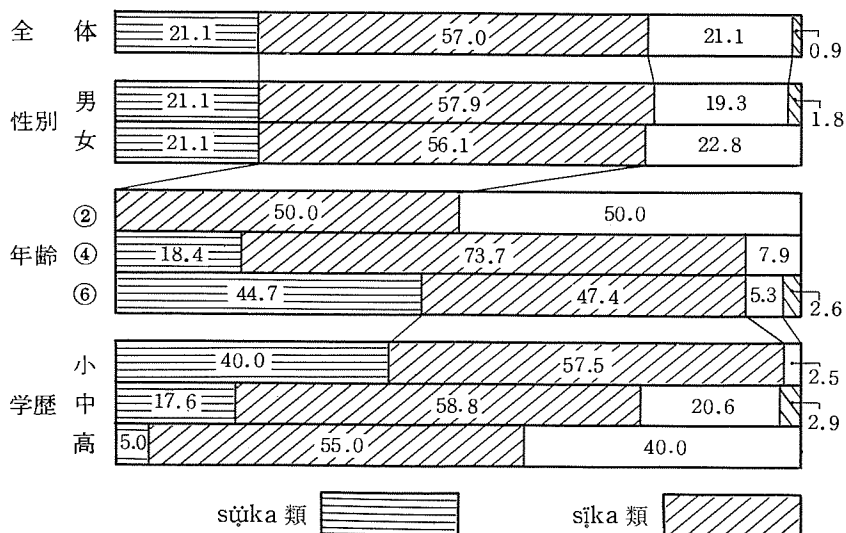


第30表 1.08 鹿(保)

1. sũka 類 2. sika 類 3. ſika 類 4. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		24 (21.1)	65 (57.0)	24 (21.1)	1 (0.9)	0 (0)	114 (100)	** (2**1,3)	(2)	
性 別	男	12 (21.1)	33 (57.9)	11 (19.3)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)	** (2**1)	(2)	
	女	12 (21.1)	32 (56.1)	13 (22.8)	0 (0)	0 (0)	57 (100)	** (2**3)	(2)	
年 齢	②	0 (0)	19 (50.0)	19 (50.0)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	—	—	
	④	7 (18.4)	28 (73.7)	3 (7.9)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 2**2	2	
	⑥	17 (44.7)	18 (47.4)	2 (5.3)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	**		
学 歴	小	16 (40.0)	23 (57.5)	1 (2.5)	0 (0)	0 (0)	40 (100)			
	中	6 (17.6)	20 (58.8)	7 (20.6)	1 (2.9)	0 (0)	34 (100)	** (2*3)	(2)	
	高	2 (5.0)	22 (55.0)	16 (40.0)	0 (0)	0 (0)	40 (100)			
職 業	農	23 (28.0)	48 (58.5)	10 (12.2)	1 (1.2)	0 (0)	82 (100)	** (2**1)	(2)	
	工	0 —	5 —	2 —	0 —	0 —	7 —	—	—	*
	商	0 —	3 —	1 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	7 —	11 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	1 —	2 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	18 (29.5)	34 (55.7)	9 (14.8)	0 (0)	0 (0)	61 (100)	** (2*1)	(2)	
	無	6 (11.3)	31 (58.5)	15 (28.3)	1 (1.9)	0 (0)	53 (100)	** (2*3)	(2)	

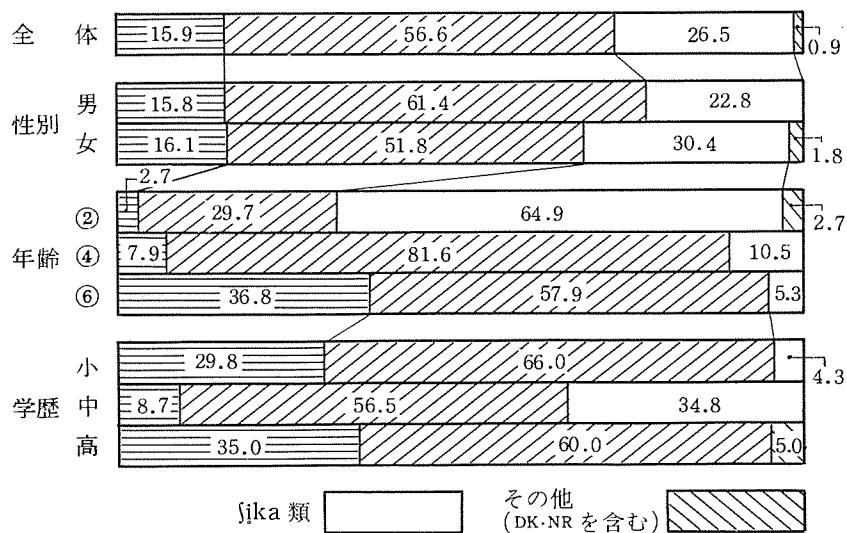
第18図 1.08 鹿(保)



第31表 1.08 鹿 (茂)

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		18 (15.9)	64 (56.6)	30 (26.5)	1 (0.9)	113 (100)	** (2**3)	(2)	
性 別	男	9 (15.8)	35 (61.4)	13 (22.8)	0 (0)	57 (100)	** (2**3)	(2)	
	女	9 (16.1)	29 (51.8)	17 (30.4)	1 (1.8)	56 (100)	**		
年 齢	②	1 (2.7)	11 (29.7)	24 (64.9)	1 (2.7)	37 (100)	** (3*2)	(3)	**
	④	3 (7.9)	31 (81.6)	4 (10.5)	0 (0)	38 (100)	** 2**2	2	
	⑥	14 (36.8)	22 (57.9)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)			
学 歴	小	14 (29.8)	31 (66.0)	2 (4.3)	0 (0)	47 (100)	** 2*2	2	
	中	4 (8.7)	26 (56.5)	16 (34.8)	0 (0)	46 (100)	**		
	高	0 —	7 —	12 —	1 —	20 —	—	—	
職 業	農	12 (24.5)	33 (67.3)	4 (8.2)	0 (0)	49 (100)	** 2*2	2	
	工	2 (8.3)	15 (62.5)	7 (29.2)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	3 —	6 —	1 —	10 —	—	—	
	事	1 —	6 —	11 —	0 —	18 —	—	—	
	無	3 —	7 —	2 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	7 (14.0)	32 (64.0)	11 (22.0)	0 (0)	50 (100)	** 2*2	2	
	無	11 (17.5)	32 (50.8)	19 (30.2)	1 (1.6)	63 (100)	**		

第19図 1.08 鹿 (茂)

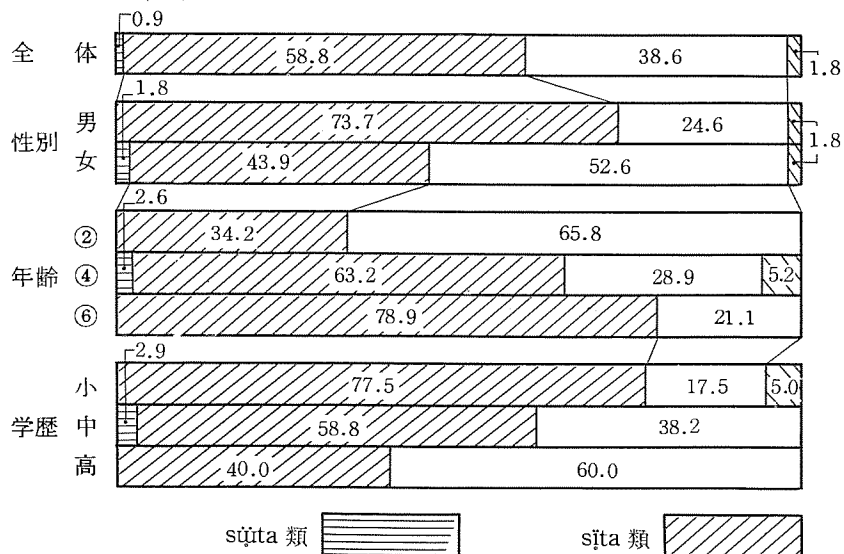


第32表 3.39 下 (保)

1. sŭta 類 2. sŭta 類 3. ſita 類 4. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全 体		1 (0.9)	67 (58.8)	44 (38.6)	1 (0.9)	1 (0.9)	114 (100)	** (2*3)	(2)	
性 別	男	0 (0)	42 (73.7)	14 (24.6)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)	** 2**2	2	*
	女	1 (1.8)	25 (43.9)	30 (52.6)	0 (0)	1 (1.8)	57 (100)			
年 齢	②	0 (0)	13 (34.2)	25 (65.8)	0 (0)	0 (0)	38 (100)			**
	④	1 (2.6)	24 (63.2)	11 (28.9)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)	** (2*3)	(2)	
	⑥	0 (0)	30 (78.9)	8 (21.1)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 2**2	2	
学 歴	小	0 (0)	31 (77.5)	7 (17.5)	1 (2.5)	1 (2.5)	40 (100)	** 2**2	2	*
	中	1 (2.9)	20 (58.8)	13 (38.2)	0 (0)	0 (0)	34 (100)			
	高	0 (0)	16 (40.0)	24 (60.0)	0 (0)	0 (0)	40 (100)			
職 業	農	1 (1.2)	55 (67.1)	24 (29.3)	1 (1.2)	1 (1.2)	82 (100)	** 2**2	2	*
	工	0 —	2 —	5 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	2 —	2 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	6 —	12 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	2 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	1 (1.6)	40 (65.6)	18 (29.5)	1 (1.6)	1 (1.6)	61 (100)	** 2*2	2	
	無	0 (0)	27 (50.9)	26 (49.1)	0 (0)	0 (0)	53 (100)			

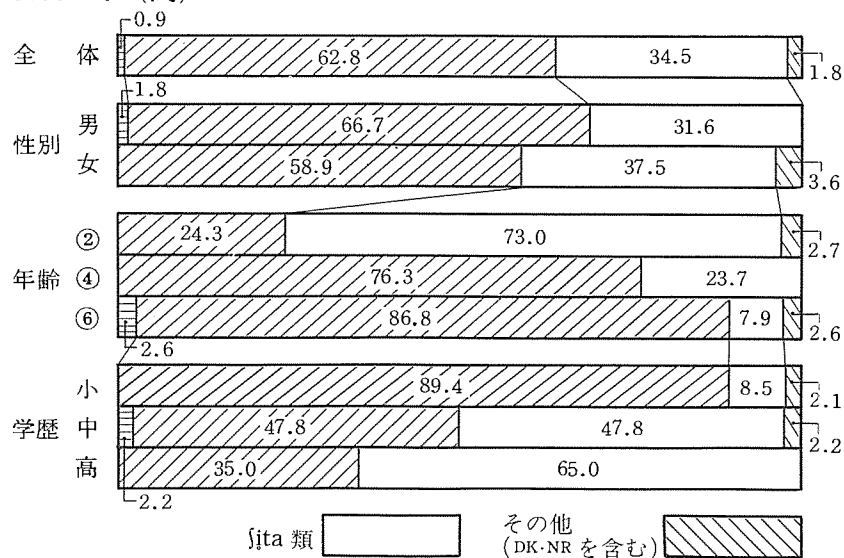
第20図 3.39 下 (保)



第33表 3.39 下 (茂)

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	$\frac{1}{(0.9)}$	$\frac{71}{(62.8)}$	$\frac{39}{(34.5)}$	$\frac{2}{(1.8)}$	$\frac{113}{(100)}$	$\frac{**}{2*\overline{2}}$	2	
性	男	$\frac{1}{(1.8)}$	$\frac{38}{(66.7)}$	$\frac{18}{(31.6)}$	$\frac{0}{(0)}$	$\frac{57}{(100)}$	$\frac{**}{2*\overline{2}}$	2	
	女	$\frac{0}{(0)}$	$\frac{33}{(58.9)}$	$\frac{21}{(37.5)}$	$\frac{2}{(3.6)}$	$\frac{56}{(100)}$			
年	②	$\frac{0}{(0)}$	$\frac{9}{(24.3)}$	$\frac{27}{(73.0)}$	$\frac{1}{(2.7)}$	$\frac{37}{(100)}$	$\frac{**}{3*\overline{3}}$	3	
	④	$\frac{0}{(0)}$	$\frac{29}{(76.3)}$	$\frac{9}{(23.7)}$	$\frac{0}{(0)}$	$\frac{38}{(100)}$	$\frac{**}{2*\overline{2}}$	2	**
	⑥	$\frac{1}{(2.6)}$	$\frac{33}{(86.8)}$	$\frac{3}{(7.9)}$	$\frac{1}{(2.6)}$	$\frac{38}{(100)}$	$\frac{**}{2*\overline{2}}$	2	
学	小	$\frac{0}{(0)}$	$\frac{42}{(89.4)}$	$\frac{4}{(8.5)}$	$\frac{1}{(2.1)}$	$\frac{47}{(100)}$	$\frac{**}{2*\overline{2}}$	2	**
	中	$\frac{1}{(2.2)}$	$\frac{22}{(47.8)}$	$\frac{22}{(47.8)}$	$\frac{1}{(2.2)}$	$\frac{46}{(100)}$	—	—	
	高	$\frac{0}{—}$	$\frac{7}{—}$	$\frac{13}{—}$	$\frac{0}{—}$	$\frac{20}{—}$	—	—	
職	農	$\frac{1}{(2.0)}$	$\frac{41}{(83.7)}$	$\frac{6}{(12.2)}$	$\frac{1}{(2.0)}$	$\frac{49}{(100)}$	$\frac{**}{2*\overline{2}}$	2	**
	工	$\frac{0}{(0)}$	$\frac{15}{(62.5)}$	$\frac{8}{(33.3)}$	$\frac{1}{(4.2)}$	$\frac{24}{(100)}$	—	—	
	商	$\frac{0}{—}$	$\frac{4}{—}$	$\frac{6}{—}$	$\frac{0}{—}$	$\frac{10}{—}$	—	—	
	事	$\frac{0}{—}$	$\frac{4}{—}$	$\frac{14}{—}$	$\frac{0}{—}$	$\frac{18}{—}$	—	—	
	無	$\frac{0}{—}$	$\frac{7}{—}$	$\frac{5}{—}$	$\frac{0}{—}$	$\frac{12}{—}$	—	—	
役	有	$\frac{1}{(2.0)}$	$\frac{32}{(64.0)}$	$\frac{17}{(34.0)}$	$\frac{0}{(0)}$	$\frac{50}{(100)}$	$\frac{**}{2*\overline{2}}$	2	
	無	$\frac{0}{(0)}$	$\frac{39}{(61.9)}$	$\frac{22}{(34.9)}$	$\frac{2}{(3.2)}$	$\frac{63}{(100)}$	$\frac{**}{(2*3)}$	(2)	

第21図 3.39 下 (茂)

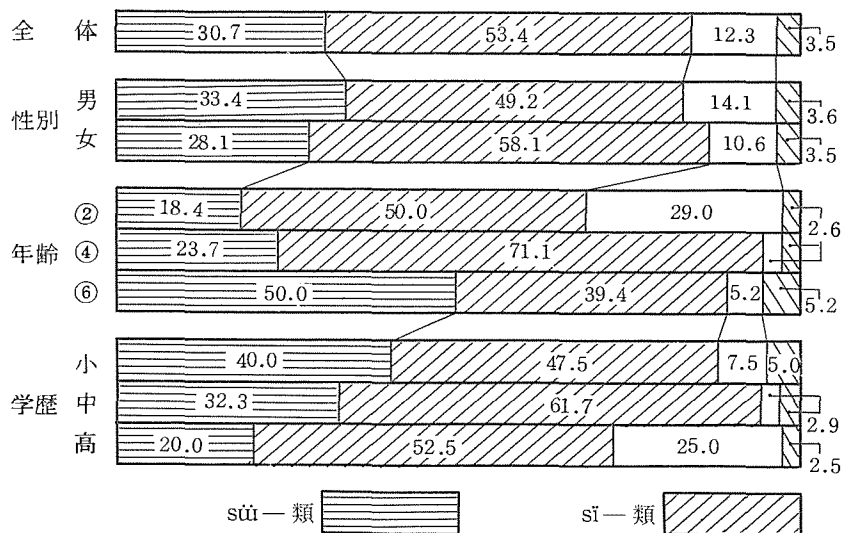


第34表 3.40 手術 (保)

1. sũ~dzũdzũ 類 2. sũ~dzũtsũ 類 3. sũdzĩtsũ 類 4. sĩdzũdzũ 類 5. sĩdzũtsũ 類 6. sĩdzĩdzũ 類

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	N.R	計	有意水準	傾向	連合 關係
全 体		30 (26.3)	4 (3.5)	1 (0.9)	25 (21.9)	4 (3.5)	8 (7.0)	20 (17.5)	4 (3.5)	7 (6.1)	2 (1.8)	5 (4.4)	3 (2.6)	1 (0.9)	114 (100)	**		
性 別	男	18 (31.6)	0 (0)	1 (1.8)	13 (22.8)	1 (1.8)	7 (12.3)	6 (10.5)	1 (1.8)	4 (7.0)	1 (1.8)	3 (5.3)	1 (1.8)	1 (1.8)	57 (100)			
	女	12 (21.1)	4 (7.0)	0 (0)	12 (21.1)	3 (5.3)	1 (1.8)	14 (24.6)	3 (5.3)	3 (5.3)	1 (1.8)	2 (3.5)	2 (3.5)	0 (0)	57 (100)			
年 齡	②	3 (7.9)	3 (7.9)	2 (2.6)	4 (10.5)	2 (5.3)	0 (0)	11 (28.7)	5 (5.3)	5 (13.2)	1 (2.6)	5 (13.2)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)			
	④	8 (21.1)	1 (2.6)	0 (0)	14 (36.8)	1 (2.6)	5 (13.2)	5 (13.2)	2 (5.3)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)			
	⑥	19 (50.0)	0 (0)	0 (0)	7 (18.4)	1 (2.6)	3 (7.9)	4 (10.5)	0 (0)	2 (5.3)	1 (2.6)	0 (0)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)	** (1*4)	(1)	
学 歴	小	15 (37.5)	1 (2.5)	0 (0)	10 (25.0)	1 (2.5)	2 (5.0)	6 (15.0)	0 (0)	2 (5.0)	1 (2.5)	0 (0)	1 (2.5)	1 (2.5)	40 (100)			
	中	10 (29.4)	1 (2.9)	0 (0)	12 (35.3)	1 (2.9)	2 (5.9)	5 (14.7)	1 (2.9)	1 (2.9)	0 (0)	0 (0)	1 (2.9)	0 (0)	34 (100)			
	高	5 (12.5)	2 (5.0)	1 (2.5)	3 (7.5)	2 (5.0)	4 (10.0)	9 (22.5)	3 (7.5)	4 (10.0)	1 (2.5)	5 (12.5)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)			
職 業	農	26 (31.7)	1 (1.2)	1 (1.2)	23 (28.0)	2 (2.4)	8 (9.8)	10 (12.2)	2 (2.4)	5 (6.1)	1 (1.2)	0 (0)	2 (2.4)	1 (1.2)	82 (100)	**		
	工	0 —	1 —	0 —	2 —	0 —	0 —	2 —	2 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	1 —	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	2 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	3 —	2 —	0 —	0 —	1 —	0 —	3 —	0 —	2 —	1 —	5 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	17 (27.9)	2 (3.3)	0 (0)	16 (26.2)	2 (3.3)	5 (8.2)	9 (14.8)	0 (0)	5 (8.2)	0 (0)	2 (3.3)	2 (3.3)	1 (1.6)	61 (100)			
	無	13 (24.5)	2 (3.8)	1 (1.9)	9 (17.0)	2 (3.8)	3 (5.7)	11 (20.8)	4 (7.5)	2 (3.8)	2 (3.8)	3 (5.7)	1 (1.9)	0 (0)	53 (100)			

第22図 3.40 手術 (保)

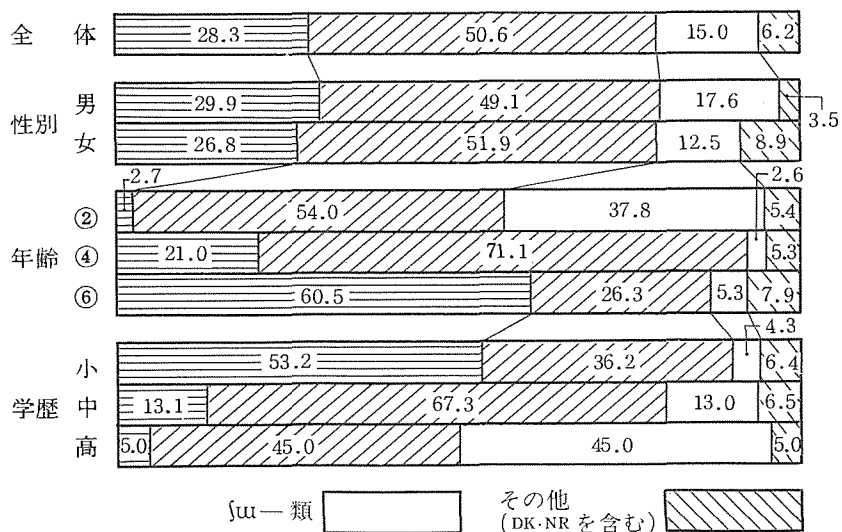


第35表 3.40 手術（茂）

7. řdzřtsř 類 8. řdzřřtsř 類 9. řřdzřřdzřř 類 10. řřdzřřtsř 類 11. řřdzřřtsř 類 12. その他

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	N-R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	25 (22.1)	5 (4.4)	2 (1.8)	29 (25.7)	9 (8.0)	1 (0.9)	16 (14.2)	2 (1.8)	5 (4.4)	2 (1.8)	10 (8.8)	6 (5.3)	1 (0.9)	113 (100)	**		
性	男	14 (24.6)	2 (3.5)	1 (1.8)	19 (33.3)	2 (3.5)	0 (0)	7 (12.3)	0 (0)	3 (5.3)	1 (1.8)	6 (10.5)	2 (3.5)	0 (0)	57 (100)			
別	女	11 (19.6)	3 (5.4)	1 (1.8)	10 (17.9)	7 (12.5)	1 (1.8)	9 (16.1)	2 (3.6)	2 (3.6)	1 (1.8)	4 (7.1)	4 (7.1)	1 (1.8)	56 (100)			
年	②	0 (0)	0 (0)	1 (2.7)	3 (8.1)	2 (5.4)	0 (0)	13 (35.1)	2 (5.4)	2 (5.4)	2 (5.4)	10 (27.0)	2 (5.4)	0 (0)	37 (100)			
齢	④	6 (15.8)	1 (2.6)	2 (2.6)	18 (47.4)	6 (15.8)	1 (2.6)	2 (5.3)	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)	** (4*1,5)	(4)	
	⑥	19 (50.0)	4 (10.5)	0 (0)	8 (21.1)	2 (6.2)	0 (0)	2 (6.2)	0 (0)	2 (5.3)	0 (0)	0 (0)	2 (5.3)	2 (6.2)	38 (100)	** (1*4)	(1)	
学	小	20 (42.6)	4 (8.5)	1 (2.1)	12 (25.5)	3 (6.4)	0 (0)	2 (4.3)	0 (0)	2 (4.3)	0 (0)	0 (0)	2 (4.3)	1 (2.1)	47 (100)	**		
歴	中	4 (8.7)	1 (2.2)	2 (2.2)	12 (26.1)	6 (13.0)	0 (0)	11 (23.9)	2 (4.3)	2 (4.3)	1 (2.2)	3 (6.5)	3 (6.5)	0 (0)	46 (100)			
	高	1 (2.1)	0 (0)	0 (0)	5 (10.6)	0 (0)	1 (2.1)	3 (6.1)	0 (0)	1 (2.1)	1 (2.1)	7 (14.3)	1 (2.1)	0 (0)	20 (100)	—	—	
職	農	18 (36.7)	3 (6.1)	0 (0)	17 (34.7)	3 (6.1)	0 (0)	3 (6.1)	0 (0)	1 (2.0)	0 (0)	1 (2.0)	2 (4.1)	1 (2.0)	49 (100)			
業	工	2 (8.3)	0 (0)	2 (8.3)	8 (33.3)	3 (12.5)	0 (0)	6 (25.0)	1 (4.2)	0 (0)	1 (4.2)	0 (0)	1 (4.2)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	1 (2.1)	0 (0)	0 (0)	2 (4.2)	2 (4.2)	0 (0)	2 (4.2)	1 (2.1)	0 (0)	0 (0)	1 (2.1)	1 (2.1)	0 (0)	10 (100)	—	—	
	事	1 (2.1)	0 (0)	0 (0)	1 (2.1)	0 (0)	0 (0)	3 (6.1)	0 (0)	2 (4.2)	1 (2.1)	8 (16.0)	2 (4.2)	0 (0)	18 (100)	—	—	
	無	3 (6.1)	2 (4.2)	0 (0)	1 (2.1)	1 (2.1)	1 (2.1)	2 (4.2)	0 (0)	2 (4.2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (100)	—	—	
役	有	14 (28.0)	3 (6.0)	2 (4.0)	15 (30.0)	1 (2.0)	1 (2.0)	4 (8.0)	0 (0)	2 (4.0)	0 (0)	5 (10.0)	3 (6.0)	0 (0)	50 (100)			
員	無	11 (17.5)	2 (3.2)	0 (0)	14 (22.2)	8 (12.7)	0 (0)	12 (19.0)	2 (3.2)	3 (4.8)	2 (3.2)	5 (7.9)	3 (4.8)	1 (1.6)	63 (100)			

第23図 3.40 手術（茂）

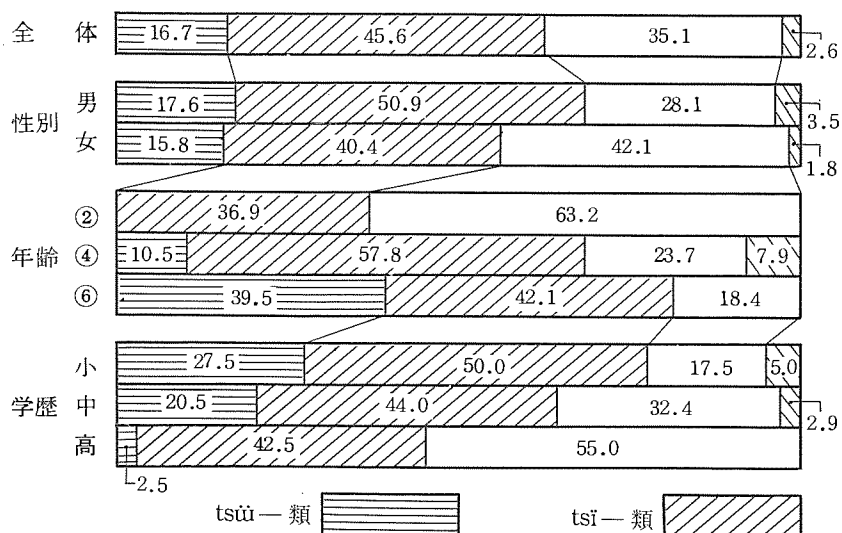


第36表 3.29 地図 (保)

1. tsü~dzü 類 2. tsüdzü 類 3. tsĩ~dzĩ 類 4. tsĩ~dzü 類 5. tsĩdzü 類

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合係
全 体		13 (11.4)	6 (5.3)	4 (3.5)	29 (25.4)	19 (16.7)	40 (35.1)	3 (2.6)	0 (0)	114 (100)	**		
性 別	男	7 (12.3)	3 (5.3)	3 (5.3)	16 (28.1)	10 (17.5)	16 (28.1)	2 (3.5)	0 (0)	57 (100)	——	—	
	女	6 (10.5)	3 (5.3)	1 (1.8)	13 (22.8)	9 (15.8)	24 (42.1)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)	*		
年 齡	②	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (21.1)	6 (15.8)	24 (63.2)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** (6**4)	(6)	*
	④	4 (10.5)	0 (0)	1 (2.6)	14 (36.8)	7 (18.4)	9 (23.7)	3 (7.9)	0 (0)	38 (100)			
	⑥	9 (23.7)	6 (15.8)	3 (7.9)	7 (18.4)	6 (15.8)	7 (18.4)	0 (0)	0 (0)	38 (100)			
学 歴	小	6 (15.0)	5 (12.5)	2 (5.0)	12 (30.0)	6 (15.0)	7 (17.5)	2 (5.0)	0 (0)	40 (100)			
	中	6 (17.6)	1 (2.9)	1 (2.9)	6 (17.6)	8 (23.5)	11 (32.4)	1 (2.9)	0 (0)	34 (100)			
	高	1 (2.5)	0 (0)	1 (2.5)	11 (27.5)	5 (12.5)	22 (55.0)	0 (0)	0 (0)	40 (100)	*		
職 業	農	13 (15.9)	5 (6.1)	4 (4.9)	21 (25.6)	14 (17.1)	22 (26.8)	3 (3.7)	0 (0)	82 (100)			
	工	0 —	0 —	0 —	1 —	2 —	4 —	0 —	0 —	7 —	——	—	
	商	0 —	1 —	0 —	1 —	1 —	1 —	0 —	0 —	4 —	——	—	
	事	0 —	0 —	0 —	5 —	2 —	11 —	0 —	0 —	18 —	——	—	
	無	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	2 —	0 —	0 —	3 —	——	—	
役 員	有	8 (13.1)	4 (6.6)	2 (3.3)	22 (36.1)	9 (14.8)	15 (24.6)	1 (1.6)	0 (0)	61 (100)	*		
	無	5 (9.4)	2 (3.8)	2 (3.8)	7 (13.2)	10 (18.9)	25 (47.2)	2 (3.8)	0 (0)	53 (100)	** (6*5)	(6)	

第26図 3.29 地図 (保)

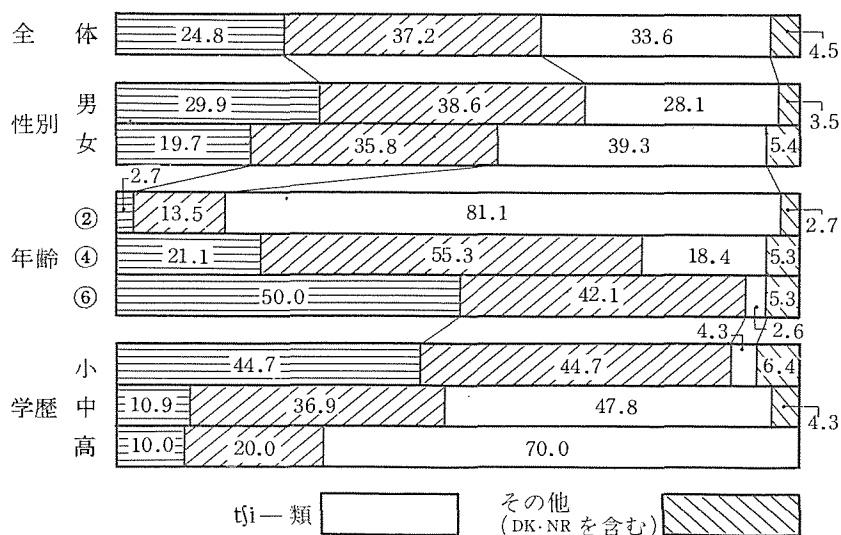


第37表 3.29 地図 (茂)

6. tjidzu 類 7. その他

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	20 (17.7)	8 (7.1)	3 (2.7)	22 (19.5)	17 (15.0)	38 (33.6)	3 (2.7)	2 (1.8)	113 (100)	** (6*4)	(6)	
性	男	12 (21.1)	5 (8.8)	2 (3.5)	13 (22.8)	7 (12.3)	16 (28.1)	2 (3.5)	0 (0)	57 (100)			
別	女	8 (14.3)	3 (5.4)	1 (1.8)	9 (16.1)	10 (17.9)	22 (39.3)	1 (1.8)	2 (3.6)	56 (100)	** (6*5)	(6)	
年	②	1 (2.7)	0 (0)	0 (0)	2 (5.4)	3 (8.1)	30 (81.1)	1 (2.7)	0 (0)	37 (100)	** 6**6	6	**
齢	④	5 (13.2)	3 (7.9)	3 (7.9)	8 (21.1)	10 (26.3)	7 (18.4)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)			
	⑥	14 (36.8)	5 (13.2)	0 (0)	12 (31.6)	4 (10.5)	1 (2.6)	0 (0)	2 (5.3)	38 (100)			
学	小	15 (31.9)	6 (12.8)	1 (2.1)	14 (29.8)	6 (12.8)	2 (4.3)	1 (2.1)	2 (4.3)	47 (100)			**
歴	中	4 (8.7)	1 (2.2)	2 (4.3)	6 (13.0)	9 (19.6)	22 (47.8)	2 (4.3)	0 (0)	46 (100)	** (6*5)	(6)	
	高	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
職	農	13 (26.5)	5 (10.2)	0 (0)	15 (30.6)	8 (16.3)	6 (12.2)	0 (0)	2 (4.1)	49 (100)			
業	工	3 (12.5)	1 (4.2)	1 (4.2)	3 (12.5)	5 (20.8)	9 (37.5)	2 (8.3)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	事	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	無	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
役	有	11 (22.0)	3 (6.0)	0 (0)	12 (24.0)	7 (14.0)	15 (30.0)	1 (2.0)	1 (2.0)	50 (100)			
員	無	9 (14.3)	5 (7.9)	3 (4.8)	10 (15.9)	10 (15.9)	23 (36.5)	2 (3.2)	1 (1.6)	63 (100)	** (6*4,5)	(6)	

第27図 3.29 地図 (茂)

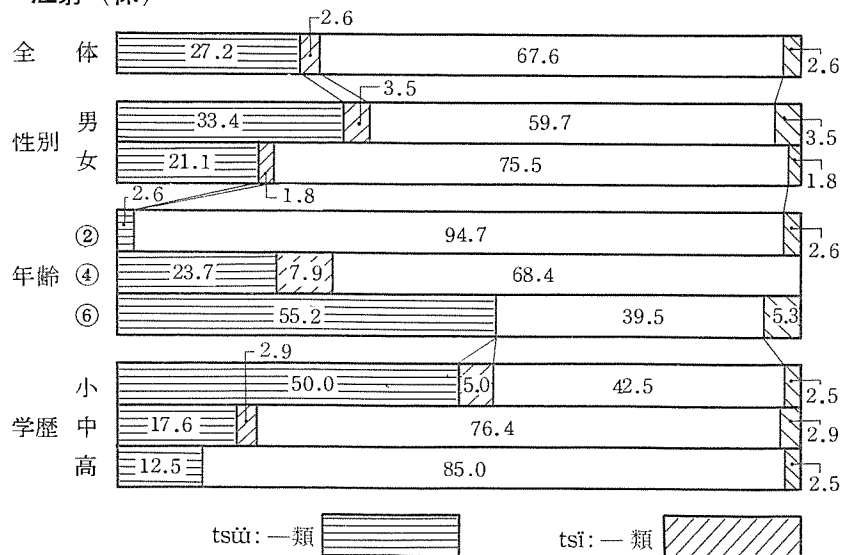


第38表 3.41 注射（保）

1. tsí:ja 類 2. tsü:sa 類 3. tsü:ja 類 4. tju:sa 類 5. tju:ja 類

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合 關係
全 体		3 (2.6)	4 (3.5)	27 (23.7)	2 (1.8)	75 (65.8)	3 (2.6)	0 (0)	114 (100)	** 5**5	5	
性 別	男	2 (3.5)	1 (1.8)	18 (31.6)	1 (1.8)	33 (57.9)	2 (3.5)	0 (0)	57 (100)	** (5*3)	(5)	
	女	1 (1.8)	3 (5.3)	9 (15.8)	1 (1.8)	42 (73.7)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)	** 5**5	5	
年 齡	②	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	1 (2.6)	35 (92.1)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** 5**5	5	**
	④	3 (7.9)	2 (5.3)	7 (18.4)	1 (2.6)	25 (65.8)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** (5**3)	(5)	
	⑥	0 (0)	1 (2.6)	20 (52.6)	0 (0)	15 (39.5)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)			
学 歴	小	2 (5.0)	2 (5.3)	18 (45.0)	0 (0)	17 (42.5)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)	*		*
	中	1 (2.9)	1 (2.9)	5 (14.7)	1 (2.9)	25 (73.5)	1 (2.9)	0 (0)	34 (100)	** 5**5	5	
	高	0 (0)	1 (2.5)	4 (10.0)	1 (2.5)	33 (82.5)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)	** 5**5	5	
職 業	農	3 (3.7)	3 (3.7)	25 (30.5)	1 (1.2)	48 (58.5)	2 (2.4)	0 (0)	82 (100)	** (5**3)	(5)	
	工	0 —	0 —	0 —	1 —	6 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	0 —	1 —	0 —	3 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	1 —	0 —	0 —	16 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	1 —	0 —	2 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	2 (3.3)	3 (4.9)	23 (37.7)	0 (0)	32 (52.5)	1 (1.6)	0 (0)	61 (100)	**		*
	無	1 (1.9)	1 (1.9)	4 (7.5)	2 (3.8)	43 (81.1)	2 (3.8)	0 (0)	53 (100)	** 5**5	5	

第28図 3.41 注射（保）

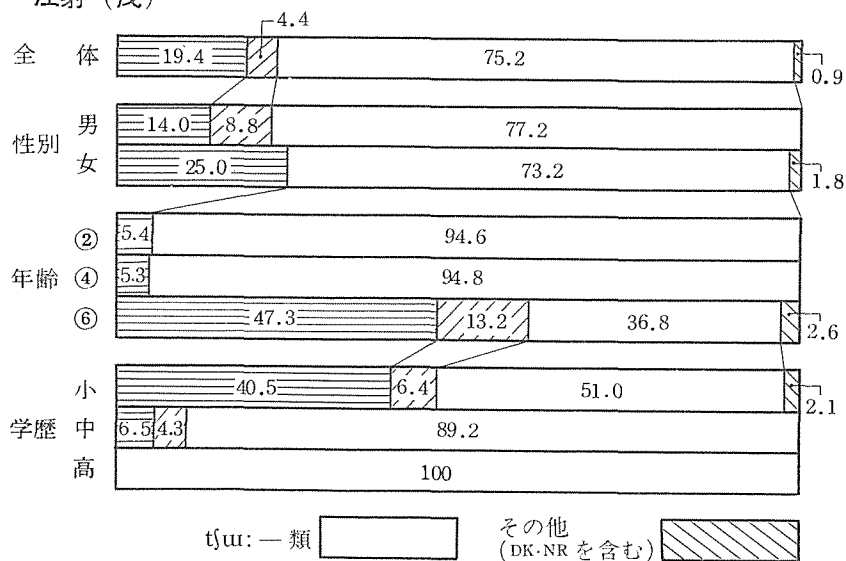


第39表 3.41 注射（茂）

6. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		5 (4.4)	4 (3.5)	18 (15.9)	6 (5.3)	79 (69.9)	1 (0.9)	113 (100)	** 5**5	5	
性 別	男	5 (8.8)	2 (3.5)	6 (10.5)	2 (3.5)	42 (73.7)	0 (0)	57 (100)	** 5**5	5	
	女	0 (0)	2 (3.6)	12 (21.4)	4 (7.1)	37 (66.1)	1 (1.8)	56 (100)	** 5*5	5	
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	2 (5.4)	0 (0)	35 (94.6)	0 (0)	37 (100)	** 5**5	5	
	④	0 (0)	0 (0)	2 (5.3)	2 (5.3)	34 (89.5)	0 (0)	38 (100)	** 5**5	5	**
	⑥	5 (13.2)	4 (10.5)	14 (36.8)	4 (10.5)	10 (26.3)	1 (2.6)	38 (100)			
学 歴	小	3 (6.4)	2 (4.3)	17 (36.2)	5 (10.6)	19 (40.4)	1 (2.1)	47 (100)			
	中	2 (4.3)	2 (4.3)	1 (2.2)	1 (2.2)	40 (87.0)	0 (0)	46 (100)	** 5**5	5	—
	高	0 —	0 —	0 —	0 —	20 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	5 (10.2)	3 (6.1)	12 (24.5)	3 (6.1)	25 (51.0)	1 (2.0)	49 (100)	** (5*3)	(5)	
	工	0 (0)	0 (0)	1 (4.2)	1 (4.2)	22 (91.7)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	0 —	0 —	0 —	10 —	0 —	10 —	—	—	**
	事	0 —	0 —	2 —	1 —	15 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	1 —	3 —	1 —	7 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	5 (10.0)	1 (2.0)	7 (14.0)	3 (6.0)	34 (68.0)	0 (0)	50 (100)	** 5*5	5	
	無	0 (0)	3 (4.8)	11 (17.5)	3 (4.8)	45 (71.4)	1 (1.6)	63 (100)	** 5**5	5	

第29図 3.41 注射（茂）

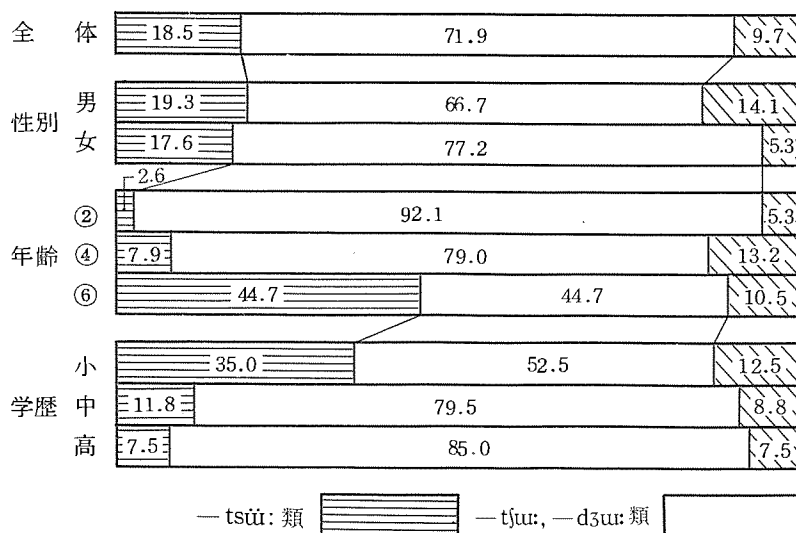


第40表 3.21 焼酎 (保)

1. so:tsü: 類 2. so:d3ü: 類 3. so:tjü: 類 4. jo:tsü: 類 5. jo:d3ü: 類

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全	体	6 (5.3)	2 (1.8)	7 (6.1)	15 (13.2)	9 (7.9)	64 (56.1)	6 (5.3)	5 (4.4)	114 (100)	** (6**4)	(6)	
性 別	男	3 (5.3)	2 (3.5)	1 (1.8)	8 (14.0)	4 (7.0)	31 (54.4)	5 (8.8)	3 (5.3)	57 (100)	** (6**4)	(6)	
	女	3 (5.3)	0 (0)	6 (10.5)	7 (12.3)	5 (8.8)	33 (57.9)	1 (1.8)	2 (3.5)	57 (100)	** (6**4)	(6)	
年 齡	②	1 (2.6)	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	34 (89.5)	0 (0)	2 (5.3)	38 (100)	** 6**6	6	**
	④	1 (2.6)	1 (2.6)	5 (13.2)	2 (5.3)	3 (7.9)	21 (55.3)	3 (7.9)	2 (5.3)	38 (100)	** (6**3)	(6)	
	⑥	4 (10.5)	1 (2.6)	1 (2.6)	13 (34.2)	6 (15.8)	9 (23.7)	3 (7.9)	1 (2.6)	38 (100)			
学 歴	小	5 (12.5)	2 (5.0)	3 (7.5)	9 (22.5)	4 (10.0)	12 (30.0)	2 (5.0)	3 (7.5)	40 (100)			*
	中	0 (0)	0 (0)	2 (5.9)	4 (11.8)	4 (11.8)	21 (61.8)	3 (8.8)	0 (0)	34 (100)	** (6**4,5)	(6)	
	高	1 (2.5)	0 (0)	2 (5.0)	2 (5.0)	1 (2.5)	31 (77.5)	1 (2.5)	2 (5.0)	40 (100)	** 6**6	6	
職 業	農	5 (6.1)	2 (2.4)	5 (6.1)	14 (17.1)	9 (11.0)	37 (45.2)	6 (7.3)	4 (4.9)	82 (100)	** (6**4)	(6)	**
	工	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	7 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	0 —	2 —	0 —	0 —	2 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	16 —	0 —	1 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	2 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	4 (6.6)	1 (1.6)	5 (8.2)	11 (18.0)	5 (8.2)	28 (45.9)	4 (6.6)	3 (4.9)	61 (100)	** (6**4)	(6)	
	無	2 (3.8)	1 (1.9)	2 (3.8)	4 (7.5)	4 (7.5)	36 (67.9)	2 (3.8)	2 (3.8)	53 (100)	** 6**6	6	

第30図 3.21 焼酎 (保)

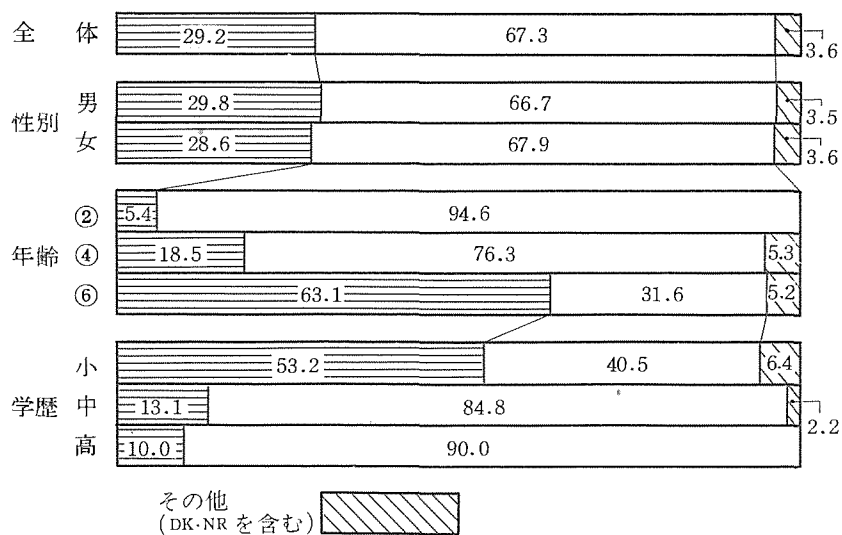


第41表 3.21 焼酎（茂）

6. 50:5w:類 7. その他

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	26 (23.0)	2 (1.8)	1 (0.9)	7 (6.2)	5 (4.4)	68 (60.2)	3 (2.7)	1 (0.9)	113 (100)	** 6*6	6	
性	男	13 (22.8)	1 (1.8)	1 (1.8)	4 (7.0)	4 (7.0)	32 (56.1)	2 (3.5)	0 (0)	57 (100)	** (6**1)	(6)	
別	女	13 (23.2)	1 (1.8)	0 (0)	3 (5.4)	1 (1.8)	36 (64.3)	1 (1.8)	1 (1.8)	56 (100)	** 6*6	6	
年	②	1 (2.7)	0 (0)	0 (0)	1 (2.7)	2 (5.4)	33 (89.2)	0 (0)	0 (0)	37 (100)	** 6**6	6	
齢	④	2 (5.3)	0 (0)	1 (2.6)	5 (13.2)	0 (0)	28 (73.7)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)	** 6**6	6	**
	⑥	23 (60.5)	2 (5.3)	0 (0)	1 (2.6)	3 (7.9)	7 (18.4)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)	** (1**6)	(1)	
学	小	21 (44.7)	2 (4.3)	0 (0)	4 (8.5)	3 (6.4)	14 (29.8)	2 (4.3)	1 (2.1)	47 (100)	**		
歴	中	5 (10.9)	0 (0)	1 (2.2)	1 (2.2)	1 (2.2)	37 (80.4)	1 (2.2)	0 (0)	46 (100)	** 6**6	6	**
	高	0 —	0 —	0 —	2 —	1 —	17 —	0 —	0 —	20 —	—	—	
職	農	19 (38.8)	2 (4.1)	0 (0)	2 (4.1)	3 (6.1)	21 (42.9)	1 (2.0)	1 (2.0)	49 (100)			
業	工	2 (8.3)	0 (0)	0 (0)	2 (8.3)	1 (4.2)	18 (75.0)	1 (4.2)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	9 —	1 —	0 —	10 —	—	—	
	事	1 —	0 —	0 —	3 —	1 —	13 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	4 —	0 —	1 —	0 —	0 —	7 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役	有	14 (28.0)	1 (2.0)	0 (0)	3 (6.0)	3 (6.0)	28 (56.0)	1 (2.0)	0 (0)	50 (100)	** (6*1)	(6)	
員	無	12 (19.0)	1 (1.6)	1 (1.6)	4 (6.3)	2 (3.2)	40 (63.5)	2 (3.2)	1 (1.6)	63 (100)	** 6*6	6	

第31図 3.21 焼酎（茂）

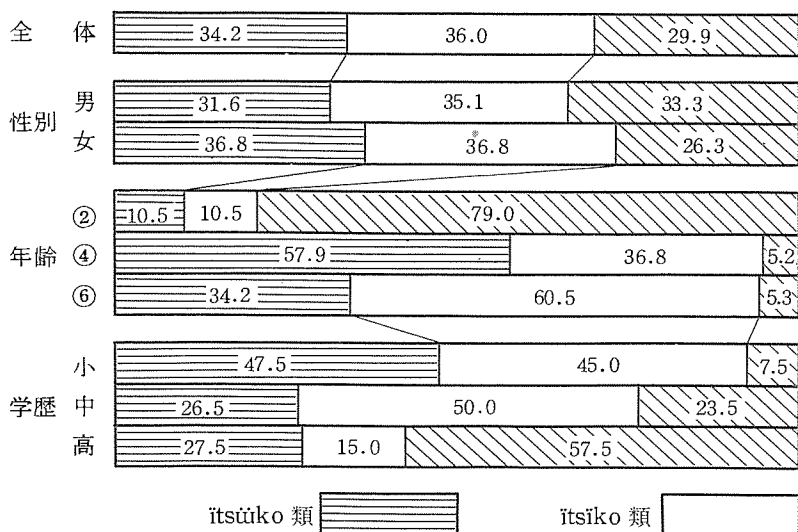


第42表 1.21(1) 赤児籠(保)

1. itsiko 類 2. itsüko 類 3. tsütsüko 類 4. しらない

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		39 (34.2)	41 (36.0)	6 (5.3)	16 (14.0)	2 (1.8)	10 (8.8)	114 (100)	**		
性 別	男	18 (31.6)	20 (35.1)	4 (7.0)	10 (17.5)	0 (0)	5 (8.8)	57 (100)			
	女	21 (36.8)	21 (36.8)	2 (3.5)	6 (10.5)	2 (3.5)	5 (8.8)	57 (100)	——	—	
年 齢	②	4 (10.5)	4 (10.5)	5 (13.2)	16 (42.1)	0 (0)	9 (23.7)	38 (100)			
	④	22 (57.9)	14 (36.8)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)			**
	⑥	13 (34.2)	23 (60.5)	0 (0)	0 (0)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)			
学 歴	小	19 (47.5)	18 (45.0)	0 (0)	0 (0)	2 (5.0)	1 (2.5)	40 (100)	**		
	中	9 (26.5)	17 (50.0)	3 (8.8)	4 (11.8)	0 (0)	1 (2.9)	34 (100)			**
	高	11 (27.5)	6 (15.0)	3 (7.5)	12 (30.0)	0 (0)	8 (20.0)	40 (100)			
職 業	農	35 (42.7)	37 (45.1)	3 (3.7)	3 (3.7)	2 (2.4)	2 (2.4)	82 (100)	**		
	工	0 (—)	0 (—)	1 (—)	5 (—)	0 (—)	1 (—)	7 (—)	——	—	
	商	1 (—)	2 (—)	0 (—)	1 (—)	0 (—)	0 (—)	4 (—)	——	—	**
	事	0 (—)	2 (—)	2 (—)	7 (—)	0 (—)	7 (—)	18 (—)	——	—	
	無	3 (—)	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0 (—)	3 (—)	——	—	
役 員	有	24 (39.3)	25 (41.0)	4 (6.6)	2 (3.3)	1 (1.6)	5 (8.2)	61 (100)	**		
	無	15 (28.3)	16 (30.2)	2 (3.8)	14 (26.4)	1 (1.9)	5 (9.4)	53 (100)			

第32図 1.21 赤児籠(保)

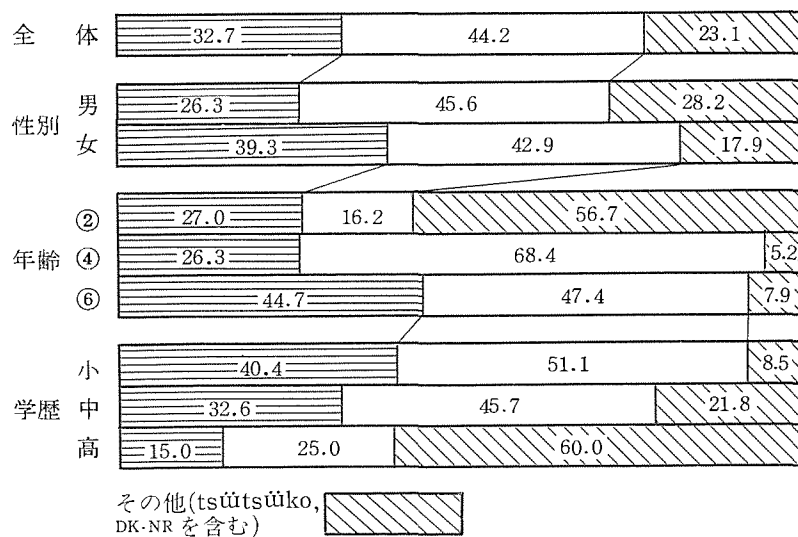


第43表 1.21(1) 赤児籠(茂)

5. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		37 (32.7)	50 (44.2)	2 (1.8)	12 (10.6)	3 (2.7)	9 (8.0)	113 (100)	**		
性 別	男	15 (26.3)	26 (45.6)	1 (1.8)	9 (15.8)	1 (1.8)	5 (8.8)	57 (100)	**		
	女	22 (39.3)	24 (42.9)	1 (1.8)	3 (5.4)	2 (3.6)	4 (7.1)	56 (100)	*		
年 齢	②	10 (27.0)	6 (16.2)	0 (0)	12 (32.4)	0 (0)	9 (24.3)	37 (100)			
	④	10 (26.3)	26 (68.4)	1 (2.6)	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** 2*2	2	**
	⑥	17 (44.7)	18 (47.4)	1 (2.6)	0 (0)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)	**		
学 歴	小	19 (40.4)	24 (51.1)	1 (2.1)	0 (0)	3 (6.4)	0 (0)	47 (100)	**		
	中	15 (32.6)	21 (45.7)	1 (2.2)	5 (10.9)	0 (0)	4 (8.7)	46 (100)			
	高	3 —	5 —	0 —	7 —	0 —	5 —	20 —	—	—	
職 業	農	19 (38.8)	26 (53.1)	0 (0)	1 (2.0)	3 (6.1)	0 (0)	49 (100)	**		
	工	7 (29.2)	12 (50.0)	1 (4.2)	2 (8.3)	0 (0)	2 (8.3)	24 (100)	—	—	
	商	2 —	4 —	0 —	4 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	3 —	3 —	0 —	5 —	0 —	7 —	18 —	—	—	
	無	6 —	5 —	1 —	0 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	19 (38.0)	22 (44.0)	0 (0)	3 (6.0)	2 (4.0)	4 (8.0)	50 (100)			
	無	18 (28.6)	28 (44.4)	2 (3.2)	9 (14.3)	1 (1.6)	5 (7.9)	63 (100)	**		

第33図 1.21 赤児籠(茂)

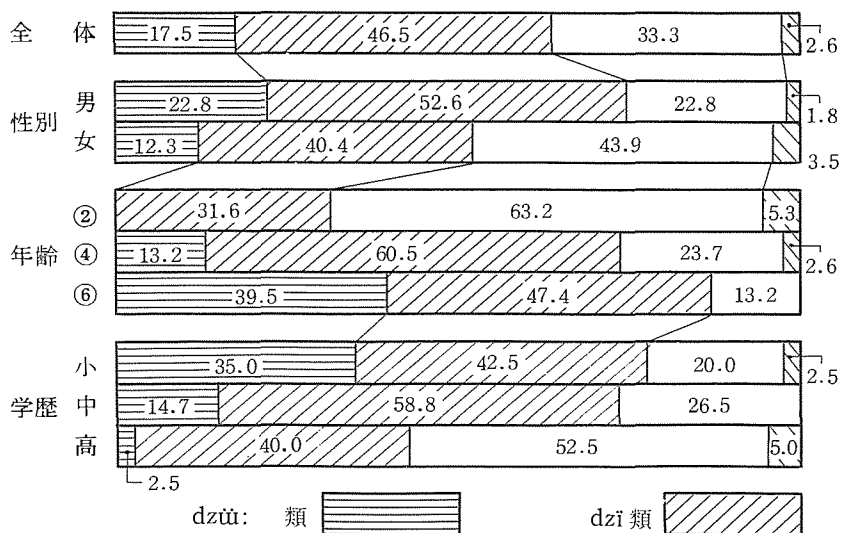


第44表 3.28 字 (保)

1. dzü 類 2. dzī 類 3. dži 類 4. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	20 (17.5)	53 (46.5)	38 (33.3)	3 (2.6)	0 (0)	114 (100)	**		
性 別	男	13 (22.8)	30 (52.6)	13 (22.8)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)	** (2**1,3)	(2)	
	女	7 (12.3)	23 (40.4)	25 (43.9)	2 (3.5)	0 (0)	57 (100)	*		
年 齢	②	0 (0)	12 (31.6)	24 (63.2)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)	** (3*2)	(3)	
	④	5 (13.2)	23 (60.5)	9 (23.7)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** (2*3)	(2)	
	⑥	15 (39.5)	18 (47.4)	5 (13.2)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	*		
学 歴	小	14 (35.0)	17 (42.5)	8 (20.0)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)			
	中	5 (14.7)	20 (58.8)	9 (26.5)	0 (0)	0 (0)	34 (100)	** (2*3)	(2)	
	高	1 (2.5)	16 (40.0)	21 (52.5)	2 (5.0)	0 (0)	40 (100)			
職 業	農	19 (23.2)	42 (51.2)	20 (24.4)	1 (1.2)	0 (0)	82 (100)	** (2**3)	(2)	
	工	0 —	3 —	4 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	1 —	1 —	1 —	1 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	6 —	11 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	1 —	2 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	15 (24.6)	32 (52.5)	13 (21.3)	1 (1.6)	0 (0)	61 (100)	** (2*1)	(2)	
	無	5 (9.4)	21 (39.6)	25 (47.2)	2 (3.8)	0 (0)	53 (100)	**		

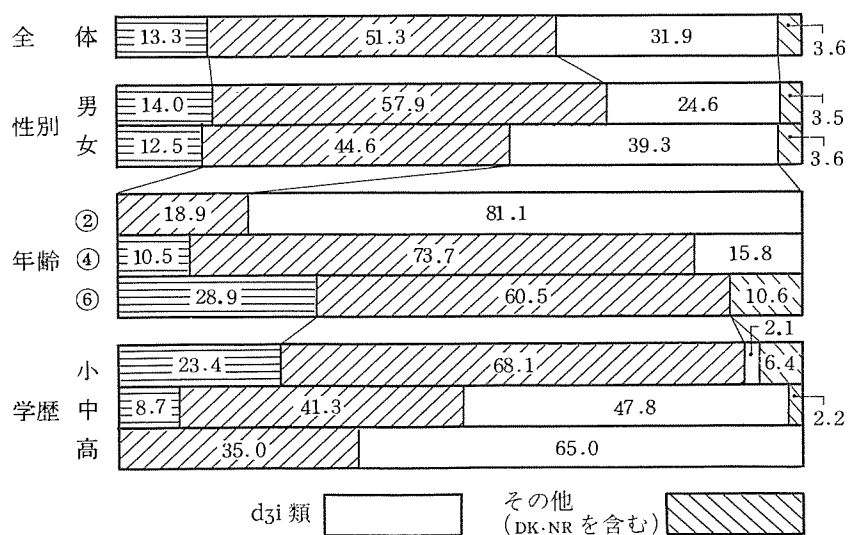
第36図 3.28 字 (保)



第45表 3.28 字 (茂)

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全	体	15 (13.3)	58 (51.3)	36 (31.9)	2 (1.8)	2 (1.8)	113 (100)	** (2*3)	(2)	
性 別	男	8 (14.0)	33 (57.9)	14 (24.6)	2 (3.5)	0 (0)	57 (100)	** (2**3)	(2)	
	女	7 (12.5)	25 (44.6)	22 (39.3)	0 (0)	2 (3.6)	56 (100)	*		
年 齢	②	0 (0)	7 (18.9)	30 (81.1)	0 (0)	0 (0)	37 (100)	** 3**3	3	**
	④	4 (10.5)	28 (73.7)	6 (15.8)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 2**2	2	
	⑥	11 (28.9)	23 (60.5)	0 (0)	2 (5.3)	2 (5.3)	38 (100)	** (2*1)	(2)	
学 歴	小	11 (23.4)	32 (68.1)	1 (2.1)	1 (2.1)	2 (4.3)	47 (100)	** 2*2	2	
	中	4 (8.7)	19 (41.3)	22 (47.8)	1 (2.2)	0 (0)	46 (100)	**		
	高	0 —	7 —	13 —	0 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	11 (22.4)	32 (65.3)	4 (8.2)	1 (2.0)	1 (2.0)	49 (100)	** 2*2	2	
	工	3 (12.5)	12 (50.0)	9 (37.5)	0 (0)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	4 —	6 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	0 —	4 —	14 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	1 —	6 —	3 —	1 —	1 —	12 —	—	—	
役 員	有	8 (16.0)	26 (52.0)	13 (26.0)	2 (4.0)	1 (2.0)	50 (100)	** (2*3)	(2)	
	無	7 (11.1)	32 (50.8)	23 (36.5)	0 (0)	1 (1.6)	63 (100)	**		

第37図 3.28 字 (茂)

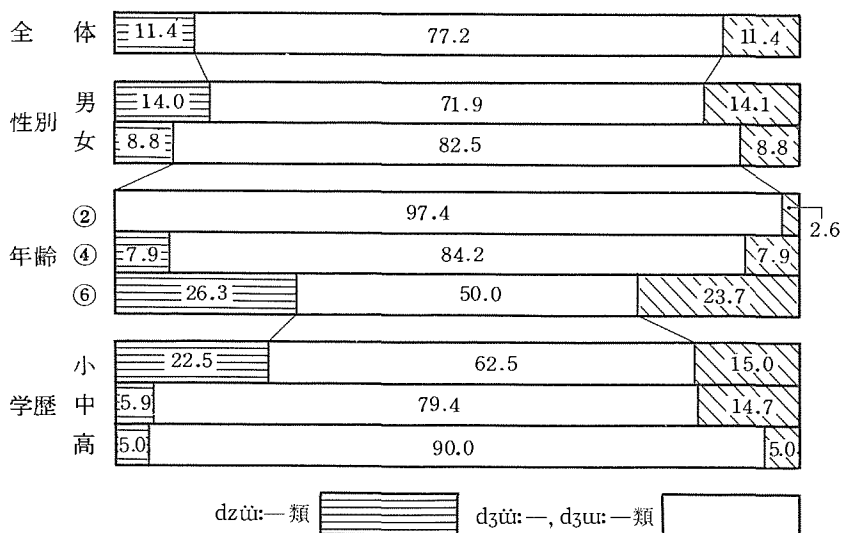


第46表 3.18 重箱 (保)

1. dzü:bago 類 2. dzü:bago 類 3. dzu:bako 類

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合係
全 体		13 (11.4)	42 (36.8)	46 (40.4)	6 (5.3)	7 (6.1)	114 (100)	**		
性 別	男	8 (14.0)	22 (38.6)	19 (33.3)	3 (5.3)	5 (8.8)	57 (100)	*		
	女	5 (8.8)	20 (35.1)	27 (47.4)	3 (5.3)	2 (3.5)	57 (100)	*		
年 齢	②	0 (0)	8 (21.1)	29 (76.3)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)	** 3**3	3	**
	④	3 (7.9)	20 (52.6)	12 (31.6)	1 (2.6)	2 (5.3)	38 (100)	*		
	⑥	10 (26.3)	14 (36.8)	5 (13.2)	5 (13.2)	4 (10.5)	38 (100)			
学 歴	小	9 (22.5)	18 (45.0)	7 (17.5)	2 (5.0)	4 (10.0)	40 (100)			
	中	2 (5.9)	12 (35.3)	15 (44.1)	4 (11.8)	1 (2.9)	34 (100)	**		
	高	2 (5.0)	12 (30.0)	24 (60.0)	0 (0)	2 (5.0)	40 (100)	** (3*2)	(3)	
職 業	農	12 (14.6)	34 (41.5)	25 (30.5)	6 (7.3)	5 (6.1)	82 (100)	**		
	工	0	2	5	0	0	7	—	—	
	商	1	1	2	0	0	4	—	—	
	事	0	5	12	0	1	18	—	—	
	無	0	0	2	0	1	3	—	—	
役 員	有	10 (16.4)	26 (42.6)	18 (29.5)	4 (6.6)	3 (4.9)	61 (100)	**		
	無	3 (5.7)	16 (30.2)	28 (52.8)	2 (3.8)	4 (7.5)	53 (100)	**		

第38図 3.18 重箱 (保)

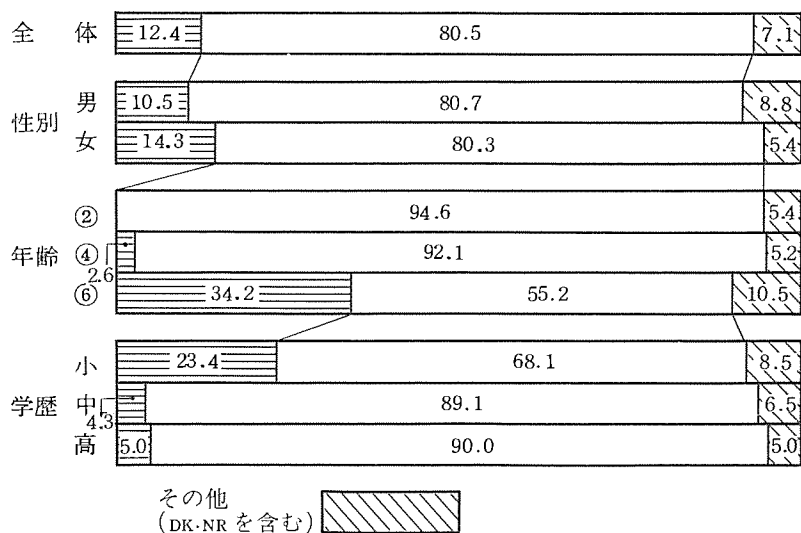


第47表 3.18 重箱（茂）

4. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		14 (12.4)	34 (30.1)	57 (50.4)	2 (1.8)	6 (5.3)	113 (100)	** (3*2)	(3)	
性 別	男	6 (10.5)	15 (26.3)	31 (54.4)	1 (1.8)	4 (7.0)	57 (100)	** (3*2)	(3)	
	女	8 (14.3)	19 (33.9)	26 (46.4)	1 (1.8)	2 (3.6)	56 (100)	*		
年 齢	②	0 (0)	4 (10.8)	31 (83.8)	0 (0)	2 (5.4)	37 (100)	** 3**3	3	
	④	1 (2.6)	16 (42.1)	19 (50.0)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)	**		**
	⑥	13 (34.2)	14 (36.8)	7 (18.4)	1 (2.6)	3 (7.9)	38 (100)			
学 歴	小	11 (23.4)	21 (44.7)	11 (23.4)	1 (2.1)	3 (6.4)	47 (100)	**		
	中	2 (4.3)	12 (26.1)	29 (63.0)	1 (2.2)	2 (4.3)	46 (100)	** (3**2)	(3)	**
	高	1 —	1 —	17 —	0 —	1 —	20 —	—	—	
職 業	農	10 (20.4)	22 (44.9)	13 (26.5)	1 (2.0)	3 (6.1)	49 (100)			
	工	2 (8.3)	3 (12.5)	17 (70.8)	0 (0)	2 (8.3)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	1 —	9 —	0 —	0 —	10 —	—	—	**
	事	0 —	3 —	13 —	1 —	1 —	18 —	—	—	
	無	2 —	5 —	5 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	7 (14.0)	13 (26.0)	24 (48.0)	2 (4.0)	4 (8.0)	50 (100)	**		
	無	7 (11.1)	21 (33.3)	33 (52.4)	0 (0)	2 (3.2)	63 (100)	**		

第39図 3.18 重箱（茂）

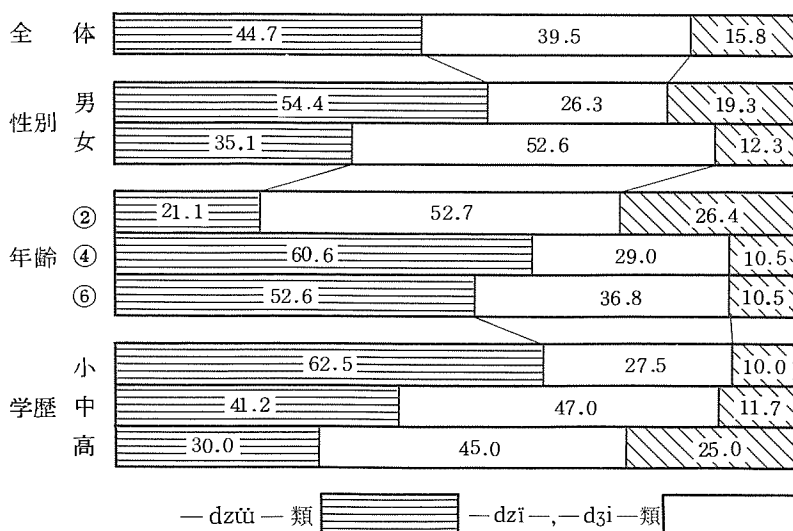


第48表 3.20 すじこ (保)

1. sĭdzĭko 類 2. sĭdzũgo 類 3. sĭdzũko 類 4. sũ~dzũgo 類 5. sũdzũko 類

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		6 (5.3)	0 (0)	6 (5.3)	20 (17.5)	25 (21.9)	7 (6.1)	17 (14.9)	15 (13.2)	6 (5.3)	12 (10.5)	114 (100)	**		
性 別	男	2 (3.5)	0 (0)	1 (1.8)	13 (22.8)	17 (29.8)	5 (8.8)	4 (7.0)	4 (7.0)	4 (7.0)	7 (12.3)	57 (100)			
	女	4 (7.0)	0 (0)	5 (8.8)	7 (12.3)	8 (14.0)	2 (3.5)	13 (22.8)	11 (19.3)	2 (3.5)	5 (8.8)	57 (100)			
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	2 (5.3)	0 (0)	6 (15.8)	0 (0)	8 (21.1)	12 (31.6)	2 (5.3)	8 (21.1)	38 (100)			
	④	1 (2.6)	0 (0)	3 (7.9)	8 (21.1)	12 (31.6)	3 (7.9)	5 (13.2)	2 (5.3)	1 (2.6)	3 (7.9)	38 (100)			
	⑥	5 (13.2)	0 (0)	1 (2.6)	12 (31.6)	7 (18.4)	4 (10.5)	4 (10.5)	1 (2.6)	3 (7.9)	1 (2.6)	38 (100)			
学 歴	小	5 (12.5)	0 (0)	2 (5.0)	15 (37.5)	8 (20.0)	1 (2.5)	4 (10.0)	1 (2.5)	2 (5.0)	2 (5.0)	40 (100)			
	中	0 (0)	0 (0)	2 (5.9)	4 (11.8)	8 (23.5)	5 (14.7)	10 (29.4)	1 (2.9)	1 (2.9)	3 (8.8)	34 (100)			
	高	1 (2.5)	0 (0)	2 (5.0)	1 (2.5)	9 (22.5)	1 (2.5)	3 (7.5)	13 (32.5)	3 (7.5)	7 (17.5)	40 (100)			
職 業	農	6 (7.3)	0 (0)	4 (4.9)	19 (23.2)	20 (24.4)	7 (8.5)	12 (14.6)	4 (4.9)	5 (6.1)	5 (6.1)	82 (100)	*		
	工	0 —	0 —	1 —	0 —	1 —	0 —	2 —	2 —	0 —	1 —	7 —	—	—	
	商	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	0 —	2 —	1 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	0 —	1 —	0 —	2 —	0 —	1 —	7 —	1 —	6 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	0 —	0 —	2 —	0 —	0 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	4 (6.6)	0 (0)	3 (4.9)	11 (18.0)	16 (26.2)	6 (9.8)	6 (9.8)	5 (8.2)	4 (6.6)	6 (9.8)	61 (100)			
	無	2 (3.8)	0 (0)	3 (5.7)	9 (17.0)	9 (17.0)	1 (1.9)	11 (20.8)	10 (18.9)	2 (3.8)	6 (11.3)	53 (100)			

第42図 3.20 すじこ (保)

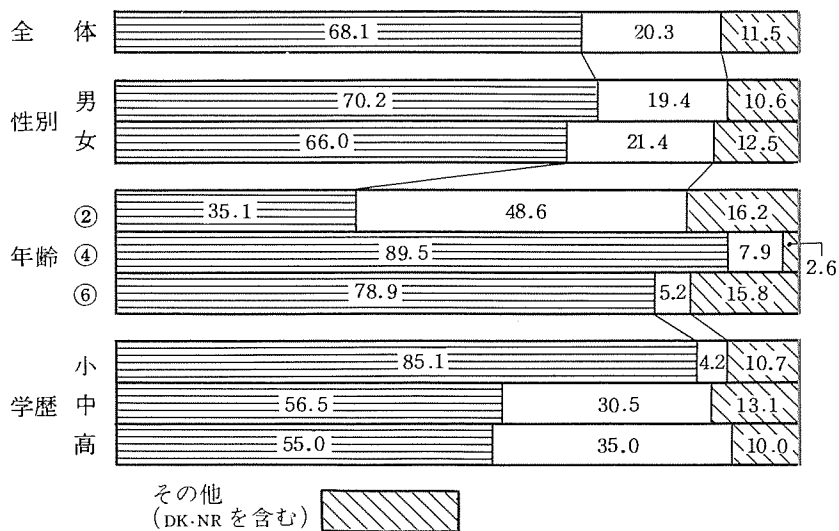


第49表 3.20 すじこ (茂)

6. südzigo 類 7. südziko 類 8. suudziko 類 9. その他

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		0 (0)	5 (4.4)	8 (7.1)	30 (26.5)	34 (30.1)	1 (0.9)	5 (4.4)	17 (15.0)	7 (6.2)	6 (5.3)	113 (100)	**		
性 別	男	0 (0)	1 (1.8)	4 (7.0)	14 (24.6)	21 (36.8)	1 (1.8)	1 (1.8)	9 (15.8)	5 (8.8)	1 (1.8)	57 (100)	*		
	女	0 (0)	4 (7.1)	4 (7.1)	16 (26.8)	13 (23.2)	0 (0)	4 (7.1)	8 (14.3)	2 (3.6)	5 (8.9)	56 (100)			
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	5 (13.5)	3 (8.1)	5 (13.5)	0 (0)	3 (8.1)	15 (40.5)	3 (8.1)	3 (8.1)	37 (100)	** (8*3,5)	(8)	*
	④	0 (0)	5 (13.2)	2 (5.3)	16 (42.1)	11 (28.9)	0 (0)	2 (5.3)	7 (2.6)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)			
	⑥	0 (0)	0 (0)	1 (2.6)	11 (28.9)	18 (47.4)	1 (2.6)	0 (0)	1 (2.6)	3 (7.9)	3 (7.9)	38 (100)			
学 歴	小	0 (0)	0 (0)	4 (8.5)	14 (29.8)	22 (46.8)	1 (2.1)	0 (0)	7 (2.1)	2 (4.3)	3 (6.4)	47 (100)			*
	中	0 (0)	5 (10.9)	2 (4.3)	11 (23.9)	8 (17.4)	0 (0)	5 (10.9)	9 (19.6)	5 (10.9)	1 (2.2)	46 (100)			
	高	0 —	0 —	2 —	5 —	4 —	0 —	0 —	7 —	0 —	2 —	20 —	—	—	
職 業	農	0 (0)	3 (6.1)	2 (4.1)	16 (32.7)	20 (40.8)	1 (2.0)	0 (0)	3 (6.1)	2 (4.1)	2 (4.1)	49 (100)	*		
	工	0 (0)	2 (8.3)	2 (8.3)	6 (25.0)	5 (20.8)	0 (0)	1 (4.2)	4 (16.7)	3 (12.5)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	0 —	1 —	3 —	1 —	0 —	1 —	4 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	0 —	0 —	2 —	4 —	2 —	0 —	2 —	5 —	1 —	2 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	1 —	1 —	6 —	0 —	1 —	1 —	1 —	1 —	12 —	—	—	
役 員	有	0 (0)	3 (6.0)	2 (4.0)	14 (28.0)	17 (34.0)	0 (0)	0 (0)	5 (10.0)	5 (10.0)	4 (8.0)	50 (100)			
	無	0 (0)	2 (3.2)	6 (9.5)	16 (25.4)	17 (27.0)	1 (1.6)	5 (7.9)	12 (19.0)	2 (3.2)	2 (3.2)	63 (100)			

第43図 3.20 すじこ (茂)

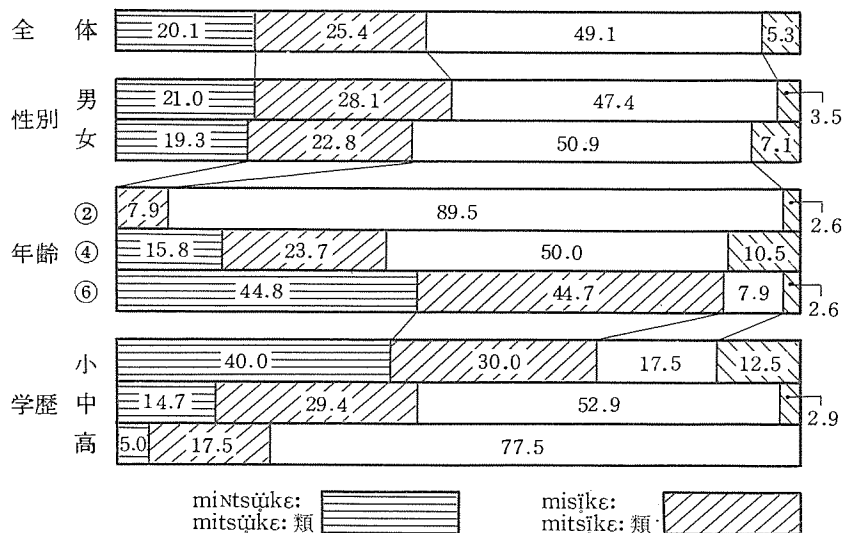


第50表 3.43 短い (保)

1. mintsūke: 類 2. mitsūke: 類 3. misūke: 類 4. mitsūke: 類

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	11 (9.6)	12 (10.5)	0 (0)	29 (25.4)	56 (49.1)	5 (4.4)	1 (0.9)	114 (100)	** (5**4)	(5)	
性	男	6 (10.5)	6 (10.5)	0 (0)	16 (28.1)	27 (47.4)	2 (3.5)	0 (0)	57 (100)	**		
別	女	5 (8.8)	6 (10.5)	0 (0)	13 (22.8)	29 (50.9)	3 (5.3)	1 (1.8)	57 (100)	** (5*4)	(5)	
年	②	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (7.9)	34 (89.5)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** 5**5	5	
齢	④	3 (7.9)	3 (7.9)	0 (0)	9 (23.7)	19 (50.0)	3 (7.9)	1 (2.6)	38 (100)			**
	⑥	8 (21.1)	9 (23.7)	0 (0)	17 (44.7)	3 (7.9)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)			
学	小	7 (17.5)	9 (22.5)	0 (0)	12 (30.0)	7 (17.5)	4 (10.0)	1 (2.5)	40 (100)			
歴	中	3 (8.8)	2 (5.9)	0 (0)	10 (29.4)	18 (52.9)	1 (2.9)	0 (0)	34 (100)			**
	高	1 (2.5)	1 (2.5)	0 (0)	7 (17.5)	31 (77.5)	0 (0)	0 (0)	40 (100)	** 5**5	5	
職	農	10 (2.5)	11 (13.4)	0 (0)	27 (32.9)	29 (35.4)	4 (4.9)	1 (1.2)	82 (100)	*		
業	工	0 —	0 —	0 —	0 —	6 —	1 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	1 —	0 —	0 —	3 —	0 —	0 —	4 —	—	—	**
	事	0 —	0 —	0 —	2 —	16 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	1 —	0 —	0 —	0 —	2 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役	有	8 (13.1)	10 (16.4)	0 (0)	16 (26.2)	22 (36.1)	4 (6.6)	1 (1.6)	61 (100)	*		*
員	無	3 (5.7)	2 (3.8)	0 (0)	13 (24.5)	34 (64.2)	1 (1.9)	0 (0)	53 (100)	** 5*5	5	

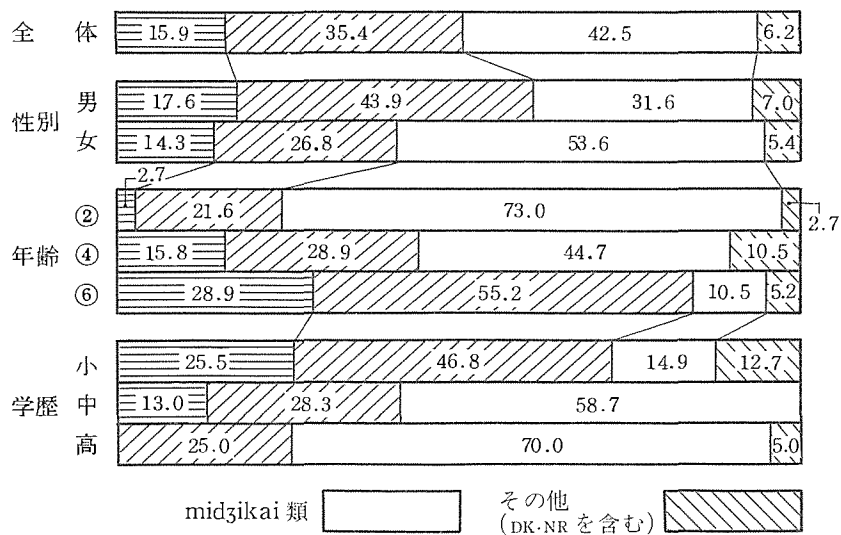
第44図 3.43 短い (保)



第51表 3.43 短い (茂)
5. midzikai 類 6. その他

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		1 (0.9)	17 (15.0)	2 (1.8)	38 (33.6)	48 (42.5)	6 (5.3)	1 (0.9)	113 (100)	**		
性 別	男	1 (1.8)	9 (15.8)	2 (3.5)	23 (40.4)	18 (31.6)	4 (7.0)	0 (0)	57 (100)	*		
	女	0 (0)	8 (14.3)	0 (0)	15 (26.8)	30 (53.6)	2 (3.6)	1 (1.8)	56 (100)	** (5*4)	(5)	
年 齢	②	0 (0)	1 (2.7)	1 (2.7)	7 (18.9)	27 (73.0)	1 (2.7)	0 (0)	37 (100)	** 5**5	5	**
	④	0 (0)	6 (15.8)	0 (0)	11 (28.9)	17 (44.7)	4 (10.5)	0 (0)	38 (100)			
	⑥	1 (2.6)	10 (26.3)	1 (2.6)	20 (52.6)	4 (10.5)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)			
学 歴	小	1 (2.1)	11 (23.4)	1 (2.1)	21 (44.7)	7 (14.9)	5 (10.6)	1 (2.1)	47 (100)	*		**
	中	0 (0)	6 (13.0)	0 (0)	13 (28.3)	27 (58.7)	0 (0)	0 (0)	46 (100)	** (5*4)	(5)	
	高	0 —	0 —	1 —	4 —	14 —	1 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	1 (2.0)	9 (18.4)	1 (2.0)	22 (44.9)	10 (20.4)	5 (10.2)	1 (2.0)	49 (100)	** (4*5)	(4)	
	工	0 (0)	4 (16.7)	0 (0)	7 (29.2)	12 (50.0)	1 (4.2)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	0 —	0 —	3 —	7 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	0 —	0 —	1 —	3 —	14 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	4 —	0 —	3 —	5 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	1 (2.0)	6 (12.0)	2 (4.0)	19 (38.0)	19 (38.0)	3 (6.0)	0 (0)	50 (100)	—	—	
	無	0 (0)	11 (17.5)	0 (0)	19 (30.2)	29 (46.0)	3 (4.8)	1 (1.6)	63 (100)			

第45図 3.43 短い (茂)

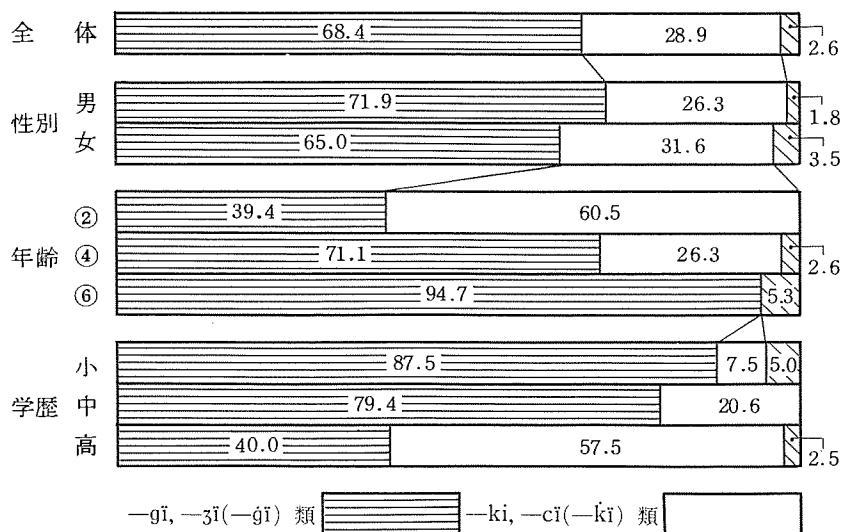


第52表 1.16 雪(保)

1. züŋĩ 類 2. jüŋĩ 類 3. jüŋĩ 類 4. jüŋĩ 類 5. jüŋĩ 類

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全 体		4 (3.5)	11 (9.6)	63 (55.3)	4 (3.5)	29 (25.4)	3 (2.6)	0 (0)	114 (100)	** (3**5)	(3)	
性 別	男	3 (5.3)	6 (10.5)	32 (56.1)	2 (3.5)	13 (22.8)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)	** (3**5)	(3)	
	女	1 (1.8)	5 (8.8)	31 (54.4)	2 (3.5)	16 (28.1)	2 (3.5)	0 (0)	57 (100)	** (3*5)	(3)	
年 齢	②	0 (0)	1 (2.6)	14 (36.8)	1 (2.6)	22 (57.9)	0 (0)	0 (0)	38 (100)			**
	④	0 (0)	5 (13.2)	22 (57.9)	3 (7.9)	7 (18.4)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** (3*5)	(3)	
	⑥	4 (10.5)	5 (13.2)	27 (71.0)	0 (0)	0 (0)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)	** 3**3	3	
学 歴	小	2 (5.0)	6 (15.0)	27 (67.5)	1 (2.5)	2 (5.0)	2 (5.0)	0 (0)	40 (100)	** 3*3	3	
	中	1 (2.9)	4 (11.8)	22 (64.7)	2 (5.9)	5 (14.7)	0 (0)	0 (0)	34 (100)	** (3**5)	(3)	
	高	1 (2.5)	1 (2.5)	14 (35.0)	1 (2.5)	22 (55.0)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)	**		
職 業	農	4 (4.9)	9 (11.0)	51 (62.2)	3 (3.7)	12 (14.6)	3 (3.7)	0 (0)	82 (100)	** 3*3	3	**
	工	0 —	0 —	4 —	0 —	3 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	0 —	3 —	0 —	1 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	1 —	5 —	0 —	12 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	1 —	0 —	1 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	3 (4.9)	4 (6.6)	38 (62.3)	1 (1.6)	12 (19.7)	3 (4.9)	0 (0)	61 (100)	** (3**5)	(3)	
	無	1 (1.9)	7 (13.2)	25 (47.2)	3 (5.7)	17 (32.1)	0 (0)	0 (0)	53 (100)	*		

第48図 1.16 雪(保)

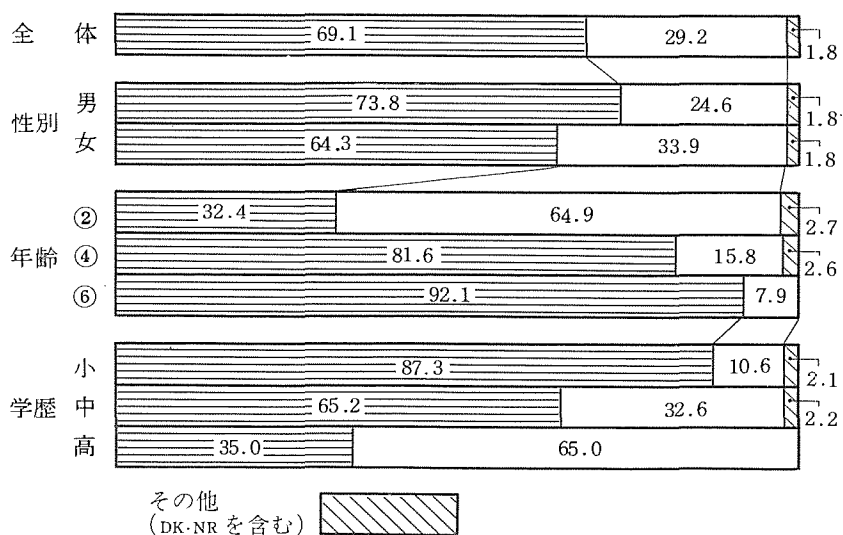


第53表 1.16 雪 (茂)

6. その他

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		2 (1.8)	8 (7.1)	68 (60.2)	1 (0.9)	32 (28.3)	1 (0.9)	1 (0.9)	113 (100)	** 3*3	3	
性 別	男	1 (1.8)	5 (8.8)	36 (63.2)	1 (1.8)	13 (22.8)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)	** 3*3	3	
	女	1 (1.8)	3 (5.4)	32 (57.1)	0 (0)	19 (33.9)	0 (0)	1 (1.8)	56 (100)			
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	12 (32.4)	0 (0)	24 (64.9)	0 (0)	1 (2.7)	37 (100)	** (5*3)	(5)	
	④	0 (0)	5 (13.2)	26 (68.4)	0 (0)	6 (15.8)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** 3*3	3	**
	⑥	2 (5.3)	3 (7.9)	30 (78.9)	1 (2.6)	2 (5.3)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 3**3	3	
学 歴	小	2 (4.3)	4 (8.5)	35 (74.5)	0 (0)	5 (10.6)	1 (2.1)	0 (0)	47 (100)	** 3**3	3	
	中	0 (0)	3 (6.5)	27 (58.7)	1 (2.2)	14 (30.4)	0 (0)	1 (2.2)	46 (100)	** (3*5)	(3)	*
	高	0 —	1 —	6 —	0 —	13 —	0 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	0 (0)	4 (8.2)	39 (79.6)	1 (2.0)	4 (8.2)	1 (2.0)	0 (0)	49 (100)	** 3**3	3	
	工	0 (0)	3 (12.5)	14 (58.3)	0 (0)	7 (29.2)	0 (0)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	0 —	5 —	0 —	5 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	0 —	1 —	3 —	0 —	13 —	0 —	1 —	18 —	—	—	
	無	2 —	0 —	7 —	0 —	3 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	1 (2.0)	3 (6.0)	34 (68.0)	0 (0)	10 (20.0)	1 (2.0)	1 (2.0)	50 (100)	** 3*3	3	
	無	1 (1.6)	5 (7.9)	34 (54.0)	1 (1.6)	22 (34.9)	0 (0)	0 (0)	63 (100)	**		

第49図 1.16 雪 (茂)

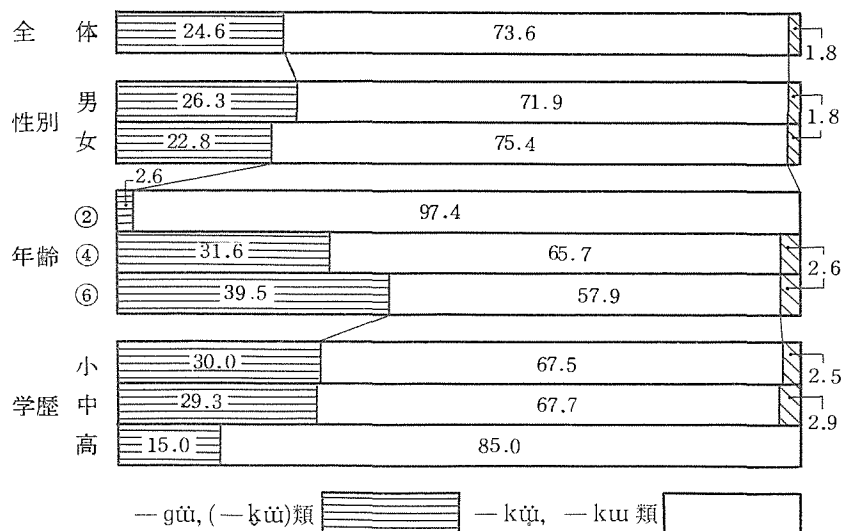


第54表 3.09 百元 (保)

1. ʃaküɛN類 2. ʃ(i)agüɛN類 3. ʃ(i)aküɛN 4. ʃagüɛN類

		1	2	3	4	5	6	7	8	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		7 (6.1)	6 (5.3)	30 (26.3)	14 (12.3)	43 (37.7)	8 (7.0)	4 (3.5)	1 (0.9)	1 (0.9)	114 (100)	**		
性 別	男	6 (10.5)	4 (7.0)	20 (35.1)	9 (15.8)	13 (22.8)	2 (3.5)	2 (3.5)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)			
	女	1 (1.8)	2 (3.5)	10 (17.5)	5 (8.8)	30 (52.6)	6 (10.5)	2 (3.5)	0 (0)	1 (1.8)	57 (100)	** (5**3)	(5)	
年 齢	②	3 (7.9)	1 (2.6)	6 (15.8)	0 (0)	25 (65.8)	0 (0)	3 (7.9)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** (5**3)	(5)	*
	④	1 (2.6)	2 (5.3)	12 (31.6)	7 (18.4)	11 (28.9)	3 (7.9)	1 (2.6)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)			
	⑥	3 (7.9)	3 (7.9)	12 (31.6)	7 (18.4)	7 (18.4)	5 (13.2)	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)			
学 歴	小	3 (7.5)	2 (5.0)	15 (37.5)	6 (15.0)	9 (22.5)	4 (10.0)	0 (0)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)			
	中	2 (5.9)	1 (2.9)	9 (26.5)	6 (17.6)	12 (35.3)	3 (8.8)	0 (0)	0 (0)	1 (2.9)	34 (100)			
	高	2 (5.0)	3 (7.5)	6 (15.0)	2 (5.0)	22 (55.0)	1 (2.5)	4 (10.0)	0 (0)	0 (0)	40 (100)	** (5**3)	(5)	
職 業	農	4 (4.9)	6 (7.3)	24 (29.3)	13 (15.9)	23 (28.0)	8 (9.8)	2 (2.4)	1 (1.2)	1 (1.2)	82 (100)	**		
	工	0 —	0 —	2 —	0 —	5 —	0 —	0 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	2 —	0 —	0 —	0 —	2 —	0 —	0 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	1 —	0 —	3 —	0 —	12 —	0 —	2 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	1 —	1 —	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	4 (6.6)	5 (8.2)	20 (32.3)	5 (8.2)	18 (29.5)	6 (9.8)	2 (3.3)	1 (1.6)	0 (0)	61 (100)	*		
	無	3 (5.7)	1 (1.9)	10 (18.9)	9 (17.0)	25 (47.2)	2 (3.8)	2 (3.8)	0 (0)	1 (1.9)	53 (100)	** (5*3)	(5)	

第50図 3.09 百元 (保)

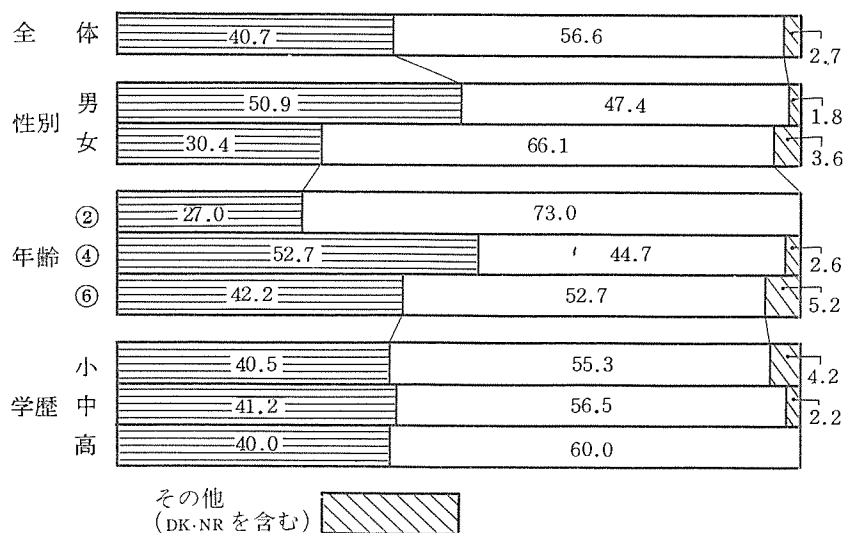


第55表 3.09 百元 (茂)

5. çaküen類 6. çagüen類 7. çakue N類 8. その他

		1	2	3	4	5	6	7	8	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	4 (3.5)	15 (13.3)	33 (29.2)	27 (23.9)	26 (23.0)	4 (3.5)	1 (0.9)	2 (1.8)	1 (0.9)	113 (100)	**		
性	男	1 (1.8)	9 (15.8)	15 (26.3)	18 (31.6)	11 (19.3)	2 (3.5)	0 (0)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)			
別	女	3 (5.4)	6 (10.7)	18 (32.1)	9 (16.1)	15 (26.8)	2 (3.6)	1 (1.8)	1 (1.8)	1 (1.8)	56 (100)			
年	②	0 (0)	4 (10.8)	7 (18.9)	4 (10.8)	19 (51.4)	2 (5.4)	1 (2.7)	0 (0)	0 (0)	37 (100)	** (5*3)	(5)	
齢	④	1 (2.6)	3 (7.9)	11 (28.9)	15 (39.5)	5 (13.2)	2 (5.3)	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)			
	⑥	3 (7.9)	8 (21.1)	15 (39.5)	8 (21.1)	2 (5.3)	0 (0)	0 (0)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)			
学	小	4 (8.5)	7 (14.9)	19 (40.4)	10 (21.3)	3 (6.4)	2 (4.3)	0 (0)	1 (2.1)	1 (2.1)	47 (100)			
歴	中	0 (0)	7 (15.2)	11 (23.9)	10 (21.7)	15 (32.6)	2 (4.3)	0 (0)	1 (2.2)	0 (0)	46 (100)			
	高	0 —	1 —	3 —	7 —	8 —	0 —	1 —	0 —	0 —	20 —	—	—	
職	農	3 (6.1)	11 (22.4)	16 (32.7)	14 (28.6)	2 (4.1)	0 (0)	0 (0)	2 (4.1)	1 (2.0)	49 (100)			
業	工	1 (4.2)	2 (8.3)	6 (25.0)	5 (20.8)	7 (29.2)	3 (12.5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	0 —	1 —	4 —	4 —	0 —	1 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	0 —	2 —	3 —	1 —	11 —	1 —	0 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	7 —	3 —	2 —	0 —	0 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役	有	2 (4.0)	10 (20.0)	13 (26.0)	14 (28.0)	10 (20.0)	1 (2.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	50 (100)			
員	無	2 (3.2)	5 (7.9)	20 (31.7)	13 (20.6)	16 (25.4)	3 (4.8)	1 (1.6)	2 (3.2)	1 (1.6)	63 (100)			

第51図 3.09 百元 (茂)

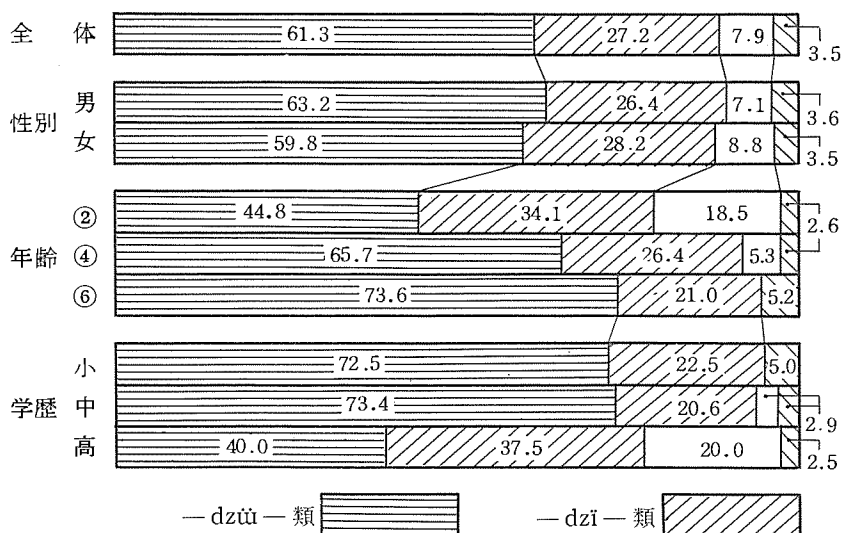


第56表 3.44 深い (保)

1. $\Phi\dot{u}ka\dot{z}$ 類 2. $x\dot{u}ka\dot{z}$ 類 3. その他

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	41 (36.0)	71 (62.3)	1 (0.9)	1 (0.9)	114 (100)	** 2**2	2	
性 別	男	21 (36.8)	35 (61.4)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)			
	女	20 (35.1)	36 (63.2)	0 (0)	1 (1.8)	57 (100)	** 2*2	2	
年 齢	②	16 (42.1)	21 (55.3)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)			
	④	10 (26.3)	28 (73.7)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 2**2	2	
	⑥	15 (39.5)	22 (57.9)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)			
学 歴	小	15 (37.5)	24 (60.0)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)			
	中	9 (26.5)	25 (73.5)	0 (0)	0 (0)	34 (100)	** 2**2	2	
	高	17 (42.5)	22 (55.0)	0 (0)	1 (2.5)	40 (100)			
職 業	農	28 (34.1)	53 (64.6)	1 (1.2)	0 (0)	82 (100)	** 2**2	2	
	工	1 —	6 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	2 —	1 —	0 —	1 —	4 —	—	—	
	事	8 —	10 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	2 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	21 (34.4)	39 (63.9)	1 (1.6)	0 (0)	61 (100)	** 2*2	2	
	無	20 (37.7)	32 (60.4)	0 (0)	1 (1.9)	53 (100)			

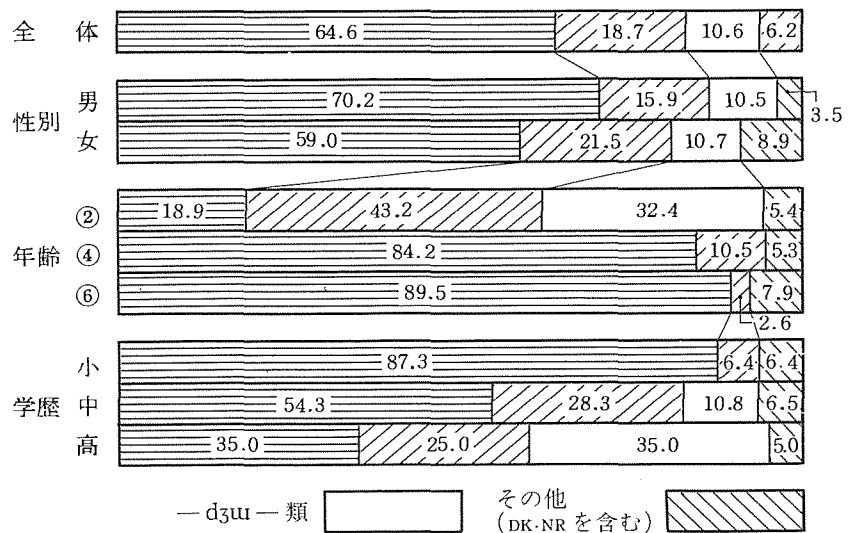
第40図 3.40 手術 (保)



第57表 3.44 深い (茂)

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	48 (42.5)	61 (54.0)	3 (2.7)	1 (0.9)	113 (100)			
性 別	男	20 (35.1)	34 (59.7)	3 (5.3)	0 (0)	57 (100)			
	女	28 (50.0)	27 (48.2)	0 (0)	1 (1.8)	56 (100)			
年 齢	②	15 (40.5)	21 (56.8)	1 (2.7)	0 (0)	37 (100)			
	④	12 (31.6)	25 (65.8)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** (2*1)	(2)	
	⑥	21 (55.3)	15 (39.5)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)			
学 歴	小	24 (51.1)	21 (44.7)	1 (2.1)	1 (2.1)	47 (100)			
	中	20 (43.5)	24 (52.2)	2 (4.4)	0 (0)	46 (100)			
	高	4 —	16 —	0 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	25 (51.0)	22 (44.9)	1 (2.0)	1 (2.0)	49 (100)			
	工	9 (37.5)	14 (58.3)	1 (4.2)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	3 —	7 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	7 —	10 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	4 —	8 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	19 (38.0)	28 (56.0)	3 (6.0)	0 (0)	50 (100)			
	無	29 (46.0)	33 (52.4)	0 (0)	1 (1.6)	63 (100)			

第41図 3.40 手術 (茂)

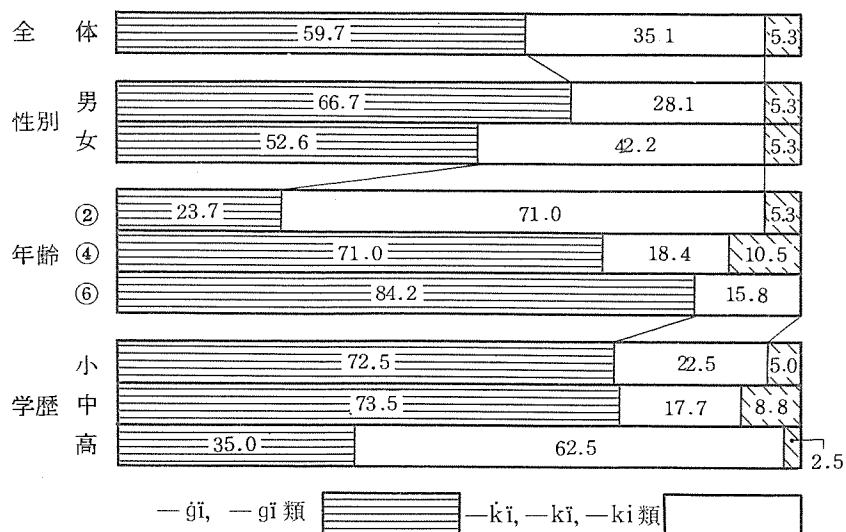


第58表 1.23 きかない子（保）

1. cīkanε: 類 2. cīkanε: 類 3. kīkanε: 類 4. kīkanε: 類

		1	2	3	4	5	6	7	8	N. R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	17 (14.9)	1 (0.9)	30 (26.3)	34 (29.8)	7 (6.1)	2 (1.8)	0 (0)	2 (1.8)	21 (18.4)	114 (100)	**		
性	男	10 (17.5)	1 (1.8)	11 (19.3)	17 (29.8)	2 (3.5)	2 (3.5)	0 (0)	1 (1.8)	13 (22.8)	57 (100)			
別	女	7 (12.3)	0 (0)	19 (33.3)	17 (29.8)	5 (8.8)	0 (0)	0 (0)	1 (1.8)	8 (14.0)	57 (100)	*		
年	②	0 (0)	0 (0)	14 (36.8)	9 (23.7)	3 (7.9)	2 (5.3)	0 (0)	0 (0)	10 (26.3)	38 (100)			
齢	④	8 (21.1)	1 (2.6)	6 (15.8)	15 (39.5)	2 (5.3)	0 (0)	0 (0)	1 (2.6)	5 (13.2)	38 (100)			
	⑥	9 (23.7)	0 (0)	10 (26.3)	10 (26.4)	2 (5.3)	0 (0)	0 (0)	1 (2.6)	6 (15.8)	38 (100)	——	—	
学	小	9 (22.5)	1 (2.5)	9 (22.5)	13 (32.5)	3 (7.5)	0 (0)	0 (0)	1 (2.5)	4 (10.0)	40 (100)			
歴	中	7 (20.6)	0 (0)	9 (26.5)	10 (29.4)	1 (2.9)	0 (0)	0 (0)	1 (2.9)	6 (17.6)	34 (100)			
	高	1 (2.5)	0 (0)	12 (30.0)	11 (27.5)	3 (7.5)	2 (5.0)	0 (0)	0 (0)	11 (27.5)	40 (100)			
職	農	17 (20.7)	1 (1.2)	18 (22.0)	25 (30.5)	4 (4.9)	1 (1.2)	0 (0)	2 (2.4)	14 (17.1)	82 (100)			
業	工	0 —	0 —	3 —	3 —	0 —	0 —	0 —	0 —	1 —	7 —	——	—	
	商	0 —	0 —	2 —	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	1 —	4 —	——	—	
	事	0 —	0 —	7 —	4 —	1 —	1 —	0 —	0 —	5 —	18 —	——	—	
	無	0 —	0 —	0 —	1 —	2 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	——	—	
役	有	10 (16.4)	1 (1.6)	16 (26.2)	20 (32.8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (3.3)	12 (19.7)	61 (100)			
員	無	7 (13.2)	0 (0)	14 (26.4)	14 (26.4)	7 (13.2)	2 (3.8)	0 (0)	0 (0)	9 (17.0)	53 (100)	——	—	

第46図 3.36 息（保）

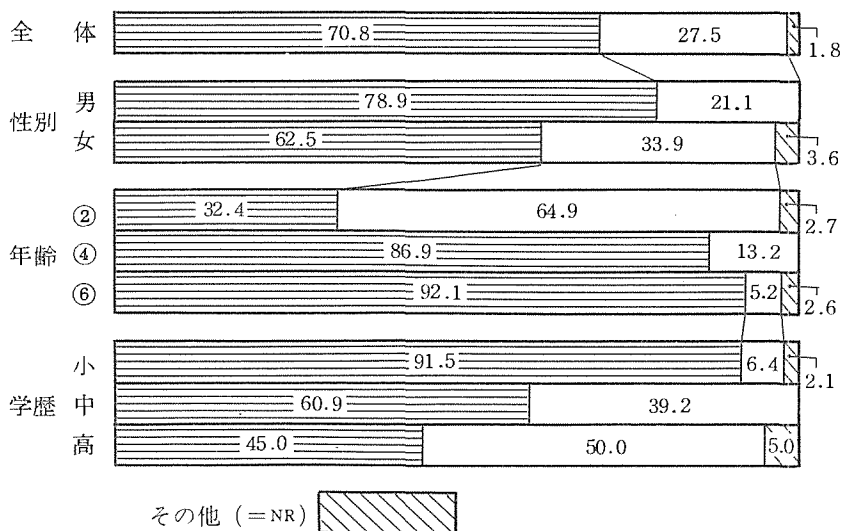


第59表 1.23 きかない子（茂）

5. kikanε: 類 6. kikanε: 類 7. kiganε: 類 8. その他

		1	2	3	4	5	6	7	8	N. R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		9 (8.0)	0 (0)	19 (16.8)	59 (52.2)	0 (0)	10 (8.8)	2 (1.8)	3 (2.7)	11 (9.7)	113 (100)	** (4**3)	(4)	
性 別	男	5 (8.8)	0 (0)	7 (12.3)	36 (63.2)	0 (0)	3 (5.3)	1 (1.8)	1 (1.8)	4 (7.0)	57 (100)	** 4*4	4	
	女	4 (7.1)	0 (0)	12 (21.4)	23 (41.1)	0 (0)	7 (12.5)	1 (1.8)	2 (3.6)	7 (12.5)	56 (100)	**		
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	4 (10.8)	15 (40.5)	0 (0)	7 (18.9)	2 (5.4)	2 (5.4)	7 (18.9)	37 (100)			
	④	1 (2.6)	0 (0)	9 (23.7)	22 (57.9)	0 (0)	2 (5.3)	0 (0)	0 (0)	4 (10.5)	38 (100)	** (4*3)	(4)	
	⑥	8 (21.1)	0 (0)	6 (15.8)	22 (57.9)	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** (4*1)	(4)	
学 歴	小	7 (14.9)	0 (0)	9 (19.1)	26 (55.3)	0 (0)	2 (4.3)	0 (0)	1 (2.1)	2 (4.3)	47 (100)	** (4**3)	(4)	
	中	2 (4.3)	0 (0)	9 (19.6)	20 (43.5)	0 (0)	5 (10.9)	1 (2.2)	1 (2.2)	8 (17.4)	46 (100)	** (4*3)	(4)	
	高	0 —	0 —	1 —	13 —	0 —	3 —	1 —	1 —	2 —	20 —	—	—	
職 業	農	6 (12.2)	0 (0)	10 (20.4)	27 (55.1)	0 (0)	3 (6.1)	1 (2.0)	2 (4.1)	0 (0)	49 (100)	** (4**3)	(4)	
	工	0 (0)	0 (0)	4 (16.7)	14 (58.3)	0 (0)	2 (8.3)	0 (0)	0 (0)	4 (16.7)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	0 —	1 —	6 —	0 —	1 —	0 —	0 —	2 —	10 —	—	—	
	事	0 —	0 —	4 —	6 —	0 —	3 —	1 —	1 —	3 —	18 —	—	—	
	無	3 —	0 —	0 —	6 —	0 —	1 —	0 —	0 —	2 —	12 —	—	—	
役 員	有	4 (8.0)	0 (0)	8 (16.0)	29 (58.0)	0 (0)	3 (6.0)	2 (4.0)	1 (2.0)	3 (6.0)	50 (100)	** (4**3)	(4)	
	無	5 (7.9)	0 (0)	11 (17.5)	30 (47.6)	0 (0)	7 (11.1)	0 (0)	2 (3.2)	8 (12.7)	63 (100)	** (4**3)	(4)	

第47図 3.36 息（茂）

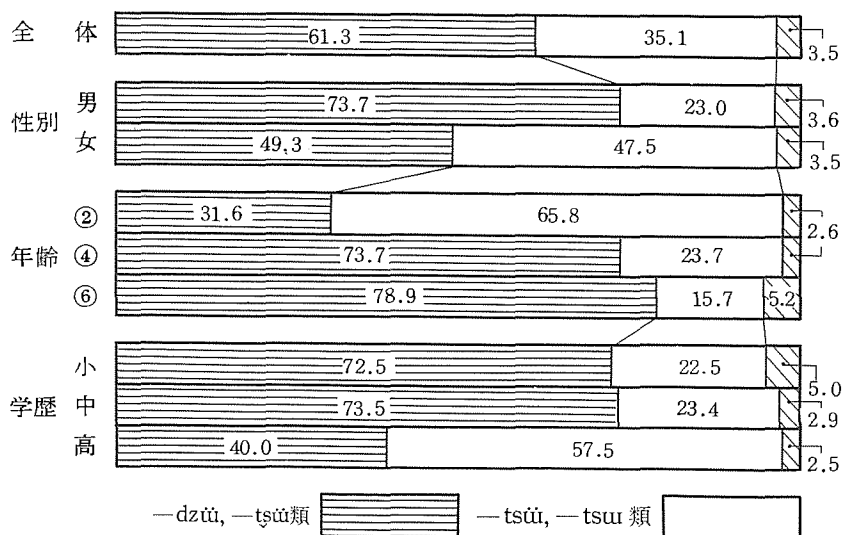


第60表 1.25 聞かなかった (保)

1. cīkanakatta 類 2. cīkanakatta 類 3. kīkanakatta 類 4. kīkanakatta 類

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	N. R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	9 (7.9)	13 (11.4)	27 (23.7)	38 (33.3)	1 (0.9)	7 (6.1)	4 (3.5)	1 (0.9)	3 (2.6)	11 (9.6)	114 (100)	**		
性	男	5 (8.8)	11 (19.3)	9 (15.8)	19 (33.3)	1 (1.8)	2 (3.5)	2 (3.5)	0 (0)	2 (3.5)	6 (10.5)	57 (100)			
	女	4 (7.0)	2 (3.5)	18 (31.6)	19 (33.3)	0 (0)	5 (8.8)	2 (3.5)	1 (1.8)	1 (1.8)	5 (8.8)	57 (100)	*		
年	②	1 (2.6)	1 (2.6)	8 (21.1)	15 (39.5)	1 (2.6)	3 (7.9)	2 (5.3)	1 (2.6)	2 (5.3)	4 (10.5)	38 (100)			
	④	2 (5.3)	8 (21.1)	8 (21.1)	12 (31.6)	0 (0)	1 (2.6)	2 (5.3)	0 (0)	1 (2.6)	4 (10.5)	38 (100)			
	⑥	6 (15.8)	4 (10.5)	11 (28.9)	11 (28.9)	0 (0)	3 (7.9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (7.9)	38 (100)	—	—	
学	小	5 (12.5)	5 (12.5)	10 (25.0)	12 (30.0)	0 (0)	3 (7.5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (12.5)	40 (100)			
	中	1 (2.9)	8 (23.5)	9 (25.5)	12 (35.3)	0 (0)	1 (2.9)	1 (2.9)	0 (0)	1 (2.9)	1 (2.9)	34 (100)			
	高	3 (7.5)	0 (0)	8 (20.0)	14 (35.0)	2 (5.0)	3 (7.5)	3 (7.5)	1 (2.5)	2 (5.0)	5 (12.5)	40 (100)			
職	農	8 (9.8)	12 (14.6)	21 (25.6)	26 (31.7)	1 (1.2)	3 (3.7)	2 (2.4)	0 (0)	2 (2.4)	7 (8.5)	82 (100)	**		
	工	0 —	1 —	2 —	3 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	1 —	7 —	—	—	
	商	0 —	0 —	0 —	2 —	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	1 —	4 —	—	—	
	事	1 —	0 —	4 —	6 —	0 —	1 —	2 —	1 —	1 —	2 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	2 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役	有	7 (11.5)	9 (14.8)	13 (21.3)	19 (31.1)	1 (1.6)	1 (1.6)	1 (1.6)	0 (0)	3 (4.9)	7 (11.5)	61 (100)			
	無	2 (3.8)	4 (7.5)	14 (26.5)	19 (35.8)	0 (0)	6 (11.3)	3 (5.7)	1 (1.9)	0 (0)	4 (7.5)	53 (100)	*		

第56図 3.40 手術 (保)

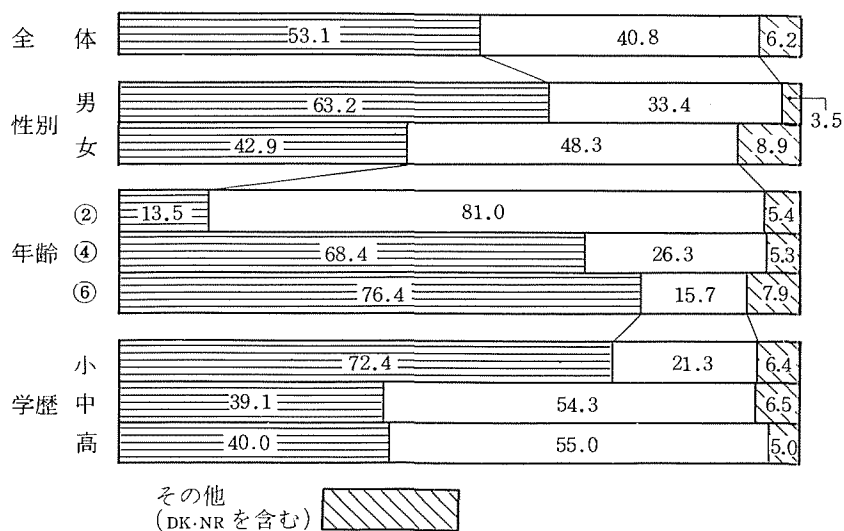


第61表 1.25 聞かなかった(茂)

5. kiganagatta 類 6. kikanakatta 類 7. kikanakatta 類 8. kiganagatta 類 9. その他

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体	0 (0)	10 (8.8)	11 (9.7)	72 (63.7)	2 (1.8)	0 (0)	2 (1.8)	4 (3.5)	6 (5.3)	6 (5.3)	113 (100)	** 4**4	4	
性 別	男	0 (0)	5 (8.8)	3 (5.3)	39 (68.4)	1 (1.8)	0 (0)	1 (1.8)	1 (1.8)	3 (5.3)	4 (7.0)	57 (100)	** 4**4	4
	女	0 (0)	5 (8.9)	8 (14.3)	33 (58.9)	1 (1.8)	0 (0)	1 (1.8)	3 (5.4)	3 (5.4)	2 (3.6)	56 (100)	** (4**3)	(4)
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	2 (5.4)	27 (73.0)	1 (2.7)	0 (0)	2 (5.4)	2 (5.4)	2 (5.4)	1 (2.7)	37 (100)	** 4**4	4
	④	0 (0)	0 (0)	4 (10.5)	26 (68.4)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	2 (5.3)	3 (7.9)	2 (5.3)	38 (100)	** 4*4	4
	⑥	0 (0)	10 (26.3)	5 (13.2)	19 (50.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2.6)	3 (7.9)	38 (100)		
学 歴	小	0 (0)	8 (17.0)	8 (17.0)	26 (55.3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2.1)	4 (8.5)	47 (100)	** (4**2,3)	(4)
	中	0 (0)	2 (4.3)	3 (6.5)	29 (63.0)	1 (2.2)	0 (0)	1 (2.2)	4 (8.7)	4 (8.7)	2 (4.3)	46 (100)	** (4**8,9)	(4)
	高	0 —	0 —	0 —	17 —	1 —	0 —	1 —	0 —	1 —	0 —	20 —	—	—
職 業	農	0 (0)	8 (16.3)	5 (10.2)	25 (51.0)	1 (2.0)	0 (0)	0 (0)	1 (2.0)	4 (8.2)	5 (10.2)	49 (100)	** (4**2)	(4)
	工	0 (0)	0 (0)	3 (12.5)	18 (75.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (4.2)	1 (4.2)	1 (4.2)	24 (100)	—	—
	商	0 —	0 —	1 —	8 —	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	0 —	10 —	—	—
	事	0 —	0 —	2 —	11 —	1 —	0 —	2 —	1 —	1 —	0 —	18 —	—	—
	無	0 —	2 —	0 —	10 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	12 —	—	—
役 員	有	0 (0)	5 (10.0)	4 (8.0)	28 (56.0)	2 (4.0)	0 (0)	2 (4.0)	3 (6.0)	2 (4.0)	4 (8.0)	50 (100)	** (4**2)	(4)
	無	0 (0)	5 (7.9)	7 (11.1)	44 (69.8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1.6)	4 (6.3)	2 (3.2)	63 (100)	** 4**4	4

第57図 3.40 手術(茂)

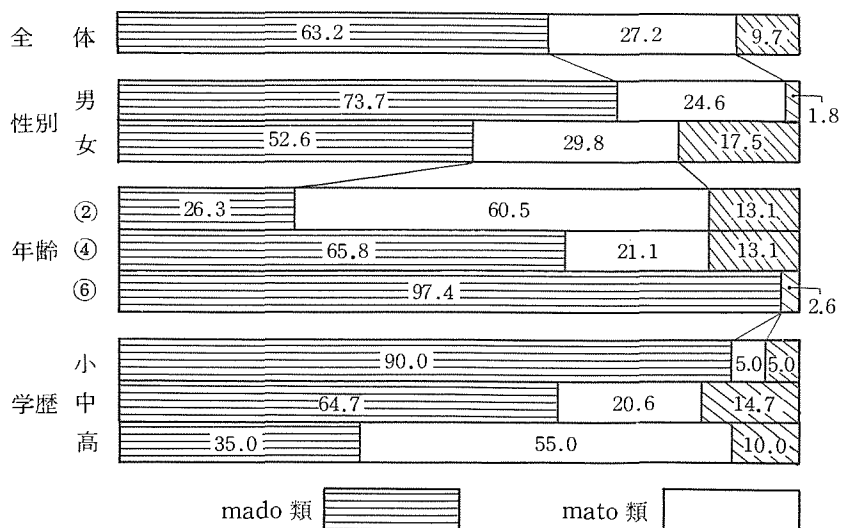


第62表 3.26 的 (保)

1. mado 類 2. mato 類 3. その他

		1	2	3	N. R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		72 (63.2)	31 (27.2)	2 (1.8)	9 (7.9)	114 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
性 別	男	42 (73.7)	14 (24.6)	0 (0)	1 (1.8)	57 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
	女	30 (52.6)	17 (29.8)	2 (3.5)	8 (14.0)	57 (100)	**		
年 齢	②	10 (26.3)	23 (60.5)	1 (2.6)	4 (10.5)	38 (100)	** (2*1)	(2)	**
	④	25 (65.8)	8 (21.1)	1 (2.6)	4 (10.5)	38 (100)	** (1**2)	(1)	
	⑥	37 (97.4)	0 (0)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
学 歴	小	36 (90.0)	2 (5.0)	0 (0)	2 (5.0)	40 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	**
	中	22 (64.7)	7 (20.6)	1 (2.9)	4 (11.8)	34 (100)	** (1**2)	(1)	
	高	14 (35.0)	22 (55.0)	1 (2.5)	3 (7.5)	40 (100)	**		
職 業	農	63 (76.8)	13 (15.9)	1 (1.2)	5 (6.1)	82 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	**
	工	2 —	4 —	0 —	1 —	7 —	—	—	
	商	2 —	2 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	4 —	10 —	1 —	3 —	18 —	—	—	
	無	1 —	2 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	44 (72.1)	12 (19.7)	1 (1.6)	4 (6.6)	61 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
	無	28 (52.8)	19 (35.8)	1 (1.9)	5 (9.4)	53 (100)	**		

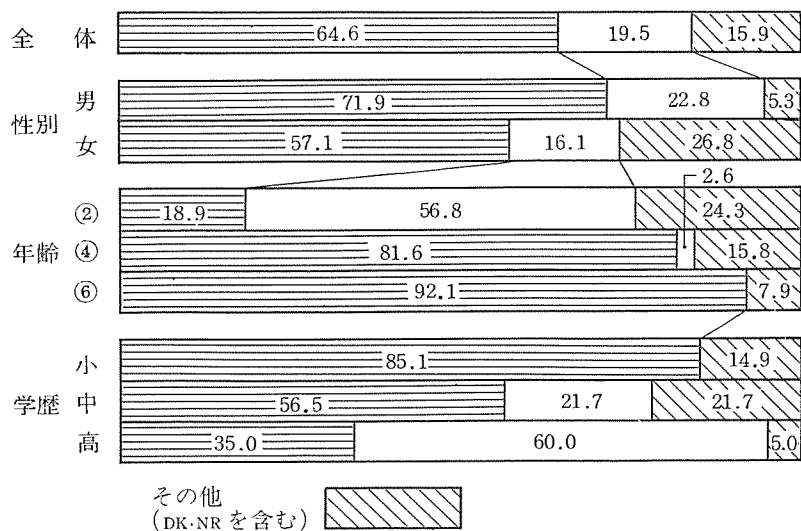
第52図 3.26 的 (保)



第63表 3.26 的 (茂)

		1	2	N. R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全 体		73 (64.6)	22 (19.5)	18 (15.9)	113 (100)	** 1** \bar{I}	1	
性 別	男	41 (71.9)	13 (22.8)	3 (5.3)	57 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	女	32 (57.1)	9 (16.1)	15 (26.8)	56 (100)	** (1*N.R)	(1)	
年 齢	②	7 (18.9)	21 (56.8)	9 (24.3)	37 (100)	** (2*N.R)	(2)	**
	④	31 (81.6)	1 (2.6)	6 (15.8)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	⑥	35 (92.1)	0 (0)	3 (7.9)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
学 歴	小	40 (85.1)	0 (0)	7 (14.9)	47 (100)	** 1** \bar{I}	1	**
	中	26 (56.5)	10 (21.7)	10 (21.7)	46 (100)	** (1**2,N.R)	(1)	
	高	7 —	12 —	1 —	20 —	— —	—	
職 業	農	43 (87.8)	1 (2.0)	5 (10.2)	49 (100)	** 1** \bar{I}	1	**
	工	15 (62.5)	6 (25.0)	3 (12.5)	24 (100)	— —	—	
	商	4 —	3 —	3 —	10 —	— —	—	
	事	3 —	10 —	5 —	18 —	— —	—	
	無	8 —	2 —	2 —	12 —	— —	—	
役 員	有	38 (76.0)	8 (16.0)	4 (8.0)	50 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	無	35 (55.6)	14 (22.2)	14 (22.2)	63 (100)	** (1**2,N.R)	(1)	

第53図 3.26 的 (茂)

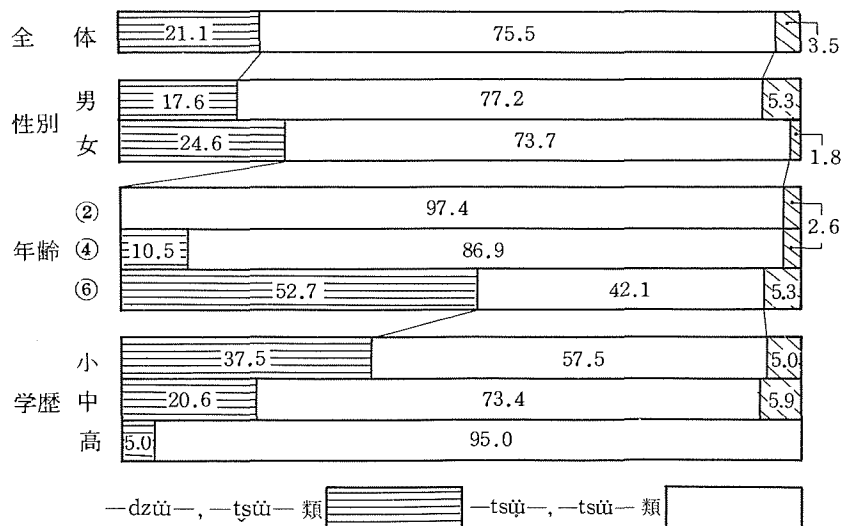


第64表 1.07 狐 (保)

1. cidzũne 類 2. cĩtsũne 類 3. kĩdzũne 類 4. kĩtsũne 類

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合 關係
全 体		5 (4.4)	14 (12.3)	9 (7.9)	54 (47.4)	10 (8.8)	18 (15.8)	4 (3.5)	0 (0)	114 (100)	** (4**6)	(4)	
性 別	男	1 (1.8)	11 (19.3)	6 (10.5)	26 (45.6)	3 (5.3)	7 (12.3)	3 (5.3)	0 (0)	57 (100)	** (4*2)	(4)	
	女	4 (7.0)	3 (5.3)	3 (5.3)	28 (49.1)	7 (12.3)	11 (19.3)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)	** (4**6)	(4)	
年 齡	②	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	21 (55.3)	0 (0)	15 (39.5)	2 (2.6)	0 (0)	38 (100)			**
	④	0 (0)	8 (21.1)	1 (2.6)	23 (60.5)	3 (7.9)	2 (5.3)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** (4**2)	(4)	
	⑥	5 (13.2)	5 (13.2)	8 (21.1)	10 (26.3)	7 (18.4)	1 (2.6)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)			
学 歴	小	4 (10.0)	6 (15.0)	5 (12.5)	16 (40.0)	6 (15.0)	1 (2.5)	2 (5.0)	0 (0)	40 (100)	** (4*2, 5)	(4)	
	中	1 (3.0)	6 (17.6)	3 (8.8)	18 (52.9)	3 (8.8)	1 (2.9)	2 (5.9)	0 (0)	34 (100)	** (4*2)	(4)	
	高	0 (0)	2 (5.0)	1 (2.5)	20 (50.0)	1 (2.5)	16 (40.0)	0 (0)	0 (0)	40 (100)	*		
職 業	農	5 (6.1)	12 (14.6)	9 (11.0)	37 (45.1)	9 (11.1)	6 (7.3)	4 (4.9)	0 (0)	82 (100)	** (4**2)	(4)	
	工	0 —	1 —	0 —	5 —	0 —	1 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	1 —	0 —	2 —	0 —	1 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	0 —	0 —	9 —	0 —	9 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	0 —	1 —	1 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	1 (1.6)	9 (14.8)	6 (9.8)	30 (49.2)	5 (8.2)	6 (9.8)	4 (6.6)	0 (0)	61 (100)	** (4**2)	(4)	
	無	4 (7.5)	5 (9.4)	3 (5.7)	24 (45.3)	5 (9.4)	12 (22.7)	0 (0)	0 (0)	53 (100)	** (4*6)	(4)	

第54図 1.07 狐 (保)

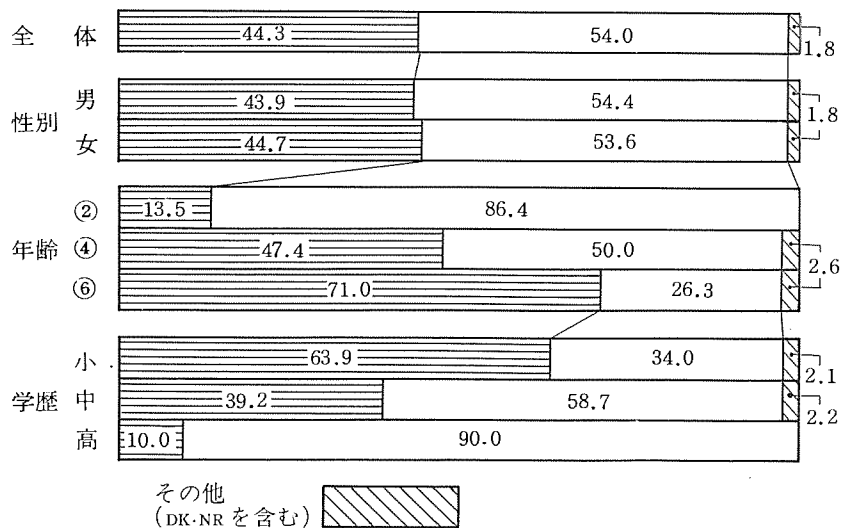


第65表 1.07 狐 (茂)

5. kīdzūne 類 6. kītsūne 類 7. その他

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		3 (2.7)	4 (3.5)	44 (38.9)	35 (31.0)	3 (2.7)	22 (19.5)	2 (1.8)	0 (0)	113 (100)	**		
性 別	男	0 (0)	3 (5.3)	23 (40.4)	19 (33.3)	2 (3.5)	9 (15.8)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)	**		
	女	3 (5.4)	1 (1.8)	21 (37.5)	16 (28.6)	1 (1.8)	13 (23.2)	1 (1.8)	0 (0)	56 (100)			
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	5 (13.5)	14 (37.8)	0 (0)	18 (48.6)	0 (0)	0 (0)	37 (100)	*		
	④	0 (0)	0 (0)	16 (42.1)	15 (39.5)	2 (5.3)	4 (10.5)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)			
	⑥	3 (7.9)	4 (10.5)	23 (60.5)	6 (15.8)	1 (2.6)	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** (3**4)	(3)	*
学 歴	小	3 (6.4)	1 (2.1)	25 (53.2)	14 (29.8)	2 (4.3)	1 (2.1)	1 (2.1)	0 (0)	47 (100)	**		
	中	0 (0)	3 (6.5)	17 (37.0)	11 (23.9)	1 (2.2)	13 (28.3)	1 (2.2)	0 (0)	46 (100)			
	高	0 —	0 —	2 —	10 —	0 —	8 —	0 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	2 (4.1)	3 (6.1)	29 (59.2)	13 (26.5)	1 (2.0)	0 (0)	1 (2.0)	0 (0)	49 (100)	** (3*4)	(3)	
	工	0 (0)	0 (0)	11 (45.8)	5 (20.8)	2 (8.3)	6 (25.0)	0 (0)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	0 —	0 —	6 —	0 —	4 —	0 —	0 —	10 —	—	—	*
	事	0 —	0 —	2 —	6 —	0 —	10 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	1 —	1 —	2 —	5 —	0 —	2 —	1 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	0 (0)	3 (6.0)	20 (40.0)	16 (32.0)	3 (6.0)	8 (16.0)	0 (0)	0 (0)	50 (100)			
	無	3 (4.8)	1 (1.6)	24 (38.1)	19 (30.2)	0 (0)	14 (22.2)	2 (3.2)	0 (0)	63 (100)	*		

第55図 1.07 狐 (茂)

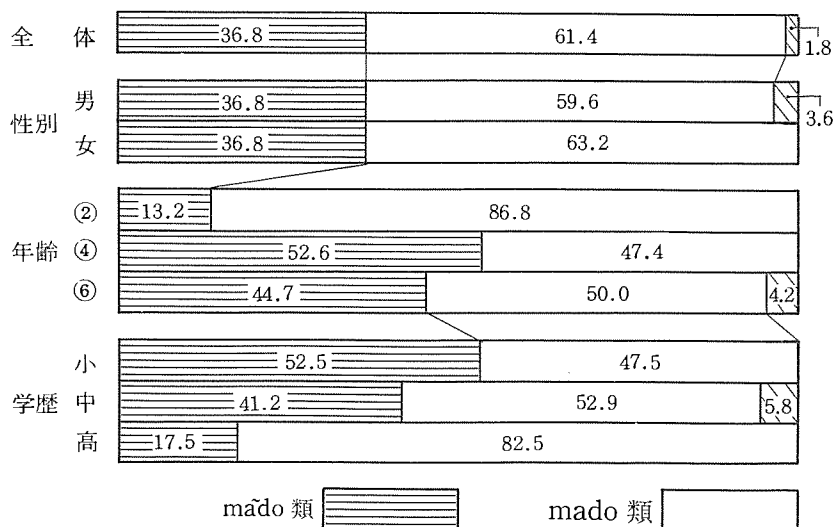


第66表 3.11 窓（保）

1. ma~do 類 2. mado 類 3. その他

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		42 (36.8)	70 (61.4)	1 (0.9)	1 (0.9)	114 (100)	** 2*2	2	
性 別	男	21 (36.8)	34 (59.6)	1 (1.8)	1 (1.8)	57 (100)			
	女	21 (36.8)	36 (63.2)	0 (0)	0 (0)	57 (100)	** 2*2	2	
年 齢	②	5 (13.2)	33 (86.8)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 2*2	2	**
	④	20 (52.6)	18 (47.4)	0 (0)	0 (0)	38 (100)			
	⑥	17 (44.7)	19 (50.0)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)	**		
学 歴	小	21 (52.5)	19 (47.5)	0 (0)	0 (0)	40 (100)			*
	中	14 (41.2)	18 (52.9)	1 (2.9)	1 (2.9)	34 (100)	**		
	高	7 (17.5)	33 (82.5)	0 (0)	0 (0)	40 (100)	** 2*2	2	
職 業	農	37 (45.1)	43 (52.4)	1 (1.2)	1 (1.2)	82 (100)	**		*
	工	0 —	7 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	2 —	2 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	2 —	16 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	1 —	2 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	27 (44.3)	32 (52.5)	1 (1.6)	1 (1.6)	61 (100)	**		
	無	15 (28.3)	38 (71.7)	0 (0)	0 (0)	53 (100)	** 2*2	2	

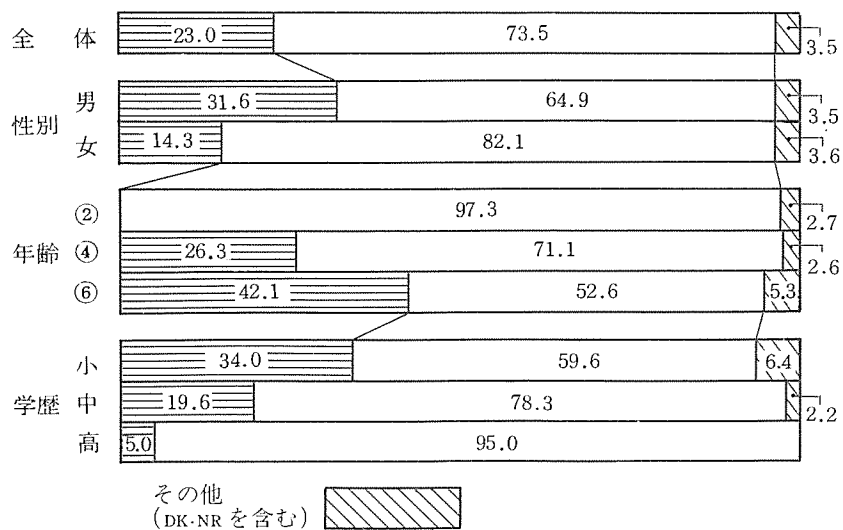
第58図 3.11 窓（保）



第67表 3.11 窓 (茂)

		1	2	N・R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		26 (23.0)	83 (73.5)	4 (3.5)	113 (100)	** 2**2	2	
性 別	男	18 (31.6)	37 (64.9)	2 (3.5)	57 (100)	** 2*2	2	
	女	8 (14.3)	46 (82.1)	2 (3.6)	56 (100)	** 2**2	2	
年 齢	②	0 (0)	36 (97.3)	1 (2.7)	37 (100)	** 2**2	2	**
	④	10 (26.3)	27 (71.1)	1 (2.6)	38 (100)	** 2**2	2	
	⑥	16 (42.1)	20 (52.6)	2 (5.3)	38 (100)			
学 歴	小	16 (34.0)	28 (59.6)	3 (6.4)	47 (100)			
	中	9 (19.6)	36 (78.3)	1 (2.2)	46 (100)	** 2**2	2	
	高	1 —	19 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	16 (32.7)	31 (63.3)	2 (4.1)	49 (100)	** (2*1)	(2)	
	工	6 (25.0)	18 (75.0)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	9 —	1 —	10 —	—	—	
	事	1 —	17 —	0 —	18 —	—	—	
	無	3 —	8 —	1 —	12 —	—	—	
役 員	有	13 (26.0)	37 (74.0)	0 (0)	50 (100)	** 2**2	2	
	無	13 (20.6)	46 (73.0)	4 (6.3)	63 (100)	** 2**2	2	

第59図 3.11 窓 (茂)

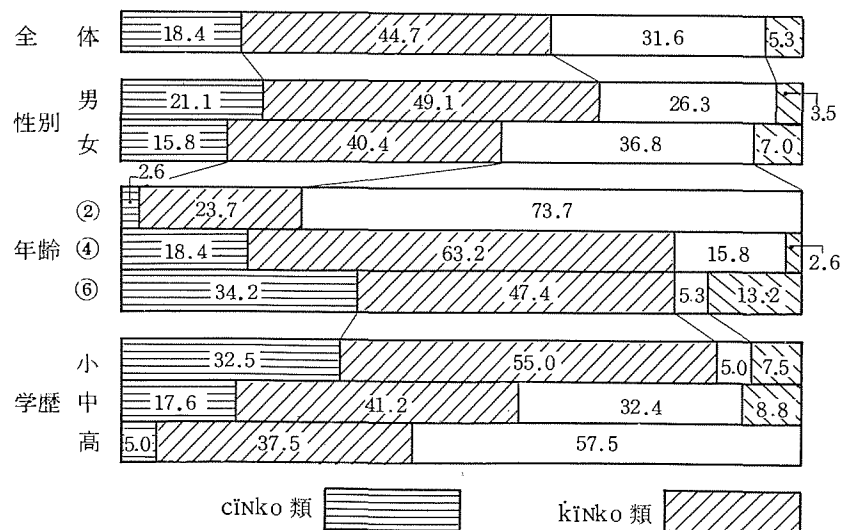


第68表 3.23 金庫（保）

1. cīnko 類 2. kīnko 類 3. kīnko 類 4. gīnko 類

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		21 (18.4)	51 (44.7)	36 (31.6)	2 (1.8)	4 (3.5)	0 (0)	114 (100)	**		
性 別	男	12 (21.1)	28 (49.1)	15 (26.3)	0 (0)	2 (3.5)	0 (0)	57 (100)	** (2*3)	(2)	
	女	9 (15.8)	23 (40.4)	21 (36.8)	2 (3.5)	2 (3.5)	0 (0)	57 (100)			
年 齢	②	1 (2.6)	9 (23.7)	28 (73.7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 3**3	3	
	④	7 (18.4)	24 (63.2)	6 (15.8)	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** (2**1)	(2)	**
	⑥	13 (34.2)	18 (47.4)	2 (5.3)	2 (5.3)	3 (7.9)	0 (0)	38 (100)			
学 歴	小	13 (32.5)	22 (55.0)	2 (5.0)	2 (5.0)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)	**		
	中	6 (17.6)	14 (41.2)	11 (32.4)	0 (0)	3 (8.8)	0 (0)	34 (100)			**
	高	2 (5.0)	15 (37.5)	23 (57.5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	40 (100)			
職 業	農	18 (22.0)	43 (52.4)	15 (18.3)	2 (2.4)	4 (4.9)	0 (0)	82 (100)	** (2**1)	(2)	
	工	1 —	2 —	4 —	0 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	1 —	1 —	2 —	0 —	0 —	0 —	4 —	—	—	**
	事	0 —	4 —	14 —	0 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	1 —	1 —	1 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	11 (18.0)	32 (52.5)	13 (21.3)	1 (1.6)	4 (6.6)	0 (0)	61 (100)	** (2**3)	(2)	
	無	10 (18.9)	19 (35.8)	23 (43.4)	1 (1.9)	0 (0)	0 (0)	53 (100)			

第62図 3.23 金庫（保）

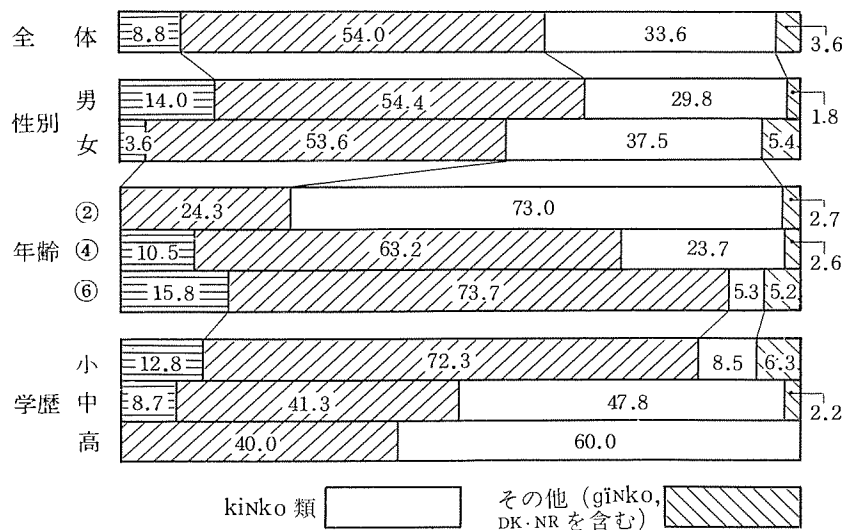


第69表 3.23 金庫（茂）

5. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	10 (8.8)	61 (54.0)	38 (33.6)	1 (0.9)	1 (0.9)	2 (1.8)	113 (100)	** (2*3)	(2)	
性 別	男	8 (14.0)	31 (54.4)	17 (29.8)	1 (1.8)	0 (0)	0 (0)	57 (100)	** (2*3)	(2)	
	女	2 (3.6)	30 (53.6)	21 (37.5)	0 (0)	1 (1.8)	2 (3.6)	56 (100)	**		
年 齢	②	0 (0)	9 (24.3)	27 (73.0)	0 (0)	0 (0)	1 (2.7)	37 (100)	** 3**3	3	**
	④	4 (10.5)	24 (63.2)	9 (23.7)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** (2**3)	(2)	
	⑥	6 (15.8)	28 (73.7)	2 (5.3)	0 (0)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)	** 2**2	2	
学 歴	小	6 (12.8)	34 (72.3)	4 (8.5)	1 (2.1)	1 (2.1)	1 (2.1)	47 (100)	** 2**2	2	
	中	4 (8.7)	19 (41.3)	22 (47.8)	0 (0)	0 (0)	1 (2.2)	46 (100)	**		
	高	0 —	8 —	12 —	0 —	0 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	8 (16.3)	33 (67.3)	6 (12.2)	1 (2.0)	0 (0)	1 (2.0)	49 (100)	** 2*2	2	
	工	1 (4.2)	11 (45.8)	12 (50.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	5 —	4 —	0 —	0 —	1 —	10 —	—	—	
	事	1 —	6 —	11 —	0 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	6 —	5 —	0 —	1 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	5 (10.0)	29 (58.0)	15 (30.0)	0 (0)	1 (2.0)	0 (0)	50 (100)	** (2*3)	(2)	
	無	5 (7.9)	32 (50.8)	23 (36.5)	1 (1.6)	0 (0)	2 (3.2)	63 (100)	**		

第63図 3.23 金庫（茂）

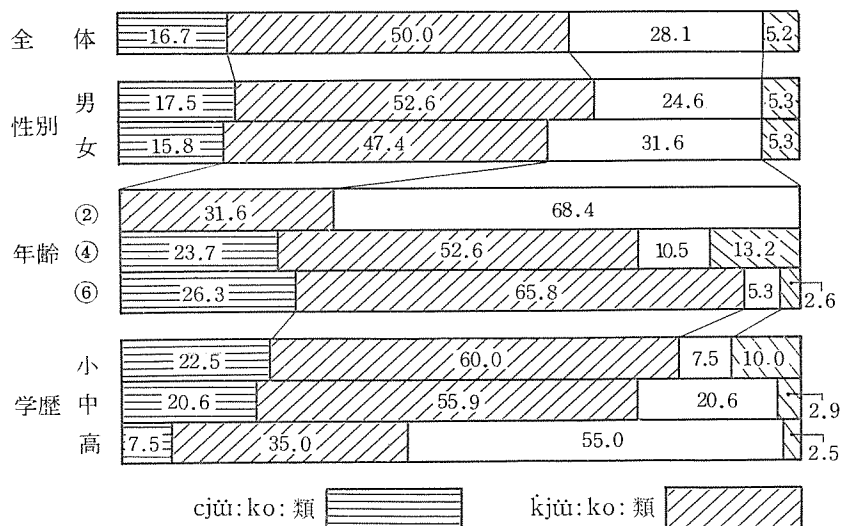


第70表 3.34 急行 (保)

1. cjû:ko: 類 2. kjû:ko: 類 3. kjû:ko: 類 4. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	19 (16.7)	57 (50.0)	32 (28.1)	3 (2.6)	3 (2.6)	114 (100)	** (2**3)	(2)	
性 別	男	10 (17.5)	30 (52.6)	14 (24.6)	2 (3.5)	1 (1.8)	57 (100)	** (2*3)	(2)	
	女	9 (15.8)	27 (47.4)	18 (31.6)	1 (1.8)	2 (3.5)	57 (100)	*		
年 齢	②	0 (0)	12 (31.6)	26 (68.4)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 3*3	3	
	④	9 (23.7)	20 (52.6)	4 (10.5)	2 (5.3)	3 (7.9)	38 (100)	** (2*1)	(2)	
	⑥	10 (26.3)	25 (65.8)	2 (5.3)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** (2*1)	(2)	
学 歴	小	9 (22.5)	24 (60.0)	3 (7.5)	1 (2.5)	3 (7.5)	40 (100)	** (2**1)	(2)	
	中	7 (20.6)	19 (55.9)	7 (20.6)	1 (2.9)	0 (0)	34 (100)	** (2*1,3)	(2)	
	高	3 (7.5)	14 (35.0)	22 (55.0)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)			
職 業	農	19 (23.2)	46 (56.1)	11 (13.4)	3 (3.7)	3 (3.7)	82 (100)	** (2**1)	(2)	
	工	0 —	2 —	5 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	2 —	2 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	5 —	13 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	2 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	13 (21.3)	34 (55.7)	11 (18.0)	1 (1.6)	2 (3.3)	61 (100)	** (2**1)	(2)	
	無	6 (11.3)	23 (43.4)	21 (39.6)	2 (3.8)	1 (1.9)	53 (100)	*		

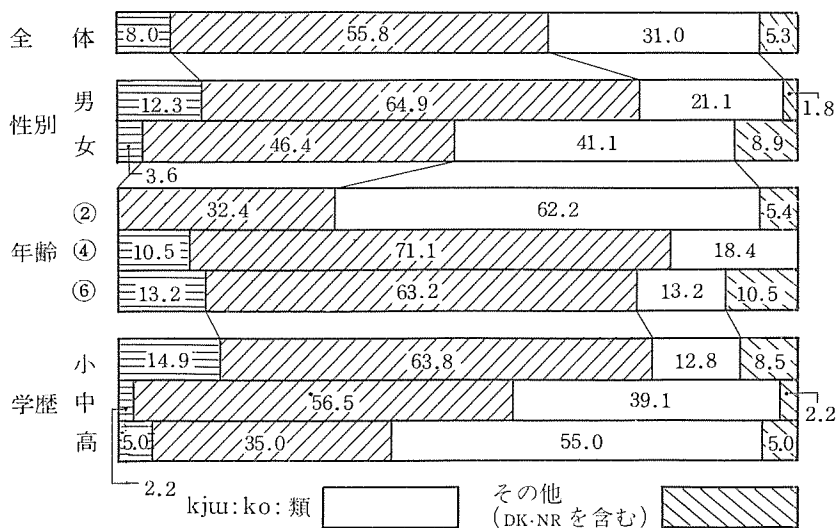
第64図 3.34 急行 (保)



第71表 3.34 急行 (茂)

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	9 (8.0)	63 (55.8)	35 (31.0)	6 (5.3)	113 (100)	** (2**3)	(2)	
性 別	男	7 (12.3)	37 (64.9)	12 (21.1)	1 (1.8)	57 (100)	** 2*2	2	
	女	2 (3.6)	26 (46.4)	23 (41.1)	5 (8.9)	56 (100)	**		
年 齢	②	0 (0)	12 (32.4)	23 (63.2)	2 (5.4)	37 (100)			
	④	4 (10.5)	27 (71.1)	7 (18.4)	0 (0)	38 (100)	** 2**2	2	*
	⑥	5 (13.2)	24 (63.2)	5 (13.2)	4 (10.5)	38 (100)	** (2**1, 3)	(2)	
学 歴	小	7 (14.9)	30 (63.8)	6 (12.8)	4 (8.5)	47 (100)	** (2**1)	(2)	
	中	1 (2.2)	26 (56.5)	18 (39.1)	1 (2.2)	46 (100)			
	高	1 —	7 —	11 —	1 —	20 —	—	—	
職 業	農	6 (12.2)	31 (63.3)	8 (16.3)	4 (8.2)	49 (100)	**		
	工	1 (4.2)	17 (70.8)	6 (25.0)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	5 —	4 —	1 —	10 —	—	—	
	事	1 —	3 —	13 —	1 —	18 —	—	—	
	無	1 —	7 —	4 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	5 (10.0)	28 (56.0)	15 (30.0)	2 (4.0)	50 (100)	** (2*3)	(2)	
	無	4 (6.3)	35 (55.6)	20 (31.7)	4 (6.3)	63 (100)	** (2*3)	(2)	

第65図 3.34 急行 (茂)

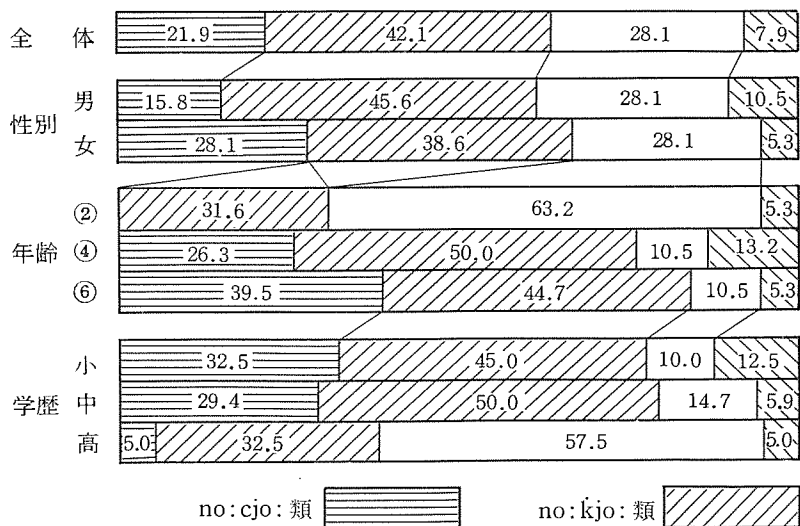


第72表 3.08 農協（保）

1. no:cjo:類 2. no:kjo:類 3. no:kjo:類 4. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全 体		25 (21.9)	48 (42.1)	32 (28.1)	4 (3.5)	5 (4.4)	114 (100)	**		
性 別	男	9 (15.8)	26 (45.6)	16 (28.1)	4 (7.0)	2 (3.5)	57 (100)	**		
	女	16 (28.1)	22 (38.6)	16 (28.1)	0 (0)	3 (5.3)	57 (100)	**		
年 齢	②	0 (0)	12 (31.6)	24 (63.2)	0 (0)	2 (5.3)	38 (100)	** (3*2)	(3)	**
	④	10 (26.3)	19 (50.0)	4 (10.5)	2 (5.3)	3 (7.9)	38 (100)			
	⑥	15 (39.5)	17 (44.7)	4 (10.5)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)			
学 歴	小	13 (32.5)	18 (45.0)	4 (10.0)	2 (5.0)	3 (7.5)	40 (100)			*
	中	10 (29.4)	17 (50.0)	5 (14.7)	2 (5.9)	0 (0)	34 (100)			
	高	2 (5.0)	13 (32.5)	23 (57.5)	0 (0)	2 (5.0)	40 (100)	**		
職 業	農	24 (29.3)	36 (43.9)	15 (18.3)	4 (4.9)	3 (3.7)	82 (100)	**		*
	工	0 —	3 —	3 —	0 —	1 —	7 —	—	—	
	商	1 —	1 —	2 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	6 —	11 —	0 —	1 —	18 —	—	—	
	無	0 —	2 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	13 (21.3)	27 (44.3)	14 (23.0)	3 (4.9)	4 (6.6)	61 (100)	** (2*3)	(2)	
	無	12 (22.6)	21 (39.6)	18 (34.0)	1 (1.9)	1 (1.9)	53 (100)			

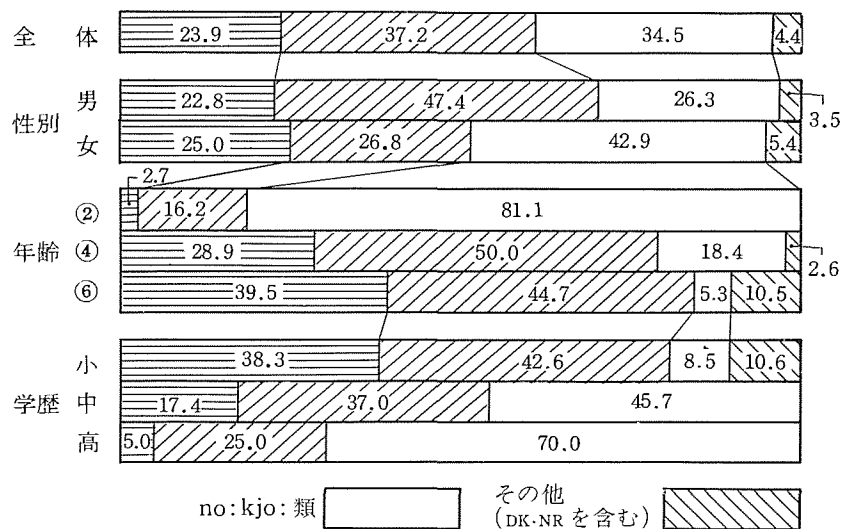
第66図 3.08 農協（保）



第73表 3.08 農協（茂）

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	27 (23.9)	42 (37.2)	39 (34.5)	5 (4.4)	113 (100)	*		
性 別	男	13 (22.8)	27 (47.4)	15 (26.3)	2 (3.5)	57 (100)			
	女	14 (25.0)	15 (26.8)	24 (42.9)	3 (5.4)	56 (100)	**		
年 齢	②	1 (2.7)	6 (16.2)	30 (81.1)	0 (0)	37 (100)	** 3**3	3	
	④	11 (28.9)	19 (50.0)	7 (18.4)	1 (2.6)	38 (100)			**
	⑥	15 (39.5)	17 (44.7)	2 (5.3)	4 (10.5)	38 (100)			
学 歴	小	18 (38.3)	20 (42.6)	4 (8.5)	5 (10.6)	47 (100)			
	中	8 (17.4)	17 (37.0)	21 (45.7)	0 (0)	46 (100)			
	高	1 —	5 —	14 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	17 (34.7)	24 (49.0)	5 (10.2)	3 (6.1)	49 (100)	*		
	工	3 (12.5)	12 (50.0)	8 (33.3)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	商	2 —	0 —	8 —	0 —	10 —	—	—	**
	事	1 —	2 —	15 —	0 —	18 —	—	—	
	無	4 —	4 —	3 —	1 —	12 —	—	—	
役 員	有	10 (20.0)	21 (42.0)	17 (34.0)	2 (4.0)	50 (100)			
	無	17 (27.0)	21 (33.3)	22 (34.9)	3 (4.8)	63 (100)			

第67図 3.08 農協（茂）

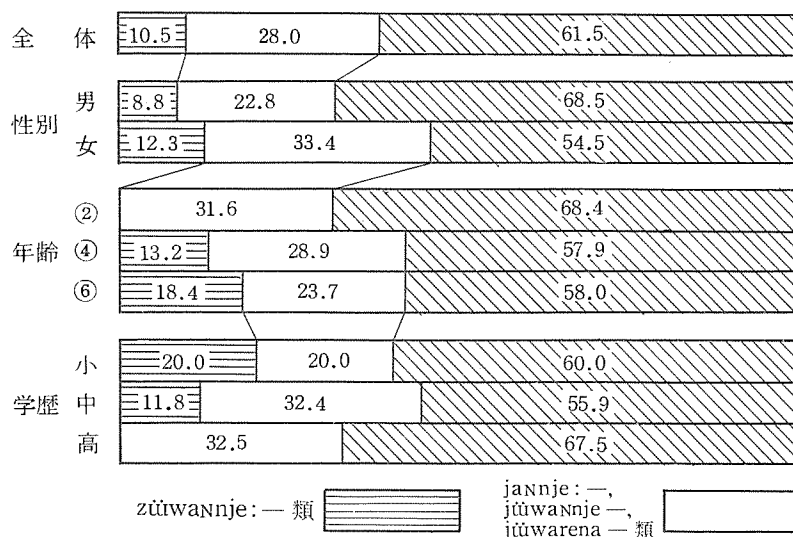


第74表 1.32 いわれない（保）

1. züwannje:gatta 類 2. jannje:gatta 類 3. jüwannje:gatta 類 4. jüwarenagatta 類

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体	12 (10.5)	0 (0)	29 (25.4)	3 (2.6)	31 (27.2)	1 (0.9)	9 (7.9)	6 (5.3)	5 (4.4)	9 (7.9)	9 (7.9)	114 (100)	**		
性 別	男	5 (8.8)	0 (0)	11 (19.3)	2 (3.5)	16 (28.1)	0 (0)	7 (12.3)	3 (5.3)	2 (3.5)	5 (8.8)	6 (10.5)	57 (100)		
	女	7 (12.3)	0 (0)	18 (31.6)	1 (1.8)	15 (26.3)	1 (1.8)	2 (3.5)	3 (5.3)	3 (5.3)	4 (7.0)	3 (5.3)	57 (100)		
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	10 (26.3)	2 (5.3)	8 (21.1)	0 (0)	6 (15.8)	3 (7.9)	4 (10.5)	1 (2.6)	4 (10.5)	38 (100)		
	④	5 (13.2)	0 (0)	11 (28.9)	0 (0)	8 (21.1)	1 (2.6)	3 (7.9)	3 (7.9)	1 (2.6)	3 (7.9)	3 (7.9)	38 (100)		
	⑥	7 (18.4)	0 (0)	8 (21.1)	1 (2.6)	15 (39.5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (13.2)	2 (5.3)	38 (100)		
学 歴	小	8 (20.0)	0 (0)	7 (17.5)	1 (2.5)	10 (25.0)	1 (2.5)	3 (7.5)	2 (5.0)	0 (0)	4 (10.0)	4 (10.0)	40 (100)		
	中	4 (11.8)	0 (0)	11 (32.4)	0 (0)	11 (32.4)	0 (0)	1 (2.9)	0 (0)	2 (5.9)	3 (8.8)	2 (5.9)	34 (100)	——	—
	高	0 (0)	0 (0)	11 (27.5)	2 (5.0)	10 (25.0)	0 (0)	5 (12.5)	4 (10.0)	3 (7.5)	2 (5.0)	3 (7.5)	40 (100)		
職 業	農	12 (14.6)	0 (0)	21 (25.6)	2 (2.4)	24 (29.3)	1 (1.2)	3 (3.7)	4 (4.9)	1 (1.2)	9 (11.0)	5 (6.1)	82 (100)	**	
	工	0 —	0 —	2 —	0 —	3 —	0 —	1 —	0 —	1 —	0 —	0 —	7 —	——	—
	商	0 —	0 —	3 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	0 —	4 —	——	—
	事	0 —	0 —	3 —	1 —	3 —	0 —	4 —	2 —	2 —	0 —	3 —	18 —	——	—
	無	0 —	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	1 —	3 —	——	—
役 員	有	7 (11.5)	0 (0)	13 (21.3)	2 (3.3)	18 (29.5)	1 (1.6)	3 (4.9)	5 (8.2)	2 (3.3)	4 (6.6)	6 (9.8)	61 (100)		
	無	5 (9.4)	0 (0)	16 (30.2)	1 (1.9)	13 (24.5)	0 (0)	6 (11.3)	1 (1.9)	3 (5.7)	5 (9.4)	3 (5.7)	53 (100)		

第70図 1.32 いわれない（保）

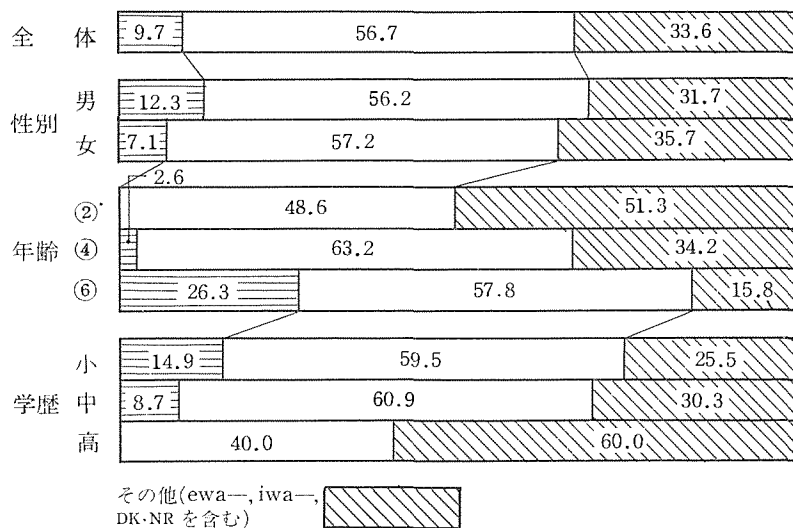


第75表 1.32 いわれない (茂)

5. ewannje:gatta 類 6. ewarenagatta 類 7. iwannje:gatta 類 8. iwanne:gatta 類 9. iwarenakatta 類
10. その他

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		11 (9.7)	3 (2.7)	60 (53.1)	1 (0.9)	12 (10.6)	2 (1.8)	5 (4.4)	2 (1.8)	5 (4.4)	8 (7.1)	4 (3.5)	113 (100)	** (3**5)	(3)	
性 別	男	7 (12.3)	1 (1.8)	31 (54.4)	0 (0)	4 (7.0)	1 (1.8)	1 (1.8)	1 (1.8)	4 (7.0)	4 (7.0)	3 (5.3)	57 (100)	** (3**1)	(3)	
	女	4 (7.1)	2 (3.6)	29 (51.8)	1 (1.8)	8 (14.3)	1 (1.8)	4 (7.1)	1 (1.8)	1 (1.8)	4 (7.1)	1 (1.8)	56 (100)	** (3**5)	(3)	
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	18 (48.6)	0 (0)	4 (10.8)	2 (5.4)	3 (8.1)	2 (5.4)	4 (10.8)	3 (8.1)	1 (2.7)	37 (100)	** (3**5, 9)	(3)	
	④	1 (2.6)	2 (5.3)	22 (57.9)	0 (0)	4 (10.5)	0 (0)	2 (5.3)	0 (0)	1 (2.6)	3 (7.9)	3 (7.9)	38 (100)	** (3**5)	(3)	
	⑥	10 (26.3)	1 (2.6)	20 (52.6)	1 (2.6)	4 (10.5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)			
学 歴	小	7 (14.9)	1 (2.1)	26 (55.3)	1 (2.1)	8 (17.0)	0 (0)	1 (2.1)	0 (0)	0 (0)	2 (4.3)	1 (2.1)	47 (100)	** (3**5)	(3)	
	中	4 (8.7)	0 (0)	28 (60.9)	0 (0)	2 (4.3)	0 (0)	4 (8.7)	1 (2.2)	2 (4.3)	3 (6.5)	2 (4.3)	46 (100)	** (3**1, 7)	(3)	
	高	0 —	2 —	6 —	0 —	2 —	2 —	0 —	1 —	3 —	3 —	1 —	20 —	—	—	
職 業	農	10 (20.4)	1 (2.0)	30 (61.2)	1 (2.0)	2 (4.1)	0 (0)	1 (2.0)	0 (0)	0 (0)	2 (4.1)	2 (4.1)	49 (100)	** (3**1)	(3)	
	工	0 (0)	0 (0)	12 (30.0)	0 (0)	3 (12.5)	0 (0)	2 (8.3)	1 (4.2)	1 (4.2)	4 (16.7)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	1 —	4 —	0 —	1 —	2 —	1 —	0 —	1 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	0 —	0 —	9 —	0 —	1 —	0 —	1 —	1 —	3 —	2 —	1 —	18 —	—	—	
	無	1 —	1 —	5 —	0 —	5 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	7 (14.0)	3 (6.0)	22 (44.0)	0 (0)	5 (10.0)	0 (0)	3 (6.0)	0 (0)	2 (4.0)	6 (12.0)	2 (4.0)	50 (100)	** (3**1)	(3)	
	無	4 (6.3)	0 (0)	38 (60.3)	1 (1.6)	7 (11.1)	2 (3.2)	2 (3.2)	2 (3.2)	3 (4.8)	2 (3.2)	2 (3.2)	63 (100)	** (3*5)	(3)	

第71図 1.32 いわれない (茂)

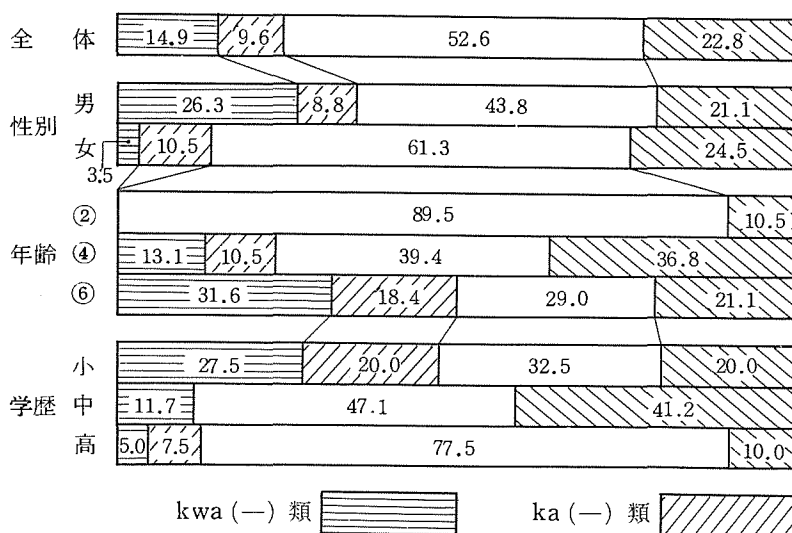


第76表 1.15 桑の木 (保)

1. kwa 類 2. kwanogī 類 3. kanogī 類 4. kanugī 類 5. kuwa 類

		1	2	3	4	5	6	7	8	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全 体		4 (3.5)	13 (11.4)	11 (9.6)	0 (0)	12 (10.5)	16 (14.0)	32 (28.1)	21 (18.4)	5 (4.4)	114 (100)	**		
性 別	男	4 (7.0)	11 (19.3)	5 (8.8)	0 (0)	4 (7.0)	6 (10.5)	15 (26.3)	11 (19.3)	1 (1.8)	57 (100)			
	女	0 (0)	2 (3.5)	6 (10.5)	0 (0)	8 (14.0)	10 (17.5)	17 (29.8)	10 (17.5)	4 (7.0)	57 (100)			
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (13.2)	13 (34.2)	16 (42.1)	3 (7.9)	1 (2.6)	38 (100)	*		
	④	1 (2.6)	4 (10.5)	4 (10.5)	0 (0)	3 (7.9)	1 (2.6)	11 (28.9)	10 (26.3)	4 (10.5)	38 (100)			
	⑥	3 (7.9)	9 (23.7)	7 (18.4)	0 (0)	4 (10.5)	2 (5.3)	5 (13.2)	8 (21.1)	0 (0)	38 (100)			
学 歴	小	3 (7.5)	8 (20.0)	8 (20.0)	0 (0)	5 (12.5)	1 (2.5)	7 (17.5)	6 (15.0)	2 (5.0)	40 (100)	—	—	
	中	1 (2.9)	3 (8.8)	0 (0)	0 (0)	2 (5.9)	2 (5.9)	12 (35.3)	12 (35.3)	2 (5.9)	34 (100)	—	—	
	高	0 (0)	2 (5.0)	3 (7.5)	0 (0)	5 (12.5)	13 (32.5)	13 (32.5)	3 (7.5)	1 (2.5)	40 (100)	—	—	
職 業	農	3 (3.7)	13 (15.8)	11 (13.4)	0 (0)	7 (8.5)	7 (8.5)	19 (23.2)	19 (23.2)	3 (3.7)	82 (100)	—	—	
	工	0 —	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	5 —	1 —	0 —	7 —	—	—	
	商	1 —	0 —	0 —	0 —	1 —	1 —	1 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	6 —	7 —	1 —	1 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	2 —	0 —	0 —	1 —	3 —	—	—	
役 員	有	4 (6.6)	11 (18.0)	9 (14.8)	0 (0)	7 (11.5)	5 (8.2)	13 (21.3)	9 (14.8)	3 (4.9)	61 (100)			
	無	0 (0)	2 (3.8)	2 (3.8)	0 (0)	5 (9.4)	11 (20.8)	19 (35.8)	12 (22.6)	2 (3.8)	53 (100)	*		

第72図 1.15 桑の木 (保)

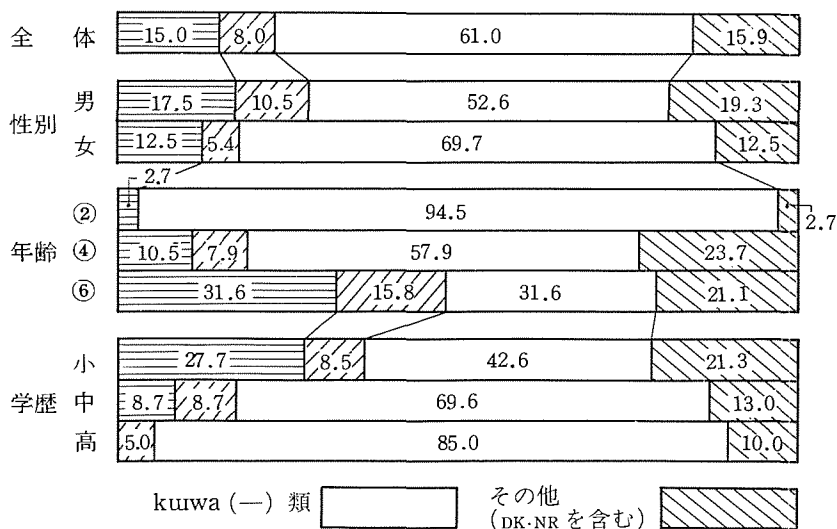


第77表 1.15 桑の木 (茂)

6. kuwanoki 類 7. kuwanogi 類 8. その他

		1	2	3	4	5	6	7	8	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		0 (0)	17 (15.0)	9 (8.0)	0 (0)	5 (4.4)	19 (16.8)	45 (39.8)	18 (15.9)	0 (0)	113 (100)	** (7**6)	(7)	
性 別	男	0 (0)	10 (17.5)	6 (10.5)	0 (0)	3 (5.3)	6 (10.5)	21 (36.8)	11 (19.3)	0 (0)	57 (100)	*		
	女	0 (0)	7 (12.5)	3 (5.4)	0 (0)	2 (3.6)	13 (23.2)	24 (42.9)	7 (12.5)	0 (0)	56 (100)	*		
年 齢	②	0 (0)	1 (2.7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	17 (45.9)	18 (48.6)	1 (2.7)	0 (0)	37 (100)	**		*
	④	0 (0)	4 (10.5)	3 (7.9)	0 (0)	3 (7.9)	1 (2.6)	18 (47.4)	9 (23.7)	0 (0)	38 (100)			
	⑥	0 (0)	12 (31.6)	6 (15.8)	0 (0)	2 (5.3)	1 (2.6)	9 (23.7)	8 (21.1)	0 (0)	38 (100)			
学 歴	小	0 (0)	13 (27.7)	4 (8.5)	0 (0)	2 (4.3)	2 (4.3)	16 (34.0)	10 (21.3)	0 (0)	47 (100)			
	中	0 (0)	4 (8.7)	4 (8.7)	0 (0)	2 (4.3)	9 (19.6)	21 (45.7)	6 (13.0)	0 (0)	46 (100)	** (7*6)	(7)	
	高	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20	—	—	
職 業	農	0 (0)	12 (24.5)	5 (10.2)	0 (0)	2 (4.1)	2 (4.1)	13 (26.5)	15 (30.6)	0 (0)	49 (100)			
	工	0 (0)	4 (16.7)	2 (8.3)	0 (0)	0 (0)	3 (12.5)	14 (58.3)	1 (4.2)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	—	—	
	事	—	—	—	—	—	—	—	—	—	18	—	—	
	無	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	—	—	
役 員	有	0 (0)	10 (20.0)	5 (10.0)	0 (0)	3 (6.0)	6 (12.0)	15 (30.0)	11 (22.0)	0 (0)	50 (100)			
	無	0 (0)	7 (11.1)	4 (6.3)	0 (0)	2 (3.2)	13 (20.6)	30 (47.6)	7 (11.1)	0 (0)	63 (100)	** (7**6)	(7)	

第73図 1.15 桑の木 (茂)

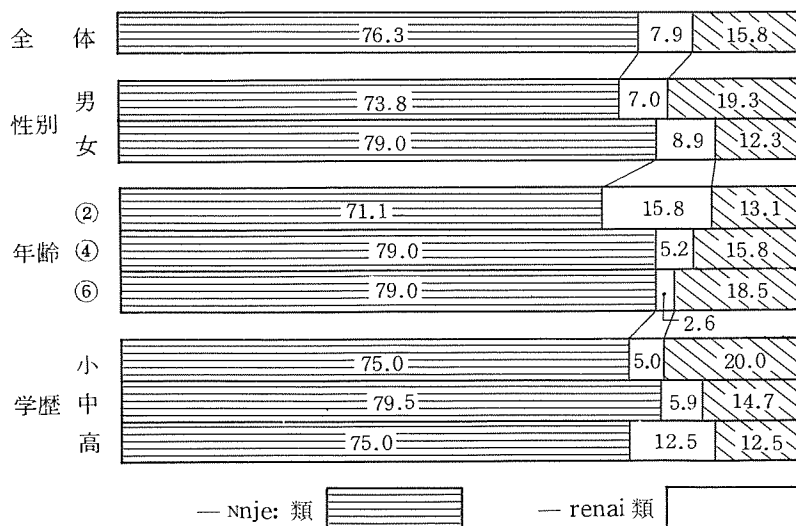


第78表 1.30 白粉 (保)

1. offi: 類 2. offe: 類 3. offoi 類 4. ostüroi 類 5. ošroi 類

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		² (1.8)	⁴ (3.5)	² (1.8)	⁴ (3.5)	⁸³ (72.8)	⁴ (3.5)	¹² (10.5)	³ (2.6)	¹¹⁴ (100)	** 5**5	5	
	性 別												
	男	¹ (1.8)	³ (5.3)	² (3.5)	³ (5.3)	³⁸ (66.7)	¹ (1.8)	⁷ (12.3)	² (3.5)	⁵⁷ (100)	** 5*5	5	
	女	¹ (1.8)	¹ (1.8)	⁰ (0)	¹ (1.8)	⁴⁵ (78.9)	³ (5.3)	⁵ (8.7)	¹ (1.8)	⁵⁷ (100)	** 5**5	5	
年 齢	②	⁰ (0)	⁰ (0)	⁰ (0)	⁰ (0)	³² (84.2)	³ (7.9)	¹ (2.6)	² (5.3)	³⁸ (100)	** 5**5	5	
	④	¹ (2.6)	¹ (2.6)	⁰ (0)	² (5.3)	³⁰ (78.9)	¹ (2.6)	² (5.3)	¹ (2.6)	³⁸ (100)	** 5**5	5	
	⑥	¹ (2.6)	³ (7.9)	² (5.3)	² (5.3)	²¹ (55.3)	⁰ (0)	⁹ (23.7)	⁰ (0)	³⁸ (100)	** (5*7)	(5)	
学 歴	小	² (5.0)	² (5.0)	¹ (2.5)	³ (7.5)	²⁸ (70.0)	⁰ (0)	⁴ (10.0)	⁰ (0)	⁴⁰ (100)	** 5*5	5	
	中	⁰ (0)	⁰ (0)	¹ (2.9)	¹ (2.9)	²³ (67.6)	² (5.9)	⁷ (20.6)	⁰ (0)	³⁴ (100)	** 5*5	5	
	高	⁰ (0)	² (5.0)	⁰ (0)	⁰ (0)	³² (80.0)	² (5.0)	¹ (2.5)	³ (7.5)	⁴⁰ (100)	** 5**5	5	
職 業	農	² (2.4)	⁴ (4.9)	² (2.4)	⁴ (4.9)	⁵⁷ (69.5)	¹ (1.2)	¹⁰ (12.2)	² (2.4)	⁸² (100)	** 5**5	5	
	工	⁰ —	⁰ —	⁰ —	⁰ —	⁵ —	¹ —	¹ —	⁰ —	⁷ —	—	—	
	商	⁰ —	⁰ —	⁰ —	⁰ —	³ —	⁰ —	¹ —	⁰ —	⁴ —	—	—	
	事	⁰ —	⁰ —	⁰ —	⁰ —	¹⁶ —	¹ —	⁰ —	¹ —	¹⁸ —	—	—	
	無	⁰ —	⁰ —	⁰ —	⁰ —	² —	¹ —	⁰ —	⁰ —	³ —	—	—	
役 員	有	⁰ (0)	³ (4.9)	² (3.3)	⁴ (6.6)	⁴¹ (67.2)	¹ (1.6)	⁹ (14.8)	¹ (1.6)	⁶¹ (100)	** 5**5	5	
	無	² (3.8)	¹ (1.9)	⁰ (0)	⁰ (0)	⁴² (79.2)	³ (5.7)	³ (5.7)	² (3.8)	⁵³ (100)	** 5**5	5	

第78図 1.32 言われない (保)

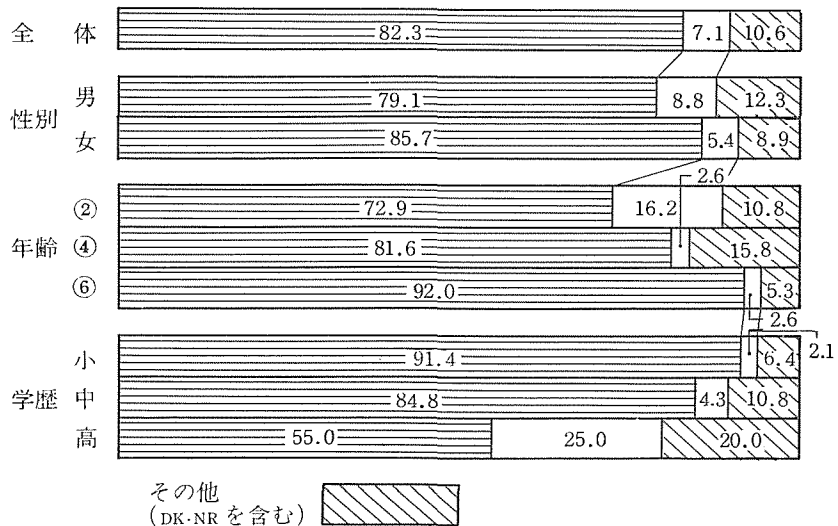


第79表 1.30 白粉（茂）

6. ojiroi 類 7. その他

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	1 (0.9)	7 (6.2)	1 (0.9)	3 (2.7)	86 (76.1)	4 (3.5)	6 (5.3)	5 (4.4)	113 (100)	** 5**5	5	
性 別	男	1 (1.8)	7 (12.3)	1 (1.8)	2 (3.5)	39 (68.4)	1 (1.8)	4 (7.0)	2 (3.5)	57 (100)	** 5**5	5	
	女	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1.8)	47 (83.9)	3 (5.4)	2 (3.6)	3 (5.4)	56 (100)	** 5**5	5	
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	1 (2.7)	0 (0)	27 (73.0)	4 (10.8)	0 (0)	5 (13.5)	37 (100)	** 5**5	5	
	④	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	35 (92.1)	0 (0)	3 (7.9)	0 (0)	38 (100)	** 5**5	5	
	⑥	1 (2.6)	7 (18.4)	0 (0)	3 (7.9)	24 (63.2)	0 (0)	3 (7.9)	0 (0)	38 (100)	** (5**2)	(5)	
学 歴	小	0 (0)	5 (10.6)	0 (0)	3 (6.4)	34 (72.3)	0 (0)	5 (10.6)	0 (0)	47 (100)	** 5**5	5	
	中	1 (2.2)	2 (4.3)	1 (2.2)	0 (0)	36 (78.3)	1 (2.2)	1 (2.2)	4 (8.7)	46 (100)	** 5**5	5	
	高	—	—	—	—	16 —	3 —	0 —	1 —	20 —	—	—	
職 業	農	1 (2.0)	7 (14.3)	0 (0)	2 (4.1)	36 (73.5)	0 (0)	3 (6.1)	0 (0)	49 (100)	** 5**5	5	
	工	0 (0)	0 (0)	1 (4.2)	0 (0)	21 (87.5)	0 (0)	1 (4.2)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	商	—	—	—	—	7 —	2 —	0 —	1 —	10 —	—	—	
	事	—	—	—	—	12 —	2 —	1 —	3 —	18 —	—	—	
	無	—	—	—	1 —	10 —	—	1 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	1 (2.0)	6 (12.0)	1 (2.0)	2 (4.0)	35 (70.0)	1 (2.0)	3 (6.0)	1 (2.0)	50 (100)	** 5**5	5	
	無	0 (0)	1 (1.6)	0 (0)	1 (1.6)	51 (81.0)	3 (4.8)	3 (4.8)	4 (6.3)	63 (100)	** 5**5	5	

第79図 1.32 言われない（茂）

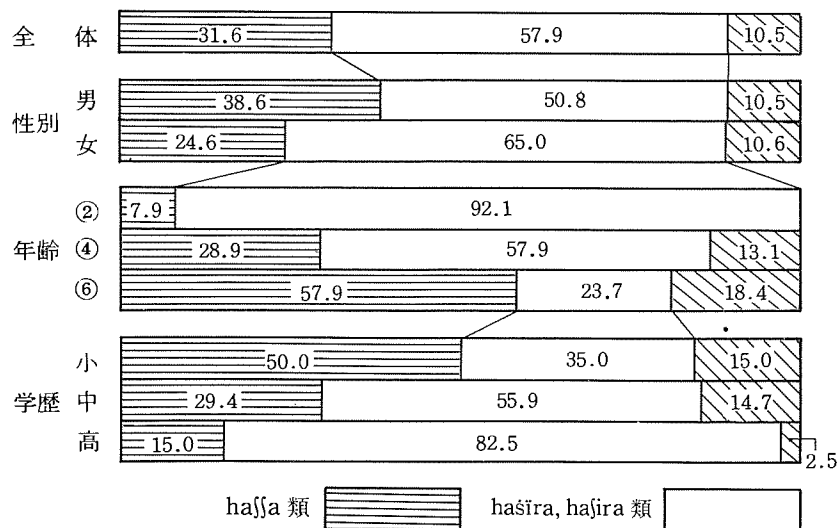


第80表 3.10 柱(保)

1. haſſa 類 2. haſira 類 3. haſira 類 4. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		36 (31.6)	22 (19.3)	44 (38.6)	11 (9.6)	1 (0.9)	114 (100)	**		
性 別	男	22 (38.6)	10 (17.5)	19 (33.3)	6 (10.5)	0 (0)	57 (100)			
	女	14 (24.6)	12 (21.1)	25 (43.9)	5 (8.8)	1 (1.8)	57 (100)	**		
年 齢	②	3 (7.9)	11 (28.9)	24 (63.2)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** (3*2)	(3)	
	④	11 (28.9)	6 (15.8)	16 (42.1)	4 (10.5)	1 (2.6)	38 (100)			
	⑥	22 (57.9)	5 (13.2)	4 (10.5)	7 (18.4)	0 (0)	38 (100)	** (1**4)	(1)	
学 歴	小	20 (50.0)	6 (15.0)	8 (20.0)	5 (12.5)	1 (2.5)	40 (100)	** (1*3)	(1)	*
	中	10 (29.4)	9 (26.5)	10 (29.4)	5 (14.7)	0 (0)	34 (100)	—	—	
	高	6 (15.0)	7 (17.5)	26 (65.0)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)	** (3**2)	(3)	
職 業	農	31 (37.8)	14 (17.1)	25 (30.5)	11 (13.4)	1 (1.2)	82 (100)	**		
	工	1 —	3 —	3 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	1 —	1 —	2 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	2 —	3 —	13 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	1 —	1 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	25 (41.0)	9 (14.8)	20 (32.8)	6 (9.8)	1 (1.6)	61 (100)	**		
	無	11 (20.8)	13 (24.5)	24 (45.3)	5 (9.4)	0 (0)	53 (100)	**		

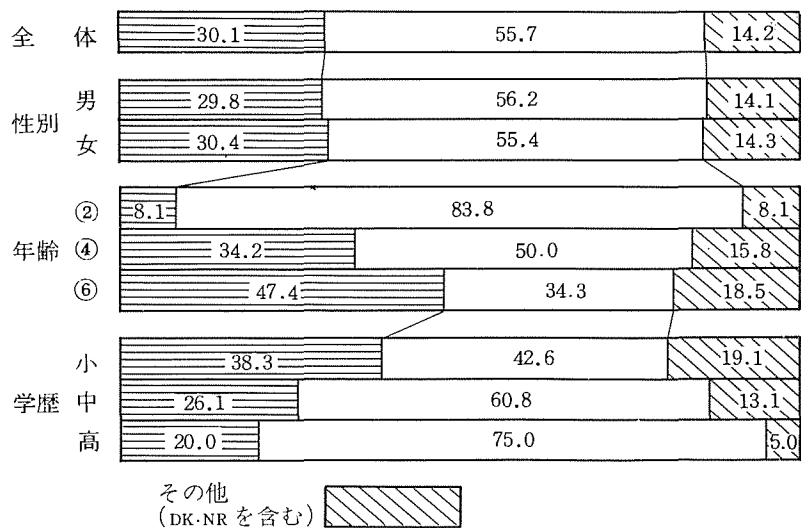
第74図 3.10 柱(保)



第81表 3.10 柱(茂)

		1	2	3	4	N・R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全 体		34 (30.1)	17 (15.0)	46 (40.7)	14 (12.4)	2 (1.8)	113 (100)	**		
性 別	男	17 (29.8)	9 (15.8)	23 (40.4)	7 (12.3)	1 (1.8)	57 (100)	*		
	女	17 (30.4)	8 (14.3)	23 (41.1)	7 (12.5)	1 (1.8)	56 (100)	*		
年 齢	②	3 (8.1)	3 (8.1)	28 (75.7)	2 (5.4)	1 (2.7)	37 (100)	** 3**3	3	**
	④	13 (34.2)	7 (18.4)	12 (31.6)	6 (15.8)	0 (0)	38 (100)			
	⑥	18 (47.4)	7 (18.4)	6 (15.8)	6 (15.8)	1 (2.6)	38 (100)	** (1*2)	(1)	
学 歴	小	18 (38.3)	10 (21.3)	10 (21.3)	8 (17.0)	1 (2.1)	47 (100)			
	中	12 (26.1)	6 (13.0)	22 (47.8)	5 (10.9)	1 (2.2)	46 (100)	**		
	高	4 —	1 —	14 —	1 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	21 (42.9)	8 (16.3)	10 (20.4)	9 (18.4)	1 (2.0)	49 (100)	** (1*3)	(1)	
	工	5 (20.8)	5 (20.8)	13 (54.2)	0 (0)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	商	1 —	0 —	6 —	3 —	0 —	10 —	—	—	
	事	3 —	2 —	12 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	4 —	2 —	5 —	1 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	18 (36.0)	6 (12.0)	21 (42.0)	5 (10.0)	0 (0)	50 (100)			
	無	16 (25.4)	11 (17.5)	25 (39.7)	9 (14.3)	2 (3.2)	63 (100)	*		

第75図 3.10 柱(茂)

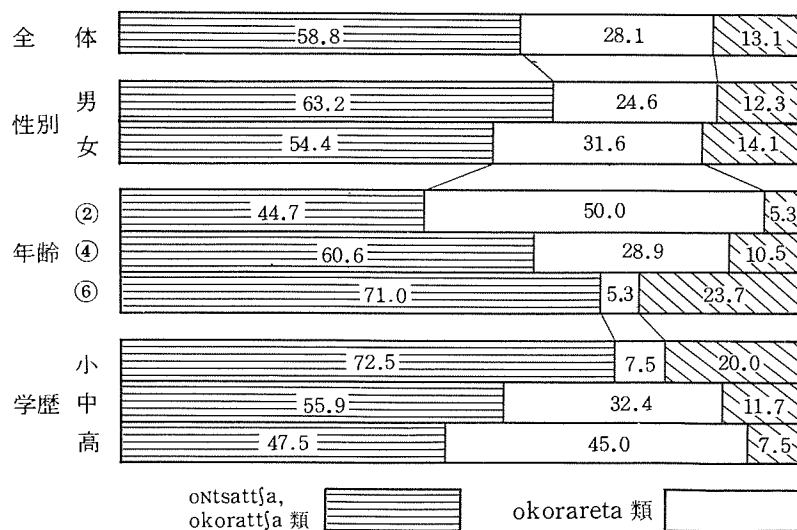


第82表 1.24 叱られた(保)

1. ontsattʃa 類 2. okorattʃa 類 3. okorareta 類

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	26 (22.8)	41 (36.0)	32 (28.1)	12 (10.5)	3 (2.6)	114 (100)	**		
性 別	男	14 (24.6)	22 (38.6)	14 (24.6)	7 (12.3)	0 (0)	57 (100)	*		
	女	12 (21.1)	19 (33.3)	18 (31.6)	5 (8.8)	3 (5.3)	57 (100)			
年 齢	②	1 (2.6)	16 (42.1)	19 (50.0)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)	**		**
	④	5 (13.2)	18 (47.4)	11 (28.9)	1 (2.6)	3 (7.9)	38 (100)			
	⑥	20 (52.6)	7 (18.4)	2 (5.3)	9 (23.7)	0 (0)	38 (100)	** (1*4)	(1)	
学 歴	小	16 (40.0)	13 (32.5)	3 (7.5)	6 (15.0)	2 (5.0)	40 (100)			
	中	7 (20.6)	12 (35.3)	11 (32.4)	3 (8.8)	1 (2.9)	34 (100)			
	高	3 (7.5)	16 (40.0)	18 (45.0)	3 (7.5)	0 (0)	40 (100)	*		
職 業	農	23 (28.0)	29 (35.4)	16 (19.5)	11 (13.4)	3 (3.7)	82 (100)	*		
	工	0 —	2 —	5 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	1 —	1 —	2 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	1 —	8 —	8 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	1 —	1 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	18 (29.5)	18 (29.5)	15 (24.6)	8 (13.1)	2 (3.3)	61 (100)	—	—	
	無	8 (15.1)	23 (43.4)	17 (32.1)	4 (7.5)	1 (1.9)	53 (100)			

第76図 1.24 叱られた(保)

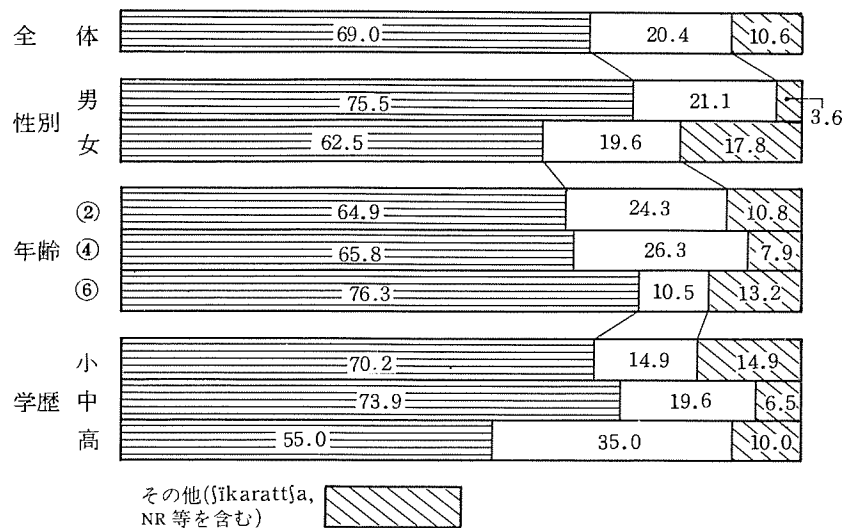


第83表 1.24 叱られた (茂)

4. ſikarattſa 他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全 体		21 (18.6)	57 (50.4)	23 (20.4)	7 (6.2)	5 (4.4)	113 (100)	** (2**3)	(2)	
性 別	男	12 (21.1)	31 (54.4)	12 (21.1)	1 (1.8)	1 (1.8)	57 (100)	** (2**1,3)	(2)	
	女	9 (16.1)	26 (46.4)	11 (19.6)	6 (10.7)	4 (7.1)	56 (100)	** (2*3)	(2)	
年 齢	②	0 (0)	24 (64.9)	9 (24.3)	1 (2.7)	3 (8.1)	37 (100)	** (2**3)	(2)	**
	④	2 (5.3)	23 (60.5)	10 (26.3)	3 (7.9)	0 (0)	38 (100)	** (2*3)	(2)	
	⑥	19 (50.0)	10 (26.3)	4 (10.5)	3 (7.9)	2 (5.3)	38 (100)			
学 歴	小	19 (40.4)	14 (29.8)	7 (14.9)	5 (10.6)	2 (4.3)	47 (100)			*
	中	2 (4.3)	32 (69.6)	9 (19.6)	2 (4.3)	1 (2.2)	46 (100)	** 2**2	2	
	高	0 —	11 —	7 —	0 —	2 —	20 —	—	—	
職 業	農	14 (28.6)	22 (44.9)	8 (16.3)	3 (6.1)	2 (4.1)	49 (100)			
	工	2 (8.3)	15 (62.5)	5 (20.8)	2 (8.3)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	6 —	2 —	0 —	2 —	10 —	—	—	
	事	0 —	11 —	5 —	1 —	1 —	18 —	—	—	
	無	5 —	3 —	3 —	1 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	14 (28.0)	24 (48.0)	10 (20.0)	0 (0)	2 (4.0)	50 (100)			
	無	7 (11.1)	33 (52.4)	13 (20.6)	7 (11.1)	3 (4.8)	63 (100)	** (2**3)	(2)	

第77図 1.24 叱られた (茂)

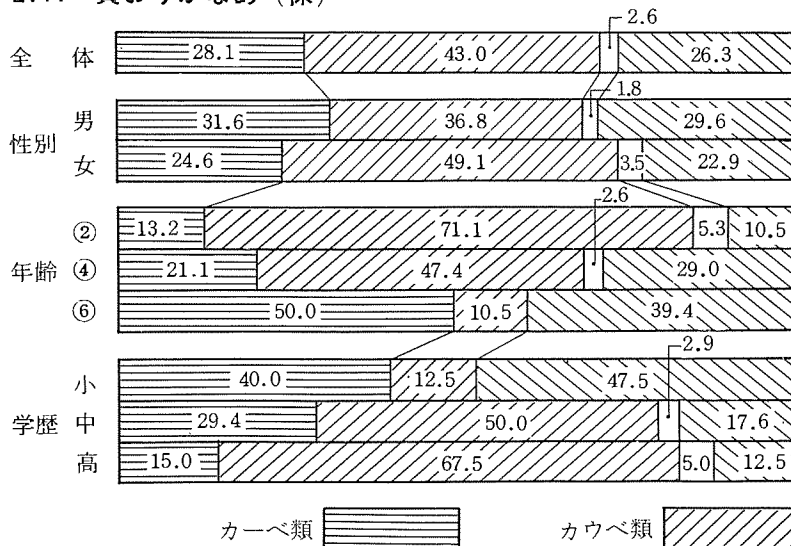


第84表 2.11 買おうかなあ（保）

1. カーベ類 2. カウベ類 3. カオーカナ類 4. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		32 (28.1)	49 (43.0)	3 (2.6)	3 (2.6)	27 (23.7)	114 (100)	**		
性 別	男	18 (31.6)	21 (36.8)	1 (1.8)	2 (3.5)	15 (26.3)	57 (100)			
	女	14 (24.6)	28 (49.1)	2 (3.5)	1 (1.8)	12 (21.1)	57 (100)	** (2*1)	(2)	
年 齢	②	5 (13.2)	27 (71.1)	2 (5.3)	0 (0)	4 (10.5)	38 (100)	** 2**2	2	**
	④	8 (21.1)	18 (47.4)	1 (2.6)	2 (5.3)	9 (23.7)	38 (100)			
	⑥	19 (50.0)	4 (10.5)	0 (0)	1 (2.6)	14 (36.8)	38 (100)	*		
学 歴	小	16 (40.0)	5 (12.5)	0 (0)	2 (5.0)	17 (42.5)	40 (100)			*
	中	10 (29.4)	17 (50.0)	1 (2.9)	1 (2.9)	5 (14.7)	34 (100)			
	高	6 (15.0)	27 (67.5)	2 (5.0)	0 (0)	5 (12.5)	40 (100)	** 2*2	2	
職 業	農	25 (30.5)	30 (36.6)	1 (1.2)	3 (3.7)	23 (28.0)	82 (100)	**		
	工	1 —	5 —	0 —	0 —	1 —	7 —	—	—	
	商	0 —	2 —	1 —	0 —	1 —	4 —	—	—	
	事	4 —	11 —	1 —	0 —	2 —	18 —	—	—	
	無	2 —	1 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	20 (32.8)	19 (31.1)	1 (1.6)	2 (3.3)	19 (31.1)	61 (100)	**		
	無	12 (22.6)	30 (56.6)	2 (3.8)	1 (1.9)	8 (15.1)	53 (100)	** (2**1)	(2)	

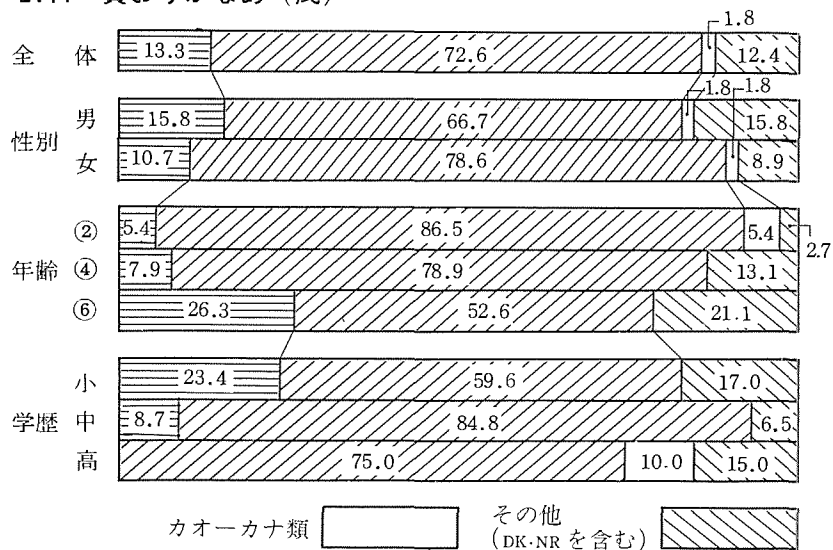
第80図 2.11 買おうかなあ（保）



第85表 2.11 買おうかなあ（茂）

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		15 (13.3)	82 (72.6)	2 (1.8)	1 (0.9)	13 (11.5)	113 (100)	** 2**2	2	
性 別	男	9 (15.8)	38 (66.7)	1 (1.8)	1 (1.8)	8 (14.0)	57 (100)	** 2*2	2	
	女	6 (10.7)	44 (78.6)	1 (1.8)	0 (0)	5 (8.9)	56 (100)	** 2**2	2	
年 齢	②	2 (5.4)	32 (86.5)	2 (5.4)	0 (0)	1 (2.7)	37 (100)	** 2**2	2	
	④	3 (7.9)	30 (78.9)	0 (0)	1 (2.6)	4 (10.5)	38 (100)	** 2**2	2	
	⑥	10 (26.3)	20 (52.6)	0 (0)	0 (0)	8 (21.1)	38 (100)			
学 歴	小	11 (23.4)	28 (59.6)	0 (0)	0 (0)	8 (17.0)	47 (100)	** (2**1)	(2)	
	中	4 (8.7)	39 (84.8)	0 (0)	0 (0)	3 (6.5)	46 (100)	** 2**2	2	
	高	0 —	15 —	2 —	1 —	2 —	20 —	—	—	
職 業	農	8 (16.3)	31 (63.3)	0 (0)	0 (0)	10 (20.4)	49 (100)	** (2**N.R)	(2)	
	工	1 (4.2)	21 (87.5)	0 (0)	1 (4.2)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	8 —	1 —	0 —	1 —	10 —	—	—	
	事	2 —	15 —	1 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	4 —	7 —	0 —	0 —	1 —	12 —	—	—	
役 員	有	5 (10.0)	35 (70.0)	0 (0)	1 (2.0)	9 (18.0)	50 (100)	** 2**2	2	
	無	10 (15.9)	47 (74.6)	2 (3.2)	0 (0)	4 (6.3)	63 (100)	** 2**2	2	

第81図 2.11 買おうかなあ（茂）



第86表 2.34 こっちへ来い (保)

1. コー類 2. コランショ類 3. コイ類 4. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		95 (83.3)	6 (5.3)	9 (7.9)	2 (1.8)	2 (1.8)	114 (100)	** 1** \bar{I}	1	
性 別	男	51 (89.5)	0 (0)	6 (10.5)	0 (0)	0 (0)	57 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	女	44 (77.2)	6 (10.5)	3 (5.3)	2 (3.5)	2 (3.5)	57 (100)	** 1** \bar{I}	1	
年 齢	②	27 (71.1)	4 (10.5)	5 (13.2)	0 (0)	2 (5.3)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	④	33 (86.8)	2 (5.3)	2 (5.3)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	⑥	35 (92.1)	0 (0)	2 (5.3)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
学 歴	小	36 (90.0)	1 (2.5)	2 (5.0)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	中	30 (88.2)	1 (2.9)	2 (5.9)	1 (2.9)	0 (0)	34 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	高	29 (72.5)	4 (10.0)	5 (12.5)	0 (0)	2 (5.0)	40 (100)	** 1** \bar{I}	1	
職 業	農	72 (87.8)	2 (2.4)	6 (7.3)	2 (2.4)	0 (0)	82 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	工	5 —	0 —	1 —	0 —	1 —	7 —	— —	—	
	商	4 —	0 —	0 —	0 —	0 —	4 —	— —	—	
	事	12 —	3 —	2 —	0 —	1 —	18 —	— —	—	
	無	2 —	1 —	0 —	0 —	0 —	3 —	— —	—	
役 員	有	53 (86.9)	3 (4.9)	5 (8.2)	0 (0)	0 (0)	61 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	無	42 (79.2)	3 (5.7)	4 (7.5)	2 (3.8)	2 (3.8)	53 (100)	** 1** \bar{I}	1	

第87表 2.34 こっちへ来い (茂)

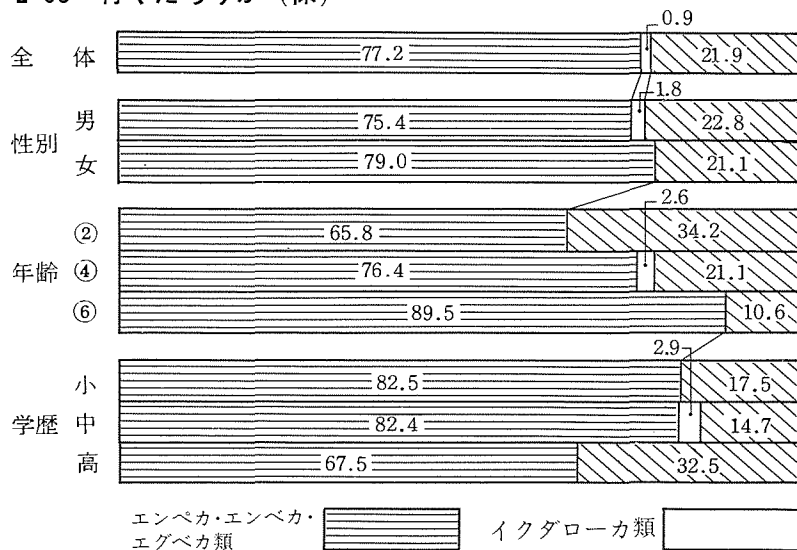
		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全 体		97 (85.8)	7 (6.2)	2 (1.8)	3 (2.7)	4 (3.5)	113 (100)	** 1** \bar{I}	1	
性 別	男	50 (87.7)	1 (1.8)	2 (3.5)	1 (1.8)	3 (5.3)	57 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	女	47 (83.9)	6 (10.7)	0 (0)	2 (3.6)	1 (1.8)	56 (100)	** 1** \bar{I}	1	
年 齢	②	29 (78.4)	5 (13.5)	0 (0)	2 (5.4)	1 (2.7)	37 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	④	34 (89.5)	2 (5.3)	2 (5.3)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	⑥	34 (89.5)	0 (0)	0 (0)	1 (2.6)	3 (7.9)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
学 歴	小	41 (87.2)	1 (2.1)	1 (2.1)	1 (2.1)	3 (6.4)	47 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	中	40 (87.0)	4 (8.7)	1 (2.2)	1 (2.2)	0 (0)	46 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	高	16 —	2 —	0 —	1 —	1 —	20 —	— —	—	
職 業	農	44 (89.8)	0 (0)	1 (2.0)	1 (2.0)	3 (6.1)	49 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	工	21 (87.5)	2 (8.3)	1 (4.2)	0 (0)	0 (0)	24 (100)	— —	—	
	商	7 —	2 —	0 —	0 —	1 —	10 —	— —	—	
	事	13 —	3 —	0 —	2 —	0 —	18 —	— —	—	
	無	12 —	0 —	0 —	0 —	0 —	12 —	— —	—	
役 員	有	44 (88.0)	3 (6.0)	0 (0)	1 (2.0)	2 (4.0)	50 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	無	53 (84.1)	4 (6.3)	2 (3.2)	2 (3.2)	2 (3.2)	63 (100)	** 1** \bar{I}	1	

第88表 2.03 行くだらうか (保)

1. エンペカ類 2. エンペカ類 3. エグベカ類

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	21 (18.4)	9 (7.9)	58 (50.9)	1 (0.9)	11 (9.6)	14 (12.3)	114 (100)	** (3**1)	(3)	
性別	男	15 (26.3)	6 (10.5)	22 (38.6)	1 (1.8)	6 (10.5)	7 (12.3)	57 (100)	**		
	女	6 (10.5)	3 (5.3)	36 (63.2)	0 (0)	5 (8.8)	7 (12.3)	57 (100)	** 3*3	3	
年齢	②	6 (15.8)	1 (2.6)	18 (47.4)	0 (0)	4 (10.5)	9 (23.7)	38 (100)			
	④	9 (23.7)	5 (13.2)	15 (39.5)	1 (2.6)	5 (13.2)	3 (7.9)	38 (100)			
	⑥	6 (15.8)	3 (7.9)	25 (65.8)	0 (0)	2 (5.3)	2 (5.3)	38 (100)	** (3**1)	(3)	
学歴	小	4 (10.0)	2 (5.0)	27 (67.5)	0 (0)	4 (10.0)	3 (7.5)	40 (100)	** 3*3	3	
	中	10 (29.4)	4 (11.8)	14 (41.2)	1 (2.9)	3 (8.8)	2 (5.9)	34 (100)			
	高	7 (17.5)	3 (7.5)	17 (42.5)	0 (0)	4 (10.0)	9 (22.5)	40 (100)			
職業	農	16 (19.5)	7 (8.5)	43 (52.4)	1 (1.2)	7 (8.5)	8 (9.8)	82 (100)	** (3**1)	(3)	
	工	0 —	1 —	4 —	0 —	1 —	1 —	7 —	—	—	
	商	2 —	0 —	2 —	0 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	3 —	0 —	7 —	0 —	3 —	5 —	18 —	—	—	
	無	0 —	1 —	2 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役員	有	9 (14.8)	7 (11.5)	30 (49.2)	1 (1.6)	7 (11.5)	7 (11.5)	61 (100)	** (3**1)	(3)	
	無	12 (22.6)	2 (3.8)	28 (52.8)	0 (0)	4 (7.5)	7 (13.2)	53 (100)	** (3*1)	(3)	

第82図 2.03 行くだらうか (保)

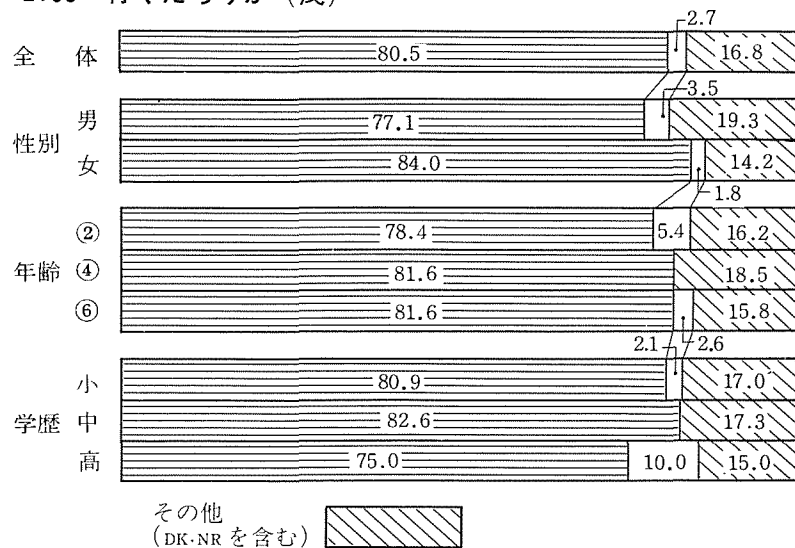


第89表 2.03 行くだらうか (茂)

4. イクダローカ類 5. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	7 (6.2)	10 (8.8)	74 (65.5)	3 (2.7)	7 (6.2)	12 (10.6)	113 (100)	** 3**3	3	
性別	男	4 (7.0)	8 (14.0)	32 (56.1)	2 (3.5)	3 (5.3)	8 (14.0)	57 (100)	** (3**2,N.R)	(3)	
	女	3 (5.4)	2 (3.6)	42 (75.0)	1 (1.8)	4 (7.1)	4 (7.1)	56 (100)	** 3**3	3	
年齢	②	3 (8.1)	3 (8.1)	23 (62.2)	2 (5.4)	1 (2.7)	5 (13.5)	37 (100)	** (3**N.R)	(3)	
	④	4 (10.5)	3 (7.9)	24 (63.2)	0 (0)	2 (5.3)	5 (13.2)	38 (100)	** (3**N.R)	(3)	
	⑥	0 (0)	4 (10.5)	27 (71.1)	1 (2.6)	4 (10.5)	2 (5.3)	38 (100)	** 3**3	3	
学歴	小	2 (4.3)	5 (10.6)	31 (66.0)	1 (2.1)	5 (10.6)	3 (6.4)	47 (100)	** 3*3	3	
	中	3 (6.5)	5 (10.9)	30 (65.2)	0 (0)	2 (4.3)	6 (13.0)	46 (100)	** 3*3	3	
	高	2 —	0 —	13 —	2 —	0 —	3 —	20 —	—	—	
職業	農	3 (6.1)	6 (12.2)	31 (63.3)	1 (2.0)	3 (6.1)	5 (10.2)	49 (100)	** (3**2)	(3)	
	工	2 (8.3)	2 (8.3)	18 (75.0)	0 (0)	1 (4.2)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	商	1 —	1 —	5 —	2 —	0 —	1 —	10 —	—	—	
	事	1 —	1 —	11 —	0 —	0 —	5 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	9 —	0 —	3 —	0 —	12 —	—	—	
役員	有	6 (12.0)	6 (12.0)	30 (60.0)	1 (2.0)	4 (8.0)	3 (6.0)	50 (100)	** (3**1,2)	(3)	
	無	1 (1.6)	4 (6.3)	44 (69.8)	2 (3.2)	3 (4.8)	9 (14.3)	63 (100)	** 3**3	3	

第83図 2.03 行くだらうか (茂)

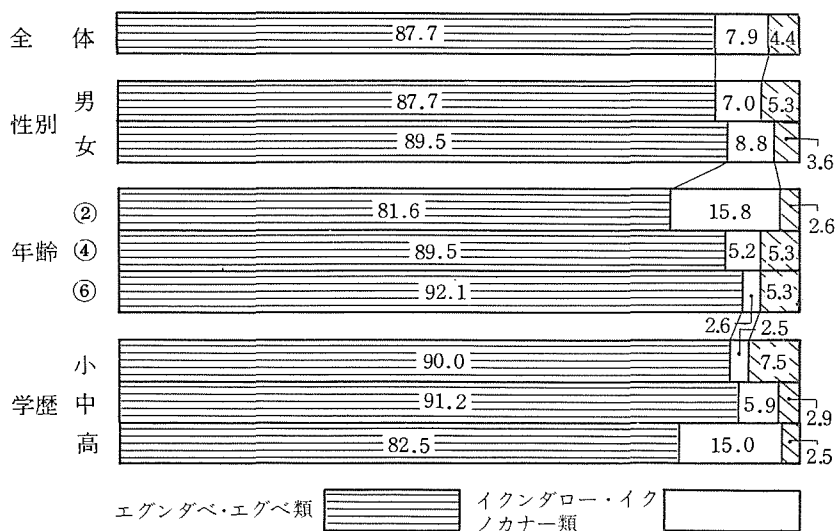


第90表 2.04 行くんだろう (保)

1. エグンダベ類 2. エグベ類 3. イクノカナー類

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	93 (81.6)	7 (6.1)	6 (5.3)	3 (2.6)	3 (2.6)	2 (1.8)	114 (100)	** 1**I	1	
性 別	男	46 (80.7)	4 (7.0)	2 (3.5)	2 (3.5)	2 (3.5)	1 (1.8)	57 (100)	** 1**I	1	
	女	47 (82.5)	3 (5.3)	4 (7.0)	1 (1.8)	1 (1.8)	1 (1.8)	57 (100)	** 1**I	1	
年 齢	②	29 (76.3)	2 (5.3)	4 (10.5)	2 (5.3)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** 1**I	1	
	④	31 (81.6)	3 (7.9)	1 (2.6)	1 (2.6)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)	** 1**I	1	
	⑥	33 (86.8)	2 (5.3)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	2 (5.3)	38 (100)	** 1**I	1	
学 歴	小	34 (85.0)	2 (5.0)	1 (2.5)	0 (0)	1 (2.5)	2 (5.0)	40 (100)	** 1**I	1	
	中	29 (85.3)	2 (5.9)	0 (0)	2 (5.9)	1 (2.9)	0 (0)	34 (100)	** 1**I	1	
	高	30 (75.0)	3 (7.5)	5 (12.5)	1 (2.5)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)	** 1**I	1	
職 業	農	68 (82.9)	5 (6.1)	3 (3.7)	2 (2.4)	2 (2.4)	2 (2.4)	82 (100)	** 1**I	1	
	工	7 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	7 —	— —	—	
	商	4 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	4 —	— —	—	
	事	11 —	2 —	3 —	1 —	1 —	0 —	18 —	— —	—	
	無	3 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	— —	—	
役 員	有	51 (83.6)	3 (4.9)	3 (4.9)	2 (3.3)	0 (0)	2 (3.3)	61 (100)	** 1**I	1	
	無	42 (79.2)	4 (7.5)	3 (5.7)	1 (1.9)	3 (5.7)	0 (0)	53 (100)	** 1**I	1	

第84図 2.04 行くんだろう (保)

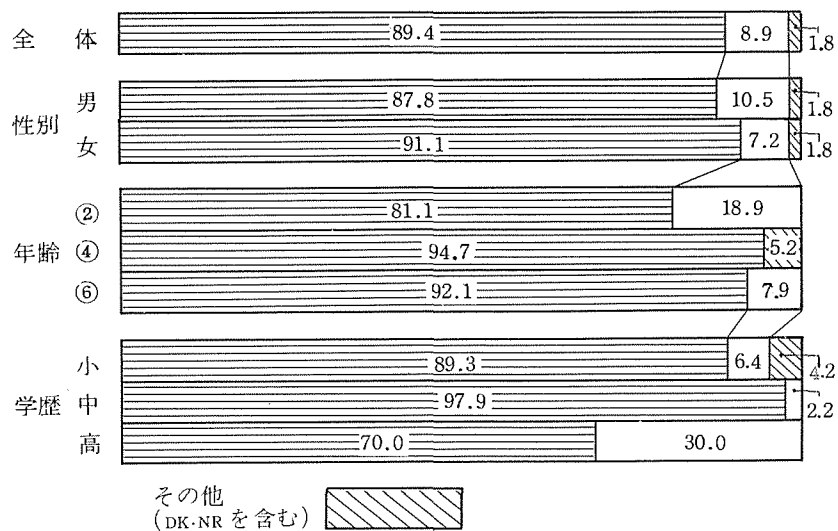


第91表 2.04 行くんだろう (茂)

4. イクンダロー類 5. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	99 (87.6)	2 (1.8)	7 (6.2)	3 (2.7)	1 (0.9)	1 (0.9)	113 (100)	** 1** \bar{I}	1	
性 別	男	49 (86.0)	1 (1.8)	4 (7.0)	2 (3.5)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	女	50 (89.3)	1 (1.8)	3 (5.4)	1 (1.8)	0 (0)	1 (1.8)	56 (100)	** 1** \bar{I}	1	
年 齢	②	30 (81.1)	0 (0)	4 (10.8)	3 (8.1)	0 (0)	0 (0)	37 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	④	36 (94.7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	⑥	33 (86.8)	2 (5.3)	3 (7.9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
学 歴	小	41 (87.2)	1 (2.1)	3 (6.4)	0 (0)	1 (2.1)	1 (2.1)	47 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	中	44 (95.7)	1 (2.2)	1 (2.2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	46 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	高	14 —	0 —	3 —	3 —	0 —	0 —	20 —	— —	—	
職 業	農	44 (89.8)	1 (2.0)	4 (8.2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	49 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	工	22 (91.7)	0 (0)	1 (4.2)	0 (0)	1 (4.2)	0 (0)	24 (100)	— —	—	
	商	8 —	0 —	0 —	2 —	0 —	0 —	10 —	— —	—	
	事	15 —	0 —	2 —	1 —	0 —	0 —	18 —	— —	—	
	無	10 —	1 —	0 —	0 —	0 —	1 —	12 —	— —	—	
役 員	有	40 (80.0)	2 (4.0)	6 (12.0)	1 (2.0)	1 (2.0)	0 (0)	50 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	無	59 (93.7)	0 (0)	1 (1.6)	2 (3.2)	0 (0)	1 (1.6)	63 (100)	** 1** \bar{I}	1	

第85図 2.04 行くんだろう (茂)



第92表 2.08 行ったろう (保)

1. エッタベー類 2. エッテキタベ類 3. イッタロー類

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		81 (71.1)	11 (9.6)	4 (3.5)	18 (15.8)	114 (100)	** 1** \bar{I}	1	
性別	男	39 (68.4)	6 (10.5)	3 (5.3)	9 (15.8)	57 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	女	42 (73.7)	5 (8.8)	1 (1.8)	9 (15.8)	57 (100)	** 1** \bar{I}	1	
年 齢	②	25 (65.8)	1 (2.6)	3 (7.9)	9 (23.7)	38 (100)	** (1**N.R)	(1)	
	④	25 (65.8)	7 (18.4)	1 (2.6)	5 (13.2)	38 (100)	** (1**2)	(1)	
	⑥	31 (81.6)	3 (7.9)	0 (0)	4 (10.5)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
学 歴	小	28 (70.6)	5 (12.5)	0 (0)	7 (17.5)	40 (100)	** 1* \bar{I}	1	
	中	25 (73.5)	5 (14.7)	2 (5.9)	2 (5.9)	34 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	高	28 (70.0)	1 (2.5)	2 (5.0)	9 (22.5)	40 (100)	** 1* \bar{I}	1	
職 業	農	58 (70.7)	11 (13.4)	2 (2.4)	11 (13.4)	82 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	工	5 —	0 —	1 —	1 —	7 —	— —	—	
	商	2 —	0 —	0 —	2 —	4 —	— —	—	
	事	14 —	0 —	1 —	3 —	18 —	— —	—	
	無	2 —	0 —	0 —	1 —	3 —	— —	—	
役 員	有	45 (73.8)	6 (9.8)	2 (3.3)	8 (13.1)	61 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	無	36 (67.9)	5 (9.4)	2 (3.8)	10 (18.9)	53 (100)	** 1** \bar{I}	1	

第93表 2.08 行ったろう (茂)

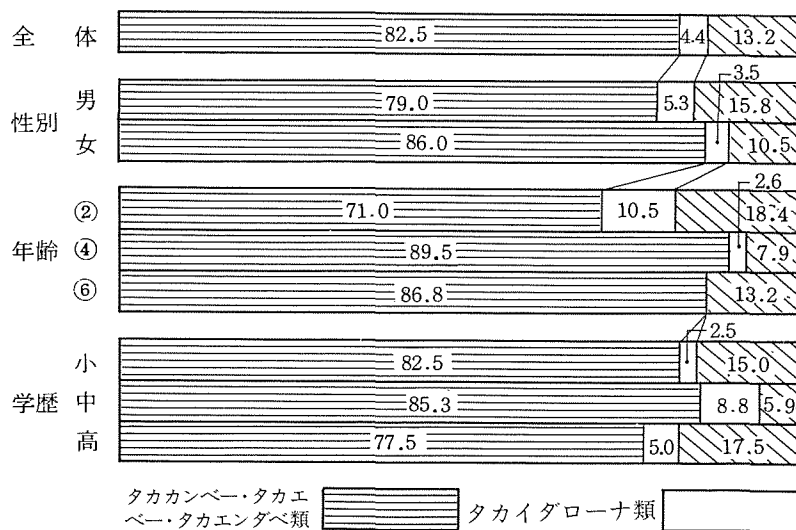
		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全 体		69 (61.1)	25 (22.1)	4 (3.5)	15 (13.3)	113 (100)	** 1*I	1	
性 別	男	36 (63.2)	13 (22.8)	3 (5.3)	5 (8.8)	57 (100)	** 1*I	1	
	女	33 (58.9)	12 (21.4)	1 (1.8)	10 (17.9)	56 (100)	** (1**2)	(1)	
年 齢	②	26 (70.3)	3 (8.1)	3 (8.1)	5 (13.5)	37 (100)	** 1*I	1	
	④	20 (52.6)	12 (31.6)	1 (2.6)	5 (13.2)	38 (100)	*		
	⑥	23 (60.5)	10 (26.3)	0 (0)	5 (13.2)	38 (100)	** (1*2)	(1)	
学 歴	小	29 (61.7)	11 (23.4)	0 (0)	7 (14.9)	47 (100)	** (1**2)	(1)	
	中	29 (63.0)	11 (23.9)	0 (0)	6 (13.0)	46 (100)	** (1**2)	(1)	
	高	11 —	3 —	4 —	2 —	20 —	—	—	
職 業	農	30 (61.2)	11 (22.4)	1 (2.0)	7 (14.3)	49 (100)	** (1**2)	(1)	
	工	14 (58.3)	8 (33.3)	0 (0)	2 (8.3)	24 (100)	—	—	
	商	6 —	2 —	1 —	1 —	10 —	—	—	
	事	11 —	1 —	2 —	4 —	18 —	—	—	
	無	8 —	3 —	0 —	1 —	12 —	—	—	
役 員	有	30 (60.0)	13 (26.0)	3 (6.0)	4 (8.0)	50 (100)	** (1**2)	(1)	
	無	39 (61.9)	12 (19.0)	1 (1.6)	11 (17.5)	63 (100)	** (1**2)	(1)	

第94表 2.17 高いだろうか（保）

1. タカカンペー類 2. タカエペー類 3. タカエンダペー類

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		9 (7.9)	83 (72.8)	2 (1.8)	5 (4.4)	15 (13.2)	114 (100)	** 2**2	2	
性 別	男	5 (8.8)	39 (68.4)	1 (1.8)	3 (5.3)	9 (15.8)	57 (100)	** 2**2	2	
	女	4 (7.0)	44 (77.2)	1 (1.8)	2 (3.5)	6 (10.5)	57 (100)	** 2**2	2	
年 齢	②	0 (0)	26 (68.4)	1 (2.6)	4 (10.5)	7 (18.4)	38 (100)	** 2*2	2	
	④	2 (5.3)	32 (84.2)	0 (0)	1 (2.6)	3 (7.9)	38 (100)	** 2**2	2	
	⑥	7 (18.4)	25 (65.8)	1 (2.6)	0 (0)	5 (13.2)	38 (100)	** (2**1)	(2)	
学 歴	小	4 (10.0)	28 (70.0)	1 (2.5)	1 (2.5)	6 (15.0)	40 (100)	** 2*2	2	
	中	3 (8.8)	26 (76.5)	0 (0)	3 (8.8)	2 (5.9)	34 (100)	** 2**2	2	
	高	2 (5.0)	28 (70.0)	1 (2.5)	2 (5.0)	7 (17.5)	40 (100)	** 2*2	2	
職 業	農	9 (11.0)	60 (73.2)	1 (1.2)	1 (1.2)	11 (13.4)	82 (100)	** 2**2	2	
	工	0 —	5 —	0 —	2 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	3 —	0 —	0 —	1 —	4 —	—	—	
	事	0 —	12 —	1 —	2 —	3 —	18 —	—	—	
	無	0 —	3 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	8 (13.1)	43 (70.5)	0 (0)	1 (1.6)	9 (14.8)	61 (100)	** 2**2	2	
	無	1 (1.9)	40 (75.5)	2 (3.8)	4 (7.5)	6 (11.3)	53 (100)	** 2**2	2	

第86図 2.17 高いだろうか（保）

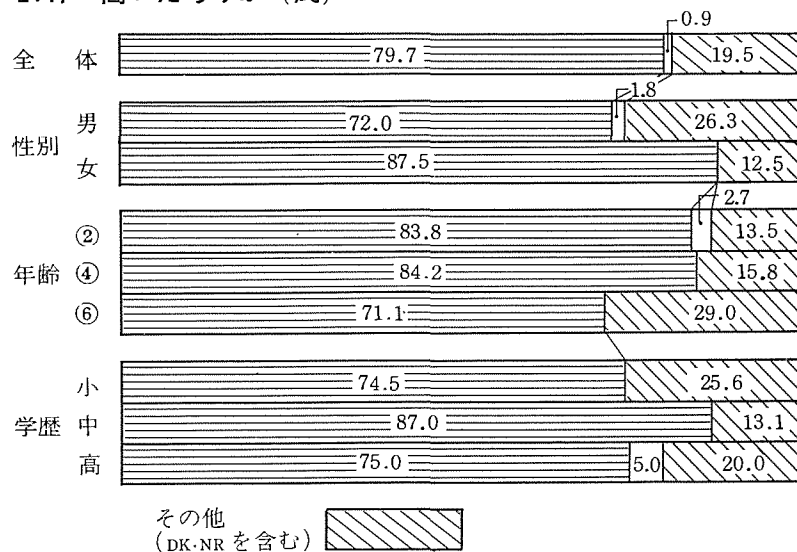


第95表 2.17 高いだろうか (茂)

4. タカイダローナ類 5. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		9 (8.0)	79 (69.9)	2 (1.8)	1 (0.9)	7 (6.2)	15 (13.3)	113 (100)	** 2**2	2	
性 別	男	5 (8.8)	36 (63.2)	0 (0)	1 (1.8)	5 (8.8)	10 (17.5)	57 (100)	** 2*2	2	
	女	4 (7.1)	43 (76.8)	2 (3.6)	0 (0)	2 (3.6)	5 (8.9)	56 (100)	** 2**2	2	
年 齢	②	0 (0)	30 (81.1)	1 (2.7)	1 (2.7)	0 (0)	5 (13.5)	37 (100)	** 2**2	2	
	④	1 (2.6)	31 (81.6)	0 (0)	0 (0)	2 (5.3)	4 (10.5)	38 (100)	** 2**2	2	
	⑥	8 (21.1)	18 (47.4)	1 (2.6)	0 (0)	5 (13.2)	6 (15.8)	38 (100)	** (2*1)	(2)	
学 歴	小	8 (17.0)	25 (53.2)	2 (4.3)	0 (0)	6 (12.8)	6 (12.8)	47 (100)	** (2**1)	(2)	*
	中	0 (0)	40 (87.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (13.1)	46 (100)	** 2**2	2	
	高	1 —	14 —	0 —	1 —	1 —	3 —	20 —	— —	— —	
職 業	農	6 (12.3)	30 (61.2)	1 (2.0)	0 (0)	5 (10.2)	7 (14.3)	49 (100)	** (2**N.R)	(2)	
	工	0 (0)	20 (83.3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (16.7)	24 (100)	— —	— —	
	商	0 —	9 —	0 —	1 —	0 —	0 —	10 —	— —	— —	
	事	0 —	13 —	1 —	0 —	1 —	3 —	18 —	— —	— —	
	無	3 —	7 —	0 —	0 —	1 —	1 —	12 —	— —	— —	
役 員	有	5 (10.0)	34 (68.0)	0 (0)	0 (0)	4 (8.0)	7 (14.0)	50 (100)	** 2*2	2	
	無	4 (6.3)	45 (71.4)	2 (3.2)	1 (1.6)	3 (4.8)	8 (12.7)	63 (100)	** 2**2	2	

第87図 2.17 高いだろうか (茂)

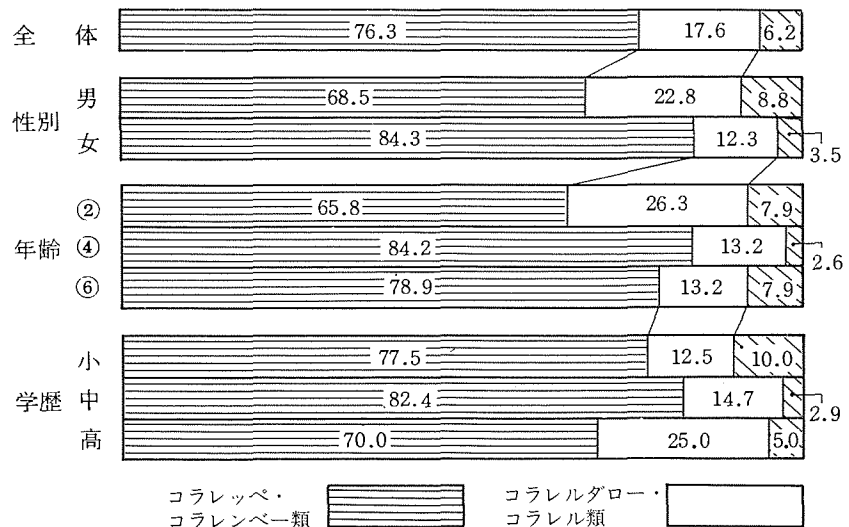


第96表 2.06 来られるだろう (保)

1. コラレツペ類 2. コラレンペー類 3. コラレルダロー類

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		83 (72.8)	4 (3.5)	6 (5.3)	14 (12.3)	1 (0.9)	6 (5.3)	114 (100)	** 1** \bar{I}	1	
性 別	男	36 (63.2)	3 (5.3)	3 (5.3)	10 (17.5)	1 (1.8)	4 (7.0)	57 (100)	** 1* \bar{I}	1	
	女	47 (82.5)	1 (1.8)	3 (5.3)	4 (7.0)	0 (0)	2 (3.5)	57 (100)	** 1** \bar{I}	1	
年 齢	②	25 (65.8)	0 (0)	6 (15.8)	4 (10.5)	0 (0)	3 (7.9)	38 (100)	** (1**3)	(1)	
	④	32 (84.2)	0 (0)	0 (0)	5 (13.2)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	⑥	26 (68.4)	4 (10.5)	0 (0)	5 (13.2)	1 (2.6)	2 (5.3)	38 (100)	** 1* \bar{I}	1	
学 歴	小	29 (72.5)	2 (5.0)	0 (0)	5 (12.5)	1 (2.5)	3 (7.5)	40 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	中	26 (76.5)	2 (5.9)	1 (2.9)	4 (11.8)	0 (0)	1 (2.9)	34 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	高	28 (70.0)	0 (0)	5 (12.5)	5 (12.5)	0 (0)	2 (5.0)	40 (100)	** 1* \bar{I}	1	
職 業	農	60 (73.2)	3 (3.7)	1 (1.2)	13 (15.9)	1 (1.2)	4 (4.9)	82 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	工	5 —	0 —	2 —	0 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	2 —	1 —	0 —	0 —	0 —	1 —	4 —	—	—	
	事	13 —	0 —	3 —	1 —	0 —	1 —	18 —	—	—	
	無	3 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	42 (68.9)	2 (3.3)	3 (4.9)	9 (14.8)	1 (1.6)	4 (6.6)	61 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	無	41 (77.4)	2 (3.8)	3 (5.7)	5 (9.4)	0 (0)	2 (3.8)	53 (100)	** 1** \bar{I}	1	

第88図 2.06 来られるだろう (保)

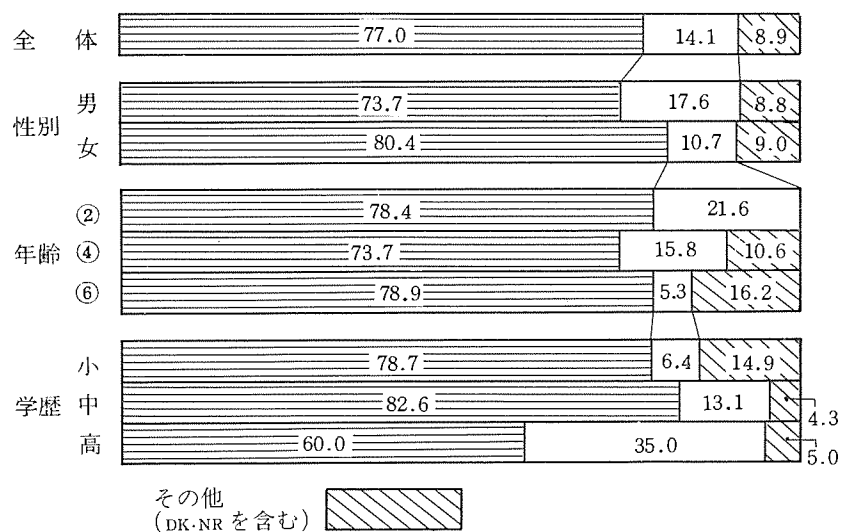


第97表 2.06 来られるだろう (茂)

4. コラレル類 5. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		73 (64.6)	14 (12.4)	6 (5.3)	10 (8.8)	7 (6.2)	3 (2.7)	113 (100)	** 1**1	1	
性別	男	31 (54.4)	11 (19.3)	5 (8.8)	5 (8.8)	4 (7.0)	1 (1.8)	57 (100)	** (1**2)	(1)	
	女	42 (75.0)	3 (5.4)	1 (1.8)	5 (8.9)	3 (5.4)	2 (3.6)	56 (100)	** 1**1	1	
年 齢	②	29 (78.4)	0 (0)	5 (13.5)	3 (8.1)	0 (0)	0 (0)	37 (100)	** 1**1	1	
	④	28 (73.7)	0 (0)	1 (2.6)	5 (13.2)	2 (5.3)	2 (5.3)	38 (100)	** 1**1	1	
	⑥	16 (42.1)	14 (36.8)	0 (0)	2 (5.3)	5 (13.6)	1 (2.6)	38 (100)			
学 歴	小	25 (53.2)	12 (25.5)	0 (0)	3 (6.4)	5 (10.6)	2 (4.3)	47 (100)	** (1*2)	(1)	
	中	36 (78.3)	2 (4.3)	1 (2.2)	5 (10.9)	2 (4.3)	0 (0)	46 (100)	** 1**1	1	
	高	12 —	0 —	5 —	2 —	0 —	1 —	20 —	—	—	
職 業	農	24 (49.0)	12 (24.5)	1 (2.0)	5 (10.2)	6 (12.2)	1 (2.0)	49 (100)	** (1*2)	(1)	
	工	21 (87.5)	0 (0)	0 (0)	2 (8.3)	1 (4.2)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	6 —	0 —	2 —	1 —	0 —	1 —	10 —	—	—	
	事	13 —	0 —	3 —	2 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	9 —	2 —	0 —	0 —	0 —	1 —	12 —	—	—	
役 員	有	28 (56.0)	9 (18.0)	3 (6.0)	5 (10.0)	4 (8.0)	1 (2.0)	50 (100)	** (1**2)	(1)	
	無	45 (71.4)	5 (7.9)	3 (4.8)	5 (7.9)	3 (4.8)	2 (3.2)	63 (100)	** 1**1	1	

第89図 2.06 来られるだろう (茂)

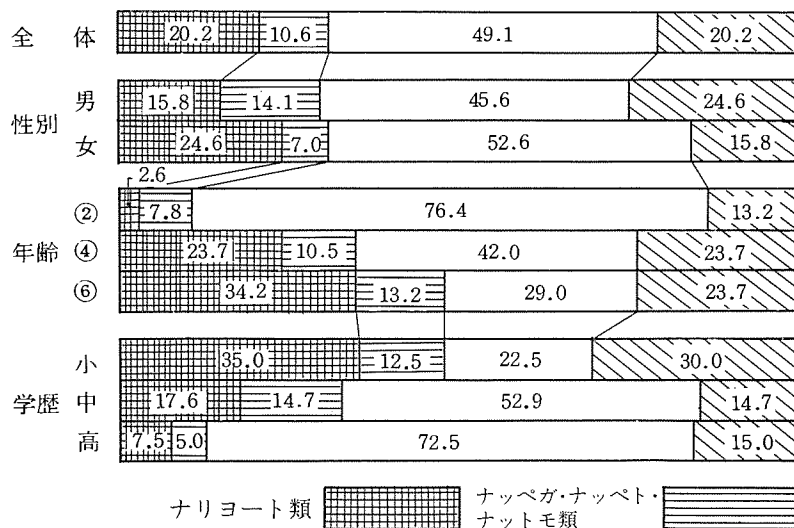


第98表 2.30 なろうと（保）

1. ナッペガ類 2. ナッペト類 3. ナリヨート類 4. ナロート類

		1	2	3	4	5	6	7	8	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		2 (1.8)	1 (0.9)	23 (20.2)	36 (31.6)	9 (7.9)	11 (9.6)	9 (7.9)	8 (7.0)	15 (13.2)	114 (100)	**		
性 別	男	0 (0)	1 (1.8)	9 (15.8)	15 (26.3)	7 (12.3)	4 (7.0)	7 (12.3)	5 (8.8)	9 (15.8)	57 (100)			
	女	2 (3.5)	0 (0)	14 (24.6)	21 (36.8)	2 (3.5)	7 (12.3)	2 (3.5)	3 (5.3)	6 (10.5)	57 (100)	*		
年 齢	②	1 (2.6)	1 (2.6)	1 (2.6)	21 (55.3)	1 (2.6)	5 (13.2)	3 (7.9)	2 (5.3)	3 (7.9)	38 (100)	** (4**6)	(4)	
	④	1 (2.6)	0 (0)	9 (23.7)	11 (28.9)	3 (7.9)	4 (10.5)	1 (2.6)	2 (5.3)	7 (18.4)	38 (100)			
	⑥	0 (0)	0 (0)	13 (34.2)	4 (10.5)	5 (13.2)	2 (5.3)	5 (13.2)	4 (10.5)	5 (13.2)	38 (100)			
学 歴	小	0 (0)	0 (0)	14 (35.0)	6 (15.0)	5 (12.5)	1 (2.5)	2 (5.0)	5 (12.5)	7 (17.5)	40 (100)			
	中	2 (5.9)	0 (0)	6 (17.6)	10 (29.4)	3 (8.8)	6 (17.6)	2 (5.9)	1 (2.9)	4 (11.8)	34 (100)			
	高	0 (0)	1 (2.5)	3 (7.5)	20 (50.0)	1 (2.5)	4 (10.0)	5 (12.5)	2 (5.0)	4 (10.0)	40 (100)	** (4**7)	(4)	
職 業	農	2 (2.4)	0 (0)	21 (25.6)	19 (23.2)	8 (9.8)	7 (8.5)	6 (7.3)	6 (7.3)	13 (15.9)	82 (100)	*		
	工	0 —	0 —	0 —	5 —	0 —	2 —	0 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	1 —	0 —	1 —	1 —	4 —	—	—	
	事	0 —	1 —	1 —	11 —	1 —	1 —	3 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	1 —	1 —	3 —	—	—	
役 員	有	1 (1.6)	0 (0)	14 (23.0)	15 (24.6)	6 (9.8)	2 (3.3)	8 (13.1)	6 (9.8)	9 (14.8)	61 (100)			
	無	1 (1.9)	1 (1.9)	9 (17.0)	21 (39.6)	3 (5.7)	9 (17.0)	1 (1.9)	2 (3.8)	6 (11.3)	53 (100)	** (4*3, 6)	(4)	

第90図 2.30 ～なろうと（保）

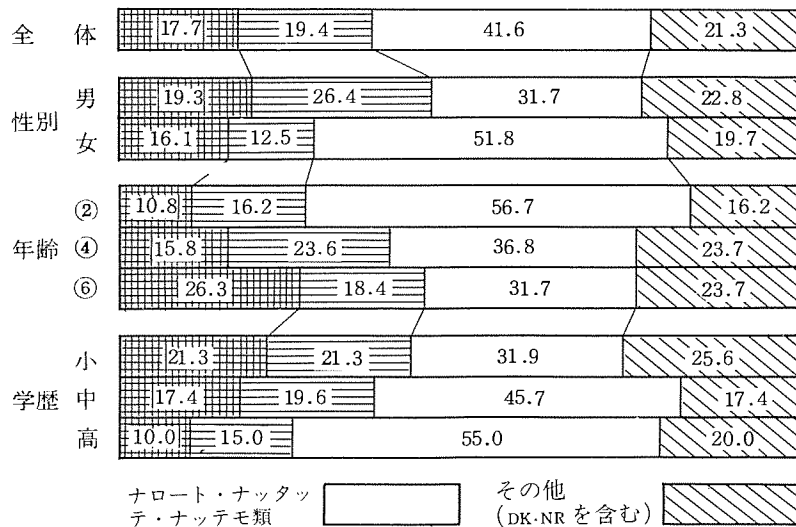


第99表 2.30 なろうと (茂)

5. ナットモ類 6. ナッタッテ類 7. ナッテモ類 8. その他

		1	2	3	4	5	6	7	8	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		4 (3.5)	7 (6.2)	20 (17.7)	25 (22.1)	11 (9.7)	13 (11.5)	9 (8.0)	10 (8.9)	14 (12.4)	113 (100)			
性 別	男	3 (5.3)	5 (8.8)	11 (19.3)	12 (21.1)	7 (12.3)	3 (5.3)	3 (5.3)	8 (14.0)	5 (8.8)	57 (100)			
	女	1 (1.8)	2 (3.6)	9 (16.1)	13 (23.2)	4 (7.1)	10 (17.9)	6 (10.7)	2 (3.6)	9 (16.1)	56 (100)			
年 齢	②	0 (0)	3 (8.1)	4 (10.8)	16 (43.2)	3 (8.1)	2 (5.4)	3 (8.1)	2 (5.4)	4 (10.8)	37 (100)	** (4**3)	(4)	
	④	1 (2.6)	4 (10.5)	6 (15.8)	4 (10.5)	4 (10.5)	6 (15.8)	4 (10.5)	4 (10.5)	5 (13.2)	38 (100)			
	⑥	3 (7.9)	0 (0)	10 (26.3)	5 (13.2)	4 (10.5)	5 (13.2)	2 (5.3)	4 (10.5)	5 (13.2)	38 (100)			
学 歴	小	3 (6.4)	1 (2.1)	10 (21.3)	8 (17.0)	6 (12.8)	4 (8.5)	3 (6.4)	6 (12.8)	6 (12.8)	47 (100)			
	中	1 (2.2)	3 (6.5)	8 (17.4)	9 (19.6)	5 (10.9)	8 (17.4)	4 (8.7)	1 (2.2)	7 (15.2)	46 (100)			
	高	0 —	3 —	2 —	8 —	0 —	1 —	2 —	3 —	1 —	20 —	—	—	
職 業	農	3 (6.1)	2 (4.1)	11 (22.4)	7 (14.3)	6 (12.2)	6 (12.2)	4 (8.2)	5 (10.2)	5 (10.2)	49 (100)			
	工	1 (4.2)	2 (8.3)	2 (8.3)	6 (25.0)	2 (8.3)	2 (8.3)	3 (12.5)	2 (8.3)	4 (16.7)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	2 —	1 —	1 —	1 —	1 —	1 —	0 —	3 —	10 —	—	—	
	事	0 —	1 —	2 —	10 —	2 —	2 —	0 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	4 —	1 —	0 —	2 —	1 —	2 —	2 —	12 —	—	—	
役 員	有	3 (6.0)	7 (14.0)	8 (16.0)	8 (16.0)	2 (4.0)	6 (12.0)	3 (6.0)	7 (14.0)	6 (12.0)	50 (100)	—	—	
	無	1 (1.6)	0 (0)	12 (19.0)	17 (27.0)	9 (14.3)	7 (11.1)	6 (9.5)	3 (4.8)	8 (12.7)	63 (100)			

第91図 2.30 ～なろうと (茂)

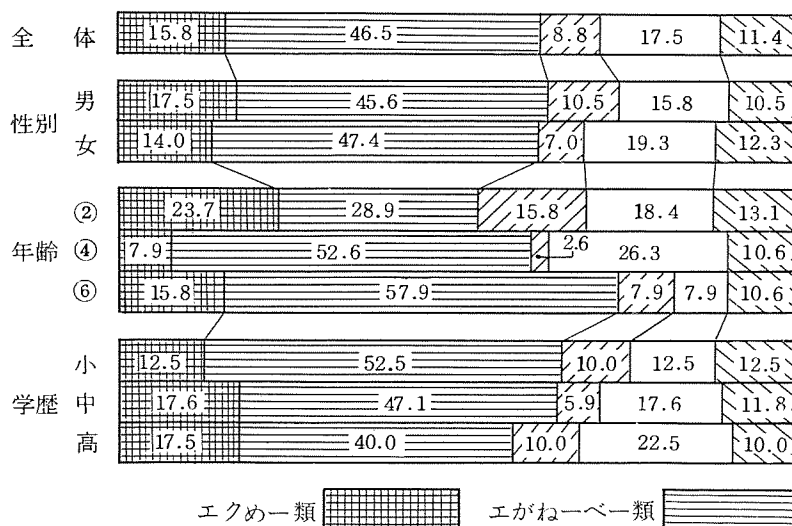


第100表 2.27 行くまい（保）

1. エクめー類 2. エガねーべー類 3. エッテランニえー類

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		18 (15.8)	53 (46.5)	10 (8.8)	20 (17.5)	5 (4.4)	8 (7.0)	114 (100)	** (2**4)	(2)	
性 別	男	10 (17.5)	26 (45.6)	6 (10.5)	9 (15.8)	2 (3.5)	4 (7.0)	57 (100)	** (2**1)	(2)	
	女	8 (14.0)	27 (47.4)	4 (7.0)	11 (19.3)	3 (5.3)	4 (7.0)	57 (100)	** (2**4)	(2)	
年 齢	②	9 (23.7)	11 (28.9)	6 (15.8)	7 (18.4)	1 (2.6)	4 (10.5)	38 (100)			
	④	3 (7.9)	20 (52.6)	1 (2.6)	10 (26.3)	2 (5.3)	2 (5.3)	38 (100)			
	⑥	6 (15.8)	22 (57.9)	3 (7.9)	3 (7.9)	2 (5.3)	2 (5.3)	38 (100)	** (2**1)	(2)	
学 歴	小	5 (12.5)	21 (52.5)	4 (10.0)	5 (12.5)	2 (5.0)	3 (7.5)	40 (100)	** (2**1,4)	(2)	
	中	6 (17.6)	16 (47.1)	2 (5.9)	6 (17.6)	2 (5.9)	2 (5.9)	34 (100)	** (2**1,4)	(2)	
	高	7 (17.5)	16 (40.0)	4 (10.0)	9 (22.5)	1 (2.5)	3 (7.5)	40 (100)			
職 業	農	11 (13.4)	41 (50.0)	6 (7.3)	15 (18.3)	4 (4.9)	5 (6.1)	82 (100)	** (2*4)	(2)	
	工	2 —	1 —	2 —	1 —	0 —	1 —	7 —	—	—	
	商	0 —	2 —	0 —	2 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	4 —	7 —	2 —	2 —	1 —	2 —	18 —	—	—	
	無	1 —	2 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	10 (16.4)	28 (45.9)	5 (8.2)	10 (16.4)	4 (6.6)	4 (6.6)	61 (100)	** (2**1,4)	(2)	
	無	8 (15.1)	25 (47.2)	5 (9.4)	10 (18.9)	1 (1.9)	4 (7.5)	53 (100)	** (2*4)	(2)	

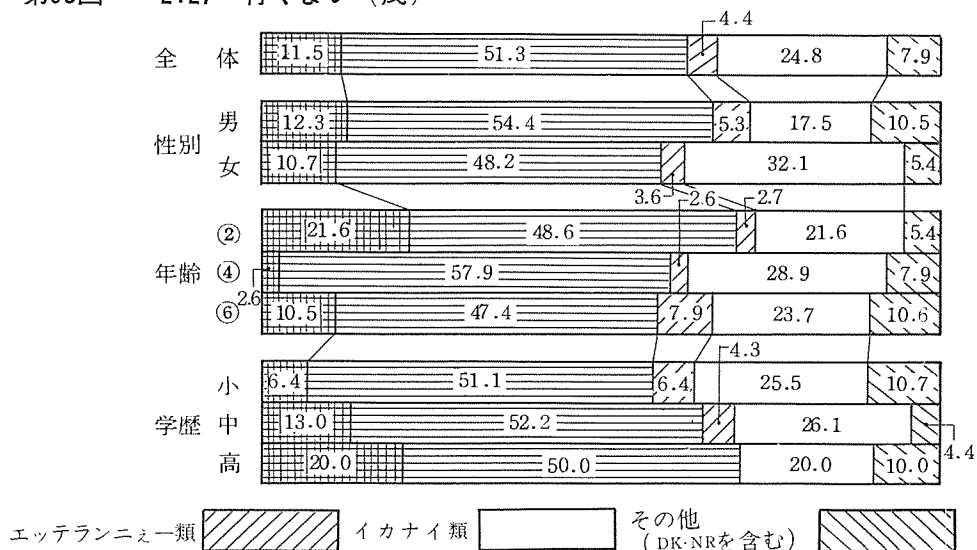
第92図 2.27 行くまい（保）



第101表 2.27 行くまい (茂)
4. イカナイ類 5. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	13 (11.5)	58 (51.3)	5 (4.4)	28 (24.8)	4 (3.5)	5 (4.4)	113 (100)	** (2**4)	(2)	
性 別	男	7 (12.3)	31 (54.4)	3 (5.3)	10 (17.5)	2 (3.5)	4 (7.0)	57 (100)	** (2**4)	(2)	
	女	6 (10.7)	27 (48.2)	2 (3.6)	18 (32.1)	2 (3.6)	1 (1.8)	56 (100)	**		
年 齢	②	8 (21.6)	18 (48.6)	1 (2.7)	8 (21.6)	0 (0)	2 (5.4)	37 (100)	** (2*1,4)	(2)	
	④	1 (2.6)	22 (57.9)	1 (2.6)	11 (28.9)	2 (5.3)	1 (2.6)	38 (100)	**		
	⑥	4 (10.5)	18 (47.4)	3 (7.9)	9 (23.7)	2 (5.3)	2 (5.3)	38 (100)	*		
学 歴	小	3 (6.4)	24 (51.1)	3 (6.4)	12 (25.5)	2 (4.3)	3 (6.4)	47 (100)	** (2*4)	(2)	
	中	6 (13.0)	24 (52.2)	2 (4.3)	12 (26.1)	1 (2.2)	1 (2.2)	46 (100)	** (2*4)	(2)	
	高	4 —	10 —	0 —	4 —	1 —	1 —	20 —	—	—	
職 業	農	4 (8.2)	26 (53.1)	2 (4.1)	13 (26.5)	2 (4.1)	2 (4.1)	49 (100)	** (2*4)	(2)	
	工	2 (8.3)	13 (54.2)	2 (8.3)	5 (20.8)	1 (4.2)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	商	1 —	5 —	0 —	4 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	5 —	7 —	0 —	4 —	0 —	2 —	18 —	—	—	
	無	1 —	7 —	1 —	2 —	1 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	9 (18.0)	27 (54.0)	1 (2.0)	10 (20.0)	1 (2.0)	2 (4.0)	50 (100)	** (2**4)	(2)	
	無	4 (6.3)	31 (49.2)	4 (6.3)	18 (28.6)	3 (4.8)	3 (4.8)	63 (100)	**		

第93図 2.27 行くまい (茂)

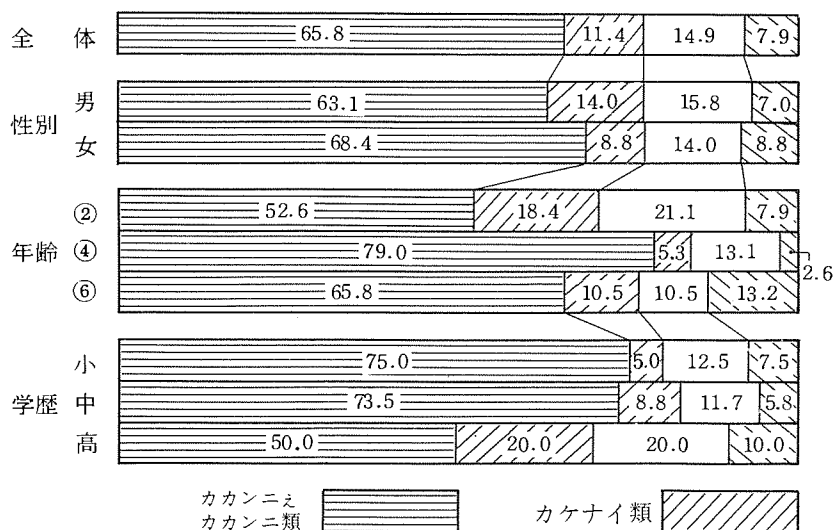


第102表 2.13 書くことができない (保)

1. カカンニえ類 2. カカンニ類 3. カケナイ類 4. カクコトデキねー類

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		59 (51.8)	16 (14.0)	13 (11.4)	8 (7.0)	9 (7.9)	5 (4.4)	4 (3.5)	114 (100)	** (1**2)	(1)	
性 別	男	30 (52.6)	6 (10.5)	8 (14.0)	4 (7.0)	5 (8.8)	2 (3.5)	2 (3.5)	57 (100)	** (1**2)	(1)	
	女	29 (50.9)	10 (17.5)	5 (8.8)	4 (7.0)	4 (7.0)	3 (5.3)	2 (3.5)	57 (100)	** (1**2)	(1)	
年 齢	②	9 (23.7)	11 (28.9)	7 (18.4)	0 (0)	8 (21.1)	3 (7.9)	0 (0)	38 (100)			
	④	27 (71.1)	3 (7.9)	2 (5.3)	4 (10.5)	1 (2.6)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)	** 1**1	1	*
	⑥	23 (60.5)	2 (5.3)	4 (10.5)	4 (10.5)	0 (0)	2 (5.3)	3 (7.9)	38 (100)	** (1**3,4)	(1)	
学 歴	小	28 (70.0)	2 (5.0)	2 (5.0)	5 (12.5)	0 (0)	1 (2.5)	2 (5.0)	40 (100)	** 1*1	1	
	中	18 (52.9)	7 (20.6)	3 (8.8)	1 (2.9)	3 (8.8)	1 (2.9)	1 (2.9)	34 (100)	** (1*2)	(1)	
	高	13 (32.5)	7 (17.5)	8 (20.0)	2 (5.0)	6 (15.0)	3 (7.5)	1 (2.5)	40 (100)			
職 業	農	48 (58.5)	9 (11.0)	8 (9.8)	8 (9.8)	2 (2.4)	3 (3.7)	4 (4.9)	82 (100)	** (1**2)	(1)	
	工	2 —	2 —	0 —	0 —	3 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	2 —	1 —	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	5 —	3 —	4 —	0 —	4 —	2 —	0 —	18 —	—	—	
	無	2 —	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	35 (57.4)	5 (8.2)	8 (13.1)	3 (4.9)	4 (6.6)	2 (3.3)	4 (6.6)	61 (100)	** (1**3)	(1)	
	無	24 (45.3)	11 (20.8)	5 (9.4)	5 (9.4)	5 (9.4)	3 (5.7)	0 (0)	53 (100)	** (1**2)	(1)	

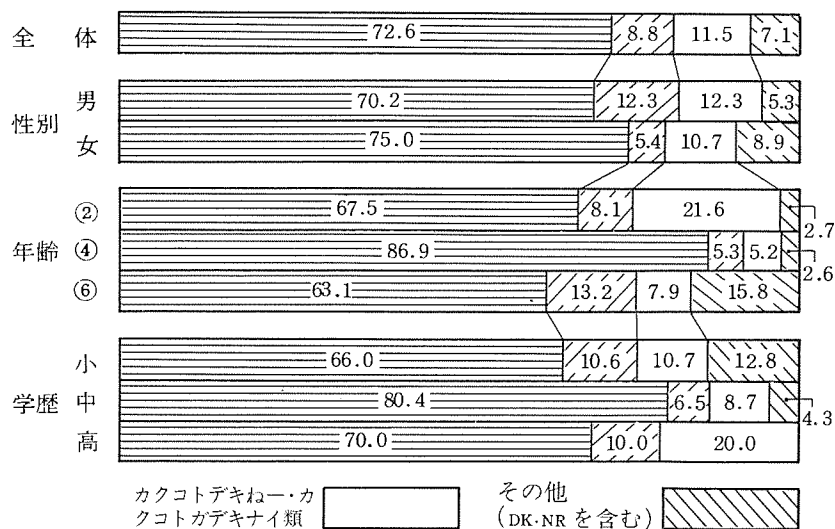
第94図 2.13 書くことができない (保)



第103表 2.13 書くことができない (茂)
5. カクコトガデキナイ類 6. その他

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	62 (54.9)	20 (17.7)	10 (8.8)	5 (4.4)	8 (7.1)	5 (4.4)	3 (27)	113 (100)	** (1**2)	(1)	
性 別	男	29 (50.9)	11 (19.3)	7 (12.3)	4 (7.0)	3 (5.3)	1 (1.8)	2 (3.5)	57 (100)	** (1**2)	(1)	
	女	33 (58.9)	9 (16.1)	3 (5.4)	1 (1.8)	5 (8.9)	4 (7.1)	1 (1.8)	56 (100)	** (1**2)	(1)	
年 齢	②	12 (32.4)	13 (35.1)	3 (8.1)	3 (8.1)	5 (13.5)	1 (2.7)	0 (0)	37 (100)			
	④	27 (71.1)	6 (15.8)	2 (5.3)	1 (2.6)	1 (2.6)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** (1**1)	1	
	⑥	23 (60.5)	1 (2.6)	5 (13.2)	1 (2.6)	2 (5.3)	3 (7.9)	3 (7.9)	38 (100)	** (1**3)	(1)	
学 歴	小	29 (61.7)	2 (4.3)	5 (10.6)	2 (4.3)	3 (6.4)	3 (6.4)	3 (6.4)	47 (100)	** (1**3)	(1)	
	中	26 (56.5)	11 (23.9)	3 (6.5)	1 (2.2)	3 (6.5)	2 (4.3)	0 (0)	46 (100)	** (1*2)	(1)	
	高	7 —	7 —	2 —	2 —	2 —	0 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	28 (57.1)	5 (10.2)	6 (12.2)	2 (4.1)	2 (4.1)	3 (6.1)	3 (6.1)	49 (100)	** (1**3)	(1)	
	工	14 (58.3)	7 (29.2)	0 (0)	1 (4.2)	1 (4.2)	1 (4.2)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	4 —	3 —	2 —	0 —	1 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	9 —	4 —	0 —	2 —	3 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	7 —	1 —	2 —	0 —	1 —	1 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	28 (56.0)	9 (18.0)	4 (8.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	2 (4.0)	1 (2.0)	50 (100)	** (1**2)	(1)	
	無	34 (54.0)	11 (17.5)	6 (9.5)	2 (3.2)	5 (7.9)	3 (4.8)	2 (3.2)	63 (100)	** (1**2)	(1)	

第95図 2.13 書くことができない (茂)

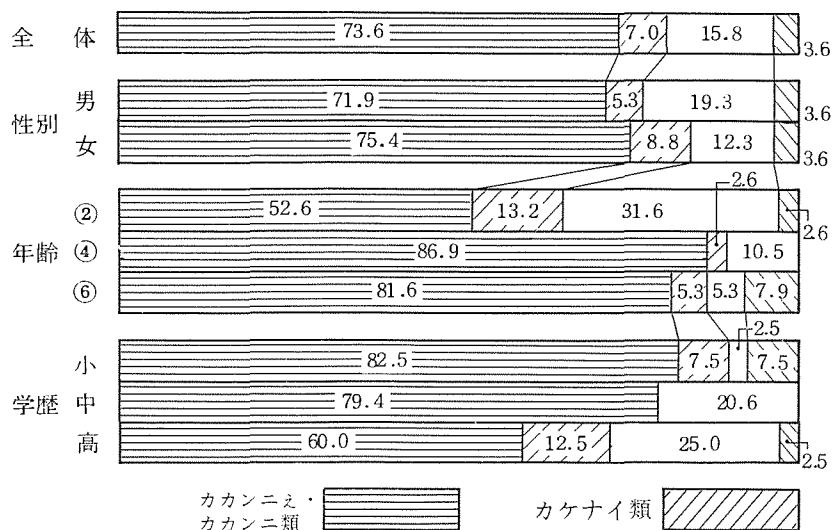


第104表 2.16 書くことができないよ (保)

1. カカンニえ類 2. カカンニ類 3. カケナイ類 4. カクコトデキネー類

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		68 (59.6)	16 (14.0)	8 (7.0)	6 (5.3)	12 (10.5)	2 (1.8)	2 (1.8)	114 (100)	** 1* $\bar{1}$	1	
性 別	男	34 (59.6)	7 (12.3)	3 (5.3)	6 (10.5)	5 (8.8)	1 (1.8)	1 (1.8)	57 (100)	** (1**2)	(1)	
	女	34 (59.6)	9 (15.8)	5 (8.8)	0 (0)	7 (12.3)	1 (1.8)	1 (1.8)	57 (100)	** (1**2)	(1)	
年 齢	②	9 (23.7)	11 (28.9)	5 (13.2)	3 (7.9)	9 (23.7)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)			
	④	28 (73.7)	5 (13.2)	1 (2.6)	1 (2.6)	3 (7.9)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	**
	⑥	31 (81.6)	0 (0)	2 (5.3)	2 (5.3)	0 (0)	1 (2.6)	2 (5.3)	38 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
学 歴	小	33 (82.5)	0 (0)	3 (7.5)	1 (2.5)	0 (0)	1 (2.5)	2 (5.0)	40 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
	中	19 (55.9)	8 (23.5)	0 (0)	3 (8.8)	4 (11.8)	0 (0)	0 (0)	34 (100)	** (1*2)	(1)	**
	高	16 (40.0)	8 (20.0)	5 (12.5)	2 (5.0)	8 (20.0)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)			
職 業	農	56 (68.3)	9 (11.0)	4 (4.9)	3 (3.7)	6 (7.3)	2 (2.4)	2 (2.4)	82 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
	工	2 —	2 —	0 —	0 —	3 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	1 —	1 —	0 —	1 —	1 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	7 —	3 —	4 —	2 —	2 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	2 —	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	41 (67.2)	5 (8.2)	5 (8.2)	4 (6.6)	4 (6.6)	0 (0)	2 (3.3)	61 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
	無	27 (51.0)	11 (20.8)	3 (5.7)	2 (3.8)	8 (15.1)	2 (3.8)	0 (0)	53 (100)	** (1**2)	(1)	

第96図 2.16 書くことができないよ (保)

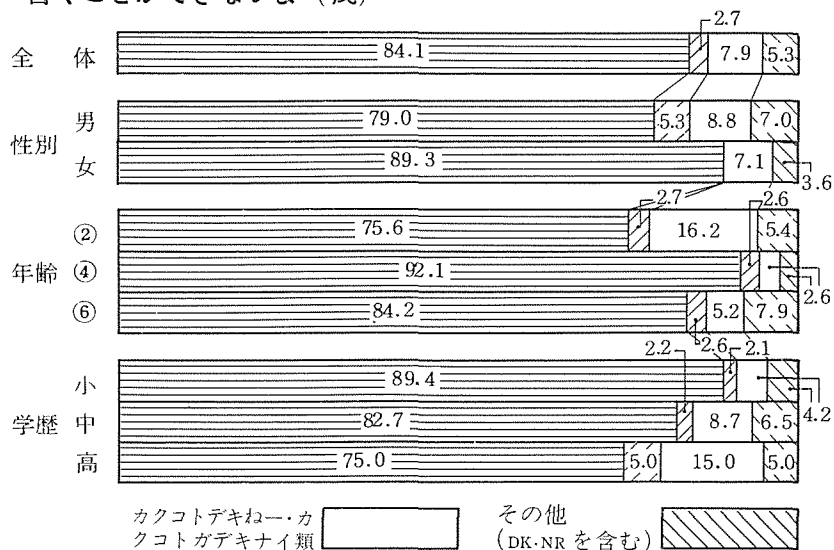


第105表 2.16 書くことができないよ (茂)

5. カクコトガデキナイ類 6. その他

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	66 (58.4)	29 (25.7)	3 (2.7)	4 (3.5)	5 (4.4)	5 (4.4)	1 (0.9)	113 (100)	** (1**2)	(1)	
性 別	男	33 (57.9)	12 (21.1)	3 (5.3)	4 (7.0)	1 (1.8)	4 (7.0)	0 (0)	57 (100)	** (1**2)	(1)	
	女	33 (58.9)	17 (30.4)	0 (0)	0 (0)	4 (7.1)	1 (1.8)	1 (1.8)	56 (100)	** (1*2)	(1)	
年 齢	②	10 (27.0)	18 (48.6)	1 (2.7)	2 (5.4)	4 (10.8)	2 (5.4)	0 (0)	37 (100)			
	④	24 (63.2)	11 (28.9)	1 (2.6)	1 (2.6)	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** (1*2)	(1)	**
	⑥	32 (84.2)	0 (0)	1 (2.6)	1 (2.6)	1 (2.6)	2 (5.3)	1 (2.6)	38 (100)	** 1**1	1	
学 歴	小	39 (83.0)	3 (6.4)	1 (2.1)	1 (2.1)	1 (2.1)	1 (2.1)	1 (2.1)	47 (100)	** 1**1	1	**
	中	21 (45.7)	17 (37.0)	1 (2.2)	1 (2.2)	3 (6.5)	3 (6.5)	0 (0)	46 (100)			
	高	6 —	9 —	1 —	2 —	1 —	1 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	35 (71.4)	6 (12.2)	1 (2.0)	1 (2.0)	1 (2.0)	4 (8.2)	1 (2.0)	49 (100)	** 1**1	1	
	工	13 (54.2)	9 (37.5)	0 (0)	1 (4.2)	1 (4.2)	0 (0)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	1 —	7 —	1 —	0 —	1 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	8 —	5 —	0 —	2 —	2 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	9 —	2 —	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	34 (68.0)	9 (18.0)	1 (2.0)	2 (4.0)	1 (2.0)	3 (6.0)	0 (0)	50 (100)	** 1*1	1	
	無	32 (50.8)	20 (31.7)	2 (3.2)	2 (3.2)	4 (6.3)	2 (3.2)	1 (1.6)	63 (100)	**		

第97図 2.16 書くことができないよ (茂)

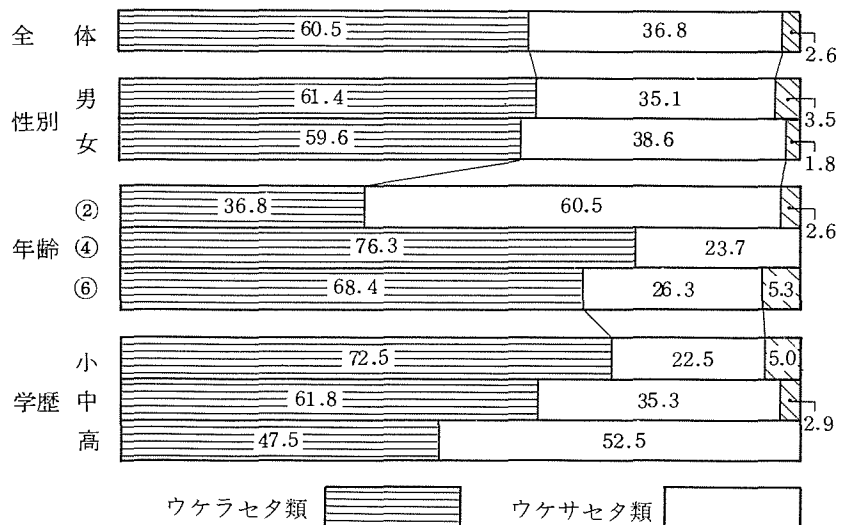


第106表 2.29 受けさせましたよ（保）

1. ウケラセタ類 2. ウケサセタ類

		1	2	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	69 (60.5)	42 (36.8)	3 (2.6)	114 (100)	** 1*1	1	
性 別	男	35 (61.4)	20 (35.1)	2 (3.5)	57 (100)	** (1*2)	(1)	
	女	34 (59.6)	22 (38.6)	1 (1.8)	57 (100)			
年 齢	②	14 (36.8)	23 (60.5)	1 (2.6)	38 (100)			*
	④	29 (76.3)	9 (23.7)	0 (0)	38 (100)	** 1**1	1	
	⑥	26 (68.4)	10 (26.3)	2 (5.3)	38 (100)	** 1*1	1	
学 歴	小	29 (72.5)	9 (22.5)	2 (5.0)	40 (100)	** 1**1	1	
	中	21 (61.8)	12 (35.3)	1 (2.9)	34 (100)			
	高	19 (47.5)	21 (52.5)	0 (0)	40 (100)			
職 業	農	57 (69.5)	22 (26.8)	3 (3.7)	82 (100)	** 1**1	1	*
	工	2 —	5 —	0 —	7 —	—	—	
	商	4 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	4 —	14 —	0 —	18 —	—	—	
	無	2 —	1 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	41 (67.2)	17 (27.9)	3 (4.9)	61 (100)	** 1**1	1	
	無	28 (52.8)	25 (47.2)	0 (0)	53 (100)			

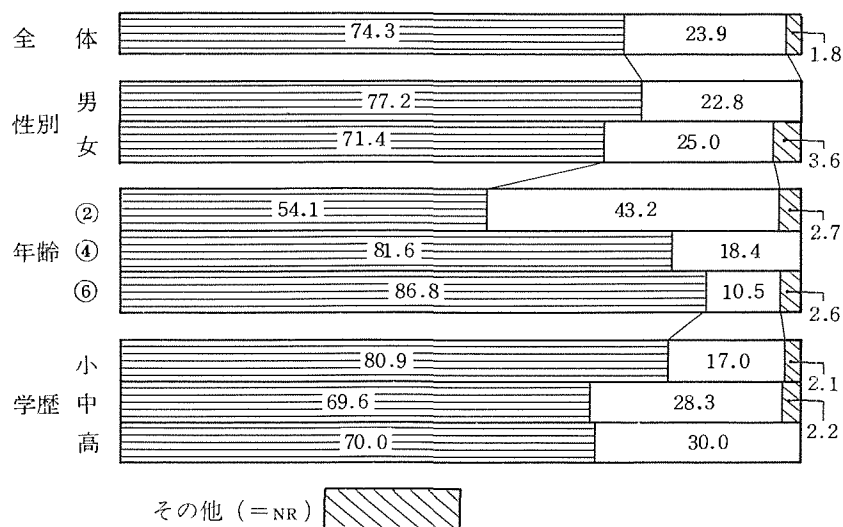
第98図 2.29 受けさせましたよ（保）



第107表 2.29 受けさせましたよ (茂)

		1	2	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		84 (74.3)	27 (23.9)	2 (1.8)	113 (100)	** [**]	1	
性 別	男	44 (77.2)	13 (22.8)	0 (0)	57 (100)	** [**]	1	
	女	40 (71.4)	14 (25.0)	2 (3.6)	56 (100)	** [**]	1	
年 齢	②	20 (54.1)	16 (43.2)	1 (2.7)	37 (100)			
	④	31 (81.6)	7 (18.4)	0 (0)	38 (100)	** [**]	1	
	⑥	33 (86.8)	4 (10.5)	1 (2.6)	38 (100)	** [**]	1	
学 歴	小	38 (80.9)	8 (17.0)	1 (2.1)	47 (100)	** [**]	1	
	中	32 (69.6)	13 (28.3)	1 (2.2)	46 (100)	** [**]	1	
	高	14 —	6 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	39 (79.6)	9 (18.4)	1 (2.0)	49 (100)	** [**]	1	
	工	16 (66.7)	8 (33.3)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	7 —	2 —	1 —	10 —	—	—	
	事	10 —	8 —	0 —	18 —	—	—	
	無	12 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	40 (80.0)	10 (20.0)	0 (0)	50 (100)	** [**]	1	
	無	44 (69.8)	17 (27.0)	2 (3.2)	63 (100)	** [**]	1	

第99図 2.29 受けさせましたよ (茂)

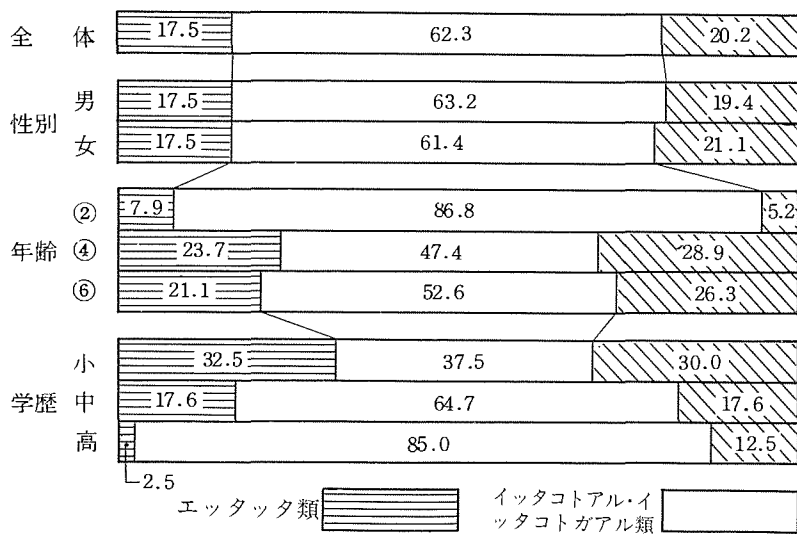


第108表 2.09(1) 行ったことがある(保)

1. エッタッタ類 2. イッタコトアル類 3. イッタコトガアル類

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	20 (17.5)	44 (38.6)	27 (23.7)	13 (11.4)	2 (1.8)	8 (7.0)	114 (100)	** (2*3)	(2)	
性 別	男	10 (17.5)	23 (40.4)	13 (22.8)	9 (15.8)	1 (1.8)	1 (1.8)	57 (100)			
	女	10 (17.5)	21 (36.8)	14 (24.6)	4 (7.0)	1 (1.8)	7 (12.3)	57 (100)			
年 齢	②	3 (7.9)	13 (34.2)	20 (52.6)	1 (2.6)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	*		
	④	9 (23.7)	12 (31.6)	6 (15.8)	6 (15.8)	1 (2.6)	4 (10.5)	38 (100)			
	⑥	8 (21.1)	19 (50.0)	1 (2.6)	6 (15.8)	0 (0)	4 (10.5)	38 (100)	** (2*1)	(2)	
学 歴	小	13 (32.5)	14 (35.0)	1 (2.5)	6 (15.0)	0 (0)	6 (15.0)	40 (100)			
	中	6 (17.6)	15 (44.1)	7 (20.6)	3 (8.8)	1 (2.9)	2 (5.9)	34 (100)			
	高	1 (2.5)	15 (37.5)	19 (47.5)	4 (10.0)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)			
職 業	農	19 (23.2)	30 (36.6)	12 (14.6)	11 (13.4)	2 (2.4)	8 (9.8)	82 (100)	**		
	工	0 —	5 —	2 —	0 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	2 —	2 —	0 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	1 —	5 —	11 —	1 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	2 —	0 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	13 (21.3)	25 (41.0)	11 (18.0)	7 (11.5)	0 (0)	5 (8.2)	61 (100)	**		
	無	7 (13.2)	19 (35.8)	16 (30.2)	6 (11.3)	2 (3.8)	3 (5.7)	53 (100)			

第100図 2.09(1) 行ったことがある(保)

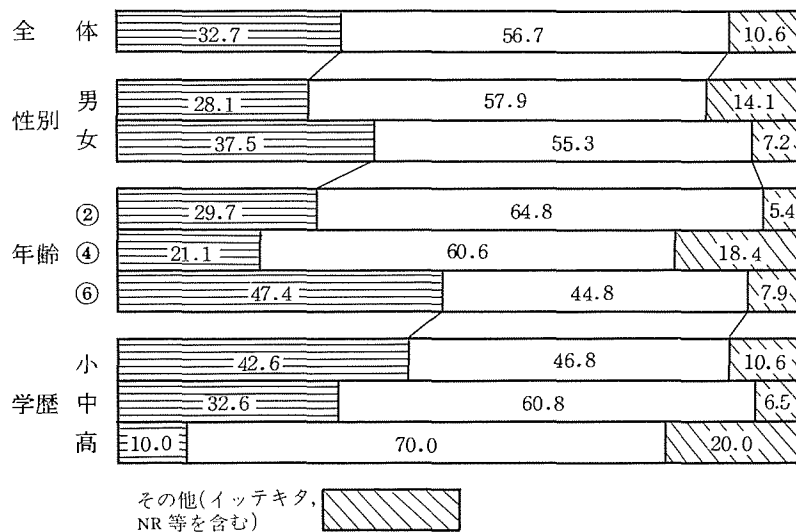


第109表 2.09(1) 行ったことがある (茂)

4. イッテキタ類 5. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		37 (32.7)	48 (42.5)	16 (14.2)	8 (7.1)	4 (3.5)	113 (100)	**		
性 別	男	16 (28.1)	23 (40.4)	10 (17.5)	5 (8.8)	3 (5.3)	57 (100)	*		
	女	21 (37.5)	25 (44.6)	6 (10.7)	3 (5.4)	1 (1.8)	56 (100)	*		
年 齢	②	11 (29.7)	15 (40.5)	9 (24.3)	1 (2.7)	1 (2.7)	37 (100)			
	④	8 (21.1)	21 (55.3)	2 (5.3)	6 (15.8)	1 (2.6)	38 (100)	** (2*1)	(2)	
	⑥	18 (47.4)	12 (31.6)	5 (13.2)	1 (2.6)	2 (5.3)	38 (100)			
学 歴	小	20 (42.6)	18 (38.3)	4 (8.5)	4 (8.5)	1 (2.1)	47 (100)			
	中	15 (32.6)	22 (47.8)	6 (13.0)	2 (4.3)	1 (2.2)	46 (100)			
	高	2 —	8 —	6 —	2 —	2 —	20 —	—	—	
職 業	農	23 (46.9)	18 (36.7)	6 (12.2)	0 (0)	2 (4.1)	49 (100)	*		
	工	5 (20.8)	15 (62.5)	0 (0)	3 (12.5)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	商	2 —	4 —	3 —	1 —	0 —	10 —	—	—	
	事	3 —	7 —	6 —	1 —	1 —	18 —	—	—	
	無	4 —	4 —	1 —	3 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	16 (32.0)	19 (38.0)	7 (14.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	50 (100)			
	無	21 (33.3)	29 (46.0)	9 (14.3)	3 (4.8)	1 (1.6)	63 (100)	*		

第101図 2.09(1) 行ったことがある (茂)

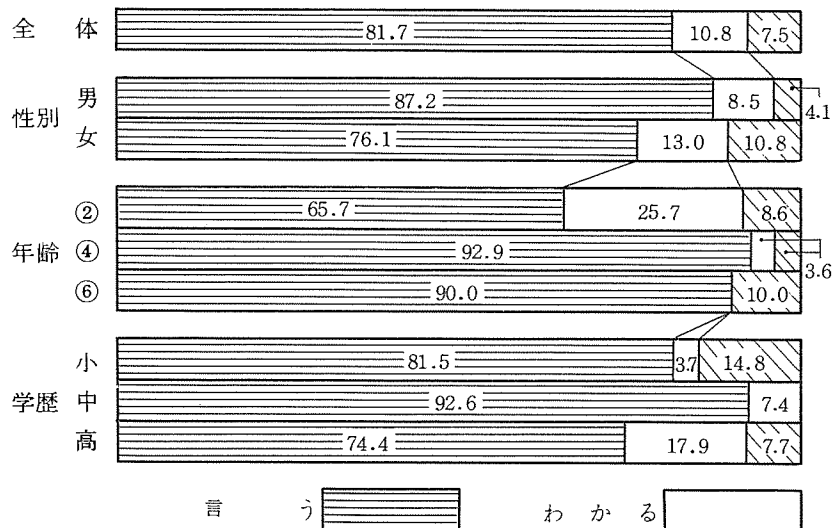


第110表 2.09(2) 「エッタッタ」, 使いませんか (保)

1. 言う 2. わかる 3. しらない

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	76 (81.7)	10 (10.8)	4 (4.3)	3 (3.2)	93 (100)	** 1**1	1	
性 別	男	41 (87.2)	4 (8.5)	1 (2.1)	1 (2.1)	47 (100)	** 1**1	1	
	女	35 (76.1)	6 (13.0)	3 (6.5)	2 (4.3)	46 (100)	** 1**1	1	
年 齢	②	23 (65.7)	9 (25.7)	3 (8.6)	0 (0)	35 (100)	** (1*2)	(1)	
	④	26 (92.9)	1 (3.6)	0 (0)	1 (3.6)	28 (100)	—	—	
	⑥	27 (90.0)	0 (0)	1 (3.3)	2 (6.7)	30 (100)	** 1**1	1	
学 歴	小	22 (81.5)	1 (3.7)	1 (3.7)	3 (11.1)	27 (100)	—	—	
	中	25 (92.6)	2 (7.4)	0 (0)	0 (0)	27 (100)	—	—	
	高	29 (74.4)	7 (17.9)	3 (7.7)	0 (0)	39 (100)	** 1**1	1	
職 業	農	55 (88.7)	3 (4.8)	1 (1.6)	3 (4.8)	62 (100)	** 1**1	1	
	工	4 —	3 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	3 —	1 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	12 —	3 —	2 —	0 —	17 —	—	—	
	無	2 —	0 —	1 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	40 (83.3)	3 (6.3)	2 (4.2)	3 (6.3)	48 (100)	** 1**1	1	
	無	36 (80.0)	7 (15.6)	2 (4.4)	0 (0)	45 (100)	** 1**1	1	

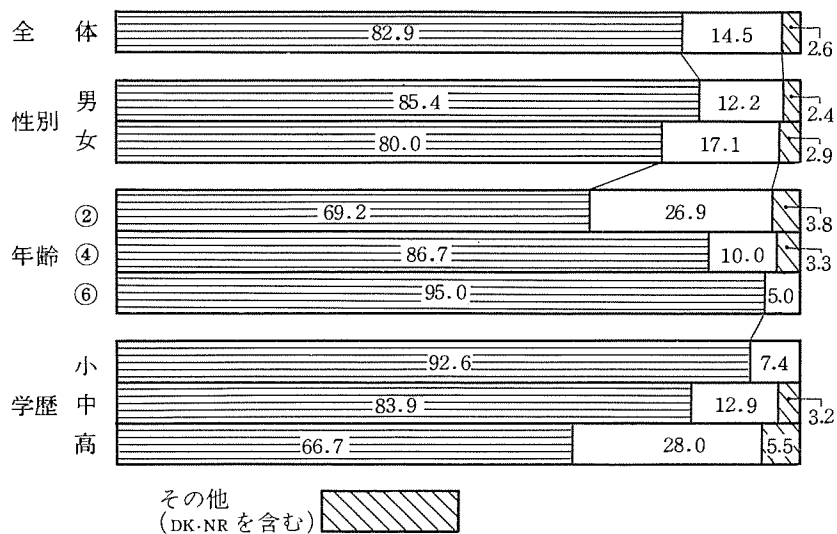
第102図 2.09(2) エッタッタ (使うか) (保)



第111表 2.09(2) 「エッタッタ」, 使いませんか (茂)

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	63 (82.9)	11 (14.5)	2 (2.6)	0 (0)	76 (100)	** 1**1	1	
性	男	35 (85.4)	5 (12.2)	1 (2.4)	0 (0)	41 (100)	** 1**1	1	
	女	28 (80.0)	6 (17.1)	1 (2.9)	0 (0)	35 (100)	** 1**1	1	
年	②	18 (69.2)	7 (26.9)	1 (3.8)	0 (0)	26 (100)	—	—	
	④	26 (86.7)	3 (10.0)	1 (3.3)	0 (0)	30 (100)	** 1**1	1	
	⑥	19 —	1 —	0 —	0 —	20 —	—	—	
学	小	25 (92.6)	2 (7.4)	0 (0)	0 (0)	27 (100)	—	—	
	中	26 (83.9)	4 (12.9)	1 (3.2)	0 (0)	31 (100)	** 1**1	1	
	高	12 —	5 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
職	農	23 (88.5)	2 (7.7)	1 (3.8)	0 (0)	26 (100)	—	—	
	工	17 —	2 —	0 —	0 —	19 —	—	—	
	商	6 —	2 —	0 —	0 —	8 —	—	—	
	事	9 —	5 —	1 —	0 —	15 —	—	—	
	無	8 —	0 —	0 —	0 —	8 —	—	—	
役	有	28 (82.4)	5 (14.7)	1 (2.9)	0 (0)	34 (100)	** 1**1	1	
	無	35 (83.3)	6 (14.3)	1 (2.4)	0 (0)	42 (100)	** 1**1	1	

第103図 2.09(2) エッタッタ (使うか) (茂)

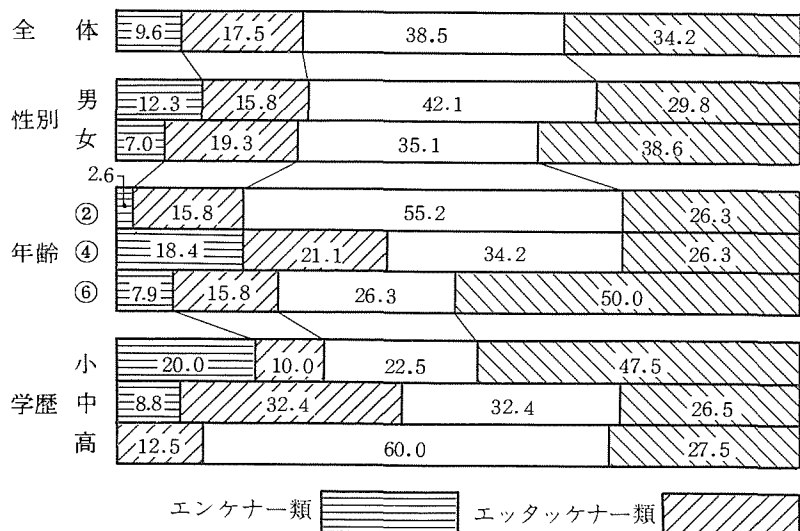


第112表 2.24(1) 行くふうだったなあ(保)

1. エンケナー類 2. エッタッケナー類 3. エグミタエグッタナー類

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		11 (9.6)	20 (17.5)	7 (6.1)	33 (28.9)	4 (3.5)	6 (5.3)	33 (28.9)	114 (100)	—	—	
性 別	男	7 (12.3)	9 (15.8)	2 (3.5)	20 (35.1)	2 (3.5)	2 (3.5)	15 (26.3)	57 (100)	*		
	女	4 (7.0)	11 (19.3)	5 (8.8)	13 (22.8)	2 (3.5)	4 (7.0)	18 (31.6)	57 (100)			
年 齢	②	1 (2.6)	6 (15.8)	7 (18.4)	11 (28.9)	3 (7.9)	0 (0)	10 (26.3)	38 (100)			
	④	7 (18.4)	8 (21.1)	0 (0)	13 (34.2)	0 (0)	1 (2.6)	9 (23.7)	38 (100)			
	⑥	3 (7.9)	6 (15.8)	0 (0)	9 (23.7)	1 (2.6)	5 (13.2)	14 (36.8)	38 (100)			
学 歴	小	8 (20.0)	4 (10.0)	0 (0)	9 (22.5)	0 (0)	4 (10.0)	15 (37.5)	40 (100)			
	中	3 (8.8)	11 (32.4)	0 (0)	9 (26.5)	2 (5.9)	2 (5.9)	7 (20.6)	34 (100)			
	高	0 (0)	5 (12.5)	7 (17.5)	15 (37.5)	2 (5.0)	0 (0)	11 (27.5)	40 (100)			
職 業	農	8 (9.8)	17 (20.7)	1 (1.2)	23 (28.0)	1 (1.2)	6 (7.3)	26 (31.7)	82 (100)	**		
	工	1 —	2 —	1 —	1 —	1 —	0 —	1 —	7 —	—	—	
	商	1 —	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	2 —	4 —	—	—	
	事	0 —	1 —	4 —	8 —	1 —	0 —	4 —	18 —	—	—	
	無	1 —	0 —	0 —	1 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	4 (6.6)	10 (16.4)	3 (4.9)	21 (34.4)	2 (3.3)	3 (4.9)	18 (29.5)	61 (100)	**		
	無	7 (13.2)	10 (18.9)	4 (7.5)	12 (22.6)	2 (3.8)	3 (5.7)	15 (28.3)	53 (100)			

第104図 2.24(1) 行くふうだったなあ(保)

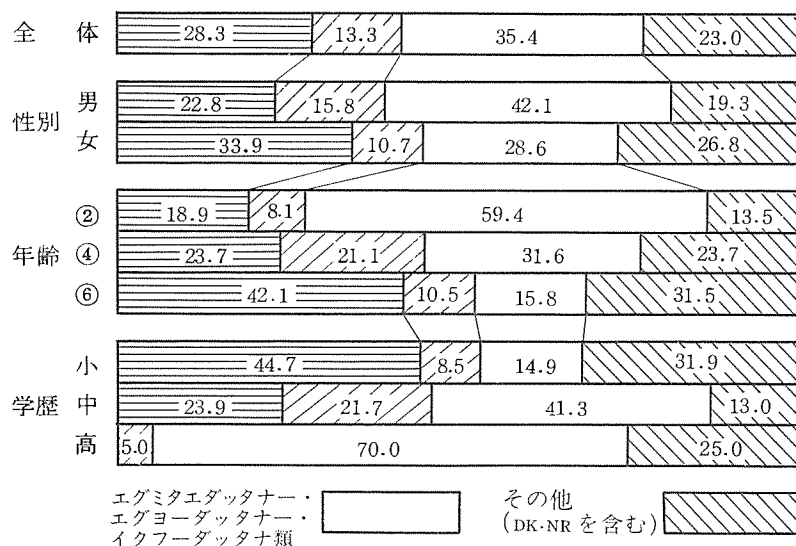


第113表 2.24(1) 行くふうだったなあ (茂)

4. エグヨーダッタナ類 5. イクフーダッタナ類 6. その他

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	32 (28.3)	15 (13.3)	1 (0.9)	33 (29.2)	6 (5.3)	1 (0.9)	25 (22.1)	113 (100)	**		
性	男	13 (22.8)	9 (15.8)	0 (0)	21 (36.8)	3 (5.3)	1 (1.8)	10 (17.5)	57 (100)			
別	女	19 (33.9)	6 (10.7)	1 (1.8)	12 (21.4)	3 (5.4)	0 (0)	15 (26.8)	56 (100)			
年	②	7 (18.9)	3 (8.1)	1 (2.7)	15 (40.5)	6 (16.2)	0 (0)	5 (13.5)	37 (100)			
齢	④	9 (23.7)	8 (21.1)	0 (0)	12 (31.6)	0 (0)	0 (0)	9 (23.7)	38 (100)			
	⑥	16 (42.1)	4 (10.5)	0 (0)	6 (15.8)	0 (0)	1 (2.6)	11 (28.9)	38 (100)			
学	小	21 (44.7)	4 (8.5)	0 (0)	7 (14.9)	0 (0)	1 (2.1)	14 (29.8)	47 (100)			
歴	中	11 (23.9)	10 (21.7)	1 (2.2)	16 (34.8)	2 (4.3)	0 (0)	6 (13.0)	46 (100)			
	高	0 —	1 —	0 —	10 —	4 —	0 —	5 —	20 —	—	—	
職	農	21 (42.9)	7 (14.3)	0 (0)	9 (18.4)	0 (0)	1 (2.0)	11 (22.4)	49 (100)			
業	工	7 —	4 —	1 —	7 —	0 —	0 —	5 —	24 —	—	—	
	商	1 —	1 —	0 —	5 —	1 —	0 —	2 —	10 —	—	—	
	事	0 —	2 —	0 —	9 —	5 —	0 —	2 —	18 —	—	—	
	無	3 —	1 —	0 —	3 —	0 —	1 —	5 —	12 —	—	—	
役	有	12 (24.0)	5 (10.0)	0 (0)	15 (30.0)	3 (6.0)	1 (2.0)	14 (28.0)	50 (100)			
員	無	20 (31.7)	10 (15.9)	1 (1.6)	18 (28.6)	3 (4.8)	0 (0)	11 (17.5)	63 (100)			

第105図 2.24(1) 行くふうだったなあ (茂)

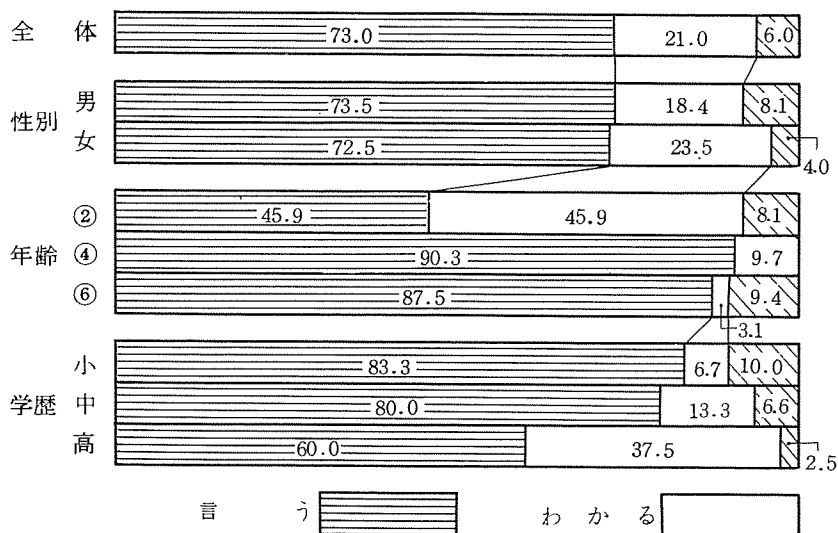


第114表 2.24(2) 「エグッケナー」, 言いませんか (保)

1. 言う 2. きけばわかる 3. しらない

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	73 (73.0)	21 (21.0)	2 (2.0)	4 (4.0)	100 (100)	** 1**1	1	
性別	男	36 (73.5)	9 (18.4)	1 (2.0)	3 (6.1)	49 (100)	** 1**1	1	
	女	37 (72.5)	12 (23.5)	1 (2.0)	1 (2.0)	51 (100)	** 1**1	1	
年齢	②	17 (45.9)	17 (45.9)	1 (2.7)	2 (5.4)	37 (100)	—	—	
	④	28 (90.3)	3 (9.7)	0 (0)	0 (0)	31 (100)	** 1**1	1	**
	⑥	28 (87.5)	1 (3.1)	1 (3.1)	2 (6.3)	32 (100)	** 1**1	1	
学歴	小	25 (83.3)	2 (6.7)	1 (3.3)	2 (6.7)	30 (100)	** 1**1	1	
	中	24 (80.0)	4 (13.3)	1 (3.3)	1 (3.3)	30 (100)	** 1**1	1	
	高	24 (60.0)	15 (37.5)	0 (0)	1 (2.5)	40 (100)			
職業	農	59 (83.1)	7 (9.9)	1 (1.4)	4 (5.6)	71 (100)	** 1**1	1	
	工	1 —	4 —	1 —	0 —	6 —	—	—	
	商	3 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	**
	事	9 —	9 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	1 —	1 —	0 —	0 —	2 —	—	—	
役員	有	44 (80.0)	8 (14.5)	0 (0)	3 (5.5)	55 (100)	** 1**1	1	
	無	29 (64.4)	13 (28.9)	2 (4.4)	1 (2.2)	45 (100)	** (1*2)	(1)	

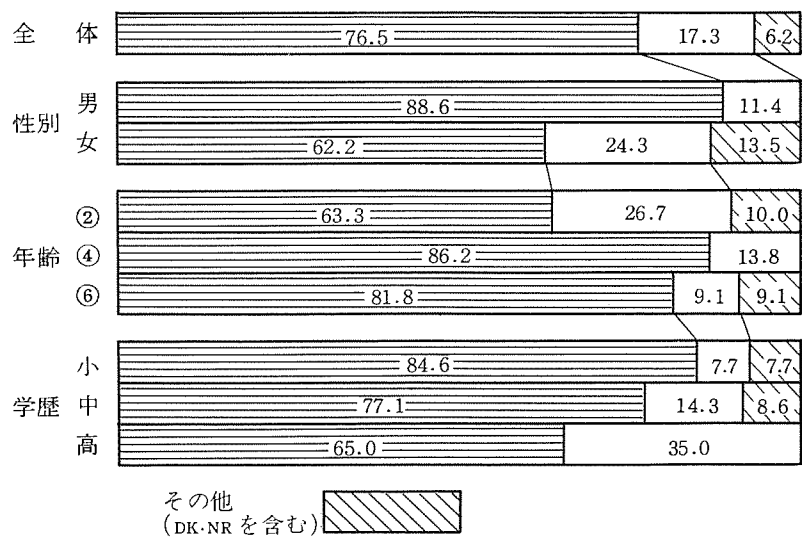
第106図 2.24(2) 「エグッケナー」言いませんか (保)



第115表 2.24(2) 「エグツケナー」、言いませんか (茂)

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	62 (76.5)	14 (17.3)	0 (0)	5 (6.2)	81 (100)	** 1**1	1	
性 別	男	39 (88.6)	5 (11.4)	0 (0)	0 (0)	44 (100)	** 1**1	1	
	女	23 (62.2)	9 (24.3)	0 (0)	5 (13.5)	37 (100)	** (1*2)	(1)	
年 齢	②	19 (63.3)	8 (26.7)	0 (0)	3 (10.0)	30 (100)	** (1*2)	(1)	
	④	25 (86.2)	4 (13.8)	0 (0)	0 (0)	29 (100)	——	——	
	⑥	18 (81.8)	2 (9.1)	0 (0)	2 (9.1)	22 (100)	——	——	
学 歴	小	22 (84.6)	2 (7.7)	0 (0)	2 (7.7)	26 (100)	——	——	
	中	27 (77.1)	5 (14.3)	0 (0)	3 (8.6)	35 (100)	** (1**2)	(1)	
	高	13 —	7 —	0 —	0 —	20 —	——	——	
職 業	農	22 (78.6)	4 (14.3)	0 (0)	2 (7.1)	28 (100)	——	——	
	工	13 —	2 —	0 —	2 —	17 —	——	——	
	商	5 —	4 —	0 —	0 —	9 —	——	——	
	事	14 —	3 —	0 —	1 —	18 —	——	——	
	無	8 —	1 —	0 —	0 —	9 —	——	——	
役 員	有	34 (89.5)	2 (5.3)	0 (0)	2 (5.3)	38 (100)	** 1**1	1	
	無	28 (65.1)	12 (27.9)	0 (0)	3 (7.0)	43 (100)	** 1*1	1	

第107図 2.24(2) 「エグツケナー」 言いませんか (茂)

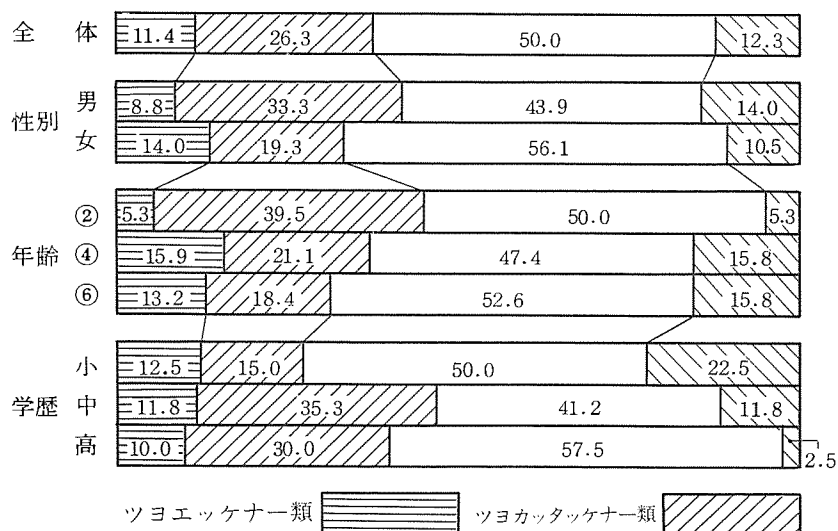


第116表 2.28(1) 強かったっけなあ(保)

1. ツヨエッケナー類 2. ツヨカッタッケナー類

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	13 (11.4)	30 (26.3)	57 (50.0)	14 (12.3)	114 (100)	** (3**2)	(3)	
性 別	男	5 (8.8)	19 (33.3)	25 (43.9)	8 (14.0)	57 (100)	**		
	女	9 (14.0)	11 (19.3)	32 (56.1)	6 (10.5)	57 (100)	** (3**2)	(3)	
年 齢	②	2 (5.3)	15 (39.5)	19 (50.0)	2 (5.3)	38 (100)	*		
	④	6 (15.8)	8 (21.1)	18 (47.4)	6 (15.8)	38 (100)	** (3*2)	(3)	
	⑥	5 (13.2)	7 (18.4)	20 (52.6)	6 (15.8)	38 (100)	** (3*2)	(3)	
学 歴	小	5 (12.5)	6 (15.0)	20 (50.0)	9 (22.5)	40 (100)	** (3*N.R.)	(3)	
	中	4 (11.8)	12 (35.3)	14 (41.2)	4 (11.8)	34 (100)			
	高	4 (10.0)	12 (30.0)	3 (57.5)	1 (2.5)	40 (100)	**		
職 業	農	11 (13.4)	17 (20.7)	41 (50.0)	13 (15.9)	82 (100)	** (3**2)	(3)	
	工	0 —	4 —	3 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	1 —	3 —	0 —	4 —	—	—	
	事	1 —	8 —	8 —	1 —	18 —	—	—	
	無	1 —	0 —	2 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	6 (9.8)	15 (24.6)	34 (55.7)	6 (9.8)	61 (100)	** (3**2)	(3)	
	無	7 (13.2)	15 (28.3)	23 (43.4)	8 (15.1)	53 (100)	*		

第108図 2.28(1) 強かったっけなあ(保)

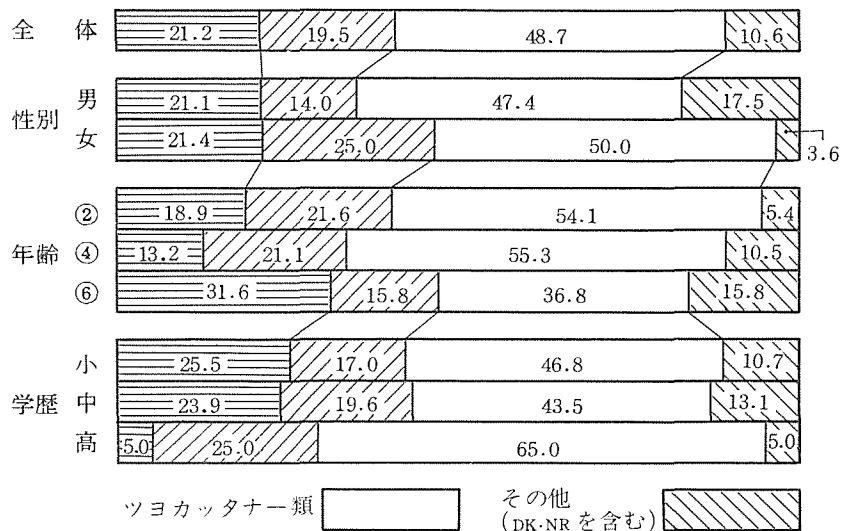


第117表 2.28(1) 強かったっけなあ (茂)

3. ツヨカッター類 4. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	24 (21.2)	22 (19.5)	55 (48.7)	2 (1.8)	10 (8.8)	113 (100)	** (3**1)	(3)	
性別	男	12 (21.1)	8 (14.0)	27 (47.4)	2 (3.5)	8 (14.0)	57 (100)	** (3*1)	(3)	
	女	12 (21.4)	14 (25.0)	28 (50.0)	0 (0)	2 (3.6)	56 (100)	** (3*2)	(3)	
年齢	②	7 (18.9)	8 (21.6)	20 (54.1)	0 (0)	2 (5.4)	37 (100)	** (3*2)	(3)	
	④	5 (13.2)	8 (21.1)	21 (55.3)	0 (0)	4 (10.5)	38 (100)	** (3*2)	(3)	
	⑥	12 (31.6)	6 (15.8)	14 (36.8)	2 (5.3)	4 (10.5)	38 (100)			
学歴	小	12 (25.5)	8 (17.0)	22 (46.8)	1 (2.2)	4 (8.5)	47 (100)			
	中	11 (23.9)	9 (19.6)	20 (43.5)	1 (2.2)	5 (10.9)	46 (100)	*		
	高	1 —	5 —	13 —	0 —	1 —	20 —	—	—	
職業	農	14 (28.6)	9 (18.4)	18 (36.7)	2 (4.1)	6 (12.2)	49 (100)			
	工	4 (16.7)	3 (12.5)	14 (58.3)	0 (0)	3 (12.5)	24 (100)	—	—	
	商	1 —	3 —	6 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	2 —	5 —	10 —	0 —	1 —	18 —	—	—	
	無	3 —	2 —	7 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役員	有	11 (22.0)	9 (18.0)	25 (50.0)	1 (2.0)	4 (8.0)	50 (100)	** (3*1)	(3)	
	無	13 (20.6)	13 (20.6)	30 (47.6)	1 (1.6)	6 (9.5)	63 (100)	** (3**1)	(3)	

第109図 2.28(1) 強かったっけなあ (茂)

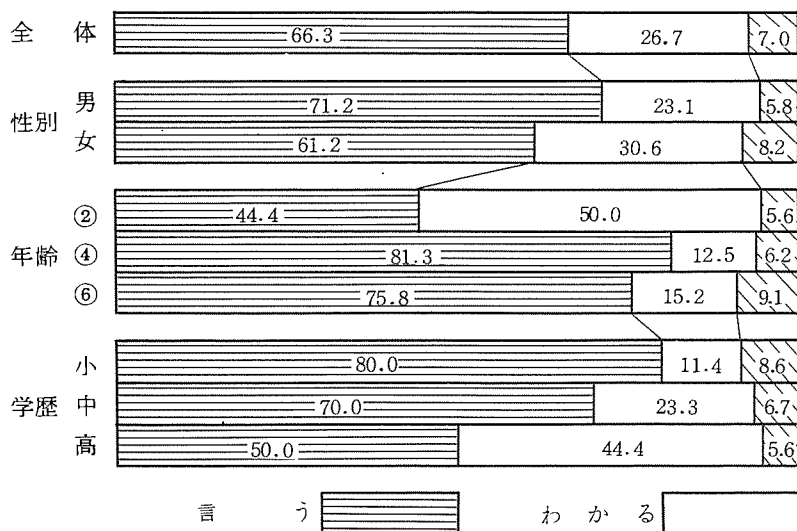


第118表 2.28(2) ツヨエッケナーと言いませんか(保)

1. 言う 2. きけばわかる 3. しらない

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	67 (66.3)	27 (26.7)	2 (2.0)	5 (5.0)	101 (100)	** 1**1	1	
性 別	男	37 (71.2)	12 (23.1)	0 (0)	3 (5.8)	52 (100)	** 1**1	1	
	女	30 (61.2)	15 (30.6)	2 (4.1)	2 (4.1)	49 (100)	** (1*2)	(1)	
年 齢	②	16 (44.4)	18 (50.0)	1 (2.8)	1 (2.8)	36 (100)			
	④	26 (81.3)	4 (12.5)	1 (3.1)	1 (3.1)	32 (100)	** 1**1	1	
	⑥	25 (75.8)	5 (15.2)	0 (0)	3 (9.1)	33 (100)	** 1**1	1	
学 歴	小	28 (80.0)	4 (11.4)	1 (2.9)	2 (5.7)	35 (100)	** 1**1	1	
	中	21 (70.0)	7 (23.3)	0 (0)	2 (6.7)	30 (100)	** 1*1	1	
	高	18 (50.0)	16 (44.4)	1 (2.8)	1 (2.8)	36 (100)			
職 業	農	53 (74.6)	12 (16.9)	1 (1.4)	5 (7.0)	71 (100)	** 1**1	1	
	工	2 —	5 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	3 —	1 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	8 —	9 —	0 —	0 —	17 —	—	—	
	無	1 —	0 —	1 —	0 —	2 —	—	—	
役 員	有	40 (72.7)	10 (18.2)	1 (1.8)	4 (7.3)	55 (100)	** 1**1	1	
	無	27 (58.7)	17 (37.0)	1 (2.2)	1 (2.2)	46 (100)			

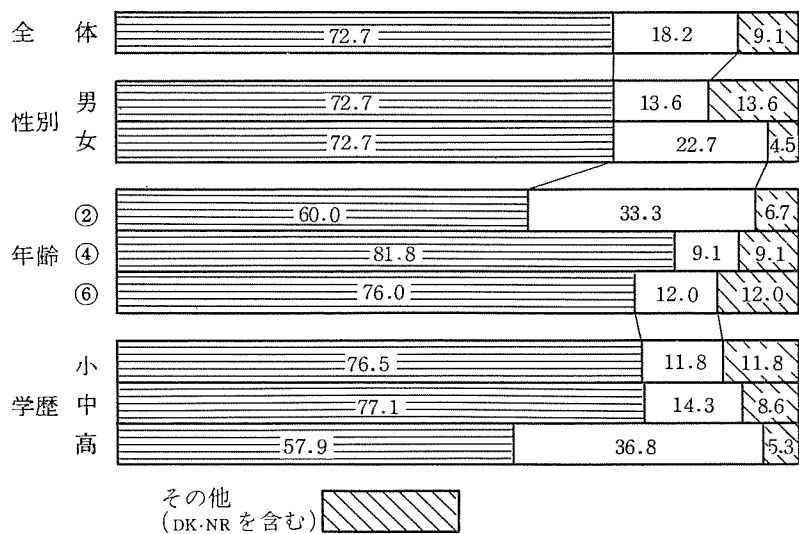
第110図 2.28(2) ツヨエッケナー(言いませんか)(保)



第119表 2.28(2) ツヨエッケナーと言いませんか(茂)

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	64 (72.7)	16 (18.2)	2 (2.3)	6 (6.8)	88 (100)	** 1**1	1	
性別	男	32 (72.7)	6 (13.6)	2 (4.5)	4 (9.1)	44 (100)	** 1**1	1	
	女	32 (72.7)	10 (22.7)	0 (0)	2 (4.5)	44 (100)	** 1**1	1	
年齢	②	18 (60.0)	10 (33.3)	0 (0)	2 (6.7)	30 (100)			
	④	27 (81.8)	3 (9.1)	1 (3.0)	2 (6.1)	33 (100)	** 1**1	1	
	⑥	19 (76.0)	3 (12.0)	1 (4.0)	2 (8.0)	25 (100)	—	—	
学歴	小	26 (76.5)	4 (11.8)	2 (5.9)	2 (5.9)	34 (100)	** 1**1	1	
	中	27 (77.1)	5 (14.3)	0 (0)	3 (8.6)	35 (100)	** 1**1	1	
	高	11 —	7 —	0 —	1 —	19 —	—	—	
職業	農	26 (76.5)	4 (11.8)	1 (2.9)	3 (8.8)	34 (100)	** 1**1	1	
	工	15 —	2 —	1 —	2 —	20 —	—	—	
	商	6 —	3 —	0 —	0 —	9 —	—	—	
	事	9 —	6 —	0 —	1 —	16 —	—	—	
	無	8 —	1 —	0 —	0 —	9 —	—	—	
役員	有	29 (74.4)	5 (12.8)	2 (5.1)	3 (7.7)	39 (100)	** 1**1	1	
	無	35 (71.4)	11 (22.4)	0 (0)	3 (6.1)	49 (100)	** 1**1	1	

第111図 2.28(2) ツヨエッケナー(言いませんか)(茂)

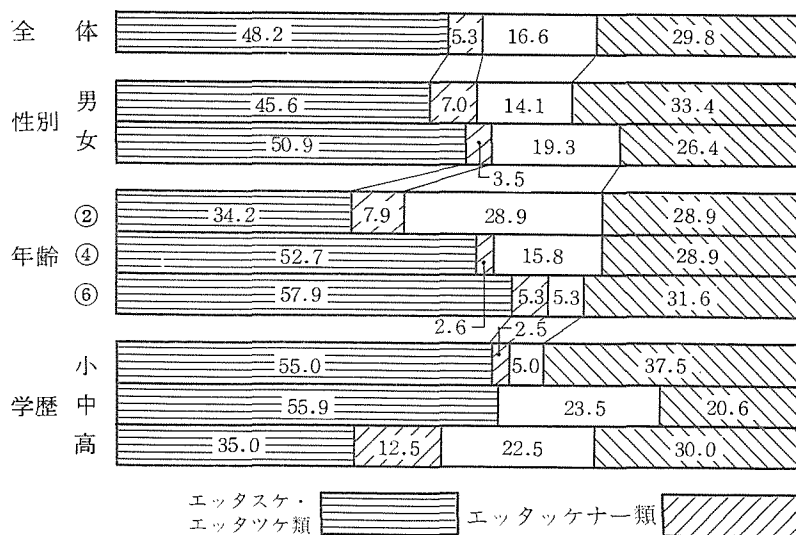


第120表 2.10 行ったんだそうだ (保)

1. エッタスケ類 2. エッタツケ類 3. エッタツケナー類

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	26 (22.8)	29 (25.4)	6 (5.3)	7 (6.1)	12 (10.5)	5 (4.4)	29 (25.4)	114 (100)	——	—	
性	男	15 (26.3)	11 (19.3)	4 (7.0)	1 (1.8)	7 (12.3)	3 (5.3)	16 (28.1)	57 (100)			
別	女	11 (19.3)	18 (31.6)	2 (3.5)	6 (10.5)	5 (8.8)	2 (3.5)	13 (22.9)	57 (100)			
年	②	12 (31.6)	1 (2.6)	3 (7.9)	4 (10.5)	7 (18.4)	1 (2.6)	10 (26.3)	38 (100)			
齢	④	8 (21.1)	12 (31.6)	1 (2.6)	3 (7.9)	3 (7.9)	1 (2.6)	10 (26.3)	38 (100)			
	⑥	6 (15.8)	16 (42.1)	2 (5.3)	0 (0)	2 (5.3)	3 (7.9)	9 (23.7)	38 (100)			
学	小	8 (20.0)	14 (35.0)	1 (2.5)	1 (2.5)	1 (2.5)	2 (5.0)	13 (32.5)	40 (100)			
歴	中	10 (29.4)	9 (26.5)	0 (0)	2 (5.9)	6 (17.6)	0 (0)	7 (20.6)	34 (100)			
	高	8 (20.0)	6 (15.0)	5 (12.5)	4 (10.0)	5 (12.5)	3 (7.5)	9 (22.5)	40 (100)			
職	農	17 (20.7)	27 (32.9)	3 (3.7)	5 (6.1)	6 (7.3)	4 (4.9)	20 (24.4)	82 (100)	*		
	工	2 —	0 —	0 —	0 —	3 —	0 —	2 —	7 —	——	—	
業	商	1 —	0 —	2 —	0 —	0 —	0 —	1 —	4 —	——	—	
	事	6 —	0 —	1 —	2 —	3 —	0 —	6 —	18 —	——	—	
	無	0 —	2 —	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	3 —	——	—	
役	有	14 (23.0)	18 (29.5)	4 (6.6)	1 (1.6)	7 (11.5)	3 (4.9)	14 (23.0)	61 (100)			
員	無	12 (22.6)	11 (20.8)	2 (3.8)	6 (11.3)	5 (9.4)	2 (3.8)	15 (28.3)	53 (100)			

第112図 2.10 行ったんだそうだ (保)

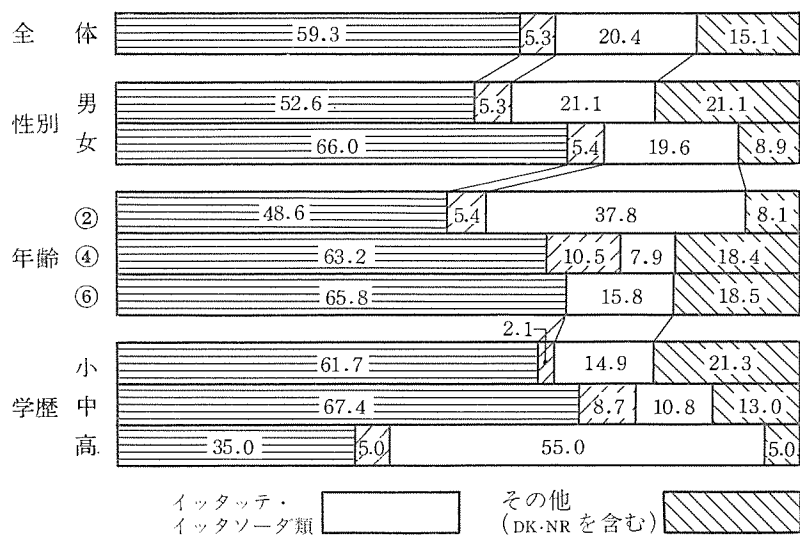


第121表 2.10 行ったんだそうだ（茂）

4. イッタッテ類 5. イッタソーダ類 6. その他

		1	2	3	4	5	6	N・R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	43 (38.1)	24 (21.1)	6 (5.3)	8 (7.1)	15 (13.3)	3 (2.7)	14 (12.4)	113 (100)	** (1*2)	(1)	
性 別	男	19 (33.3)	11 (19.3)	3 (5.3)	1 (1.8)	11 (19.3)	3 (5.3)	9 (15.8)	57 (100)			
	女	24 (42.9)	13 (23.1)	3 (5.4)	7 (12.5)	4 (7.1)	0 (0)	5 (8.9)	56 (100)	*		
年 齢	②	14 (37.8)	4 (10.8)	2 (5.4)	4 (10.8)	10 (27.0)	0 (0)	3 (8.1)	37 (100)			
	④	21 (55.3)	3 (7.9)	4 (10.5)	1 (2.6)	2 (5.3)	1 (2.6)	6 (15.8)	38 (100)	** (1**N.R)	(1)	
	⑥	8 (21.1)	17 (44.7)	0 (0)	3 (7.9)	3 (7.9)	2 (5.3)	5 (13.2)	38 (100)			
学 歴	小	14 (29.8)	15 (31.9)	1 (2.1)	3 (6.4)	4 (8.5)	3 (6.4)	7 (14.9)	47 (100)			
	中	22 (47.8)	9 (19.6)	4 (8.7)	3 (6.5)	2 (4.3)	0 (0)	6 (13.0)	46 (100)	** (1*2)	(1)	
	高	7 —	0 —	1 —	2 —	9 —	0 —	1 —	20 —	—	—	
職 業	農	14 (28.6)	17 (34.7)	1 (2.0)	2 (4.1)	6 (12.2)	2 (4.1)	7 (14.3)	49 (100)			
	工	13 (54.2)	3 (12.5)	2 (8.3)	2 (8.3)	0 (0)	1 (4.2)	3 (12.5)	24 (100)	—	—	
	商	3 —	0 —	0 —	2 —	2 —	0 —	3 —	10 —	—	—	
	事	7 —	0 —	2 —	1 —	7 —	0 —	1 —	18 —	—	—	
	無	6 —	4 —	1 —	1 —	0 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	21 (42.0)	7 (14.0)	2 (4.0)	1 (2.0)	9 (18.0)	3 (6.0)	7 (14.0)	50 (100)	** (1*5)	(1)	
	無	22 (34.9)	17 (27.0)	4 (6.3)	7 (11.1)	6 (9.5)	0 (0)	7 (11.1)	63 (100)			

第113図 2.10 行ったんだそうだ（茂）

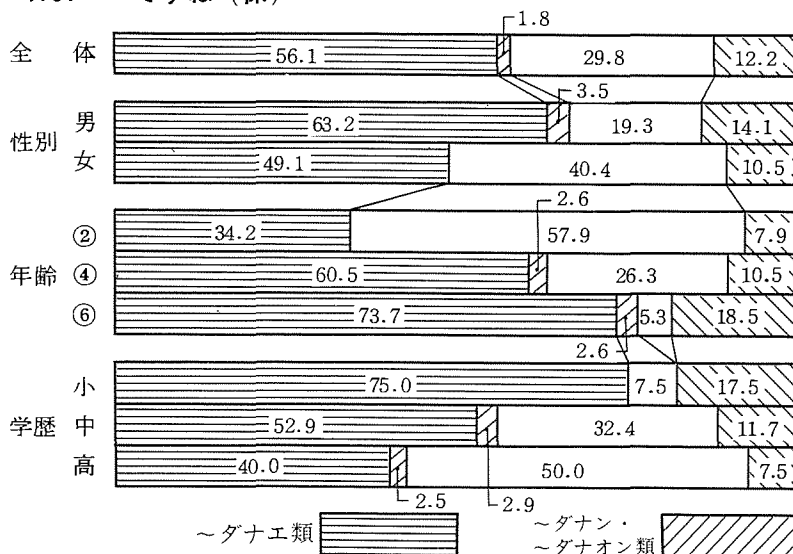


第122表 4.01 ～ですね (保)

1. ～ダナエ類 2. ～ダナン類 3. ～ダナオン類

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		64 (56.1)	2 (1.8)	0 (0)	34 (29.8)	11 (9.6)	3 (2.6)	114 (100)	** (1**4)	(1)	
性 別	男	36 (63.2)	2 (3.5)	0 (0)	11 (19.3)	5 (8.8)	3 (5.3)	57 (100)	** 1*1	1	
	女	28 (49.1)	0 (0)	0 (0)	23 (40.4)	6 (10.5)	0 (0)	57 (100)	**		
年 齢	②	13 (34.2)	0 (0)	0 (0)	22 (57.9)	3 (7.9)	0 (0)	38 (100)			
	④	23 (60.5)	1 (2.6)	0 (0)	10 (26.3)	3 (7.9)	1 (2.6)	38 (100)	** (1*4)	(1)	*
	⑥	28 (73.7)	1 (2.6)	0 (0)	2 (5.3)	5 (13.2)	2 (5.3)	38 (100)	** 1**1	1	
学 歴	小	30 (75.0)	0 (0)	0 (0)	3 (7.5)	6 (15.0)	1 (2.5)	40 (100)	** 1**1	1	
	中	18 (52.9)	1 (2.9)	0 (0)	11 (32.4)	3 (8.8)	1 (2.9)	34 (100)	*		
	高	16 (40.0)	1 (2.5)	0 (0)	20 (50.0)	2 (5.0)	1 (2.5)	40 (100)	*		
職 業	農	52 (63.4)	2 (2.4)	0 (0)	17 (20.7)	8 (9.8)	3 (3.7)	82 (100)	** 1*1	1	
	工	1 —	0 —	0 —	6 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	2 —	0 —	0 —	1 —	1 —	0 —	4 —	—	—	
	事	7 —	0 —	0 —	10 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	2 —	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	41 (67.2)	2 (3.3)	0 (0)	9 (14.8)	6 (9.8)	3 (4.9)	61 (100)	** 1**1	1	*
	無	23 (43.4)	0 (0)	0 (0)	25 (47.2)	5 (9.4)	0 (0)	53 (100)	**		

第114図 4.01 ～ですね (保)

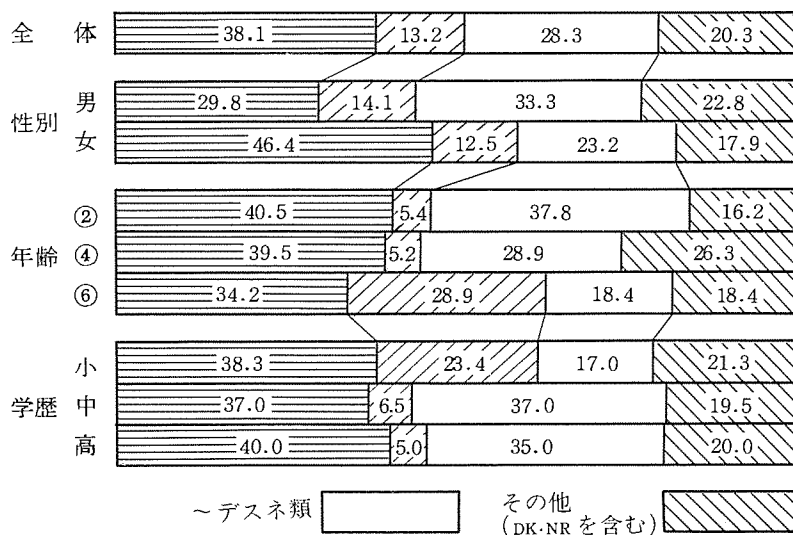


第123表 4.01 ～ですね (茂)

4. ～デスネ類 5. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		43 (38.1)	4 (3.5)	11 (9.7)	32 (28.3)	19 (16.8)	4 (3.5)	113 (100)	**		
性 別	男	17 (29.8)	1 (1.8)	7 (12.3)	19 (33.3)	11 (19.3)	2 (3.5)	57 (100)			
	女	26 (46.4)	3 (5.4)	4 (7.1)	13 (23.2)	8 (14.3)	2 (3.6)	56 (100)	** (1*4)	(1)	
年 齢	②	15 (40.5)	2 (5.4)	0 (0)	14 (37.8)	5 (13.5)	1 (2.7)	37 (100)			
	④	15 (39.5)	1 (2.6)	1 (2.6)	11 (28.9)	10 (26.3)	0 (0)	38 (100)			
	⑥	13 (34.2)	1 (2.6)	10 (26.3)	7 (18.4)	4 (10.5)	3 (7.9)	38 (100)			
学 歴	小	18 (38.3)	2 (4.3)	9 (19.1)	8 (17.0)	8 (17.0)	2 (4.3)	47 (100)			
	中	17 (37.0)	1 (2.2)	2 (4.3)	17 (37.0)	7 (15.2)	2 (4.3)	46 (100)	——	——	
	高	8 —	1 —	0 —	7 —	4 —	0 —	20 —	——	——	
職 業	農	17 (34.7)	1 (2.0)	8 (16.3)	12 (24.5)	8 (16.3)	3 (6.1)	49 (100)			
	工	8 (33.3)	0 (0)	2 (8.3)	7 (29.2)	6 (25.0)	1 (4.2)	24 (100)	——	——	
	商	3 —	0 —	0 —	4 —	3 —	0 —	10 —	——	——	
	事	10 —	1 —	0 —	7 —	0 —	0 —	18 —	——	——	
	無	5 —	2 —	1 —	2 —	2 —	0 —	12 —	——	——	
役 員	有	19 (38.0)	0 (0)	8 (16.0)	12 (24.0)	9 (18.0)	2 (4.0)	50 (100)			
	無	24 (38.1)	4 (6.3)	3 (4.8)	20 (31.7)	10 (15.9)	2 (3.2)	63 (100)	*		

第115図 4.01 ～ですね (茂)

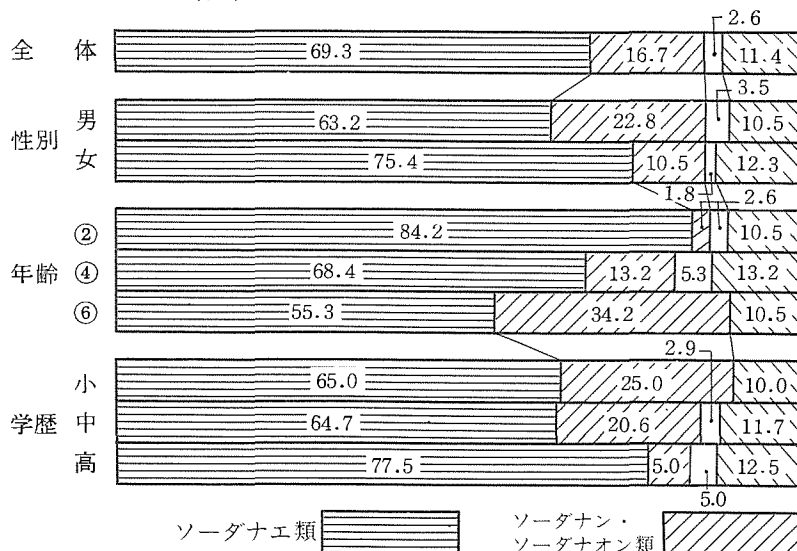


第124表 2.32 そうですね (保)

1. ソーダナエ類 2. ソーダナン類 3. ソーダナオン類

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	79 (69.3)	19 (16.7)	0 (0)	0 (0)	3 (2.6)	7 (6.1)	6 (5.3)	114 (100)	** 1**1	1	
性	男	36 (63.2)	13 (22.8)	0 (0)	0 (0)	2 (3.5)	4 (7.0)	2 (3.5)	57 (100)	** 1*1	1	
	女	43 (75.4)	6 (10.5)	0 (0)	0 (0)	1 (1.8)	3 (5.3)	4 (7.0)	57 (100)	** 1**1	1	
年	②	32 (84.2)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	1 (2.6)	1 (2.6)	3 (7.9)	38 (100)	** 1**1	1	
	④	26 (68.4)	5 (13.2)	0 (0)	0 (0)	2 (5.3)	3 (7.9)	2 (5.3)	38 (100)	** 1*1	1	
	⑥	21 (55.3)	13 (34.2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (7.9)	1 (2.6)	38 (100)			
学	小	26 (65.0)	10 (25.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (7.5)	1 (2.5)	40 (100)	** (1**2)	(1)	
	中	22 (64.7)	7 (20.6)	0 (0)	0 (0)	1 (2.9)	3 (8.8)	1 (2.9)	34 (100)	** (1**2)	(1)	
	高	31 (77.5)	2 (5.0)	0 (0)	0 (0)	2 (5.0)	1 (2.5)	4 (10.0)	40 (100)	** 1*1	1	
職	農	54 (65.9)	18 (22.0)	0 (0)	0 (0)	2 (2.4)	5 (6.1)	3 (3.7)	82 (100)	** 1**1	1	
	工	6 —	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	4 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	13 —	0 —	0 —	0 —	1 —	1 —	3 —	18 —	—	—	
	無	2 —	0 —	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	3 —	—	—	
役	有	37 (60.7)	15 (24.6)	0 (0)	0 (0)	3 (4.9)	3 (4.9)	3 (4.9)	61 (100)	** (1**2)	(1)	
	無	42 (79.2)	4 (7.5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (7.5)	3 (5.7)	53 (100)	** 1**1	1	

第116図 2.32 そうですね (保)

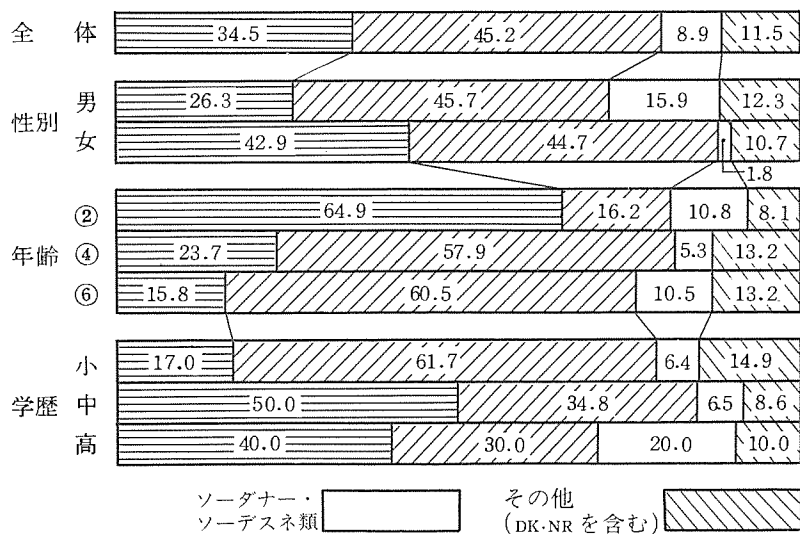


第125表 2.32 そうですね (茂)

4. ソーダナー類 5. ソーデスネ類 6. その他

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		39 (34.5)	29 (25.7)	22 (19.5)	7 (6.2)	3 (2.7)	5 (4.4)	8 (7.1)	113 (100)	**		
性 別	男	15 (26.3)	14 (24.6)	12 (21.1)	7 (12.3)	2 (3.6)	3 (5.3)	4 (7.0)	57 (100)			
	女	24 (42.9)	15 (26.8)	10 (17.9)	0 (0)	1 (1.8)	2 (3.6)	4 (7.1)	56 (100)	*		
年 齢	②	24 (64.9)	5 (13.5)	1 (2.7)	2 (5.4)	2 (5.4)	1 (2.7)	2 (5.4)	37 (100)	** (1**2)	(1)	**
	④	9 (23.7)	15 (39.5)	7 (18.4)	2 (5.3)	0 (0)	2 (5.3)	3 (7.9)	38 (100)			
	⑥	6 (15.8)	9 (23.7)	14 (36.8)	3 (7.9)	1 (2.6)	2 (5.3)	3 (7.9)	38 (100)			
学 歴	小	8 (17.0)	15 (31.9)	14 (29.8)	2 (4.3)	1 (2.1)	3 (6.4)	4 (8.5)	47 (100)			
	中	23 (50.0)	8 (17.4)	8 (17.4)	3 (6.5)	0 (0)	2 (4.3)	2 (4.3)	46 (100)	** (1**2,3)	(1)	
	高	8 —	6 —	0 —	2 —	2 —	0 —	2 —	20 —	—	—	
職 業	農	11 (22.4)	14 (28.6)	13 (26.5)	3 (6.1)	1 (2.0)	3 (6.1)	4 (8.2)	49 (100)			
	工	11 (45.8)	4 (16.7)	5 (20.8)	2 (8.3)	0 (0)	0 (0)	2 (8.3)	24 (100)	—	—	
	商	4 —	2 —	0 —	1 —	2 —	0 —	1 —	10 —	—	—	
	事	10 —	4 —	0 —	1 —	0 —	2 —	1 —	18 —	—	—	
	無	3 —	5 —	4 —	0 —	0 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	16 (32.0)	10 (20.0)	11 (22.0)	4 (8.0)	1 (2.0)	3 (6.0)	5 (10.0)	50 (100)			
	無	23 (36.5)	19 (30.2)	11 (17.5)	3 (4.8)	2 (3.2)	2 (3.2)	3 (4.8)	63 (100)			

第117図 2.32 そうですね (茂)

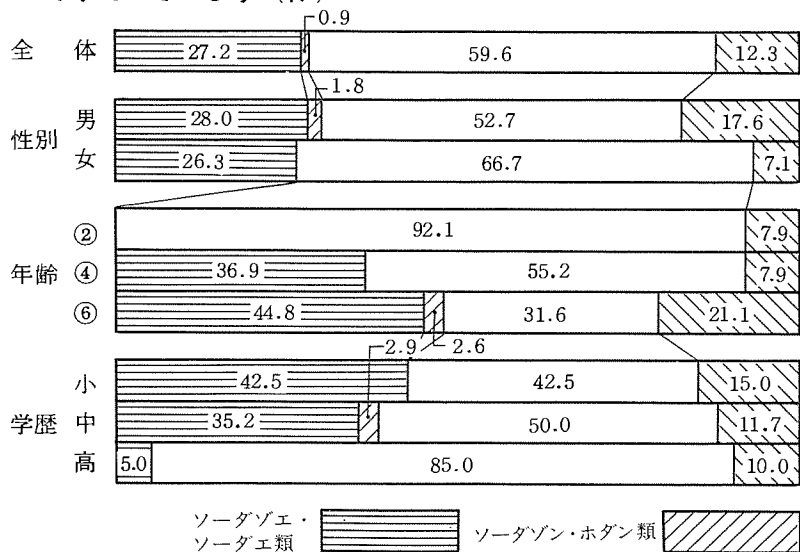


第126表 4.06 そうでございます (保)

1. ソーダゾエ類 2. ソーダゾン類 3. ソーダエ類 4. ホダン類

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		14 (12.3)	0 (0)	17 (14.9)	1 (0.9)	64 (56.1)	4 (3.5)	8 (7.0)	6 (5.3)	114 (100)	** (5**3)	(5)	
性 別	男	6 (10.5)	0 (0)	10 (17.5)	1 (1.8)	27 (47.4)	3 (5.3)	5 (8.8)	5 (8.8)	57 (100)	** (5**3)	(5)	
	女	8 (14.0)	0 (0)	7 (12.3)	0 (0)	37 (64.9)	1 (1.8)	3 (5.3)	1 (1.8)	57 (100)	** 5*5	5	
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	35 (92.1)	0 (0)	0 (0)	3 (7.9)	38 (100)	** 5**5	5	
	④	6 (15.8)	0 (0)	8 (21.1)	0 (0)	20 (52.6)	1 (2.6)	2 (5.3)	1 (2.6)	38 (100)	** (5*3)	(5)	**
	⑥	8 (21.1)	0 (0)	9 (23.7)	1 (2.6)	9 (23.7)	3 (7.9)	6 (15.8)	2 (5.3)	38 (100)	——	—	
学 歴	小	8 (20.0)	0 (0)	9 (22.5)	0 (0)	14 (35.0)	3 (7.5)	4 (10.0)	2 (5.0)	40 (100)			
	中	6 (17.6)	0 (0)	6 (17.6)	1 (2.9)	16 (47.1)	1 (2.9)	3 (8.8)	1 (2.9)	34 (100)	** (5*1, 3)	(5)	**
	高	0 (0)	0 (0)	2 (5.0)	0 (0)	34 (85.0)	0 (0)	1 (2.5)	3 (7.5)	40 (100)	** 5**5	5	
職 業	農	14 (17.1)	0 (0)	16 (19.5)	1 (1.2)	36 (43.9)	4 (4.9)	7 (8.5)	4 (4.9)	82 (100)	** (5**3)	(5)	
	工	0 —	0 —	0 —	0 —	6 —	0 —	0 —	1 —	7 —	——	—	
	商	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	0 —	1 —	0 —	4 —	——	—	**
	事	0 —	0 —	0 —	0 —	17 —	0 —	0 —	1 —	18 —	——	—	
	無	0 —	0 —	1 —	0 —	2 —	0 —	0 —	0 —	3 —	——	—	
役 員	有	6 (9.8)	0 (0)	10 (16.4)	1 (1.6)	30 (49.2)	4 (6.6)	6 (9.8)	4 (6.6)	61 (100)	** (5**3)	(5)	
	無	8 (15.1)	0 (0)	7 (13.2)	0 (0)	34 (64.2)	0 (0)	2 (3.8)	2 (3.8)	53 (100)	** 5*5	5	

第118図 4.06 そうでございます (保)

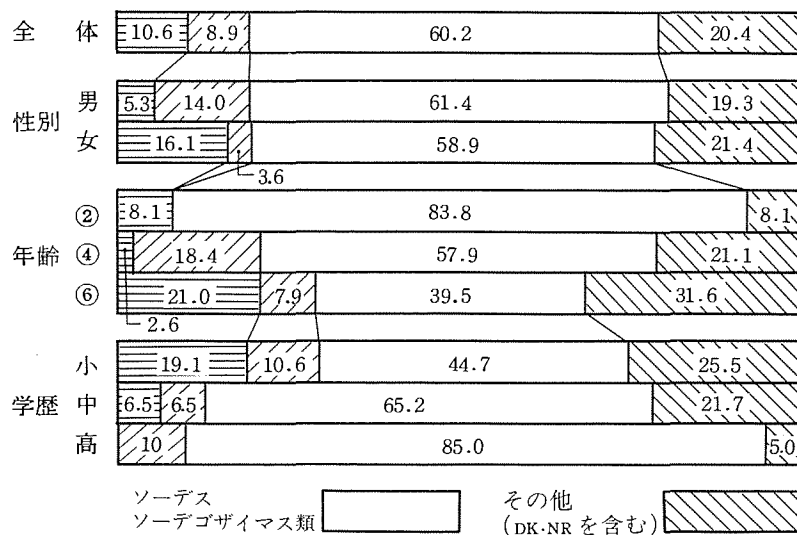


第127表 4.06 そうでございます (茂)

5. ソーデス類 6. ソーデゴザイマス類 7. その他

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	11 (9.7)	3 (2.7)	1 (0.9)	7 (6.2)	68 (60.2)	0 (0)	15 (13.3)	8 (7.1)	113 (100)	** 5*5	5	
性 別	男	3 (5.3)	2 (3.5)	0 (0)	6 (10.5)	35 (61.4)	0 (0)	7 (12.3)	4 (7.0)	57 (100)	** (5**7)	(5)	
	女	8 (14.3)	1 (1.8)	1 (1.8)	1 (1.8)	33 (58.9)	0 (0)	8 (14.3)	4 (7.1)	56 (100)	** (5**1,7)	(5)	
年 齢	②	3 (8.1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	31 (83.8)	0 (0)	1 (2.7)	2 (5.4)	37 (100)	** 5**5	5	
	④	1 (2.6)	3 (7.9)	0 (0)	4 (10.5)	22 (57.9)	0 (0)	8 (21.1)	0 (0)	38 (100)	** (5*7)	(5)	**
	⑥	7 (18.4)	0 (0)	1 (2.6)	3 (7.9)	15 (39.5)	0 (0)	6 (15.8)	6 (15.8)	38 (100)			
学 歴	小	8 (17.0)	1 (2.1)	1 (2.1)	4 (8.5)	21 (44.7)	0 (0)	7 (14.9)	5 (10.6)	47 (100)	** (5*1)	(5)	
	中	3 (6.5)	0 (0)	0 (0)	3 (6.5)	30 (65.2)	0 (0)	7 (15.2)	3 (6.5)	46 (100)	** 5*5	5	
	高	0 —	2 —	0 —	0 —	17 —	0 —	1 —	0 —	20 —	— —	—	
職 業	農	5 (10.2)	1 (2.0)	0 (0)	4 (8.2)	25 (51.0)	0 (0)	8 (16.3)	6 (12.2)	49 (100)	** (5**7)	(5)	
	工	4 (16.7)	1 (4.2)	0 (0)	2 (8.3)	12 (50.0)	0 (0)	5 (20.8)	0 (0)	24 (100)	— —	—	
	商	0 —	1 —	0 —	0 —	9 —	0 —	0 —	0 —	10 —	— —	—	
	事	0 —	0 —	0 —	0 —	15 —	0 —	2 —	1 —	18 —	— —	—	
	無	2 —	0 —	1 —	1 —	7 —	0 —	0 —	1 —	12 —	— —	—	
役 員	有	4 (8.0)	2 (4.0)	0 (0)	5 (10.0)	25 (50.0)	0 (0)	9 (18.0)	5 (10.0)	50 (100)	** (5**7)	(5)	
	無	7 (11.1)	1 (1.6)	1 (1.6)	2 (3.2)	43 (68.3)	0 (0)	6 (9.5)	3 (4.8)	63 (100)	** 5**5	5	

第119図 4.06 そうでございます (茂)

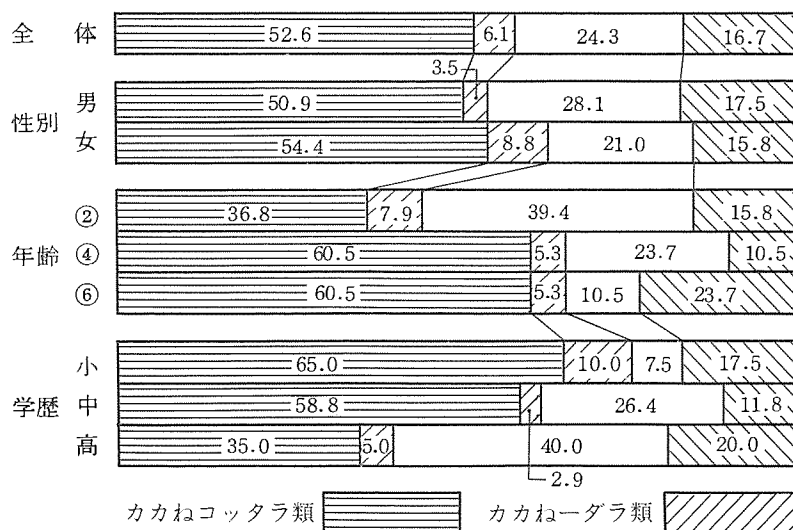


第128表 2.12(1) 書かないなら(保)

1. カカねコッタラ類 2. カカねーダラ類 3. カカナケレバ類

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	60 (52.6)	7 (6.1)	4 (3.5)	24 (21.1)	2 (1.8)	17 (14.9)	114 (100)	** (1**4)	(1)	
性 別	男	29 (50.9)	2 (3.5)	2 (3.5)	14 (24.6)	2 (3.5)	8 (14.0)	57 (100)	** (1*4)	(1)	
	女	31 (54.4)	5 (8.8)	2 (3.5)	10 (17.5)	0 (0)	9 (15.8)	57 (100)	**		
年 齢	②	14 (36.8)	3 (7.9)	0 (0)	15 (39.4)	1 (2.6)	5 (13.2)	38 (100)			
	④	23 (60.5)	2 (5.3)	3 (7.9)	6 (15.8)	1 (2.6)	3 (7.9)	38 (100)	** (1**4)	(1)	
	⑥	23 (60.5)	2 (5.3)	1 (2.6)	3 (7.9)	0 (0)	9 (23.7)	38 (100)	** (1*N.R)	(1)	
学 歴	小	26 (65.0)	4 (10.0)	2 (5.0)	1 (2.5)	1 (2.5)	6 (15.0)	40 (100)	** (1**N.R)	(1)	
	中	20 (58.8)	1 (2.9)	1 (2.9)	8 (23.5)	0 (0)	4 (11.8)	34 (100)	** (1*4)	(1)	
	高	14 (35.0)	2 (5.0)	1 (2.5)	15 (37.5)	1 (2.5)	7 (17.5)	40 (100)			
職 業	農	47 (57.3)	4 (4.9)	4 (4.9)	12 (14.6)	2 (2.4)	13 (15.9)	82 (100)	** (1**N.R)	(1)	
	工	2 —	0 —	0 —	4 —	0 —	1 —	7 —	—	—	
	商	2 —	1 —	0 —	1 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	7 —	2 —	0 —	6 —	0 —	3 —	18 —	—	—	
	無	2 —	0 —	0 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	34 (55.7)	4 (6.6)	2 (3.3)	11 (18.0)	1 (1.6)	9 (14.8)	61 (100)	** (1**4)	(1)	
	無	26 (49.1)	3 (5.7)	2 (3.8)	13 (24.5)	1 (1.9)	8 (15.1)	53 (100)	** (1*4)	(1)	

第120図 2.12(1) 書かないなら(保)

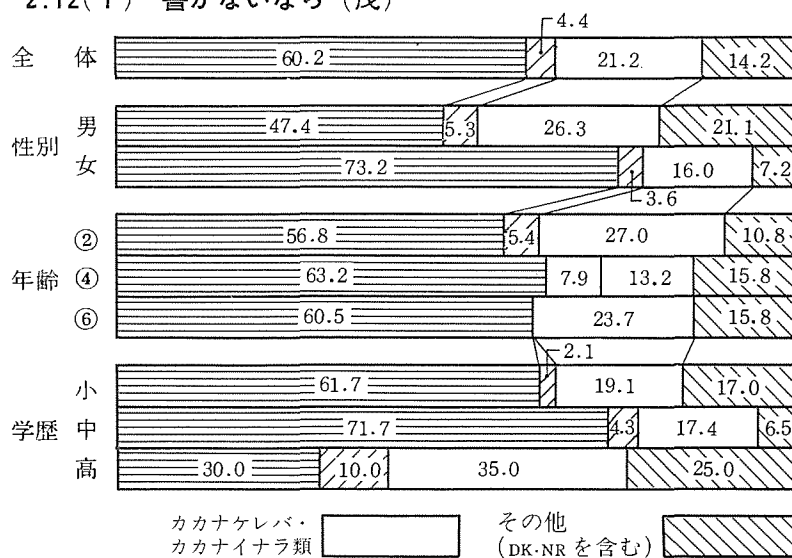


第129表 2.12(1) 書かないなら(茂)

4. カカナイナラ類 5. その他

		1	2	3	4	5	N・R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	68 (60.2)	5 (4.4)	10 (8.8)	14 (12.4)	7 (6.2)	9 (8.0)	113 (100)	** 1*1	1	
性 別	男	27 (47.4)	3 (5.3)	6 (10.5)	9 (15.8)	5 (8.8)	7 (12.3)	57 (100)	** (1**4)	(1)	
	女	41 (73.2)	2 (3.6)	4 (7.1)	5 (8.9)	2 (3.6)	2 (3.6)	56 (100)	** 1**1	1	
年 齢	②	21 (56.8)	2 (5.4)	1 (2.7)	9 (24.3)	0 (0)	4 (10.8)	37 (100)	** (1*4)	(1)	
	④	24 (63.2)	3 (7.9)	2 (5.3)	3 (7.9)	5 (13.2)	1 (2.6)	38 (100)	** (1**5)	(1)	
	⑥	23 (60.5)	0 (0)	7 (18.4)	2 (5.3)	2 (5.3)	4 (10.5)	38 (100)	** (1**3)	(1)	
学 歴	小	29 (61.7)	1 (2.1)	5 (10.6)	4 (8.5)	4 (8.5)	4 (8.5)	47 (100)	** (1**3)	(1)	
	中	33 (71.7)	2 (4.3)	5 (10.9)	3 (6.5)	1 (2.2)	2 (4.3)	46 (100)	** 1**1	1	
	高	6 —	2 —	0 —	7 —	2 —	3 —	20 —	— —	—	
職 業	農	29 (59.2)	1 (2.0)	7 (14.3)	5 (10.2)	3 (6.1)	4 (8.2)	49 (100)	** (1**3)	(1)	
	工	14 (58.3)	2 (8.3)	2 (8.3)	2 (8.3)	2 (8.3)	2 (8.3)	24 (100)	— —	—	
	商	4 —	1 —	1 —	4 —	0 —	0 —	10 —	— —	—	
	事	10 —	1 —	0 —	3 —	1 —	3 —	18 —	— —	—	
	無	11 —	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	12 —	— —	—	
役 員	有	32 (64.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	4 (8.0)	2 (4.0)	6 (12.0)	50 (100)	** 1*1	1	
	無	36 (57.1)	2 (3.2)	7 (11.1)	10 (15.9)	5 (7.9)	3 (4.8)	63 (100)	** (1**4)	(1)	

第121図 2.12(1) 書かないなら(茂)

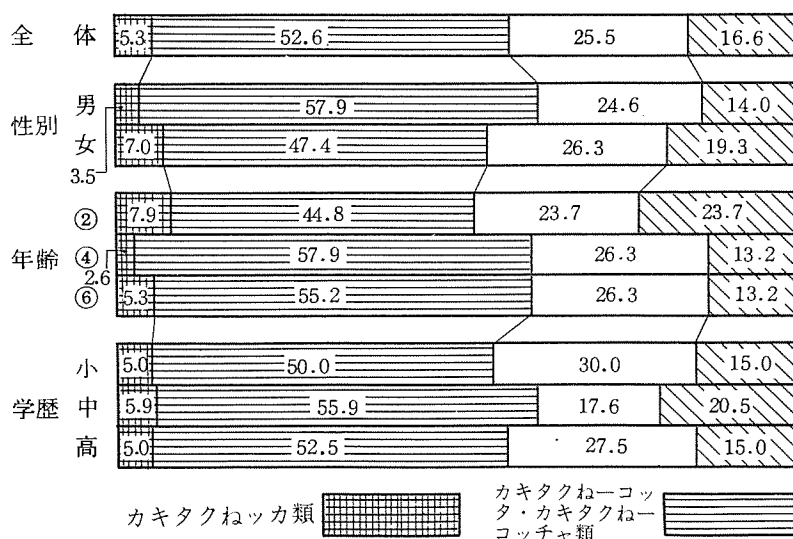


第130表 2.15 書きたくなければ（保）

1. カキタクねツカ類 2. カキタクねーコッタ類 3. カキタクねーコッチャ類

		1	2	3	4	5	6	7	N. R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	(5.3) ⁶	(38.6) ⁴⁴	(14.0) ¹⁶	(8.8) ¹⁰	(14.9) ¹⁷	(1.8) ²	(2.6) ³	(14.0) ¹⁶	114	** (2**5)	(2)	
性	男	(3.5) ²	(42.1) ²⁴	(15.8) ⁹	(7.0) ⁴	(15.8) ⁹	(1.8) ¹	(3.5) ²	(10.5) ⁶	57	** (2**3, 5)	(2)	
別	女	(7.0) ⁴	(35.1) ²⁰	(12.3) ⁷	(10.5) ⁶	(14.0) ⁸	(1.8) ¹	(1.8) ¹	(17.5) ¹⁰	57	*		
年	②	(7.9) ³	(13.2) ⁵	(31.6) ¹²	(5.3) ²	(18.4) ⁷	(0) ⁰	(0) ⁰	(23.7) ⁹	38			
齢	④	(2.6) ¹	(50.0) ¹⁹	(7.9) ³	(10.5) ⁴	(15.8) ⁶	(0) ⁰	(7.9) ³	(5.3) ²	38	** (2**5)	(2)	
	⑥	(5.3) ²	(52.6) ²⁰	(2.6) ¹	(10.5) ⁴	(10.5) ⁴	(5.3) ²	(0) ⁰	(13.2) ⁵	38	** (2**N.R)	(2)	
学	小	(5.0) ²	(45.0) ¹⁸	(5.0) ²	(12.5) ⁵	(15.0) ⁶	(2.5) ¹	(5.0) ²	(10.0) ⁴	40	** (2*5)	(2)	
歴	中	(5.9) ²	(50.0) ¹⁷	(5.9) ²	(5.9) ²	(8.8) ³	(2.9) ¹	(2.9) ¹	(17.6) ⁶	34	** (2*N.R)	(2)	
	高	(5.0) ²	(22.5) ⁹	(30.0) ¹²	(7.5) ³	(20.0) ⁸	(0) ⁰	(0) ⁰	(15.0) ⁶	40			
職	農	(4.9) ⁴	(46.3) ³⁸	(8.5) ⁷	(9.8) ⁸	(11.0) ⁹	(2.4) ²	(3.7) ³	(13.4) ¹¹	82	** (2**N.R)	(2)	
業	工	—	—	—	—	—	—	—	—	7	—	—	
	商	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	
	事	—	—	—	—	—	—	—	—	18	—	—	
	無	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	
役	有	(3.3) ²	(41.0) ²⁵	(9.8) ⁶	(8.2) ⁵	(16.4) ¹⁰	(3.3) ²	(3.3) ²	(14.8) ⁹	61	** (2*5)	(2)	
員	無	(7.5) ⁴	(35.8) ¹⁹	(18.9) ¹⁰	(9.4) ⁵	(13.2) ⁷	(0) ⁰	(1.9) ¹	(13.2) ⁷	53			

第122図 2.15 書きたくなければ（保）

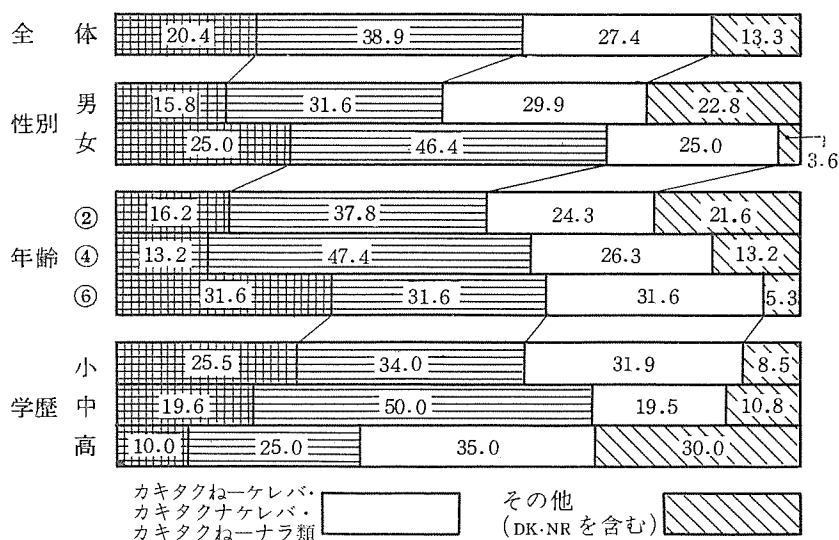


第131表 2.15 書きたくなければ(茂)

4. カキタグねーケレバ類 5. カキタグナケレバ類 6. カキタグねーナラ類 7. その他

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	23 (20.4)	33 (29.2)	11 (9.7)	17 (15.0)	9 (8.0)	5 (4.4)	7 (6.2)	8 (7.1)	113 (100)	**		
性 別	男	9 (15.8)	14 (24.6)	4 (7.0)	9 (15.8)	3 (5.3)	5 (8.8)	7 (12.3)	6 (10.5)	57 (100)			
	女	14 (25.0)	19 (33.9)	7 (12.5)	8 (14.3)	6 (10.7)	0 (0)	0 (0)	2 (3.6)	56 (100)			
年 齢	②	6 (16.2)	6 (16.2)	8 (21.6)	3 (8.1)	5 (13.5)	1 (2.7)	2 (5.4)	6 (16.2)	37 (100)			
	④	5 (13.2)	15 (39.5)	3 (7.9)	8 (21.1)	1 (2.6)	1 (2.6)	3 (7.9)	2 (5.3)	38 (100)			
	⑥	12 (31.6)	12 (31.6)	0 (0)	6 (15.8)	3 (7.9)	3 (7.9)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)	——	—	
学 歴	小	12 (25.5)	15 (31.9)	1 (2.1)	9 (19.1)	3 (6.4)	3 (6.4)	3 (6.4)	1 (2.1)	47 (100)			
	中	9 (19.6)	14 (30.4)	9 (19.6)	6 (13.0)	3 (6.5)	0 (0)	2 (4.3)	3 (6.5)	46 (100)			
	高	2 —	4 —	1 —	2 —	3 —	2 —	2 —	4 —	20 —	——	—	
職 業	農	13 (26.5)	19 (38.8)	0 (0)	9 (18.4)	4 (8.2)	2 (4.1)	2 (4.1)	0 (0)	49 (100)			
	工	4 (16.7)	7 (29.2)	3 (12.5)	4 (16.7)	2 (8.3)	0 (0)	3 (12.5)	1 (4.2)	24 (100)	——	—	
	商	0 —	2 —	1 —	1 —	3 —	0 —	1 —	2 —	10 —	——	—	
	事	2 —	2 —	6 —	1 —	0 —	2 —	1 —	4 —	18 —	——	—	
	無	4 —	3 —	1 —	2 —	0 —	1 —	0 —	1 —	12 —	——	—	
役 員	有	10 (20.0)	17 (34.0)	5 (10.0)	4 (8.0)	3 (6.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100)			
	無	13 (20.6)	16 (25.4)	6 (9.5)	13 (20.6)	6 (9.5)	0 (0)	4 (6.3)	5 (7.9)	63 (100)			

第123図 2.15 書きたくなければ(茂)

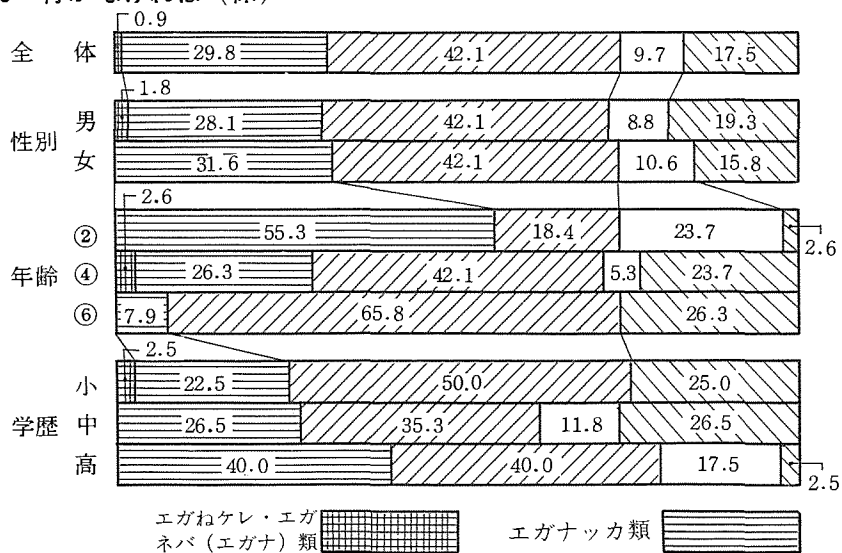


第132表 2.05 行かなければ (保)

1. エガねケレ類 2. エガナツカ類 3. エガネバ類 4. エガナクテ類

		1	2	3	4	5	6	7	8	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	0 (0)	34 (29.8)	1 (0.9)	38 (33.3)	10 (8.8)	2 (1.8)	9 (7.9)	12 (10.5)	8 (7.0)	114 (100)	**		
性 別	男	0 (0)	16 (28.1)	1 (1.8)	21 (36.8)	3 (5.3)	1 (1.8)	4 (7.0)	6 (10.5)	5 (8.8)	57 (100)	**		
	女	0 (0)	18 (31.6)	0 (0)	17 (29.8)	7 (12.3)	1 (1.8)	5 (8.8)	6 (10.5)	3 (5.3)	57 (100)			
年 齢	②	0 (0)	21 (55.3)	0 (0)	0 (0)	7 (18.4)	2 (5.3)	7 (18.4)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** (2**5, 7)	(2)	**
	④	0 (0)	10 (26.3)	1 (2.6)	15 (39.5)	1 (2.6)	0 (0)	2 (5.3)	4 (10.5)	5 (13.2)	38 (100)			
	⑥	0 (0)	3 (7.9)	0 (0)	23 (60.5)	2 (5.3)	0 (0)	0 (0)	7 (18.4)	3 (7.9)	38 (100)	** (4**8)	(4)	
学 歴	小	0 (0)	9 (22.5)	1 (2.5)	18 (45.0)	2 (5.0)	0 (0)	0 (0)	4 (10.0)	6 (15.0)	40 (100)			
	中	0 (0)	9 (26.5)	0 (0)	10 (29.4)	2 (5.9)	0 (0)	4 (11.8)	7 (20.6)	2 (5.9)	34 (100)			
	高	0 (0)	16 (40.0)	0 (0)	10 (25.0)	6 (15.0)	2 (5.0)	5 (12.5)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)			
職 業	農	0 (0)	17 (20.7)	1 (1.2)	36 (43.9)	4 (4.9)	1 (1.2)	4 (4.9)	11 (13.4)	8 (9.8)	82 (100)	** (4**2)	(4)	*
	工	0 —	4 —	0 —	0 —	1 —	0 —	2 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	1 —	0 —	1 —	1 —	0 —	1 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	11 —	0 —	0 —	3 —	1 —	2 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	1 —	0 —	1 —	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	0 (0)	14 (23.0)	0 (0)	29 (47.5)	3 (4.9)	0 (0)	3 (4.9)	6 (9.8)	6 (9.8)	61 (100)	** (4*2)	(4)	
	無	0 (0)	20 (37.7)	1 (1.9)	9 (17.0)	7 (13.2)	2 (3.8)	6 (11.3)	6 (11.3)	2 (3.8)	53 (100)	** (2*4)	(2)	

第124図 2.05 行かなければ (保)

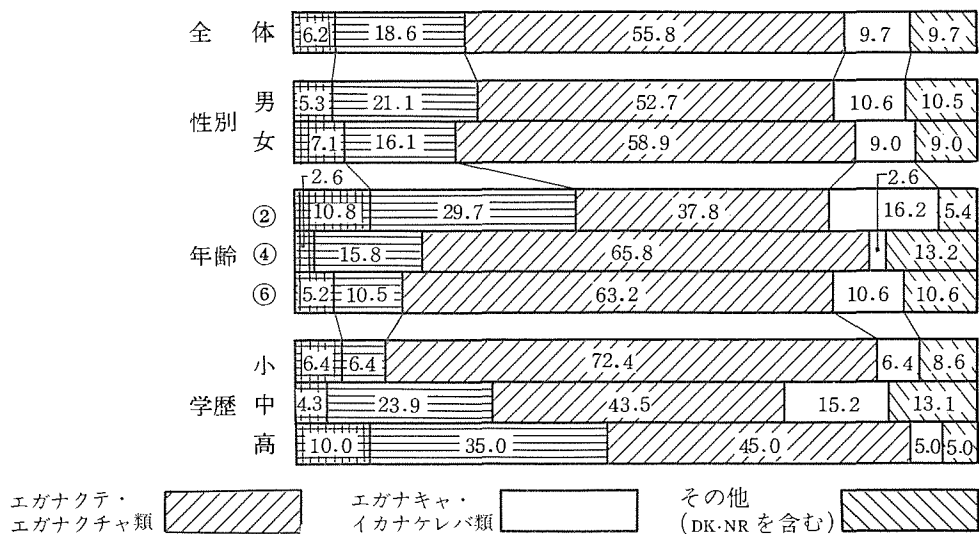


第133表 2.05 行かなければ (茂)

5. エガナクチャ類 6. エガナキヤ類 7. イカナケレバ類 8. その他

		1	2	3	4	5	6	7	8	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	1 (0.9)	21 (18.6)	6 (5.3)	42 (37.2)	21 (18.6)	6 (5.3)	5 (4.4)	7 (6.2)	4 (3.5)	113 (100)	** (4**2, 5)	(4)	
性 別	男	1 (1.8)	12 (21.1)	2 (3.5)	23 (40.4)	7 (12.3)	3 (5.3)	3 (5.3)	4 (7.0)	2 (3.5)	57 (100)			
	女	0 (0)	9 (16.1)	4 (7.1)	19 (33.9)	14 (25.0)	3 (5.4)	2 (3.6)	3 (5.4)	2 (3.6)	56 (100)			
年 齢	②	0 (0)	11 (29.7)	4 (10.8)	0 (0)	14 (37.8)	3 (8.1)	3 (8.1)	2 (5.4)	0 (0)	37 (100)			
	④	0 (0)	6 (15.8)	1 (2.6)	20 (52.6)	5 (13.2)	1 (2.6)	0 (0)	3 (7.9)	2 (5.3)	38 (100)	** (4**2)	(4)	*
	⑥	1 (2.6)	4 (10.5)	1 (2.6)	22 (57.9)	2 (5.3)	2 (5.3)	2 (5.3)	2 (5.3)	2 (5.3)	38 (100)	** (4**2)	(4)	
学 歴	小	1 (2.1)	3 (6.4)	2 (4.3)	28 (59.6)	6 (12.8)	2 (4.3)	1 (2.1)	2 (4.3)	2 (4.3)	47 (100)	** (4**5)	(4)	
	中	0 (0)	11 (23.9)	2 (4.3)	12 (26.1)	8 (17.4)	4 (8.7)	3 (6.5)	5 (10.9)	1 (2.2)	46 (100)			
	高	0 —	7 —	2 —	2 —	7 —	0 —	1 —	0 —	1 —	20 —	—	—	
職 業	農	1 (2.0)	7 (14.3)	1 (2.0)	30 (61.2)	1 (2.0)	2 (4.1)	2 (4.1)	2 (4.1)	3 (6.1)	49 (100)	** (4**2)	(4)	
	工	0 (0)	4 (16.7)	2 (8.3)	6 (25.0)	5 (20.8)	2 (8.3)	0 (0)	4 (16.7)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	1 —	2 —	1 —	3 —	2 —	1 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	0 —	6 —	1 —	1 —	8 —	0 —	2 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	3 —	0 —	4 —	4 —	0 —	0 —	1 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	1 (2.0)	10 (20.0)	1 (2.0)	20 (40.4)	10 (20.0)	1 (2.0)	1 (2.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100)	*		
	無	0 (0)	11 (17.5)	5 (7.9)	22 (34.9)	11 (17.5)	5 (7.9)	4 (6.3)	4 (6.3)	1 (1.6)	63 (100)			

第125図 2.05 行かなければ (茂)

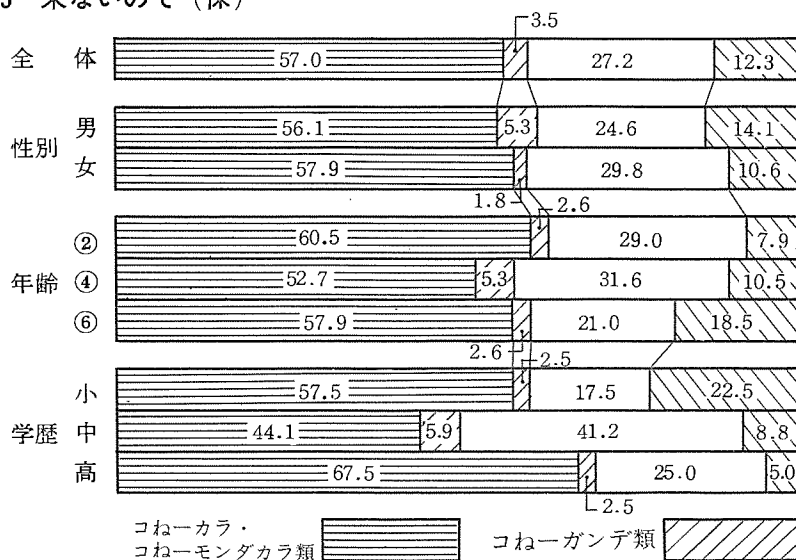


第134表 2.25 来ないので(保)

1. コねーカラ類 2. コねーモンダカラ類 3. コねーガンデ類

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	57 (50.0)	8 (7.0)	4 (3.5)	22 (19.3)	9 (7.9)	10 (8.8)	4 (3.5)	114 (100)	** (1**4)	(1)	
性 別	男	26 (45.6)	6 (10.5)	3 (5.3)	11 (19.3)	3 (5.3)	5 (8.8)	3 (5.3)	57 (100)	** (1*4)	(1)	
	女	31 (54.4)	2 (3.5)	1 (1.8)	11 (19.3)	6 (10.5)	5 (8.8)	1 (1.8)	57 (100)	** (1**4)	(1)	
年 齢	②	23 (60.5)	0 (0)	1 (2.6)	9 (23.7)	2 (5.3)	2 (5.3)	1 (2.6)	38 (100)	** (1*4)	(1)	
	④	18 (47.4)	2 (5.3)	2 (5.3)	9 (23.7)	3 (7.9)	3 (7.9)	1 (2.6)	38 (100)	*		
	⑥	16 (42.1)	6 (15.8)	1 (2.6)	4 (10.5)	4 (10.5)	5 (13.2)	2 (5.3)	38 (100)	** (1*2)	(1)	
学 歴	小	19 (47.5)	4 (10.0)	1 (2.5)	4 (10.0)	3 (7.5)	6 (15.0)	3 (7.5)	40 (100)	** (1**6)	(1)	
	中	13 (38.2)	2 (5.9)	2 (5.9)	11 (32.4)	3 (8.8)	2 (5.9)	1 (2.9)	34 (100)			
	高	25 (62.5)	2 (5.0)	1 (2.5)	7 (17.5)	3 (7.5)	2 (5.0)	0 (0)	40 (100)	** (1**4)	(1)	
職 業	農	36 (43.9)	7 (8.5)	2 (2.4)	16 (19.5)	8 (9.8)	9 (11.0)	4 (4.9)	82 (100)	** (1**4)	(1)	
	工	1 —	0 —	1 —	3 —	1 —	1 —	0 —	7 —	—	—	
	商	2 —	1 —	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	17 —	0 —	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	1 —	0 —	1 —	1 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	30 (49.2)	6 (9.8)	2 (3.3)	8 (13.1)	6 (9.8)	6 (9.8)	3 (4.9)	61 (100)	** (1**4)	(1)	
	無	27 (51.0)	2 (3.8)	2 (3.8)	14 (26.4)	3 (5.7)	4 (7.5)	1 (1.9)	53 (100)	** (1*4)	(1)	

第126図 2.25 来ないので(保)

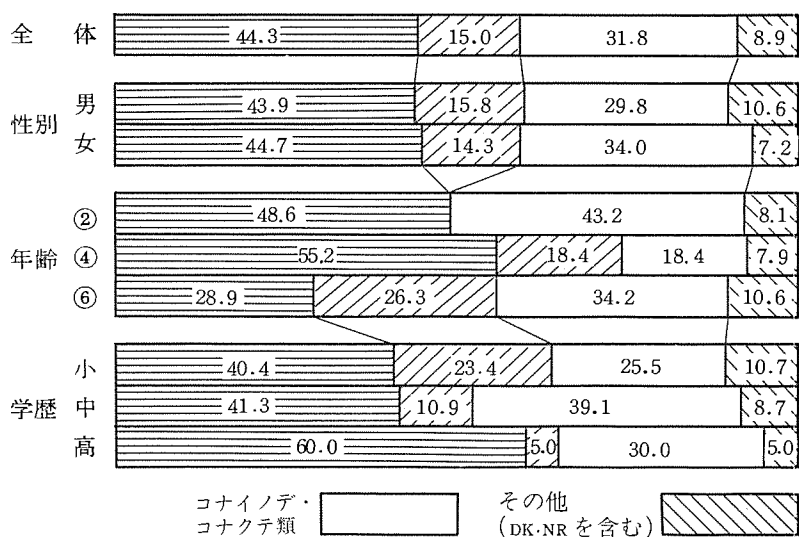


第135表 2.25 来ないので(茂)

4. コナイノデ類 5. コナクテ類 6. その他

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	49 (43.4)	1 (0.9)	17 (15.0)	24 (21.2)	12 (10.6)	8 (7.1)	2 (1.8)	113 (100)	** (1**4)	(1)	
性 別	男	25 (43.9)	0 (0)	9 (15.8)	15 (26.3)	2 (3.5)	5 (8.8)	1 (1.8)	57 (100)	*		
	女	24 (42.9)	1 (1.8)	8 (14.3)	9 (16.1)	10 (17.9)	3 (5.4)	1 (1.8)	56 (100)	** (1*5)	(1)	
年 齢	②	18 (48.6)	0 (0)	0 (0)	13 (35.1)	3 (8.1)	3 (8.1)	0 (0)	37 (100)			
	④	20 (52.6)	1 (2.6)	7 (18.4)	4 (10.5)	3 (7.9)	3 (7.9)	0 (0)	38 (100)	** (1*3)	(1)	
	⑥	11 (28.9)	0 (0)	10 (26.3)	7 (18.4)	6 (15.8)	2 (5.3)	2 (5.3)	38 (100)			
学 歴	小	19 (40.4)	0 (0)	11 (23.4)	7 (14.9)	5 (10.6)	3 (6.4)	2 (4.3)	47 (100)			
	中	18 (39.1)	1 (2.2)	5 (10.9)	11 (23.9)	7 (15.2)	4 (8.7)	0 (0)	46 (100)			
	高	12 —	0 —	1 —	6 —	0 —	1 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	17 (34.7)	0 (0)	11 (22.4)	9 (18.4)	7 (14.3)	3 (6.1)	2 (4.1)	49 (100)			
	工	12 (50.0)	0 (0)	2 (8.3)	2 (8.3)	4 (16.7)	4 (16.7)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	4 —	1 —	1 —	4 —	0 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	9 —	0 —	1 —	7 —	0 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	7 —	0 —	2 —	2 —	1 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	22 (44.0)	0 (0)	8 (16.0)	11 (22.0)	4 (8.0)	4 (8.0)	1 (2.0)	50 (100)	*		
	無	27 (42.9)	1 (1.6)	9 (14.3)	13 (20.6)	8 (12.7)	4 (6.3)	1 (1.6)	63 (100)	** (1*4)	(1)	

第127図 2.25 来ないので(茂)

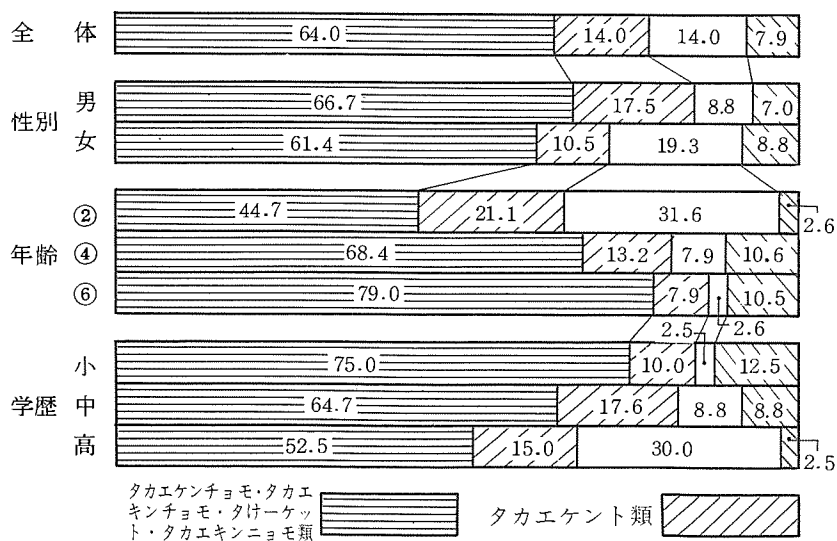


第136表 2.18(2) 高いけれども(保)

1. タカエケンチョモ類 2. タカエキンチョモ類 3. タけーケット類

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	64 (56.1)	6 (5.3)	0 (0)	3 (2.6)	16 (14.0)	16 (14.0)	2 (1.8)	7 (6.1)	114 (100)	** (1**5,6)	(1)	
性	男	34 (59.6)	3 (5.3)	0 (0)	1 (1.8)	10 (17.5)	5 (8.8)	0 (0)	4 (7.0)	57 (100)	** (1**5)	(1)	
別	女	30 (52.6)	3 (5.3)	0 (0)	2 (3.5)	6 (10.5)	11 (19.3)	2 (3.5)	3 (5.3)	57 (100)	** (1**6)	(1)	
年	②	17 (44.7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (21.1)	12 (31.6)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)			
齢	④	25 (65.8)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	5 (13.2)	3 (7.9)	2 (5.3)	2 (5.3)	38 (100)	** (1**5)	(1)	
	⑥	22 (57.9)	5 (13.2)	0 (0)	3 (7.9)	3 (7.9)	1 (2.6)	0 (0)	4 (10.5)	38 (100)	** (1**2)	(1)	
学	小	23 (57.5)	4 (10.0)	0 (0)	3 (7.5)	4 (10.0)	1 (2.5)	0 (0)	5 (12.5)	40 (100)	** (1**N.R)	(1)	
歴	中	20 (58.8)	2 (5.9)	0 (0)	0 (0)	6 (17.6)	3 (8.8)	2 (5.9)	1 (2.9)	34 (100)	** (1**5)	(1)	
	高	21 (52.5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (15.0)	12 (30.0)	0 (0)	1 (2.5)	40 (100)	*		
職	農	53 (64.6)	5 (6.1)	0 (0)	2 (2.4)	9 (11.0)	5 (6.1)	2 (2.4)	6 (7.3)	82 (100)	** 1**1	1	
業	工	3 —	0 —	0 —	0 —	3 —	1 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	1 —	1 —	0 —	0 —	0 —	2 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	6 —	0 —	0 —	0 —	3 —	8 —	0 —	1 —	18 —	—	—	
	無	1 —	0 —	0 —	1 —	1 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役	有	37 (60.7)	3 (4.9)	0 (0)	2 (3.3)	7 (11.5)	7 (11.5)	1 (1.6)	4 (6.6)	61 (100)	** (1**5,6)	(1)	
員	無	27 (50.9)	3 (5.7)	0 (0)	1 (1.9)	9 (17.0)	9 (17.0)	1 (1.9)	3 (5.7)	53 (100)	** (1*5,6)	(1)	

第128図 2.18(2) 高いけれども(保)

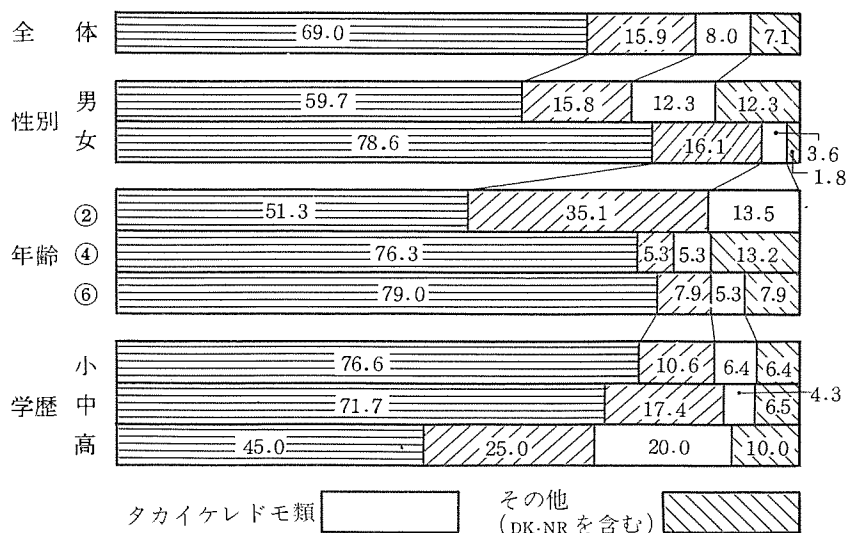


第137表 2.18(2) 高いけれども(茂)

4. タカエキンニョモ類 5. タカエント類 6. タカイケレドモ類 7. その他

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	58 (51.3)	11 (9.7)	0 (0)	9 (8.0)	18 (15.9)	9 (8.0)	3 (2.7)	5 (4.4)	113 (100)	** (1**5)	(1)	
性	男	23 (40.4)	5 (8.8)	0 (0)	6 (10.5)	9 (15.8)	7 (12.3)	2 (3.5)	5 (8.8)	57 (100)	** (1*5)	(1)	
別	女	35 (62.5)	6 (10.7)	0 (0)	3 (5.4)	9 (16.1)	2 (3.6)	1 (1.8)	0 (0)	56 (100)	** (1**5)	(1)	
年	②	14 (37.8)	1 (2.7)	0 (0)	4 (10.8)	13 (35.1)	5 (13.5)	0 (0)	0 (0)	37 (100)			
齢	④	26 (68.4)	2 (5.3)	0 (0)	1 (2.6)	2 (5.3)	2 (5.3)	2 (5.3)	3 (7.9)	38 (100)	** 1*I	1	
	⑥	18 (47.4)	8 (21.1)	0 (0)	4 (10.5)	3 (7.9)	2 (5.3)	1 (2.6)	2 (5.3)	38 (100)	** (1*2)	(1)	
学	小	24 (51.1)	9 (19.1)	0 (0)	3 (6.4)	5 (10.6)	3 (6.4)	2 (4.3)	1 (2.1)	47 (100)	** (1**2)	(1)	
歴	中	26 (56.5)	2 (4.3)	0 (0)	5 (10.9)	8 (17.4)	2 (4.3)	1 (2.2)	2 (4.3)	46 (100)	** (1**5)	(1)	
	高	8 —	0 —	0 —	1 —	5 —	4 —	0 —	2 —	20 —	—	—	
職	農	22 (44.9)	10 (20.4)	0 (0)	3 (6.1)	6 (12.2)	3 (6.1)	2 (4.1)	3 (6.1)	49 (100)	** (1*2)	(1)	
業	工	15 (62.5)	1 (4.2)	0 (0)	0 (0)	4 (16.7)	1 (4.2)	1 (4.2)	2 (8.3)	24 (100)	—	—	
	商	6 —	0 —	0 —	1 —	1 —	2 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	6 —	0 —	0 —	3 —	6 —	3 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	9 —	0 —	0 —	2 —	1 —	0 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役	有	24 (48.0)	4 (8.0)	0 (0)	7 (14.0)	7 (14.0)	3 (6.0)	0 (0)	5 (10.0)	50 (100)	** (1**4, 5)	(1)	
員	無	34 (54.0)	7 (11.1)	0 (0)	2 (3.2)	11 (17.5)	6 (9.5)	3 (4.8)	0 (0)	63 (100)	** (1**5)	(1)	

第129図 2.18(2) 高いけれども(茂)

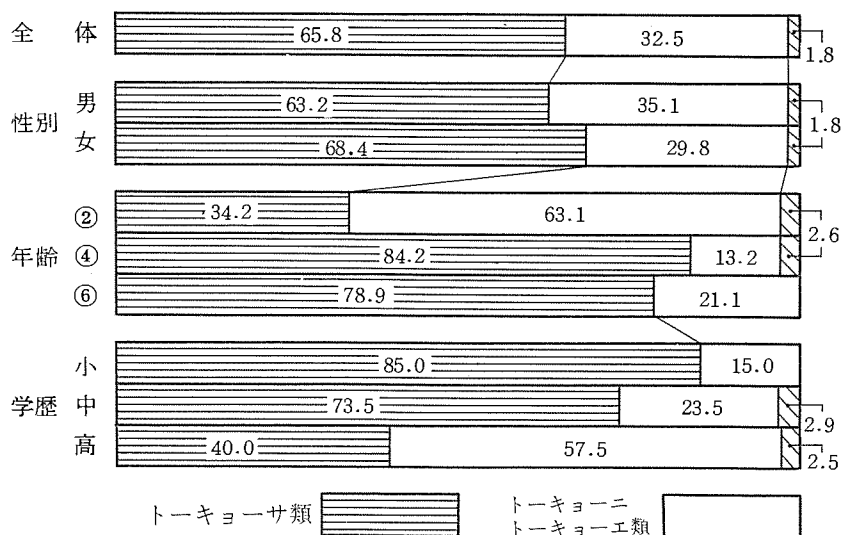


第138表 2.01 東京へ行く（保）

1. トーキョーサ類 2. トーキョーニ類 3. トーキョーエ類

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合係
全	体	75 (65.8)	22 (19.3)	15 (13.2)	1 (0.9)	1 (0.9)	114 (100)	** 1**1	1	
性 別	男	36 (63.2)	12 (21.1)	8 (14.0)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)	** 1*1	1	
	女	39 (68.4)	10 (17.5)	7 (12.3)	0 (0)	1 (1.8)	57 (100)	** 1**1	1	
年 齢	②	13 (34.2)	14 (36.8)	10 (26.3)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)			**
	④	32 (84.2)	3 (7.9)	2 (5.3)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)	** 1**1	1	
	⑥	30 (78.9)	5 (13.2)	3 (7.9)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 1**1	1	
学 歴	小	34 (85.0)	4 (10.0)	2 (5.0)	0 (0)	0 (0)	40 (100)	** 1**1	1	**
	中	25 (73.5)	5 (14.7)	3 (8.8)	1 (2.9)	0 (0)	34 (100)	** 1**1	1	
	高	16 (40.0)	13 (32.5)	10 (25.0)	0 (0)	1 (2.5)	40 (100)			
職 業	農	62 (75.6)	10 (12.2)	8 (9.8)	1 (1.2)	1 (1.2)	82 (100)	** 1**1	1	
	工	3 —	2 —	2 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	1 —	3 —	0 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	7 —	7 —	4 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	2 —	0 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	42 (68.9)	10 (16.4)	7 (11.5)	1 (1.6)	1 (1.6)	61 (100)	** 1**1	1	
	無	33 (62.3)	12 (22.6)	8 (15.1)	0 (0)	0 (0)	53 (100)	** (1**2)	(1)	

第130図 2.01 東京へ行く（保）

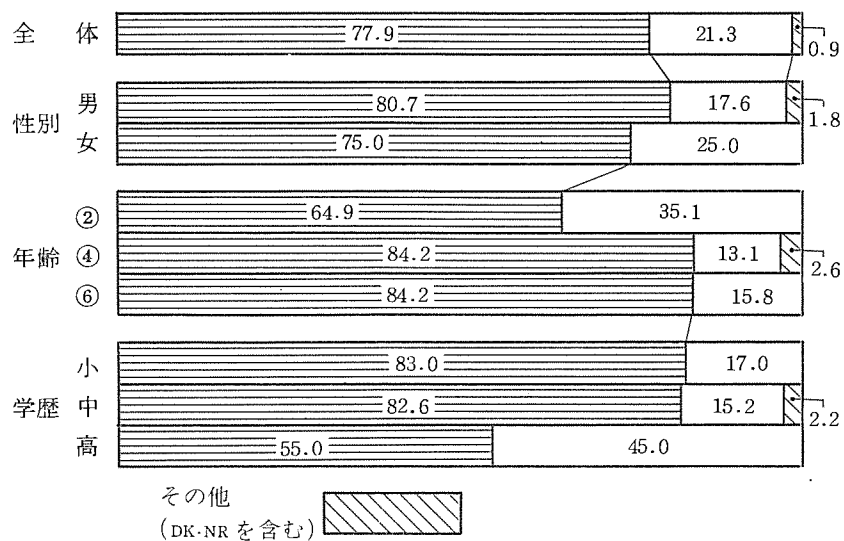


第139表 2.01 東京へ行く (茂)

4. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		88 (77.9)	9 (8.0)	15 (13.3)	1 (0.9)	0 (0)	113 (100)	** 1**1	1	
性 別	男	46 (80.7)	3 (5.3)	7 (12.3)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)	** 1**1	1	
	女	42 (75.0)	6 (10.7)	8 (14.3)	0 (0)	0 (0)	56 (100)	** 1**1	1	
年 齢	②	24 (64.9)	5 (13.5)	8 (21.6)	0 (0)	0 (0)	37 (100)	** (1**3)	(1)	
	④	32 (84.2)	1 (2.6)	4 (10.5)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** 1**1	1	
	⑥	32 (84.2)	3 (7.9)	3 (7.9)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 1**1	1	
学 歴	小	39 (83.0)	3 (6.4)	5 (10.6)	0 (0)	0 (0)	47 (100)	** 1**1	1	
	中	38 (82.6)	1 (2.2)	6 (13.0)	1 (2.2)	0 (0)	46 (100)	** 1**1	1	
	高	11 —	5 —	4 —	0 —	0 —	20 —	— —	—	
職 業	農	41 (83.7)	3 (6.1)	5 (10.2)	0 (0)	0 (0)	49 (100)	** 1**1	1	
	工	20 (83.3)	0 (0)	3 (12.5)	1 (4.2)	0 (0)	24 (100)	— —	—	
	商	5 —	3 —	2 —	0 —	0 —	10 —	— —	—	
	事	11 —	2 —	5 —	0 —	0 —	18 —	— —	—	
	無	11 —	1 —	0 —	0 —	0 —	12 —	— —	—	
役 員	有	38 (76.0)	5 (10.0)	6 (12.0)	1 (2.0)	0 (0)	50 (100)	** 1**1	1	
	無	50 (79.4)	4 (6.3)	9 (14.3)	0 (0)	0 (0)	63 (100)	** 1**1	1	

第131図 2.01 東京へ行く (茂)

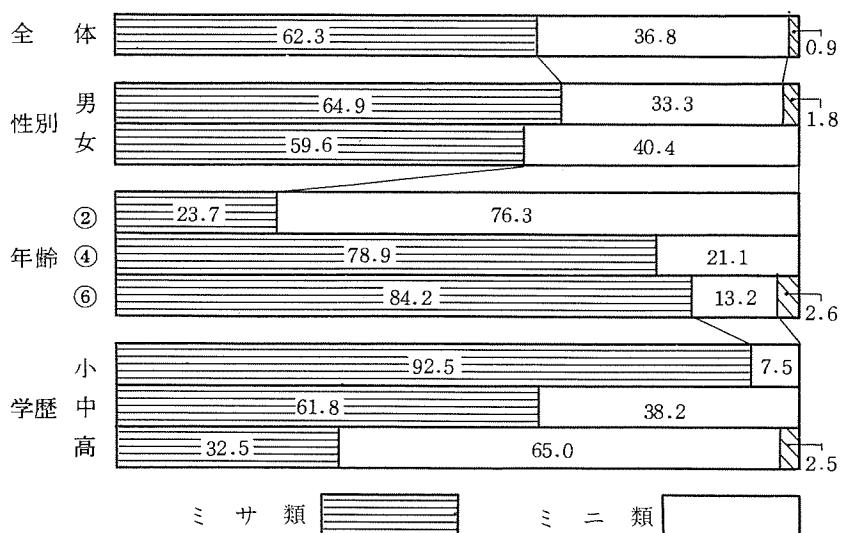


第140表 2.02 見に行く(保)

1. ミサ類 2. ミニ類

		1	2	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		71 (62.3)	42 (36.8)	1 (0.9)	114 (100)	** 1**1	1	
性 別	男	37 (64.9)	19 (33.3)	1 (1.8)	57 (100)	** 1*1	1	
	女	34 (59.6)	23 (40.4)	0 (0)	57 (100)			
年 齢	②	9 (23.7)	29 (76.3)	0 (0)	38 (100)	** 2**2	2	**
	④	30 (78.9)	8 (21.1)	0 (0)	38 (100)	** 1**1	1	
	⑥	32 (84.2)	5 (13.2)	1 (2.6)	38 (100)	** 1**1	1	
学 歴	小	37 (92.5)	3 (7.5)	0 (0)	40 (100)	** 1**1	1	**
	中	21 (61.8)	13 (38.2)	0 (0)	34 (100)			
	高	13 (32.5)	26 (65.0)	1 (2.5)	40 (100)	** (2*1)	(2)	
職 業	農	63 (76.8)	18 (22.0)	1 (1.2)	82 (100)	** 1**1	1	**
	工	1 —	6 —	0 —	7 —	—	—	
	商	1 —	3 —	0 —	4 —	—	—	
	事	4 —	14 —	0 —	18 —	—	—	
	無	2 —	1 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	43 (70.5)	17 (27.9)	1 (1.6)	61 (100)	** 1**1	1	
	無	28 (52.8)	25 (47.2)	0 (0)	53 (100)			

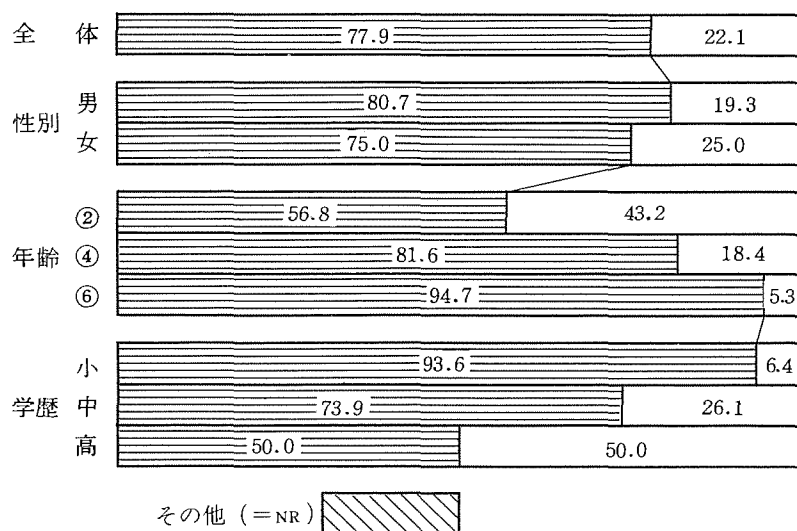
第132図 2.02 見に(保)



第141表 2.02 見に行く(茂)

		1	2	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		88 (77.9)	25 (22.1)	0 (0)	113 (100)	** 1**I	1	
性 別	男	46 (80.7)	11 (19.3)	0 (0)	57 (100)	** 1**I	1	
	女	42 (75.0)	14 (25.0)	0 (0)	56 (100)	** 1**I	1	
年 齢	②	21 (56.8)	16 (43.2)	0 (0)	37 (100)			*
	④	31 (81.6)	7 (18.4)	0 (0)	38 (100)	** 1**I	1	
	⑥	36 (94.7)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)	** 1**I	1	
学 歴	小	44 (93.6)	3 (6.4)	0 (0)	47 (100)	** 1**I	1	*
	中	34 (73.9)	12 (26.1)	0 (0)	46 (100)	** 1**I	1	
	高	10 —	10 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	44 (89.8)	5 (10.2)	0 (0)	49 (100)	** 1**I	1	
	工	19 (79.2)	5 (20.8)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	4 —	6 —	0 —	10 —	—	—	
	事	10 —	8 —	0 —	18 —	—	—	
	無	11 —	1 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	40 (80.0)	10 (20.0)	0 (0)	50 (100)	** 1**I	1	
	無	48 (76.2)	15 (23.8)	0 (0)	63 (100)	** 1**I	1	

第133図 2.02 見に(茂)

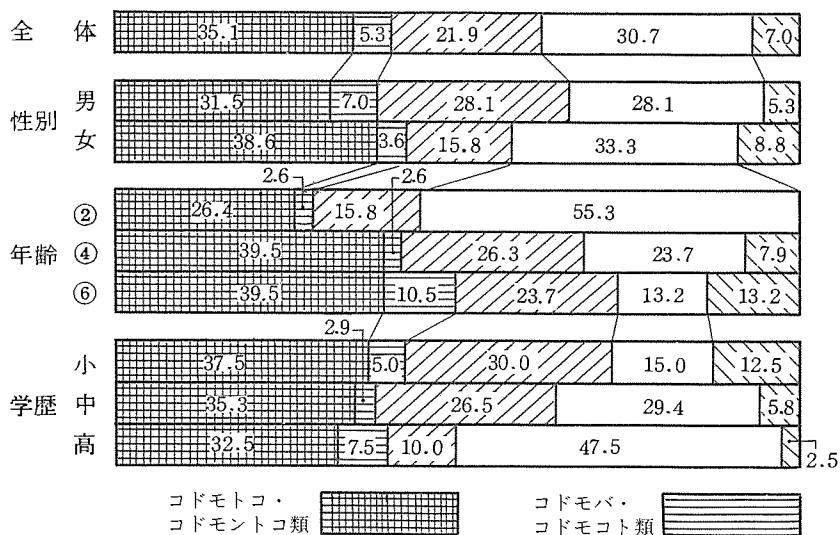


第142表 2.31 こどもを（保）

1. コドモバ類 2. コドモトコ類 3. コドモントコ類 4. コドモコト類

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		1 (0.9)	16 (14.0)	24 (21.1)	5 (4.4)	25 (21.9)	35 (30.7)	3 (2.6)	5 (4.4)	114 (100)	**		
性 別	男	0 (0)	10 (17.5)	8 (14.0)	4 (7.0)	16 (28.1)	16 (28.1)	1 (1.8)	2 (3.5)	57 (100)	—	—	
	女	1 (1.8)	6 (10.5)	16 (28.1)	1 (1.8)	9 (15.8)	19 (33.3)	2 (3.5)	3 (5.3)	57 (100)	*		
年 齢	②	0 (0)	2 (5.3)	8 (21.1)	1 (2.6)	6 (15.8)	21 (55.3)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** (6*3)	(6)	
	④	1 (2.6)	9 (23.7)	6 (15.8)	0 (0)	10 (26.3)	9 (23.7)	1 (2.6)	2 (5.3)	38 (100)			
	⑥	0 (0)	5 (13.2)	10 (26.3)	4 (10.5)	9 (23.7)	5 (13.2)	2 (5.3)	3 (7.9)	38 (100)			
学 歴	小	0 (0)	6 (15.0)	9 (22.5)	2 (5.0)	12 (30.0)	6 (15.0)	1 (2.5)	4 (10.0)	40 (100)			
	中	1 (2.9)	7 (20.6)	5 (14.7)	0 (0)	9 (26.5)	10 (29.4)	1 (2.9)	1 (2.9)	34 (100)			
	高	0 (0)	3 (7.5)	10 (25.0)	3 (7.5)	4 (10.0)	19 (47.5)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)	*		
職 業	農	1 (1.2)	15 (18.3)	17 (20.7)	5 (6.1)	19 (23.2)	18 (22.0)	2 (2.4)	5 (6.1)	82 (100)			
	工	0 —	0 —	1 —	0 —	2 —	4 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	0 —	0 —	0 —	2 —	2 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	0 —	6 —	0 —	2 —	10 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	1 —	1 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	0 (0)	12 (19.7)	8 (13.1)	3 (4.9)	15 (24.6)	17 (27.9)	2 (3.3)	4 (6.6)	61 (100)			
	無	1 (1.9)	4 (7.5)	16 (30.2)	2 (3.8)	10 (18.9)	18 (34.0)	1 (1.9)	1 (1.9)	53 (100)			

第134図 2.31 こどもを（保）

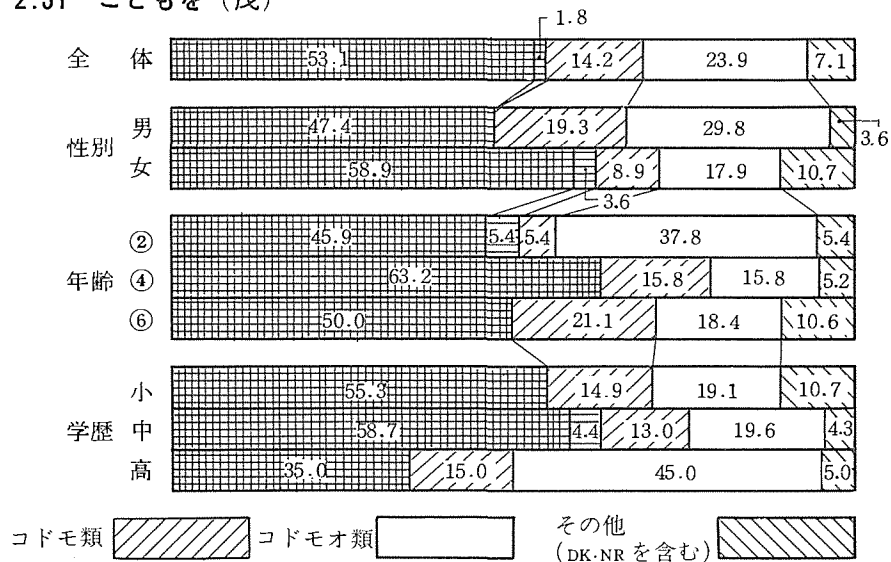


第143表 2.31 こどもを（茂）

5. コドモ類 6. コドモオ類 7. その他

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	1 (0.9)	49 (43.4)	11 (9.7)	1 (0.9)	16 (14.2)	27 (23.9)	5 (4.4)	3 (2.7)	113 (100)	** (2*6)	(2)	
性	男	0 (0)	24 (42.1)	3 (5.3)	0 (0)	11 (19.3)	17 (29.8)	1 (1.8)	1 (1.8)	57 (100)	**		
別	女	1 (1.8)	25 (44.6)	8 (14.3)	1 (1.8)	5 (8.9)	10 (17.9)	4 (7.1)	2 (3.6)	56 (100)	** (2*6)	(2)	
年	②	1 (2.7)	11 (29.7)	6 (16.2)	1 (2.7)	2 (5.4)	14 (37.8)	2 (5.4)	0 (0)	37 (100)			
齢	④	0 (0)	22 (57.9)	2 (5.3)	0 (0)	6 (15.8)	6 (15.8)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)	** (2**5, 6)	(2)	
	⑥	0 (0)	16 (42.1)	3 (7.9)	0 (0)	8 (21.1)	7 (18.4)	2 (5.3)	2 (5.3)	38 (100)			
学	小	0 (0)	22 (46.8)	4 (8.5)	0 (0)	7 (14.9)	9 (19.1)	2 (4.3)	3 (6.4)	47 (100)	** (2*6)	(2)	
歴	中	1 (2.2)	22 (47.8)	5 (10.9)	1 (2.2)	6 (13.0)	9 (19.6)	2 (4.3)	0 (0)	46 (100)	** (2*6)	(2)	
	高	0 —	5 —	2 —	0 —	3 —	9 —	1 —	0 —	20 —	—	—	
職	農	1 (2.0)	21 (42.9)	3 (6.1)	0 (0)	10 (20.4)	9 (18.4)	3 (6.1)	2 (4.1)	49 (100)	** (2*5)	(2)	
業	工	0 (0)	10 (41.7)	3 (12.5)	0 (0)	4 (16.7)	5 (20.8)	1 (4.2)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	3 —	3 —	0 —	1 —	3 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	0 —	6 —	1 —	1 —	0 —	9 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	9 —	1 —	0 —	1 —	1 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役	有	1 (2.0)	21 (42.0)	3 (6.0)	0 (0)	9 (18.0)	15 (30.0)	0 (0)	1 (2.0)	50 (100)			
員	無	0 (0)	28 (44.4)	8 (12.7)	1 (1.6)	7 (11.1)	12 (19.0)	5 (7.9)	2 (3.2)	63 (100)	** (2*6)	(2)	

第135図 2.31 こどもを（茂）

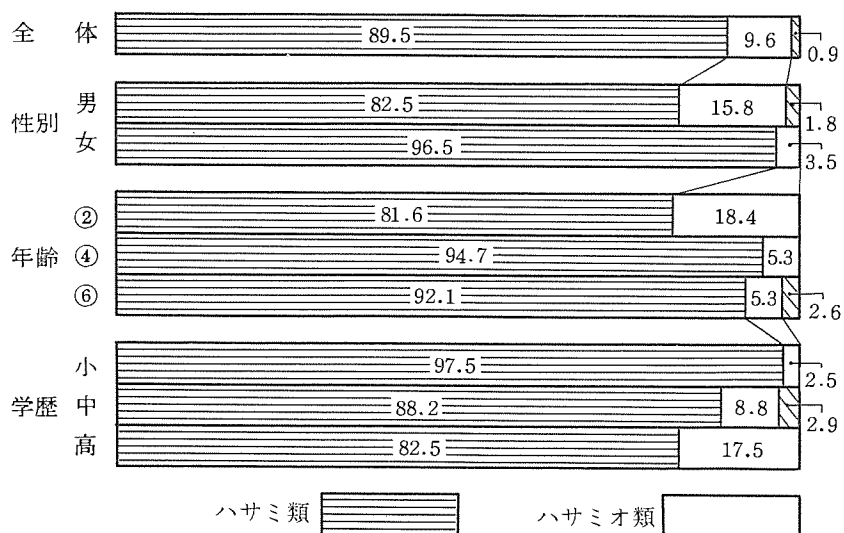


第144表 2.35 はさみを (保)

1. ハサミ 2. ハサミオ

		1	2	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	102 (89.5)	11 (9.6)	1 (0.9)	114 (100)	** 1** \bar{I}	1	
性 別	男	47 (82.5)	9 (15.8)	1 (1.8)	57 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	女	55 (96.5)	2 (3.5)	0 (0)	57 (100)	** 1** \bar{I}	1	
年 齢	②	31 (81.6)	7 (18.4)	0 (0)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	④	36 (94.7)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	⑥	35 (92.1)	2 (5.3)	1 (2.6)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
学 歴	小	39 (97.5)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	中	30 (88.2)	3 (8.8)	1 (2.9)	34 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	高	33 (82.5)	7 (17.5)	0 (0)	40 (100)	** 1** \bar{I}	1	
職 業	農	74 (90.2)	7 (8.5)	1 (1.2)	82 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	工	6 —	1 —	0 —	7 —	— —	—	
	商	4 —	0 —	0 —	4 —	— —	—	
	事	15 —	3 —	0 —	18 —	— —	—	
	無	3 —	0 —	0 —	3 —	— —	—	
役 員	有	55 (90.2)	6 (9.8)	0 (0)	61 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	無	47 (88.7)	5 (9.4)	1 (1.9)	53 (100)	** 1** \bar{I}	1	

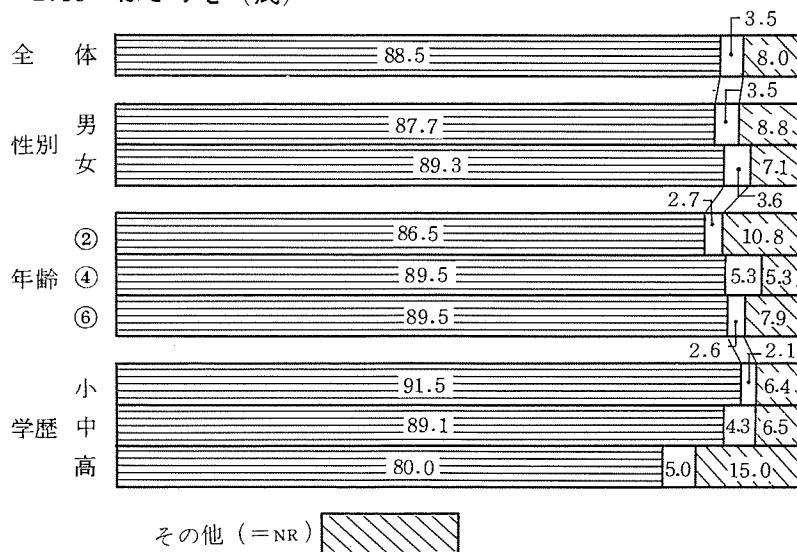
第136図 2.35 はさみを (保)



第145表 2.35 はさみを (茂)

		1	2	N・R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	100 (88.5)	4 (3.5)	9 (8.0)	113 (100)	** 1**1	1	
性 別	男	50 (87.7)	2 (3.5)	5 (8.8)	57 (100)	** 1**1	1	
	女	50 (89.3)	2 (3.6)	4 (7.1)	56 (100)	** 1**1	1	
年 齢	②	32 (86.5)	1 (2.7)	4 (10.8)	37 (100)	** 1**1	1	
	④	34 (89.5)	2 (5.3)	2 (5.3)	38 (100)	** 1**1	1	
	⑥	34 (89.5)	1 (2.6)	3 (7.9)	38 (100)	** 1**1	1	
学 歴	小	43 (91.5)	1 (2.1)	3 (6.4)	47 (100)	** 1**1	1	
	中	41 (89.1)	2 (4.3)	3 (6.5)	46 (100)	** 1**1	1	
	高	16 —	1 —	3 —	20 —	— —	—	
職 業	農	43 (87.8)	3 (6.1)	3 (6.1)	49 (100)	** 1**1	1	
	工	21 (87.5)	1 (4.2)	2 (8.3)	24 (100)	— —	—	
	商	10 —	0 —	0 —	10 —	— —	—	
	事	15 —	0 —	3 —	18 —	— —	—	
	無	11 —	0 —	1 —	12 —	— —	—	
役 員	有	43 (86.0)	1 (2.0)	6 (12.0)	50 (100)	** 1**1	1	
	無	57 (90.5)	3 (4.8)	3 (4.8)	63 (100)	** 1**1	1	

第137図 2.35 はさみを (茂)

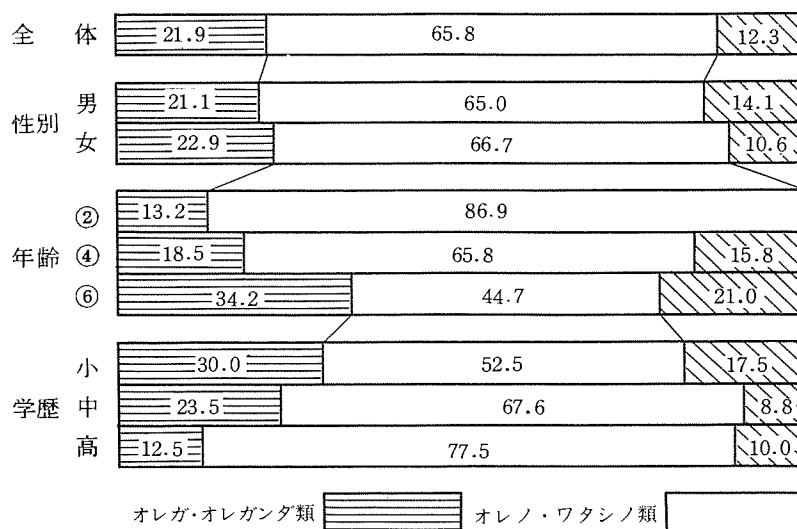


第146表 2.22 おれの（保）

1. オレガ類 2. オレガンダ類 3. オレノ類

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		21 (18.4)	4 (3.5)	69 (60.5)	6 (5.3)	8 (7.0)	6 (5.3)	114 (100)	** 3*3	3	
性別	男	9 (15.8)	3 (5.3)	36 (63.2)	1 (1.8)	5 (8.8)	3 (5.3)	57 (100)	** 3*3	3	
	女	12 (21.1)	1 (1.8)	33 (57.9)	5 (8.8)	3 (5.3)	3 (5.3)	57 (100)	** (3**1)	(3)	
年 齢	②	5 (13.2)	0 (0)	27 (71.1)	6 (15.8)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 3*3	3	
	④	5 (13.2)	2 (5.3)	25 (65.8)	0 (0)	4 (10.5)	2 (5.3)	38 (100)	** (3**1)	(3)	
	⑥	11 (28.9)	2 (5.3)	17 (44.7)	0 (0)	4 (10.5)	4 (10.5)	38 (100)			
学 歴	小	10 (25.0)	2 (5.0)	21 (52.5)	0 (0)	4 (10.0)	3 (7.5)	40 (100)	** (3*1)	(3)	
	中	7 (20.6)	1 (2.9)	22 (64.7)	1 (2.9)	2 (5.9)	1 (2.9)	34 (100)	** (3**1)	(3)	
	高	4 (10.0)	1 (2.5)	26 (65.0)	5 (12.5)	2 (5.0)	2 (5.0)	40 (100)	** (3**4)	(3)	
職 業	農	17 (20.7)	4 (4.9)	46 (56.1)	1 (1.2)	8 (9.8)	6 (7.3)	82 (100)	** (3**1)	(3)	
	工	2 —	0 —	4 —	1 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	0 —	4 —	0 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	1 —	0 —	13 —	4 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	1 —	0 —	2 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	11 (18.0)	2 (3.3)	35 (57.4)	2 (3.3)	6 (9.8)	5 (8.2)	61 (100)	** (3**1)	(3)	
	無	10 (18.9)	2 (3.8)	34 (64.2)	4 (7.5)	2 (3.8)	1 (1.9)	53 (100)	** 3*3	3	

第138図 2.22 おれの（保）

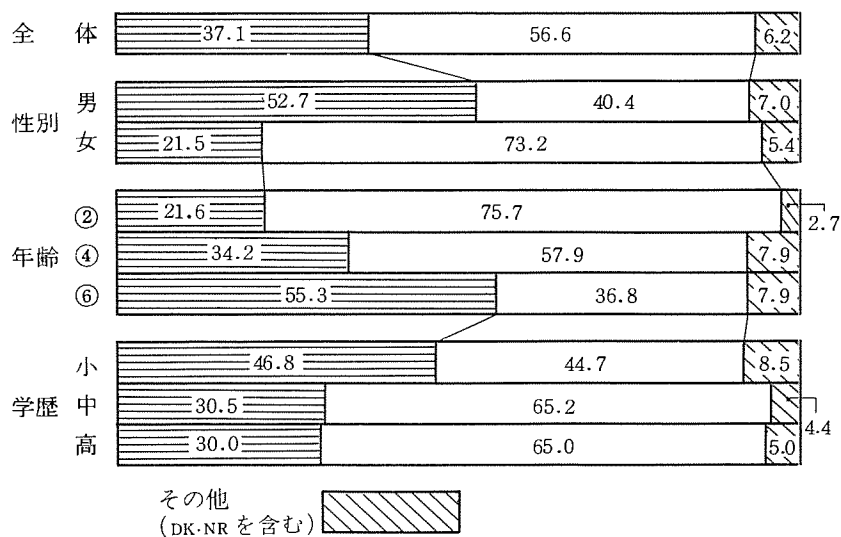


第147表 2.22 おれの (茂)

4. ワタシノ類 5. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	37 (32.7)	5 (4.4)	59 (52.2)	5 (4.4)	4 (3.5)	3 (2.7)	113 (100)	** (3*1)	(3)	
性 別	男	27 (47.4)	3 (5.3)	23 (40.4)	0 (0)	2 (3.5)	2 (3.5)	57 (100)	**		
	女	10 (17.9)	2 (3.6)	36 (64.3)	5 (8.9)	2 (3.6)	1 (1.8)	56 (100)	** 3*3	3	
年 齢	②	8 (21.6)	0 (0)	23 (62.2)	5 (13.5)	1 (2.7)	0 (0)	37 (100)	** (3**1)	(3)	
	④	11 (28.9)	2 (5.3)	22 (57.9)	0 (0)	1 (2.6)	2 (5.3)	38 (100)	**		
	⑥	18 (47.4)	3 (9.9)	14 (36.8)	0 (0)	2 (5.3)	1 (2.6)	38 (100)			
学 歴	小	19 (40.4)	3 (6.4)	21 (44.7)	0 (0)	3 (6.4)	1 (2.1)	47 (100)	*		
	中	13 (28.3)	1 (2.2)	28 (60.9)	2 (4.3)	1 (2.2)	1 (2.2)	46 (100)	** (3*1)	(3)	
	高	5 —	1 —	10 —	3 —	0 —	1 —	20 —	—	—	
職 業	農	20 (40.8)	4 (8.2)	22 (44.9)	0 (0)	2 (4.1)	1 (2.0)	49 (100)	*		
	工	9 (37.5)	1 (4.2)	10 (41.7)	2 (8.3)	1 (4.2)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	商	3 —	0 —	5 —	2 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	2 —	0 —	14 —	1 —	0 —	1 —	18 —	—	—	
	無	3 —	0 —	8 —	0 —	1 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	19 (38.0)	4 (8.0)	22 (44.0)	1 (2.0)	2 (4.0)	2 (4.0)	50 (100)			
	無	18 (28.6)	1 (1.6)	37 (58.7)	4 (6.3)	2 (3.2)	1 (1.6)	63 (100)	** (3*1)	(3)	

第139図 2.22 おれの (茂)



第148表 2.20 先生の(保)

1. sense:ノ類 2. sense:ノガンダ類 3. ſenſe:ノ類 4. ſense:ノガンダ類

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全 体		40 (35.1)	4 (3.5)	61 (53.5)	5 (4.4)	1 (0.9)	0 (0)	3 (2.6)	114 (100)	** (3*1)	(3)	
性 別	男	17 (29.8)	2 (3.5)	33 (57.9)	4 (7.0)	0 (0)	0 (0)	1 (1.8)	57 (100)	** (3*1)	(3)	
	女	23 (40.4)	2 (3.5)	28 (49.1)	1 (1.8)	1 (1.8)	0 (0)	2 (3.5)	57 (100)	**		
年 齢	②	15 (39.5)	2 (5.3)	20 (52.6)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	**		
	④	13 (34.2)	1 (2.6)	22 (57.9)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)	**		
	⑥	12 (31.6)	1 (2.6)	19 (50.0)	3 (7.9)	1 (2.6)	0 (0)	2 (5.3)	38 (100)			
学 歴	小	9 (22.5)	1 (2.5)	23 (57.5)	4 (10.0)	0 (0)	0 (0)	3 (7.5)	40 (100)	** (3*1)	(3)	
	中	17 (50.0)	0 (0)	16 (47.1)	0 (0)	1 (2.9)	0 (0)	0 (0)	34 (100)			
	高	14 (35.0)	3 (7.5)	22 (55.0)	1 (2.5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	40 (100)	**		
職 業	農	29 (35.4)	2 (2.4)	44 (53.7)	3 (3.7)	1 (1.2)	0 (0)	3 (3.7)	82 (100)	**		
	工	3 —	0 —	4 —	0 —	0 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	1 —	0 —	1 —	2 —	0 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	6 —	2 —	10 —	0 —	0 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	1 —	0 —	2 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	19 (31.1)	1 (1.6)	36 (59.0)	3 (4.9)	1 (1.6)	0 (0)	1 (1.6)	61 (100)	** (3*1)	(3)	
	無	21 (39.6)	3 (5.7)	25 (47.2)	2 (3.8)	0 (0)	0 (0)	2 (3.8)	53 (100)	**		

第149表 2.20 先生の(茂)

5. sense:カ類 6. センセーガンダ類 7. その他

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全	体	39 (34.5)	3 (2.7)	63 (55.8)	2 (1.8)	1 (0.9)	1 (0.9)	3 (2.7)	1 (0.9)	113 (100)	** (3*1)	(3)	
性 別	男	22 (38.6)	2 (3.5)	26 (45.6)	1 (1.8)	1 (1.8)	1 (1.8)	3 (5.3)	1 (1.8)	57 (100)	*		
	女	17 (30.4)	1 (1.8)	37 (66.1)	1 (1.8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	56 (100)	** 3*3	3	
年 齢	②	9 (24.3)	1 (2.7)	27 (73.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	37 (100)	** 3**3	3	
	④	22 (57.9)	1 (2.6)	12 (31.6)	1 (2.6)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)	**		*
	⑥	8 (21.1)	1 (2.6)	24 (63.2)	1 (2.6)	0 (0)	1 (2.6)	3 (7.9)	0 (0)	38 (100)	** (3**1)	(3)	
学 歴	小	13 (27.7)	1 (2.1)	26 (55.3)	2 (4.3)	1 (2.1)	1 (2.1)	3 (6.4)	0 (0)	47 (100)	** (3*1)	(3)	
	中	18 (39.1)	1 (2.2)	26 (56.5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2.2)	46 (100)			
	高	8 —	1 —	11 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	16 (32.7)	1 (2.0)	25 (51.0)	2 (4.1)	1 (2.0)	1 (2.0)	3 (6.1)	0 (0)	49 (100)	*		
	工	12 (50.0)	0 (0)	11 (45.8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	商	6 —	0 —	4 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	3 —	2 —	13 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	2 —	0 —	10 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	15 (30.0)	2 (4.0)	26 (52.0)	2 (4.0)	0 (0)	1 (2.0)	3 (6.0)	1 (2.0)	50 (100)	*		
	無	24 (38.1)	1 (1.6)	37 (58.7)	0 (0)	1 (1.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	63 (100)			

1. タカエワ類 2. タカエコトワ類 3. タカエノワ類

第140図 2.18(1) 高いのは(保)

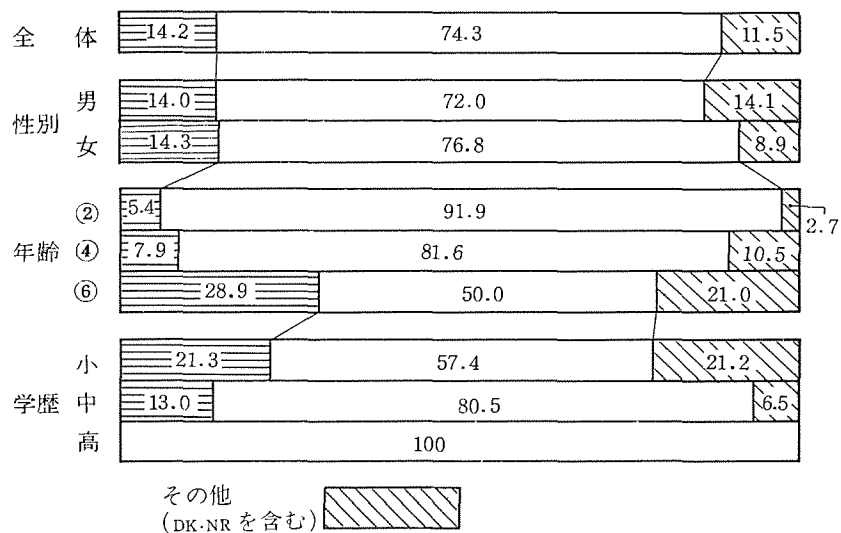


第151表 2.18(1) 高いのは(茂)

4. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	16 (14.2)	6 (5.3)	78 (69.0)	1 (0.9)	12 (10.6)	113 (100)	** 3**3	3	
性 別	男	8 (14.0)	5 (8.8)	36 (63.2)	1 (1.8)	7 (12.3)	57 (100)	** 3*3	3	
	女	8 (14.3)	1 (1.8)	42 (75.0)	0 (0)	5 (8.9)	56 (100)	** 3**3	3	
年 齢	②	2 (5.4)	0 (0)	34 (91.9)	0 (0)	1 (2.7)	37 (100)	** 3**3	3	**
	④	3 (7.9)	5 (13.2)	26 (68.4)	0 (0)	4 (10.5)	38 (100)	** 3*3	3	
	⑥	11 (28.9)	1 (2.6)	18 (47.4)	1 (2.6)	7 (18.4)	38 (100)			
学 歴	小	10 (21.3)	5 (10.6)	22 (46.8)	1 (2.1)	9 (19.1)	47 (100)	** (3*1)	(3)	—
	中	6 (13.0)	1 (2.2)	36 (78.3)	0 (0)	3 (6.5)	46 (100)	** 3**3	3	
	高	0 —	0 —	20 —	0 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	10 (20.4)	4 (8.2)	28 (57.1)	1 (2.0)	6 (12.2)	49 (100)	** (3**1)	(3)	
	工	1 (4.2)	2 (8.3)	18 (75.0)	0 (0)	3 (12.5)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	0 —	9 —	0 —	1 —	10 —	—	—	
	事	2 —	0 —	16 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	3 —	0 —	7 —	0 —	2 —	12 —	—	—	
役 員	有	9 (18.0)	2 (4.0)	30 (60.0)	1 (2.0)	8 (16.0)	50 (100)	** (3**1)	(3)	
	無	7 (11.1)	4 (6.3)	48 (76.2)	0 (0)	4 (6.3)	63 (100)	** 3**3	3	

第141図 2.18(1) 高いのは(茂)

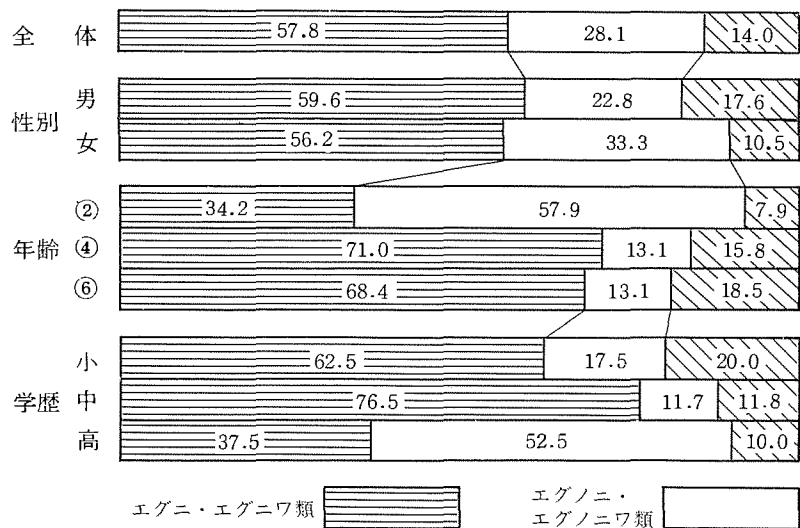


第152表 2.07 行くのには(保)

1. エグニ類 2. エグニワ類 3. エグノニ類 4. エグノニワ類

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	33 (28.9)	33 (28.9)	18 (15.8)	14 (12.3)	7 (6.1)	5 (4.4)	4 (3.5)	114 (100)	——	—	
性	男	15 (26.3)	19 (33.3)	7 (12.3)	6 (10.5)	5 (8.8)	3 (5.3)	2 (3.5)	57 (100)			
別	女	18 (31.6)	14 (24.6)	11 (19.3)	8 (14.0)	2 (3.5)	2 (3.5)	2 (3.5)	57 (100)			
年	②	4 (10.5)	9 (23.7)	10 (26.3)	12 (31.6)	3 (7.9)	0 (0)	0 (0)	38 (100)			
齢	④	13 (34.2)	14 (36.8)	4 (10.5)	1 (2.6)	4 (10.5)	0 (0)	2 (5.3)	38 (100)			
	⑥	16 (42.1)	10 (26.3)	4 (10.5)	1 (2.6)	0 (0)	5 (13.2)	2 (5.3)	38 (100)			
学	小	16 (40.0)	9 (22.5)	5 (12.5)	2 (5.0)	1 (2.5)	3 (7.5)	4 (10.0)	40 (100)			
歴	中	11 (32.4)	15 (44.1)	3 (8.8)	1 (2.9)	2 (5.9)	2 (5.9)	0 (0)	34 (100)			
	高	6 (15.0)	9 (22.5)	10 (25.0)	11 (27.5)	4 (10.0)	0 (0)	0 (0)	40 (100)			
職	農	31 (37.8)	25 (30.5)	8 (9.8)	4 (4.9)	5 (6.1)	5 (6.1)	4 (4.9)	82 (100)	**		
	工	0 —	3 —	2 —	1 —	1 —	0 —	0 —	7 —	——	—	
	商	0 —	0 —	2 —	2 —	0 —	0 —	0 —	4 —	——	—	
業	事	2 —	3 —	5 —	7 —	1 —	0 —	0 —	18 —	——	—	
	無	0 —	2 —	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	——	—	
役	有	17 (27.9)	19 (31.1)	10 (16.4)	6 (9.8)	3 (4.9)	3 (4.9)	3 (4.9)	61 (100)			
員	無	16 (30.2)	14 (26.4)	8 (15.1)	8 (15.1)	4 (7.5)	2 (3.8)	1 (1.9)	53 (100)			

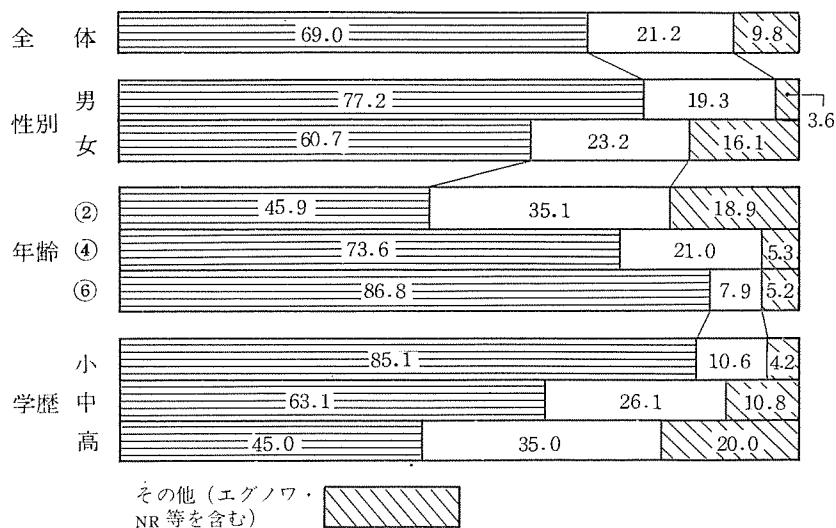
第142図 2.07 行くのに〔は〕(保)



第153表 2.07 行くのには(茂)
5. エグノワ類 6. その他

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	46 (40.7)	32 (28.3)	18 (15.9)	6 (5.3)	1 (0.9)	3 (2.7)	7 (6.2)	113 (100)	**		
性 別	男	26 (45.6)	18 (31.6)	9 (15.8)	2 (3.5)	1 (1.8)	0 (0)	1 (1.8)	57 (100)	*		
	女	20 (35.7)	14 (25.0)	9 (16.1)	4 (7.1)	0 (0)	3 (5.4)	6 (10.7)	56 (100)			
年 齢	②	10 (27.0)	7 (18.9)	11 (29.7)	2 (5.4)	1 (2.7)	2 (5.4)	4 (10.8)	37 (100)			
	④	14 (36.8)	14 (36.8)	7 (18.4)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	2 (5.3)	38 (100)	——	—	
	⑥	22 (57.9)	11 (28.9)	0 (0)	3 (7.9)	0 (0)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)	**		
学 歴	小	27 (57.4)	13 (27.7)	1 (2.1)	4 (8.5)	0 (0)	1 (2.1)	1 (2.1)	47 (100)	** (1*2)	(1)	
	中	17 (37.0)	12 (26.1)	11 (23.9)	1 (2.2)	0 (0)	2 (4.3)	3 (6.5)	46 (100)			
	高	2 —	7 —	6 —	1 —	1 —	0 —	3 —	20 —	——	—	
職 業	農	25 (51.0)	17 (34.7)	2 (4.1)	3 (6.1)	0 (0)	0 (0)	2 (4.1)	49 (100)	**		
	工	10 (41.7)	5 (20.8)	5 (20.8)	2 (8.3)	0 (0)	1 (4.2)	1 (4.2)	24 (100)	——	—	
	商	1 —	3 —	3 —	0 —	1 —	0 —	2 —	10 —	——	—	
	事	3 —	4 —	8 —	1 —	0 —	1 —	1 —	18 —	——	—	
	無	7 —	3 —	0 —	0 —	0 —	1 —	1 —	12 —	——	—	
役 員	有	22 (44.0)	14 (28.0)	8 (16.0)	3 (6.0)	1 (2.0)	1 (2.0)	1 (2.0)	50 (100)	*		
	無	24 (38.1)	18 (28.6)	10 (15.9)	3 (4.8)	0 (0)	2 (3.2)	6 (9.5)	63 (100)	*		

第143図 2.07 行くのに〔は〕(茂)

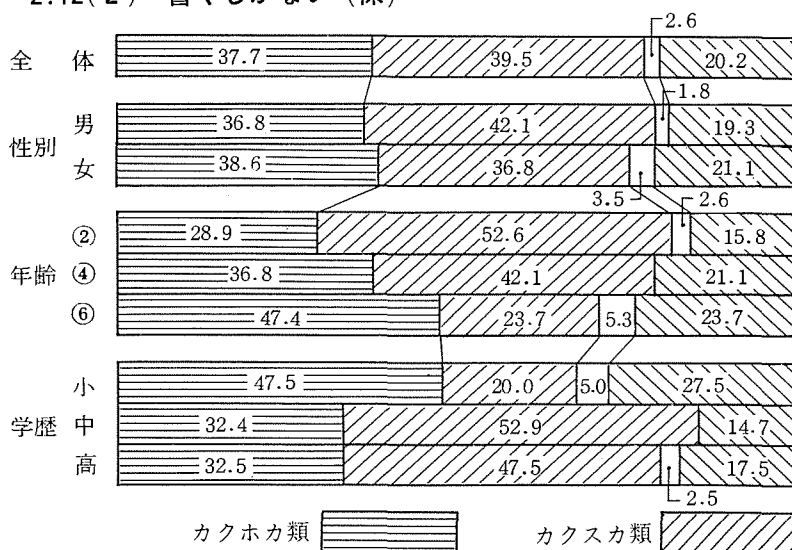


第154表 2.12(2) 書くしかない(保)

1. カクホカ類 2. カクスカ類 3. カクヨリホカ類

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全	体	43 (37.7)	45 (39.5)	3 (2.6)	6 (5.3)	17 (14.9)	114 (100)	**		
性 別	男	21 (36.8)	24 (42.1)	1 (1.8)	5 (8.8)	6 (10.5)	57 (100)	**		
	女	22 (38.6)	21 (36.8)	2 (3.5)	1 (1.8)	11 (19.3)	57 (100)			
年 齢	②	11 (28.9)	20 (52.6)	1 (2.6)	1 (2.6)	5 (13.2)	38 (100)	*		
	④	14 (36.8)	16 (42.1)	0 (0)	3 (7.9)	5 (13.2)	38 (100)			
	⑥	18 (47.4)	9 (23.7)	2 (5.3)	2 (5.3)	7 (18.4)	38 (100)			
学 歴	小	19 (47.5)	8 (20.0)	2 (5.0)	1 (2.5)	10 (25.0)	40 (100)			
	中	11 (32.4)	18 (52.9)	0 (0)	3 (8.8)	2 (5.9)	34 (100)	*		
	高	13 (32.5)	19 (47.5)	1 (2.5)	2 (5.0)	5 (12.5)	40 (100)			
職 業	農	34 (41.5)	27 (32.9)	3 (3.7)	6 (7.3)	12 (14.6)	82 (100)	**		
	工	0 —	6 —	0 —	0 —	1 —	7 —	—	—	
	商	1 —	1 —	0 —	0 —	2 —	4 —	—	—	
	事	6 —	10 —	0 —	0 —	2 —	18 —	—	—	
	無	2 —	1 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	23 (37.7)	25 (41.0)	2 (3.3)	1 (1.6)	10 (16.4)	61 (100)			
	無	20 (37.7)	20 (37.7)	1 (1.9)	5 (9.4)	7 (13.2)	53 (100)	—	—	

第144図 2.12(2) 書くしかない(保)

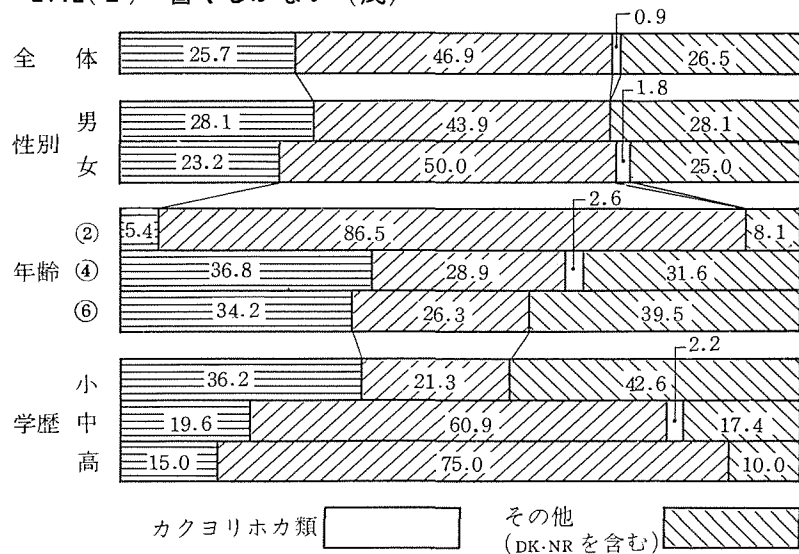


第155表 2.12(2) 書くしかない(茂)

4. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	29 (25.7)	53 (46.9)	1 (0.9)	5 (4.4)	25 (22.1)	113 (100)	** (2**1)	(2)	
性 別	男	16 (28.1)	25 (43.9)	0 (0)	3 (5.3)	13 (22.8)	57 (100)	**		
	女	13 (23.2)	28 (50.0)	1 (1.8)	2 (3.6)	12 (21.4)	56 (100)	** (2*1)	(2)	
年 齢	②	2 (5.4)	32 (86.5)	0 (0)	0 (0)	3 (8.1)	37 (100)	** 2**2	2	
	④	14 (36.8)	11 (28.9)	1 (2.6)	2 (5.3)	10 (26.3)	38 (100)			**
	⑥	13 (34.2)	10 (26.3)	0 (0)	3 (7.9)	12 (31.6)	38 (100)			
学 歴	小	17 (36.2)	10 (21.3)	0 (0)	3 (6.4)	17 (36.2)	47 (100)	—	—	
	中	9 (19.6)	28 (60.9)	1 (2.2)	1 (2.2)	7 (15.2)	46 (100)	** (2**1)	(2)	**
	高	3 —	15 —	0 —	1 —	1 —	20 —	—	—	
職 業	農	15 (30.6)	17 (34.7)	1 (2.0)	4 (8.2)	12 (24.5)	49 (100)			
	工	6 (25.0)	11 (45.8)	0 (0)	0 (0)	7 (29.2)	24 (100)	—	—	
	商	1 —	8 —	0 —	1 —	0 —	10 —	—	—	
	事	2 —	14 —	0 —	0 —	2 —	18 —	—	—	
	無	5 —	3 —	0 —	0 —	4 —	12 —	—	—	
役 員	有	12 (24.0)	22 (44.0)	1 (2.0)	4 (8.0)	11 (22.0)	50 (100)	*		
	無	17 (27.0)	31 (49.2)	0 (0)	1 (1.6)	14 (22.2)	63 (100)	** (2*1)	(2)	

第145図 2.12(2) 書くしかない(茂)

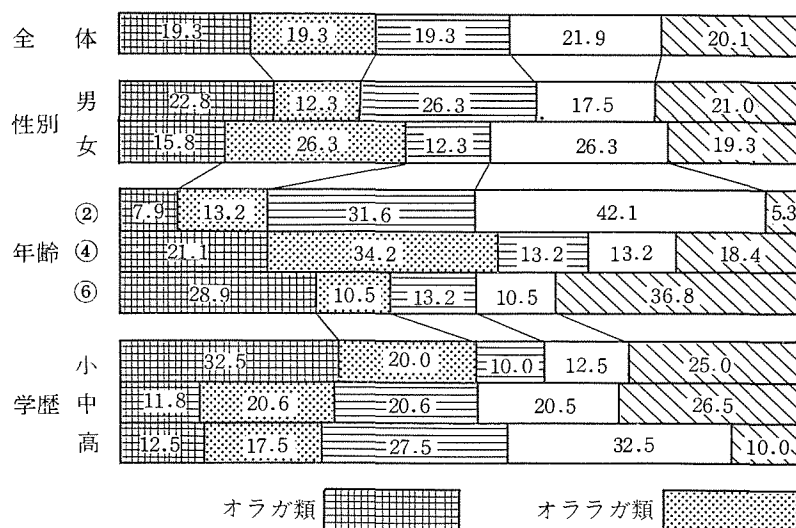


第156表 2.21 おれたちが（保）

1. オラガ類 2. オララガ類 3. オレラガ類 4. オレタチガ類

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	22 (19.3)	22 (19.3)	22 (19.3)	18 (15.8)	7 (6.1)	16 (14.0)	7 (6.1)	114 (100)	—	—	
性	男	13 (22.8)	7 (12.3)	15 (26.3)	10 (17.5)	0 (0)	8 (14.0)	4 (7.0)	57 (100)			
別	女	9 (15.8)	15 (26.3)	7 (12.3)	8 (14.0)	7 (12.3)	8 (14.0)	3 (5.3)	57 (100)			
年	②	3 (7.9)	5 (13.2)	12 (31.6)	9 (23.7)	7 (18.4)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)			
齢	④	8 (21.1)	13 (34.2)	5 (13.2)	5 (13.2)	0 (0)	4 (10.5)	3 (7.9)	38 (100)			
	⑥	11 (28.9)	4 (10.5)	5 (13.2)	4 (10.5)	0 (0)	10 (26.3)	4 (10.5)	38 (100)			
学	小	13 (32.5)	8 (20.0)	4 (10.0)	5 (12.5)	0 (0)	7 (17.5)	3 (7.5)	40 (100)			
歴	中	4 (11.8)	7 (20.6)	7 (20.6)	6 (17.6)	1 (2.9)	7 (20.6)	2 (5.9)	34 (100)	—	—	
	高	5 (12.5)	7 (17.5)	11 (27.5)	7 (17.5)	6 (15.0)	2 (5.0)	2 (5.0)	40 (100)			
職	農	17 (20.7)	18 (22.0)	15 (18.3)	10 (12.2)	0 (0)	15 (18.3)	7 (8.5)	82 (100)			
業	工	1 —	0 —	1 —	3 —	1 —	1 —	0 —	7 —	—	—	
	商	1 —	1 —	1 —	1 —	0 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	2 —	1 —	5 —	4 —	6 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	1 —	2 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役	有	11 (18.0)	13 (21.3)	12 (19.7)	8 (13.1)	2 (3.3)	8 (13.1)	7 (11.5)	61 (100)			
員	無	11 (20.8)	9 (17.0)	10 (18.9)	10 (18.9)	5 (9.4)	8 (15.1)	0 (0)	53 (100)			

第146図 2.21 おれたちが（保）

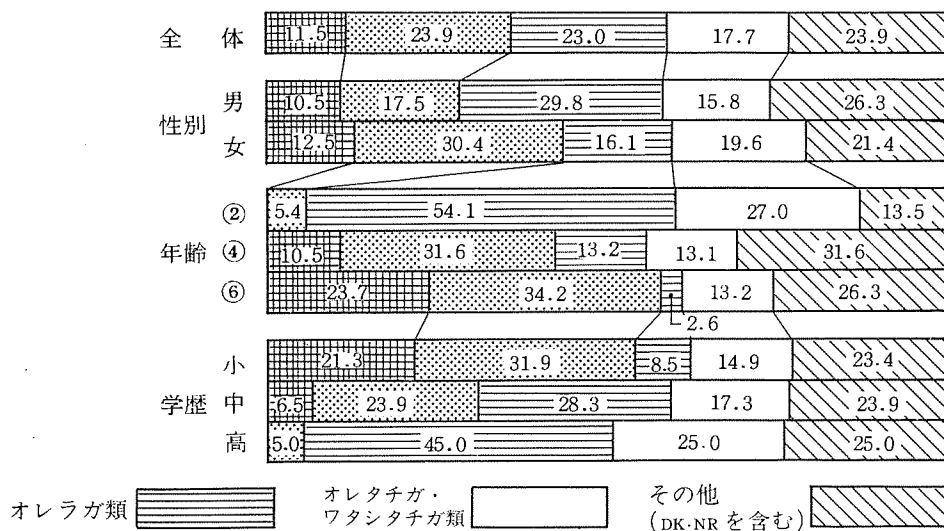


第157表 2.21 おれたちが（茂）

5. ワタシタチカ類 6. その他

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	13 (11.5)	27 (23.9)	26 (23.0)	15 (13.3)	5 (4.4)	11 (9.7)	16 (14.2)	113 (100)			
性、別	男	6 (10.5)	10 (17.5)	17 (29.8)	9 (15.8)	0 (0)	7 (12.3)	8 (14.0)	57 (100)			
	女	7 (12.5)	17 (30.4)	9 (16.1)	6 (10.7)	5 (8.9)	4 (7.1)	8 (14.3)	56 (100)			
年 齢	②	0 (0)	2 (5.4)	20 (54.1)	6 (16.2)	4 (10.8)	2 (5.4)	3 (8.1)	37 (100)	** (3**4)	(3)	**
	④	4 (10.5)	12 (31.6)	5 (13.2)	4 (10.5)	1 (2.6)	6 (15.8)	6 (15.8)	38 (100)			
	⑥	9 (23.7)	13 (34.2)	1 (2.6)	5 (13.2)	0 (0)	3 (7.9)	7 (18.4)	38 (100)			
学 歴	小	10 (21.3)	15 (31.9)	4 (8.5)	6 (12.8)	1 (2.1)	4 (8.5)	7 (14.9)	47 (100)			
	中	3 (6.5)	11 (23.9)	13 (28.3)	6 (13.0)	2 (4.3)	4 (8.7)	7 (15.2)	46 (100)			
	高	0 —	1 —	9 —	3 —	2 —	3 —	2 —	20 —	—	—	
職 業	農	12 (24.5)	17 (34.7)	4 (8.2)	5 (10.2)	0 (0)	4 (8.2)	7 (14.3)	49 (100)			
	工	0 (0)	6 (25.0)	7 (29.2)	2 (8.3)	2 (8.3)	4 (16.7)	3 (12.5)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	0 —	2 —	3 —	1 —	0 —	4 —	10 —	—	—	
	事	0 —	0 —	11 —	3 —	2 —	1 —	1 —	18 —	—	—	
	無	1 —	4 —	2 —	2 —	0 —	2 —	1 —	12 —	—	—	
役 員	有	10 (20.0)	9 (18.0)	12 (24.0)	5 (10.0)	2 (4.0)	5 (10.0)	7 (14.0)	50 (100)			
	無	3 (4.8)	18 (28.6)	14 (22.2)	10 (15.9)	3 (4.8)	6 (9.5)	9 (14.3)	63 (100)			

第147図 2.21 おれたちが（茂）

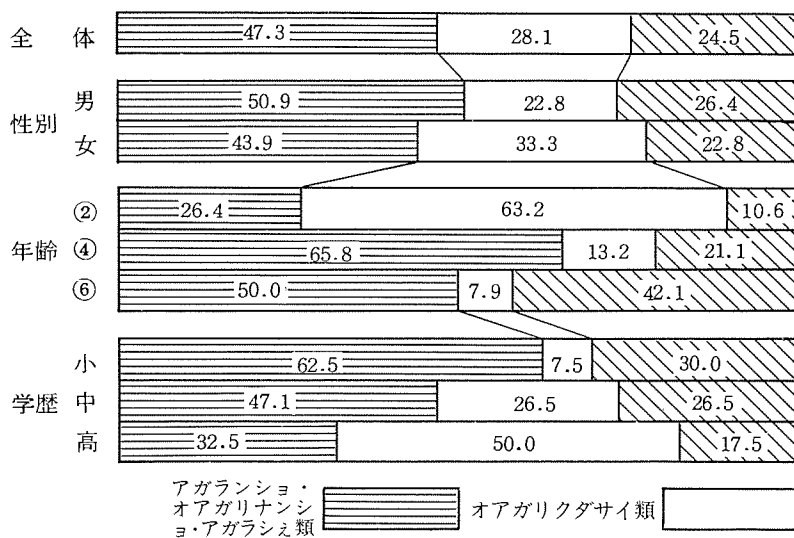


第158表 4.02 お上り下さい (保)

1. アガランシヨ類 2. オアガリナンシヨ類 3. アガラシゑ類

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		35 (30.7)	16 (14.0)	3 (2.6)	32 (28.1)	25 (21.9)	3 (2.6)	114 (100)	**		
性 別	男	18 (31.6)	9 (15.8)	2 (3.5)	13 (22.8)	14 (24.6)	1 (1.8)	57 (100)			
	女	17 (29.8)	7 (12.3)	1 (1.8)	19 (33.3)	11 (19.3)	2 (3.5)	57 (100)			
年 齢	②	8 (21.1)	2 (5.3)	0 (0)	24 (63.2)	2 (5.3)	2 (5.3)	38 (100)	** (4**1)	(4)	
	④	17 (44.7)	8 (21.1)	0 (0)	5 (13.2)	8 (21.1)	0 (0)	38 (100)			**
	⑥	10 (26.3)	6 (15.8)	3 (7.9)	3 (7.9)	15 (39.5)	1 (2.6)	38 (100)			
学 歴	小	17 (42.5)	8 (20.0)	0 (0)	3 (7.5)	11 (27.5)	1 (2.5)	40 (100)			
	中	9 (26.5)	5 (14.7)	2 (5.9)	9 (26.5)	9 (26.5)	0 (0)	34 (100)	——	——	
	高	9 (22.5)	3 (7.5)	1 (2.5)	20 (50.0)	5 (12.5)	2 (5.0)	40 (100)	** (4*1)	(4)	
職 業	農	27 (32.9)	16 (19.5)	3 (3.7)	13 (15.9)	22 (26.8)	1 (1.2)	82 (100)			
	工	1 —	0 —	0 —	4 —	1 —	1 —	7 —	——	——	
	商	2 —	0 —	0 —	2 —	0 —	0 —	4 —	——	——	**
	事	4 —	0 —	0 —	13 —	1 —	0 —	18 —	——	——	
	無	1 —	0 —	0 —	0 —	1 —	1 —	3 —	——	——	
役 員	有	17 (27.9)	12 (19.7)	2 (3.3)	10 (16.4)	19 (31.1)	1 (1.6)	61 (100)			
	無	18 (34.0)	4 (7.5)	1 (1.9)	22 (41.5)	6 (11.3)	2 (3.8)	53 (100)	**		

第148図 4.02 お上り下さい (保)

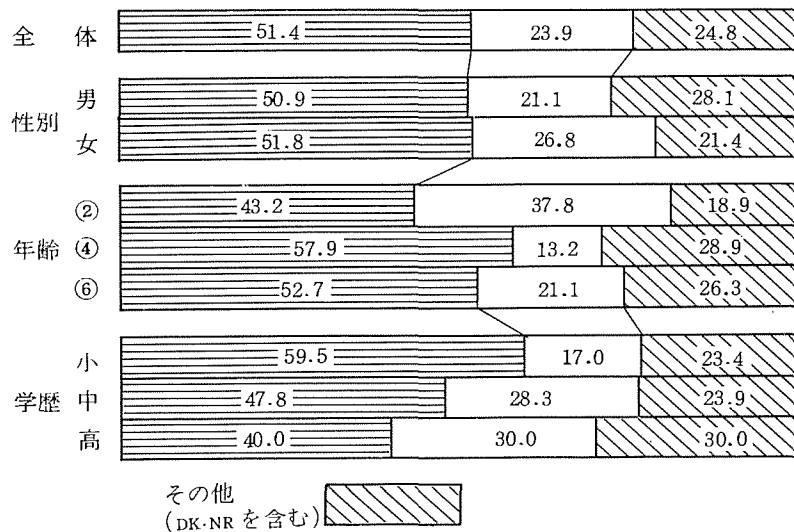


第159表 4.02 お上り下さい (茂)

4. オアガリクダサイ類 5. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	23 (20.4)	13 (11.5)	22 (19.5)	27 (23.9)	25 (22.1)	3 (2.7)	113 (100)			
性	男	7 (12.3)	6 (10.5)	16 (28.1)	12 (21.1)	14 (24.6)	2 (3.5)	57 (100)			
	女	16 (28.6)	7 (12.5)	6 (10.7)	15 (26.8)	11 (19.6)	1 (1.8)	56 (100)			
年	②	11 (29.7)	2 (5.4)	3 (8.1)	14 (37.8)	5 (13.5)	2 (5.4)	37 (100)			
	④	7 (18.4)	5 (13.2)	10 (26.3)	5 (13.2)	11 (28.9)	0 (0)	38 (100)			
	⑥	5 (13.2)	6 (15.8)	9 (23.7)	8 (21.1)	9 (23.7)	1 (2.6)	38 (100)	——	—	
学	小	9 (19.1)	7 (14.9)	12 (25.5)	8 (17.0)	10 (21.3)	1 (2.1)	47 (100)			
	中	12 (26.1)	4 (8.7)	6 (13.0)	13 (28.3)	11 (23.9)	0 (0)	46 (100)			
	高	2 —	2 —	4 —	6 —	4 —	2 —	20 —	——	—	
職	農	7 (14.3)	8 (16.3)	12 (24.5)	10 (20.4)	11 (22.4)	1 (2.0)	49 (100)			
	工	7 (29.2)	3 (12.5)	4 (16.7)	3 (12.5)	7 (29.2)	0 (0)	24 (100)	——	—	
	商	1 —	0 —	2 —	5 —	2 —	0 —	10 —	——	—	
	事	5 —	1 —	2 —	7 —	1 —	2 —	18 —	——	—	
	無	3 —	1 —	2 —	2 —	4 —	0 —	12 —	——	—	
役	有	9 (18.0)	5 (10.0)	13 (26.0)	10 (20.0)	12 (24.0)	1 (2.0)	50 (100)			
	無	14 (22.2)	8 (12.7)	9 (14.3)	17 (27.0)	13 (20.6)	2 (3.2)	63 (100)			

第149図 4.02 お上り下さい (茂)

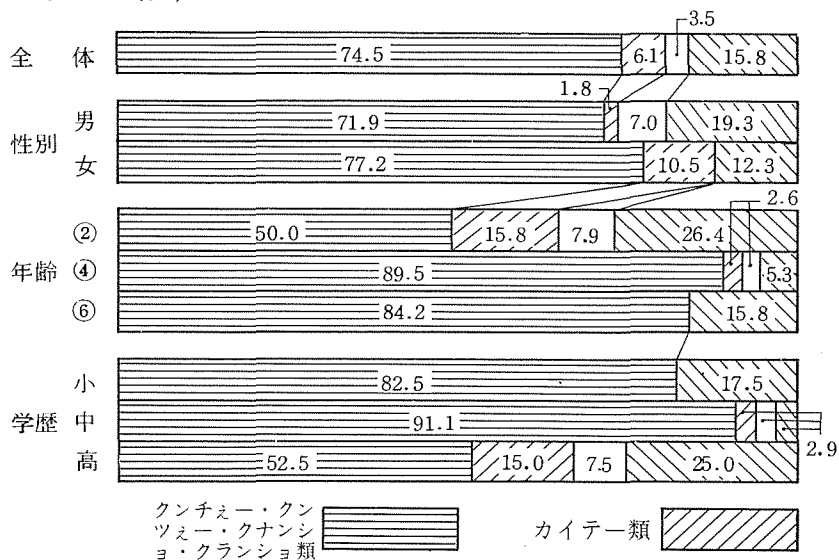


第162表 2.33 ～下さい (保)

1. クンチえー類 2. クンツえー類 3. クナンシヨ類 4. クランシヨ類

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	25 (21.9)	3 (2.6)	53 (46.5)	4 (3.5)	7 (6.1)	4 (3.5)	13 (11.4)	5 (4.4)	114 (100)	** (3**1)	(3)	
性	男	16 (28.1)	2 (3.5)	19 (33.3)	4 (7.0)	1 (1.8)	4 (7.0)	6 (10.5)	5 (8.8)	57 (100)	*		
別	女	9 (15.8)	1 (1.8)	34 (59.6)	0 (0)	6 (10.5)	0 (0)	7 (12.3)	0 (0)	57 (100)	** (3**1)	(3)	
年	②	1 (2.6)	0 (0)	15 (39.5)	3 (7.9)	6 (15.8)	3 (7.9)	5 (13.2)	5 (13.2)	38 (100)	** (3*5)	(3)	
齢	④	5 (13.2)	2 (5.3)	26 (68.4)	1 (2.6)	1 (2.6)	1 (2.6)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)	** 3*3	3	*
	⑥	19 (50.0)	1 (2.6)	12 (31.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (15.8)	0 (0)	38 (100)	*		
学	小	13 (32.5)	2 (5.0)	18 (45.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (17.5)	0 (0)	40 (100)			
歴	中	8 (23.5)	1 (2.9)	20 (58.8)	2 (5.9)	1 (2.9)	1 (2.9)	1 (2.9)	0 (0)	34 (100)	** (3*1)	(3)	
	高	4 (10.0)	0 (0)	15 (37.5)	2 (5.0)	6 (15.0)	3 (7.5)	5 (12.5)	5 (12.5)	40 (100)	** (3*5)	(3)	
職	農	22 (26.8)	3 (3.7)	40 (48.8)	3 (3.7)	1 (1.2)	1 (1.2)	8 (9.8)	4 (4.9)	82 (100)	** (3*1)	(3)	
業	工	1 —	0 —	4 —	0 —	1 —	0 —	1 —	0 —	7 —	—	—	
	商	1 —	0 —	2 —	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	0 —	6 —	1 —	3 —	3 —	4 —	1 —	18 —	—	—	
	無	1 —	0 —	1 —	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役	有	17 (27.9)	3 (4.9)	24 (39.3)	4 (6.6)	2 (3.3)	3 (4.9)	7 (11.5)	1 (1.6)	61 (100)	**		
員	無	8 (15.1)	0 (0)	29 (54.7)	0 (0)	5 (9.4)	1 (1.9)	6 (11.3)	4 (7.5)	53 (100)	** (3**1)	(3)	

第150図 2.33～下さい (保)

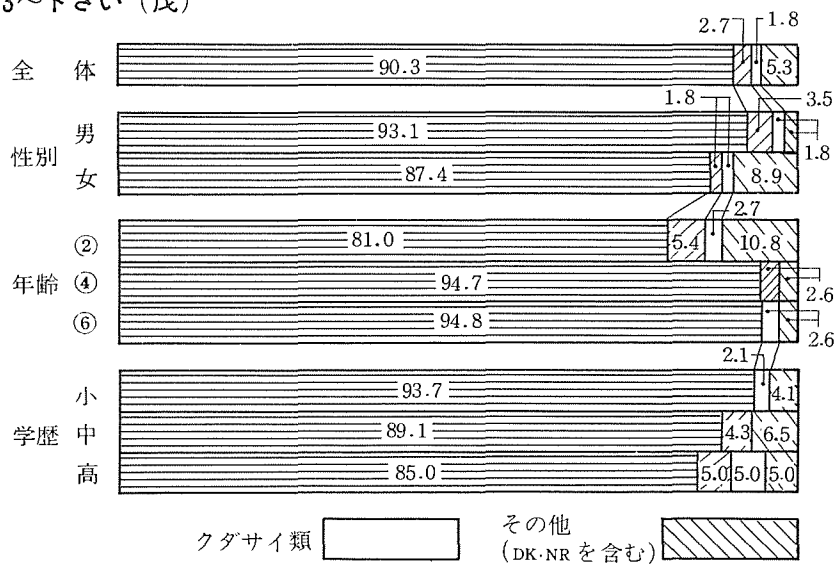


第163表 2.33 ～下さい (茂)

5. カイテー類 6. クダサイ類 7. その他

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	72 (63.7)	8 (7.1)	20 (17.7)	2 (1.8)	3 (2.7)	2 (1.8)	4 (3.5)	2 (1.8)	113 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
性 別	男	40 (70.2)	3 (5.3)	9 (15.8)	1 (1.8)	2 (3.5)	1 (1.8)	0 (0)	1 (1.8)	57 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
	女	32 (57.1)	5 (8.9)	11 (19.6)	1 (1.8)	1 (1.8)	1 (1.8)	4 (7.1)	1 (1.8)	56 (100)	** (1**3)	(1)	
年 齢	②	14 (37.8)	2 (5.4)	12 (32.4)	2 (5.4)	2 (5.4)	1 (2.7)	3 (8.1)	1 (2.7)	37 (100)			
	④	26 (68.4)	4 (10.5)	6 (15.8)	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** 1* $\bar{1}$	1	**
	⑥	32 (84.2)	2 (5.3)	2 (5.3)	0 (0)	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
学 歴	小	38 (80.9)	3 (6.4)	3 (6.4)	0 (0)	0 (0)	1 (2.1)	1 (2.1)	1 (2.1)	47 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
	中	26 (56.5)	3 (6.5)	11 (23.9)	1 (2.2)	2 (4.3)	0 (0)	3 (6.5)	0 (0)	46 (100)	** (1*3)	(1)	
	高	8 —	2 —	6 —	1 —	1 —	1 —	0 —	1 —	20 —	—	—	
職 業	農	39 (79.6)	2 (4.1)	5 (10.2)	0 (0)	0 (0)	1 (2.0)	1 (2.0)	1 (2.0)	49 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
	工	15 (62.5)	1 (4.2)	5 (20.8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (12.5)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	4 —	0 —	4 —	0 —	0 —	1 —	0 —	1 —	10 —	—	—	
	事	6 —	2 —	6 —	2 —	2 —	0 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	8 —	3 —	0 —	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	34 (68.0)	5 (10.0)	7 (14.0)	1 (2.0)	1 (2.0)	1 (2.0)	1 (2.0)	0 (0)	50 (100)	** 1* $\bar{1}$	1	
	無	38 (60.3)	3 (4.8)	13 (20.6)	1 (1.6)	2 (3.2)	1 (1.6)	3 (4.8)	2 (3.2)	63 (100)	** (1**3)	(1)	

第151図 2.33～下さい (茂)

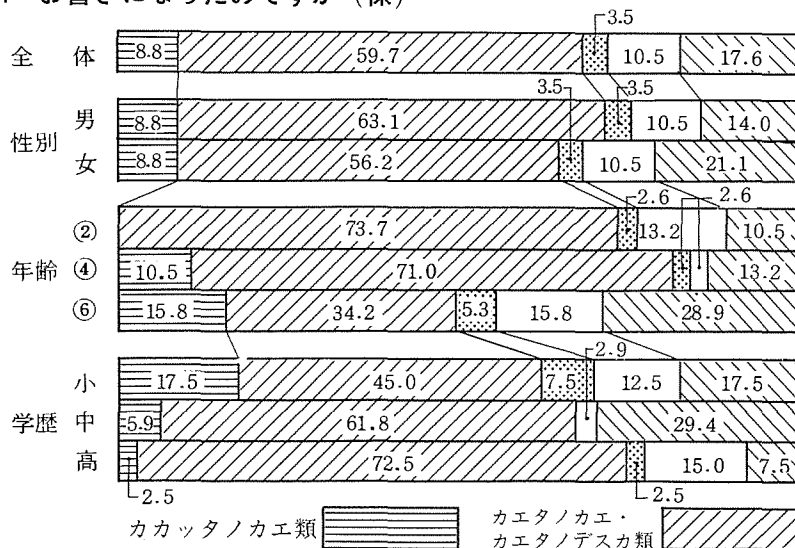


第164表 4.04 お書きになったのですか（保）

1. カエタノカエ類 2. カカッタノカエ類 3. カエタノデスカ類

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	40 (35.1)	10 (8.8)	28 (24.6)	12 (10.5)	4 (3.5)	19 (16.7)	1 (0.9)	114 (100)	**		
性 別	男	26 (45.6)	5 (8.8)	10 (17.5)	6 (10.5)	2 (3.5)	8 (14.0)	0 (0)	57 (100)	** (1**3)	(1)	
	女	14 (24.6)	5 (8.8)	18 (31.6)	6 (10.5)	2 (3.5)	11 (19.3)	1 (1.8)	57 (100)			
年 齢	②	9 (23.7)	0 (0)	19 (50.0)	5 (13.2)	1 (2.6)	4 (10.5)	0 (0)	38 (100)	*		
	④	20 (52.6)	4 (10.5)	7 (18.4)	1 (2.6)	1 (2.6)	5 (13.2)	0 (0)	38 (100)	** (1*3)	(1)	
	⑥	11 (28.9)	6 (15.8)	2 (5.3)	6 (15.8)	2 (5.3)	10 (26.3)	1 (2.6)	38 (100)			
学 歴	小	15 (37.5)	7 (17.5)	3 (7.5)	5 (12.5)	3 (7.5)	6 (15.0)	1 (2.5)	40 (100)			
	中	11 (32.4)	2 (5.9)	10 (29.4)	1 (2.9)	0 (0)	10 (29.4)	0 (0)	34 (100)			
	高	14 (35.0)	1 (2.5)	15 (37.5)	6 (15.0)	1 (2.5)	3 (7.5)	0 (0)	40 (100)			
職 業	農	31 (37.8)	9 (11.0)	14 (17.1)	7 (8.5)	3 (3.7)	17 (20.7)	1 (1.2)	82 (100)	** (1*6)	(1)	
	工	1 —	0 —	5 —	0 —	0 —	1 —	0 —	7 —	—	—	
	商	1 —	1 —	1 —	0 —	1 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	5 —	0 —	7 —	5 —	0 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	2 —	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	26 (42.6)	9 (14.8)	7 (11.5)	7 (11.5)	2 (3.3)	10 (16.4)	0 (0)	61 (100)	** (1**6)	(1)	
	無	14 (26.4)	1 (1.9)	21 (39.6)	5 (9.4)	2 (3.8)	9 (17.0)	1 (1.9)	53 (100)			

第152図 4.04 お書きになったのですか（保）

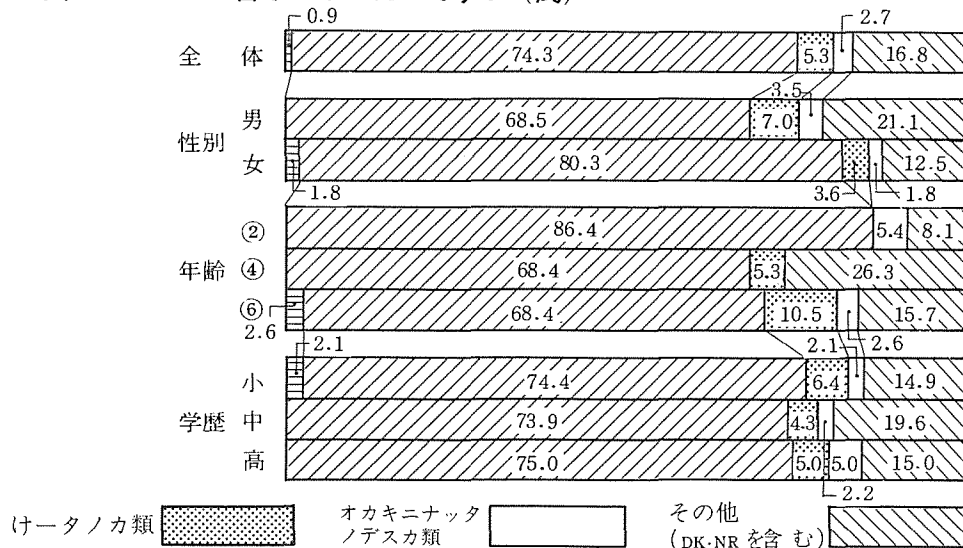


第165表 4.04 お書きになったのですか (茂)

4. オカキニナツノデスカ類 5. けータノカ類 6. その他

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	54 (47.8)	1 (0.9)	30 (26.5)	3 (2.7)	6 (5.3)	18 (15.9)	1 (0.9)	113 (100)	** (1**3)	(1)	
性 別	男	27 (47.4)	0 (0)	12 (21.1)	2 (3.5)	4 (7.0)	12 (21.1)	0 (0)	57 (100)	** (1*3,6)	(1)	
	女	27 (48.2)	1 (1.8)	18 (32.1)	1 (1.8)	2 (3.6)	6 (10.7)	1 (1.8)	56 (100)	*		
年 齢	②	18 (48.6)	0 (0)	14 (37.8)	2 (5.4)	0 (0)	3 (8.1)	0 (0)	37 (100)	*		
	④	17 (44.7)	0 (0)	9 (23.7)	0 (0)	2 (5.3)	10 (26.3)	0 (0)	38 (100)			
	⑥	19 (50.0)	1 (2.6)	7 (18.4)	1 (2.6)	4 (10.5)	5 (13.1)	1 (2.6)	38 (100)	** (1*3)	(1)	
学 歴	小	27 (57.4)	1 (2.1)	8 (17.0)	1 (2.1)	3 (6.4)	6 (12.8)	1 (2.1)	47 (100)	** (1**3)	(1)	
	中	18 (39.1)	0 (0)	16 (34.8)	1 (2.2)	2 (4.3)	9 (19.6)	0 (0)	46 (100)			
	高	9 —	0 —	6 —	1 —	1 —	3 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	22 (44.9)	0 (0)	12 (24.5)	2 (4.1)	5 (10.2)	7 (14.3)	1 (2.0)	49 (100)	*		
	工	15 (62.5)	0 (0)	4 (16.7)	0 (0)	0 (0)	5 (20.8)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	4 —	0 —	4 —	0 —	0 —	2 —	0 —	10 —	—	—	
	事	8 —	0 —	7 —	1 —	0 —	2 —	0 —	18 —	—	—	
	無	5 —	1 —	3 —	0 —	1 —	2 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	22 (44.0)	0 (0)	10 (20.0)	3 (6.0)	5 (10.0)	10 (20.0)	0 (0)	50 (100)	** (1*3,6)	(1)	
	無	32 (50.8)	1 (1.6)	20 (31.7)	0 (0)	1 (1.6)	8 (12.7)	1 (1.6)	63 (100)	**		

第153図 4.04 お書きになったのですか (茂)

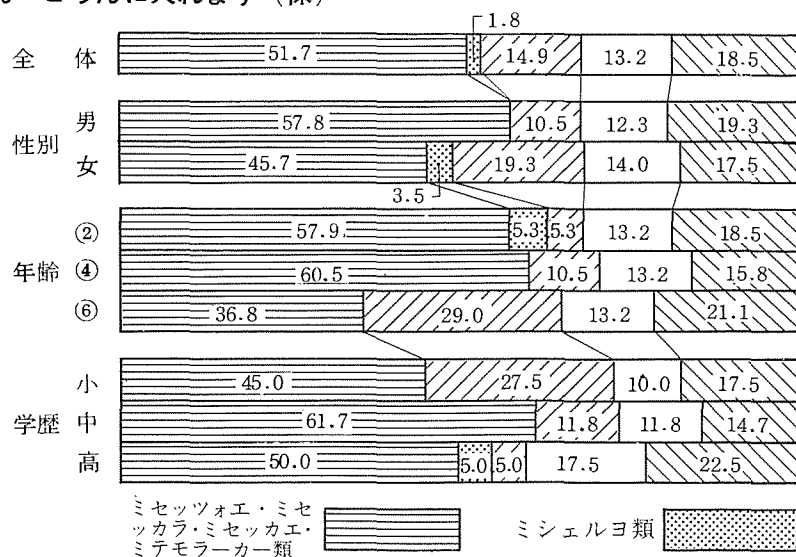


第166表 4.03 ごらんに入れます (保)

1. ミセツツオエ類 2. ミセツカラ類 3. ミセツカエ類 4. ミテモラーカー類

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	20 (17.5)	29 (25.4)	8 (7.0)	2 (1.8)	13 (11.4)	4 (3.5)	15 (13.2)	2 (1.8)	19 (16.7)	2 (1.8)	114 (100)	*		
性	男	8 (14.0)	15 (26.3)	8 (14.0)	2 (3.5)	2 (3.5)	4 (7.0)	7 (12.3)	0 (0)	11 (19.3)	0 (0)	57 (100)			
別	女	12 (21.1)	14 (24.6)	0 (0)	0 (0)	11 (19.3)	0 (0)	8 (14.0)	2 (3.5)	8 (14.0)	2 (3.5)	57 (100)			
年	②	11 (28.9)	8 (21.1)	2 (5.3)	1 (2.6)	2 (5.3)	0 (0)	5 (13.2)	2 (5.3)	5 (13.2)	2 (5.3)	38 (100)			
齢	④	6 (15.8)	14 (36.8)	2 (5.3)	1 (2.6)	3 (7.9)	1 (2.6)	5 (13.2)	0 (0)	6 (15.8)	0 (0)	38 (100)			
	⑥	3 (7.9)	7 (18.4)	4 (10.5)	0 (0)	8 (21.1)	3 (7.9)	5 (13.2)	0 (0)	8 (21.1)	0 (0)	38 (100)	——	—	
学	小	4 (10.0)	10 (25.0)	4 (10.0)	0 (0)	9 (22.5)	2 (5.0)	4 (10.0)	0 (0)	7 (17.5)	0 (0)	40 (100)			
歴	中	6 (17.6)	11 (32.4)	3 (8.8)	1 (2.9)	2 (5.9)	2 (5.9)	4 (11.8)	0 (0)	5 (14.7)	0 (0)	34 (100)			
	高	10 (25.0)	8 (20.0)	1 (2.5)	2 (5.0)	2 (5.0)	0 (0)	7 (17.5)	5 (12.5)	7 (17.5)	2 (5.0)	40 (100)			
職	農	11 (13.4)	23 (28.0)	5 (6.1)	2 (2.4)	12 (14.6)	4 (4.9)	10 (12.2)	0 (0)	15 (18.3)	0 (0)	82 (100)	*		
業	工	2 —	3 —	0 —	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	1 —	0 —	7 —	——	—	
	商	0 —	1 —	2 —	0 —	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	0 —	4 —	——	—	
	事	6 —	1 —	1 —	0 —	1 —	0 —	4 —	1 —	3 —	1 —	18 —	——	—	
	無	1 —	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	1 —	3 —	——	—	
役	有	9 (14.8)	16 (26.2)	5 (8.2)	2 (3.3)	6 (9.8)	3 (4.9)	11 (18.0)	0 (0)	9 (14.8)	0 (0)	61 (100)			
員	無	11 (20.8)	13 (24.5)	3 (5.7)	0 (0)	7 (13.2)	1 (1.9)	4 (7.5)	2 (3.8)	10 (18.9)	2 (3.8)	53 (100)			

第154図 4.03 ごらんに入れます (保)

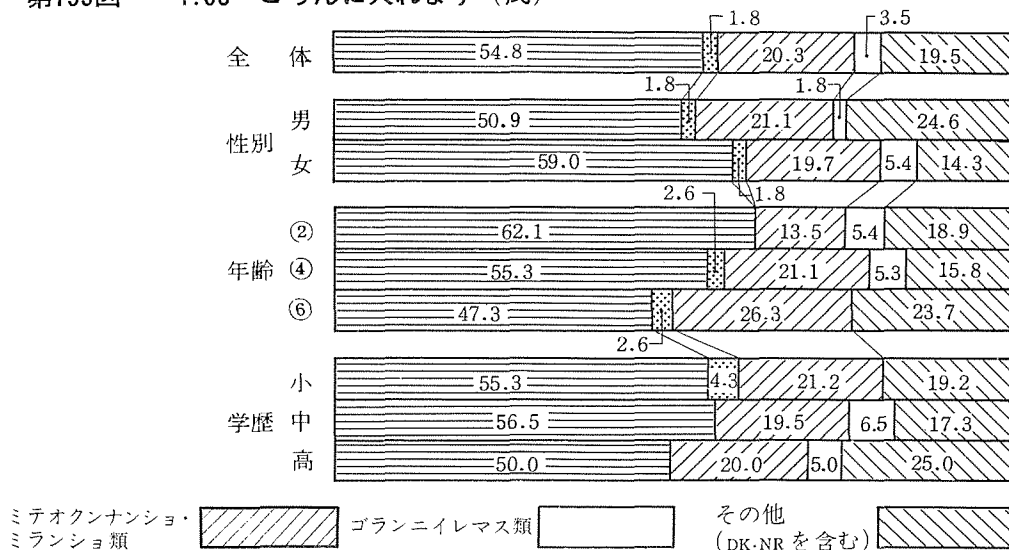


第167表 4.03 ごらんに入れます (茂)

5. ミテオクナンショ類 6. ミランショ類 7. グランニイレマス類 8. ミシエルヨ類 9. その他

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	7 (6.2)	46 (40.7)	4 (3.5)	5 (4.4)	17 (15.0)	6 (5.3)	4 (3.5)	2 (1.8)	16 (14.2)	6 (5.3)	113 (100)	** (2**5)	(2)	
性	男	4 (7.0)	20 (35.1)	2 (3.5)	3 (5.3)	9 (15.8)	3 (5.3)	1 (1.8)	1 (1.8)	11 (19.3)	3 (5.3)	57 (100)			
別	女	3 (5.4)	26 (46.4)	2 (3.6)	2 (3.6)	8 (14.3)	3 (5.4)	3 (5.4)	1 (1.8)	5 (8.9)	3 (5.4)	56 (100)	** (2**5)	(2)	
年	②	5 (13.5)	16 (43.2)	1 (2.7)	1 (2.7)	2 (5.4)	3 (8.1)	2 (5.4)	0 (0)	5 (13.5)	2 (5.4)	37 (100)	** (2*1, 9)	(2)	
齢	④	1 (2.6)	15 (39.5)	2 (5.3)	3 (7.9)	6 (15.8)	2 (5.3)	2 (5.3)	1 (2.6)	5 (13.2)	1 (2.6)	38 (100)	** (2*5)	(2)	
	⑥	1 (2.6)	15 (39.5)	1 (2.6)	1 (2.6)	9 (23.7)	1 (2.6)	0 (0)	1 (2.6)	6 (15.8)	3 (7.9)	38 (100)			
学	小	1 (2.1)	21 (44.7)	3 (6.4)	1 (2.1)	9 (19.1)	1 (2.1)	0 (0)	2 (4.3)	7 (14.9)	2 (4.3)	47 (100)	** (2*5)	(2)	
歴	中	3 (6.5)	18 (39.1)	1 (2.2)	4 (8.7)	6 (13.0)	3 (6.5)	3 (6.5)	0 (0)	6 (13.0)	2 (4.3)	46 (100)	** (2*5, 9)	(2)	
	高	3 —	7 —	0 —	0 —	2 —	2 —	1 —	0 —	3 —	2 —	20 —	—	—	
職	農	2 (4.1)	19 (38.8)	1 (2.0)	3 (6.1)	12 (24.5)	0 (0)	1 (2.0)	1 (2.0)	6 (12.2)	4 (8.2)	49 (100)	**		
	工	1 (4.2)	12 (50.0)	1 (4.2)	0 (0)	3 (12.5)	3 (12.5)	0 (0)	0 (0)	4 (16.7)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	2 —	0 —	1 —	0 —	1 —	1 —	0 —	4 —	1 —	10 —	—	—	
業	事	4 —	6 —	1 —	1 —	1 —	1 —	2 —	0 —	1 —	1 —	18 —	—	—	
	無	0 —	7 —	1 —	0 —	1 —	1 —	0 —	1 —	1 —	0 —	12 —	—	—	
役	有	6 (12.0)	17 (34.0)	2 (4.0)	1 (2.0)	10 (20.0)	3 (6.0)	1 (2.0)	0 (0)	7 (14.0)	3 (6.0)	50 (100)			
員	無	1 (1.6)	29 (46.0)	2 (3.2)	4 (6.3)	7 (11.1)	3 (4.8)	3 (4.8)	2 (3.2)	9 (14.3)	3 (4.8)	63 (100)	** (2**9)	(2)	

第155図 4.03 ごらんに入れます (茂)

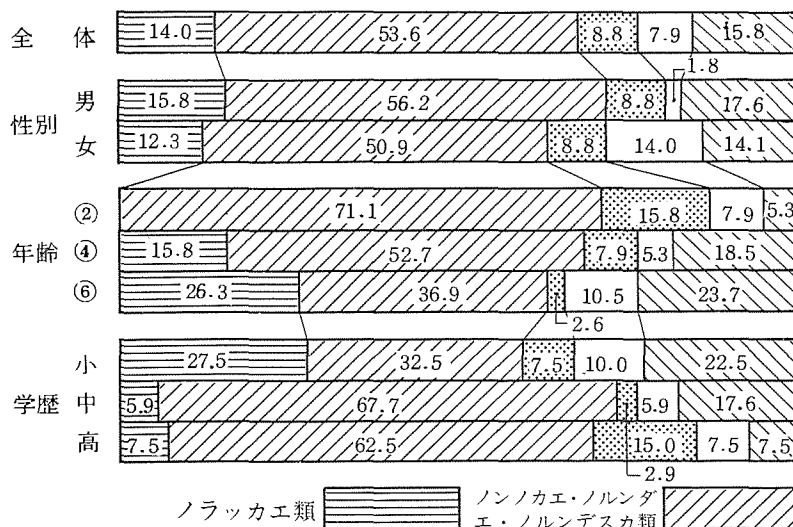


第168表 4.05(1) 乗るか(保)

1. ノンノカエ類 2. ノルンダエ類 3. ノラッカエ類 4. ノルンデスカ類

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	6 (5.3)	19 (16.7)	16 (14.0)	36 (31.6)	9 (7.9)	10 (8.8)	16 (14.0)	2 (1.8)	114 (100)	** (4*2)	(4)	
性	男	5 (8.8)	13 (22.8)	9 (15.8)	14 (24.6)	1 (1.8)	5 (8.8)	9 (15.8)	1 (1.8)	57 (100)			
別	女	1 (1.8)	6 (10.5)	7 (12.3)	22 (38.6)	8 (14.0)	5 (8.8)	7 (12.3)	1 (1.8)	57 (100)	** (4*5)	(4)	
年	②	2 (5.3)	3 (7.9)	0 (0)	22 (57.9)	3 (7.9)	6 (15.8)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)	** (4**6)	(4)	
齢	④	2 (5.3)	10 (26.3)	6 (15.8)	8 (21.1)	2 (5.3)	3 (7.9)	5 (13.2)	2 (5.3)	38 (100)			*
	⑥	2 (5.3)	6 (15.8)	10 (26.3)	6 (15.8)	4 (10.5)	1 (2.6)	9 (23.7)	0 (0)	38 (100)			
学	小	1 (2.5)	5 (12.5)	11 (27.5)	7 (17.5)	4 (10.0)	3 (7.5)	9 (22.5)	0 (0)	40 (100)			
歴	中	2 (5.9)	9 (26.5)	2 (5.9)	12 (35.3)	2 (5.9)	1 (2.9)	5 (14.7)	1 (2.9)	34 (100)			
	高	3 (7.5)	5 (12.5)	3 (7.5)	17 (42.5)	3 (7.5)	6 (15.0)	2 (5.0)	1 (2.5)	40 (100)	** (4*6)	(4)	
職	農	4 (4.9)	15 (18.3)	15 (18.3)	20 (24.4)	7 (8.5)	6 (7.3)	13 (15.9)	2 (2.4)	82 (100)			
業	工	0 —	1 —	0 —	5 —	0 —	0 —	1 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	0 —	1 —	1 —	0 —	2 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	2 —	2 —	0 —	9 —	2 —	2 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	1 —	0 —	1 —	0 —	0 —	1 —	0 —	3 —	—	—	
役	有	4 (6.6)	13 (21.3)	10 (16.4)	13 (21.3)	4 (6.6)	7 (11.5)	9 (14.8)	1 (1.6)	61 (100)	—	—	
員	無	2 (3.8)	6 (11.3)	6 (11.3)	23 (43.4)	5 (9.4)	3 (5.7)	7 (13.2)	1 (1.9)	53 (100)	** (4**7)	(4)	

第156図 4.05(1) 乗るか(保)

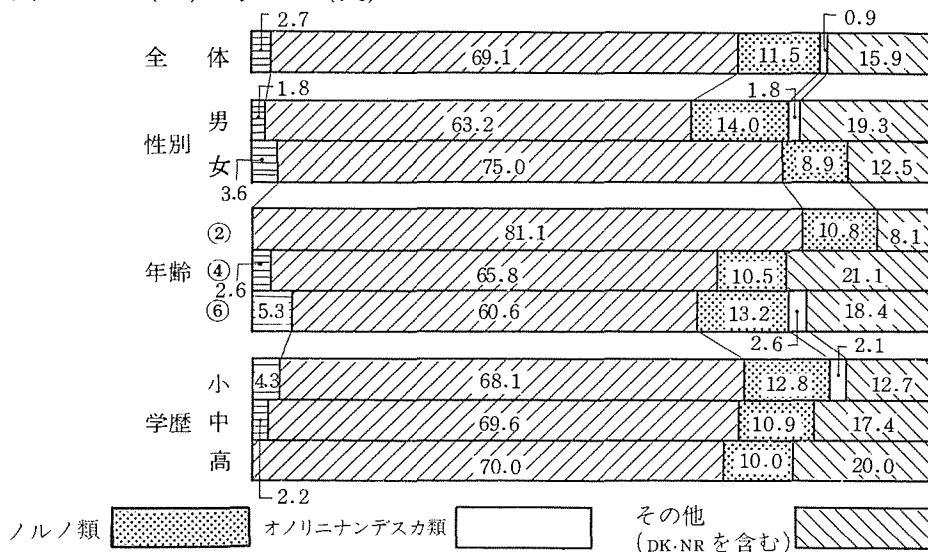


第169表 4.05(1) 乗るか(茂)

5. オノリニナンデスカ類 6. ノルノ類 7. その他

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	16 (14.2)	19 (16.8)	3 (2.7)	43 (38.1)	1 (0.9)	13 (11.5)	17 (15.0)	1 (0.9)	113 (100)	** (4**2)	(4)	
性	男	5 (8.8)	12 (21.1)	1 (1.8)	19 (33.3)	1 (1.8)	8 (14.0)	11 (19.3)	0 (0)	57 (100)			
別	女	11 (19.6)	7 (12.5)	2 (3.6)	24 (42.9)	0 (0)	5 (8.9)	6 (10.7)	1 (1.8)	56 (100)	** (4*1)	(4)	
年	②	3 (8.1)	7 (18.9)	0 (0)	20 (54.1)	0 (0)	4 (10.8)	3 (8.1)	0 (0)	37 (100)	** (4*2)	(4)	
齢	④	6 (15.8)	4 (10.5)	1 (2.6)	15 (39.5)	0 (0)	4 (10.5)	8 (21.1)	0 (0)	38 (100)			
	⑥	7 (18.4)	8 (21.1)	2 (5.3)	8 (21.1)	1 (2.6)	5 (13.2)	6 (15.8)	1 (2.6)	38 (100)	——	——	
学	小	8 (17.0)	10 (21.3)	2 (4.3)	14 (29.8)	1 (2.1)	6 (12.8)	5 (10.6)	1 (2.1)	47 (100)			
歴	中	8 (17.4)	5 (10.9)	1 (2.2)	19 (41.3)	0 (0)	5 (10.9)	8 (17.4)	0 (0)	46 (100)	** (4*1, 7)	(4)	
	高	0 —	4 —	0 —	10 —	0 —	2 —	4 —	0 —	20 —	——	——	
職	農	9 (18.4)	10 (20.4)	3 (6.1)	15 (30.6)	1 (2.0)	4 (8.2)	6 (12.2)	1 (2.0)	49 (100)			
業	工	4 (16.7)	4 (16.7)	0 (0)	8 (33.3)	0 (0)	3 (12.5)	5 (20.8)	0 (0)	24 (100)	——	——	
	商	0 —	1 —	0 —	6 —	0 —	1 —	2 —	0 —	10 —	——	——	
	事	2 —	2 —	0 —	10 —	0 —	2 —	2 —	0 —	18 —	——	——	
	無	1 —	2 —	0 —	4 —	0 —	3 —	2 —	0 —	12 —	——	——	
役	有	7 (14.0)	12 (24.0)	0 (0)	15 (30.0)	1 (2.0)	4 (8.0)	11 (22.0)	0 (0)	50 (100)			
員	無	9 (14.3)	7 (11.1)	3 (4.8)	28 (44.4)	0 (0)	9 (14.3)	6 (9.5)	1 (1.6)	63 (100)	** (4**1, 6)	(4)	

第157図 4.05(1) 乗るか(茂)

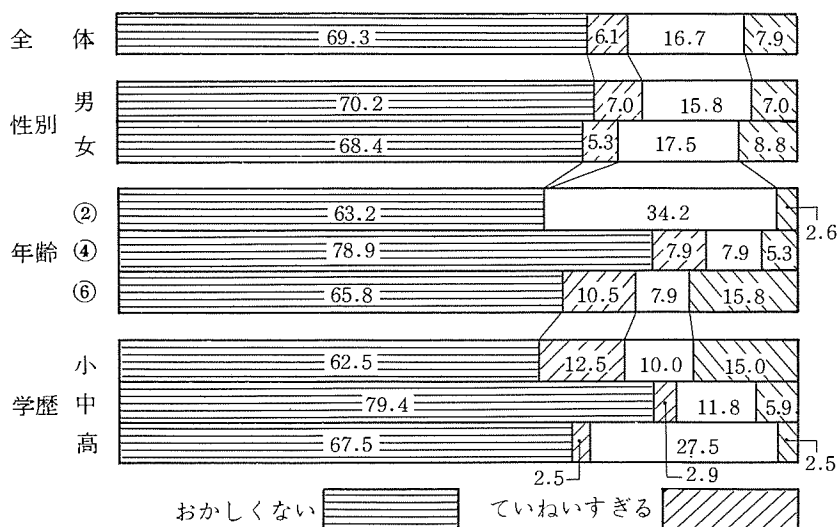


第170表 4.05(2) 「オノリイタシマスカ」といったらおかしいか(保)

1. おかしくない 2. ていねいすぎる 3. 変だと思う

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連関係
全 体		79 (69.3)	7 (6.1)	19 (16.7)	9 (7.9)	114 (100)	** 1**I	1	
性 別	男	40 (70.2)	4 (7.0)	9 (15.8)	4 (7.0)	57 (100)	** 1**I	1	
	女	39 (68.4)	3 (5.3)	10 (17.5)	5 (8.8)	57 (100)	** 1**I	1	
年 齢	②	24 (63.2)	0 (0)	13 (34.2)	1 (2.6)	38 (100)			
	④	30 (78.9)	3 (7.9)	3 (7.9)	2 (5.3)	38 (100)	** 1**I	1	
	⑥	25 (65.8)	4 (10.5)	3 (7.9)	6 (15.8)	38 (100)	** (1*N.R)	(1)	
学 歴	小	25 (62.5)	5 (12.5)	4 (10.0)	6 (15.0)	40 (100)	** (1*N.R)	(1)	
	中	27 (79.4)	1 (2.9)	4 (11.8)	2 (5.9)	34 (100)	** 1**I	1	
	高	27 (67.5)	1 (2.5)	11 (27.5)	1 (2.5)	40 (100)	** 1*I	1	
職 業	農	59 (72.0)	7 (8.5)	8 (9.8)	8 (9.8)	82 (100)	** 1**I	1	
	工	5 —	0 —	2 —	0 —	7 —	—	—	
	商	3 —	0 —	1 —	0 —	4 —	—	—	
	事	11 —	0 —	6 —	1 —	18 —	—	—	
	無	1 —	0 —	2 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	44 (72.1)	5 (8.2)	8 (13.1)	4 (6.6)	61 (100)	** 1**I	1	
	無	35 (66.0)	2 (3.8)	11 (20.8)	5 (9.4)	53 (100)	** 1*I	1	

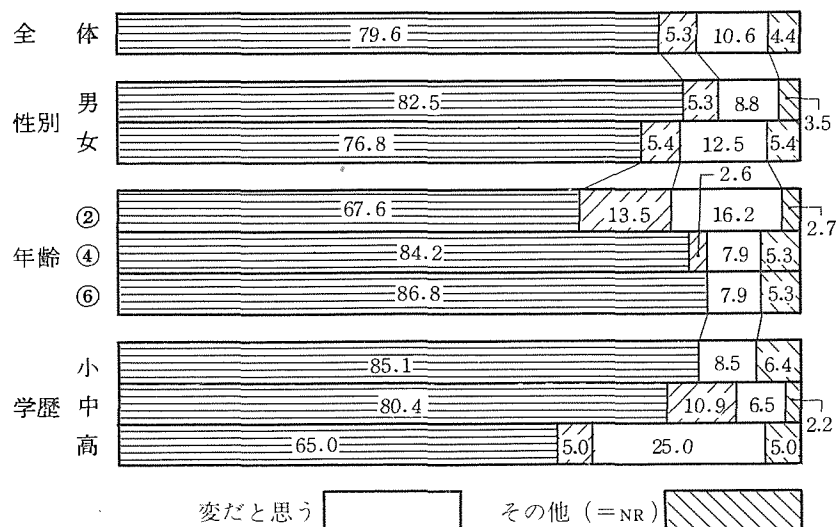
第158図 4.05(2) おのりいたしますか(おかしいか)(保)



第171表 4.05(2) 「オノリイタシマスカ」といったらおかしいか(茂)

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	90 (79.6)	6 (5.3)	12 (10.6)	5 (4.4)	113 (100)	** 1**1	1	
性	男	47 (82.5)	3 (5.3)	5 (8.8)	2 (3.5)	57 (100)	** 1**1	1	
	女	43 (76.8)	3 (5.4)	7 (12.5)	3 (5.4)	56 (100)	** 1**1	1	
年	②	25 (67.6)	5 (13.5)	6 (16.2)	1 (2.7)	37 (100)	** 1*1	1	
	④	32 (84.2)	1 (2.6)	3 (7.9)	2 (5.3)	38 (100)	** 1**1	1	
	⑥	33 (86.8)	0 (0)	3 (7.9)	2 (5.3)	38 (100)	** 1**1	1	
学	小	40 (85.1)	0 (0)	4 (8.5)	3 (6.4)	47 (100)	** 1**1	1	
	中	37 (80.4)	5 (10.9)	3 (6.5)	1 (2.2)	46 (100)	** 1**1	1	
	高	13 —	1 —	5 —	1 —	20 —	— —	—	
職	農	44 (89.8)	0 (0)	3 (6.1)	2 (4.1)	49 (100)	** 1**1	1	
	工	17 (70.8)	3 (12.5)	2 (8.3)	2 (8.3)	24 (100)	— —	—	
	商	8 —	1 —	1 —	0 —	10 —	— —	—	
	事	10 —	1 —	6 —	1 —	18 —	— —	—	
	無	11 —	1 —	0 —	0 —	12 —	— —	—	
役	有	38 (76.0)	3 (6.0)	6 (12.0)	3 (6.0)	50 (100)	** 1**1	1	
	無	52 (82.5)	3 (4.8)	6 (9.5)	2 (3.2)	63 (100)	** 1**1	1	

第159図 4.05(2) おのりいたしますか(おかしいか)(茂)

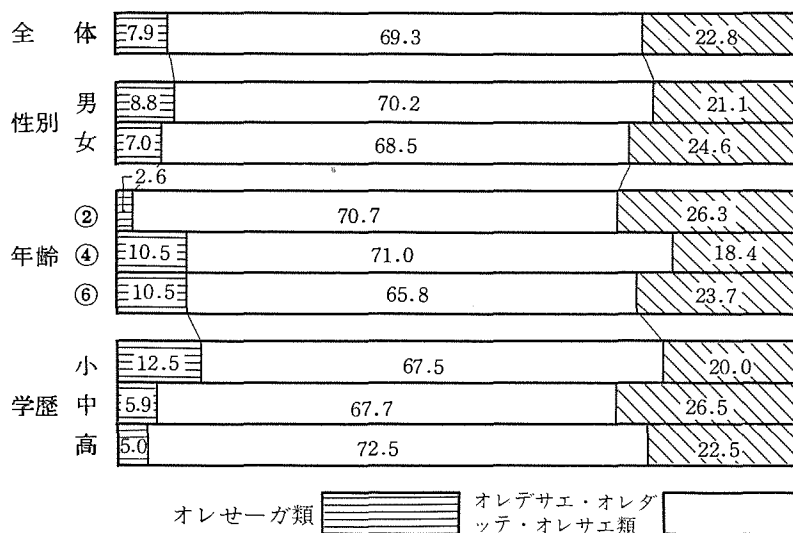


第176表 2.36 おれさえ (保)

1. オレセーガ類 2. オレデサエ類 3. オレダッテ類

		1	2	3	4	5	N. R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		9 (7.9)	8 (7.0)	4 (3.5)	67 (58.8)	1 (0.9)	25 (21.9)	114 (100)	** (4**N.R)	(4)	
性 別	男	5 (8.8)	5 (8.8)	1 (1.8)	34 (59.6)	0 (0)	12 (21.1)	57 (100)	** (4**N.R)	(4)	
	女	4 (7.0)	3 (5.3)	3 (5.3)	33 (57.9)	1 (1.8)	13 (22.8)	57 (100)	** (4**N.R)	(4)	
年 齢	②	1 (2.6)	4 (10.5)	3 (7.9)	20 (52.3)	0 (0)	10 (26.3)	38 (100)			
	④	4 (10.5)	4 (10.5)	1 (2.6)	22 (57.9)	0 (0)	7 (18.4)	38 (100)	** (4**N.R)	(4)	
	⑥	4 (10.5)	0 (0)	0 (0)	25 (65.8)	1 (2.6)	8 (21.1)	38 (100)	** (4**N.R)	(4)	
学 歴	小	5 (12.5)	0 (0)	0 (0)	27 (67.5)	1 (2.5)	7 (17.5)	40 (100)	** 4*4	4	
	中	2 (5.9)	2 (5.9)	2 (5.9)	19 (55.9)	0 (0)	9 (26.5)	34 (100)	*		
	高	2 (5.0)	6 (15.0)	2 (5.0)	21 (52.5)	0 (0)	9 (22.5)	40 (100)	** (4*N.R)	(4)	
職 業	農	7 (8.5)	6 (7.3)	2 (2.4)	47 (57.3)	1 (1.2)	19 (23.2)	82 (100)	** (4**N.R)	(4)	
	工	0 —	1 —	1 —	4 —	0 —	1 —	7 —	—		
	商	0 —	0 —	0 —	3 —	0 —	1 —	4 —	—		
	事	1 —	1 —	1 —	11 —	0 —	4 —	18 —	—		
	無	1 —	0 —	0 —	2 —	0 —	0 —	3 —	—		
役 員	有	3 (4.9)	3 (4.9)	1 (1.6)	40 (65.6)	0 (0)	14 (23.0)	61 (100)	** 4*4	4	
	無	6 (11.3)	5 (9.4)	3 (5.7)	27 (50.9)	1 (1.9)	11 (20.8)	53 (100)	** (4**N.R)	(4)	

第160図 2.36 おれさえ (保)

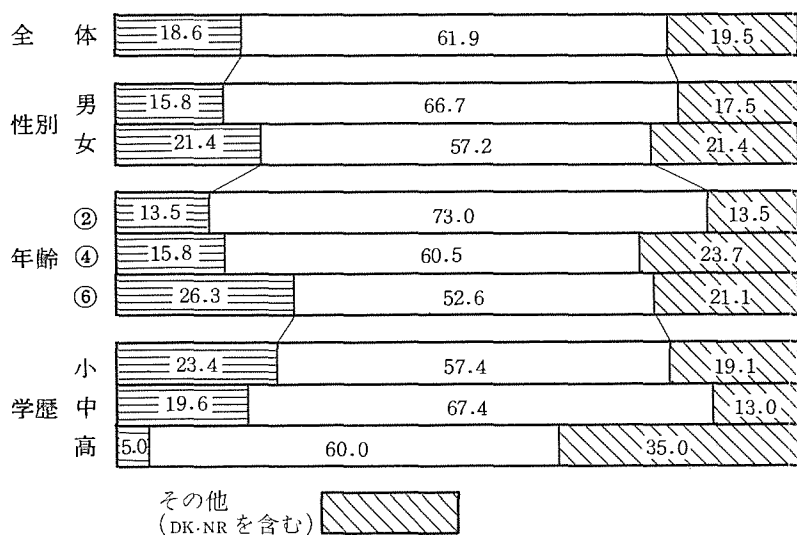


第177表 2.36 おれさえ (茂)

4. オレサエ類 5. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全 体		21 (18.6)	1 (0.9)	5 (4.4)	64 (56.6)	22 (19.5)	113 (100)	** (4**N.R)	(4)	
性 別	男	9 (15.8)	1 (1.8)	3 (5.3)	34 (59.6)	10 (17.5)	57 (100)	** (4**N.R)	(4)	
	女	12 (21.4)	0 (0)	2 (3.6)	30 (53.6)	12 (21.4)	56 (100)	** (4**1,N.R)	(4)	
年 齢	②	5 (13.5)	1 (2.7)	4 (10.8)	22 (59.5)	5 (13.5)	37 (100)	** (4**1,N.R)	(4)	
	④	6 (15.8)	0 (0)	1 (2.6)	22 (57.9)	9 (23.7)	38 (100)	** (4*N.R)	(4)	
	⑥	10 (26.3)	0 (0)	0 (0)	20 (52.6)	8 (21.1)	38 (100)			
学 歴	小	11 (23.4)	0 (0)	0 (0)	27 (57.4)	9 (19.1)	47 (100)	** (4**1)	(4)	
	中	9 (19.6)	0 (0)	1 (2.2)	30 (65.2)	6 (13.0)	46 (100)	** (4*4)	4	
	高	1 —	1 —	4 —	7 —	7 —	20 —	—	—	
職 業	農	7 (14.3)	0 (0)	0 (0)	33 (67.3)	9 (18.4)	49 (100)	** (4*4)	4	
	工	6 (25.0)	0 (0)	0 (0)	15 (62.5)	3 (12.5)	24 (100)	—	—	
	商	1 —	0 —	1 —	4 —	4 —	10 —	—	—	
	事	2 —	1 —	4 —	9 —	2 —	18 —	—	—	
	無	5 —	0 —	0 —	3 —	4 —	12 —	—	—	
役 員	有	5 (10)	0 (0)	3 (6.0)	31 (62.0)	11 (22.0)	50 (100)	** (4**N.R)	(4)	
	無	16 (25.4)	1 (1.6)	2 (3.2)	33 (52.4)	11 (17.5)	63 (100)	** (4*1)	(4)	

第161図 2.36 おれさえ (茂)

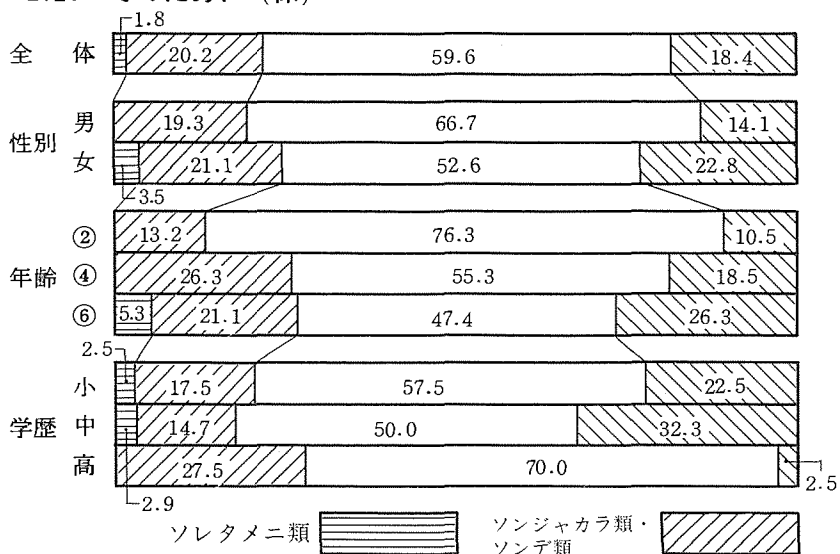


第178表 2.26 そのために (保)

1. ソレタメニ類 2. ソノタメニ類 3. ソンジャカラ類

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	2 (1.8)	68 (59.6)	18 (15.8)	5 (4.4)	8 (7.0)	13 (11.4)	114 (100)	** 2*2	2	
性 別	男	0 (0)	38 (66.7)	7 (12.3)	4 (7.0)	3 (5.3)	5 (8.8)	57 (100)	** 2*2	2	
	女	2 (3.5)	30 (52.6)	11 (19.3)	1 (1.8)	5 (8.8)	8 (14.0)	57 (100)	** (2**3)	(2)	
年 齢	②	0 (0)	29 (76.3)	5 (13.2)	0 (0)	3 (7.9)	1 (2.6)	38 (100)	** 2*2	2	
	④	0 (0)	21 (55.3)	7 (18.4)	3 (7.9)	2 (5.3)	5 (13.2)	38 (100)	** (2**3)	(2)	
	⑥	2 (5.3)	18 (47.4)	6 (15.8)	2 (5.3)	3 (7.9)	7 (18.4)	38 (100)	** (2*N.R)	(2)	
学 歴	小	1 (2.5)	23 (57.5)	6 (15.0)	1 (2.5)	3 (7.5)	6 (15.0)	40 (100)	** (2**3,N.R)	(2)	
	中	1 (2.9)	17 (50.0)	4 (11.8)	1 (2.9)	5 (14.7)	6 (17.6)	34 (100)	** (2*N.R)	(2)	
	高	0 (0)	28 (70.0)	8 (20.0)	3 (7.5)	0 (0)	1 (2.5)	40 (100)	** 2*2	2	
職 業	農	1 (1.2)	43 (52.4)	13 (15.9)	5 (6.1)	7 (8.5)	13 (15.9)	82 (100)	** (2**3,N.R)	(2)	
	工	0 —	6 —	0 —	0 —	1 —	0 —	7 —	— —	—	
	商	0 —	4 —	0 —	0 —	0 —	0 —	4 —	— —	—	
	事	0 —	13 —	5 —	0 —	0 —	0 —	18 —	— —	—	
	無	1 —	2 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	— —	—	
役 員	有	1 (1.6)	32 (52.5)	10 (16.4)	5 (8.2)	4 (6.6)	9 (14.8)	61 (100)	** (2**3)	(2)	
	無	1 (1.9)	36 (67.9)	8 (15.1)	0 (0)	4 (7.5)	4 (7.5)	53 (100)	** 2*2	2	

第162図 2.26 そのために (保)

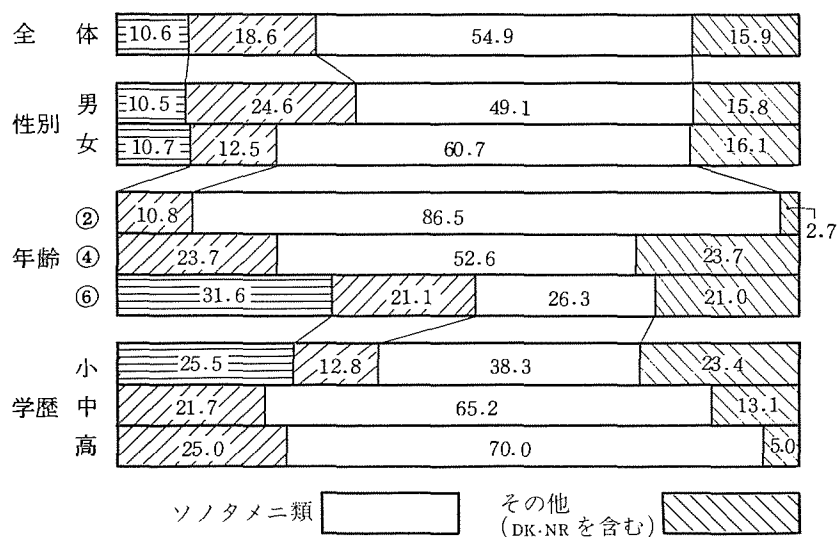


第179表 2.26 そのために（茂）

4. ソンデ類 5. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		12 (10.6)	62 (54.9)	19 (16.8)	2 (1.8)	6 (5.3)	12 (10.6)	113 (100)	** (2**3)	(2)	
性 別	男	6 (10.5)	28 (49.1)	12 (21.1)	2 (3.5)	3 (5.3)	6 (10.5)	57 (100)	** (2*3)	(2)	
	女	6 (10.7)	34 (60.7)	7 (12.5)	0 (0)	3 (5.4)	6 (10.7)	56 (100)	** (2**3)	(2)	
年 齢	②	0 (0)	32 (86.5)	4 (10.8)	0 (0)	0 (0)	1 (2.7)	37 (100)	** (2**2)	2	**
	④	0 (0)	20 (52.6)	9 (23.7)	0 (0)	2 (5.3)	7 (18.4)	38 (100)	** (2*3)	(2)	
	⑥	12 (31.6)	10 (26.3)	6 (15.8)	2 (5.3)	4 (10.5)	4 (10.5)	38 (100)			
学 歴	小	12 (25.5)	18 (38.3)	4 (8.5)	2 (4.3)	4 (8.5)	7 (14.9)	47 (100)			
	中	0 (0)	30 (65.2)	10 (21.7)	0 (0)	2 (4.4)	4 (8.7)	46 (100)	** (2*2)	2	
	高	0 —	14 —	5 —	0 —	0 —	1 —	20 —	—	—	
職 業	農	10 (20.4)	16 (32.7)	7 (14.3)	2 (4.1)	5 (10.2)	9 (18.4)	49 (100)			**
	工	1 (4.2)	18 (75.0)	3 (12.5)	0 (0)	0 (0)	2 (8.3)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	7 —	1 —	0 —	1 —	1 —	10 —	—	—	
	事	0 —	14 —	4 —	0 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	1 —	7 —	4 —	0 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	6 (12.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	2 (4.0)	5 (10.0)	6 (12.0)	50 (100)	*		
	無	6 (9.5)	42 (66.7)	8 (12.7)	0 (0)	1 (1.6)	6 (9.5)	63 (100)	** (2**2)	2	

第163図 2.26 そのために（茂）

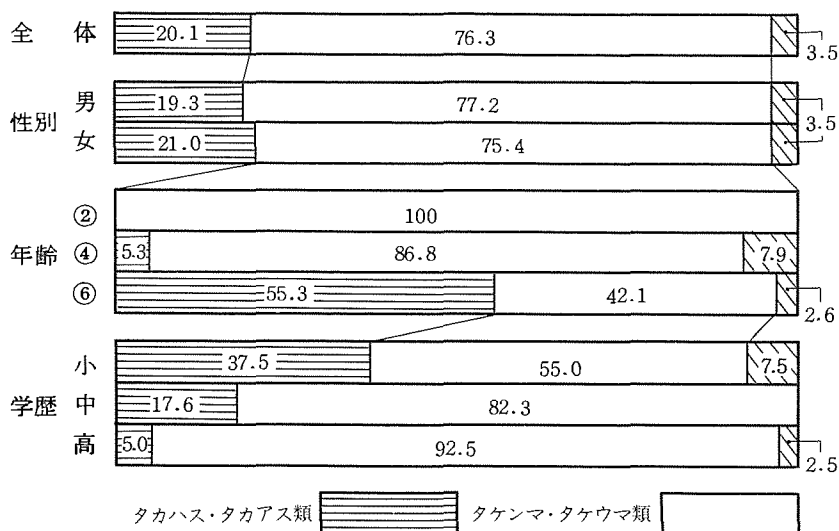


第180表 1.01 竹馬（保）

1. タカハス類 2. タカアス類 3. タケンマ類

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		16 (14.0)	7 (6.1)	55 (48.2)	32 (28.1)	4 (3.5)	0 (0)	114 (100)	** (3*4)	(3)	
性 別	男	8 (14.0)	3 (5.3)	31 (54.4)	13 (22.8)	2 (3.5)	0 (0)	57 (100)	** (3**4)	(3)	
	女	8 (14.0)	4 (7.0)	24 (42.1)	19 (33.3)	2 (3.5)	0 (0)	57 (100)	**		
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	11 (28.9)	27 (71.1)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 4**4	4	**
	④	0 (0)	2 (5.3)	29 (76.3)	4 (10.5)	3 (7.9)	0 (0)	38 (100)	** 3**3	3	
	⑥	16 (42.1)	5 (13.2)	15 (39.5)	1 (2.6)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)			
学 歴	小	12 (30)	3 (7.5)	21 (52.5)	1 (2.5)	3 (7.5)	0 (0)	40 (100)	*		
	中	3 (8.8)	3 (8.8)	21 (61.7)	7 (20.6)	0 (0)	0 (0)	34 (100)	** (3**4)	(3)	
	高	1 (2.5)	1 (2.5)	13 (32.5)	24 (60.4)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)	**		
職 業	農	14 (17.1)	7 (8.5)	47 (57.3)	10 (12.2)	4 (4.9)	0 (0)	82 (100)	** (3**1)	(3)	**
	工	0 —	0 —	3 —	4 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	1 —	0 —	0 —	3 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	0 —	4 —	14 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	1 —	0 —	1 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	10 (16.4)	5 (8.2)	34 (55.7)	9 (14.8)	3 (4.9)	0 (0)	61 (100)	** (3**1)	(3)	
	無	6 (11.3)	2 (3.8)	21 (39.6)	23 (43.4)	1 (1.9)	0 (0)	53 (100)	*		

第164図 1.01 竹馬（保）

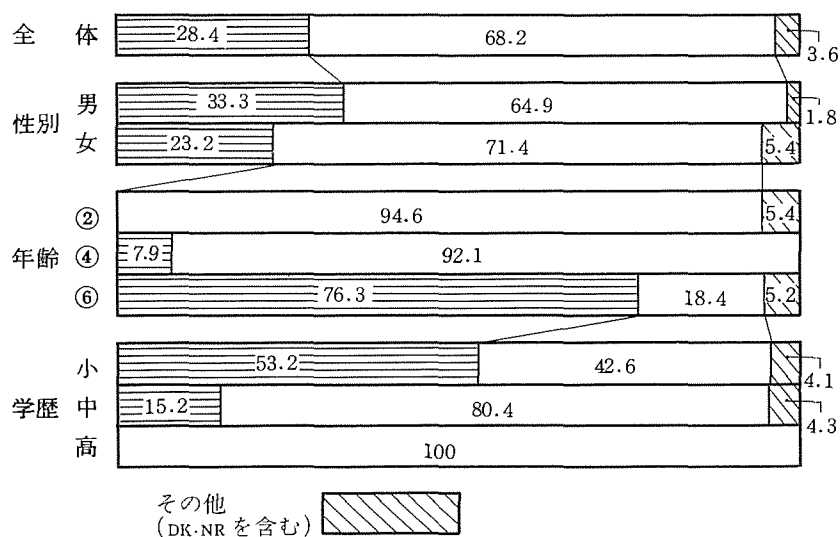


第181表 1.01 竹馬 (茂)

4. タケウマ類 5. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		29 (25.7)	3 (2.7)	48 (42.5)	29 (25.7)	1 (0.9)	3 (2.7)	113 (100)	** (3*1,4)	(3)	
性 別	男	17 (29.8)	2 (3.5)	22 (38.6)	15 (26.3)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)	**		
	女	12 (21.4)	1 (1.8)	26 (46.4)	14 (25.0)	0 (0)	3 (5.4)	56 (100)			
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	16 (43.2)	19 (51.4)	0 (0)	2 (5.4)	37 (100)	**		
	④	3 (7.9)	0 (0)	26 (68.4)	9 (23.7)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 3*3	3	**
	⑥	26 (68.4)	3 (7.9)	6 (15.8)	1 (2.6)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)	** 1*1	1	
学 歴	小	23 (48.9)	2 (4.3)	17 (36.2)	3 (6.4)	1 (2.1)	1 (2.1)	47 (100)	*		
	中	6 (13.0)	1 (2.2)	23 (50.0)	14 (30.4)	0 (0)	2 (4.3)	46 (100)	*		
	高	0 —	0 —	8 —	12 —	0 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	24 (49.0)	3 (6.1)	15 (30.6)	5 (10.2)	0 (0)	2 (4.1)	49 (100)	*		
	工	2 (8.3)	0 (0)	15 (62.5)	7 (29.2)	0 (0)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	0 —	6 —	3 —	0 —	1 —	10 —	—	—	**
	事	0 —	0 —	4 —	14 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	3 —	0 —	8 —	0 —	1 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	13 (26.0)	2 (4.0)	19 (38.0)	13 (26.0)	1 (2.0)	2 (4.0)	50 (100)			
	無	16 (25.4)	1 (1.6)	29 (46.0)	16 (25.4)	0 (0)	1 (1.6)	63 (100)			

第165図 1.01 竹馬 (茂)

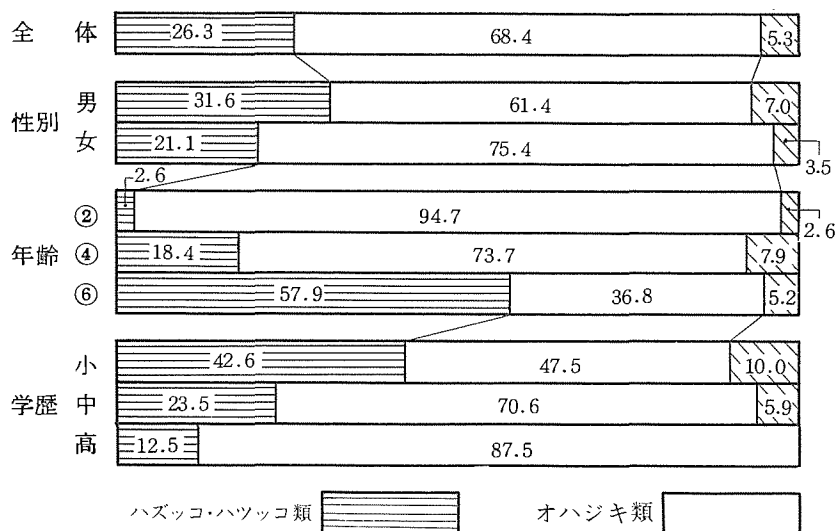


第182表 1.03 おはじき (保)

1. ハズッコ類 2. ハツッコ類 3. オハジキ類

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		18 (15.8)	12 (10.5)	78 (68.4)	2 (1.8)	4 (3.5)	114 (100)	** 3**3	3	
性 別	男	11 (19.3)	7 (12.3)	35 (61.4)	0 (0)	4 (7.0)	57 (100)	** (3**1)	(3)	
	女	7 (12.3)	5 (8.8)	43 (75.4)	2 (3.5)	0 (0)	57 (100)	** 3**3	3	
年 齢	②	0 (0)	1 (2.6)	36 (94.7)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)	** 3**3	3	**
	④	4 (10.5)	3 (7.9)	28 (73.7)	1 (2.6)	2 (5.3)	38 (100)	** 3**3	3	
	⑥	14 (36.8)	8 (21.1)	14 (36.8)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)	—	—	
学 歴	小	10 (25.0)	7 (17.5)	19 (47.5)	2 (5.0)	2 (5.0)	40 (100)	*		*
	中	5 (14.7)	3 (8.8)	24 (70.6)	0 (0)	2 (5.9)	34 (100)	** 3*3	3	
	高	3 (7.5)	2 (5.0)	35 (87.5)	0 (0)	0 (0)	40 (100)	** 3**3	3	
職 業	農	16 (19.5)	11 (13.4)	50 (61.0)	2 (2.4)	3 (3.7)	82 (100)	** 3*3	3	
	工	0 —	0 —	6 —	0 —	1 —	7 —	—	—	
	商	1 —	0 —	3 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	0 —	18 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	1 —	1 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	15 (24.6)	8 (13.1)	34 (55.7)	2 (3.3)	2 (3.3)	61 (100)	** (3**1)	(3)	
	無	3 (5.7)	4 (7.5)	44 (83.0)	0 (0)	2 (3.8)	53 (100)	** 3**3	3	

第166図 1.03 おはじき (保)

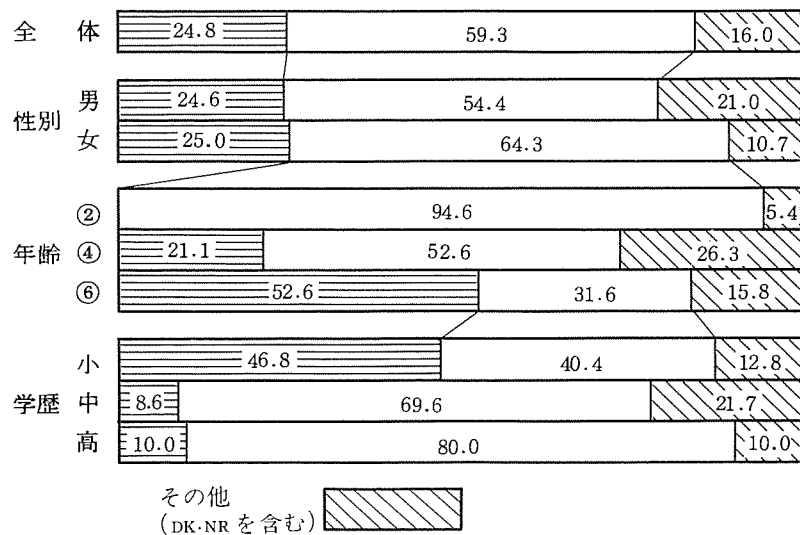


第183表 1.03 おはじき (茂)

4. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		16 (14.2)	12 (10.6)	67 (59.3)	2 (1.8)	16 (14.2)	113 (100)	** 3*3	3	
性 別	男	9 (15.8)	5 (8.8)	31 (54.4)	2 (3.5)	10 (17.5)	57 (100)	** (3**N.R)	(3)	
	女	7 (12.5)	7 (12.5)	36 (64.3)	0 (0)	6 (10.7)	56 (100)	** 3*3	3	
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	35 (94.6)	0 (0)	2 (5.4)	37 (100)	** 3**3	3	**
	④	2 (5.3)	6 (15.8)	20 (52.6)	0 (0)	10 (26.3)	38 (100)			
	⑥	14 (36.8)	6 (15.8)	12 (31.6)	2 (5.3)	4 (10.5)	38 (100)			
学 歴	小	13 (27.7)	9 (19.1)	19 (40.4)	0 (0)	6 (12.8)	47 (100)			
	中	2 (4.3)	2 (4.3)	32 (69.6)	2 (4.3)	8 (17.4)	46 (100)	** 3**3	3	
	高	1 —	1 —	16 —	0 —	2 —	20 —	—	—	
職 業	農	12 (24.5)	6 (12.2)	19 (38.8)	2 (4.1)	10 (20.4)	49 (100)			*
	工	3 (12.5)	0 (0)	17 (70.8)	0 (0)	4 (16.7)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	1 —	8 —	0 —	1 —	10 —	—	—	
	事	0 —	0 —	17 —	0 —	1 —	18 —	—	—	
	無	1 —	5 —	6 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	10 (20.0)	4 (8.0)	27 (54.0)	1 (2.0)	8 (16.0)	50 (100)	** (3**1)	(3)	
	無	6 (9.5)	8 (12.7)	40 (63.5)	1 (1.6)	8 (12.7)	63 (100)	** 3*3	3	

第167図 1.03 おはじき (茂)

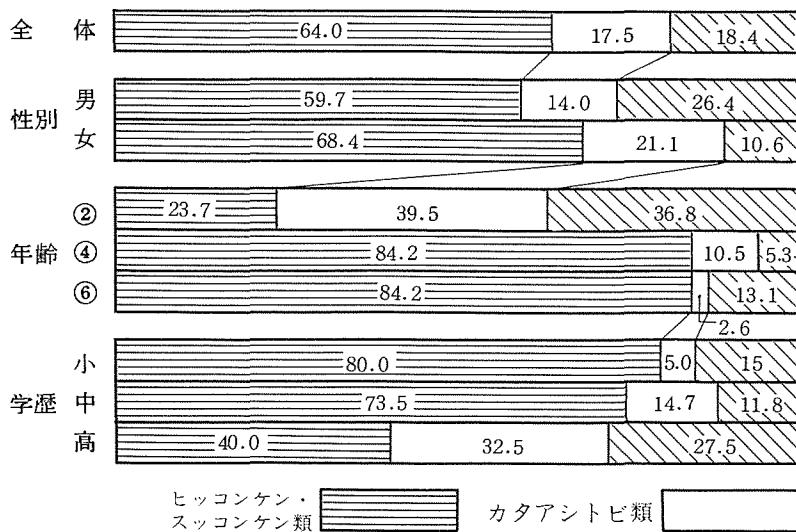


第184表 1.02 片足飛 (保)

1. ヒッコンケン類 2. スッコンケン類 3. カタアシトビ類

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	66 (57.9)	7 (6.1)	20 (17.5)	5 (4.4)	8 (7.0)	1 (0.9)	7 (6.1)	714 (100)	** (1**3)	(1)	
性 別	男	33 (57.9)	1 (1.8)	8 (14.0)	4 (7.0)	7 (12.3)	1 (1.8)	3 (5.3)	57 (100)	** (1**3)	(1)	
	女	33 (57.9)	6 (10.5)	12 (21.1)	1 (1.8)	1 (1.8)	0 (0)	4 (7.0)	57 (100)	** (1**3)	(1)	
年 齢	②	9 (23.7)	0 (0)	15 (39.5)	1 (2.6)	7 (18.4)	0 (0)	6 (15.8)	38 (100)			
	④	29 (76.3)	3 (7.9)	4 (10.5)	2 (5.3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 1**1	1	**
	⑥	28 (73.7)	4 (10.5)	1 (2.6)	2 (5.3)	1 (2.6)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)	** 1**1	1	
学 歴	小	26 (65.0)	6 (15.0)	2 (5.0)	4 (10.0)	1 (2.5)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)	** (1**2)	(1)	
	中	25 (73.5)	0 (0)	5 (14.7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (11.8)	34 (100)	** 1**1	1	
	高	15 (37.5)	1 (2.5)	13 (32.5)	1 (2.5)	7 (17.5)	0 (0)	3 (7.5)	40 (100)			
職 業	農	58 (70.7)	7 (8.5)	7 (8.5)	4 (4.9)	4 (4.9)	1 (1.2)	1 (1.2)	82 (100)	** 1**1	1	
	工	1 —	0 —	2 —	1 —	1 —	0 —	2 —	7 —	—	—	
	商	1 —	0 —	2 —	0 —	0 —	0 —	1 —	4 —	—	—	**
	事	3 —	0 —	9 —	0 —	3 —	0 —	3 —	18 —	—	—	
	無	3 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	40 (65.6)	5 (8.2)	8 (13.1)	3 (4.9)	3 (4.9)	1 (1.6)	1 (1.6)	61 (100)	** 1**1	1	
	無	26 (49.1)	2 (3.8)	12 (22.6)	2 (3.8)	5 (9.4)	0 (0)	6 (11.3)	53 (100)	** (1*3)	(1)	

第168図 1.02 片足飛 (保)

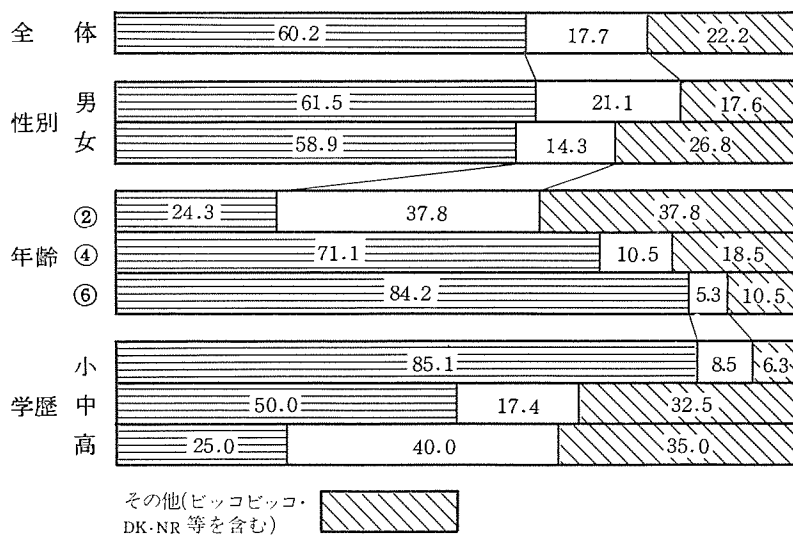


第185表 1.02 片足飛 (茂)

4. ビッコビッコ類 5. しらない 6. その他

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	48 (42.5)	20 (17.7)	20 (17.7)	4 (3.5)	9 (8.0)	3 (2.7)	9 (8.0)	113 (100)	** (1**2,3)	(1)	
性	男	23 (40.4)	12 (21.1)	12 (21.1)	2 (3.5)	4 (7.0)	1 (1.8)	3 (5.3)	57 (100)			
別	女	25 (44.6)	8 (14.3)	8 (14.3)	2 (3.6)	5 (8.9)	2 (3.6)	6 (10.7)	56 (100)	** (1**2,3)	(1)	
年	②	9 (24.3)	0 (0)	14 (37.8)	1 (2.7)	6 (16.2)	0 (0)	7 (18.9)	37 (100)			
齢	④	25 (65.8)	2 (5.3)	4 (10.5)	2 (5.3)	2 (5.3)	1 (2.6)	2 (5.3)	38 (100)	** (1**3)	(1)	**
	⑤	14 (36.8)	18 (47.4)	2 (5.3)	1 (2.6)	1 (2.6)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)			
学	小	24 (51.1)	16 (34.0)	4 (8.5)	1 (2.1)	1 (2.1)	1 (2.1)	0 (0)	47 (100)	**		
歴	中	20 (43.5)	3 (6.5)	8 (17.4)	1 (2.2)	6 (13.0)	2 (4.3)	6 (13.0)	46 (100)	** (1*3)	(1)	
	高	4 —	1 —	8 —	2 —	2 —	0 —	3 —	20 —	—	—	
職	農	18 (36.7)	16 (32.7)	5 (10.2)	1 (2.0)	3 (6.1)	3 (6.1)	3 (6.1)	49 (100)			
	工	14 (58.3)	2 (8.3)	4 (16.7)	0 (0)	3 (12.5)	0 (0)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	商	3 —	0 —	2 —	1 —	1 —	0 —	3 —	10 —	—	—	
業	事	5 —	0 —	9 —	1 —	1 —	0 —	2 —	18 —	—	—	
	無	8 —	2 —	0 —	1 —	1 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役	有	18 (36.0)	13 (26.0)	7 (14.0)	3 (6.0)	4 (8.0)	2 (4.0)	3 (6.0)	50 (100)			
員	無	30 (47.6)	7 (11.1)	13 (20.6)	1 (1.6)	5 (7.9)	1 (1.6)	6 (9.5)	63 (100)	** (1**3)	(1)	

第169図 1.02 片足飛 (茂)

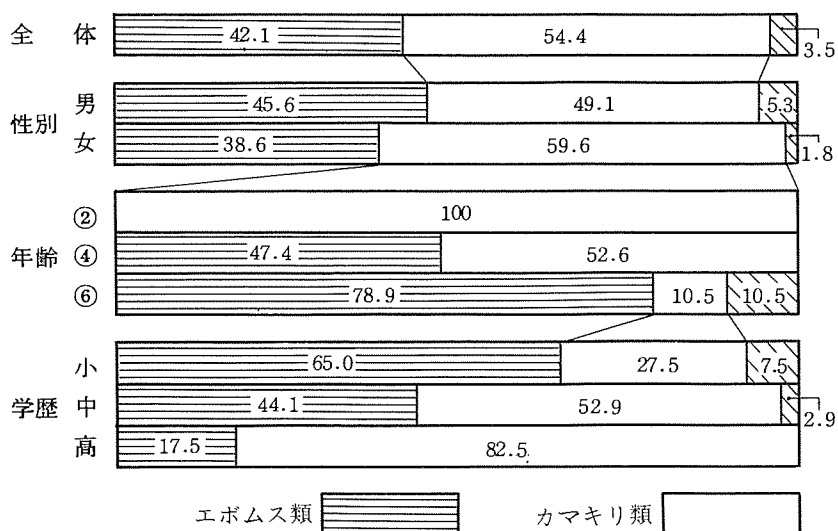


第186表 1.04 かまきり (保)

1. エボムス類 2. カマキリ類

		1	2	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		48 (42.1)	62 (54.4)	4 (3.5)	114 (100)			
性 別	男	26 (45.6)	28 (49.1)	3 (5.3)	57 (100)	**		
	女	22 (38.6)	34 (59.6)	1 (1.8)	57 (100)			
年 齢	②	0 (0)	38 (100)	0 (0)	38 (100)	** 2**2	②	
	④	18 (47.4)	20 (52.6)	0 (0)	38 (100)			
	⑥	30 (78.9)	4 (10.5)	4 (10.5)	38 (100)	** 2**2	2	
学 歴	小	26 (65.0)	11 (27.5)	3 (7.5)	40 (100)	** (1*2)	(1)	**
	中	15 (44.1)	18 (52.9)	1 (2.9)	34 (100)			
	高	7 (17.5)	33 (82.5)	0 (0)	40 (100)	** 2**2	2	
職 業	農	47 (57.3)	32 (39.0)	3 (3.7)	82 (100)			**
	工	0 —	7 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	3 —	1 —	4 —	—	—	
	事	0 —	18 —	0 —	18 —	—	—	
	無	1 —	2 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	33 (54.1)	24 (39.3)	4 (6.6)	61 (100)	**		**
	無	15 (28.3)	38 (71.7)	0 (0)	53 (100)	** 2**2		

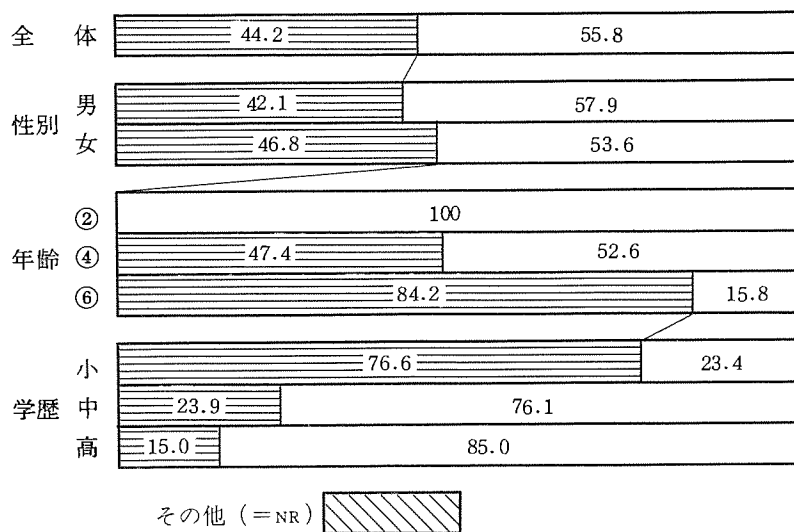
第170図 1.04 かまきり (保)



第187表 1.04 かまきり (茂)

		1	2	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		50 (44.2)	63 (55.8)	0 (0)	113 (100)			
性 別	男	24 (42.1)	33 (57.9)	0 (0)	57 (100)			
	女	26 (46.8)	30 (53.6)	0 (0)	56 (100)			
年 齢	②	0 (0)	37 (100)	0 (0)	37 (100)		②	—
	④	18 (47.4)	20 (52.6)	0 (0)	38 (100)			
	⑥	32 (84.2)	6 (15.8)	0 (0)	38 (100)	** — 1**1	1	
学 歴	小	36 (76.6)	11 (23.4)	0 (0)	47 (100)	** — 1**1	1	**
	中	11 (23.9)	35 (76.1)	0 (0)	46 (100)	** — 2**2	2	
	高	3 —	17 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	32 (65.3)	17 (34.7)	0 (0)	49 (100)	** 1*1	1	**
	工	8 (33.3)	16 (66.7)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	2 —	8 —	0 —	10 —	—	—	
	事	0 —	18 —	0 —	18 —	—	—	
	無	8 —	4 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	21 (42.0)	29 (58.0)	0 (0)	50 (100)			
	無	29 (46.0)	34 (54.0)	0 (0)	63 (100)			

第171図 1.04 かまきり (茂)

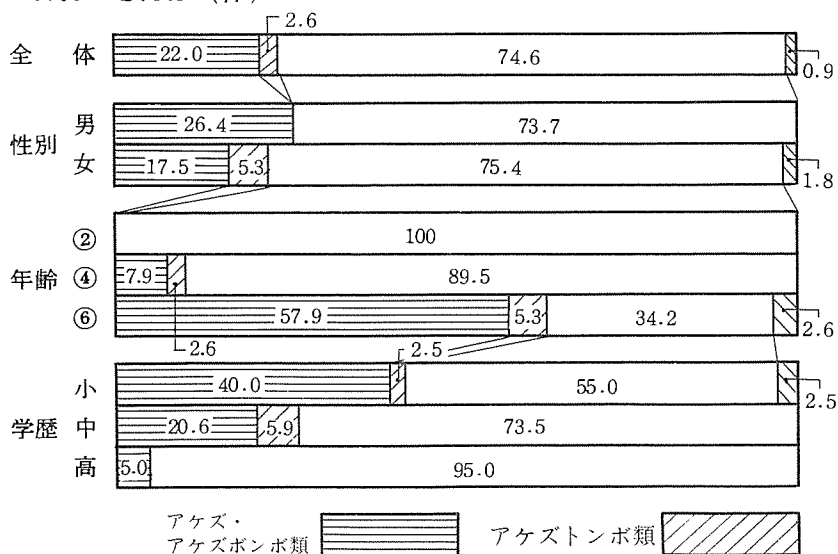


第188表 1.05 とんぼ (保)

1. アケズ類 2. アケズボンボ類 3. アケズトンボ類

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		24 (21.1)	1 (0.9)	3 (2.6)	85 (74.6)	1 (0.9)	0 (0)	114 (100)	** 4**4	4	
性 別	男	14 (24.6)	1 (1.8)	0 (0)	42 (73.7)	0 (0)	0 (0)	57 (100)	** 4**4	4	
	女	10 (17.5)	0 (0)	3 (5.3)	43 (75.4)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)	** 4**4	4	
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	0 (0)	0 (0)	38 (100)		④	
	④	2 (5.3)	1 (2.6)	1 (2.6)	34 (89.5)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 4**4	4	—
	⑥	22 (57.9)	0 (0)	2 (5.3)	13 (34.2)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)			
学 歴	小	15 (37.5)	1 (2.5)	1 (2.5)	22 (55.0)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)			
	中	7 (20.6)	0 (0)	2 (5.9)	25 (73.5)	0 (0)	0 (0)	34 (100)	** 4**4	4	
	高	2 (5.0)	0 (0)	0 (0)	38 (95.0)	0 (0)	0 (0)	40 (100)	** 4**4	4	
職 業	農	23 (28.0)	1 (1.2)	3 (3.7)	54 (65.9)	1 (1.2)	0 (0)	82 (100)	** 4**4	4	
	工	0 —	0 —	0 —	7 —	0 —	0 —	7 —	— —	—	
	商	1 —	0 —	0 —	3 —	0 —	0 —	4 —	— —	—	**
	事	0 —	0 —	0 —	18 —	0 —	0 —	18 —	— —	—	
	無	0 —	0 —	0 —	3 —	0 —	0 —	3 —	— —	—	
役 員	有	18 (29.5)	0 (0)	2 (3.3)	40 (65.6)	1 (1.6)	0 (0)	61 (100)	** 4*4	4	
	無	6 (11.3)	1 (1.9)	1 (1.9)	45 (84.9)	0 (0)	0 (0)	53 (100)	** 4**4	4	

第172図 1.05 とんぼ (保)

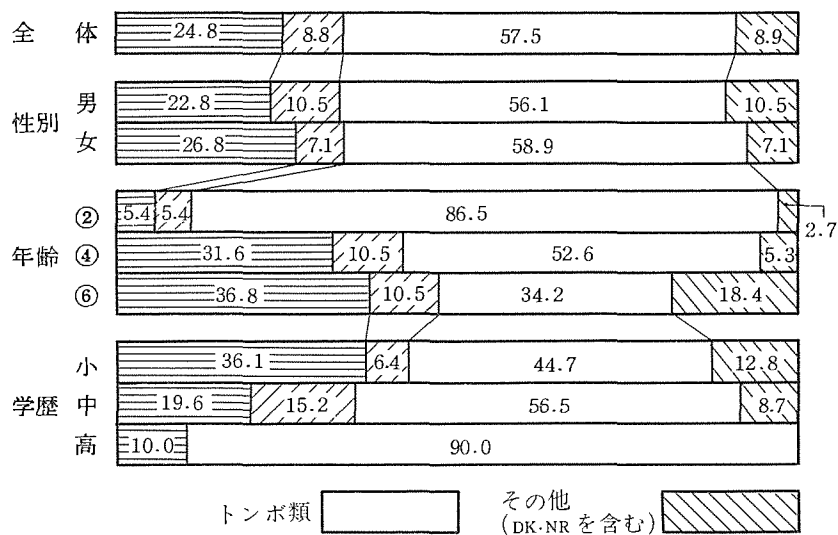


第189表 1.05 とんぼ (茂)

4. トンボ類 5. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	2 (1.8)	26 (23.0)	10 (8.8)	65 (57.5)	2 (1.8)	8 (7.1)	113 (100)	** (4**2)	(4)	
性	男	2 (3.5)	11 (19.3)	6 (10.5)	32 (56.1)	2 (3.5)	4 (7.0)	57 (100)	** (4**2)	(4)	
	女	0 (0)	15 (26.8)	4 (7.1)	33 (58.9)	0 (0)	4 (7.1)	56 (100)	** (4**2)	(4)	
年	②	1 (2.7)	1 (2.7)	2 (5.4)	32 (86.5)	0 (0)	1 (2.7)	37 (100)	** 4**4	4	**
	④	0 (0)	12 (31.6)	4 (10.5)	20 (52.6)	0 (0)	2 (5.3)	38 (100)	*		
	⑥	1 (2.6)	13 (34.2)	4 (10.5)	13 (34.2)	2 (5.3)	5 (13.2)	38 (100)	——	——	
学	小	1 (2.1)	16 (34.0)	3 (6.4)	21 (44.7)	2 (4.3)	4 (8.5)	47 (100)			
	中	1 (2.2)	8 (17.4)	7 (15.2)	26 (56.5)	0 (0)	4 (8.7)	46 (100)	** (4**2)	(4)	
	高	0 —	2 —	0 —	18 —	0 —	0 —	20 —	——	——	
職	農	1 (2.0)	16 (32.7)	5 (10.2)	20 (40.8)	2 (4.1)	5 (10.2)	49 (100)	*		*
	工	1 (4.2)	7 (29.2)	4 (16.7)	12 (50.0)	0 (0)	0 (0)	24 (100)	——	——	
	商	0 —	0 —	0 —	9 —	0 —	1 —	10 —	——	——	
	事	0 —	0 —	0 —	18 —	0 —	0 —	18 —	——	——	
	無	0 —	3 —	1 —	6 —	0 —	2 —	12 —	——	——	
役	有	1 (2.0)	11 (22.0)	4 (8.0)	29 (58.0)	1 (2.0)	4 (8.0)	50 (100)	** (4**2)	(4)	
	無	1 (1.6)	15 (23.8)	6 (9.5)	36 (57.1)	1 (1.6)	4 (6.3)	63 (100)	** (4**2)	(4)	

第173図 1.05 とんぼ (茂)

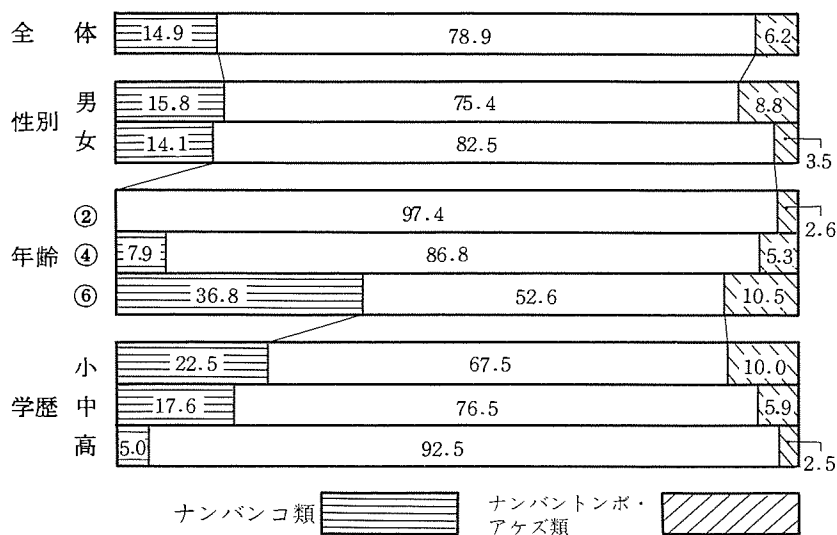


第190表 1.06 赤とんぼ（保）

1. ナンバンコ類 2. ナンバントンボ類 3. アケズ類

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	0 (0)	12 (10.5)	5 (4.4)	90 (78.9)	1 (0.9)	6 (5.3)	114 (100)	** — 4**4	4	
性 別	男	0 (0)	5 (8.8)	4 (7.0)	43 (75.4)	1 (1.8)	4 (7.0)	57 (100)	** — 4**4	4	
	女	0 (0)	7 (12.3)	1 (1.8)	47 (82.5)	0 (0)	2 (3.5)	57 (100)	** — 4**4	4	
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	0 (0)	37 (97.4)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)	** — 4**4	4	**
	④	0 (0)	2 (5.3)	1 (2.6)	33 (86.8)	0 (0)	2 (5.3)	38 (100)	** — 4**4	4	
	⑥	0 (0)	10 (26.3)	4 (10.5)	20 (52.6)	1 (2.6)	3 (7.9)	38 (100)			
学 歴	小	0 (0)	5 (12.5)	4 (10.0)	27 (67.5)	1 (2.5)	3 (7.5)	40 (100)	** — 4*4	4	
	中	0 (0)	6 (17.6)	0 (0)	26 (76.5)	0 (0)	2 (5.9)	34 (100)	** — 4**4	4	
	高	0 (0)	1 (2.5)	1 (2.5)	37 (92.5)	0 (0)	1 (2.5)	40 (100)	** — 4**4	4	
職 業	農	0 (0)	11 (13.4)	5 (6.1)	60 (73.2)	1 (1.2)	5 (6.1)	82 (100)	** — 4**4	4	
	工	0 —	0 —	0 —	7 —	0 —	0 —	7 —	— —	—	
	商	0 —	1 —	0 —	3 —	0 —	0 —	4 —	— —	—	
	事	0 —	0 —	0 —	17 —	0 —	1 —	18 —	— —	—	
	無	0 —	0 —	0 —	3 —	0 —	0 —	3 —	— —	—	
役 員	有	0 (0)	7 (11.5)	3 (4.9)	45 (73.8)	1 (1.6)	5 (8.2)	61 (100)	** — 4**4	4	
	無	0 (0)	5 (9.4)	2 (3.8)	45 (84.9)	0 (0)	1 (1.9)	53 (100)	** — 4**4	4	

第174図 1.06 赤とんぼ（保）

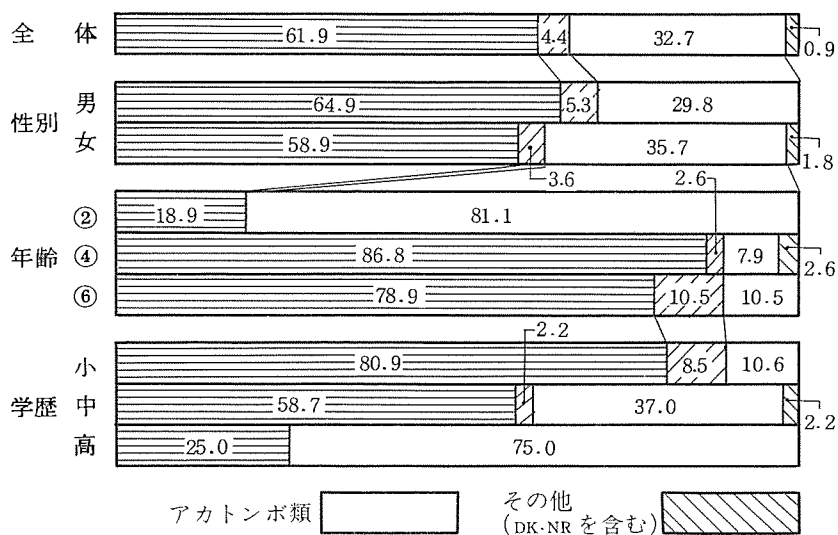


第191表 1.06 赤とんぼ（茂）

4. アカトンボ類 5. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		70 (61.9)	0 (0)	5 (4.4)	37 (32.7)	1 (0.9)	0 (0)	113 (100)	** 1*1	1	
性 別	男	37 (64.9)	0 (0)	3 (5.3)	17 (29.8)	0 (0)	0 (0)	57 (100)	** 1*1	1	
	女	33 (58.9)	0 (0)	2 (3.6)	20 (35.7)	1 (1.8)	0 (0)	56 (100)			
年 齢	②	7 (18.9)	0 (0)	0 (0)	30 (81.1)	0 (0)	0 (0)	37 (100)	** 4**4	4	
	④	33 (86.8)	0 (0)	1 (2.6)	3 (7.9)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** 1**1	1	**
	⑥	30 (78.9)	0 (0)	4 (10.5)	4 (10.5)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 1**1	1	
学 歴	小	38 (80.9)	0 (0)	4 (8.5)	5 (10.6)	0 (0)	0 (0)	47 (100)	** 1**1	1	
	中	27 (58.7)	0 (0)	1 (2.2)	17 (37.0)	1 (2.2)	0 (0)	46 (100)			**
	高	5 —	0 —	0 —	15 —	0 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	41 (83.7)	0 (0)	3 (6.1)	5 (10.2)	0 (0)	0 (0)	49 (100)	** 1**1	1	
	工	17 (70.8)	0 (0)	1 (4.2)	6 (25.0)	0 (0)	0 (0)	24 (100)	—	—	**
	商	2 —	0 —	0 —	7 —	1 —	0 —	10 —	—	—	
	事	4 —	0 —	0 —	14 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	6 —	0 —	1 —	5 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	31 (62.0)	0 (0)	4 (8.0)	15 (30.0)	0 (0)	0 (0)	50 (100)	** (1*4)	(1)	
	無	39 (61.9)	0 (0)	1 (1.6)	22 (34.9)	1 (1.6)	0 (0)	63 (100)	** (1*4)	(1)	

第175図 1.06 赤とんぼ（茂）

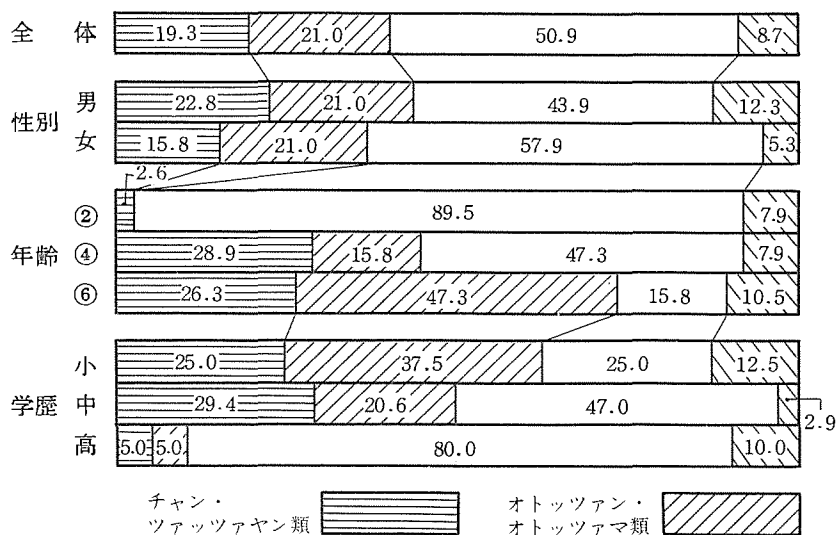


第192表 1.19 お父さん（保）

1. チャン類 2. ツアツアヤン類 3. オトツツアン類 4. オトツツアマ類

		1	2	3	4	5	6	7	8	N.R	計	有意水準	傾向	連合係
全	体	22 (19.3)	0 (0)	20 (17.5)	4 (3.5)	52 (45.6)	2 (1.8)	4 (3.5)	7 (6.1)	3 (2.6)	114 (100)	** (5**1)	(5)	
性 別	男	13 (22.8)	0 (0)	10 (17.5)	2 (3.5)	22 (38.6)	1 (1.8)	2 (3.5)	4 (7.0)	3 (5.3)	57 (100)			
	女	9 (15.8)	0 (0)	10 (17.5)	2 (3.5)	30 (52.6)	1 (1.8)	2 (3.5)	3 (5.3)	0 (0)	57 (100)	** (5**3)	(5)	
年 齢	②	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	31 (81.6)	2 (5.3)	1 (2.6)	0 (0)	3 (7.9)	38 (100)	** 5**5	5	
	④	11 (28.9)	0 (0)	6 (15.8)	0 (0)	17 (44.7)	0 (0)	1 (2.6)	3 (7.9)	0 (0)	38 (100)			**
	⑥	10 (26.3)	0 (0)	14 (36.8)	4 (10.5)	4 (10.5)	0 (0)	2 (5.3)	4 (10.5)	0 (0)	38 (100)			
学 歴	小	10 (25.0)	0 (0)	0 (0)	4 (10.0)	8 (20.0)	0 (0)	2 (5.0)	5 (12.5)	0 (0)	40 (100)			
	中	10 (29.4)	0 (0)	7 (20.6)	0 (0)	15 (44.1)	0 (0)	1 (2.9)	1 (2.9)	0 (0)	34 (100)			*
	高	2 (5.0)	0 (0)	2 (5.0)	0 (0)	29 (72.5)	2 (5.0)	1 (2.5)	1 (2.5)	3 (7.5)	40 (100)	** 5**5	5	
職 業	農	20 (24.4)	0 (0)	19 (23.2)	4 (4.9)	29 (35.4)	0 (0)	3 (3.7)	6 (7.3)	1 (1.2)	82 (100)	**		
	工	1 —	0 —	0 —	0 —	6 —	0 —	0 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	1 —	0 —	0 —	0 —	2 —	1 —	0 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	0 —	0 —	0 —	14 —	1 —	1 —	0 —	2 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	1 —	0 —	1 —	0 —	0 —	1 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	15 (24.6)	0 (0)	12 (19.7)	3 (4.9)	23 (37.7)	0 (0)	3 (4.9)	4 (6.6)	1 (1.6)	61 (100)			
	無	7 (13.2)	0 (0)	8 (15.1)	1 (1.9)	29 (54.7)	2 (3.8)	1 (1.9)	3 (5.7)	2 (3.8)	53 (100)	** (5**3)	(5)	

第176図 1.19 お父さん（保）

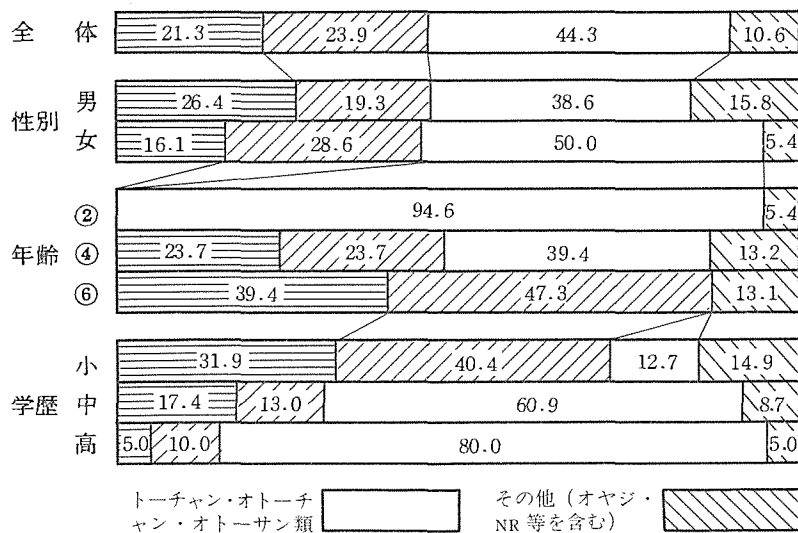


第193表 1.19 お父さん (茂)

5. トーチャン類 6. オトーチャン類 7. オトーサン類 8. その他 (=オヤジ)

		1	2	3	4	5	6	7	8	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	1 (0.9)	23 (20.4)	26 (23.0)	1 (0.9)	48 (42.5)	2 (1.8)	0 (0)	11 (9.7)	1 (0.9)	113 (100)	** (5*3)	(5)	
性	男	1 (1.8)	14 (24.6)	11 (19.3)	0 (0)	21 (36.8)	1 (1.8)	0 (0)	9 (15.8)	0 (0)	57 (100)			
別	女	0 (0)	9 (16.1)	15 (26.8)	1 (1.8)	27 (48.2)	1 (1.8)	0 (0)	2 (3.6)	1 (1.8)	56 (100)	*		
年	②	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	34 (91.9)	1 (2.7)	0 (0)	2 (5.4)	0 (0)	37 (100)	** 5**5	5	
齢	④	0 (0)	9 (23.7)	9 (23.7)	0 (0)	14 (36.8)	1 (2.6)	0 (0)	5 (13.2)	0 (0)	38 (100)			**
	⑥	1 (2.6)	14 (36.8)	17 (44.7)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (10.5)	1 (2.6)	38 (100)			
学	小	0 (0)	15 (31.9)	18 (38.3)	1 (2.1)	5 (10.6)	1 (2.1)	0 (0)	6 (12.8)	1 (2.1)	47 (100)			
歴	中	1 (2.2)	7 (15.2)	6 (13.0)	0 (0)	27 (58.7)	1 (2.2)	0 (0)	4 (8.7)	0 (0)	46 (100)	** (5**2)	(5)	**
	高	0 —	1 —	2 —	0 —	16 —	0 —	0 —	1 —	0 —	20 —	—	—	
職	農	1 (2.0)	14 (28.6)	18 (36.7)	1 (2.0)	8 (16.3)	1 (2.0)	0 (0)	5 (10.2)	1 (2.0)	49 (100)			
業	工	0 (0)	4 (16.7)	2 (8.3)	0 (0)	16 (66.7)	0 (0)	0 (0)	2 (8.3)	0 (0)	24 (100)	—	—	**
	商	0 —	0 —	2 —	0 —	7 —	0 —	0 —	1 —	0 —	10 —	—	—	
	事	0 —	2 —	0 —	0 —	14 —	1 —	0 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	3 —	4 —	0 —	3 —	0 —	0 —	2 —	0 —	12 —	—	—	
役	有	1 (2.0)	11 (22.0)	11 (22.0)	1 (2.0)	19 (38.0)	0 (0)	0 (0)	7 (14.0)	0 (0)	50 (100)			
員	無	0 (0)	12 (19.0)	15 (23.8)	0 (0)	29 (46.0)	2 (3.2)	0 (0)	4 (6.3)	1 (1.6)	63 (100)	** (5*3)	(5)	

第177図 1.19 お父さん (茂)

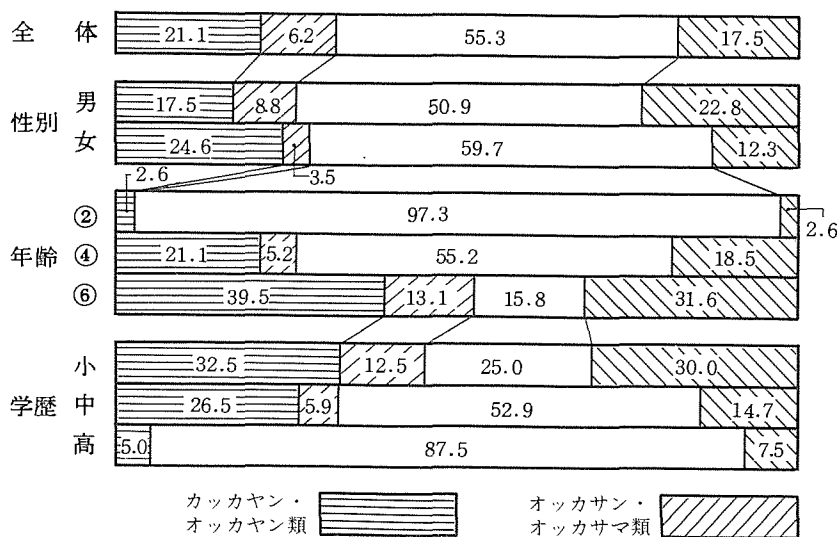


第194表 1.20 お母さん（保）

1. カッカヤン類 2. オッカヤン類 3. オッカサン類 4. オッカサマ類

		1	2	3	4	5	6	7	8	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		0 (0)	24 (21.1)	5 (4.4)	2 (1.8)	57 (50.0)	1 (0.9)	5 (4.4)	17 (14.9)	3 (2.6)	114 (100)	** (5**2)	(5)	
性 別	男	0 (0)	10 (17.5)	3 (5.3)	2 (3.5)	26 (45.6)	0 (0)	3 (5.3)	11 (19.3)	2 (3.5)	57 (100)	** (5*8)	(5)	
	女	0 (0)	14 (24.6)	2 (3.5)	0 (0)	31 (54.4)	1 (1.8)	2 (3.5)	6 (10.5)	1 (1.8)	57 (100)	** (5*2)	(5)	
年 齢	②	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	34 (89.5)	1 (2.6)	1 (2.6)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)	** 5**5	5	**
	④	0 (0)	8 (21.1)	1 (2.6)	1 (2.6)	20 (52.6)	0 (0)	1 (2.6)	5 (13.2)	2 (5.3)	38 (100)	** (5*2)	(5)	
	⑥	0 (0)	15 (39.5)	4 (10.5)	1 (2.6)	3 (7.9)	0 (0)	3 (7.9)	12 (31.6)	0 (0)	38 (100)			
学 歴	小	0 (0)	13 (32.5)	3 (7.5)	2 (5.0)	7 (17.5)	0 (0)	3 (7.5)	10 (25.0)	2 (5.0)	40 (100)			**
	中	0 (0)	9 (26.5)	2 (5.9)	0 (0)	17 (50.0)	0 (0)	1 (2.9)	5 (14.7)	0 (0)	34 (100)			
	高	0 (0)	2 (5.0)	0 (0)	0 (0)	33 (82.5)	1 (2.5)	1 (2.5)	2 (5.0)	1 (2.5)	40 (100)	** 5**5	5	
職 業	農	0 (0)	21 (25.6)	5 (6.1)	2 (2.4)	31 (37.8)	0 (0)	4 (4.9)	16 (19.5)	3 (3.7)	82 (100)	**		*
	工	0 —	1 —	0 —	0 —	6 —	0 —	0 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	1 —	0 —	0 —	2 —	1 —	0 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	0 —	0 —	0 —	17 —	0 —	1 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	1 —	0 —	0 —	1 —	0 —	0 —	1 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	0 (0)	17 (27.9)	4 (6.6)	2 (3.3)	24 (39.3)	0 (0)	4 (6.6)	9 (14.8)	1 (1.6)	61 (100)	*		
	無	0 (0)	7 (13.2)	1 (1.9)	0 (0)	33 (62.3)	1 (1.9)	1 (1.9)	8 (15.1)	2 (3.8)	53 (100)	** (5**8)	(5)	

第178図 1.20 お母さん（保）

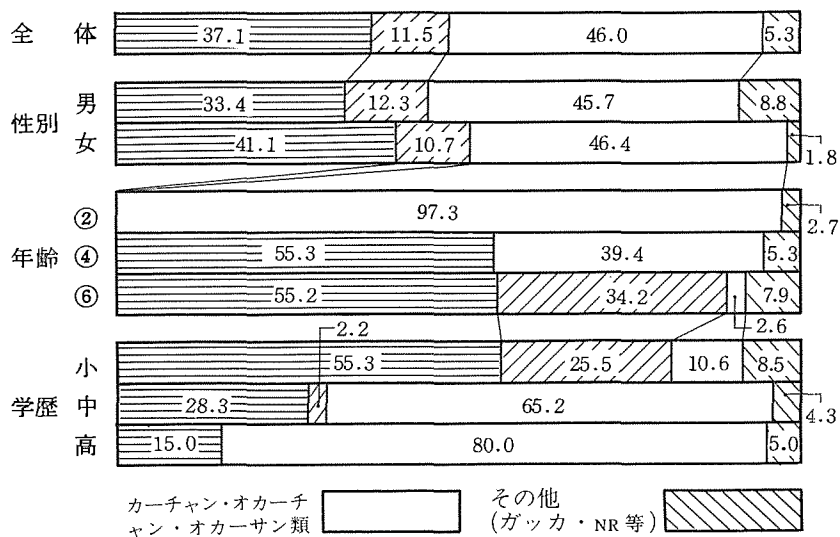


第195表 1.20 お母さん（茂）

5. カーチャン類 6. オカーチャン類 7. オカーサン類 8. その他（ガッカ等）

		1	2	3	4	5	6	7	8	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		4 (3.5)	38 (33.6)	13 (11.5)	0 (0)	50 (44.2)	1 (0.9)	1 (0.9)	6 (5.3)	0 (0)	113 (100)	**		
性 別	男	3 (5.3)	16 (28.1)	7 (12.3)	0 (0)	24 (42.1)	1 (1.8)	1 (1.8)	5 (8.8)	0 (0)	57 (100)	*		
	女	1 (1.8)	22 (39.3)	6 (10.7)	0 (0)	26 (46.4)	0 (0)	0 (0)	1 (1.8)	0 (0)	56 (100)	**		
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	35 (94.6)	0 (0)	1 (2.7)	1 (2.7)	0 (0)	37 (100)	** 5*5	5	
	④	0 (0)	21 (55.3)	0 (0)	0 (0)	14 (36.8)	1 (2.6)	0 (0)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)			**
	⑥	4 (10.5)	17 (44.7)	13 (34.2)	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	3 (7.9)	0 (0)	38 (100)			
学 歴	小	3 (6.4)	23 (48.9)	12 (25.5)	0 (0)	4 (8.5)	1 (2.1)	0 (0)	4 (8.5)	0 (0)	47 (100)			
	中	1 (2.2)	12 (26.1)	1 (2.2)	0 (0)	30 (65.2)	0 (0)	0 (0)	2 (4.3)	0 (0)	46 (100)	** 5*5	5	**
	高	0 —	3 —	0 —	0 —	16 —	0 —	1 —	0 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	4 (8.2)	19 (38.8)	13 (26.5)	0 (0)	9 (18.4)	1 (2.0)	0 (0)	3 (6.1)	0 (0)	49 (100)			
	工	0 (0)	9 (37.5)	0 (0)	0 (0)	14 (58.3)	0 (0)	0 (0)	1 (4.2)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	1 —	0 —	0 —	8 —	0 —	1 —	0 —	0 —	10 —	—	—	**
	事	0 —	2 —	0 —	0 —	15 —	0 —	0 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	7 —	0 —	0 —	4 —	0 —	0 —	1 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	2 (4.0)	14 (28.0)	8 (16.0)	0 (0)	21 (42.0)	0 (0)	0 (0)	5 (10.0)	0 (0)	50 (100)	*		
	無	2 (3.2)	24 (38.1)	5 (7.9)	0 (0)	29 (46.0)	1 (1.6)	1 (1.6)	1 (1.6)	0 (0)	63 (100)	**		

第179図 1.20 お母さん（茂）

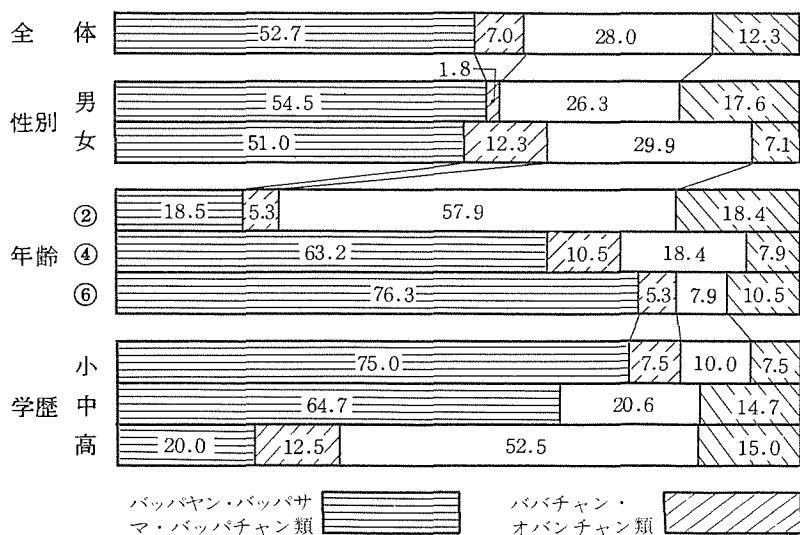


第196表 1.26 おばあさん（保）

1. バッパヤン類 2. バッパサマ類 3. バッパチャン類 4. パバチャン類

		1	2	3	4	5	6	7	8	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		50 (43.9)	4 (3.5)	6 (5.3)	5 (4.4)	3 (2.6)	29 (25.4)	3 (2.6)	12 (10.5)	2 (1.8)	114 (100)	** (1*6)	(1)	
性 別	男	27 (47.4)	3 (5.3)	1 (1.8)	0 (0)	1 (1.8)	13 (22.8)	2 (3.5)	9 (15.8)	1 (1.8)	57 (100)	** (1*6)	(1)	
	女	23 (40.4)	1 (1.8)	5 (8.8)	5 (8.8)	2 (3.5)	16 (28.1)	1 (1.8)	3 (5.3)	1 (1.8)	57 (100)	**		
年 齢	②	5 (13.2)	0 (0)	2 (5.3)	2 (5.3)	0 (0)	21 (55.3)	1 (2.6)	6 (15.8)	1 (2.6)	38 (100)	** (6**8)	(6)	**
	④	19 (50.0)	2 (5.3)	3 (7.9)	3 (7.9)	1 (2.6)	7 (18.4)	0 (0)	2 (5.3)	1 (2.6)	38 (100)	** (1*6)	(1)	
	⑥	26 (68.4)	2 (5.3)	1 (2.6)	0 (0)	2 (5.3)	1 (2.6)	2 (5.3)	4 (10.5)	0 (0)	38 (100)	** 1*1	1	
学 歴	小	25 (62.5)	3 (7.5)	2 (5.0)	1 (2.5)	2 (5.0)	2 (5.0)	2 (5.0)	2 (5.0)	1 (2.5)	40 (100)	** (1**2)	(1)	*
	中	17 (50.0)	1 (2.9)	4 (11.8)	0 (0)	0 (0)	7 (20.6)	0 (0)	5 (14.7)	0 (0)	34 (100)	** (1*6)	(1)	
	高	8 (20.0)	0 (0)	0 (0)	4 (10.0)	1 (2.5)	20 (50.0)	1 (2.5)	5 (12.5)	1 (2.5)	40 (100)	** (6*1)	(6)	
職 業	農	45 (54.9)	4 (4.9)	4 (4.9)	3 (3.7)	3 (3.7)	13 (15.9)	2 (2.4)	7 (8.5)	1 (1.2)	82 (100)	** (1**6)	(1)	*
	工	1 —	0 —	2 —	0 —	0 —	3 —	0 —	1 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	1 —	0 —	2 —	0 —	4 —	—	—	
	事	3 —	0 —	0 —	1 —	0 —	11 —	1 —	1 —	1 —	18 —	—	—	
	無	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	1 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	31 (50.8)	3 (4.9)	3 (4.9)	2 (3.3)	2 (3.3)	10 (16.4)	2 (3.3)	7 (11.5)	1 (1.6)	61 (100)	** (1**6)	(1)	
	無	19 (35.8)	1 (1.9)	3 (5.7)	3 (5.7)	1 (1.9)	19 (35.8)	1 (1.9)	5 (9.4)	1 (1.9)	53 (100)	—	—	

第180図 1.26 おばあさん（保）

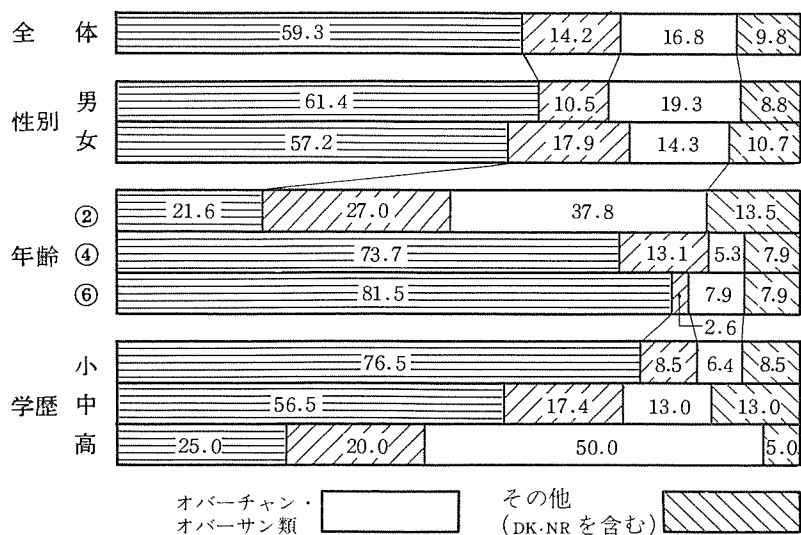


第197表 1.26 おばあさん（茂）

5. オバンチャン類 6. オーバーチャン類 7. オーバーサン類 8. その他

		1	2	3	4	5	6	7	8	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	64 (56.6)	1 (0.9)	2 (1.8)	14 (12.4)	2 (1.8)	18 (15.9)	1 (0.9)	8 (7.1)	3 (2.7)	113 (100)	** (1**6)	(1)	
性 別	男	35 (61.4)	0 (0)	0 (0)	6 (10.5)	0 (0)	10 (17.5)	1 (1.8)	3 (5.3)	2 (3.5)	57 (100)	** (1**6)	(1)	
	女	29 (51.8)	1 (1.8)	2 (3.6)	8 (14.3)	2 (3.6)	8 (14.3)	0 (0)	5 (8.9)	1 (1.8)	56 (100)	** (1**4,6)	(1)	
年 齢	②	7 (18.9)	0 (0)	1 (2.7)	10 (27.0)	0 (0)	13 (35.1)	1 (2.7)	3 (8.1)	2 (5.4)	37 (100)			
	④	28 (73.7)	0 (0)	0 (0)	4 (10.5)	1 (2.6)	2 (5.3)	0 (0)	3 (7.9)	0 (0)	38 (100)	** 1**1	1	**
	⑥	29 (76.3)	1 (2.6)	1 (2.6)	0 (0)	1 (2.6)	3 (7.9)	0 (0)	2 (5.3)	1 (2.6)	38 (100)	** 1**1	1	
学 歴	小	34 (72.3)	1 (2.1)	1 (2.1)	3 (6.4)	1 (2.1)	3 (6.4)	0 (0)	3 (6.4)	1 (2.1)	47 (100)	** 1**1	1	
	中	25 (54.3)	0 (0)	1 (2.2)	7 (15.2)	1 (2.2)	6 (13.0)	0 (0)	4 (8.7)	2 (4.3)	46 (100)	** (1**4)	(1)	
	高	5 —	0 —	0 —	4 —	0 —	9 —	1 —	1 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	36 (73.5)	1 (2.0)	1 (2.0)	2 (4.1)	1 (2.0)	4 (8.2)	0 (0)	2 (4.1)	2 (4.1)	49 (100)	** 1**1	1	
	工	12 (50.0)	0 (0)	0 (0)	4 (16.7)	0 (0)	5 (20.8)	0 (0)	2 (8.3)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	商	5 —	0 —	0 —	1 —	0 —	3 —	1 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	4 —	0 —	1 —	6 —	0 —	5 —	0 —	2 —	0 —	18 —	—	—	
	無	7 —	0 —	0 —	1 —	1 —	1 —	0 —	2 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	29 (58.0)	1 (2.0)	1 (2.0)	4 (8.0)	0 (0)	11 (22.0)	0 (0)	2 (4.0)	2 (4.0)	50 (100)	** (1**6)	(1)	
	無	35 (55.6)	0 (0)	1 (1.6)	10 (15.9)	2 (3.2)	7 (11.1)	1 (1.6)	6 (9.5)	1 (1.6)	63 (100)	** (1**4)	(1)	

第181図 1.26 おばあさん（茂）

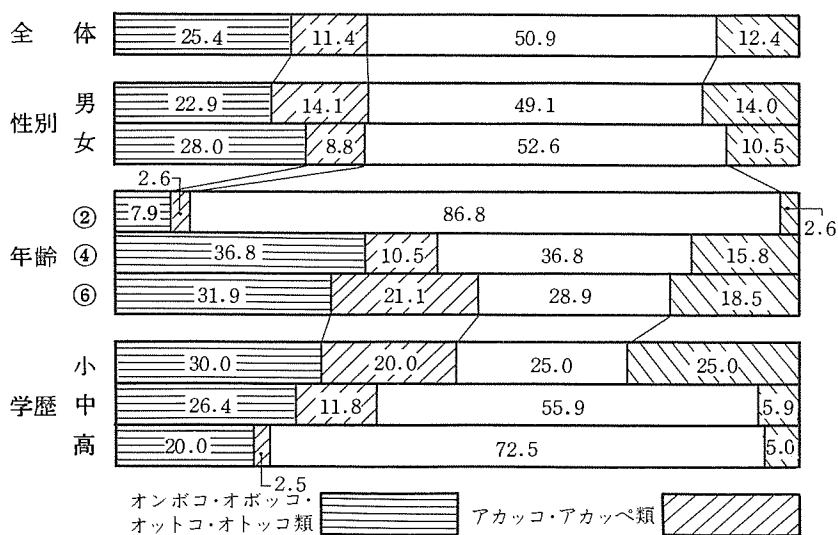


第198表 1.22 赤ん坊 (保)

1. オンボコ類 2. オボッコ類 3. オットコ類 4. オトッコ類

		1	2	3	4	5	6	7	8	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	20 (17.5)	3 (2.6)	6 (5.3)	0 (0)	12 (10.5)	1 (0.9)	58 (50.9)	8 (7.1)	6 (5.3)	114 (100)	** (7**1)	(7)	
性 別	男	12 (21.1)	1 (1.8)	0 (0)	0 (0)	7 (12.3)	1 (1.8)	28 (49.1)	4 (7.0)	4 (7.0)	57 (100)	** (7*1)	(7)	
	女	8 (14.0)	2 (3.5)	6 (10.5)	0 (0)	5 (8.8)	0 (0)	30 (52.6)	4 (7.0)	2 (3.5)	57 (100)	** (7*1)	(7)	
年 齢	②	3 (7.9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2.6)	33 (86.8)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)	** 7**7	7	
	④	12 (31.6)	1 (2.6)	1 (2.6)	0 (0)	4 (10.5)	0 (0)	14 (36.8)	3 (7.9)	3 (7.9)	38 (100)			**
	⑥	5 (13.2)	2 (5.3)	5 (13.2)	0 (0)	8 (21.1)	0 (0)	11 (28.9)	5 (13.2)	2 (5.3)	38 (100)			
学 歴	小	7 (17.5)	1 (2.5)	4 (10.0)	0 (0)	8 (20.0)	0 (0)	10 (25.0)	7 (17.5)	3 (7.5)	40 (100)			
	中	6 (17.6)	1 (2.9)	2 (5.9)	0 (0)	4 (11.8)	0 (0)	19 (55.9)	0 (0)	2 (5.9)	34 (100)	** (7**1)	(7)	*
	高	7 (17.5)	1 (2.5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2.5)	29 (72.5)	1 (2.5)	1 (2.5)	40 (100)	** 7**7	7	
職 業	農	16 (19.5)	3 (3.7)	5 (6.1)	0 (0)	11 (13.4)	1 (1.2)	33 (40.2)	8 (9.8)	5 (6.1)	82 (100)	** (7*1)	(7)	
	工	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	6 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	3 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	16 —	0 —	1 —	18 —	—	—	
	無	2 —	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	13 (21.3)	3 (4.9)	4 (6.6)	0 (0)	8 (13.1)	1 (1.6)	22 (36.1)	7 (11.5)	3 (4.9)	61 (100)	*		
	無	7 (13.2)	0 (0)	2 (3.8)	0 (0)	4 (7.5)	0 (0)	36 (67.9)	1 (1.9)	3 (5.7)	53 (100)	** 7**7	7	*

第182図 1.22 赤ん坊 (保)

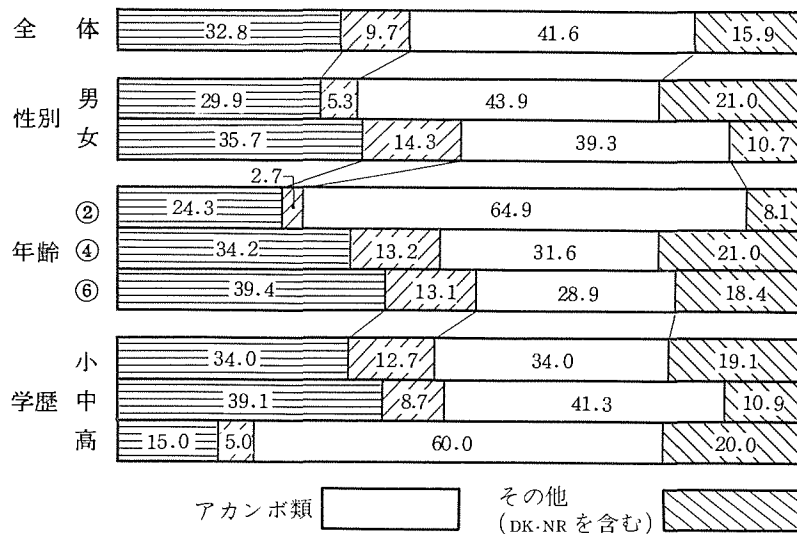


第199表 1.22 赤ん坊（茂）

5. アカッコ類 6. アカッペ類 7. アカンボ類 8. その他

		1	2	3	4	5	6	7	8	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		0 (0)	9 (8.0)	0 (0)	28 (24.8)	1 (0.9)	10 (8.8)	47 (41.6)	14 (12.4)	4 (3.5)	113 (100)	** (7*4)	(7)	
性 別	男	0 (0)	5 (8.8)	0 (0)	12 (21.1)	1 (1.8)	2 (3.5)	25 (43.9)	8 (14.0)	4 (7.0)	57 (100)	** (7*4)	(7)	
	女	0 (0)	4 (7.1)	0 (0)	16 (28.6)	0 (0)	8 (14.3)	22 (39.3)	6 (10.7)	0 (0)	56 (100)			
年 齢	②	0 (0)	3 (8.1)	0 (0)	6 (16.2)	0 (0)	1 (2.7)	24 (64.9)	1 (2.7)	2 (5.4)	37 (100)	** (7**4)	(7)	
	④	0 (0)	2 (5.3)	0 (0)	11 (28.9)	0 (0)	5 (13.2)	12 (31.6)	7 (18.4)	1 (2.6)	38 (100)			
	⑥	0 (0)	4 (10.5)	0 (0)	11 (28.9)	1 (2.6)	4 (10.5)	11 (28.9)	6 (15.8)	1 (2.6)	38 (100)	——	——	
学 歴	小	0 (0)	4 (8.5)	0 (0)	12 (25.5)	1 (2.1)	5 (10.6)	16 (34.0)	8 (17.0)	1 (2.1)	47 (100)			
	中	0 (0)	4 (8.7)	0 (0)	14 (30.4)	0 (0)	4 (8.7)	19 (41.3)	4 (8.7)	1 (2.2)	46 (100)			
	高	0 —	1 —	0 —	2 —	0 —	1 —	12 —	2 —	2 —	20 —	——	——	
職 業	農	0 (0)	2 (4.1)	0 (0)	15 (30.6)	0 (0)	6 (12.2)	16 (32.7)	8 (16.3)	2 (4.1)	49 (100)			
	工	0 (0)	4 (16.7)	0 (0)	7 (29.2)	0 (0)	0 (0)	10 (41.7)	3 (12.5)	0 (0)	24 (100)	——	——	
	商	0 —	1 —	0 —	1 —	0 —	1 —	5 —	1 —	1 —	10 —	——	——	
	事	0 —	1 —	0 —	3 —	0 —	0 —	13 —	0 —	1 —	18 —	——	——	
	無	0 —	1 —	0 —	2 —	1 —	3 —	3 —	2 —	0 —	12 —	——	——	
役 員	有	0 (0)	3 (6.0)	0 (0)	13 (26.0)	1 (2.0)	4 (8.0)	18 (36.0)	8 (16.0)	3 (6.0)	50 (100)			
	無	0 (0)	6 (9.5)	0 (0)	15 (23.8)	0 (0)	6 (9.5)	29 (46.0)	6 (9.5)	1 (1.6)	63 (100)	** (7*4)	(7)	

第183図 1.22 赤ん坊（茂）

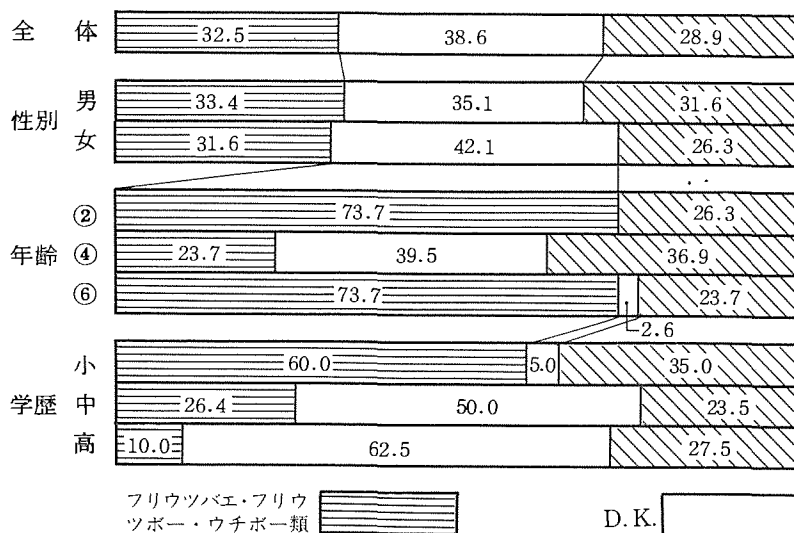


第200表 3.05(1) ふりうち棒 (保)

1. フリウツバエ類 2. フリウツボー類 3. ウチボー類

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	24 (21.1)	10 (8.8)	3 (2.6)	44 (38.6)	7 (6.1)	26 (22.8)	114 (100)	** (4*N.R)	(4)	
性 別	男	12 (21.1)	4 (7.0)	3 (5.3)	20 (35.1)	5 (8.8)	13 (22.8)	57 (100)			
	女	12 (21.1)	6 (10.5)	0 (0)	24 (42.1)	2 (3.5)	13 (22.8)	57 (100)	*		
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	0 (0)	28 (73.7)	0 (0)	10 (26.3)	38 (100)	** 4**4	4	
	④	6 (15.8)	3 (7.9)	0 (0)	15 (39.5)	2 (5.3)	12 (31.6)	38 (100)			**
	⑥	18 (47.4)	7 (18.4)	3 (7.9)	1 (2.6)	5 (13.2)	4 (10.5)	38 (100)	** (1*2)	(1)	
学 歴	小	15 (37.5)	7 (17.5)	2 (5.0)	2 (5.0)	3 (7.5)	11 (27.5)	40 (100)			
	中	6 (17.6)	2 (5.9)	1 (2.9)	17 (50.0)	3 (8.8)	5 (14.7)	34 (100)	** (4*1)	(4)	**
	高	3 (7.5)	1 (2.5)	0 (0)	25 (62.5)	1 (2.5)	10 (25.0)	40 (100)	** (4*N.R)	(4)	
職 業	農	23 (28.0)	10 (12.2)	3 (3.7)	23 (28.0)	7 (8.5)	16 (19.5)	82 (100)	—	—	
	工	0 —	0 —	0 —	6 —	0 —	1 —	7 —	—	—	
	商	1 —	0 —	0 —	1 —	0 —	2 —	4 —	—	—	**
	事	0 —	0 —	0 —	12 —	0 —	6 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	0 —	2 —	0 —	1 —	3 —	—	—	
役 員	有	17 (27.9)	7 (11.5)	3 (4.9)	15 (24.6)	6 (9.8)	13 (21.3)	61 (100)			
	無	7 (13.2)	3 (5.7)	0 (0)	29 (54.7)	1 (1.9)	13 (24.5)	53 (100)	** (4*N.R)	(4)	

第184図 3.05(1) ふりうち棒 (保)

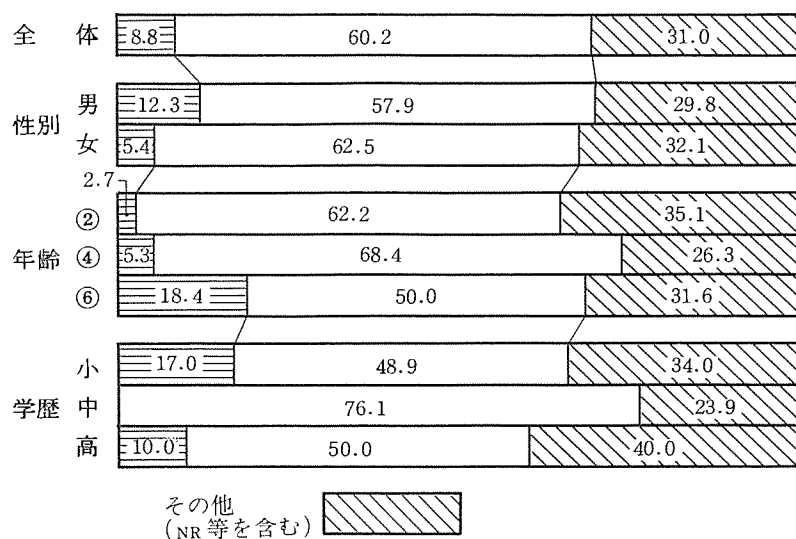


第201表 3.05(1) ふりうち棒 (茂)

4. しらない 5. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	0 (0)	4 (3.5)	6 (5.3)	68 (60.2)	35 (31.0)	113 (100)	** 4*4	4	
性	男	0 (0)	3 (5.3)	4 (7.0)	33 (57.9)	17 (29.8)	57 (100)	** (4*N.R)	(4)	
別	女	0 (0)	1 (1.8)	2 (3.6)	35 (62.5)	18 (32.1)	56 (100)	** (4*N.R)	(4)	
年	②	0 (0)	0 (0)	1 (2.7)	23 (62.2)	13 (35.1)	37 (100)			
齢	④	0 (0)	0 (0)	2 (5.3)	26 (68.4)	10 (26.3)	38 (100)	** 4*4	4	
	⑥	0 (0)	4 (10.5)	3 (7.9)	19 (50.0)	12 (31.6)	38 (100)			
学	小	0 (0)	4 (8.5)	4 (8.5)	23 (48.9)	16 (34.0)	47 (100)	*		
歴	中	0 (0)	0 (0)	0 (0)	35 (76.1)	11 (23.9)	46 (100)	** 4**4		
	高	0 —	0 —	2 —	10 —	8 —	20 —	—	—	
職	農	0 (0)	4 (8.2)	3 (6.1)	29 (59.2)	13 (26.5)	49 (100)	** (4*N.R)	(4)	
業	工	0 (0)	0 (0)	1 (4.2)	16 (66.7)	7 (29.2)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	0 —	1 —	7 —	2 —	10 —	—	—	
	事	0 —	0 —	0 —	10 —	8 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	1 —	6 —	5 —	12 —	—	—	
役	有	0 (0)	4 (8.0)	2 (4.0)	30 (60.0)	14 (28.0)	50 (100)	** (4*N.R)	(4)	
員	無	0 (0)	0 (0)	4 (6.3)	38 (60.3)	21 (33.3)	63 (100)	** (4*N.R)	(4)	

第185図 3.05(1) ふりうち棒 (茂)

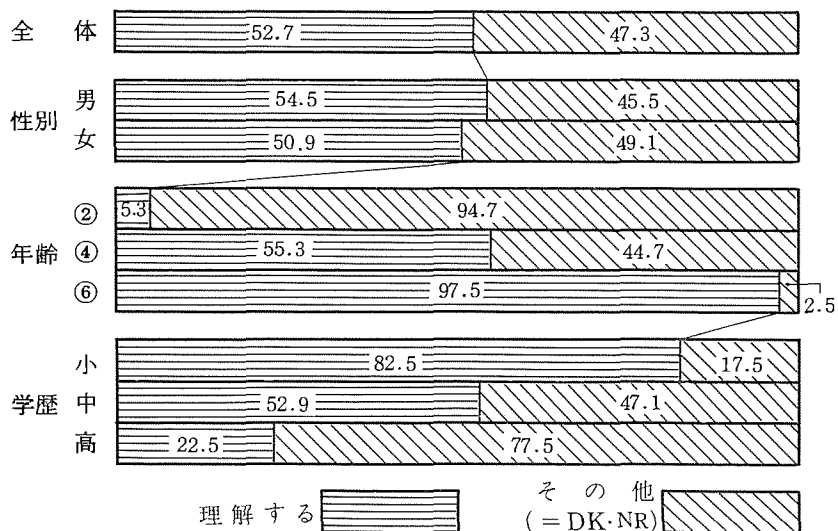


第202表 3.05(2) 「ふりうち棒」, きけばわかりますか (保)

1. わかる 2. きいたことあり 3. しらない

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	17 (23.9)	0 (0)	53 (74.6)	1 (1.4)	71 (100)	** 3**3	3	
性 別	男	9 (25.7)	0 (0)	25 (71.4)	1 (2.9)	35 (100)	** 3*3	3	
	女	8 (22.2)	0 (0)	28 (77.8)	0 (0)	36 (100)	** 3**3	3	
年 齢	②	2 (5.3)	0 (0)	36 (94.7)	0 (0)	38 (100)	** 3**3	3	
	④	10 (37.0)	0 (0)	16 (59.3)	1 (3.7)	27 (100)	—	—	**
	⑥	5 —	0 —	1 —	0 —	6 —	—	—	
学 歴	小	6 —	0 —	6 —	1 —	13 —	—	—	
	中	7 (30.4)	0 (0)	16 (69.6)	0 (0)	23 (100)	—	—	
	高	4 (11.4)	0 (0)	31 (88.6)	0 (0)	35 (100)	** 3**3	3	
職 業	農	15 (37.5)	0 (0)	24 (60.0)	1 (2.5)	40 (100)			
	工	1 —	0 —	6 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	0 —	3 —	0 —	3 —	—	—	
	事	1 —	0 —	17 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	3 —	0 —	3 —	—	—	*
役 員	有	11 (36.7)	0 (0)	19 (63.3)	0 (0)	30 (100)			
	無	6 (14.6)	0 (0)	34 (82.9)	1 (2.4)	41 (100)	** 3**3	3	

第186図 3.05(2) 「ふりうち棒」, きけばわかりますか (保)

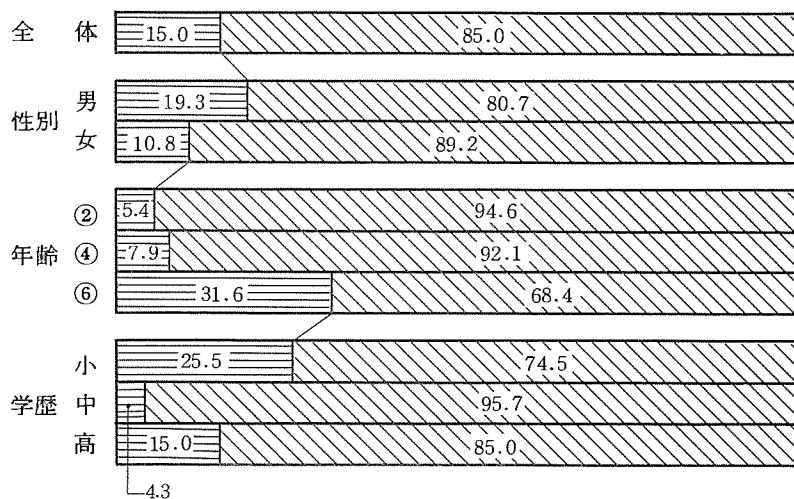


第203表 3.05(2) 「ふりうち棒」, きけばわかりますか (茂)

4. N.R.

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		7 (6.4)	0 (0)	96 (88.1)	6 (5.5)	109 (100)	** 3**3	3	
性 別	男	4 (7.4)	0 (0)	47 (87.0)	3 (5.6)	54 (100)	** 3**3	3	
	女	3 (5.5)	0 (0)	49 (89.1)	3 (5.5)	55 (100)	** 3**3	3	
年 齢	②	1 (2.7)	0 (0)	35 (94.6)	1 (2.7)	37 (100)	** 3**3	3	
	④	1 (2.6)	0 (0)	37 (97.4)	0 (0)	38 (100)	** 3**3	3	
	⑥	5 (14.7)	0 (0)	24 (70.6)	5 (14.7)	34 (100)	** 3*3	3	
学 歴	小	4 (9.3)	0 (0)	35 (81.4)	4 (9.3)	43 (100)	** 3**3	3	
	中	2 (4.3)	0 (0)	42 (91.3)	2 (4.3)	46 (100)	** 3**3	3	
	高	1 —	0 —	19 —	0 —	20 —	— —	—	
職 業	農	5 (11.1)	0 (0)	35 (77.8)	5 (11.1)	45 (100)	** 3**3	3	
	工	1 (4.2)	0 (0)	23 (95.8)	0 (0)	24 (100)	— —	—	
	商	1 —	0 —	8 —	1 —	10 —	— —	—	
	事	0 —	0 —	18 —	0 —	18 —	— —	—	
	無	0 —	0 —	12 —	0 —	12 —	— —	—	
役 員	有	3 (6.5)	0 (0)	41 (89.1)	2 (4.3)	46 (100)	** 3**3	3	
	無	4 (6.3)	0 (0)	55 (87.3)	4 (6.3)	63 (100)	** 3**3	3	

第187図 3.05(2) 「ふりうち棒」, きけばわかりますか (茂)

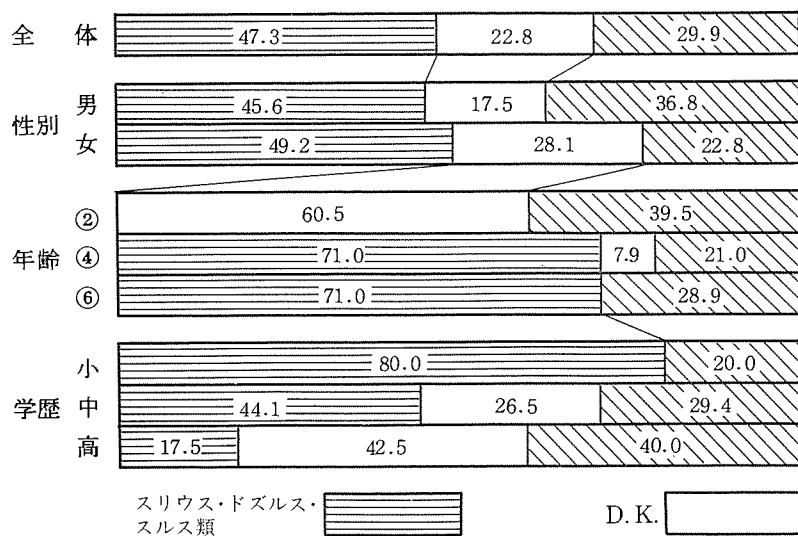


第204表 3.06(1) 摺臼(保)

1. スリウス類 2. ドズルス類 3. スルス類

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		5 (4.4)	16 (14.0)	33 (28.9)	26 (22.8)	15 (13.2)	19 (16.7)	114 (100)	*		
性 別	男	2 (3.5)	9 (15.8)	15 (26.3)	10 (17.5)	10 (17.5)	11 (19.3)	57 (100)			
	女	3 (5.3)	7 (12.3)	18 (31.6)	16 (28.1)	5 (8.8)	8 (14.0)	57 (100)			
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	0 (0)	23 (60.5)	0 (0)	15 (39.5)	38 (100)			
	④	1 (2.6)	4 (10.5)	22 (57.9)	3 (7.9)	4 (10.5)	4 (10.5)	38 (100)	** (3**2, 5, N.R)	(3)	
	⑥	4 (10.5)	12 (31.6)	11 (28.9)	0 (0)	11 (28.9)	0 (0)	38 (100)			
学 歴	小	4 (10.0)	10 (25.0)	18 (45.0)	0 (0)	7 (17.5)	1 (2.5)	40 (100)	*		
	中	1 (2.9)	4 (11.8)	10 (29.4)	9 (26.5)	6 (17.6)	4 (11.8)	34 (100)			*
	高	0 (0)	2 (5.0)	5 (12.5)	17 (42.5)	2 (5.0)	14 (35.0)	40 (100)			
職 業	農	5 (6.1)	15 (18.3)	32 (39.0)	7 (8.5)	14 (17.1)	9 (11.0)	82 (100)	** (3*2)	(3)	
	工	0 —	0 —	0 —	6 —	0 —	1 —	7 —	—	—	
	商	0 —	1 —	0 —	1 —	0 —	2 —	4 —	—	—	**
	事	0 —	0 —	0 —	11 —	0 —	7 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	1 —	1 —	1 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	4 (6.6)	12 (19.7)	20 (32.8)	6 (9.8)	12 (19.7)	7 (11.5)	61 (100)			*
	無	1 (1.9)	4 (7.5)	13 (24.5)	20 (37.7)	3 (5.7)	12 (22.6)	53 (100)			

第188図 3.06(1) 摺臼(保)

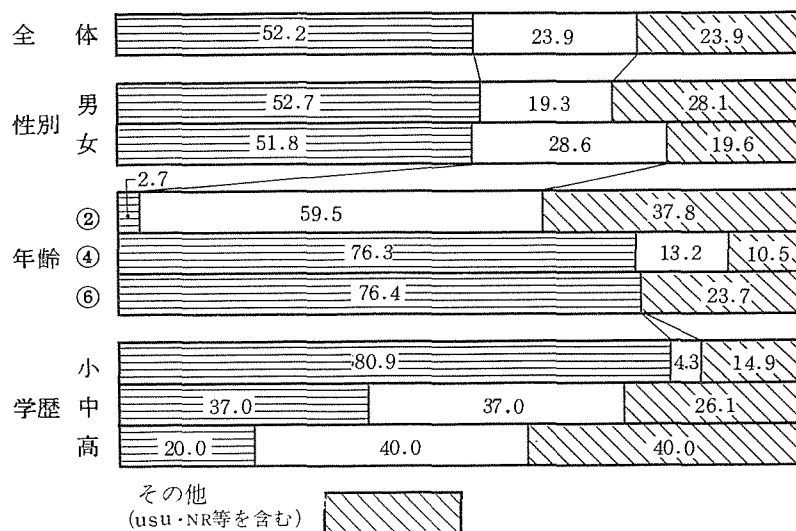


第205表 3.06(1) 摺臼 (茂)

4. しらない 5. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全	体	0 (0)	2 (1.8)	57 (50.4)	27 (23.9)	4 (3.5)	23 (20.4)	113 (100)	** (3**4)	(3)	
性 別	男	0 (0)	1 (1.8)	29 (50.9)	11 (19.3)	4 (7.0)	12 (21.1)	57 (100)	** (3**N.R)	(3)	
	女	0 (0)	1 (1.8)	28 (50.0)	16 (28.6)	0 (0)	11 (19.6)	56 (100)	*		
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	1 (2.7)	22 (59.5)	0 (0)	14 (37.8)	37 (100)			
	④	0 (0)	0 (0)	29 (76.3)	5 (13.2)	0 (0)	4 (10.5)	38 (100)	** 3**3	3	**
	⑥	0 (0)	2 (5.3)	27 (71.1)	0 (0)	4 (10.5)	5 (13.2)	38 (100)	** 3**3	3	
学 歴	小	0 (0)	2 (4.3)	36 (76.6)	2 (4.3)	3 (6.4)	4 (8.5)	47 (100)	** 3**3	3	
	中	0 (0)	0 (0)	17 (37.0)	17 (37.0)	1 (2.2)	11 (23.9)	46 (100)	—	—	**
	高	0 —	0 —	4 —	8 —	0 —	8 —	20 —	—	—	
職 業	農	0 (0)	0 (0)	37 (75.5)	4 (8.2)	4 (8.2)	4 (8.2)	49 (100)	** 3**3	3	
	工	0 (0)	0 (0)	12 (50.0)	7 (29.2)	0 (0)	5 (20.8)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	0 —	0 —	7 —	0 —	3 —	10 —	—	—	**
	事	0 —	0 —	1 —	8 —	0 —	9 —	18 —	—	—	
	無	0 —	2 —	7 —	1 —	0 —	2 —	12 —	—	—	
役 員	有	0 (0)	2 (4.0)	25 (50.0)	9 (18.0)	4 (8.0)	10 (20.0)	50 (100)	** (3*N.R)	(3)	
	無	0 (0)	0 (0)	32 (50.8)	18 (28.6)	0 (0)	13 (20.6)	63 (100)	** (3*4)	(3)	

第189図 3.06(1) 摺臼 (茂)

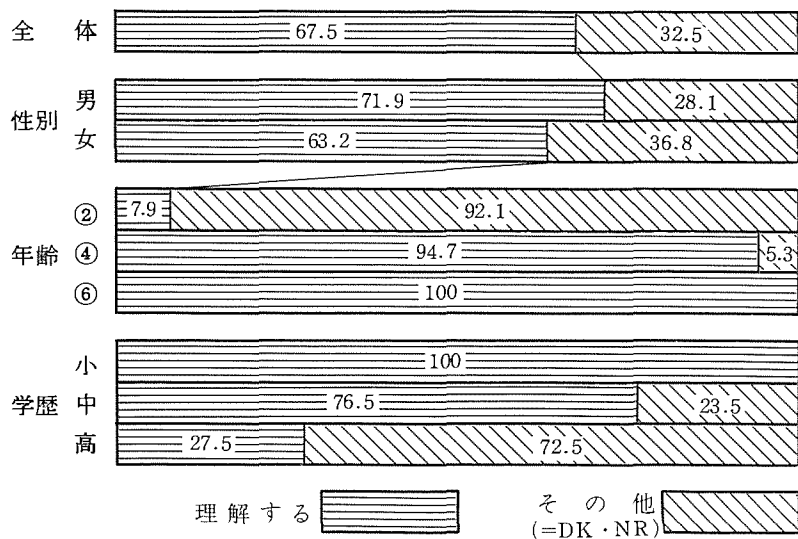


第206表 3.06(2) 「スルス」, きけばわかりますか (保)

1. わかる 2. しらない

		1	2	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	8 (17.8)	37 (82.2)	0 (0)	45 (100)	** 2**2	2	
性 別	男	5 (23.8)	16 (76.2)	0 (0)	21 (100)	—	—	
	女	3 (12.5)	21 (87.5)	0 (0)	24 (100)	—	—	
年 齢	②	3 (7.9)	35 (92.1)	0 (0)	38 (100)	** 2**2	2	
	④	5 —	2 —	0 —	7 —	—	—	
	⑥	0 —	0 —	0 —	0 —	—	—	
学 歴	小	1 —	0 —	0 —	1 —	—	—	
	中	5 —	8 —	0 —	13 —	—	—	
	高	2 (6.5)	29 (93.5)	0 (0)	31 (100)	** 2**2	2	
職 業	農	6 —	10 —	0 —	16 —	—	—	
	工	1 —	6 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	3 —	0 —	3 —	—	—	
	事	1 —	17 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	1 —	0 —	1 —	—	—	
役 員	有	3 —	10 —	0 —	13 —	—	—	
	無	5 (15.6)	27 (84.4)	0 (0)	32 (100)	** 2**2	2	

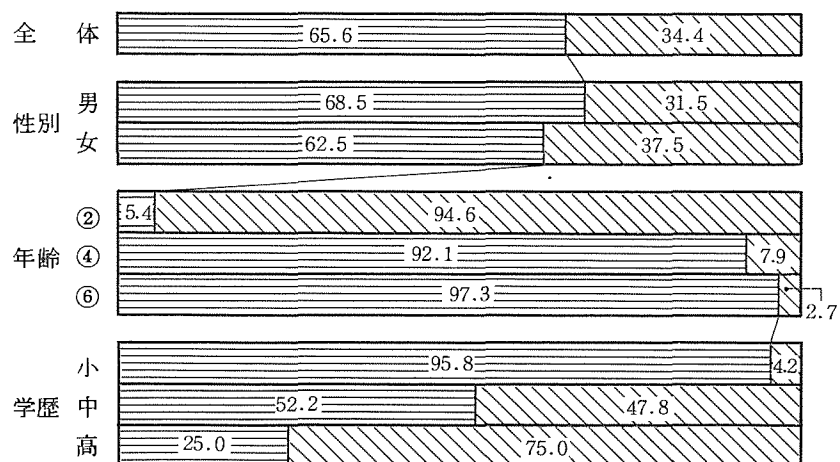
第190図 3.06(2) 摺臼(わかるか) (保)



第207表 3.06(2) 「スルス」, きけばわかりますか (茂)

		1	2	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		7 (15.2)	37 (80.4)	2 (4.3)	46 (100)	** — 2**2	2	
性 別	男	3 (14.3)	18 (85.7)	0 (0)	21 (100)	—	—	
	女	4 (16.0)	19 (76.0)	2 (8.0)	25 (100)	—	—	
年 齢	②	1 (2.8)	34 (94.4)	1 (2.8)	36 (100)	** — 2**2	2	**
	④	6 —	3 —	0 —	9 —	—	—	
	⑥	0 —	0 —	1 —	1 —	—	—	
学 歴	小	1 —	1 —	1 —	3 —	—	—	
	中	5 (18.5)	21 (77.8)	1 (3.7)	27 (100)	—	—	
	高	1 —	15 —	0 —	16 —	—	—	
職 業	農	0 —	4 —	1 —	5 —	—	—	
	工	2 —	9 —	1 —	12 —	—	—	
	商	3 —	7 —	0 —	10 —	—	—	
	事	1 —	16 —	0 —	17 —	—	—	
	無	1 —	1 —	0 —	2 —	—	—	
役 員	有	4 —	13 —	0 —	17 —	—	—	
	無	3 (10.3)	24 (82.8)	2 (6.9)	29 (100)	—	—	

第191図 3.06(2) 摺臼(わかるか) (茂)

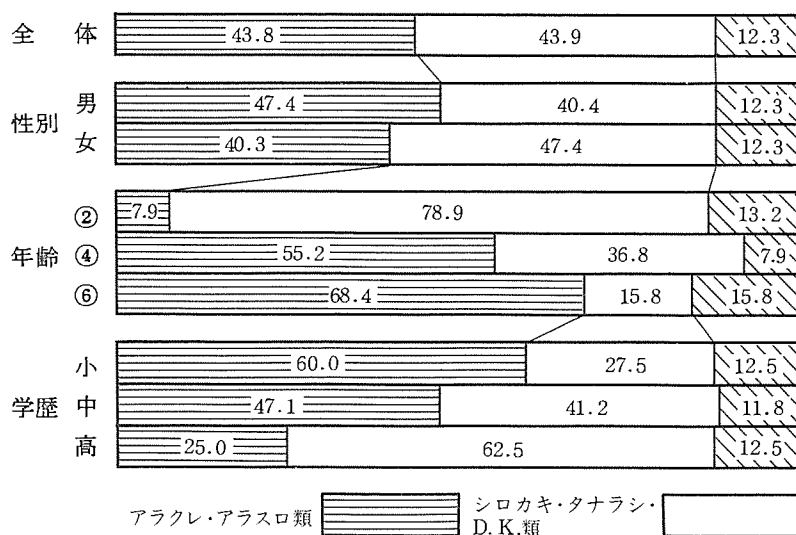


第208表 1.12 あらくれ（保）

1. アラクレ類 2. アラスロ類 3. シロカキ類 4. タナラシ類

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		30 (26.3)	20 (17.5)	37 (32.5)	1 (0.9)	12 (10.5)	8 (7.0)	6 (5.3)	114 (100)	**		
性 別	男	15 (26.3)	12 (21.1)	18 (31.6)	0 (0)	5 (8.8)	7 (12.3)	0 (0)	57 (100)			
	女	15 (26.3)	8 (14.0)	19 (33.3)	1 (1.8)	7 (12.3)	1 (1.8)	6 (10.5)	57 (100)			
年 齢	②	1 (2.6)	2 (5.3)	18 (47.3)	0 (0)	12 (31.6)	0 (0)	5 (13.2)	38 (100)			**
	④	10 (26.3)	11 (28.9)	13 (34.2)	1 (2.6)	0 (0)	3 (7.9)	0 (0)	38 (100)			
	⑥	19 (50.0)	7 (18.4)	6 (15.8)	0 (0)	0 (0)	5 (13.2)	1 (2.6)	38 (100)	** (1*2)	(1)	
学 歴	小	16 (40.0)	8 (20.0)	11 (27.5)	0 (0)	0 (0)	4 (10.0)	1 (2.5)	40 (100)			
	中	9 (26.5)	7 (20.6)	12 (35.3)	0 (0)	2 (5.9)	4 (11.8)	0 (0)	34 (100)			
	高	5 (12.5)	5 (12.5)	14 (35.0)	1 (2.5)	10 (25.0)	0 (0)	5 (12.5)	40 (100)			
職 業	農	28 (34.1)	19 (23.2)	22 (26.8)	1 (1.2)	2 (2.4)	8 (9.8)	2 (2.4)	82 (100)			
	工	0 —	1 —	3 —	0 —	3 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	1 —	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	2 —	4 —	—	—	
	事	1 —	0 —	8 —	0 —	7 —	0 —	2 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	3 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	20 (32.8)	12 (19.7)	18 (30.0)	0 (0)	4 (6.6)	6 (9.8)	1 (1.6)	61 (100)			
	無	10 (18.9)	8 (15.1)	19 (35.8)	1 (1.9)	8 (15.1)	2 (3.8)	5 (9.4)	53 (100)			

第192図 1.12 あらくれ（保）

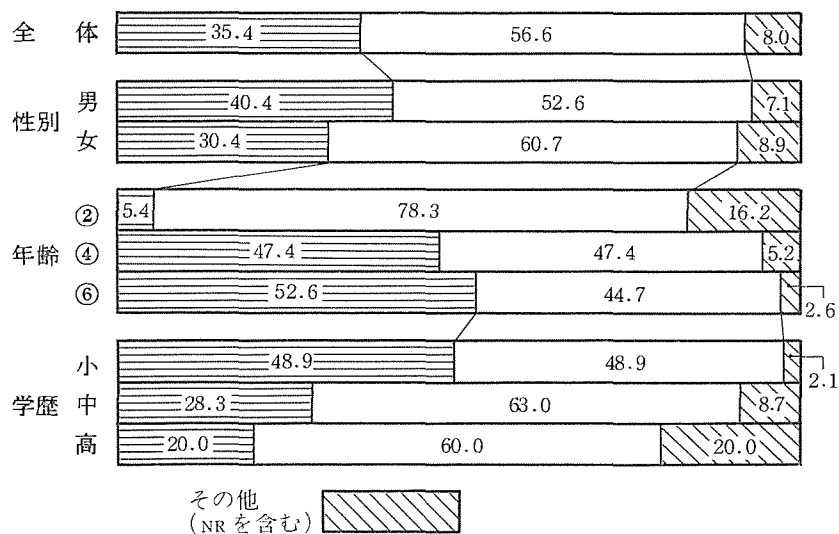


第209表 1.12 あらくれ(茂)

5. しらない 6. その他

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	19 (16.8)	21 (18.6)	39 (34.5)	6 (5.3)	19 (16.8)	2 (1.8)	7 (6.2)	113 (100)	** (3*2)	(3)	
性	男	11 (19.3)	12 (21.1)	19 (33.3)	3 (5.3)	8 (14.0)	1 (1.8)	3 (5.3)	57 (100)			
別	女	8 (14.3)	9 (16.1)	20 (35.7)	3 (5.4)	11 (19.6)	1 (1.8)	4 (7.1)	56 (100)			
年	②	0 (0)	2 (5.4)	12 (32.4)	2 (5.4)	15 (40.5)	0 (0)	6 (16.2)	37 (100)			
齢	④	6 (15.8)	12 (31.6)	12 (31.6)	3 (7.9)	3 (7.9)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)	——	—	
	⑥	13 (34.2)	7 (18.4)	15 (39.5)	1 (2.6)	1 (2.6)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)			
学	小	15 (31.9)	8 (17.0)	19 (40.4)	3 (6.4)	1 (2.1)	1 (2.1)	0 (0)	47 (100)			
歴	中	4 (8.7)	9 (19.6)	13 (28.3)	2 (4.3)	14 (30.4)	0 (0)	4 (8.7)	46 (100)			
	高	0 —	4 —	7 —	1 —	4 —	1 —	3 —	20 —	——	—	
職	農	13 (26.5)	12 (24.5)	16 (32.7)	4 (8.2)	2 (4.1)	1 (2.0)	1 (2.0)	49 (100)			
	工	4 (16.7)	4 (16.7)	8 (33.3)	0 (0)	7 (29.2)	0 (0)	1 (4.2)	24 (100)	——	—	
	商	0 —	1 —	3 —	1 —	4 —	0 —	1 —	10 —	——	—	
業	事	0 —	2 —	6 —	1 —	5 —	0 —	4 —	18 —	——	—	
	無	2 —	2 —	6 —	0 —	1 —	1 —	0 —	12 —	——	—	
役	有	8 (16.0)	10 (20.0)	17 (34.0)	2 (4.0)	7 (14.0)	1 (2.0)	5 (10.0)	50 (100)			
員	無	11 (17.5)	11 (17.5)	22 (34.9)	4 (6.3)	12 (19.0)	1 (1.6)	2 (3.2)	63 (100)	*		

第193図 1.12 あらくれ(茂)

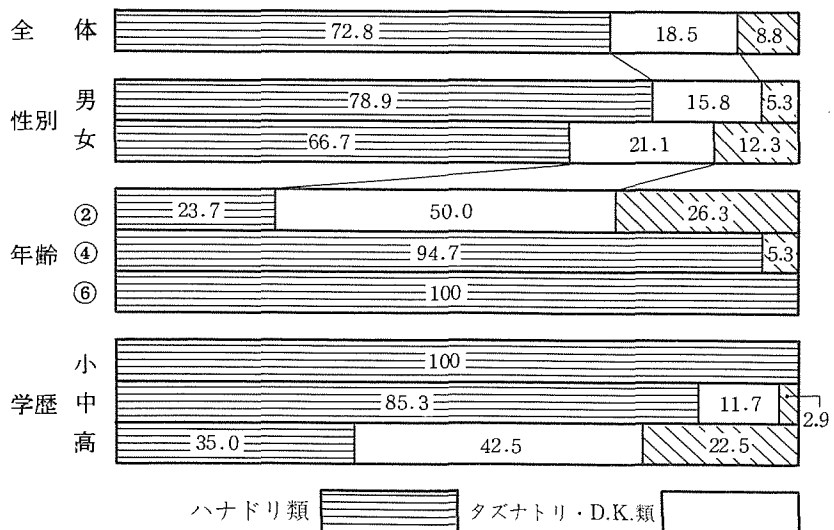


第210表 1.13(1) 鼻どり (保)

1. ハナドリ類 2. タズナトリ類 3. しらない

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	83 (72.8)	2 (1.8)	19 (16.7)	10 (8.8)	114 (100)	** 1**1	1	
性 別	男	45 (78.9)	2 (3.5)	7 (12.3)	3 (5.3)	57 (100)	** 1**1	1	
	女	38 (66.7)	0 (0)	12 (21.1)	7 (12.3)	57 (100)	** 1*1	1	
年 齢	②	9 (23.7)	2 (5.3)	17 (44.7)	10 (26.3)	38 (100)			
	④	36 (94.7)	0 (0)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)	** 1**1	1	—
	⑥	38 (100)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	38 (100)		①	
学 歴	小	40 (100)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	40 (100)		①	
	中	29 (85.3)	1 (2.9)	3 (8.8)	1 (2.9)	34 (100)	** 1**1	1	—
	高	14 (35.0)	1 (2.5)	16 (40.0)	9 (22.5)	40 (100)			
職 業	農	76 (92.7)	0 (0)	5 (6.1)	1 (1.2)	82 (100)	** 1**1	1	
	工	2 —	0 —	4 —	1 —	7 —	—	—	
	商	1 —	1 —	0 —	2 —	4 —	—	—	**
	事	2 —	1 —	9 —	6 —	18 —	—	—	
	無	2 —	0 —	1 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	55 (90.2)	0 (0)	3 (4.9)	3 (4.9)	61 (100)	** 1**1	1	
	無	28 (52.8)	2 (3.8)	16 (30.2)	7 (13.2)	53 (100)	**		**

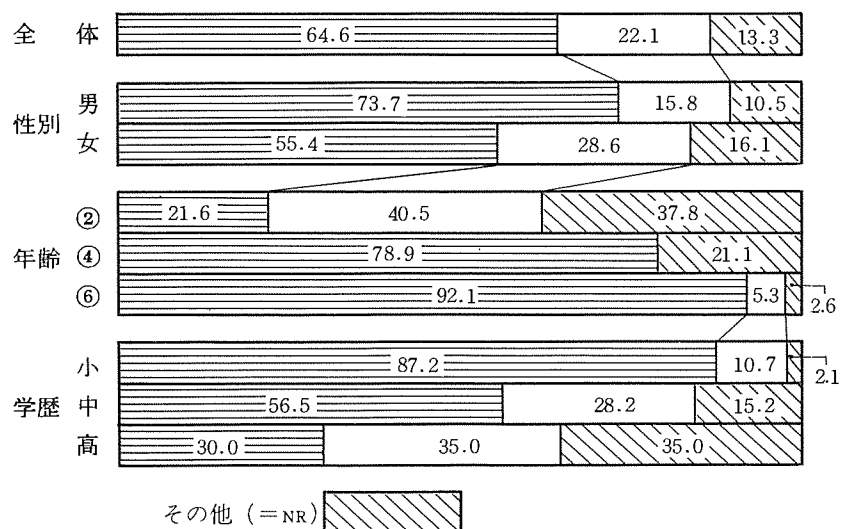
第194図 1.13(1) 鼻どり (保)



第211表 1.13(1) 鼻どり(茂)

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全	体	73 (64.6)	5 (4.4)	20 (17.7)	15 (13.3)	113 (100)	** 1**1	1	
性 別	男	42 (73.7)	2 (3.5)	7 (12.3)	6 (10.5)	57 (100)	** 1**1	1	
	女	31 (55.4)	3 (5.4)	13 (23.2)	9 (16.1)	56 (100)	** (1**3)	(1)	
年 齢	②	8 (21.6)	0 (0)	15 (40.5)	14 (37.8)	37 (100)			
	④	30 (78.9)	3 (7.9)	5 (13.2)	0 (0)	38 (100)	** 1**1	1	**
	⑥	35 (92.1)	2 (5.3)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)	** 1**1	1	
学 歴	小	41 (87.2)	3 (6.4)	2 (4.3)	1 (2.1)	47 (100)	** 1**1	1	
	中	26 (56.5)	2 (4.3)	11 (23.9)	7 (15.2)	46 (100)	** (1*3)	(1)	**
	高	6 —	0 —	7 —	7 —	20 —	— —	— —	
職 業	農	41 (83.7)	4 (8.2)	2 (4.1)	2 (4.1)	49 (100)	** 1**1	1	
	工	17 (70.8)	1 (4.2)	3 (12.5)	3 (12.5)	24 (100)	— —	— —	
	商	2 —	0 —	7 —	1 —	10 —	— —	— —	*
	事	3 —	0 —	7 —	8 —	18 —	— —	— —	
	無	10 —	0 —	1 —	1 —	12 —	— —	— —	
役 員	有	36 (72.0)	1 (2.0)	7 (14.0)	6 (12.0)	50 (100)	** 1**1	1	
	無	37 (58.7)	4 (6.3)	13 (20.6)	9 (14.3)	63 (100)	** (1**3)	(1)	

第195図 1.13(1) 鼻どり(茂)

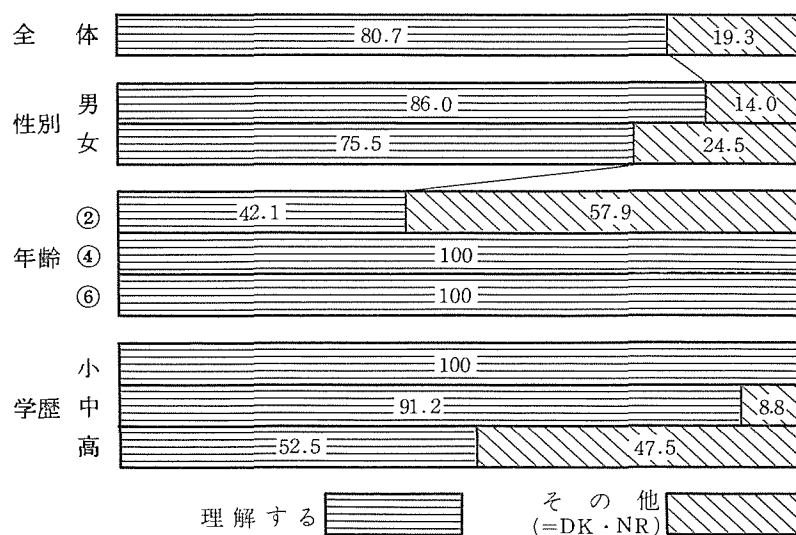


第212表 1.13(2) 「鼻どり」, きけばわかりますか (保)

1. わかる 2. しらない

		1	2	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		8 (26.7)	21 (70.0)	1 (3.3)	30 (100)	** 2*2	2	
性 別	男	3 —	7 —	1 —	11 —	—	—	—
	女	5 —	14 —	0 —	19 —	—	—	
年 齢	②	7 (24.1)	21 (72.4)	1 (3.4)	29 (100)	—	—	—
	④	1 —	0 —	0 —	1 —	—	—	
	⑥	0 —	0 —	0 —	0 —	—	—	
学 歴	小	0 —	0 —	0 —	0 —	—	—	—
	中	2 —	2 —	1 —	5 —	—	—	
	高	6 (24.0)	19 (76.0)	0 (0)	25 (100)	—	—	
職 業	農	2 —	3 —	0 —	5 —	—	—	—
	工	1 —	4 —	0 —	5 —	—	—	
	商	0 —	2 —	1 —	3 —	—	—	
	事	4 —	12 —	0 —	16 —	—	—	
	無	1 —	0 —	0 —	1 —	—	—	
役 員	有	1 —	4 —	0 —	5 —	—	—	—
	無	7 (28.0)	17 (68.0)	1 (4.0)	25 (100)	—	—	

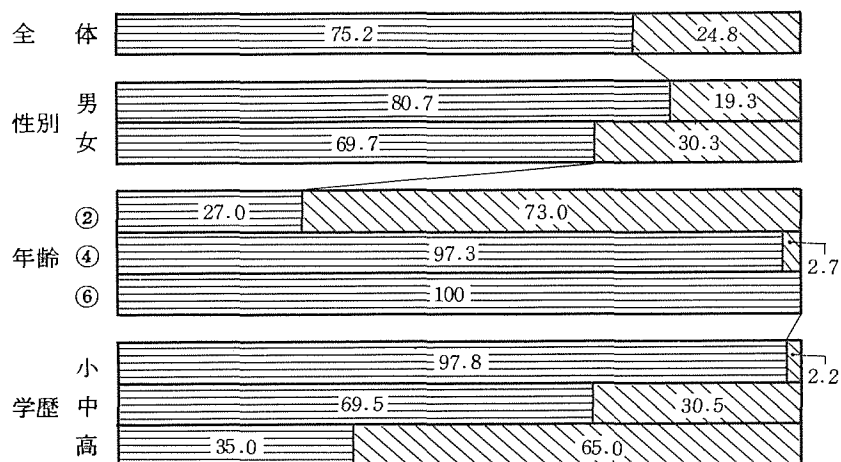
第196図 1.13(2) 鼻どり(わかるか) (保)



第213表 1.13(2) 「鼻どり」, きけばわかりますか (茂)

		1	2	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全	体	12 (30.0)	28 (70.0)	0 (0)	40 (100)	** 2*2	2	
性 別	男	4 —	11 —	0 —	15 —	—	—	—
	女	8 (32.0)	17 (68.0)	0 (0)	25 (100)	—	—	
年 齢	②	2 (6.9)	27 (93.1)	0 (0)	29 (100)	—	—	—
	④	7 —	1 —	0 —	8 —	—	—	
	⑥	3 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
学 歴	小	5 —	1 —	0 —	6 —	—	—	—
	中	6 —	14 —	0 —	20 —	—	—	
	高	1 —	13 —	0 —	14 —	—	—	
職 業	農	6 —	2 —	0 —	8 —	—	—	—
	工	2 —	5 —	0 —	7 —	—	—	
	商	3 —	5 —	0 —	8 —	—	—	
	事	0 —	15 —	0 —	15 —	—	—	
	無	1 —	1 —	0 —	2 —	—	—	
役 員	有	3 —	11 —	0 —	14 —	—	—	—
	無	9 (34.6)	17 (65.4)	0 (0)	26 (100)	—	—	

第197図 1.13(2) 鼻どり(わかるか) (茂)

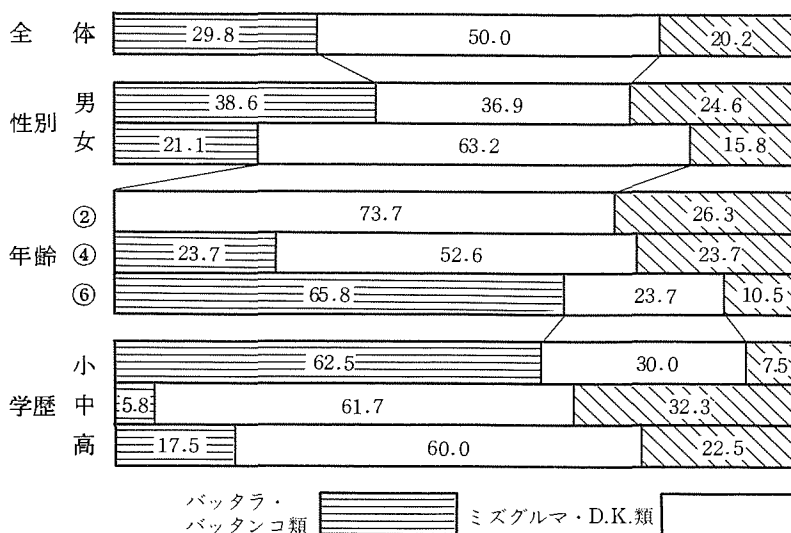


第214表 3.07(1) バッタラ (保)

1. バッタラ類 2. バッタンコ類 3. ミズグルマ類

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		12 (10.5)	22 (19.3)	8 (7.0)	49 (43.0)	1 (0.9)	22 (19.3)	114 (100)	** (4**2,N.R)	(4)	
性 別	男	7 (12.3)	15 (26.3)	1 (1.8)	20 (35.1)	1 (1.8)	13 (22.8)	57 (100)			
	女	5 (8.8)	7 (12.3)	7 (12.3)	29 (50.9)	0 (0)	9 (15.8)	57 (100)	**		
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	2 (5.3)	26 (68.4)	0 (0)	10 (26.3)	38 (100)	** 4*4	4	**
	④	2 (5.3)	7 (18.4)	4 (10.5)	16 (42.1)	1 (2.6)	8 (21.1)	38 (100)			
	⑥	10 (26.3)	15 (39.5)	2 (5.3)	7 (18.4)	0 (0)	4 (10.5)	38 (100)			
学 歴	小	8 (20.0)	17 (42.5)	3 (7.5)	9 (22.5)	0 (0)	3 (7.5)	40 (100)			**
	中	1 (2.9)	1 (2.9)	3 (8.8)	18 (52.9)	1 (2.9)	10 (29.4)	34 (100)			
	高	3 (7.5)	4 (10.0)	2 (5.0)	22 (55.0)	0 (0)	9 (22.5)	40 (100)	** (4*N.R)	(4)	
職 業	農	12 (14.6)	20 (24.4)	7 (8.5)	28 (34.1)	1 (1.2)	14 (17.1)	82 (100)	**		
	工	0 —	0 —	0 —	6 —	0 —	1 —	7 —	—	—	
	商	0 —	1 —	1 —	1 —	0 —	1 —	4 —	—	—	
	事	0 —	0 —	0 —	12 —	0 —	6 —	18 —	—	—	
	無	0 —	1 —	0 —	2 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	9 (14.8)	15 (24.6)	3 (4.9)	20 (32.8)	0 (0)	14 (23.0)	61 (100)			
	無	3 (5.7)	7 (13.2)	5 (9.4)	29 (54.7)	1 (1.9)	8 (15.1)	53 (100)	** (4**N.R)	(4)	

第198図 3.07(1) バッタラ (保)

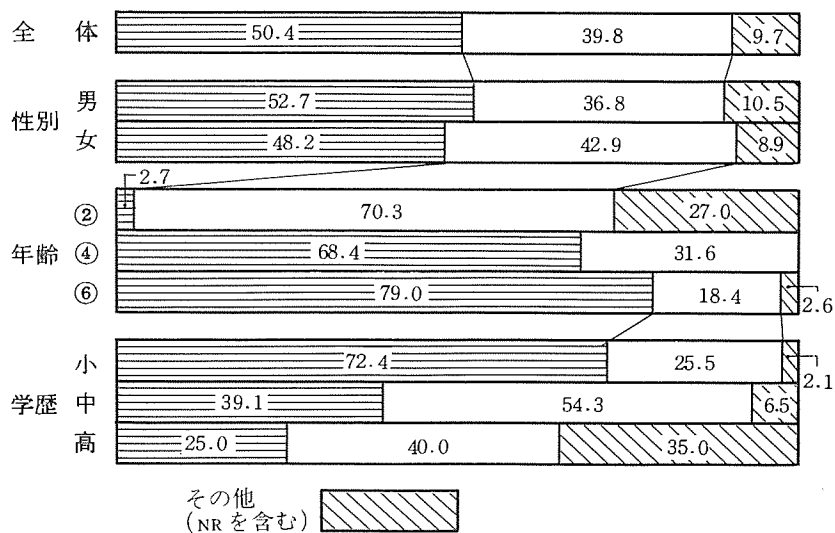


第215表 3.07(1) バッタラ (茂)

4. しらない 5. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	52 (46.0)	5 (4.4)	20 (17.7)	25 (22.1)	11 (9.7)	113 (100)	** (1**4)	(1)	
性 別	男	29 (50.9)	1 (1.8)	11 (19.3)	10 (17.5)	6 (10.5)	57 (100)	** (1**3)	(1)	
	女	23 (41.1)	4 (7.1)	9 (16.1)	15 (26.8)	5 (8.9)	56 (100)	*		
年 齢	②	1 (2.7)	0 (0)	7 (18.9)	19 (51.4)	10 (27.0)	37 (100)			
	④	23 (60.5)	3 (7.9)	7 (18.4)	5 (13.2)	0 (0)	38 (100)	** (1**3)	(1)	*
	⑥	28 (73.7)	2 (5.3)	6 (15.8)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)	** 1**1	1	
学 歴	小	32 (68.1)	2 (4.3)	9 (19.1)	3 (6.4)	1 (2.1)	47 (100)	** 1*1	1	
	中	15 (32.6)	3 (6.5)	10 (21.7)	15 (32.6)	3 (6.5)	46 (100)	—	—	*
	高	5 —	0 —	1 —	7 —	7 —	20 —	—	—	
職 業	農	34 (69.4)	3 (6.1)	8 (16.3)	3 (6.1)	1 (2.0)	49 (100)	** 1**1	1	
	工	11 (45.8)	1 (4.2)	6 (25.0)	5 (20.8)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	商	1 —	0 —	0 —	8 —	1 —	10 —	—	—	**
	事	1 —	1 —	1 —	7 —	8 —	18 —	—	—	
	無	5 —	0 —	5 —	2 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	30 (60.0)	2 (4.0)	7 (14.0)	7 (14.0)	4 (8.0)	50 (100)	** (1**3,4)	(1)	
	無	22 (34.9)	3 (4.8)	13 (20.6)	18 (28.6)	7 (11.1)	63 (100)			

第199図 3.07(1) バッタラ (茂)

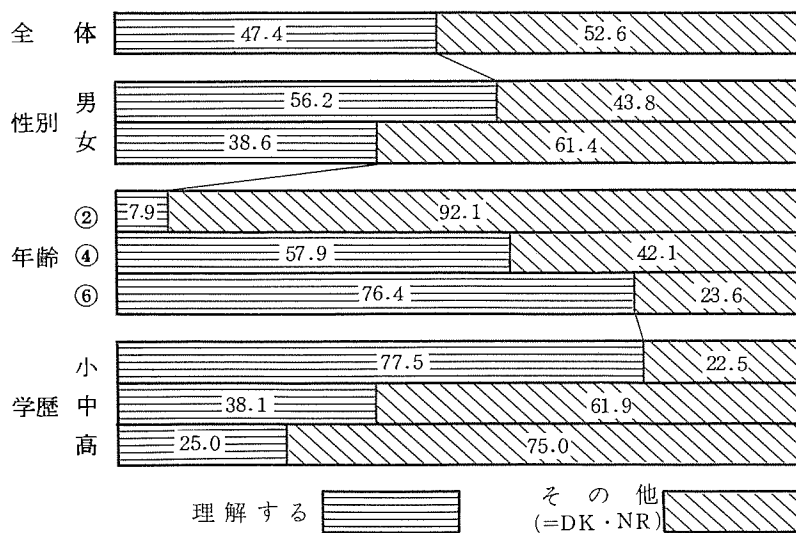


第216表 3.07(2) 「バッタラ」, きけばわかりますか (保)

1. わかる 2. しらない

		1	2	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	17 (22.1)	58 (75.3)	2 (2.6)	77 (100)	** — 2**2	2	
性 別	男	7 (21.9)	24 (75.0)	1 (3.1)	32 (100)	** — 2**2	2	
	女	10 (22.2)	34 (75.6)	1 (2.2)	45 (100)	** — 2**2	2	
年 齢	②	3 (7.9)	35 (92.1)	0 (0)	38 (100)	** — 2**2	2	
	④	12 (42.9)	15 (53.6)	1 (3.6)	28 (100)	— — —	—	
	⑥	2 —	8 —	1 —	11 —	— — —	—	
学 歴	小	6 —	9 —	0 —	15 —	— — —	—	
	中	8 (27.6)	20 (69.0)	1 (3.4)	29 (100)	— — —	—	
	高	3 (9.1)	29 (87.9)	1 (3.0)	33 (100)	** — 2**2	2	
職 業	農	16 (34.0)	29 (61.7)	2 (4.3)	47 (100)			*
	工	0 —	7 —	0 —	7 —	— — —	—	
	商	1 —	2 —	0 —	3 —	— — —	—	
	事	0 —	18 —	0 —	18 —	— — —	—	
	無	0 —	2 —	0 —	2 —	— — —	—	
役 員	有	9 (25.0)	26 (72.2)	1 (2.8)	36 (100)	** — 2**2	2	
	無	8 (19.5)	32 (78.0)	1 (2.4)	41 (100)	** — 2**2	2	

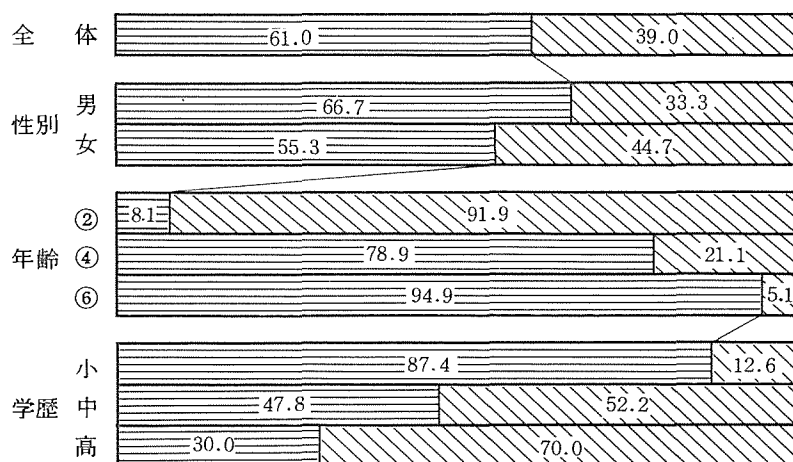
第200図 3.07(2) バッタラ(わかるか) (保)



第217表 3.07(2) 「バッタラ」, きけばわかりますか (茂)

		1	2	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		11 (20.0)	37 (67.3)	7 (12.7)	55 (100)	** 2*2	2	
性 別	男	7 (26.9)	16 (61.5)	3 (11.5)	26 (100)	—	—	
	女	4 (13.8)	21 (72.4)	4 (13.8)	29 (100)	—	—	
年 齢	②	2 (5.6)	32 (88.9)	2 (5.6)	36 (100)	** 2**2	2	**
	④	4 —	5 —	3 —	12 —	—	—	
	⑥	5 —	0 —	2 —	7 —	—	—	
学 歴	小	6 —	3 —	3 —	12 —	—	—	
	中	4 (14.3)	21 (75.0)	3 (10.7)	28 (100)	—	—	
	高	1 —	13 —	1 —	15 —	—	—	
職 業	農	4 —	3 —	4 —	11 —	—	—	
	工	2 —	10 —	0 —	12 —	—	—	
	商	1 —	8 —	0 —	9 —	—	—	
	事	1 —	13 —	2 —	16 —	—	—	
	無	3 —	3 —	1 —	7 —	—	—	
役 員	有	4 —	13 —	1 —	18 —	—	—	
	無	7 (18.9)	24 (64.9)	6 (16.2)	37 (100)	** (2**1)	(2)	

第201図 3.07(2) バッタラ(わかるか) (茂)

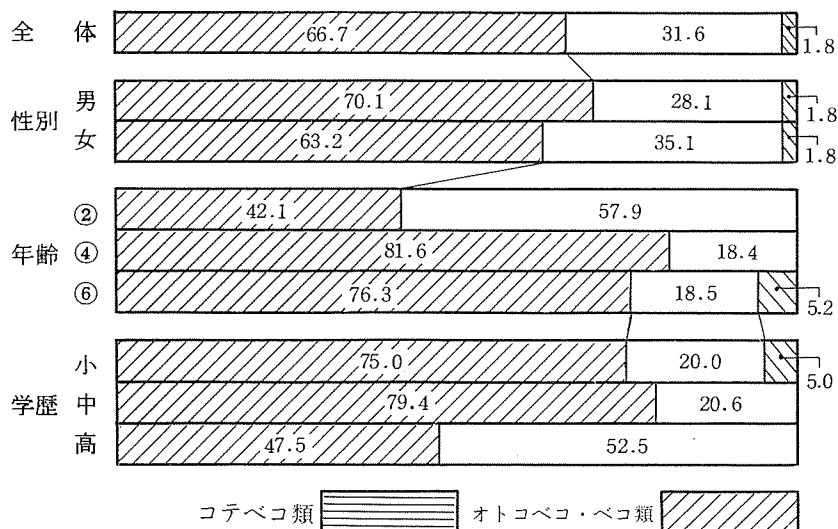


第218表 1.09 牡牛（保）

1. コテベコ類 2. オトコベコ類 3. ベコ類 4. オトコウシ類

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		0 (0)	37 (32.5)	39 (34.2)	6 (5.3)	30 (26.3)	1 (0.9)	1 (0.9)	114 (100)	**		
性 別	男	0 (0)	23 (40.3)	17 (29.8)	2 (3.5)	14 (24.6)	0 (0)	1 (1.8)	57 (100)	**		
	女	0 (0)	14 (24.6)	22 (38.6)	4 (7.0)	16 (28.1)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)	*		
年 齢	②	0 (0)	4 (10.5)	12 (31.6)	0 (0)	22 (57.9)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	**		
	④	0 (0)	18 (47.4)	13 (34.2)	4 (10.5)	3 (7.9)	0 (0)	0 (2.0)	38 (100)			*
	⑥	0 (0)	15 (39.5)	14 (36.8)	2 (5.3)	5 (13.2)	1 (2.6)	0 (2.6)	38 (100)			
学 歴	小	0 (0)	16 (40.0)	14 (35.0)	2 (5.0)	6 (15.0)	1 (2.5)	1 (2.5)	40 (100)			
	中	0 (0)	14 (41.2)	13 (38.2)	2 (5.9)	5 (14.7)	0 (0)	0 (0)	34 (100)			
	高	0 (0)	7 (17.5)	12 (30.0)	2 (5.0)	19 (47.5)	0 (0)	0 (0)	40 (100)			
職 業	農	0 (0)	35 (42.7)	27 (32.9)	6 (7.3)	12 (14.6)	1 (1.2)	1 (1.2)	82 (100)	**		
	工	0 —	0 —	5 —	0 —	2 —	0 —	0 —	7 —		—	
	商	0 —	0 —	1 —	0 —	3 —	0 —	0 —	4 —		—	*
	事	0 —	2 —	3 —	0 —	13 —	0 —	0 —	18 —		—	
	無	0 —	0 —	3 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —		—	
役 員	有	0 —	23 (37.7)	20 —	4 (6.6)	12 —	0 (1.6)	1 (1.6)	61 (100)	**		
	無	0 —	14 (26.4)	19 —	2 (3.8)	13 —	0 (0)	0 (0)	53 (100)			

第202図 1.09(1) 牡牛（保）

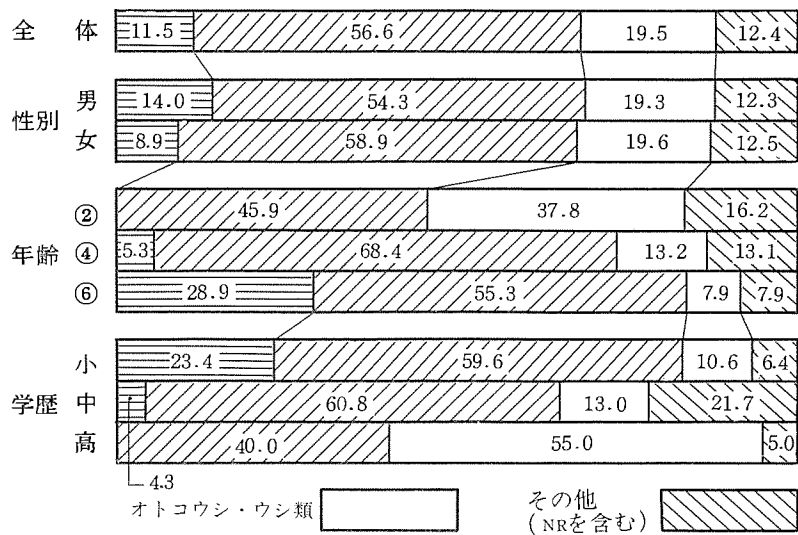


第219表 1.09 牡牛（茂）

5. ウシ類 6. その他

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		13 (11.5)	46 (40.7)	18 (15.9)	9 (8.0)	13 (11.5)	6 (5.3)	8 (7.1)	113 (100)	** (2**3)	(2)	
性 別	男	8 (14.0)	21 (36.8)	10 (17.5)	5 (8.8)	6 (10.5)	6 (10.5)	1 (1.8)	57 (100)	** (2*3)	(2)	
	女	5 (8.9)	25 (44.6)	8 (14.3)	4 (7.1)	7 (12.5)	0 (0)	7 (12.5)	56 (100)	** (2**3)	(2)	
年 齢	②	0 (0)	11 (29.7)	6 (16.2)	5 (13.5)	9 (24.3)	0 (0)	6 (16.2)	37 (100)			
	④	2 (5.3)	17 (44.7)	9 (23.7)	3 (7.9)	2 (5.3)	4 (10.5)	1 (2.6)	38 (100)			
	⑥	11 (28.9)	18 (47.4)	3 (7.9)	1 (2.6)	2 (5.3)	2 (5.3)	1 (2.6)	38 (100)			
学 歴	小	11 (23.4)	22 (46.8)	6 (12.8)	1 (2.1)	4 (8.5)	2 (4.3)	1 (2.1)	47 (100)	*		
	中	2 (4.3)	18 (39.1)	10 (21.7)	4 (8.7)	2 (4.3)	3 (6.5)	7 (15.2)	46 (100)			
	高	0 —	6 —	2 —	4 —	7 —	1 —	0 —	20 —	—	—	
業 職	農	8 (16.3)	23 (46.9)	8 (16.3)	2 (4.1)	3 (6.1)	2 (4.1)	3 (6.1)	49 (100)	** (2**1, 3)	(2)	
	工	1 (4.2)	14 (58.3)	3 (12.5)	1 (4.2)	0 (0)	4 (16.7)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	商	1 —	0 —	3 —	1 —	3 —	0 —	2 —	10 —	—	—	
	事	0 —	4 —	4 —	3 —	6 —	0 —	1 —	18 —	—	—	
	無	3 —	5 —	0 —	2 —	1 —	0 —	1 —	12 —	—	—	
役 員	有	6 (12.0)	20 (40.0)	8 (16.0)	3 (6.0)	5 (10.0)	4 (8.0)	4 (8.0)	50 (100)	** (2*3)	(2)	
	無	7 (11.1)	26 (41.3)	10 (15.9)	6 (9.5)	8 (12.7)	2 (3.2)	4 (6.3)	63 (100)	** (2**3)	(2)	

第203図 1.09(1) 牡牛（茂）

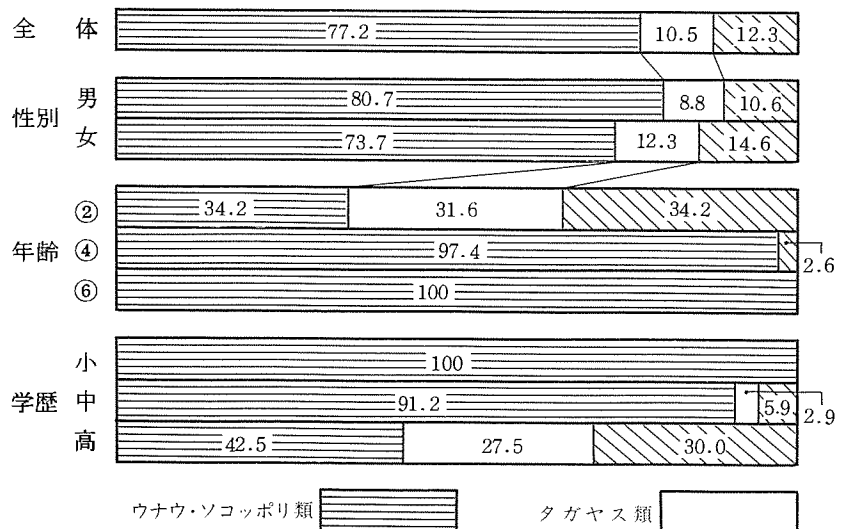


第220表 3.01 深く耕す（保）

1. ウナウ類 2. ソコッポリ類 3. タガヤス類

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	81 (71.1)	7 (6.1)	12 (10.5)	1 (0.9)	13 (11.4)	114 (100)	** 1**I	1	
性 別	男	40 (70.2)	6 (10.5)	5 (8.8)	1 (1.8)	5 (8.8)	57 (100)	** 1**I	1	
	女	41 (71.9)	1 (1.8)	7 (12.3)	0 (0)	8 (14.6)	57 (100)	** 1**I	1	
年 齢	②	12 (31.6)	1 (2.6)	12 (31.6)	1 (2.6)	12 (31.6)	38 (100)	—	—	
	④	34 (89.5)	3 (7.9)	0 (0)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)	** 1**I	1	**
	⑥	35 (92.1)	3 (7.9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 1**I	1	
学 歴	小	37 (92.5)	3 (7.5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	40 (100)	** 1**I	1	**
	中	29 (85.3)	2 (5.9)	1 (2.9)	0 (0)	2 (5.9)	34 (100)	** 1**I	1	
	高	15 (37.5)	2 (5.0)	11 (27.5)	1 (2.5)	11 (27.5)	40 (100)			
職 業	農	70 (85.4)	6 (7.3)	1 (1.2)	1 (1.2)	4 (4.9)	82 (100)	** 1**I	1	**
	工	4 —	0 —	1 —	0 —	2 —	7 —	—	—	
	商	1 —	0 —	3 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	3 —	1 —	7 —	0 —	7 —	18 —	—	—	
	無	3 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	50 (82.0)	6 (9.8)	2 (3.3)	1 (1.6)	2 (3.3)	61 (100)	** 1**I	1	
	無	31 (58.5)	1 (1.9)	10 (18.9)	0 (0)	11 (20.8)	53 (100)	** (1**N.R)	(1)	

第204図 3.01 耕す(深く)（保）

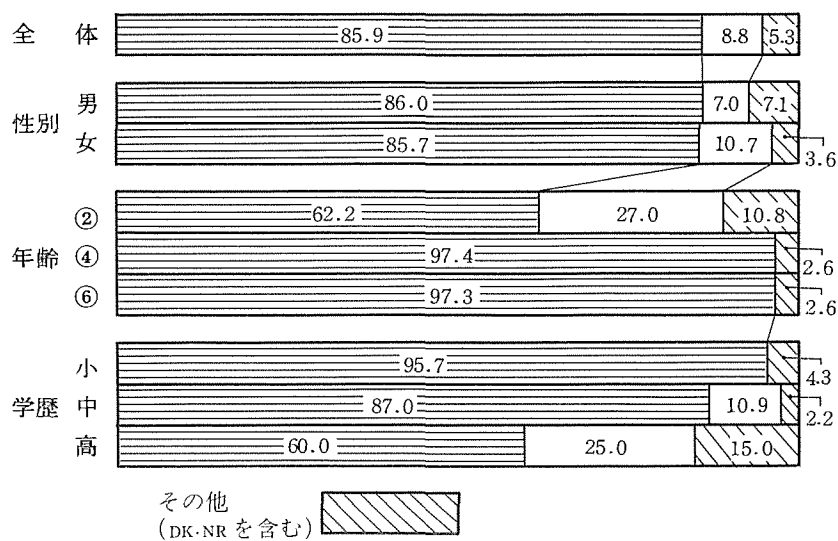


第221表 3.01 深く耕す（茂）

4. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全 体		96 (85.0)	1 (0.9)	10 (8.8)	1 (0.9)	5 (4.4)	113 (100)	** 1** \bar{I}	1	
性 別	男	49 (86.0)	0 (0)	4 (7.0)	1 (1.8)	3 (5.3)	57 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	女	47 (83.9)	1 (1.8)	6 (10.7)	0 (0)	2 (3.6)	56 (100)	** 1** \bar{I}	1	
年 齢	②	23 (62.2)	0 (0)	10 (27.0)	1 (2.7)	3 (8.1)	37 (100)	** (1*3)	(1)	
	④	37 (97.4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	⑥	36 (94.7)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
学 歴	小	44 (93.6)	1 (2.1)	0 (0)	0 (0)	2 (4.3)	47 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	中	40 (87.0)	0 (0)	5 (10.9)	0 (0)	1 (2.2)	46 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	高	12 —	0 —	5 —	1 —	2 —	20 —	— —	—	
職 業	農	45 (91.8)	1 (2.0)	0 (0)	1 (2.0)	2 (4.1)	49 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	工	23 (95.8)	0 (0)	1 (4.2)	0 (0)	0 (0)	24 (100)	— —	—	
	商	8 —	0 —	2 —	0 —	0 —	10 —	— —	—	
	事	8 —	0 —	7 —	0 —	3 —	18 —	— —	—	
	無	12 —	0 —	0 —	0 —	0 —	12 —	— —	—	
役 員	有	41 (82.0)	0 (0)	5 (10.0)	1 (2.0)	3 (6.0)	50 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	無	55 (87.3)	1 (1.6)	5 (7.9)	0 (0)	2 (3.2)	63 (100)	** 1** \bar{I}	1	

第205図 3.01 耕す(深く)（茂）

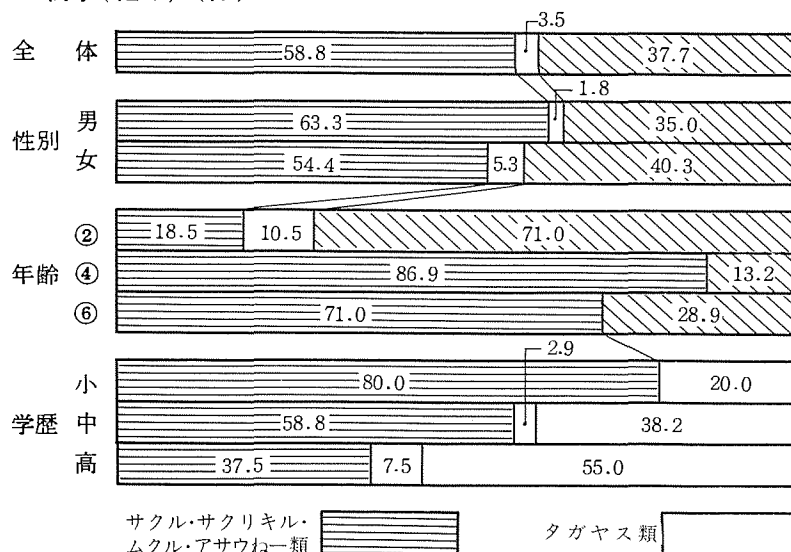


第222表 3.02 軽く耕す(保)

1. サクル類 2. サクリキル類 3. ムクル類 4. アサウねー類

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		45 (39.5)	14 (12.3)	5 (4.4)	3 (2.6)	4 (3.5)	20 (17.5)	18 (15.8)	5 (4.4)	114 (100)	** (1**6)	(1)	
性 別	男	23 (40.4)	7 (12.3)	3 (5.3)	3 (5.3)	1 (1.8)	10 (17.5)	8 (14.0)	2 (3.5)	57 (100)	** (1*6)	(1)	
	女	22 (38.6)	7 (12.3)	2 (3.5)	0 (0)	3 (5.3)	10 (17.5)	10 (17.5)	3 (5.3)	57 (100)	** (1*6,7)	(1)	
年 齢	②	2 (5.3)	1 (2.6)	2 (5.3)	2 (5.3)	4 (10.5)	20 (52.6)	3 (7.9)	4 (10.5)	38 (100)	** (6**5,N.R)	(6)	
	④	22 (57.9)	9 (23.7)	2 (5.3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (13.2)	0 (0)	38 (100)	** (1*2)	(1)	**
	⑥	21 (55.3)	4 (10.5)	1 (2.6)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	10 (26.3)	1 (2.6)	38 (100)	** (1*7)	(1)	
学 歴	小	25 (62.5)	4 (10.0)	2 (5.0)	1 (2.5)	0 (0)	0 (0)	7 (17.5)	1 (2.5)	40 (100)	** (1**7)	(1)	
	中	11 (32.4)	7 (20.6)	1 (2.9)	1 (2.9)	1 (2.9)	5 (14.7)	8 (23.5)	0 (0)	34 (100)			
	高	9 (22.5)	3 (7.5)	2 (5.0)	1 (2.5)	3 (7.5)	15 (37.5)	3 (7.5)	4 (10.0)	40 (100)			
職 業	農	42 (51.2)	12 (14.6)	2 (2.4)	2 (2.4)	1 (1.2)	5 (6.1)	17 (20.7)	1 (1.2)	82 (100)	** (1**7)	(1)	
	工	1 —	0 —	0 —	0 —	1 —	5 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	2 —	4 —	—	—	*
	事	1 —	1 —	2 —	1 —	2 —	8 —	1 —	2 —	18 —	—	—	
	無	1 —	0 —	1 —	0 —	0 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	30 (49.2)	6 (9.8)	3 (4.9)	3 (4.9)	2 (3.3)	3 (4.9)	12 (19.7)	2 (3.3)	61 (100)	** (1**7)	(1)	
	無	15 (28.3)	8 (15.1)	2 (3.8)	0 (0)	2 (3.8)	17 (32.1)	6 (11.3)	3 (5.7)	53 (100)			

第206図 3.02 耕す(軽く)(保)

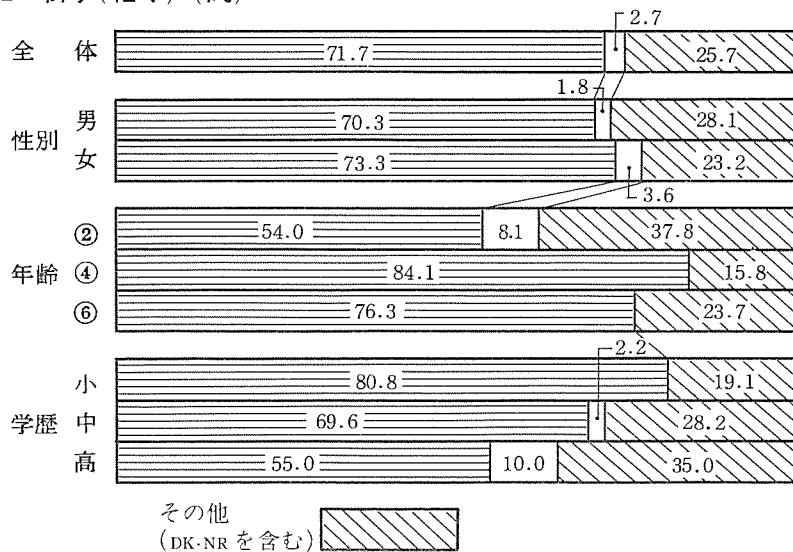


第223表 3.02 軽く耕す(茂)

5. タガヤス類 6. しらない 7. その他

		1	2	3	4	5	6	7	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	51 (45.1)	28 (24.8)	1 (0.9)	1 (0.9)	3 (2.7)	6 (5.3)	14 (12.4)	9 (8.0)	113 (100)	** (1**2)	(1)	
性	男	27 (47.4)	12 (21.1)	1 (1.8)	0 (0)	1 (1.8)	3 (5.3)	9 (15.8)	4 (7.0)	57 (100)	** (1*2)	(1)	
別	女	24 (42.9)	16 (28.6)	0 (0)	1 (1.8)	2 (3.6)	3 (5.4)	5 (8.9)	5 (8.9)	56 (100)	*		
年	②	11 (29.7)	8 (21.6)	0 (0)	1 (2.7)	3 (8.1)	6 (16.2)	1 (2.7)	7 (18.9)	37 (100)			
齢	④	17 (44.7)	14 (36.8)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (13.2)	1 (2.6)	38 (100)			
	⑥	23 (60.5)	6 (15.8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (21.1)	1 (2.6)	38 (100)	** (1**7)	(1)	
学	小	27 (57.4)	11 (23.4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (17.0)	1 (2.1)	47 (100)	** (1**2)	(1)	
歴	中	20 (43.5)	11 (23.9)	0 (0)	1 (2.2)	1 (2.2)	2 (4.3)	6 (13.0)	5 (10.9)	46 (100)			
	高	4 —	6 —	1 —	0 —	2 —	4 —	0 —	3 —	20 —	—	—	
職	農	29 (59.2)	9 (18.4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (18.4)	2 (4.1)	49 (100)	** (1**2, 7)	(1)	
	工	9 (37.5)	7 (29.2)	0 (0)	1 (4.2)	0 (0)	0 (0)	5 (20.8)	2 (8.3)	24 (100)	—	—	
業	商	1 —	5 —	1 —	0 —	0 —	2 —	0 —	1 —	10 —	—	—	
	事	4 —	3 —	0 —	0 —	3 —	4 —	0 —	4 —	18 —	—	—	
	無	8 —	4 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役	有	21 (42.0)	12 (24.0)	1 (2.0)	1 (2.0)	2 (4.0)	2 (4.0)	8 (16.0)	3 (6.0)	50 (100)			
員	無	30 (47.6)	16 (25.4)	0 (0)	0 (0)	1 (1.6)	4 (6.3)	6 (9.5)	6 (9.5)	63 (100)	** (1*2)	(1)	

第207図 3.02 耕す(軽く)(茂)

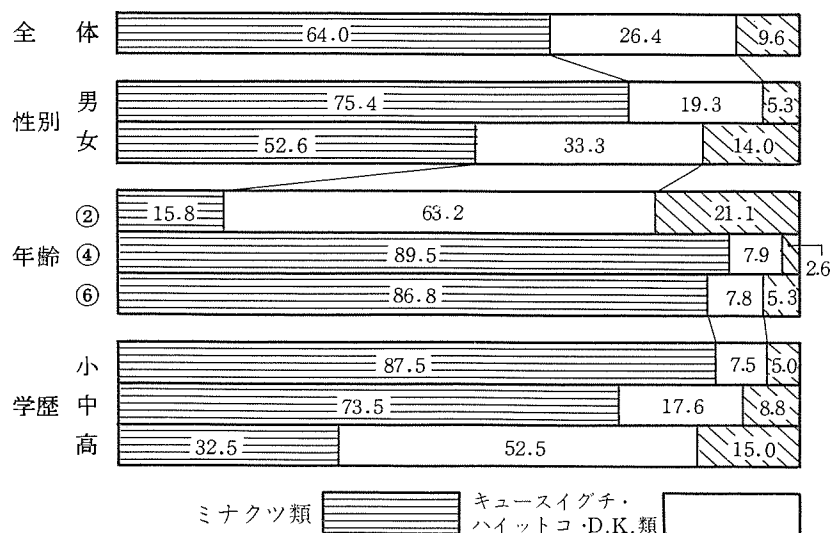


第224表 1.10 水口（入口）（保）

1. ミナクツ類 2. キュースイグチ類 3. ハイットコ類

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	73 (64.0)	8 (7.0)	4 (3.5)	18 (15.9)	11 (9.6)	114 (100)	** 1** \bar{I}	1	
性 別	男	43 (75.4)	3 (5.3)	0 (0)	8 (14.0)	3 (5.3)	57 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	女	30 (52.6)	5 (8.8)	4 (7.0)	10 (17.5)	8 (14.0)	57 (100)	** (1**4)	(1)	
年 齢	②	6 (15.8)	6 (15.8)	3 (7.9)	15 (39.5)	8 (21.1)	38 (100)	** (4**1, 2)	(4)	
	④	34 (89.5)	1 (2.6)	0 (0)	2 (5.3)	1 (2.6)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	**
	⑥	33 (86.8)	1 (2.6)	1 (2.6)	1 (2.6)	2 (5.3)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
学 歴	小	35 (87.5)	1 (2.5)	1 (2.5)	1 (2.5)	2 (5.0)	40 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	中	25 (73.5)	2 (5.9)	1 (2.9)	3 (8.8)	3 (8.8)	34 (100)	** 1** \bar{I}	1	**
	高	13 (32.5)	5 (12.5)	2 (5.0)	14 (35.0)	6 (15.0)	40 (100)			
職 業	農	67 (81.7)	3 (3.7)	1 (1.2)	8 (9.8)	3 (3.7)	82 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	工	2 —	2 —	1 —	1 —	1 —	7 —	—	—	
	商	1 —	0 —	0 —	1 —	2 —	4 —	—	—	**
	事	2 —	3 —	2 —	7 —	4 —	18 —	—	—	
	無	1 —	0 —	0 —	1 —	1 —	3 —	—	—	
役 員	有	50 (82.0)	2 (3.3)	2 (3.3)	3 (4.9)	4 (6.6)	61 (100)	** 1** \bar{I}	1	**
	無	23 (43.4)	6 (11.3)	2 (3.8)	15 (28.3)	7 (13.2)	53 (100)	*		

第208図 1.10 水口（入口）（保）

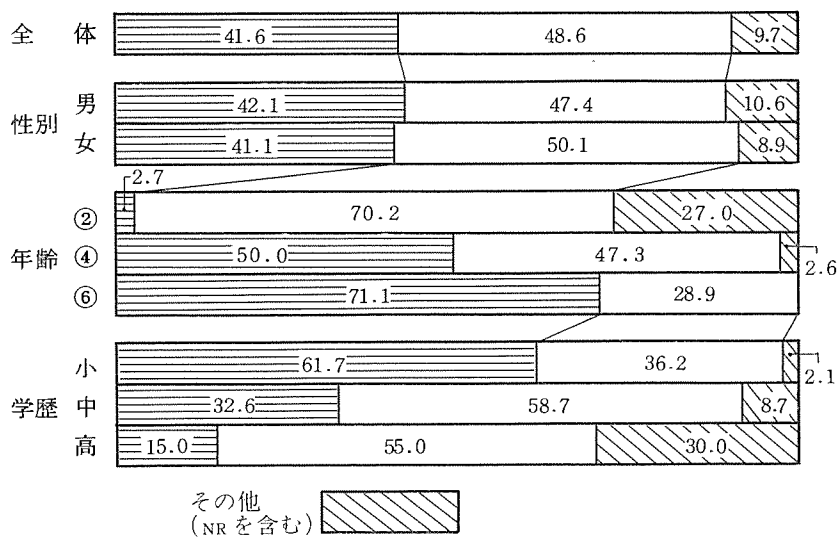


第225表 1.10 水口（入口）（茂）

4. しらない 5. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	47 (41.6)	30 (26.5)	7 (6.2)	18 (15.9)	1 (0.9)	10 (8.8)	113 (100)	**		
性	男	24 (42.1)	14 (24.6)	5 (8.8)	8 (14.0)	1 (1.8)	5 (8.8)	57 (100)	*		
	女	23 (41.1)	16 (28.6)	2 (3.6)	10 (17.9)	0 (0)	5 (8.9)	56 (100)	*		
年	②	1 (2.7)	10 (27.0)	2 (5.4)	14 (37.8)	0 (0)	10 (27.0)	37 (100)			
	④	19 (50.0)	10 (26.3)	4 (10.5)	4 (10.5)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)			**
	⑥	27 (71.1)	10 (26.3)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 1**1	1	
学	小	29 (61.7)	14 (29.8)	1 (2.1)	2 (4.3)	1 (2.1)	0 (0)	47 (100)	** (1*2)	(1)	
	中	15 (32.6)	9 (19.6)	4 (8.7)	14 (30.4)	0 (0)	4 (8.7)	46 (100)			
	高	3 —	7 —	2 —	2 —	0 —	6 —	20 —	—	—	
職	農	29 (59.2)	16 (32.7)	2 (4.1)	0 (0)	1 (2.0)	1 (2.0)	49 (100)			
	工	8 (33.3)	5 (20.8)	2 (8.3)	8 (33.3)	0 (0)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	商	2 —	4 —	0 —	3 —	0 —	1 —	10 —	—	—	*
	事	1 —	2 —	2 —	6 —	0 —	7 —	18 —	—	—	
	無	7 —	3 —	1 —	1 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役	有	23 (46.0)	11 (22.0)	4 (8.0)	8 (16.0)	0 (0)	4 (8.0)	50 (100)	** (1*2)	(1)	
	無	24 (38.1)	19 (30.2)	3 (4.8)	10 (15.9)	1 (1.6)	6 (9.5)	63 (100)			

第209図 1.10 水口（入口）（茂）

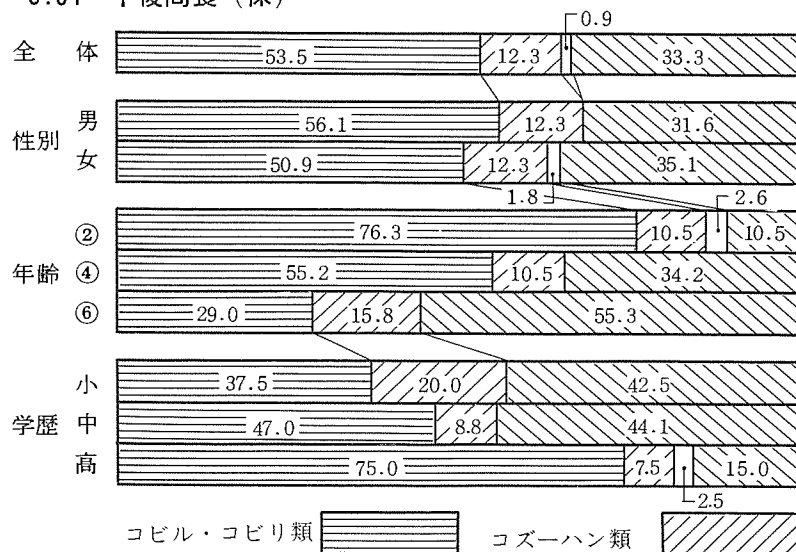


第226表 3.04 午後間食（保）

1. コビル類 2. コビリ類 3. コズーハン類

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	54 (47.4)	7 (6.1)	14 (12.3)	1 (0.9)	38 (33.3)	0 (0)	114 (100)	**		
性 別	男	28 (49.1)	4 (7.0)	7 (12.3)	0 (0)	18 (31.6)	0 (0)	57 (100)	*		
	女	26 (45.6)	3 (5.3)	7 (12.3)	1 (1.8)	20 (35.1)	0 (0)	57 (100)	*		
年 齢	②	28 (73.7)	1 (2.6)	4 (10.5)	1 (2.6)	4 (10.5)	0 (0)	38 (100)	** 1**I	1	*
	④	17 (44.7)	4 (10.5)	4 (10.5)	0 (0)	13 (34.2)	0 (0)	38 (100)			
	⑥	9 (23.7)	2 (5.3)	6 (15.8)	0 (0)	21 (55.3)	0 (0)	38 (100)	** (5*1)	(5)	
学 歴	小	12 (30.0)	3 (7.5)	8 (20.0)	0 (0)	17 (42.5)	0 (0)	40 (100)			
	中	13 (38.2)	3 (8.8)	3 (8.8)	0 (0)	15 (44.1)	0 (0)	34 (100)			
	高	29 (72.5)	1 (2.5)	3 (7.5)	1 (2.5)	6 (15.0)	0 (0)	40 (100)	** 1**I	1	
職 業	農	32 (39.0)	6 (7.3)	11 (13.4)	0 (0)	33 (40.2)	0 (0)	82 (100)	**		
	工	5 —	0 —	1 —	0 —	1 —	0 —	7 —	—	—	
	商	3 —	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	4 —	—	—	
	事	13 —	0 —	2 —	1 —	2 —	0 —	18 —	—	—	
	無	1 —	1 —	0 —	0 —	1 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	26 (42.6)	4 (6.6)	9 (14.8)	1 (1.6)	21 (34.4)	0 (0)	61 (100)			
	無	28 (52.8)	3 (5.7)	5 (9.4)	0 (0)	17 (32.1)	0 (0)	53 (100)	**		

第210図 3.04 午後間食（保）

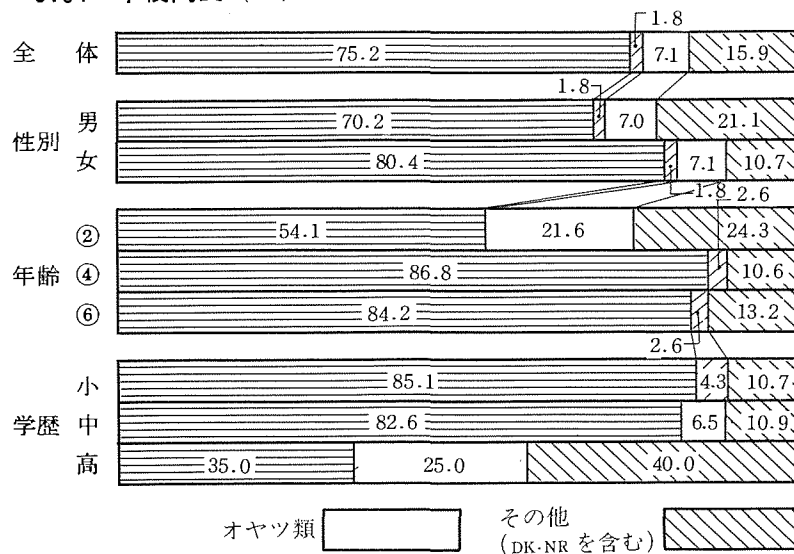


第227表 3.04 午後間食（茂）

4. オヤツ類 5. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	85 (75.2)	0 (0)	2 (1.8)	8 (7.1)	6 (5.3)	12 (10.6)	113 (100)	** 1** \bar{I}	1	
性 別	男	40 (70.2)	0 (0)	1 (1.8)	4 (7.0)	5 (8.8)	7 (12.3)	57 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	女	45 (80.4)	0 (0)	1 (1.8)	4 (7.1)	1 (1.8)	5 (8.9)	56 (100)	** 1** \bar{I}	1	
年 齢	②	20 (54.1)	0 (0)	0 (0)	8 (21.6)	1 (2.7)	8 (21.6)	37 (100)	** (1*4,N.R)	(1)	
	④	33 (86.8)	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	2 (5.3)	2 (5.3)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	⑥	32 (84.2)	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	3 (7.9)	2 (5.3)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
学 歴	小	40 (85.1)	0 (0)	2 (4.3)	0 (0)	3 (6.4)	2 (4.3)	47 (100)	** 1** \bar{I}	1	**
	中	38 (82.6)	0 (0)	0 (0)	3 (6.5)	1 (2.2)	4 (8.7)	46 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	高	7 —	0 —	0 —	5 —	2 —	6 —	20 —	— —	—	
職 業	農	41 (83.7)	0 (0)	1 (2.0)	0 (0)	4 (8.2)	3 (6.1)	49 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	工	20 (83.3)	0 (0)	1 (4.2)	0 (0)	1 (4.2)	2 (8.3)	24 (100)	— —	—	
	商	7 —	0 —	0 —	1 —	1 —	1 —	10 —	— —	—	
	事	6 —	0 —	0 —	7 —	0 —	5 —	18 —	— —	—	
	無	11 —	0 —	0 —	0 —	0 —	1 —	12 —	— —	—	
役 員	有	38 (76.0)	0 (0)	1 (2.0)	4 (8.0)	3 (6.0)	4 (8.0)	50 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	無	47 (74.6)	0 (0)	1 (1.6)	4 (6.3)	3 (4.8)	8 (12.7)	63 (100)	** 1** \bar{I}	1	

第211図 3.04 午後間食（茂）

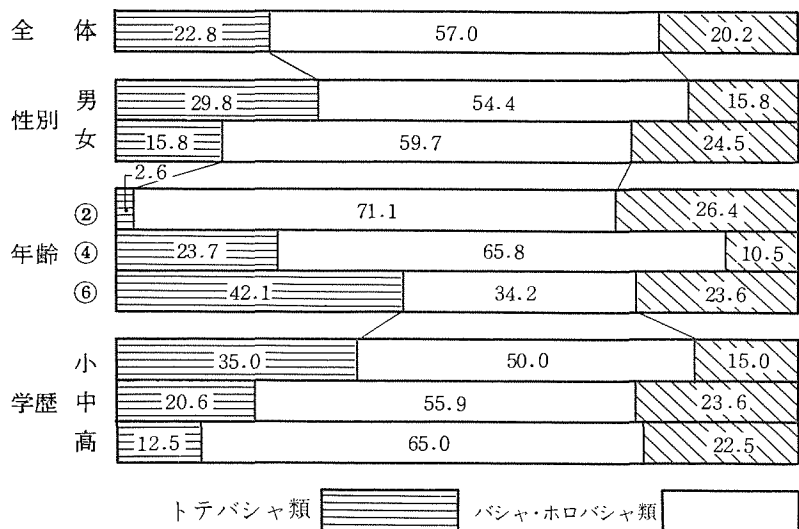


第228表 3.31(1) 乗合馬車(保)

1. トデバシヤ類 2. バシヤ類 3. ホロバシヤ類

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		26 (22.8)	55 (48.2)	10 (8.8)	11 (9.6)	2 (1.8)	10 (8.8)	114 (100)	** (2**1)	(2)	
性 別	男	17 (29.8)	28 (49.1)	3 (5.3)	3 (5.3)	0 (0)	6 (10.5)	57 (100)	**		
	女	9 (15.8)	27 (47.4)	7 (12.3)	8 (14.0)	2 (3.5)	4 (7.0)	57 (100)	** (2**1)	(2)	
年 齢	②	1 (2.6)	24 (63.2)	3 (7.9)	5 (13.2)	0 (0)	5 (13.2)	38 (100)	** (2**4,N.R)	(2)	
	④	9 (23.7)	18 (47.4)	7 (18.4)	2 (5.3)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)			
	⑥	16 (42.1)	13 (34.2)	0 (0)	4 (10.5)	1 (2.6)	4 (10.5)	38 (100)			
学 歴	小	14 (35.0)	18 (45.0)	2 (5.0)	3 (7.5)	0 (0)	3 (7.5)	40 (100)			
	中	7 (20.6)	14 (41.2)	5 (14.7)	4 (11.8)	2 (5.9)	2 (5.9)	34 (100)			
	高	5 (12.5)	23 (57.5)	3 (7.5)	4 (10.0)	0 (0)	5 (12.5)	40 (100)	** (2**1,N.R)	(2)	
職 業	農	26 (31.7)	35 (42.7)	7 (8.5)	7 (8.5)	2 (2.4)	5 (6.1)	82 (100)	**		
	工	0 —	3 —	1 —	3 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	4 —	0 —	0 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	11 —	1 —	1 —	0 —	5 —	18 —	—	—	
	無	0 —	2 —	1 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	19 (31.1)	28 (45.9)	3 (4.9)	5 (8.2)	1 (1.6)	5 (8.2)	61 (100)	**		
	無	7 (13.2)	27 (50.9)	7 (13.2)	6 (11.3)	1 (1.9)	5 (9.4)	53 (100)	** (2**1,3)	(2)	

第212図 3.31(1) 乗合馬車(保)

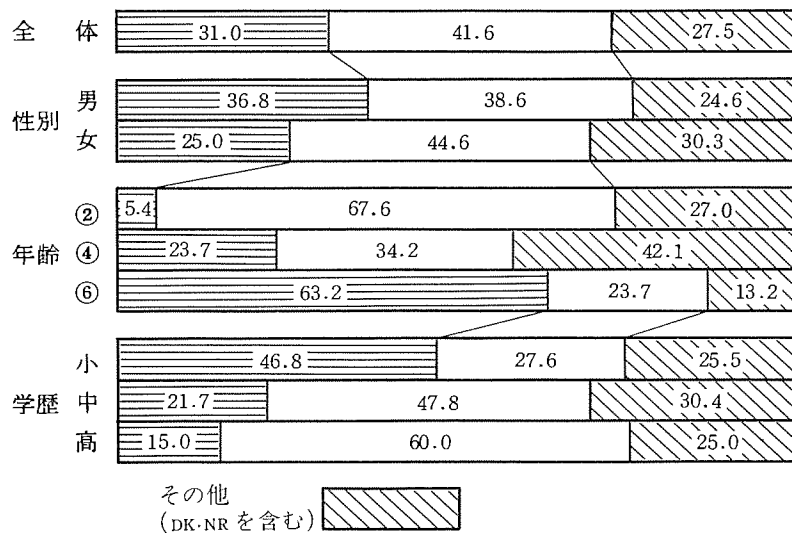


第229表 3.31(1) 乗合馬車(茂)

4. しらない 5. その他

		1	2	3	4	N・R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	35 (31.0)	32 (28.3)	15 (13.3)	22 (19.5)	9 (8.0)	113 (100)	**		
性 別	男	21 (36.8)	13 (22.8)	9 (15.8)	11 (19.3)	3 (5.3)	57 (100)			
	女	14 (25.0)	19 (33.9)	6 (10.7)	11 (19.6)	6 (10.7)	56 (100)			
年 齢	②	2 (5.4)	22 (59.5)	3 (8.1)	8 (21.6)	2 (5.4)	37 (100)	** (2*4)	(2)	**
	④	9 (23.7)	6 (15.8)	7 (18.4)	12 (31.6)	4 (10.5)	38 (100)			
	⑥	24 (63.2)	4 (10.5)	5 (13.2)	2 (5.3)	3 (7.9)	38 (100)	** (1**3)	(1)	
学 歴	小	22 (46.8)	8 (17.0)	5 (10.6)	7 (14.9)	5 (10.6)	47 (100)	** (1**2)	(1)	
	中	10 (21.7)	14 (30.4)	8 (17.4)	12 (26.1)	2 (4.3)	46 (100)			
	高	3 —	10 —	2 —	3 —	2 —	20 —	—	—	
職 業	農	25 (51.0)	8 (16.3)	7 (14.3)	6 (12.2)	3 (6.1)	49 (100)	** (1**2)	(1)	
	工	5 (20.8)	8 (33.3)	4 (16.7)	6 (25.0)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	4 —	3 —	3 —	0 —	10 —	—	—	
	事	1 —	11 —	0 —	5 —	1 —	18 —	—	—	
	無	4 —	1 —	1 —	2 —	4 —	12 —	—	—	
役 員	有	22 (44.0)	14 (28.0)	5 (10.0)	6 (12.0)	3 (6.0)	50 (100)	*		
	無	13 (20.6)	18 (28.6)	10 (15.9)	16 (25.4)	6 (9.5)	63 (100)			

第213図 3.31(1) 乗合馬車(茂)

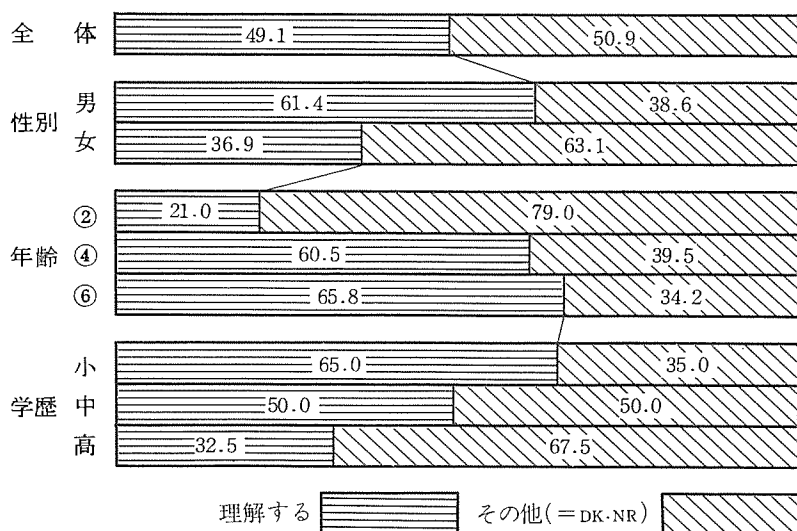


第230表 3.31(2) 「トテ馬車」, きけばわかりますか(保)

1. わかる 2. しらない

		1	2	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	29 (33.3)	55 (63.2)	3 (3.4)	87 (100)	** 2*2	2	
性 別	男	17 (43.6)	22 (56.4)	0 (0)	39 (100)			
	女	12 (25.0)	33 (68.8)	3 (6.3)	48 (100)	** 2*2	2	
年 齢	②	7 (18.9)	29 (78.4)	1 (2.7)	37 (100)	** 2*2	2	
	④	14 (48.3)	13 (44.8)	2 (6.9)	29 (100)	——	—	
	⑥	8 (38.1)	13 (61.9)	0 (0)	21 (100)	——	—	
学 歴	小	11 (44.0)	14 (56.0)	0 (0)	25 (100)	——	—	
	中	10 (37.0)	16 (59.3)	1 (3.7)	27 (100)	——	—	
	高	8 (22.9)	25 (71.4)	2 (5.7)	35 (100)	** 2*2	2	
職 業	農	21 (38.2)	32 (58.2)	2 (3.6)	55 (100)			
	工	2 —	5 —	0 —	7 —	——	—	
	商	2 —	2 —	0 —	4 —	——	—	
	事	3 —	14 —	1 —	18 —	——	—	
	無	1 —	2 —	0 —	3 —	——	—	
役 員	有	17 (41.5)	24 (58.5)	0 (0)	41 (100)			
	無	12 (26.1)	31 (67.4)	3 (6.5)	46 (100)	** 2*2	2	

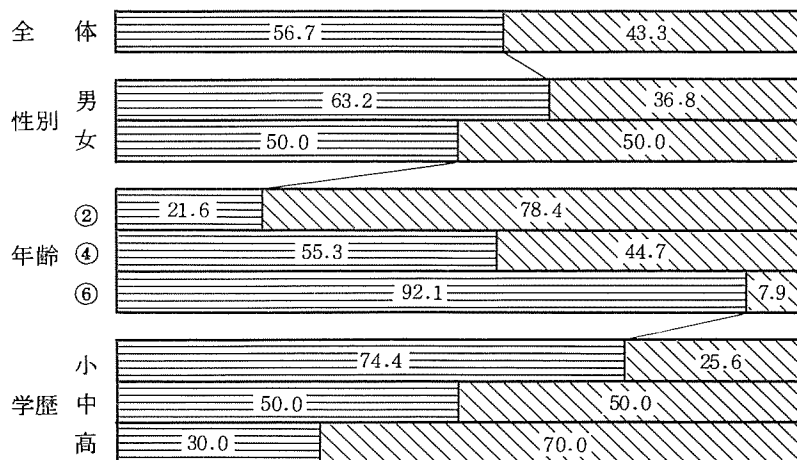
第214図 3.31(2) トテバシャ(わかるか)(保)



第231表 3.31(2) 「トテ馬車」, きけばわかりますか (茂)

		1	2	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		28 (36.4)	48 (62.3)	1 (1.3)	77 (100)	** 2*2	2	
性 別	男	14 (40.0)	21 (60.0)	0 (0)	35 (100)			
	女	14 (33.3)	27 (64.3)	1 (2.4)	42 (100)	** (2*1)	(2)	
年 齢	②	6 (17.1)	29 (82.9)	0 (0)	35 (100)	** 2**2	2	
	④	12 (41.4)	17 (58.6)	0 (0)	29 (100)	—	—	**
	⑥	10 —	2 —	1 —	13 —	—	—	
学 歴	小	12 (50.0)	11 (45.8)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	中	13 (36.1)	23 (63.9)	0 (0)	36 (100)			**
	高	3 —	14 —	0 —	17 —	—	—	
職 業	農	12 (52.2)	10 (43.5)	1 (4.3)	23 (100)	—	—	
	工	7 —	12 —	0 —	19 —	—	—	
	商	3 —	7 —	0 —	10 —	—	—	
	事	2 —	15 —	0 —	17 —	—	—	
	無	4 —	4 —	0 —	8 —	—	—	
役 員	有	12 (42.9)	16 (57.1)	0 (0)	28 (100)	—	—	
	無	16 (32.7)	32 (65.3)	1 (2.0)	49 (100)	** 2*2	2	

第215図 3.31(2) トテバシヤ(わかるか) (茂)

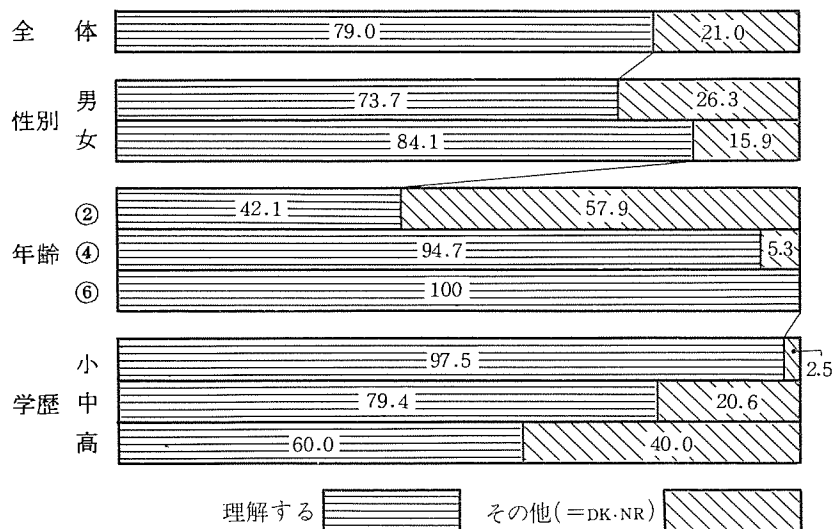


第232表 1.21(2) 「エツコ」, きけばわかりますか(保)

1. わかる 2. しらない

		1	2	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	8 (25.0)	22 (68.8)	2 (6.3)	32 (100)	** 2*2	2	
性 別	男	4 —	14 —	1 —	19 —	—	—	
	女	4 —	8 —	1 —	13 —	—	—	
年 齢	②	8 (26.7)	22 (73.3)	0 (0)	30 (100)	** 2*2	2	
	④	0 —	0 —	2 —	2 —	—	—	—
	⑥	0 —	0 —	0 —	0 —	—	—	
学 歴	小	0 —	0 —	1 —	1 —	—	—	
	中	1 —	6 —	1 —	8 —	—	—	—
	高	7 (30.4)	16 (69.6)	0 (0)	23 (100)	—	—	
職 業	農	1 —	5 —	2 —	8 —	—	—	
	工	2 —	5 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	1 —	0 —	1 —	—	—	
	事	5 —	11 —	0 —	16 —	—	—	
	無	0 —	0 —	0 —	0 —	—	—	
役 員	有	1 —	8 —	2 —	11 —	—	—	
	無	7 (33.3)	14 (66.7)	0 (0)	21 (100)	—	—	

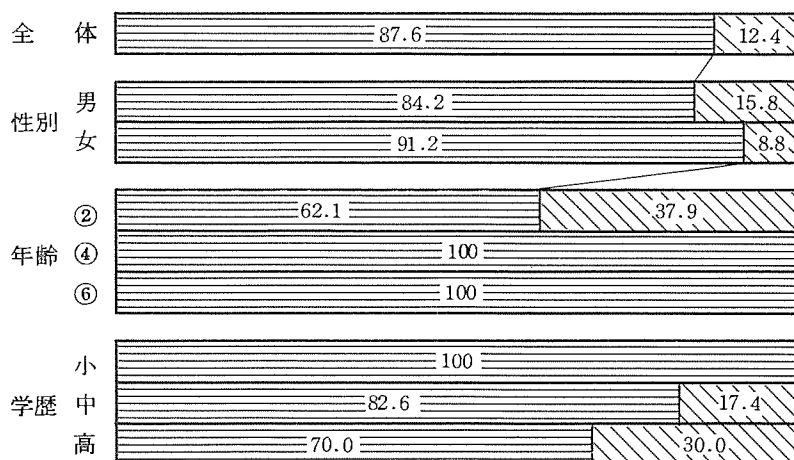
第218図 1.21(2) エツコ(わかるか)(保)



第233表 1.21(2) 「エツコ」, きけばわかりますか (茂)

		1	2	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		9 (39.1)	14 (60.9)	0 (0)	23 (100)	——	—	
性 別	男	6 —	9 —	0 —	15 —	——	—	—
	女	3 —	5 —	0 —	8 —	——	—	
年 齢	②	7 (33.3)	14 (66.7)	0 (0)	21 (100)	——	—	—
	④	1 —	0 —	0 —	1 —	——	—	
	⑥	1 —	0 —	0 —	1 —	——	—	
学 歴	小	1 —	0 —	0 —	1 —	——	—	—
	中	2 —	8 —	0 —	10 —	——	—	
	高	6 —	6 —	0 —	12 —	——	—	
職 業	農	1 —	0 —	0 —	1 —	——	—	—
	工	1 —	4 —	0 —	5 —	——	—	
	商	1 —	3 —	0 —	4 —	——	—	
	事	5 —	7 —	0 —	12 —	——	—	
	無	1 —	0 —	0 —	1 —	——	—	
役 員	有	3 —	4 —	0 —	7 —	——	—	—
	無	6 —	10 —	0 —	16 —	——	—	

第219図 1.21(2) エツコ(わかるか) (茂)

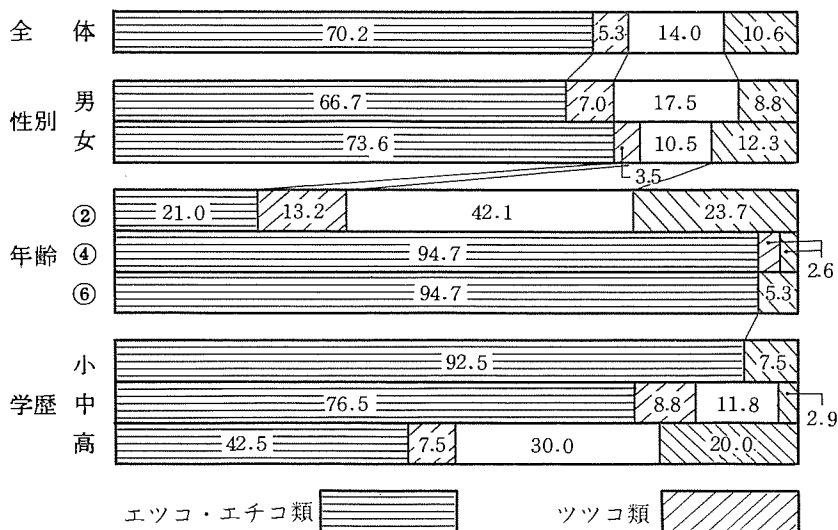


第234表 3.03(1) 足半ぞうり (保)

1. タンコゾーリ類 2. エボゾーリ類 3. ベコゾーリ類 4. ツノコゾーリ類

		1	2	3	4	5	6	7	8	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		14 (12.3)	13 (11.4)	11 (9.6)	0 (0)	6 (5.3)	9 (7.9)	8 (7.0)	25 (21.9)	28 (24.6)	114 (100)	**		
性 別	男	10 (17.5)	3 (5.3)	4 (7.0)	0 (0)	5 (8.8)	7 (12.3)	3 (5.3)	14 (24.6)	11 (19.3)	57 (100)			
	女	4 (7.0)	10 (17.5)	7 (12.3)	0 (0)	1 (1.8)	2 (3.5)	5 (8.8)	11 (19.3)	17 (29.8)	57 (100)			
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	2 (5.3)	0 (0)	0 (0)	4 (10.5)	7 (18.4)	1 (2.6)	24 (63.2)	38 (100)	** (N.R**7)	(N.R)	*
	④	10 (26.3)	4 (10.5)	7 (18.4)	0 (0)	1 (2.6)	3 (7.9)	0 (0)	10 (26.3)	3 (7.9)	38 (100)	—	—	
	⑥	4 (10.5)	9 (23.7)	2 (5.3)	0 (0)	5 (13.2)	2 (5.3)	1 (2.6)	14 (36.8)	1 (2.6)	38 (100)			
学 歴	小	5 (12.5)	7 (17.5)	5 (12.5)	0 (0)	5 (12.5)	3 (7.5)	1 (2.5)	12 (30.0)	2 (5.0)	40 (100)			
	中	6 (17.6)	4 (11.8)	5 (14.7)	0 (0)	0 (0)	2 (5.9)	3 (8.8)	10 (29.4)	4 (11.8)	34 (100)			
	高	3 (7.5)	2 (5.0)	1 (2.5)	0 (0)	1 (2.5)	4 (10.0)	4 (10.0)	3 (7.5)	22 (55.0)	40 (100)	** (N.R**6, 7)	(N.R)	
職 業	農	13 (15.9)	13 (15.9)	10 (12.2)	0 (0)	6 (7.3)	6 (7.3)	2 (2.4)	22 (26.8)	10 (12.2)	82 (100)			
	工	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	1 —	3 —	1 —	2 —	7 —	—	—	
	商	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	1 —	1 —	2 —	4 —	—	—	
	事	0 —	0 —	1 —	0 —	0 —	2 —	1 —	0 —	14 —	18 —	—	—	
	無	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	1 —	1 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	10 (16.4)	9 (14.8)	7 (11.5)	0 (0)	4 (6.6)	6 (9.8)	2 (3.3)	16 (26.2)	7 (11.5)	61 (100)			
	無	4 (7.5)	4 (7.5)	4 (7.5)	0 (0)	2 (3.8)	3 (5.7)	6 (11.3)	9 (17.0)	21 (39.6)	53 (100)	** (N.R*8)	(N.R)	

第216図 1.21(1) 赤児籠 (保)

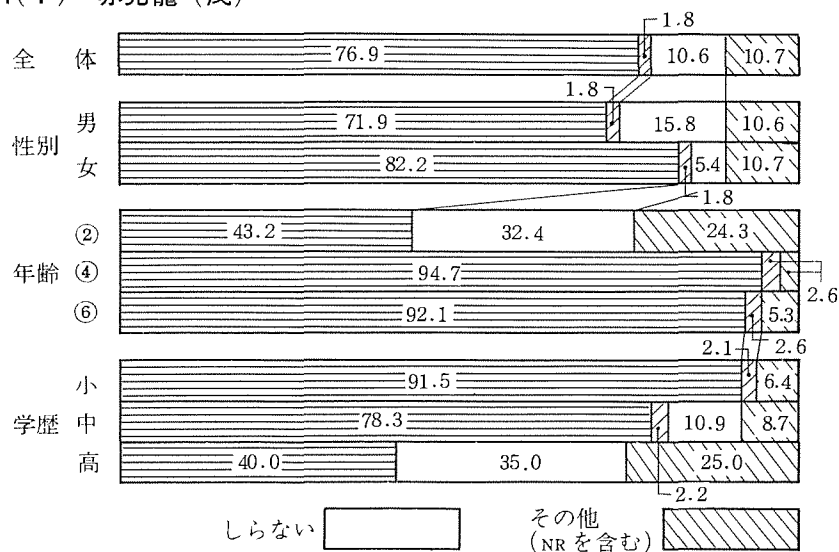


第235表 3.03(1) 足半ぞうり (茂)

5. アシダカゾーリ類 6. ゴーリ類 7. ワラゾーリ類 8. その他

		1	2	3	4	5	6	7	8	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	0 (0)	2 (1.8)	44 (38.9)	6 (5.3)	3 (2.7)	13 (11.5)	20 (17.7)	12 (10.6)	13 (11.5)	113 (100)	** (3**7)	(3)	
性	男	0 (0)	0 (0)	23 (40.4)	4 (7.0)	2 (3.5)	10 (17.5)	5 (8.8)	5 (8.8)	8 (14.0)	57 (100)	** (3*6)	(3)	
別	女	0 (0)	2 (3.6)	21 (37.5)	2 (3.6)	1 (1.8)	3 (5.4)	15 (26.8)	7 (12.5)	5 (8.9)	56 (100)	*		
年	②	0 (0)	0 (0)	3 (8.1)	0 (0)	1 (2.7)	5 (13.5)	16 (43.2)	0 (0)	12 (32.4)	37 (100)			
齢	④	0 (0)	0 (0)	22 (57.9)	2 (5.3)	0 (0)	5 (13.2)	4 (10.5)	5 (13.2)	0 (0)	38 (100)	** (3**6,8)	(3)	
	⑥	0 (0)	2 (5.3)	19 (50.0)	4 (10.5)	2 (5.3)	3 (7.9)	0 (0)	7 (18.4)	1 (2.6)	38 (100)	** (3*8)	(3)	
学	小	0 (0)	2 (4.3)	24 (51.1)	3 (6.4)	2 (4.3)	5 (10.6)	7 (2.1)	9 (19.1)	1 (2.1)	47 (100)	** (3**8)	(3)	
歴	中	0 (0)	0 (0)	14 (30.4)	2 (4.3)	0 (0)	7 (15.2)	14 (30.4)	3 (6.5)	6 (13.0)	46 (100)	—	—	
	高	0 (0)	0 (0)	6 (13.0)	1 (2.1)	1 (2.1)	1 (2.1)	5 (10.6)	0 (0)	6 (12.6)	20 (100)	—	—	
職	農	0 (0)	2 (4.1)	26 (53.1)	4 (8.2)	2 (4.1)	6 (12.2)	2 (4.1)	5 (10.2)	2 (4.1)	49 (100)	** (3**6)	(3)	
業	工	0 (0)	0 (0)	7 (29.2)	0 (0)	0 (0)	4 (16.7)	7 (29.2)	4 (16.7)	2 (8.3)	24 (100)	—	—	
	商	0 (0)	0 (0)	4 (10.0)	0 (0)	1 (2.5)	1 (2.5)	2 (5.0)	0 (0)	2 (5.0)	10 (100)	—	—	
	事	0 (0)	0 (0)	2 (5.0)	0 (0)	0 (0)	1 (2.5)	7 (17.5)	1 (2.5)	7 (17.5)	18 (100)	—	—	
	無	0 (0)	0 (0)	5 (12.5)	2 (5.0)	0 (0)	1 (2.5)	2 (5.0)	2 (5.0)	0 (0)	12 (100)	—	—	
役	有	0 (0)	0 (0)	23 (46.0)	4 (8.0)	1 (2.0)	6 (12.0)	6 (12.0)	5 (10.0)	5 (10.0)	50 (100)	** (3**6,7)	(3)	
員	無	0 (0)	2 (3.2)	21 (33.3)	2 (3.2)	2 (3.2)	7 (11.1)	14 (22.2)	7 (11.1)	8 (12.7)	63 (100)	*		

第217図 1.21(1) 赤児籠 (茂)

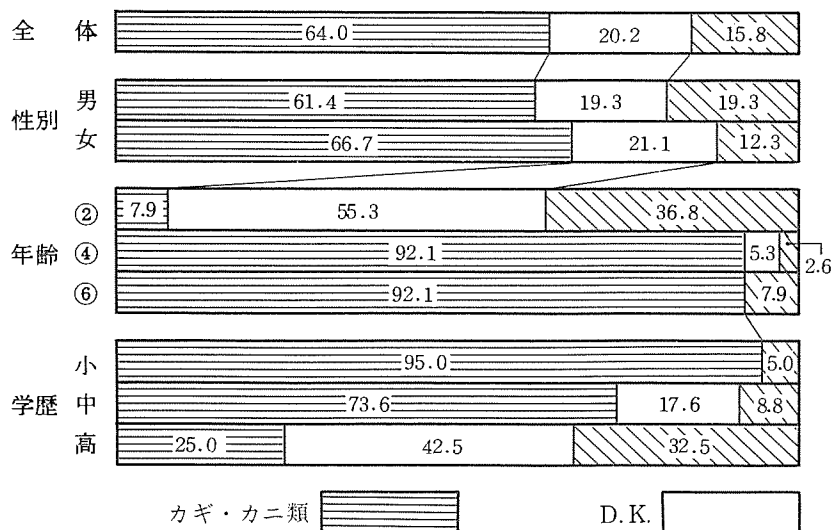


第236表 3.16 自在鍵（保）

1. カギ類 2. カニ 3. しらない 4. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		61 (53.5)	12 (10.5)	23 (20.2)	4 (3.5)	14 (12.3)	114 (100)	** (1**3)	(1)	
性 別	男	28 (49.1)	7 (12.3)	11 (19.3)	3 (5.3)	8 (14.0)	57 (100)	** (1**3)	(1)	
	女	33 (57.9)	5 (8.8)	12 (21.1)	1 (1.8)	6 (10.5)	57 (100)	** (1**3)	(1)	
年 齢	②	3 (7.9)	0 (0)	21 (55.3)	0 (0)	14 (36.8)	38 (100)			
	④	26 (68.4)	9 (23.7)	2 (5.3)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** 1*1	1	**
	⑥	32 (84.2)	3 (7.9)	0 (0)	3 (7.9)	0 (0)	38 (100)	** 1**1	1	
学 歴	小	32 (80.0)	6 (15.0)	0 (0)	2 (5.0)	0 (0)	40 (100)	** 1**1	1	
	中	21 (61.8)	4 (11.8)	6 (17.6)	1 (2.9)	2 (5.9)	34 (100)	** (1**3)	(1)	**
	高	8 (20.0)	2 (5.0)	17 (42.5)	1 (2.5)	12 (30.0)	40 (100)			
職 業	農	57 (69.5)	12 (14.6)	7 (8.5)	4 (4.9)	2 (2.4)	82 (100)	** 1**1	1	
	工	0 —	0 —	6 —	0 —	1 —	7 —	—	—	
	商	1 —	0 —	0 —	0 —	3 —	4 —	—	—	**
	事	1 —	0 —	9 —	0 —	8 —	18 —	—	—	
	無	2 —	0 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	41 (67.2)	8 (13.1)	4 (6.6)	3 (4.9)	5 (8.2)	61 (100)	** 1**1	1	
	無	20 (37.7)	4 (7.5)	19 (35.8)	1 (1.9)	9 (17.0)	53 (100)	*		

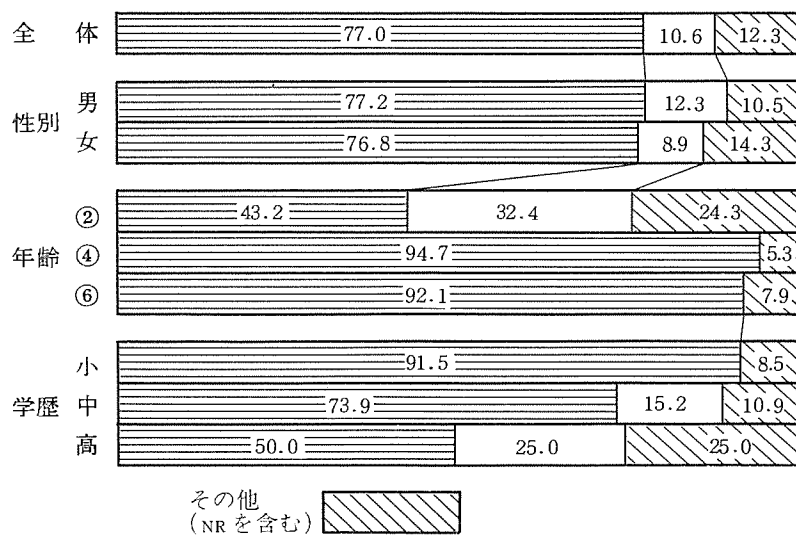
第222図 3.16 自在鍵（保）



第237表 3.16 自在鍵 (茂)

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		83 (73.5)	4 (3.5)	12 (10.6)	4 (3.5)	10 (8.8)	113 (100)	** 1** \bar{I}	1	
性 別	男	42 (73.7)	2 (3.5)	7 (12.3)	2 (3.5)	4 (7.0)	57 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	女	41 (73.2)	2 (3.6)	5 (8.9)	2 (3.6)	6 (10.7)	56 (100)	** 1** \bar{I}	1	
年 齢	②	15 (40.5)	1 (2.7)	12 (32.4)	0 (0)	9 (24.3)	37 (100)			
	④	36 (94.7)	0 (0)	0 (0)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	**
	⑥	32 (84.2)	3 (7.9)	0 (0)	2 (5.3)	1 (2.6)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
学 歴	小	41 (87.2)	2 (4.3)	0 (0)	3 (6.4)	1 (2.1)	47 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	中	33 (71.7)	1 (2.2)	7 (15.2)	1 (2.2)	4 (8.7)	46 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	高	9 —	1 —	5 —	0 —	5 —	20 —	— —	—	
職 業	農	43 (87.8)	1 (2.0)	1 (2.0)	3 (6.1)	1 (2.0)	49 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	工	20 (83.3)	0 (0)	3 (12.5)	0 (0)	1 (4.2)	24 (100)	— —	—	
	商	6 —	0 —	2 —	0 —	2 —	10 —	— —	—	*
	事	5 —	1 —	6 —	0 —	6 —	18 —	— —	—	
	無	9 —	2 —	0 —	1 —	0 —	12 —	— —	—	
役 員	有	37 (74.0)	2 (4.0)	6 (12.0)	1 (2.0)	4 (8.0)	50 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	無	46 (73.0)	2 (3.2)	6 (9.5)	3 (4.8)	6 (9.5)	63 (100)	** 1** \bar{I}	1	

第223図 3.16 自在鍵 (茂)

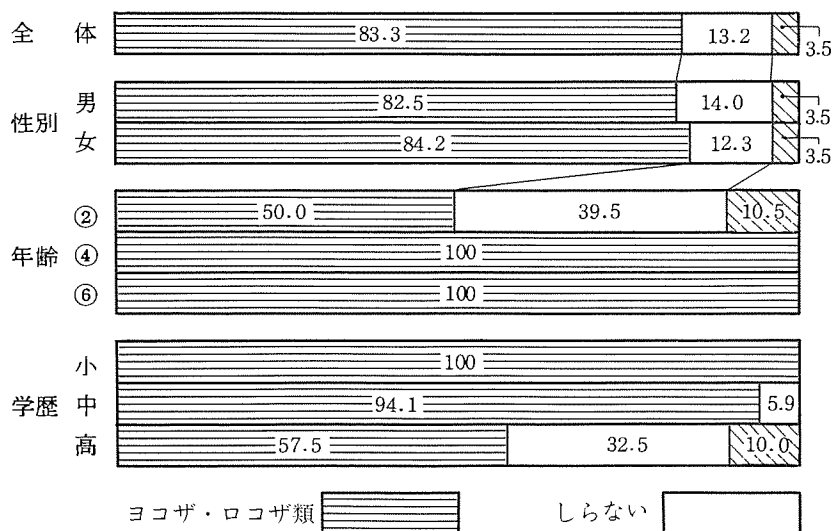


第238表 3.15(1) 横座(保)

1. ヨコザ類 2. ロコザ類 3. しらない 4. その他

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		90 (78.9)	5 (4.4)	15 (13.2)	4 (3.5)	114 (100)	** 1**I	1	
性 別	男	46 (80.7)	1 (1.8)	8 (14.0)	2 (3.5)	57 (100)	** 1**I	1	
	女	44 (77.2)	4 (7.0)	7 (12.3)	2 (3.5)	57 (100)	** 1**I	1	
年 齢	②	17 (44.7)	2 (5.3)	15 (39.5)	4 (10.5)	38 (100)			
	④	37 (97.4)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 1**I	1	**
	⑥	36 (94.7)	2 (5.3)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 1**I	1	
学 歴	小	39 (97.5)	1 (2.5)	0 (0)	0 (0)	40 (100)	** 1**I	1	
	中	31 (91.2)	1 (2.9)	2 (5.9)	0 (0)	34 (100)	** 1**I	1	**
	高	20 (50.0)	3 (7.5)	13 (32.5)	4 (10.0)	40 (100)	*		
職 業	農	77 (93.9)	3 (3.7)	2 (2.4)	0 (0)	82 (100)	** 1**I	1	
	工	4 —	1 —	2 —	0 —	7 —	—	—	**
	商	2 —	1 —	1 —	0 —	4 —	—	—	
	事	4 —	0 —	10 —	4 —	18 —	—	—	
	無	3 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	54 (88.5)	2 (3.3)	3 (4.9)	2 (3.3)	61 (100)	** 1**I	1	
	無	36 (67.9)	3 (5.7)	12 (22.6)	2 (3.8)	53 (100)	** 1**I	1	

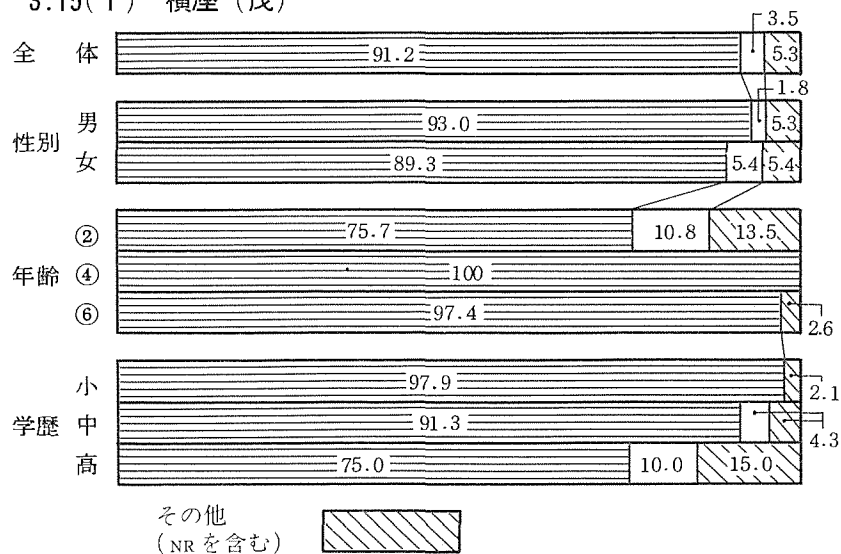
第224図 3.15(1) 横座(保)



第239表 3.15(1) 横座(茂)

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	103 (91.2)	0 (0)	4 (3.5)	1 (0.9)	5 (4.4)	113 (100)	** 1**I	1	
性	男	53 (93.0)	0 (0)	1 (1.8)	0 (0)	3 (5.3)	57 (100)	** 1**I	1	
別	女	50 (89.3)	0 (0)	3 (5.4)	1 (1.8)	2 (3.6)	56 (100)	** 1**I	1	
年	②	28 (75.7)	0 (0)	4 (10.8)	1 (2.7)	4 (10.8)	37 (100)	** 1**I	1	
齢	④	38 (100)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	38 (100)		①	
	⑥	37 (97.4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)	** 1**I	1	
学	小	46 (97.9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2.1)	47 (100)	** 1**I	1	
歴	中	42 (91.3)	0 (0)	2 (4.3)	0 (0)	2 (4.3)	46 (100)	** 1**I	1	
	高	15 —	0 —	2 —	1 —	2 —	20 —	—	—	
職	農	48 (98.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2.0)	49 (100)	** 1**I	1	
業	工	24 (100)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	9 —	0 —	1 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	10 —	0 —	3 —	1 —	4 —	18 —	—	—	
	無	12 —	0 —	0 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役	有	47 (94.0)	0 (0)	2 (4.0)	1 (2.0)	0 (0)	50 (100)	** 1**I	1	
員	無	56 (88.9)	0 (0)	2 (3.2)	0 (0)	5 (7.9)	63 (100)	** 1**I	1	

第225図 3.15(1) 横座(茂)

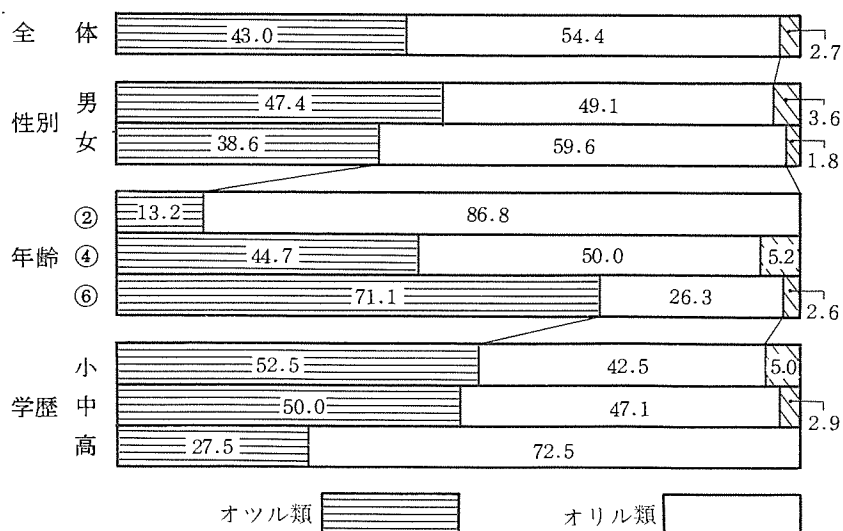


第241表 3.38 降りる (保)

1. オツル類 2. オリル類 3. その他

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全	体	49 (43.0)	62 (54.4)	1 (0.9)	2 (1.8)	114 (100)			
性 別	男	27 (47.4)	28 (49.1)	1 (1.8)	1 (1.8)	57 (100)			
	女	22 (38.6)	34 (59.6)	0 (0)	1 (1.8)	57 (100)			
年 齢	②	5 (13.2)	33 (86.8)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 2**2	2	**
	④	17 (44.7)	19 (50.0)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)			
	⑥	27 (71.1)	10 (26.3)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)	** 1*1	1	
学 歴	小	21 (52.5)	17 (42.5)	0 (0)	2 (5.0)	40 (100)			
	中	17 (50.0)	16 (47.1)	1 (2.9)	0 (0)	34 (100)			
	高	11 (27.5)	29 (72.5)	0 (0)	0 (0)	40 (100)	** 2**2	2	
職 業	農	44 (53.7)	35 (42.7)	1 (1.2)	2 (2.4)	82 (100)			**
	工	1 —	6 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	1 —	3 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	3 —	15 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	3 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	29 (47.5)	30 (49.2)	0 (0)	2 (3.3)	61 (100)			
	無	20 (37.7)	32 (60.4)	1 (1.9)	0 (0)	53 (100)			

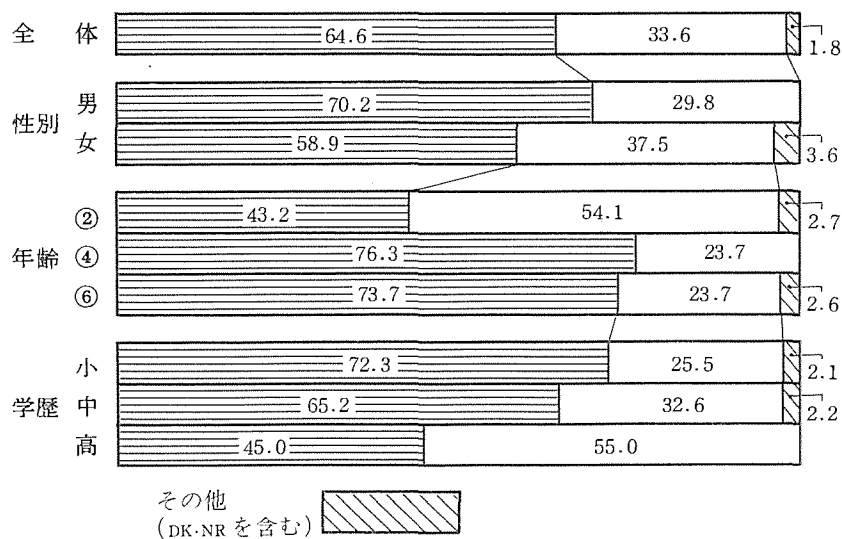
第228図 3.38 降りる (保)



第242表 3.38 降りる (茂)

		1	2	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全	体	73 (64.6)	38 (33.6)	2 (1.8)	113 (100)	** 1** \bar{I}	1	
性 別	男	40 (70.2)	17 (29.8)	0 (0)	57 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	女	33 (58.9)	21 (37.5)	2 (3.6)	56 (100)			
年 齢	②	16 (43.2)	20 (54.1)	1 (2.7)	37 (100)			
	④	29 (76.3)	9 (23.7)	0 (0)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	⑥	28 (73.7)	9 (23.7)	1 (2.6)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
学 歴	小	34 (72.3)	12 (25.5)	1 (2.1)	47 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	中	30 (65.2)	15 (32.6)	1 (2.2)	46 (100)	** 1* \bar{I}	1	
	高	9 —	11 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	34 (69.4)	14 (28.6)	1 (2.0)	49 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	工	18 (75.0)	6 (25.0)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	7 —	3 —	0 —	10 —	—	—	
	事	5 —	12 —	1 —	18 —	—	—	
	無	9 —	3 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	32 (64.0)	17 (34.0)	1 (2.0)	50 (100)	** 1* \bar{I}	1	
	無	41 (65.1)	21 (33.3)	1 (1.6)	63 (100)	** 1* \bar{I}	1	

第229図 3.38 降りる (茂)

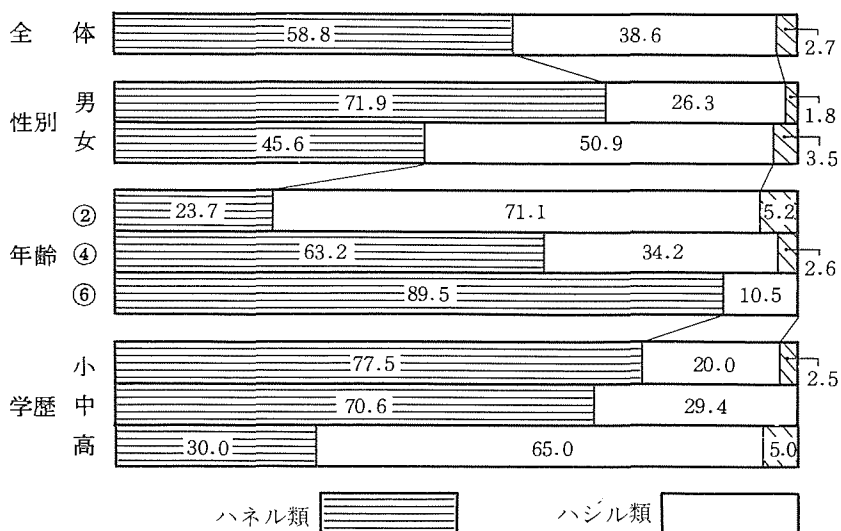


第243表 3.35 走る (保)

1. ハネル類 2. ハシル類 3. その他

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		67 (58.8)	44 (38.6)	1 (0.9)	2 (1.8)	114 (100)	** (1*2)	(1)	
性別	男	41 (71.9)	15 (26.3)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)	** 1**1	1	*
	女	26 (45.6)	29 (50.9)	0 (0)	2 (3.5)	57 (100)			
年 齢	②	9 (23.7)	27 (71.1)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)	** 2**2	2	**
	④	24 (63.2)	13 (34.2)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)			
	⑥	34 (89.5)	4 (10.5)	0 (0)	0 (0)	38 (100)	** 1**1	1	
学 歴	小	31 (77.5)	8 (20.0)	0 (0)	1 (2.5)	40 (100)	** 1**1	1	**
	中	24 (70.6)	10 (29.4)	0 (0)	0 (0)	34 (100)	** 1*1	1	
	高	12 (30.0)	26 (65.0)	1 (2.5)	1 (2.5)	40 (100)	** (2*1)	(2)	
職 業	農	59 (72.0)	21 (25.6)	1 (1.2)	1 (1.2)	82 (100)	** 1**1	1	**
	工	2 —	5 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	1 —	3 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	3 —	14 —	0 —	1 —	18 —	—	—	
	無	2 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	43 (70.5)	17 (27.9)	0 (0)	1 (1.6)	61 (100)	** 1**1	1	
	無	24 (45.3)	27 (50.9)	1 (1.9)	1 (1.9)	53 (100)			

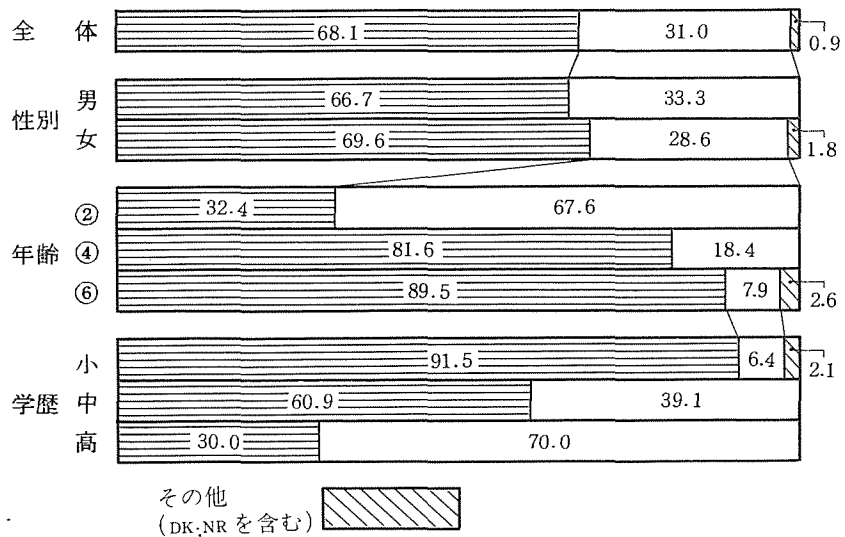
第230図 3.35 走る (保)



第244表 3.35 走る (茂)

		1	2	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		77 (68.1)	35 (31.0)	1 (0.9)	113 (100)	** 1** \bar{I}	1	
性 別	男	38 (66.7)	19 (33.3)	0 (0)	57 (100)	** 1* \bar{I}	1	
	女	39 (69.6)	16 (28.6)	1 (1.8)	56 (100)	** 1** \bar{I}	1	
年 齢	②	12 (32.4)	25 (67.6)	0 (0)	37 (100)	** 2* $\bar{2}$	2	**
	④	31 (81.6)	7 (18.4)	0 (0)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	⑥	34 (89.5)	3 (7.9)	1 (2.6)	38 (100)	** 1** \bar{I}	1	
学 歴	小	43 (91.5)	3 (6.4)	1 (2.1)	47 (100)	** 1** \bar{I}	1	**
	中	28 (60.9)	18 (39.1)	0 (0)	46 (100)			
	高	6 —	14 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	41 (83.7)	7 (14.3)	1 (2.0)	49 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	工	15 (62.5)	9 (37.5)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	4 —	6 —	0 —	10 —	—	—	
	事	8 —	10 —	0 —	18 —	—	—	
	無	9 —	3 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	35 (70.0)	15 (30.0)	0 (0)	50 (100)	** 1** \bar{I}	1	
	無	42 (66.7)	20 (31.7)	1 (1.6)	63 (100)	** 1** \bar{I}	1	

第231図 3.35 走る (茂)

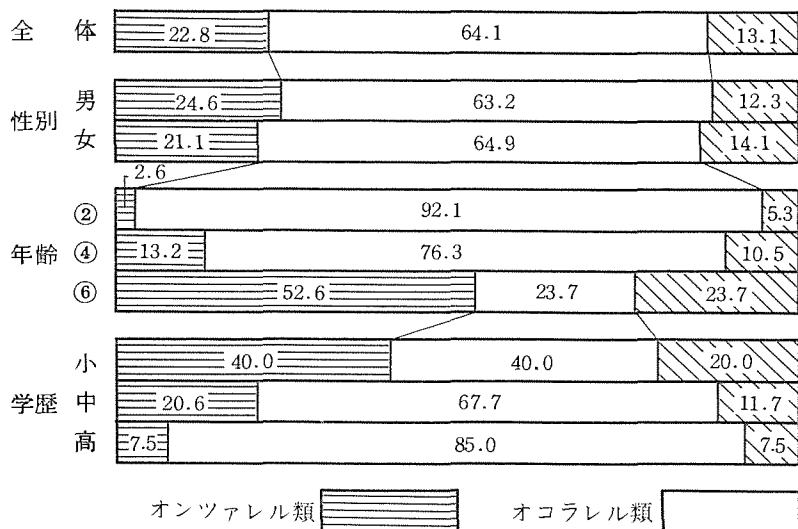


第245表 3.32 (汽車が)走っている (保)

1. アルッテル類 2. ハシッテイル類 3. その他

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		8 (7.0)	104 (91.2)	1 (0.9)	1 (0.9)	114 (100)	** 2**2	2	
性 別	男	5 (8.8)	51 (89.5)	0 (0)	1 (1.8)	57 (100)	** 2**2	2	
	女	3 (5.3)	53 (93.0)	1 (1.8)	0 (0)	57 (100)	** 2**2	2	
年 齢	②	0 (0)	38 (100)	0 (0)	0 (0)	38 (100)		②	
	④	0 (0)	37 (97.4)	1 (2.6)	0 (0)	38 (100)	** 2**2	2	
	⑥	8 (21.1)	29 (76.3)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)	** 2**2	2	
学 歴	小	5 (12.5)	34 (85.0)	1 (2.5)	0 (0)	40 (100)	** 2**2	2	
	中	1 (2.9)	32 (94.1)	0 (0)	1 (2.9)	34 (100)	** 2**2	2	
	高	2 (5.0)	38 (95.0)	0 (0)	0 (0)	40 (100)	** 2**2	2	
職 業	農	8 (9.8)	72 (87.8)	1 (1.2)	1 (1.2)	82 (100)	** 2**2	2	
	工	0 —	7 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	4 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	0 —	18 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	0 —	3 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	7 (11.5)	52 (85.2)	1 (1.6)	1 (1.6)	61 (100)	** 2**2	2	
	無	1 (1.9)	52 (98.1)	0 (0)	0 (0)	53 (100)	** 2**2	2	

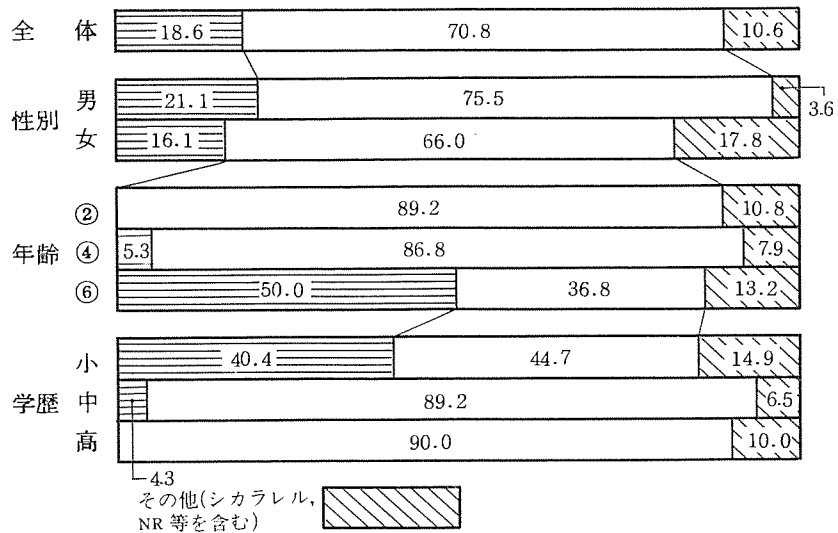
第232図 1.24 叱られた (保)



第246表 3.32 (汽車が)走っている (茂)

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	10 (8.8)	100 (88.5)	1 (0.9)	2 (1.8)	113 (100)	** 2**2	2	
性 別	男	5 (8.8)	51 (89.5)	0 (0)	1 (1.8)	57 (100)	** 2**2	2	
	女	5 (8.9)	49 (87.5)	1 (1.8)	1 (1.8)	56 (100)	** 2**2	2	
年 齢	②	0 (0)	37 (100)	0 (0)	0 (0)	37 (100)		②	
	④	0 (0)	36 (94.7)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)	** 2**2	2	
	⑥	10 (26.3)	27 (71.1)	0 (0)	1 (2.6)	38 (100)	** 2**2	2	
学 歴	小	9 (19.1)	36 (76.6)	1 (2.1)	1 (2.1)	47 (100)	** 2**2	2	
	中	1 (2.2)	44 (95.7)	0 (0)	1 (2.2)	46 (100)	** 2**2	2	—
	高	0 —	20 —	0 —	0 —	20 —	—	—	—
職 業	農	8 (16.3)	40 (81.6)	0 (0)	1 (2.0)	49 (100)	** 2**2	2	
	工	1 (4.2)	22 (91.7)	0 (0)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	10 —	0 —	0 —	10 —	—	—	
	事	0 —	18 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	1 —	10 —	1 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	6 (12.0)	44 (88.0)	0 (0)	0 (0)	50 (100)	** 2**2	2	
	無	4 (6.3)	56 (88.9)	1 (1.6)	2 (3.2)	63 (100)	** 2**2	2	

第233図 1.24 叱られた (茂)

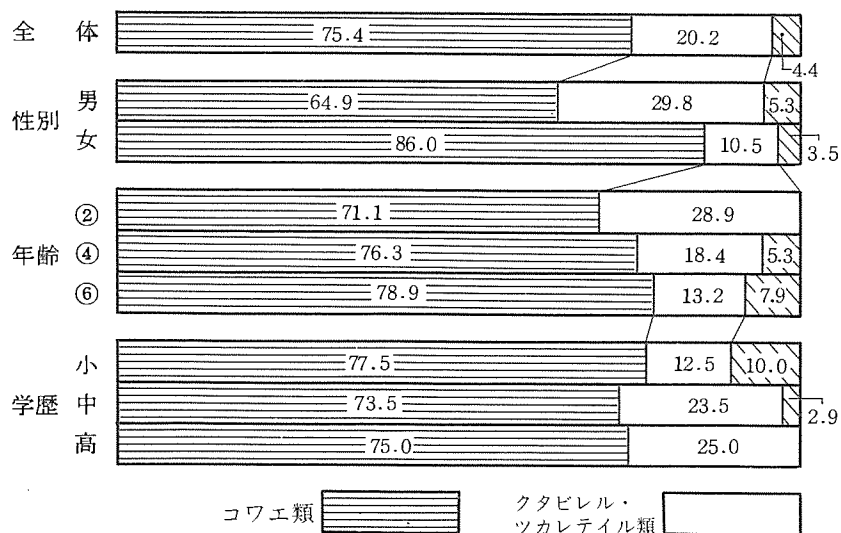


第247表 3.37 疲れている (保)

1. コワエ類 2. クタビレル類 3. ツカレテイル類

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	86 (75.4)	19 (16.7)	4 (3.5)	5 (4.4)	114 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
性 別	男	37 (64.9)	15 (26.3)	2 (3.5)	3 (5.3)	57 (100)	** 1* $\bar{1}$	1	
	女	49 (86.0)	4 (7.0)	2 (3.5)	2 (3.5)	57 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
年 齢	②	27 (71.1)	7 (18.4)	4 (10.5)	0 (0)	38 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
	④	29 (76.3)	7 (18.4)	0 (0)	2 (5.3)	38 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
	⑥	30 (78.9)	5 (13.2)	0 (0)	3 (7.9)	38 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
学 歴	小	31 (77.5)	5 (12.5)	0 (0)	4 (10.0)	40 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
	中	25 (73.5)	6 (17.6)	2 (5.9)	1 (2.9)	34 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
	高	30 (75.0)	8 (20.0)	2 (5.0)	0 (0)	40 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
職 業	農	63 (76.8)	13 (15.9)	1 (1.2)	5 (6.1)	82 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
	工	4 —	2 —	1 —	0 —	7 —	— —	—	
	商	2 —	1 —	1 —	0 —	4 —	— —	—	
	事	14 —	3 —	1 —	0 —	18 —	— —	—	
	無	3 —	0 —	0 —	0 —	3 —	— —	—	
役 員	有	45 (73.8)	11 (18.0)	1 (1.6)	4 (6.6)	61 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	
	無	41 (77.4)	8 (15.1)	3 (5.7)	1 (1.9)	53 (100)	** 1** $\bar{1}$	1	

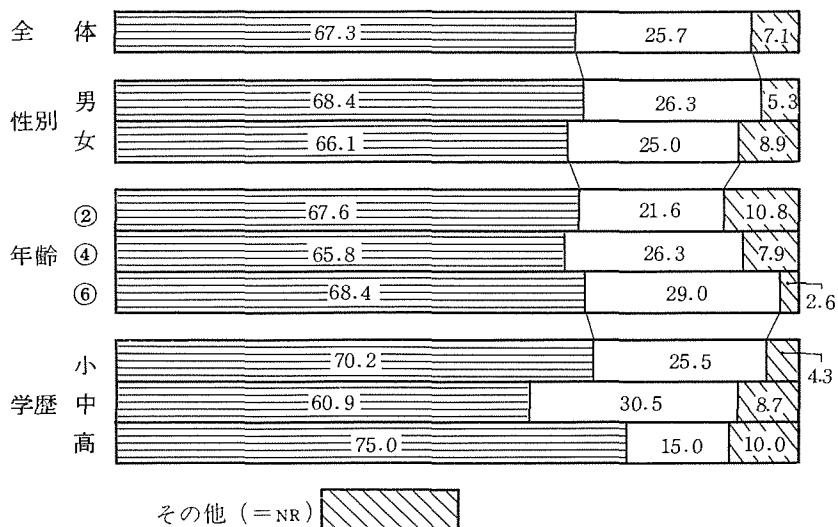
第234図 3.37 疲れている (保)



第248表 3.37 疲れている（茂）

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		76 (67.3)	22 (19.5)	7 (6.2)	8 (7.1)	113 (100)	** [**]	1	
性 別	男	39 (68.4)	13 (22.8)	2 (3.5)	3 (5.3)	57 (100)	** [**]	1	
	女	37 (66.1)	9 (16.1)	5 (8.9)	5 (8.9)	56 (100)	** [**]	1	
年 齢	②	25 (67.6)	6 (16.2)	2 (5.4)	4 (10.8)	37 (100)	** [**]	1	
	④	25 (65.8)	10 (26.3)	0 (0)	3 (7.9)	38 (100)	** (1*2)	(1)	
	⑥	26 (68.4)	6 (15.8)	5 (13.2)	1 (2.6)	38 (100)	** [**]	1	
学 歴	小	33 (70.2)	7 (14.9)	5 (10.6)	2 (4.3)	47 (100)	** [**]	1	
	中	28 (60.9)	13 (28.3)	1 (2.2)	4 (8.7)	46 (100)	** (1*2)	(1)	
	高	15 —	2 —	1 —	2 —	20 —	— —	—	
職 業	農	32 (65.3)	9 (18.4)	5 (10.2)	3 (6.1)	49 (100)	** [**]	1	
	工	17 (70.8)	5 (20.8)	0 (0)	2 (8.3)	24 (100)	— —	—	
	商	4 —	3 —	1 —	2 —	10 —	— —	—	
	事	13 —	3 —	1 —	1 —	18 —	— —	—	
	無	10 —	2 —	0 —	0 —	12 —	— —	—	
役 員	有	37 (74.0)	9 (18.0)	2 (4.0)	2 (4.0)	50 (100)	** [**]	1	
	無	39 (61.9)	13 (20.6)	5 (7.9)	6 (9.5)	63 (100)	** (1**2)	(1)	

第235図 3.37 疲れている（茂）

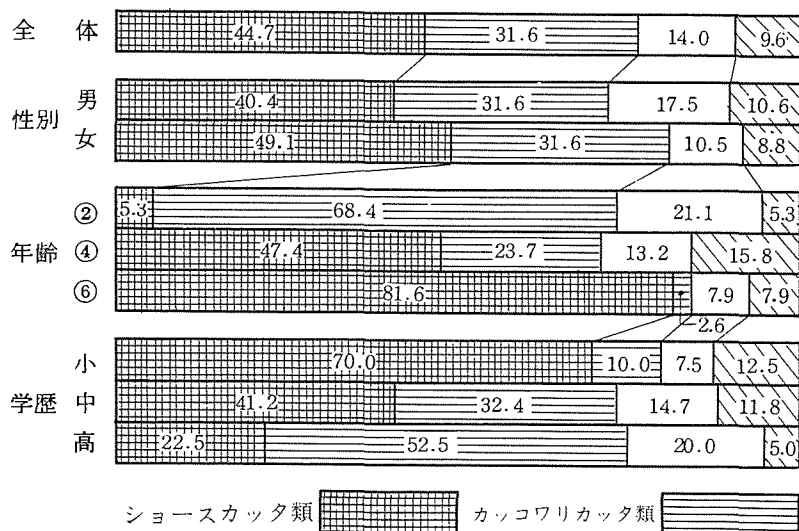


第249表 1.31 恥ずかしい (保)

1. ショースカッタ類 2. カッコワリカッタ類

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		51 (44.7)	36 (31.6)	16 (14.0)	7 (6.1)	4 (3.5)	114 (100)	**		
性 別	男	23 (40.4)	18 (31.6)	10 (17.5)	3 (5.3)	3 (5.3)	57 (100)	*		
	女	28 (49.1)	18 (31.6)	6 (10.5)	4 (7.0)	1 (1.8)	57 (100)	*		
年 齢	②	2 (5.3)	26 (68.4)	8 (21.1)	2 (5.3)	0 (0)	38 (100)	** 2*2	2	**
	④	18 (47.4)	9 (23.7)	5 (13.2)	3 (7.9)	3 (7.9)	38 (100)			
	⑥	31 (81.6)	1 (2.6)	3 (7.9)	2 (5.2)	1 (2.6)	38 (100)	** 1**1	1	
学 歴	小	28 (70.0)	4 (10.0)	3 (7.5)	4 (10.0)	1 (2.5)	40 (100)	** 1*1	1	*
	中	14 (41.2)	11 (32.4)	5 (14.7)	2 (5.9)	2 (5.9)	34 (100)			
	高	9 (22.5)	21 (52.5)	8 (20.0)	1 (2.5)	1 (2.5)	40 (100)	** (2*1)	(2)	
職 業	農	46 (56.1)	16 (19.5)	10 (12.2)	6 (7.3)	4 (4.9)	82 (100)	** (1**2)	(1)	**
	工	0 —	4 —	3 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	1 —	2 —	0 —	1 —	0 —	4 —	—	—	
	事	2 —	13 —	3 —	0 —	0 —	18 —	—	—	
	無	2 —	1 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	36 (59.0)	14 (23.0)	5 (8.2)	4 (6.6)	2 (3.3)	61 (100)	** (1**2)	(1)	
	無	15 (28.3)	22 (41.5)	11 (20.8)	3 (5.7)	2 (3.8)	53 (100)	*		

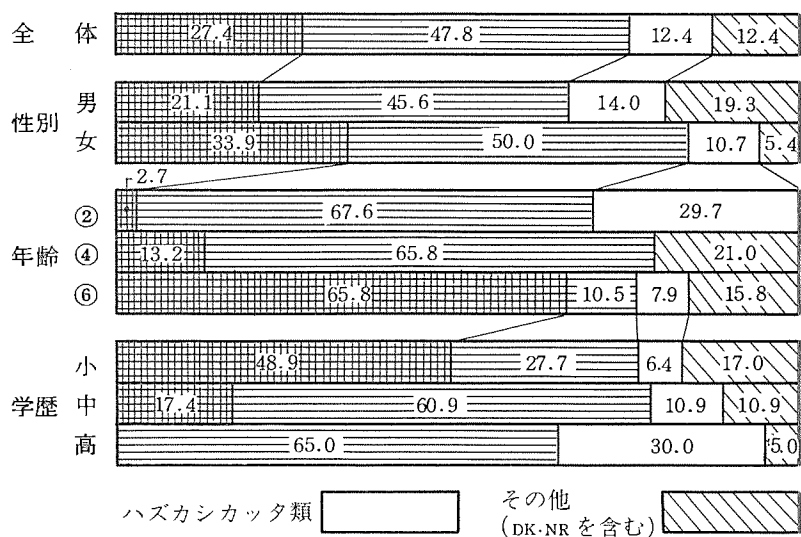
第236図 1.31 恥ずかしい (保)



第250表 1.31 恥ずかしい (茂)
3. ハズカシカッタ類 4. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	31 (27.4)	54 (47.8)	14 (12.4)	11 (9.7)	3 (2.7)	113 (100)	** (2*1)	(2)	
性 別	男	12 (21.1)	26 (45.6)	8 (14.0)	8 (14.0)	3 (5.3)	57 (100)	** (2*1)	(2)	
	女	19 (33.9)	28 (50.0)	6 (10.7)	3 (5.4)	0 (0)	56 (100)	**		
年 齢	②	1 (2.7)	25 (67.6)	11 (29.7)	0 (0)	0 (0)	37 (100)	** 2*2	2	
	④	5 (13.2)	25 (56.8)	0 (0)	7 (18.4)	1 (2.6)	38 (100)	** (2**4)	(2)	
	⑥	25 (65.8)	4 (10.5)	3 (7.9)	4 (10.5)	2 (5.3)	38 (100)	** (1**2,4)	(2)	
学 歴	小	23 (48.9)	13 (27.7)	3 (6.4)	5 (10.6)	3 (6.4)	47 (100)			
	中	8 (17.4)	28 (60.9)	5 (10.9)	5 (10.9)	0 (0)	46 (100)	** (2*1)	(2)	
	高	0 —	13 —	6 —	1 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	22 (44.9)	14 (28.6)	3 (6.1)	7 (14.3)	3 (6.1)	49 (100)	**		
	工	3 (12.5)	18 (75.0)	0 (0)	3 (12.5)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	1 —	6 —	3 —	0 —	0 —	10 —	—	—	*
	事	0 —	10 —	7 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	5 —	6 —	1 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	13 (26.0)	22 (44.0)	5 (10.0)	9 (18.0)	1 (2.0)	50 (100)	*		
	無	18 (28.6)	32 (50.8)	9 (14.3)	2 (3.2)	2 (3.2)	63 (100)	** (2*1)	(2)	

第237図 1.31 恥ずかしい (茂)

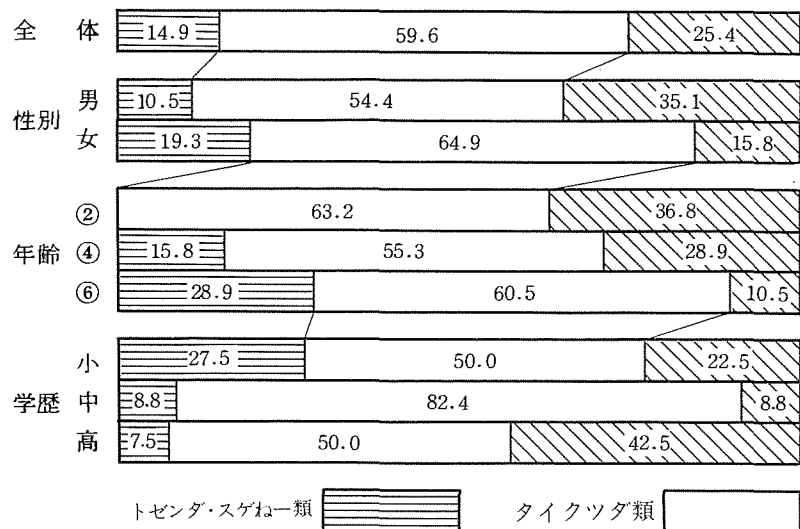


第251表 1.27(1) たいくつして手持ぶさた (保)

1. トゼンダ類 2. スゲねー類 3. タイクツダ類

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	0 (0)	17 (14.9)	68 (59.6)	29 (25.4)	114 (100)	** 3*3	3	
性 別	男	0 (0)	6 (10.5)	31 (54.4)	20 (35.1)	57 (100)	**		
	女	0 (0)	11 (19.3)	37 (64.9)	9 (15.8)	57 (100)	** 3*3	3	
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	24 (63.2)	14 (36.8)	38 (100)			
	④	0 (0)	6 (15.8)	21 (55.3)	11 (28.9)	38 (100)	*		
	⑥	0 (0)	11 (28.9)	23 (60.5)	4 (10.5)	38 (100)	** (3*2)	(3)	
学 歴	小	0 (0)	11 (27.5)	20 (50.0)	9 (22.5)	40 (100)			
	中	0 (0)	3 (8.8)	28 (82.4)	3 (8.8)	34 (100)	** 3**3	3	
	高	0 (0)	3 (7.5)	20 (50.0)	17 (42.5)	40 (100)	**		
職 業	農	0 (0)	17 (20.7)	48 (58.5)	17 (20.7)	82 (100)	** (3**2,N.R)	(3)	
	工	0 —	0 —	6 —	1 —	7 —	—	—	
	商	0 —	0 —	2 —	2 —	4 —	—	—	
	事	0 —	0 —	9 —	9 —	18 —	—	—	
	無	0 —	0 —	3 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	0 (0)	15 (24.6)	29 (47.5)	17 (27.9)	61 (100)	*		
	無	0 (0)	2 (3.8)	39 (73.6)	12 (22.6)	53 (100)	** 3**3	3	

第238図 1.27(1) たいくつして手持ぶさた (保)

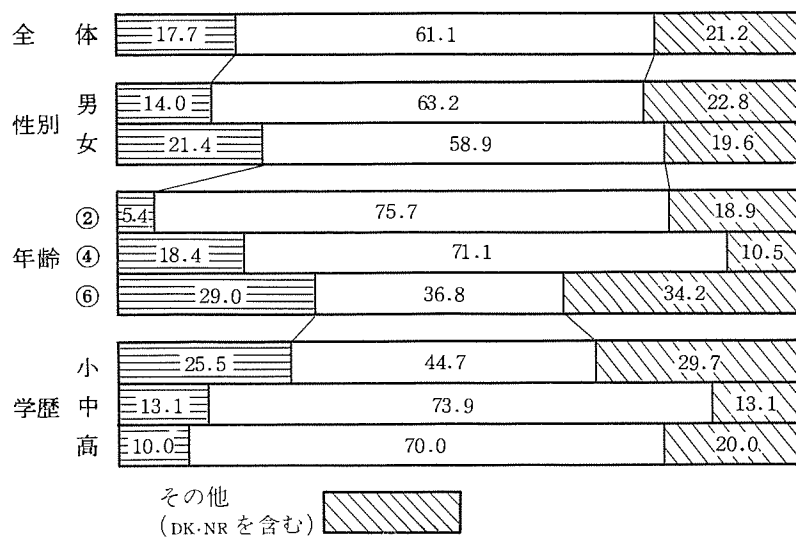


第252表 1.27(1) たいくつして手持ぶさた (茂)

4. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	5 (4.4)	15 (13.3)	69 (61.1)	10 (8.8)	14 (12.4)	113 (100)	** 3*3	3	
性 別	男	4 (7.0)	4 (7.0)	36 (63.2)	5 (8.8)	8 (14.0)	57 (100)	** 3*3	3	
	女	1 (1.8)	11 (19.6)	35 (58.9)	5 (8.9)	6 (10.7)	56 (100)	** (3**2)	(3)	
年 齢	②	0 (0)	2 (5.4)	28 (75.7)	0 (0)	7 (18.9)	37 (100)	** 3*3	3	*
	④	0 (0)	7 (18.4)	27 (71.1)	1 (2.6)	3 (7.9)	38 (100)	** 3*3	3	
	⑥	5 (13.2)	6 (15.8)	14 (36.8)	9 (23.7)	4 (10.5)	38 (100)			
学 歴	小	4 (8.5)	8 (17.0)	21 (44.7)	9 (19.1)	5 (10.6)	47 (100)	** (3*4)	(3)	
	中	1 (2.2)	5 (10.9)	34 (73.9)	1 (2.2)	5 (10.9)	46 (100)	** 3*3	3	
	高	0 —	2 —	14 —	0 —	4 —	20 —	—	—	
職 業	農	5 (10.2)	10 (20.4)	24 (49.0)	6 (12.2)	4 (8.2)	49 (100)	** (3*2)	(3)	
	工	0 (0)	3 (12.5)	18 (75.0)	1 (4.2)	2 (8.3)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	1 —	8 —	0 —	1 —	10 —	—	—	
	事	0 —	0 —	14 —	0 —	4 —	18 —	—	—	
	無	0 —	1 —	5 —	3 —	3 —	12 —	—	—	
役 員	有	3 (6.0)	8 (16.0)	29 (58.0)	6 (12.0)	4 (8.0)	50 (100)	** (3**2)	(3)	
	無	2 (3.2)	7 (11.1)	40 (63.5)	4 (6.3)	10 (15.9)	63 (100)	** 3*3	3	

第239図 1.27(1) たいくつして手持ぶさた (茂)

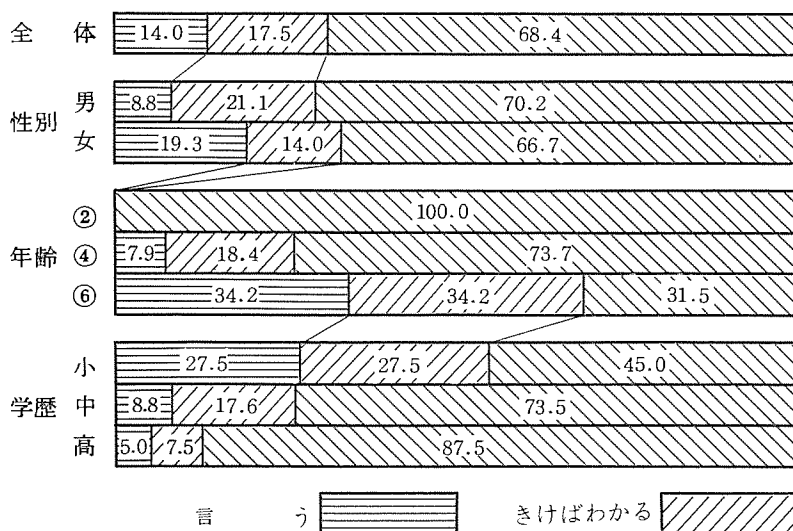


第253表 1.27(2) トゼンダと言いませんか(保)

1. 言う 2. きけばわかる 3. しらない

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	16 (14.0)	20 (17.5)	74 (64.9)	4 (3.5)	114 (100)	** 3**3	3	
性 別	男	5 (8.8)	12 (21.1)	38 (66.7)	2 (3.5)	57 (100)	** 3*3	3	
	女	11 (19.3)	8 (14.0)	36 (63.2)	2 (3.5)	57 (100)	** 3*3	3	
年 齢	②	0 (0)	0 (0)	36 (94.7)	2 (5.3)	38 (100)	** 3**3	3	**
	④	3 (7.9)	7 (18.4)	27 (71.1)	1 (2.6)	38 (100)	** 3**3	3	
	⑥	13 (34.2)	13 (34.2)	11 (28.9)	1 (2.6)	38 (100)	——	—	
学 歴	小	11 (27.5)	11 (27.5)	17 (42.5)	1 (2.5)	40 (100)			*
	中	3 (8.8)	6 (17.6)	25 (73.5)	0 (0)	34 (100)	** 3**3	3	
	高	2 (5.0)	3 (7.5)	32 (80.0)	3 (7.5)	40 (100)	** 3**3	3	
職 業	農	15 (18.3)	20 (24.4)	45 (54.9)	2 (2.4)	82 (100)	** (3**2)	(3)	**
	工	0 —	0 —	7 —	0 —	7 —	——	—	
	商	1 —	0 —	3 —	0 —	4 —	——	—	
	事	0 —	0 —	16 —	2 —	18 —	——	—	
	無	0 —	0 —	3 —	0 —	3 —	——	—	
役 員	有	11 (18.0)	15 (24.6)	31 (50.8)	4 (6.6)	61 (100)	** (3*2)	(3)	
	無	5 (9.4)	5 (9.4)	43 (81.1)	0 (0)	53 (100)	** 3**3	3	

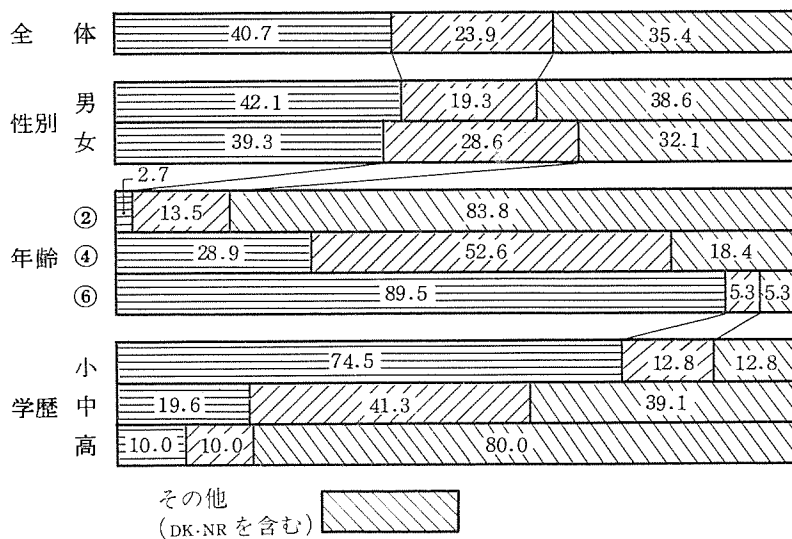
第240図 1.27(2) トゼンダ(言いませんか)(保)



第254表 1.27(2) トゼンダと言いませんか(茂)

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	31 (31.6)	27 (27.6)	36 (36.7)	4 (4.1)	98 (100)			
性別	男	15 (31.3)	11 (22.9)	20 (41.7)	2 (4.2)	48 (100)			
	女	16 (32.0)	16 (32.0)	16 (32.0)	2 (4.0)	50 (100)	—	—	
年齢	②	1 (2.7)	5 (13.5)	30 (81.1)	1 (2.7)	37 (100)	** 3**3	3	**
	④	10 (27.0)	20 (54.1)	5 (13.5)	2 (5.4)	37 (100)	*		
	⑥	20 (83.3)	2 (8.3)	1 (4.2)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
学歴	小	22 (64.7)	6 (17.6)	4 (11.8)	2 (5.9)	34 (100)	** (1**2)	(1)	**
	中	7 (15.9)	19 (43.2)	16 (36.4)	2 (4.5)	44 (100)			
	高	2 —	2 —	16 —	0 —	20 —	—	—	
職業	農	21 (55.3)	11 (28.9)	4 (10.5)	2 (5.3)	38 (100)	*		
	工	3 (13.0)	9 (39.1)	10 (43.5)	1 (4.3)	23 (100)	—	—	
	商	1 —	3 —	6 —	0 —	10 —	—	—	
	事	1 —	1 —	15 —	1 —	18 —	—	—	
	無	5 —	3 —	1 —	0 —	9 —	—	—	
役員	有	15 (36.6)	11 (26.8)	14 (34.1)	1 (2.4)	41 (100)			
	無	16 (28.1)	16 (28.1)	22 (38.6)	3 (5.3)	57 (100)			

第241図 1.27(2) トゼンダ(言いませんか)(茂)

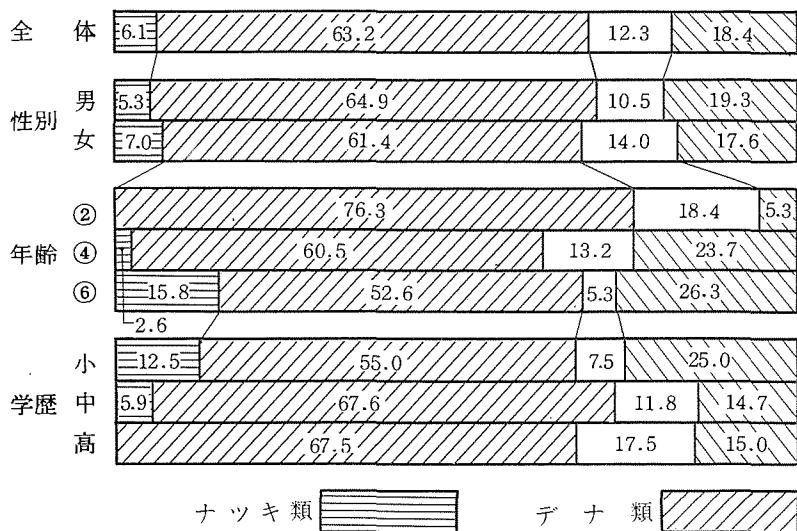


第255表 1.29(1) 額(保)

1. ナツキ類 2. デナ類 3. ヒタイ類 4. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		7 (6.1)	72 (63.2)	14 (12.3)	16 (14.0)	5 (4.4)	114 (100)	** 2**2	2	
性 別	男	3 (5.3)	37 (64.9)	6 (10.5)	11 (19.3)	0 (0)	57 (100)	** 2*2	2	
	女	4 (7.0)	35 (61.4)	8 (14.0)	5 (8.8)	5 (8.8)	57 (100)	** (2**3)	(2)	
年 齢	②	0 (0)	29 (76.3)	7 (18.4)	0 (0)	2 (5.3)	38 (100)	** 2**2	2	
	④	1 (2.6)	23 (60.5)	5 (13.2)	6 (15.8)	3 (7.9)	38 (100)	** (2**4)	(2)	
	⑥	6 (15.8)	20 (52.6)	2 (5.3)	10 (26.3)	0 (0)	38 (100)			
学 歴	小	5 (12.5)	22 (55.0)	3 (7.5)	9 (22.5)	1 (2.5)	40 (100)	** (2*4)	(2)	
	中	2 (5.9)	23 (67.6)	4 (11.8)	5 (14.7)	0 (0)	34 (100)	** 2*2	2	
	高	0 (0)	27 (67.5)	7 (17.5)	2 (5.0)	4 (10.0)	40 (100)	** 2*2	2	
職 業	農	7 (8.5)	49 (59.8)	8 (9.8)	15 (18.3)	3 (3.7)	82 (100)	** (2**4)	(2)	
	工	0 —	7 —	0 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	1 —	1 —	1 —	1 —	4 —	—	—	
	事	0 —	12 —	5 —	0 —	1 —	18 —	—	—	
	無	0 —	3 —	0 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	5 (8.2)	37 (60.7)	5 (8.2)	11 (18.0)	3 (4.9)	61 (100)	** (2**4)	(2)	
	無	2 (3.8)	35 (66.0)	9 (17.0)	5 (9.4)	2 (3.8)	53 (100)	** 2*2	2	

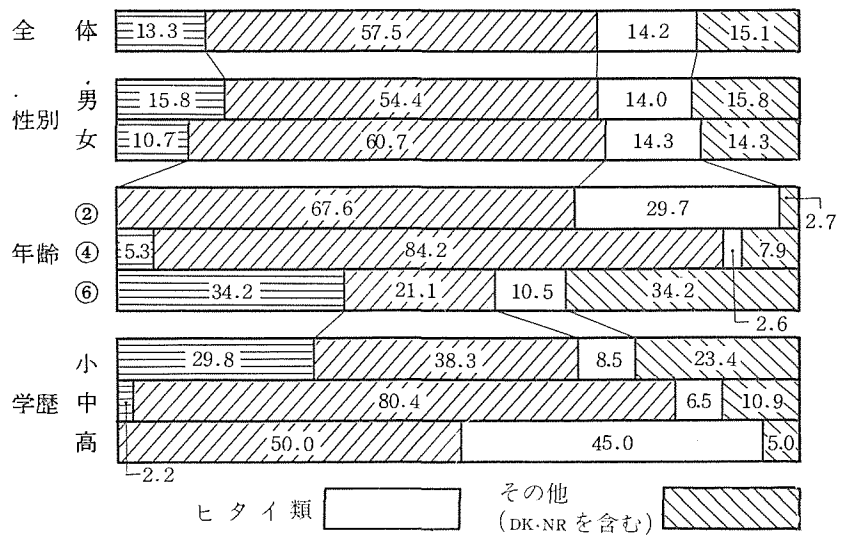
第242図 1.29(1) 額(保)



第256表 1.29(1) 額(茂)

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	15 (13.3)	65 (57.5)	16 (14.2)	16 (14.2)	1 (0.9)	113 (100)	** (2**3,4)	(2)	
性 別	男	9 (15.8)	31 (54.4)	8 (14.0)	9 (15.8)	0 (0)	57 (100)	** (2**1,4)	(2)	
	女	6 (10.7)	34 (60.7)	8 (14.3)	7 (12.5)	1 (1.8)	56 (100)	** (2**3)	(2)	
年 齢	②	0 (0)	25 (67.6)	11 (29.7)	0 (0)	1 (2.7)	37 (100)	** 2*2	2	**
	④	2 (5.3)	32 (84.2)	1 (2.6)	3 (7.9)	0 (0)	38 (100)	** 2**2	2	
	⑥	13 (34.2)	8 (21.1)	4 (10.5)	13 (34.2)	0 (0)	38 (100)	——	—	
学 歴	小	14 (29.8)	18 (38.3)	4 (8.5)	11 (23.4)	0 (0)	47 (100)			**
	中	1 (2.2)	37 (80.4)	3 (6.5)	4 (8.7)	1 (2.2)	46 (100)	** 2**2	2	
	高	0 —	10 —	9 —	1 —	0 —	20 —	——	—	
職 業	農	13 (26.5)	19 (38.8)	6 (12.2)	11 (22.4)	0 (0)	49 (100)			
	工	2 (8.3)	18 (75.0)	2 (8.3)	2 (8.3)	0 (0)	24 (100)	——	—	
	商	0 —	7 —	3 —	0 —	0 —	10 —	——	—	
	事	0 —	13 —	5 —	0 —	0 —	18 —	——	—	
	無	0 —	8 —	0 —	3 —	1 —	12 —	——	—	
役 員	有	10 (20.0)	26 (52.0)	9 (18.0)	5 (10.0)	0 (0)	50 (100)	** (2**1)	(2)	
	無	5 (7.9)	39 (61.9)	7 (11.1)	11 (17.5)	1 (1.6)	63 (100)	** (2**4)	(2)	

第243図 1.29(1) 額(茂)

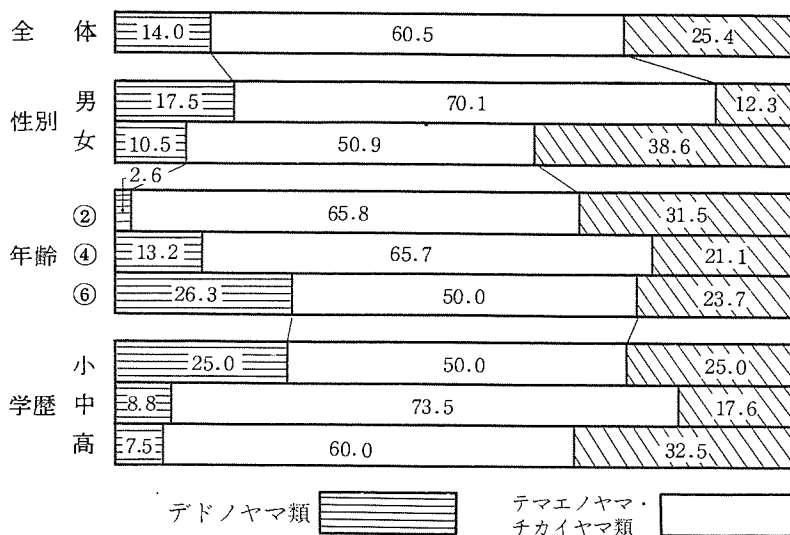


第257表 1.18 入口の方の山（保）

1. デドノヤマ類 2. テマエノヤマ類 3. チカイヤマ類

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	16 (14.0)	33 (28.9)	36 (31.6)	11 (9.6)	1 (0.9)	17 (14.9)	114 (100)	**		
性 別	男	10 (17.5)	19 (33.3)	21 (36.8)	2 (3.5)	1 (1.8)	4 (7.0)	57 (100)	*		
	女	6 (10.5)	14 (24.6)	15 (26.3)	9 (15.8)	0 (0)	13 (22.8)	57 (100)			
年 齢	②	1 (2.6)	7 (18.4)	18 (47.4)	4 (10.5)	1 (2.6)	7 (18.4)	38 (100)	** (3*2,N.R)	(3)	
	④	5 (13.2)	14 (36.8)	11 (28.9)	3 (7.9)	0 (0)	5 (13.2)	38 (100)			
	⑥	10 (26.3)	12 (31.6)	7 (18.4)	4 (10.5)	0 (0)	5 (13.2)	38 (100)			
学 歴	小	10 (25.0)	13 (32.5)	7 (17.5)	5 (12.5)	0 (0)	5 (12.5)	40 (100)			
	中	3 (8.8)	10 (29.4)	15 (44.1)	1 (2.9)	1 (2.9)	4 (11.8)	34 (100)			
	高	3 (7.5)	10 (25.0)	14 (35.0)	5 (12.5)	0 (0)	8 (20.0)	40 (100)			
職 業	農	14 (17.0)	27 (32.9)	21 (25.6)	8 (9.8)	1 (1.2)	11 (13.4)	82 (100)	*		
	工	0 —	1 —	6 —	0 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	1 —	1 —	0 —	0 —	2 —	4 —	—	—	
	事	1 —	3 —	8 —	2 —	0 —	4 —	18 —	—	—	
	無	1 —	1 —	0 —	1 —	0 —	0 —	3 —	—	—	
役 員	有	14 (23.0)	21 (34.4)	15 (24.6)	3 (4.9)	1 (1.6)	7 (11.5)	61 (100)			
	無	2 (3.8)	12 (22.6)	21 (39.6)	8 (15.1)	0 (0)	10 (18.9)	53 (100)			

第244図 1.18 入口の方の山（保）

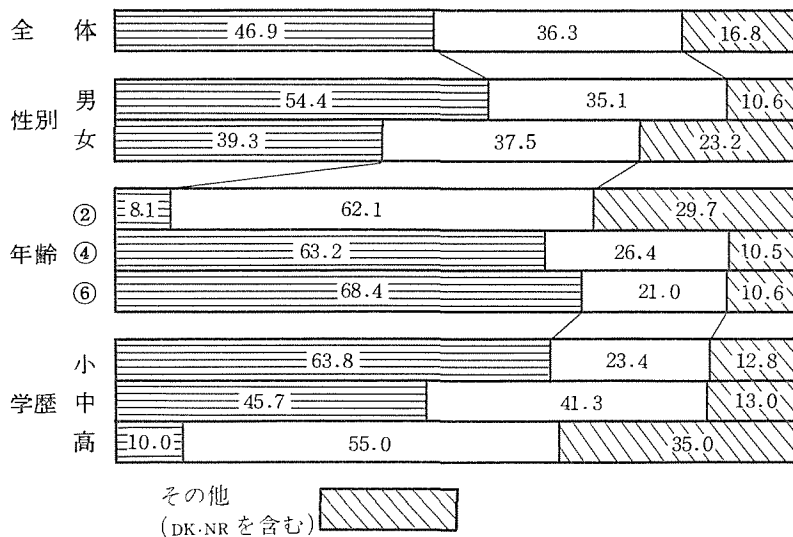


第258表 1.18 入口の方の山（茂）

4. しらない 5. その他

		1	2	3	4	5	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	53 (46.9)	21 (18.6)	20 (17.7)	7 (6.2)	1 (0.9)	11 (9.7)	113 (100)	** (1**2)	(1)	
性別	男	31 (54.4)	12 (21.1)	8 (14.0)	1 (1.8)	1 (1.8)	4 (7.0)	57 (100)	** (1**2)	(1)	
	女	22 (39.3)	9 (16.1)	12 (21.4)	6 (10.7)	0 (0)	7 (12.5)	56 (100)	*		
年齢	②	3 (8.1)	12 (32.4)	11 (29.7)	3 (8.1)	0 (0)	8 (21.6)	37 (100)			
	④	24 (63.2)	5 (13.2)	5 (13.2)	2 (5.3)	1 (2.6)	1 (2.6)	38 (100)	** (1**2,3)	(1)	**
	⑥	26 (68.4)	4 (10.5)	4 (10.5)	2 (5.3)	0 (0)	2 (5.3)	38 (100)	** 1*1	1	
学歴	小	30 (63.8)	5 (10.6)	6 (12.8)	2 (4.3)	1 (2.1)	3 (6.4)	47 (100)	** (1**3)	(1)	
	中	21 (45.7)	8 (17.4)	11 (23.9)	3 (6.5)	0 (0)	3 (6.5)	46 (100)	*		
	高	2 —	8 —	3 —	2 —	0 —	5 —	20 —	—	—	
職業	農	34 (69.4)	3 (6.1)	7 (14.3)	3 (6.1)	0 (0)	2 (4.1)	49 (100)	** 1**1	1	
	工	11 (45.8)	6 (25.0)	6 (25.0)	0 (0)	1 (4.2)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	1 —	4 —	2 —	1 —	0 —	2 —	10 —	—	—	*
	事	1 —	6 —	3 —	3 —	0 —	5 —	18 —	—	—	
	無	6 —	2 —	2 —	0 —	0 —	2 —	12 —	—	—	
役員	有	28 (56.0)	10 (20.0)	7 (14.0)	3 (6.0)	0 (0)	2 (4.0)	50 (100)	** (1**2)	(1)	
	無	25 (39.7)	11 (17.5)	13 (20.6)	4 (6.3)	1 (1.6)	9 (14.3)	63 (100)			

第245図 1.18 入口の方の山（茂）

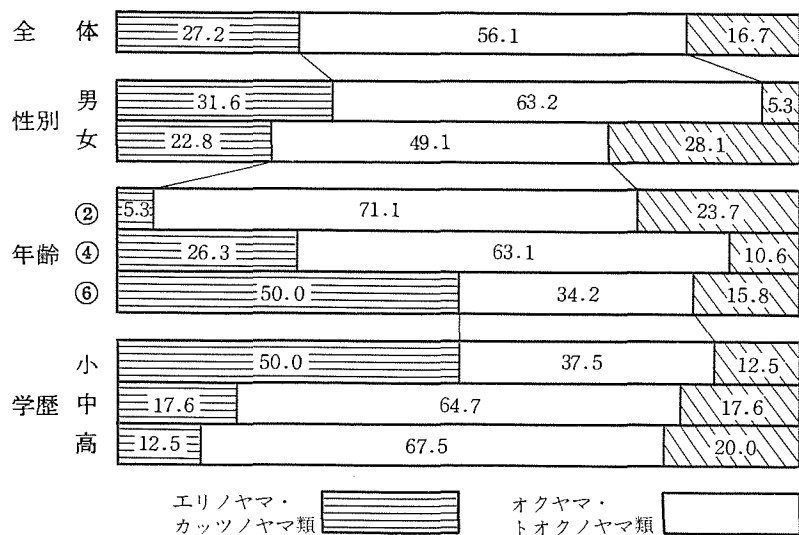


第259表 1.17 奥の山（保）

1. エリノヤマ類 2. カッツノヤマ類 3. オクヤマ類

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	31 (27.2)	0 (0)	35 (30.7)	29 (25.4)	8 (7.0)	1 (0.9)	10 (8.8)	114 (100)	**		
性	男	18 (31.6)	0 (0)	20 (35.1)	16 (28.1)	2 (3.5)	0 (0)	1 (1.8)	57 (100)	*		
	女	13 (22.8)	0 (0)	15 (26.3)	13 (22.8)	6 (10.5)	1 (1.8)	9 (15.8)	57 (100)			
年	②	2 (5.3)	0 (0)	15 (39.5)	12 (31.6)	4 (10.5)	0 (0)	5 (13.2)	38 (100)			
	④	10 (26.3)	0 (0)	10 (26.3)	14 (36.8)	2 (5.3)	0 (0)	2 (5.3)	38 (100)			
	⑥	19 (50.0)	0 (0)	10 (26.3)	3 (7.9)	2 (5.3)	1 (2.6)	3 (7.9)	38 (100)			
学	小	20 (50.0)	0 (0)	12 (30.0)	3 (7.5)	2 (5.0)	0 (0)	3 (7.5)	40 (100)			
	中	6 (17.6)	0 (0)	10 (29.4)	12 (35.3)	3 (8.8)	1 (2.9)	2 (5.9)	34 (100)			
	高	5 (12.5)	0 (0)	13 (32.5)	14 (35.0)	3 (7.5)	0 (0)	5 (12.5)	40 (100)			
職	農	29 (35.4)	0 (0)	20 (24.4)	22 (26.8)	4 (4.9)	1 (1.2)	6 (7.3)	82 (100)	*		
	工	0 —	0 —	2 —	4 —	1 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	0 —	0 —	2 —	0 —	1 —	0 —	1 —	4 —	—	—	
	事	1 —	0 —	10 —	3 —	2 —	0 —	2 —	18 —	—	—	
	無	1 —	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	1 —	3 —	—	—	
役	有	19 (31.1)	0 (0)	19 (31.1)	16 (26.2)	2 (3.3)	1 (1.6)	4 (6.6)	61 (100)	—	—	
	無	12 (22.6)	0 (0)	16 (30.2)	13 (24.5)	6 (11.3)	0 (0)	6 (11.3)	53 (100)			

第246図 1.17 奥の山（保）

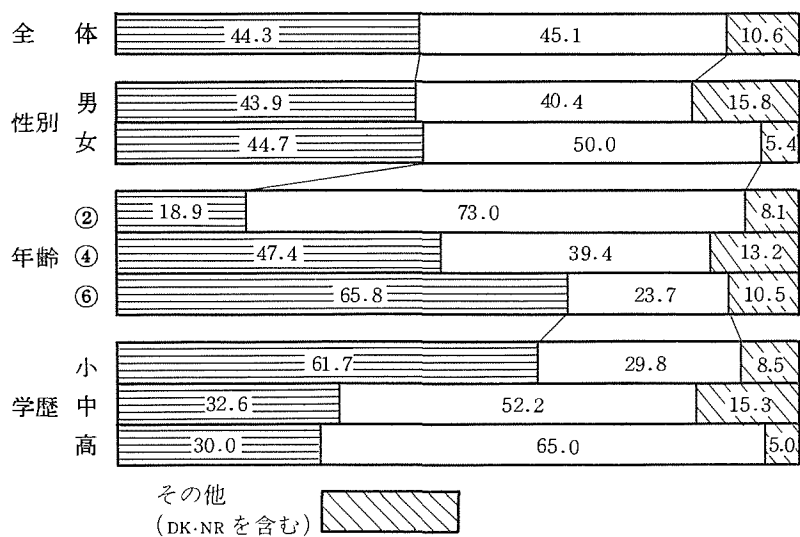


第260表 1.17 奥の山 (茂)

4. トオクノヤマ類 5. しらない 6. その他

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	47 (41.6)	3 (2.7)	47 (41.6)	4 (3.5)	1 (0.9)	10 (8.8)	1 (0.9)	113 (100)	—	—	
性	男	23 (40.4)	2 (3.5)	22 (38.6)	1 (1.8)	0 (0)	8 (14.0)	1 (1.8)	57 (100)			
別	女	24 (42.9)	1 (1.8)	25 (44.6)	3 (5.4)	1 (1.8)	2 (3.6)	0 (0)	56 (100)	**		
年	②	6 (16.2)	1 (2.7)	25 (67.6)	2 (5.4)	1 (2.7)	1 (2.7)	1 (2.7)	37 (100)	** 3*3	3	
齢	④	16 (42.1)	2 (5.3)	14 (36.8)	1 (2.6)	0 (0)	5 (13.2)	0 (0)	38 (100)			*
	⑥	25 (65.8)	0 (0)	8 (21.1)	1 (2.6)	0 (0)	4 (10.5)	0 (0)	38 (100)	** (1**3)	(1)	
学	小	29 (61.7)	0 (0)	12 (25.5)	2 (4.3)	0 (0)	4 (8.5)	0 (0)	47 (100)	** (1**3)	(1)	
歴	中	12 (26.1)	3 (6.5)	23 (50.0)	1 (2.2)	1 (2.2)	5 (10.9)	1 (2.2)	46 (100)			
	高	6 —	0 —	12 —	1 —	0 —	1 —	0 —	20 —	—	—	
職	農	29 (59.2)	0 (0)	13 (26.5)	1 (2.0)	0 (0)	6 (12.2)	0 (0)	49 (100)	** (1*3)	(1)	
業	工	11 (45.8)	2 (8.3)	10 (41.7)	0 (0)	0 (0)	1 (4.2)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	1 —	1 —	6 —	1 —	0 —	1 —	0 —	10 —	—	—	
	事	3 —	0 —	11 —	1 —	1 —	1 —	1 —	18 —	—	—	
	無	3 —	0 —	7 —	1 —	0 —	1 —	0 —	12 —	—	—	
役	有	26 (52.0)	2 (4.0)	14 (28.0)	2 (4.0)	0 (0)	6 (12.0)	0 (0)	50 (100)	*		
員	無	21 (33.3)	1 (1.6)	33 (52.4)	2 (3.2)	1 (1.6)	4 (6.3)	1 (1.6)	63 (100)	**		

第247図 1.17 奥の山 (茂)

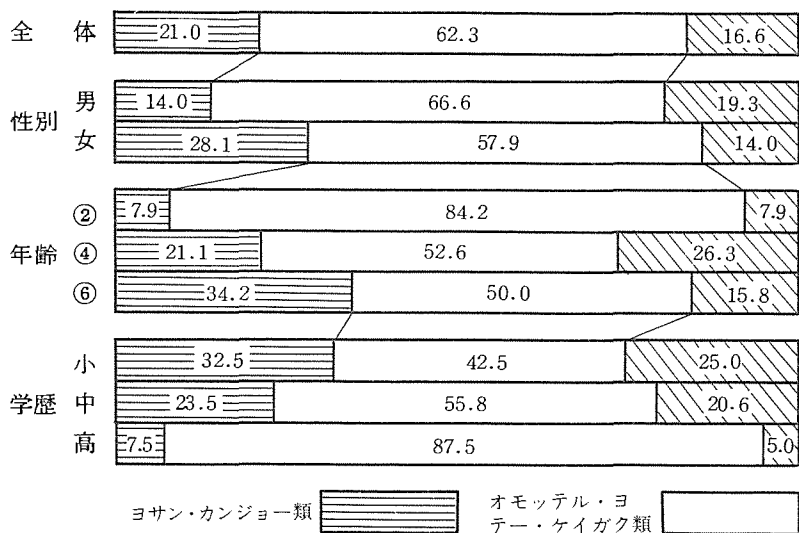


第261表 3.30 予定 (保)

1. ヨサン類 2. カンジョー類 3. オモッテル類

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	21 (18.4)	3 (2.6)	19 (16.7)	42 (36.8)	10 (8.8)	11 (9.6)	8 (7.0)	114 (100)	** (4**1)	(4)	
性 別	男	6 (10.5)	2 (3.5)	10 (17.5)	21 (36.8)	7 (12.3)	7 (12.3)	4 (7.0)	57 (100)	** (4*3)	(4)	
	女	15 (26.3)	1 (1.8)	9 (15.8)	21 (36.8)	3 (5.3)	4 (7.0)	4 (7.0)	57 (100)			
年 齢	②	2 (5.3)	1 (2.6)	4 (10.5)	23 (60.5)	5 (13.2)	3 (7.9)	0 (0)	38 (100)	** (4**5)	(4)	*
	④	6 (15.8)	2 (5.3)	9 (23.7)	10 (26.3)	1 (2.6)	7 (18.4)	3 (7.9)	38 (100)			
	⑥	13 (34.2)	0 (0)	6 (15.8)	9 (23.7)	4 (10.5)	1 (2.6)	5 (13.2)	38 (100)			
学 歴	小	12 (30.0)	1 (2.5)	5 (12.5)	10 (25.0)	2 (5.0)	5 (12.5)	5 (12.5)	40 (100)			
	中	8 (23.5)	0 (0)	8 (23.5)	8 (23.5)	3 (8.8)	5 (14.7)	2 (5.9)	34 (100)	——	—	
	高	1 (2.5)	2 (5.0)	6 (15.0)	24 (60.0)	5 (12.5)	1 (2.5)	1 (2.5)	40 (100)	** (4**3)	(4)	
職 業	農	19 (23.2)	1 (1.2)	17 (20.7)	20 (24.4)	6 (7.3)	11 (13.4)	8 (9.8)	82 (100)			**
	工	1 —	0 —	0 —	5 —	1 —	0 —	0 —	7 —	——	—	
	商	0 —	0 —	0 —	3 —	1 —	0 —	0 —	4 —	——	—	
	事	0 —	1 —	2 —	13 —	2 —	0 —	0 —	18 —	——	—	
	無	1 —	1 —	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	3 —	——	—	
役 員	有	11 (18.0)	1 (1.6)	10 (16.4)	21 (34.4)	5 (8.2)	8 (13.1)	5 (8.2)	61 (100)			
	無	10 (18.9)	2 (3.8)	9 (17.0)	21 (39.6)	5 (9.4)	3 (5.7)	3 (5.7)	53 (100)	** (4*1)	(4)	

第248図 3.30 予定 (保)

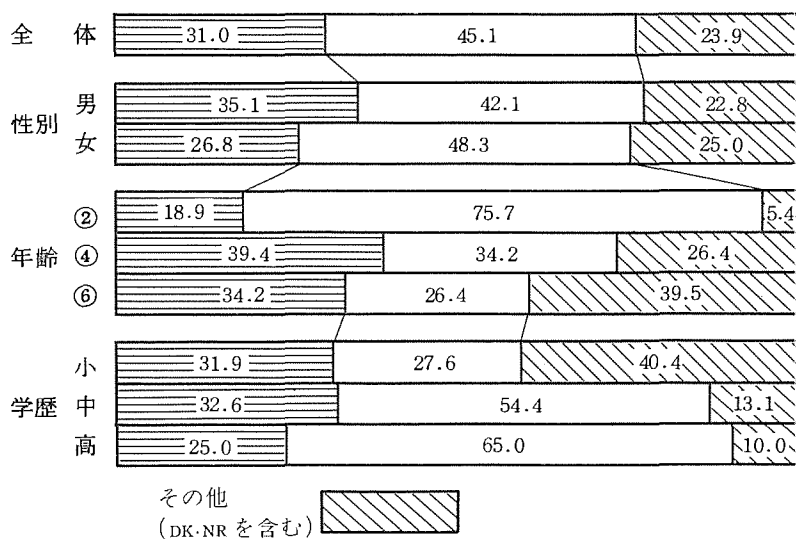


第262表 3.30 予定 (茂)

4. ヨテー類 5. ケイガク類 6. その他

		1	2	3	4	5	6	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		32 (28.3)	3 (2.7)	18 (15.9)	32 (28.3)	1 (0.9)	13 (11.5)	14 (12.4)	113 (100)	——	—	
性 別	男	18 (31.6)	2 (3.5)	8 (14.0)	15 (26.3)	1 (1.8)	9 (15.8)	4 (7.0)	57 (100)			
	女	14 (25.0)	1 (1.8)	10 (17.9)	17 (30.4)	0 (0)	4 (7.1)	10 (17.9)	56 (100)			
年 齢	②	6 (16.2)	1 (2.7)	8 (21.6)	20 (54.1)	0 (0)	0 (0)	2 (5.4)	37 (100)	*		
	④	14 (36.8)	1 (2.6)	5 (13.2)	7 (18.4)	1 (2.6)	5 (13.2)	5 (13.2)	38 (100)			*
	⑥	12 (31.6)	1 (2.6)	5 (13.2)	5 (13.2)	0 (0)	8 (21.1)	7 (18.4)	38 (100)			
学 歴	小	14 (29.8)	1 (2.1)	5 (10.6)	7 (14.9)	1 (2.1)	10 (21.3)	9 (19.1)	47 (100)			
	中	15 (32.6)	0 (0)	9 (19.6)	16 (34.8)	0 (0)	1 (2.2)	5 (10.9)	46 (100)			
	高	3 —	2 —	4 —	9 —	0 —	2 —	0 —	20 —	——	—	
職 業	農	16 (32.7)	1 (2.0)	6 (12.2)	9 (18.4)	0 (0)	8 (16.3)	9 (18.4)	49 (100)			
	工	9 (37.5)	0 (0)	5 (20.8)	6 (25.0)	1 (4.2)	2 (8.3)	1 (4.2)	24 (100)	——	—	
	商	4 —	0 —	2 —	2 —	0 —	1 —	1 —	10 —	——	—	
	事	1 —	2 —	3 —	11 —	0 —	0 —	1 —	18 —	——	—	
	無	2 —	0 —	2 —	4 —	0 —	2 —	2 —	12 —	——	—	
役 員	有	16 (32.0)	2 (4.0)	7 (14.0)	12 (24.0)	1 (2.0)	7 (14.0)	5 (10.0)	50 (100)			
	無	16 (25.4)	1 (1.6)	11 (17.5)	20 (31.7)	0 (0)	6 (9.5)	9 (14.3)	63 (100)			

第249図 3.30 予定 (茂)

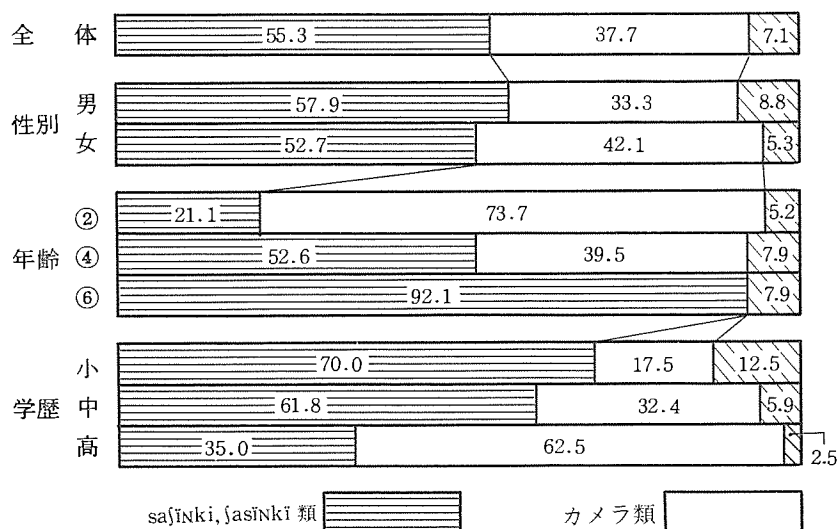


第263表 3.24 写真機(大) (保)

1. saſĩnki 類 2. ſaſĩnki 類 3. カメラ類 4. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合 関係
全 体		⁴ (3.5)	⁵⁹ (51.8)	⁴³ (37.7)	⁶ (5.3)	² (1.8)	¹¹⁴ (100)	**		
性 別	男	¹ (1.8)	³² (56.1)	¹⁹ (33.3)	⁴ (7.0)	¹ (1.8)	⁵⁷ (100)	**		
	女	³ (5.3)	²⁷ (47.4)	²⁴ (42.1)	² (3.5)	¹ (1.8)	⁵⁷ (100)	**		
年 齢	②	⁰ (0)	⁸ (21.1)	²⁸ (73.7)	¹ (2.6)	¹ (2.6)	³⁸ (100)	** 3**3	3	**
	④	⁰ (0)	²⁰ (52.6)	¹⁵ (39.5)	³ (7.9)	⁰ (0)	³⁸ (100)	**		
	⑥	⁴ (10.5)	³¹ (81.6)	⁰ (0)	² (5.3)	¹ (2.6)	³⁸ (100)	** 2**2	2	
学 歴	小	⁴ (10.0)	²⁴ (60.0)	⁷ (17.5)	⁴ (10.0)	¹ (2.5)	⁴⁰ (100)	** (2**3)	(2)	
	中	⁰ (0)	²¹ (61.8)	¹¹ (32.4)	² (5.9)	⁰ (0)	³⁴ (100)			
	高	⁰ (0)	¹⁴ (35.0)	²⁵ (62.5)	⁰ (0)	¹ (2.5)	⁴⁰ (100)			
職 業	農	³ (3.7)	⁵³ (64.6)	²¹ (25.0)	⁴ (4.9)	¹ (1.2)	⁸² (100)	** 2**2	2	**
	工	⁰ —	¹ —	⁵ —	¹ —	⁰ —	⁷ —	—	—	
	商	⁰ —	⁰ —	³ —	¹ —	⁰ —	⁴ —	—	—	
	事	⁰ —	⁵ —	¹² —	⁰ —	¹ —	¹⁸ —	—	—	
	無	¹ —	⁰ —	² —	⁰ —	⁰ —	³ —	—	—	
役 員	有	¹ (1.6)	⁴⁰ (65.6)	¹⁷ (27.9)	³ (4.9)	⁰ (0)	⁶¹ (100)	** 2*2	2	
	無	³ (5.7)	¹⁹ (35.8)	²⁶ (49.1)	³ (5.7)	² (3.8)	⁵³ (100)	**		

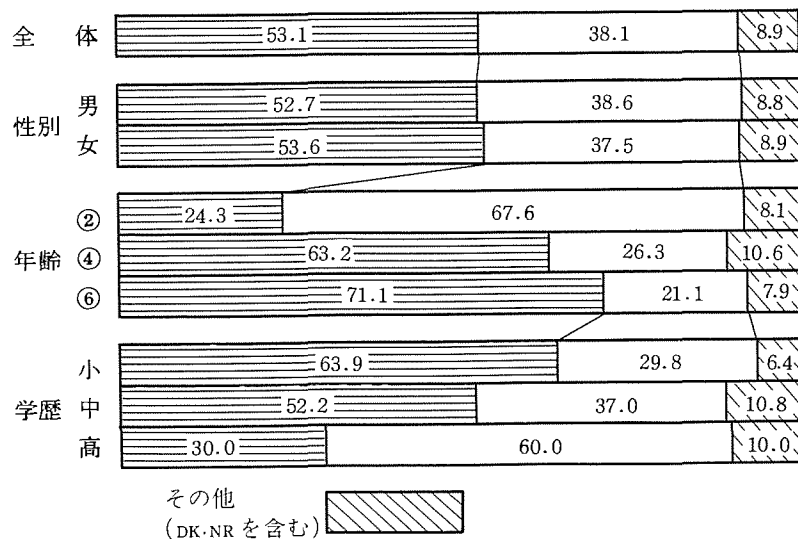
第250図 3.24 写真機(大) (保)



第264表 3.24 写真機(大) (茂)

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	2 (1.8)	58 (51.3)	43 (38.1)	3 (2.7)	7 (6.2)	113 (100)	**		
性 別	男	1 (1.8)	29 (50.9)	22 (38.6)	2 (3.5)	3 (5.3)	57 (100)	**		
	女	1 (1.8)	29 (51.8)	21 (37.5)	1 (1.8)	4 (7.1)	56 (100)	**		
年 齢	②	0 (0)	9 (24.3)	25 (67.6)	1 (2.7)	2 (5.4)	37 (100)	** 3*3	3	**
	④	0 (0)	24 (63.2)	10 (26.3)	2 (5.3)	2 (5.3)	38 (100)	** (2*3)	(2)	
	⑥	2 (5.3)	25 (65.8)	8 (21.1)	0 (0)	3 (7.9)	38 (100)	** (2**3)	(2)	
学 歴	小	2 (4.3)	28 (59.6)	14 (29.8)	0 (0)	3 (6.4)	47 (100)	** (2*3)	(2)	
	中	0 (0)	24 (52.2)	17 (37.0)	2 (4.3)	3 (6.5)	46 (100)	**		
	高	0 —	6 —	12 —	1 —	1 —	20 —	—	—	
職 業	農	2 (4.1)	30 (61.2)	14 (28.6)	0 (0)	3 (6.1)	49 (100)	** (2*3)	(2)	
	工	0 (0)	10 (41.7)	11 (45.8)	1 (4.2)	2 (8.3)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	3 —	5 —	1 —	1 —	10 —	—	—	
	事	0 —	5 —	11 —	1 —	1 —	18 —	—	—	
	無	0 —	10 —	2 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役 員	有	0 (0)	28 (56.0)	16 (32.0)	1 (2.0)	5 (10.0)	50 (100)	**		
	無	2 (3.2)	30 (47.6)	27 (42.9)	2 (3.2)	2 (3.2)	63 (100)	**		

第251図 3.24 写真機(大) (茂)

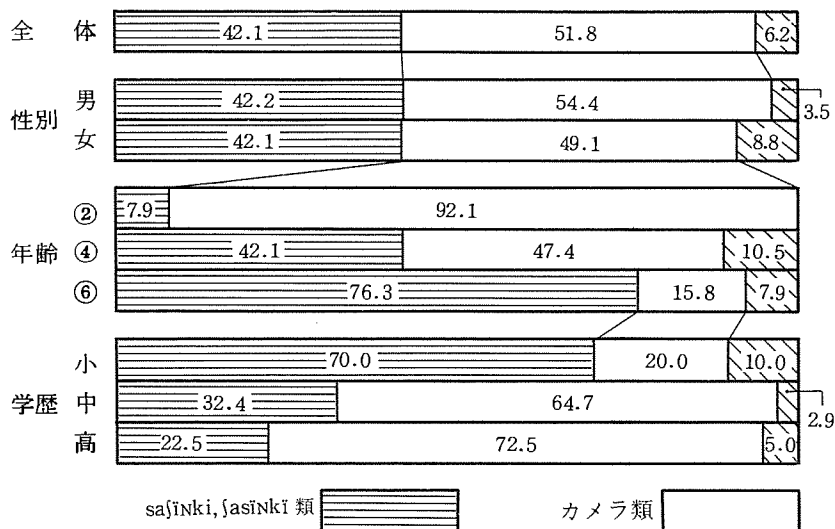


第265表 3.24 写真機(小) (保)

1. saĩnki 類 2. {asĩnki 類 3. カメラ類 4. その他

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		³ (2.6)	⁴⁵ (39.5)	⁵⁹ (51.8)	⁵ (4.4)	² (1.8)	¹¹⁴ (100)	**		
性 別	男	¹ (1.8)	²³ (40.4)	³¹ (54.4)	² (3.5)	⁰ (0)	⁵⁷ (100)			
	女	² (3.5)	²² (38.6)	²⁸ (49.1)	³ (5.3)	² (3.5)	⁵⁷ (100)	**		
年 齢	②	⁰ (0)	³ (7.9)	³⁵ (92.1)	⁰ (0)	⁰ (0)	³⁸ (100)	** 3**3	3	**
	④	⁰ (0)	¹⁶ (42.1)	¹⁸ (47.4)	³ (7.9)	¹ (2.6)	³⁸ (100)	*		
	⑥	³ (7.9)	²⁶ (68.4)	⁶ (15.8)	² (5.3)	¹ (2.6)	³⁸ (100)	** 2*2	2	
学 歴	小	³ (7.5)	²⁵ (62.5)	⁸ (20.0)	² (5.0)	² (5.0)	⁴⁰ (100)	** (2**3)	(2)	**
	中	⁰ (0)	¹¹ (32.4)	²² (64.7)	¹ (2.9)	⁰ (0)	³⁴ (100)	**		
	高	⁰ (0)	⁹ (22.5)	²⁹ (72.5)	² (5.0)	⁰ (0)	⁴⁰ (100)	** 3**3	3	
職 業	農	² (2.4)	⁴² (51.2)	³² (39.0)	⁴ (4.9)	² (2.4)	⁸² (100)	**		**
	工	⁰ —	⁰ —	⁷ —	⁰ —	⁰ —	⁷ —	—	—	
	商	⁰ —	¹ —	² —	¹ —	⁰ —	⁴ —	—	—	
	事	⁰ —	¹ —	¹⁷ —	⁰ —	⁰ —	¹⁸ —	—	—	
	無	¹ —	¹ —	¹ —	⁰ —	⁰ —	³ —	—	—	
役 員	有	¹ (1.6)	³¹ (50.8)	²⁵ (41.0)	³ (4.9)	¹ (1.6)	⁶¹ (100)	**		
	無	² (3.8)	¹⁴ (26.4)	³⁴ (64.2)	² (3.8)	¹ (1.9)	⁵³ (100)	** 3*3	3	

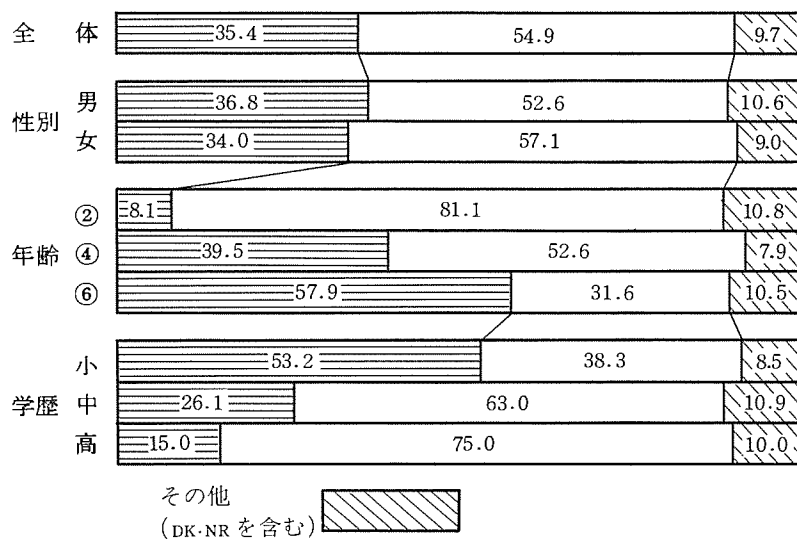
第252図 3.24 写真機(小) (保)



第266表 3.24 写真機(小) (茂)

		1	2	3	4	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	2 (1.8)	38 (33.6)	62 (54.9)	7 (6.2)	4 (3.5)	113 (100)	** (3*2)	(3)	
性	男	0 (0)	21 (36.8)	30 (52.6)	5 (8.8)	1 (1.8)	57 (100)	**		
	女	2 (3.6)	17 (30.4)	32 (57.1)	2 (3.6)	3 (5.4)	56 (100)	** (3*2)	(3)	
年	②	0 (0)	3 (8.1)	30 (81.1)	3 (8.1)	1 (2.7)	37 (100)	** 3**3	3	
	④	0 (0)	15 (39.5)	20 (52.6)	3 (7.9)	0 (0)	38 (100)	**		**
	⑥	2 (5.3)	20 (52.6)	12 (31.6)	1 (2.6)	3 (7.9)	38 (100)	*		
学	小	2 (4.3)	23 (48.9)	18 (38.3)	1 (2.1)	3 (6.4)	47 (100)	**		
	中	0 (0)	12 (26.1)	29 (63.0)	4 (8.7)	1 (2.2)	46 (100)	** (3**2)	(3)	
	高	0 —	3 —	15 —	2 —	0 —	20 —	—	—	
職	農	1 (2.0)	19 (38.8)	24 (49.0)	2 (4.1)	3 (6.1)	49 (100)	**		
	工	0 (0)	8 (33.3)	14 (58.3)	2 (8.3)	0 (0)	24 (100)	—	—	
	商	0 —	2 —	7 —	1 —	0 —	10 —	—	—	
	事	0 —	2 —	13 —	2 —	1 —	18 —	—	—	
	無	1 —	7 —	4 —	0 —	0 —	12 —	—	—	
役	有	1 (2.0)	18 (36.0)	25 (50.0)	5 (10.0)	1 (2.0)	50 (100)	**		
	無	1 (1.6)	20 (31.7)	37 (58.7)	2 (3.2)	3 (4.8)	63 (100)	** (3*2)	(3)	

第253図 3.24 写真機(小) (茂)

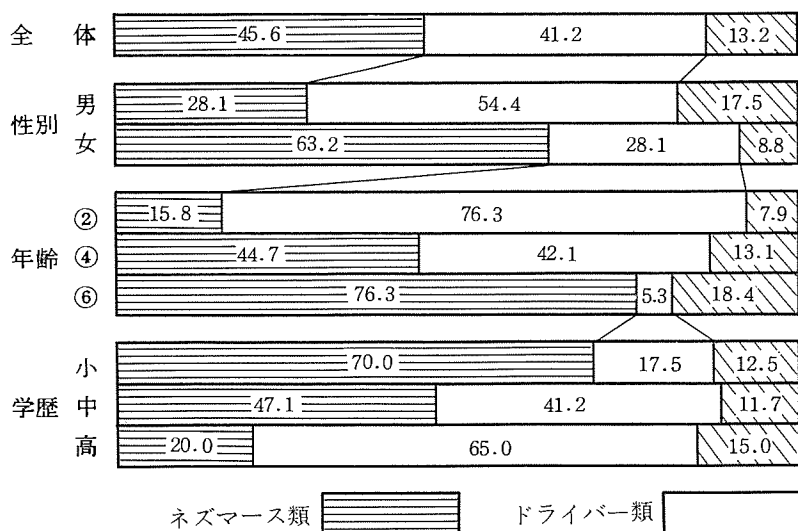


第267表 3.25 ねじまわし（保）

1. ネズマース類 2. ドライバー類 3. その他

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全	体	52 (45.6)	47 (41.2)	10 (8.8)	5 (4.4)	114 (100)	**		
性 別	男	16 (28.1)	31 (54.4)	8 (14.0)	2 (3.5)	57 (100)	** (2*1)	(2)	*
	女	36 (63.2)	16 (28.1)	2 (3.5)	3 (5.3)	57 (100)	** 1*1	1	
年 齢	②	6 (15.8)	29 (76.3)	3 (7.9)	0 (0)	38 (100)	** 2**2	2	**
	④	17 (44.7)	16 (42.1)	4 (10.5)	1 (2.6)	38 (100)			
	⑥	29 (76.3)	2 (5.3)	3 (7.9)	4 (10.5)	38 (100)	** 1**1	1	
学 歴	小	28 (70.0)	7 (17.5)	1 (2.5)	4 (10.0)	40 (100)	** 1*1	1	**
	中	16 (47.1)	14 (41.2)	3 (8.8)	1 (2.9)	34 (100)	*		
	高	8 (20.0)	26 (65.0)	6 (15.0)	0 (0)	40 (100)	** (2**1)	(2)	
職 業	農	44 (53.7)	26 (31.7)	8 (9.8)	4 (4.9)	82 (100)	** (1*2)	(1)	
	工	2 —	5 —	0 —	0 —	7 —	—	—	
	商	2 —	2 —	0 —	0 —	4 —	—	—	
	事	3 —	14 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	1 —	0 —	1 —	1 —	3 —	—	—	
役 員	有	28 (45.9)	22 (36.1)	6 (9.8)	5 (8.2)	61 (100)	*		
	無	24 (45.3)	25 (47.2)	4 (7.5)	0 (0)	53 (100)	**		

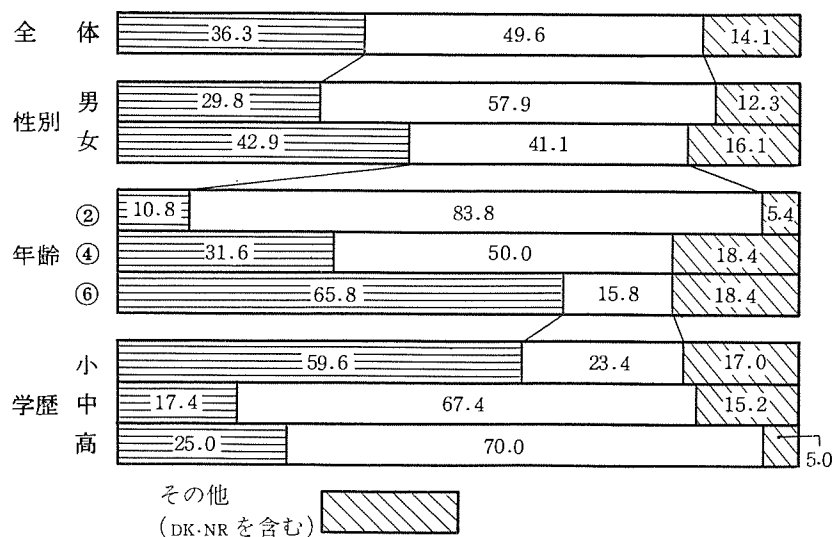
第254図 3.25 ねじまわし（保）



第268表 3.25 ねじまわし (茂)

		1	2	3	N.R	計	有意水準	傾向	連合関係
全 体		41 (36.3)	56 (49.6)	6 (5.3)	10 (8.8)	113 (100)	**		
性 別	男	17 (29.8)	33 (57.9)	3 (5.3)	4 (7.0)	57 (100)	** (2*1)	(2)	
	女	24 (42.9)	23 (41.1)	3 (5.4)	6 (10.7)	56 (100)	*		
年 齢	②	4 (10.8)	31 (83.8)	1 (2.7)	1 (2.7)	37 (100)	** 2**2	2	**
	④	12 (31.6)	19 (50.0)	4 (10.5)	3 (7.9)	38 (100)			
	⑥	25 (65.8)	6 (15.8)	1 (2.6)	6 (15.8)	38 (100)	** (1**2, N.R)	(1)	
学 歴	小	28 (59.6)	11 (23.4)	1 (2.1)	7 (14.9)	47 (100)	** (1**2)	(1)	*
	中	8 (17.4)	31 (67.4)	4 (8.7)	3 (6.5)	46 (100)	** 2*2	2	
	高	5 —	14 —	1 —	0 —	20 —	—	—	
職 業	農	27 (55.1)	15 (30.6)	2 (4.1)	5 (10.2)	49 (100)	**		*
	工	5 (20.8)	15 (62.5)	3 (12.5)	1 (4.2)	24 (100)	—	—	
	商	2 —	7 —	0 —	1 —	10 —	—	—	
	事	4 —	13 —	1 —	0 —	18 —	—	—	
	無	3 —	6 —	0 —	3 —	12 —	—	—	
役 員	有	20 (40.0)	21 (42.0)	4 (8.0)	5 (10.0)	50 (100)			
	無	21 (33.3)	35 (55.6)	2 (3.2)	5 (7.9)	63 (100)	**		

第255図 3.25 ねじまわし (茂)



あ と が き——反省にかえて

これは、われわれの「福島北部調査」における「面接調査」の結果の報告である。その「面接調査」は、地域社会の人たちが、その社会内で、土地の人同士で話す言葉がどのように変遷しているかを問題とした。地域社会内のコミュニケーションに用いられる言葉を対象としたことについては、あるいは疑義を感じる人がいるかもしれない。しかし、地域社会内の言語使用の変遷の実態を把握することは意義があると思う。国語教育や言語政策はもちろん、方言調査そのものにおいても、このような実態把握に基づいて、その方策はうち立てられるべきであると思うからである。

それにしても、ふり返って反省すべき点も多い。

そもそも、このような調査においては「調査票」がよく検討されて整備されていることが大事である。「調査票」のでき・ふできは調査そのものはもちろんであるが、結果をも左右する。とはいっても、どのような観点で何を調査し、どのような結果を期待するかについて、十分な見通しがたっていないければ、よい「調査票」は作成できないものである。また「調査票」は結果の処理のしかたをも考えて作製しておかなければならない。その点、かなり慎重に検討したつもりであったが、まだ不十分であったと思う。

たとえば、調査項目についていえば、原則として、1項目（語）では一つの点に調査事項をしぼるべきであった。この調査では、調査語「手術」は/sju/, /zju/, /cu/の三つのモーラ全部を問題にした。これはできるだけ調査時間を短くして能率を上げることに役立ったと思うが、そのため調査員は甚だしく緊張を必要とし、疲労を倍加させた。結果の処理のしかたも複雑になった。

また、調査語も十分ではなかった。音声・音韻についてはさらに調査語を整備する必要があったろう。たとえばzi・zuについての調査において用意されたのは「字」「重箱」「手術」「地図」「短い」「すじこ」の6語であったが、「すじこ」はそれなりに問題を持つ語ではあるが、特殊すぎたようである。「手術」も、また、発音しにくい特殊性を持つ。「知事」「籤」等の方が適当であったかもしれない。

また、i・eの問題は、si・su, ci・cu, zi・zuとは性質が異なるので、同じ取り扱いをすべきではなかったろう。調査の場合、さらに一工夫すべきであった。

また物事の廃亡に伴う語の消失の調査においても、昭和10年、15年ごろに廃亡した物事も用意すべきであったろう。

といっても、音声・音韻、文法、語彙のすべてにわたって一通り調査しようとするこの「面接調査」においては、そう多くの調査語を載せることも不可能であった。用意した調査語を割愛したものもあった。それでも、なお、調査には一時間以上を要したので、被調査者にも調査員にも負担をかけることになった。

このような調査においては、現地の言語的特徴の調査は前もって十分になさなければならない。その点はわれわれは恵まれていたというべきであった。

ただ、調査体制は十分ではなかった。このような調査は何人かの協力者を必要とする。十分に打合せをし、整ったスケジュールの下で指導統率（世話）をすることが大事であろうが、その準備は不十分であったし、そのゆとりもなかった。一人の調査員が全く他の調査員と同じ量の調査をしつつ、マネジメントをするこの調査においては、そのため、多くの面で不都合なことを生じた。被調査者にも調査員にも迷惑をかけることになった。

結果の処理のしかたにも反省すべき点があった。調査の目的に応じて、被調査者も、この地域社会の出身者に限ることにしたので、生育地、居住経歴等は一往の調査をしたが問題とならなかった。その他、学歴、職業、役員の経験、新聞雑誌への接触、ラジオ・テレビの視聴、他の地域社会人との接触（旅行・遠出の度合い）、公的場面への出席等についても調査したが、これらとの関係については一往の分析を試みたが、あまり大きな差をみせなかったので、深く分析することをしなかった。学歴は既述のように年代とほぼ重なり、かなりの差をみせたとし、職業も、20代においては重要な条件となっていたが、これらについても、最少限度の分析をしたにとどまった。もっと細かい分析をすべきかもしれない。

しかし、それにもかかわらず、この報告書が世に出ることができたのは多くの人の心からなる協力があったせいである。

現地機関の御協力に対してはいうまでもないが、親身に世話をして下さった関係の各位、われわれの調査を歓迎して下さった被調査者各位、それに夜遅くまで調査を行った調査員各位に心から感謝を申し上げる。

また、この調査の結果をまとめるに際しては、休日まで返上して整理して下さった同室の徳永洋子さんほかの諸君をはじめ多くの人の協力があつた。

感謝の念はながく忘れないであろう。

図表(対照)索引

第1図 調査地域図……………	3	第60・61図 短い……………	73
第1表 保原町の人口……………	4	第68・69表, 第62・63図 金庫……………	190・191
第2表 保原町の産業……………	4	第70・71表, 第64・65図 急行……………	192・193
第3表 保原町の耕地……………	4	第72・73表, 第66・67図 農協……………	194・195
第4表 茂庭集落の農家……………	4	第68・69図 焼酎……………	76
第5表 茂庭集落の耕地……………	4	第74・75表, 第70・71図	
第6表 茂庭集落の兼業……………	4	いられない……………	196・197
第7表 録音資料……………	5	第76・77表, 第72・73図 桑の木……………	198・199
第8表 動詞の活用表(1)……………	38	第78・79表 白粉……………	200・201
第9表 " (2)……………	40	第80・81表, 第74・75図 柱……………	202・203
第10表 " (3)……………	40	第82・83表, 第76・77図 叱られた……………	204・205
第11表 " (4)……………	41	第78・79図 いられないのレ……………	200・201
第12表 形容(動)詞の活用表……………	42	第84・85表, 第80・81図	
第13・14表, 第2・3図 息……………	136・137	買おうかなあ……………	206・201
第15・16表, 第4・5図 駅……………	138・139	第86・87表, こっちへ来い……………	208・209
第17・18表, 第6・7図 インキ……………	140・141	第88・89表, 第82・83図	
第19・20表, 第8・9図 襟……………	142・143	行くだろうか……………	210・211
第21表 年代と学歴……………	59	第90・91表, 第84・85図	
第22・23表, 第10・11図 蠅……………	144・145	行くんだろう……………	212・213
第24・25表, 第12・13図 he: と he:……………	146・147	第92・93表 行ったろう……………	214・215
第26・27表, 第14・15図 梨……………	148・149	第94・95表, 第86・87図	
第28・29表, 第16・17図 寿司……………	150・151	高いだろう……………	216・217
第30・31表, 第18・19図 鹿……………	152・153	第96・97表, 第88・89図	
第32・33表, 第20・21図 下……………	154・155	来られるだろう……………	218・219
第34・35表, 第22・23図 手術……………	156・157	第98・99表, 第90・91図	
第24・25図 シ・スの混同……………	63	～なろうと……………	220・221
第36・37表, 第26・27図 地図……………	158・159	第100・101表, 第92・93図	
第38・39表, 第28・29図 注射……………	160・161	行くまい……………	222・223
第40・41表, 第30・31図 焼酎……………	162・163	第102・103表, 第94・95図	
第42・43表, 第32・33図 赤児籠……………	164・165	書かれない(条件)……………	224, 225
第34・35図 チ・ツの混同……………	66	第104・105表, 第96・97図	
第44・45表, 第36・37図 字……………	166・167	書かれない(能力)……………	226・227
第46・47表, 第38・39図 重箱……………	168・169	第106・107表, 第98・99図	
第40・41図 手術の第2 モーラ……………	178・179	受けさせた……………	228・229
第48・49表, 第42・43図 すじこ……………	170・171	第108・109表, 第100・101図	
第50・51表, 第44・45図 短い……………	172・173	行ったった……………	230・231
第46・47図 息の第2 モーラ……………	180・181	第110・111表, 第102・103図	
第52・53表, 第48・49図 雪のキ……………	174・175	「行ったった」使用意識……………	232・233
第54・55表, 第50・51図 百円……………	176・177	第112・113表, 第104・105図	
第56・57表 深い……………	178・179	行くっけ……………	234・235
第58・59表 きかない子……………	180・181	第114・115表, 第106・107図	
第60・61表 聞かなかった……………	182・183	「行くっけ」使用意識……………	236・237
第62・63表, 第52・53図 的……………	184・185	第116・117表, 第108・109図	
第64・65表, 第54・55図 狐……………	186・187	強いっけ……………	238・239
第56・57図 手術の第3 モーラ……………	182・183	第118・119表, 第110・111図	
第66・67表, 第58・59図 窓……………	188・189	「強いっけ」使用意識……………	240・241

第120・121表, 第112・113図
 行ったんだそうだ……242・243
 第122・123表, 第114・115図
 ～ですね(目上に)……244・245
 第124・125表, 第116・117図
 そうですね(父に)……246・247
 第126・127表, 第118・119図
 そうでございます(恩師に)……248・249
 第128・129表, 第120・121図
 書かないなら……250・251
 第130・131表, 第122・123図
 書きたくなければ……252・253
 第132・133表, 第124・125図
 行かなければ……254・255
 第134・135表, 第126・127図
 来ないので……256・257
 第136・137表, 第128・129図
 高いけれども……258・259
 第138・139表, 第130・131図
 東京へ……260・261
 第140・141表, 第132・133図 見に……262・263
 第142・143表, 第134・135図
 こどもを……264・265
 第144・145表, 第136・137図
 はさみを……266・267
 第146・147表, 第138・139図
 おれのもの……268・269
 第148・149表 先生のもの……270・271
 第150・151表, 第140・141図
 高いのは……272・273
 第152・153表, 第142・143図
 行くのには……274・275
 第154・155表, 第144・145図
 書くしかない……276・277
 第156・157表, 第146・147図
 おれたち……278・279
 第158・159表, 第148・149図
 お上り下さい……280・281
 第160・161表 選択肢「その他」内訳……92
 第162・163表, 第150・151図
 ～て下さい……282・283
 第164・165表, 第152・153図
 お書きになった……284・285
 第166・167表, 第154・155図
 ごらんに入れる……286・287
 第168・169表, 第156・157図
 お乗りになる……288・289
 第170・171表, 第158・159図
 オノリイタシマスカ……290・291

第172・173・174・175表
 選択肢「その他」内訳……94・95
 第176・177表, 第160・161図
 おれさえ……292・293
 第178・179表, 第162・163図
 そのために……294・295
 第180・181表, 第164・165図 竹馬……296・297
 第182・183表, 第166・167図
 おはじき……298・299
 第184・185表, 第168・169図
 片足飛……300・301
 第186・187表, 第170・171図
 かまきり……302・303
 第188・189表, 第172・173図
 とんぼ……304・305
 第190・191表, 第174・175図
 赤とんぼ……306・307
 第192・193表, 第176・177図
 お父さん……308・309
 第194・195表, 第178・179図
 お母さん……310・311
 第196・197表, 第180・181図
 おばあさん……312・313
 第198・199表, 第182・183図
 赤ん坊……314・315
 第200・201表, 第184・185図
 ふりうち棒……316・317
 第202・203表, 第186・187図
 「ふりうち棒」理解度……318・319
 第204・205表, 第188・189図 摺白……320・321
 第206・207表, 第190・191図
 「摺白」理解度……322・323
 第208・209表, 第192・193図
 あらくれ……324・325
 第210・211表, 第194・195図
 鼻どり……326・327
 第212・213表, 第196・197図
 「鼻どり」理解度……328・329
 第214・215表, 第198・199図
 バツトラ……330・331
 第216・217表, 第200・201図
 「バツトラ」理解度……332・333
 第218・219表, 第202・203図 牡牛……334・335
 第220・221表, 第204・205図
 耕す(深く)……336・337
 第222・223表, 第206・207図
 耕す(浅く)……338・339
 第224・225表, 第208・209図
 水口(入口)……340・341

第226・227表, 第210・211図	
午後間食	342・343
第228・229表, 第212・213図	
乗合馬車	344・345
第230・231表, 第214・215図	
「トテ馬車」理解度	346・347
第216・217図 赤児籠	350・351
第232・233表, 第218・219図	
「エツコ」理解度	348・349
第234・235表 足半ぞうり	350・351
第220・221図 足半ぞうり	107・108
第236・237表, 第222・223図	
自在鍵	352・353
第238・239表, 第224・225図 横座	354・355
第226・227図 「横座」理解度	109
第240表 物の廃亡と語の消失	111
第241・242表, 第228・229図	
降りる	356・357
第243・244表, 第230・231図 走る	358・359
第232・233図 叱られた	360・361
第245・246表 (汽車が)走っている	360・361
第247・248表, 第234・235図	
疲れている	362・363
第249・250表, 第236・237図	
恥ずかしい	364・365
第251・252表, 第238・239図	
たいくつしている	366・367
第253・254表, 第240・241図	
「トゼンダ」使用意識	368・369
第255・256表, 第242・243図 額	370・371
第257・258表, 第244・245図	
入口の山	372・373
第259・260表, 第246・247図	
奥の山	374・375
第261・262表, 第248・249図 予定	376・377
第263・264表, 第250・251図	
写真機(大)	378・379
第265・266表, 第252・253図	
写真機(小)	380・381
第267・268表, 第254・255図	
ねじまわし	382・383
第256・257図 語の消失	126
第258・259図 音韻保存度	129
第260・261図 文法保存度	130
第262・263図 語彙保存度	131

昭和49年 3 月

国 立 国 語 研 究 所

東京都北区西が丘 3 丁目 9 番14号
電 話 東 京 (900) 3111(代表)

UDC 809.56—087

NDC 818.26

本 書 の 市 販 品 発 行 所

〔〒162〕東京都新宿区納戸町40 (03)260—5281

株式会社 秀英出版

国立国語研究所刊行書一覧

国立国語研究所報告

1	八丈島の言語調査	秀英出版刊	品切れ
2	言語生活の実態 —白河市および付近の農村における—	"	"
3	現代語の助詞・助動詞 —用法と実例—	"	700円
4	婦人雑誌の用語 —現代語の語彙調査—	"	500円
5	地域社会の言語生活 —鶴岡における実態調査—	"	600円
6	少年と新聞 —小学生・中学生の新聞への接近と理解—	"	180円
7	入門期の言語能力	"	200円
8	談話語の実態	"	品切れ
9	読みの実験的研究 —音読にあらわれた読みあやまりの分析—	"	"
10	低学年の読み書き能力	"	"
11	敬語と敬語意識	"	"
12	総合雑誌の用語(前編) —現代語の語彙調査—	"	"
13	総合雑誌の用語(後編) —現代語の語彙調査—	"	"
14	中学生の読み書き能力	"	400円
15	明治初期の新聞の用語	"	品切れ
16	日本方言の記述的研究	明治書院刊	"
17	高学年の読み書き能力	秀英出版刊	"
18	話しことばの文型(1) —対話資料による研究—	"	800円
19	総合雑誌の用字	"	品切れ
20	同音語の研究	"	550円
21	現代雑誌九十種の用語用字(1) —総記および語彙表—	"	1,000円
22	現代雑誌九十種の用語用字(2) —漢字表—	"	1,000円
23	話しことばの文型(2) —独話資料による研究—	"	品切れ
24	横組の字形に関する研究	"	350円
25	現代雑誌九十種の用語用字(3) —分析—	"	1,000円
26	小学生の言語能力の発達	明治図書刊	2,100円
27	共通語化の過程 —北海道における親子三代のことば—	秀英出版刊	品切れ
28	類義語の研究	"	750円
29	戦後の国民各層の文字生活	"	400円
30-1	日本言語地図(1)	大蔵省印刷局刊	品切れ
30-2	日本言語地図(2)	"	"
30-3	日本言語地図(3)	"	"
30-4	日本言語地図(4)	"	8,000円
30-5	日本言語地図(5)	"	9,000円
30-6	日本言語地図(6)	"	円

31	電子計算機による国語研究	秀英出版刊	450円
32	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(1) —親族語彙と社会構造—	〃	250円
33	家庭における子どものコミュニケーション意識	〃	350円
34	電子計算機による国語研究(Ⅱ) —新聞の用語用字調査の処理組織—	〃	450円
35	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(2) —マキ・マケと親族呼称—	〃	450円
36	中学生の漢字習得に関する研究	〃	5,000円
37	電子計算機による新聞の語彙調査	〃	1,300円
38	電子計算機による新聞の語彙調査(Ⅱ)	〃	2,800円
39	電子計算機による国語研究(Ⅲ)	〃	700円
40	送りがな意識の調査	〃	1,500円
41	待遇表現の実態 —松江24時間調査資料から—	〃	900円
42	電子計算機による新聞の語彙調査(Ⅲ)	〃	1,200円
43	動詞の意味・用法の記述的研究	〃	5,000円
44	形容詞の意味・用法の記述的研究	〃	3,000円
45	幼児の読み書き能力	東京書籍刊	4,500円
46	電子計算機による国語研究(Ⅳ)	秀英出版刊	700円
47	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(3)	〃	600円
48	電子計算機による新聞の語彙調査(Ⅳ)	〃	3,000円
49	電子計算機による国語研究(Ⅴ)	〃	700円
50	幼児の文構造の発達 —3～6才児の場合—	〃	1,000円
51	電子計算機による国語研究(Ⅵ)	〃	1,000円
52	地域社会の言語生活 —鶴岡における20年前との比較—	〃	2,000円

国立国語研究所資料集

1	国語関係刊行書目(昭和17～24年)	秀英出版刊	45円
2	語彙調査 —現代新聞用語の一例—	〃	品切れ
3	送り仮名法資料集	〃	〃
4	明治以降国語学関係刊行書目	秀英出版刊	300円
5	沖繩語辞典	大蔵省印刷局刊	品切れ
6	分類語彙表	秀英出版刊	1,400円
7	動詞・形容詞問題語用例集	〃	1,700円
8	現代新聞の漢字調査(中間報告)	〃	500円
9	牛店安愚楽鍋用語索引 雑談	〃	円

国立国語研究所論集

1	こ と ば の 研 究	秀英出版刊	品切れ
2	こ と ば の 研 究 第2集	〃	750円
3	こ と ば の 研 究 第3集	〃	800円
4	こ と ば の 研 究 第4集	〃	1,300円
5	こ と ば の 研 究 第5集	〃	1,300円

国立国語研究所年報 秀英出版刊

1	昭和24年度	品切れ
2	昭和25年度	〃
3	昭和26年度	160円

4	昭和27年度	品切れ
5	昭和28年度	240円
6	昭和29年度	200円
7	昭和30年度	品切れ
8	昭和31年度	220円
9	昭和32年度	200円
10	昭和33年度	品切れ
11	昭和34年度	〃
12	昭和35年度	350円
13	昭和36年度	160円
14	昭和37年度	220円
15	昭和38年度	250円
16	昭和39年度	品切れ
17	昭和40年度	250円
18	昭和41年度	300円
19	昭和42年度	300円
20	昭和43年度	350円
21	昭和44年度	400円
22	昭和45年度	400円
23	昭和46年度	450円
24	昭和47年度	450円

国語年鑑 秀英出版刊

昭和29年版	品切れ
昭和30年版	〃
昭和31年版	〃
昭和32年版	〃
昭和33年版	〃
昭和34年版	〃
昭和35年版	550円
昭和36年版	800円
昭和37年版	品切れ
昭和38年版	〃
昭和39年版	980円
昭和40年版	1,100円
昭和41年版	1,100円
昭和42年版	1,100円
昭和43年版	品切れ
昭和44年版	1,500円
昭和45年版	1,500円
昭和46年版	2,000円
昭和47年版	2,200円
昭和48年版	2,700円

高 校 生 と 新 聞	国立国語研究所 日本新聞協会 共編	秀英出版刊	280円
青年とマス・コミュニケーション	日本新聞協会 国立国語研究所 共著	金沢書店刊	品切れ

CHANGES OF LANGUAGE USE

—from the field-work data in the northern part
of FUKUSIMA prefecture—

CONTENTS

Foreword

1. Introduction;

- aim of this research · design · process
- questionnaires · collaborators and informants

2. Linguistic features in the explored area (DATE District);

- phonological features · grammatical features

3. Results I. Changes of language use in the individual linguistic elements;

- phonological elements · grammatical elements
- several words

4. Results II. Difference of changes between the linguistic elements;

- difference between phonological elements
- difference between grammatical elements
- the disappearance of things and the vanish of their names
- difference between phonological, grammatical and lexical elements

5. Results III. Areal difference of linguistic changes;

- comparing the flat area with the mountain area

Conclusion; some arguments

THE NATIONAL LANGUAGE
RESEARCH INSTITUTE
TOKYO

1974

言語使用の変遷(1) 正誤表

頁	行	誤	正
3	1	第1図 調査地域図	第1図 調査地域図
9	7	(2)打消推量,	(2)打消意志
9	—9	これは <u>おれの</u> 機械だ,	—10行に移す
21	—4	②ときどき読ね	②ときどき読む
30	11	ju jo ja jε (je) wa we	'ju 'jo 'ja 'jε ('je) 'wa 'we
36	2	kakunaR	kaku naR
41	20	<借りて>,>	<借りて>,>
50	8	「ル・ラル」敬語系	「ル・ラル」系敬語
59	12	計 30	計 20
60	13	次の	(この語はとる)
76	第69図	全体 3.6の斜線脱落, 学歴小の 斜線の部 6.3が脱落	(それぞれに斜線, 6.3を入れる)
90	9	「これは <u>おれの</u> 時計だ」	「これは <u>おれの</u> 機械だ」
90	12	「 <u>おれの</u> 時計」	「 <u>おれの</u> 機械」
92	第160表	茂庭の計 5行目の5	6
		〃 6行目の0	2
		〃 7行目の1	0
		〃 11行目の3	1
107	第220図	ベコゾーリ(保)年齢②横線の数 字脱落	18.4を入れる
108	第221図	タンコゾーリ(茂)学歴中横線の 数字脱落	2.2を入れる
110	19	kani類を言う	kani類をも言う
112	—2	sjoqsue	sjorsue
(i) 刊行のことば			
	10	新潟大学講師	新潟大学助教授
	18	岩淵悦太郎	岩淵悦太郎